

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

国立公文書館	
分類	警察庁
種類	9
排架番号	4 F
	15-3
	488

No. 12

昭和十年四月

國家主義系不穩事件論告並判決錄

警保局保安課



凡例

一、本輯は昭和五年より昭和九年末迄に發生せる國家主義系不穩事件の主要なるものに就き豫審終結決定書、論告書、判決書等を蒐録せるものなり。

二、従つて右期間内に於ける重要な事件と雖も豫審繫屬中のものには一切之を採録せず。

國家主義系不穩事件論告並判決録 目次

國家主義系不穩事件表

一、濱口首相狙撃事件控訴審判決書……………一六

二、濱口首相狙撃事件上告審判決書……………一六

三、血盟團事件豫審終結決定書……………一六

四、血盟團事件論告書……………一六

五、血盟團事件判決書……………一六

六、五・一五事件(陸軍側)公訴狀……………一六

七、同 論告書……………一六

八、同 判決書……………一六

九、五・一五事件(海軍側)公訴狀……………一六

一〇、同 論告書……………一六

一一、同 判決書……………一六

一二、五・一五事件(民間側)豫審終結決定書……………一六

一三、同 論告書(要旨)……………一六

一四、同 判決書(要旨)……………一六

目次終

一五、同 右 控訴審判決書……………一六

一六、齋藤首相暗殺豫備事件豫審終結決定書……………一六

一七、同 論告書……………一六

一八、同 判決書……………一六

一九、若槻男爵暗殺豫備事件豫審終結決定書……………一六

二〇、天行會獨立青年社事件豫審終結決定書……………一六

二一、同 判決書……………一六

二二、藤原銀次郎殺人豫備事件判決書……………一六

二三、救國埼玉青年挺身隊事件豫審終結決定書……………一六

二四、同 論告書……………一六

二五、同 判決書……………一六

二六、小山法相等暗殺未遂並豫備事件控訴審判決書……………一六

二七、舊皇國義勇隊事件豫審終結決定書……………一六

國家主義派不穩事件論告裁判録

狼會等各種ノ右翼團體ニ寄シテ昭和五年七月頃岩田愛之助ヲ
知り同人ヲ唆主トシ大陸擴張政策ノ遂行ニ共謀主義ノ排撃等ヲ主
義綱領トスル思想團體愛國社ニ身ヲ寄スルニ至リタルモノナルカ
昭和四年濱口内閣ノ成立以後東京市内外各所ニ於テ政友會院外團
主體ノ下ニ開催セラレタル不逞黨打倒演說會ヲ聞キ或ハ政友會
ヨリ發行セラレタル「パンフレット」其他新聞雜誌等ノ論說ヲ朗讀
シテ濱口内閣ハ金解黨ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲メ組織當初ノ聲明ヲ
裏切り幾多ノ不祥ナル事態ヲ惹起スルモノナリト信シ同内閣ヲ更
迭セシメサル可カラストノ念ヲ有スルニ至リタルカ前記岩田愛之
助ノ被訴人松本良勝其他ノ愛國社同人等ニ接近シテ其持論ヲ聞キ
且其後引續キ深刻ナル不逞黨ノ爲メ失業者倒産者犯罪者等類出
スル世相ヲ見ルニ及ソテ益々同内閣ノ施政ニ對スル不滿ノ情ヲ強
メツ、アリシ一面倫敦條約ニ關シ外交軟弱體統加増等ノ諸問題
相討テ起ルヤ被訴人亦教養ヲ受ケテ「パンフレット」編輯機關事務及
「愛國的回調案」禁煙等ヲ讀ミ以上ノ諸問題ニ付濱口内閣カ軍部
ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮小條約ヲ締結セルハ之
レ我カ外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量決定ニ關スル大權ヲ干犯シタ
ルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ憲法國家ノ存立ヲ危クスルモノ
ナリト思惟シ痛々憤激シタル結果遂ニ昭和五年十月十二日三日頃
（東京市麹町區永田町二丁目一番地英ホテル内ニ於テ）自己ノ一身
ヲ賭シテ濱口内閣ノ倒壊セシムヘク時ノ内閣總理大臣濱口雄幸
ヲ殺害セムト決意シ其ノ頃濱口首相ニ交付スヘキ公函狀及新紙狀
ヲ起草シ且同首相ヲ遂ニ擄シテ狙撃スルコトヲ準備シテ同年同

月申頃前後二回ニ亘リ或ハ湖南鎌倉ニ於ケル同首相ノ別荘附近
ヲ徘徊シ或ハ同別荘ト横濱間ノ自動車道路ノ實地踏査ヲ爲シ以テ
之カ決行ノ機ヲ窺ヒ其間右ノ決意ヲ前記岩田愛之助ニ打明ケタル
コトモアリシカ同月二十四日附東京朝日新聞夕刊紙上ニテ濱口首
相カ軍備縮小ニ關スルラヂオ放送ノ爲メ觀衆式陪觀先ナル種戸ヨ
リ同月二十七日午後四時五十分東京驛着列車ニテ歸京スヘキコ
トヲ知り此機ニ乘シ東京驛ニ於テ決行セントシ同月二十三日夜東
京市赤坂區田町二丁目十三番地被訴人松本良勝方ニ於テ同人ニ對
シ濱口内閣倒壊ノ目的ヲ以テ濱口首相ヲ殺害ノ決意アリ來ル十月
二十七日夕刻東京驛ニ於テ之ヲ決行セントスル意圖ナル旨ヲ告ケ
テ右兇行ニ使用スヘキ拳銃ヲ貸與方ヲ求メ次テ同月二十七日朝被
訴人良勝ヲ唆シ同被訴人カ前記英ホテル内愛國社事務所（第十七
號室）内木箱ノ抽斗ニ藏匿保管セル「モーゼル」式八連發拳銃（昭和
五年押第一四九一號ノ一）ヲ携帶シ相共ニ元東京府佐原郡日根町字
下日根六百五十二番地所在ノ隨日英津雄ノ所有ニ係リ當時日常則
義ノ居住セル邸宅ニ到リ同庭園内ニ於テ右拳銃ヲ試射行ヒ發射ノ
確實ナルコトヲ確メタル上實包六發裝填ノ右拳銃ヲ携ヘテ同日夕
刻東京驛ニ赴キ降車ホームニ同首相ヲ擡上シテ待受
ケ同日午後四時五十分附列車ヨリ同首相カ下車シタル際五ニ
其身邊三尺ノ距離ニ近付キタルモ其意ヲ察サズ更ニ其機ヲ窺ヒ居
ル中同年十一月一日ラヂオ放送ニ依リ續キテ同月二日附東京朝日
新聞朝刊記事ニ依リ同月十四日午前九時發列車ニテ濱口首相カ岡
山縣下ニ於ケル陸軍特別大演習陪觀ノ爲メ東京驛ヲ出發スルコト

ヲ知り意此機ニ於テ決行セントラ決意シ同月九日頃前記英ホテ
ル内ニ於テ被訴人良勝ニ對シ其旨ヲ告ケタルカ次テ同月十三日深
更前記英ホテル内ニ於テ被訴人良勝ニ對シ明朝九時決行ニ使用ス
ヘキニ付同被訴人ノ保管ニ係ル前記拳銃ヲ貸與セラレ度シトノ意
ヲ告ケ同被訴人ヨリ右拳銃ヲ藏匿シ在ル前記木箱ノ抽斗ヲ開披ス
ヘキ鍵ヲ受領シタル上翌十四日午前七時頃右鍵ヲ使用シテ該抽斗
内ヨリ實包六發裝填ノ右拳銃ヲ取出シ之ヲ携ヘテ同日午前八時三
十分頃東京市麹町區有樂町東京驛ニ到リ乘車ホームニ於テ濱口首
相ノ來ルヲ待受ケ居タルトコロ午前八時五十分頃同首相カ乘車
セントシテ其歩ヲ進メ被訴人ノ前方約七尺ノ距離ニ差近リタルヨ
リ所携ノ右拳銃ヲ以テ同首相ノ上腹部ヲ狙ツテ一發射撃シタル爲
メ彈丸八回同首相ノ下腹部ニ命中シ腹壁ヲ貫キ腹腔内ニ於テ空腸五
ヶ所ヲ貫通シ尙空腸間膜其他ヲ損傷スルニ至リタルモ殺害ノ目的
ヲ達スルニ至ラス

幸テ同月二十七日夕刻東京驛ニ遊ヒテ暗殺セムトスル決意アル旨
ヲ告ケラレ且兇行ニ使用スヘク前記拳銃ヲ貸與方ヲ求メラレ次
テ右二十七日朝被訴人良勝ヨリ決行ニ先ダチ右拳銃ヲ試射爲ス
ヘキコトヲ促サレテ之ニ同意シ右拳銃ヲ携ヘテ共ニ前記日登
則義居住ノ邸宅ニ赴キ其庭園内ニ於テ被訴人良勝自ラ二回ノ射撃
ヲ爲シテ發射ノ確實ナルコトヲ確メタルコトアリ又同日夕刻被訴
人良勝カ該拳銃ヲ携ヘテ東京驛ニ到リ濱口首相ヲ擡上シテシタ
ルモノ同首相ノ下車ニ先ダチ車族殿下ノ下車セラレタルヲ知り恐
懼ノ餘決行ヲ果サシテ前記英ホテルニ歸リタル後同被訴人ヨリ
右額末ノ報告ヲ受ケタルコトアリシカ其後同年十一月九日頃前項
記載ノ如ク右英ホテル内ニ於テ被訴人良勝ヨリ同首相カ來ル十四
日午前九時東京驛發ノ列車ニテ出發四下セントスルニ際同驛ニ
於テ被訴人良勝ノ殺害ヲ決行スヘキ意圖ナル旨ヲ告ケラレ次テ同
月十三日深更右英ホテル内ニ於テ被訴人良勝ヨリ兇行ニ使用ス
ル爲前記拳銃ヲ貸與方ヲ求メラルヤ被訴人良勝ニ於テ濱口首相
ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シ乍ラ同
被訴人ニ對シ右拳銃（實包六發裝填）ノ藏匿シタル前記木箱ノ抽斗
ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該拳銃ヲ貸與シ因テ同被訴人ヲシテ
前項記載ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シタルモノナリ
證據ヲ按ズルニ判示ノ各事實ハ
一、被訴人良勝ノ當公廷ニ於ケル同被訴人ノ生立ヨリ岩田愛之助ヲ
唆主トスル思想團體愛國社ニ身ヲ寄スルニ至ル迄ノ經歷ニ付判示
同旨ノ供述

國家主義派不穩事件論告裁判決録

一、被告人良勝ノ當公廷ニ於ケル同被告人カ判示愛國社ノ同人ニシテ昭和五年九月下旬頃岩田愛之助ヨリ小川身治ヲ介シ實包入發裝...

四

ホテルニ於テ濱口首相ニ交付スヘキ公開狀及新狀ヲ起草シ且濱口首相ヲ送ニ權シテ狙撃スルコトヲ準備シテ同年十月月中旬頃前...

國家主義派不穩事件論告裁判決録

列車ニテ濱口首相ヲ岡山縣下ニ於ケル陸軍特別大演習路中ニ爲東京...

五

法律ニ照スニ被告人佐藤屋留録ノ判示所爲ハ刑法第九十九條第二...

二、濱口首相狙撃事件上告審

判決書

昭和八年(九)第九二號

判決書

本籍 長崎縣東彼杵郡彼杵村宿八十九番地
住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地
松木良勝方

無職

辯護人 佐藤 屋 留 謙
明治三十二年七月二日生

本籍 山形縣東置賜郡梨樹村大字梨樹千三百
九十一番地

住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地

著述業

辯護人 松 木 夏 勝
明治三十二年二月二日生

右被告人佐藤屋留謙ニ對スル殺人未遂被告人松木良勝ニ對スル同種助殺害事件ニ付昭和八年二月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル

判決ニ對シ各被告人並被告人佐藤屋留謙原審辯護人秋山高三郎、太田耕造、中山孝太郎、平松市藏、有岡良林、逸原初澤、藤村善三郎ハ各上告ヲ爲シタル因テ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ孰レモ之ヲ棄却ス

理由

被告人佐藤屋留謙及松木良勝辯護人中川孝太郎上告趣意書第一號第一審裁判所ハ上告人佐藤屋留謙カ東京控訴院ニ於テ濱口首相ヲ射撃シタル行爲ヲ以テ殺人ノ既遂ナリト認定シ之ニ死刑ヲ科シタル辯護人等ハ其ノ事實認定ハ探證ノ原則ニ違反シ不當ナル旨ヲ以テ原審ニ於テ論議シタル結果原審ハ佐藤屋留謙ノ行爲ヲ以テ殺人未遂ナリト認定スルニ至レルモ尚ホ之ニ死刑ヲ科シタル殺人ノ未遂ニ對シ死刑ヲ科スト減輕スルハ元ヨリ裁判所ノ自由ニ屬スト雖然カモ實際ニ極メテ輕ナル罪有ノ事ニ屬ス死刑ヲ科スニ付テノ論議ハ幾多アリト雖モスルニ(一)其ノ行爲カ極メテ兇惡ナルコト(二)犯人ノ性質カ極メテ險惡ナルコト(三)犯人ノ生存カ社會ノ不安ヲ招クコト等ヲ主ナル理由トセサルヘカラス辯護人ハ決シテ死刑廢止論者ニ非ス之ヲ適當ニ用アレハ利益アル制度ニシテ古來一般ニ採用セラレ今尚ホ多クノ國ニ於テ實行セラルル處ナルニ微シ一片ノ空理ヲ以テ廢スルヘキニ非スト信スルモノナリ然レトモ之ヲ本件佐藤屋留謙ノ行爲ニ照シ其ノ犯行カ殺人未遂ニ終リシニ拘ラス尚ホ之ニ死刑ヲ科スヘキモノナリヤ研究セザルニ(一)被告人ノ行爲ハ案録ヲ以テ濱口首相ノ腹部ヲ唯一回射撃シタルニ止マリ強大ナル銃器ヲ用ヒ或ハ銳利ナル刀劍ヲ以テ被告人ニ接害ヲ加ヘタルニ比シ決シテヨリ以上兇惡ナリトハ言ヒ難シ元

リ生命ニ危險ヲ及ホスコトハ均シクシテ甲乙ヲ分ツ能ハサルヘク又苦痛ノ多少ノ如キハ到底區別スルコト難カルヘシト雖モ然レモ射撃力特ニ一般兇惡ナル殺人手段ナリト云フハ當然ニ(一)犯人ノ性質ハ決シテ特ニ險惡ナリト云フヘキ證據ナシ犯人ハ不幸ニシテ父母ノ恩愛ニ浴スルコト淺ク他人ノ手ニテ養育セラレタルコト多カリシモ其ノ本性ハ極メテ兇惡ナリシナルヘシ少シモ社會ノ惡風ニ感染スル處ナク純潔ニ愛スヘキ性格ヲ露出シ普通人ナラハカ、ル生立ニ週ヒテハ必スヤ不良性ヲ多分ニ具フルニ至ルヘキニ反シ前記ノ如キ性格ヲ有ルハ事ハ其ノ本性ノ非常ニ優秀ナルニ依ラスンハアラス 三犯人ハ前記ノ如キ性質ヲ具ヘ雖リニ兇惡ナル行爲ヲナスヘキモノニ非ス唯熱烈ナル愛國ノ至情ニ出テ不得止シテ本件ノ犯行ヲ敢テシタルモノナリ少シク其ノ事情ヲ述ヘシニ本件事實ノ發生ノ原因ハ元ヨリ單ナルモノニ非スト雖モ尤モ重要ナリシモノハ彼倫教條約ノ締結ニ在リ此ノ條約タルヤ軍人タルト常人タルトヲ問ハス直接國家海軍力ノ消長ニ關スルコト至大ナレハ何人モ憂慮措ク能ハサルモノアリシニ拘ラズ當時ノ政治家ハ專門海軍軍人(海軍軍令部及軍事參謀官會議ノ結果等)ノ發表シタル倫教條約ハ我海軍力ヲ弱クスルモノナリトノ意見ヲ無視シ内閣ハ國防ノ責任ヲ負フモノナリト宣言シ軍令部ノ意見ヲ參照セシテ何故カ我々ニ不利ナル海軍軍令部條約ヲ締結シ愛國ノ士ヲシテ痛恨止ム能ハサランメ其ノ幾多ノ陳情忠告其ノ他ノ行動ヲ顧ルコトナク遂ニ御批准ヲ奏請スルニ至リ其ノ間統帥權ノ干犯ノ問題ヲ生シ愛國國民或ハ草刈少佐ノ自殺トナリ或ハキヤツスル問題ヲ惹起シ其ノ他世情甚ダ穩カナラサルモノアリ辯護人ノ如キモ此ノ儘

二、濱口首相狙撃事件上告審

判決書

本籍 長崎縣東彼杵郡彼杵村宿八十九番地
住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地
松木良勝方

無職

辯護人 佐藤 屋 留 謙
明治三十二年七月二日生

本籍 山形縣東置賜郡梨樹村大字梨樹千三百
九十一番地

住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地

著述業

辯護人 松 木 夏 勝
明治三十二年二月二日生

右被告人佐藤屋留謙ニ對スル殺人未遂被告人松木良勝ニ對スル同種助殺害事件ニ付昭和八年二月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル

ニテハ此ノ不平ノ氣ハ遂ニ如何ナル危險ヲ惹起スルヤヲ憂慮シタルコトアリ然ルニ久シカラスシテ銃聲一發遂ニ濱口首相ヲ東京驛頭ニ倒シタルモノアリ辯護人ハ當日朝高川原ヨリ乗車シ舉行ノ數分前東京驛ニ著シ事務所ニ向フ際コトアリタルカ爲今尚ホ追憶シテ長嘆之ヲ久シクセザルヲ得ス幸ニシテ藤田博士ノ治療ヲ奏シ一旦本復シタルモ放射狀ノ爲ニ遂ニ立ツ能ハサリシハ同氏ノ爲ニ哀悼ニ堪ヘサル所ナリ本件ノ事實右ノ如シ上告人ハ至誠國ヲ愛シ我海軍力ノ薄弱ハ我國運ノ全部ニ波及シ恐ルヘキ結果ヲ來スコトヲ憂フルヤ甚深ナルモノアリ然ルニ濱口首相ノ政治家ハ之ヲ憂フルノ根據ナキノミカ軍人ノ權勢ヲ削減スルニ汲々トシテ困難ノ來ルコトヲ知ラズコレ上告人カ痛憤ノ極此ノ擧ニ出テタルモノニシテ眞ニ同情ニ堪エス彼如何等ノ私利ヲ營ムニ非ス私慾ヲ充サントスルニ非ス一身ヲ以テ國家ヲ救ハントスルモノニシテ其ノ動機ノ美シキコト比スヘキモノナシ濱口首相ハ當時ノ内閣總理大臣ナリ然レトモ海軍力ヲ縮少シ國家ノ利益ヲ省ミス黨勢ノ擴張ノミニ熱中シ眞ニ政治家トシテノ價值ヲ疑ハシムルコトハ今日ノ現狀ニ於テ尤モ其ク顯ハルルニ非スヤ過般行ハレタル海軍大演習及大觀式ニ際シテ吾人ノ感憤ハ果シテ如何ナリシゾ又其ノ直前ニ行ハレタル防空演習ニ於テ吾人ハ如何ナル結論ヲ得タリヤ其ノ答ニ曰ク敵飛行機カ我帝都ヲ大空ニ現ルル時ハ帝都全滅ノ時ナリ宜シク海上ニ在リテ完全ニ之ヲ防カサルヘカラスト海上ニ在リテ空襲ヲ防クニハ海軍ノ動作ニ待タサルヘカラス而シテ海軍力ハ英米ノ口舌ノ威力ノ爲ニ先年既ニ倫敦及華盛頓ニ於テ屈從シタル後ナリ六割ノ兵力ヲ以テ大海ノ上ニ割ノ敵ト戰

二、濱口首相狙撃事件上告審

判決書

本籍 長崎縣東彼杵郡彼杵村宿八十九番地
住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地
松木良勝方

無職

辯護人 佐藤 屋 留 謙
明治三十二年七月二日生

本籍 山形縣東置賜郡梨樹村大字梨樹千三百
九十一番地

住居 東京市赤坂區田町二丁目十三番地

著述業

辯護人 松 木 夏 勝
明治三十二年二月二日生

右被告人佐藤屋留謙ニ對スル殺人未遂被告人松木良勝ニ對スル同種助殺害事件ニ付昭和八年二月二十八日東京控訴院ニ於テ言渡シタル

國家主義系不穩事件論告最判決錄

フ豈ニ決勝ヲ期スヘケンヤ今ニ至リテ切齒憤懣スルモ既ニ避シ元ヨリ我ニ忠勇ナル將士アリト雖六ヲ以テ十二勝ヲヘシト要求スルハ到底忍テ處ナラシヤ今日カハル狀勢ニ至レド抑モ何人ノ罪ナリトスヘキカ假リテ口一人其ノ責ヲ負フテ死シタリトスルモ豈ニ之ヲ以テ満足スヘケンヤ國家目前ノ危急ハ口口如キモノノ死ニ依リテ何等價ハル處ナシ横濱港ニ於テ式ヲ拜觀シタル者ニシテ英米ニ稱從シタルコトヲ遺憾ニ思ハサリシモノソレ幾何ナリシゾ海軍大演習防空演習ノ精華ヲ深ク御研究アラハ佐輝屋ノ行動力愛國ノ至誠ニ出タルコト一斷ノ疑ナク又彼ノ滿洲事變ノ勃發ニモ重大ナル關係アリ血闘ノ際起スル又元ヨリ愛國ノ至情ニ出ツル社會ヲ愛護シタル五・二五事件ノ發生モ亦倫義約其ノ他政黨内閣ノ軟弱外交ニ主因ヲ有スルコト今日ニ在リテハ明白ナク亦實ニシテ上告人佐輝屋ハ偶々此等政治ノ腐敗ヲ天下ニ暴露シ國民ニ對シテ警鐘ヲ振打シタルモノナリ一ニ審判所所長ニ深スルニ死刑ヲ以テシタル如キハ天下後世失レ之ヲ何トカ評スヘキ辯護人ハ貴院力眞ニ佐輝屋被告ノ心情ヲ洞察シ斯カル愛國ノ志士ニ對シテハ充分ノ御同情ヲ以テ刑罰法第四百十二條ニヨリ改メテ擬律アラシクテ懲罰スルコト云ヒ被告佐輝屋留聲人平松市藏有岡知良林逸郎上告總意第一層原判決ハ刑ノ重定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノニシテ刑罰訴訟法第四百十二條ニ依リテ違法アルモノ也原判決ハ其ノ理由第一ノ後段ニ於テ「被告佐輝屋留聲人昭和五年十一月十四日午前八時三十分賃包六發裝填ノ拳銃ヲ抛ヘテ東京驛ニ至リ濱口首相ノ來ルヲ待テ受ケ同首相ノ上腹部ヲ狙フテ一發射撃シタル爲彈丸

八

ハ同首相ノ下腹部ニ命中シ腹壁ヲ貫キ腹腔内ニ於テ空腸五ヶ所ヲ貫通シ尚空腸間膜其ノ他ヲ損傷スルニ至リタルモ殺害ノ目的ヲ達スルニ至ラズト判示シテ被告ノ行為ニ對シ殺人未遂ノ事實ヲ認定シ刑法第九十九條第二三條ヲ適用シタリ然ルニ其ノ主文ニ於テハ「被告人ヲ死刑ニ處スル」旨ヲ判決シ殺人既遂罪ノ最高罪惡タルモノト同一ナル極刑ヲ科シタルハ不當管理ノ量刑也以下其ノ理由ヲ開陳スヘキ抑々未遂犯ニ付テハ犯罪及刑罰ノ基本觀念ニ基キ立法上種々特ニ之ヲ規定スヘキモノト爲シタリ而シテ其ノ之ヲ罰スル場合トテ特ニ注意未遂ハ刑ヲ減輕シ又ハ免除スヘク障礙未遂トテ區別シ前者ニ付テハ法律上當然刑ヲ減輕シ又ハ免除スヘク後者ニ付テハ裁判官ノ自由裁量ニ委シタルハ全ク犯人ノ主觀的意識狀態ノ如何ヲ基準トスルモノニシテ犯罪ノ結果ヲ基準トスルモノニ非サルヤ勿論ナリ即チ任意未遂ノ場合ニ在リテハ犯人カ悔悟其ノ他ノ事由ニヨリ犯罪ノ中止撤廢ニヨリ結果ノ發生ヲ防止シタル爲未遂トナルモノナレハ未遂トナレル事由ハ全ク犯人ノ主觀的意識狀態ノ變更ニ在ルモノナラズ然ルニ障礙未遂ノ場合ニ在リテハ犯意ニハ何等ノ變更ナク未遂トナル事由ハ全ク犯人以外ノ客觀的事實ニ因ルモノナリ此ノ如ク未遂カ犯人ノ主觀的方面ニヨル場合ハ刑罰力法律上當然ニ輕減セラレ又ハ免除セラレ又未遂カ犯人以外ノ客觀的方面ニヨル場合ハ單ニ裁判官ノ裁量ノ情狀ニヨル自由裁量ニ依リテ減輕セララルニ過キサルモノト爲ル之ヲ要スルニ右ノ區別ニヨリテ比較考察スルトキハ刑罰ノ輕重ハ結局犯人ノ主觀的方面ヲ基準トシテ決定セラルヘキモノナ

ル事ヲ知ルニ足ルト共ニ此ノ如キ律意ハ我刑法ノ根本條件トシテ存スルモノナルコトヲ明説スルヲ得ヘシカクノ如ク刑法典ノ法文上又刑法ノ根本精神ト未遂犯ニ於ケル刑ノ輕重ヲ以テ「犯人ノ主觀的方面ヲ基準トシテ之ヲ決スヘキモノトナス以上本件ノ如キ傳書未遂ノ場合ニ於テモ其ノ刑罰ヲ輕減スヘキヤ否ヤヲ決定スルハ「犯人ノ主觀的方面」即チ被告人佐輝屋ノ動機犯意等ヲ國家の社會的價値的ニ檢討吟味シ以テ被告人佐輝屋ノ行為ノ價値ヲ公正ニ批判シ未遂減輕ヲ行フヘキヤ否ヤヲ決定セサルヘカラス也果シテ然ラハ被告人佐輝屋ノ犯罪ノ動機犯意其ノ主觀的状態ニ未遂減輕ヲ行フニ足ラサル極端非道ナル無價値ノモノナルヤ否ヤヲ深ク之ヲ考察スルヲ要ス原審ハ被告人佐輝屋ノ犯罪動機其ノ他ノ主觀的状態ニ付テ判示シテ曰ク「被告人佐輝屋留聲人昭和四年濱口内閣ノ成立以後東京市外各所ニ於テ政友會院外閣主催ノ下ニ開催セラレタル不景氣打倒演説會ヲ開キ或ハ政友會ヨリ發行セラレタルパンフレット其ノ他新聞雜誌等ノ論説ヲ閱讀シテ濱口内閣ハ金解禁ノ時機ヲ誤リ夫レカ爲組織當初ノ聲明ヲ裏切リ幾多ノ不評ナル事態ヲ惹起スルモノナリト信シ同内閣ヲ更迭セシメサルヘカラストノ念ヲ有スルニ至リタルカ前記岩田愛之助被告人松木良勝其ノ他ノ愛國社同人等ニ接近シテ其ノ持論ヲ聞キ且ツ其ノ後引續キ深刻ナル不景氣ノ爲失業貧倒産者犯罪等々出スル世相ヲ見ルニ及シテ益々同内閣ノ施政ニ對スル不滿ノ情ヲ強メツツアリシ一面倫敦條約ニ關シ外交裁判權ヲ主權干犯等ノ諸問題相繼テ起ルヤ被告人佐輝屋モ亦政友社ノパンフレット「統帥權問題詳解」及「愛國心」等ヲ讀ミ以上諸問

九

題ニ付濱口内閣カ軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍備縮小條約ヲ締結セルハ之レ我カ外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量決定ニ關スル條約ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシ憲テ國家ノ存在ヲ危カスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果云云」ト是ニ由リテ之ヲ觀レハ原審ハ被告人佐輝屋ノ犯罪ヲ以テ全ク愛國憤世ノ志ヨリ出タル公憤ノ結果ナルコトヲ認定シタルモノ也而カモ斯ル公憤ハ果シテ總テ減輕ニ値セス其ノ判決ノ如キ極刑ヲ以テ臨マサルヘカラス然レバ無價値ノモノナリヤ如何ニシテ減輕ノ基本ヲ形成セル犯罪行為ノ價値判定ノ標準ナルモノハ實ニ犯罪行為ノ決意ヲ促セル動機及其ノ未遂犯ニ於テハ我刑法ハ客觀主義ヲ採ラスシテ主觀主義ヲ採リタルコト前述ノ如クナル以上我刑法ノ下ニ於テハ未遂犯ノ行為價値ハ「犯人ノ動機」ニヨリテ決定セラルヘキモノナリ今原審ニ於テ認メラレタル前記被告人佐輝屋ノ動機ヲ考察スルニ被告人佐輝屋ハ全ク私利私慾ヲ去リテ私憤ヲ交ヘス日本國民トシテ日本國家ノ現在及ヒ將來ヲ憂慮スル公憤ニヨリ一身ヲ挺シテ國家ノ爲ニ奮起セルモノナルコト明ナリ唯其ノ認定中若干政黨的色彩ヲ帶フルカ如キ點ナキニ非サルモ是レ白壁ノ微瑕ニシテ爲ニ愛國ノ志士タルコトヲ失フモノニ非ス即チ被告人佐輝屋ノ行為及其ノ動機ハ之ヲ國家道徳ヨリ觀察スルトキハ豪口大ニ賞讃ニ値スルモノト謂ハサルヘカラス加之社會的ニモ將又道徳的ニモ日本國ヲ中心トシ其ノ愛國心ヲ基準トスル限り何等非難ヲ容ルヘキ缺陷ノ存スルアルヲ見ルニ國民ノ本務ハ盡忠至誠ノ愛國心ヲ持シ之ヲ宣揚スルコトニ在ルハ日本國家ヲ

國家主義系不穩事件論告最判決錄

國家主義系不穩事件論告裁判決録

否定スル非國民ニ非サル限リ之ヲ否定スル者アラサルヘシ而シテ被告
人佐藤屋ヲ殺害シテ一寒生ナルニモ拘ラス能ク我國國體ノ精華ヲ
ル皇室ヲ尊崇シ公私ノ道義觀念ヲ辨別シ且ツ國家ノ理性ノ批判ヲ誤
ラサリシコトハ被告佐藤屋ノ犯行後殆ト同一ノ動機ニ基ケル所謂
血盟團又ハ五・一五事件ノ續出セル點ヨリ觀ルモ明也尙又之ヲ左ノ
事實ニ依リテ觀ルモ被告佐藤屋ノ皇國精神ノ一斑ヲ明認スルニ足ル
ヘキモノアリ即チ(一)昭和五年十月二十七日被告佐藤屋力濱口首相
ヲ暗殺センカ爲東宮(皇太子)ニ至リ首相ノ傍近ク僅カ三尺ノ距離ニ至リ
タル所ニ皇族(皇太子)ノ下車アルヲ知リ直ニ犯行ヲ中止シタル事
實(被告及公判調書)(二)被告佐藤屋ハ濱口首相ノ死ニ對シ私情ニ於
テ忍ビサルモノアリト爲シ濱口首相ノ一周忌ニ際シテハ獄中ニ於テ
私カニ哀悼ノ意ヲ表シ喪ニ服シタルノ事實(原審公判調書)(三)被告佐
藤屋力濱口首相ヨリ提出シタル第二審裁判所宛ト申出書ハ右被告力何
等ノ參考書ヲモテモセスシテ倫敦條約ニ關スル極メテ明確ナル批判ヲ
爲シタル事實(此ノ事實ハ陸海軍ノ將校等ヲシテ感奮興起セシメ遂
ニ特別辯護人ノ任ニ當ランコトヲ申請スルニ至ラシメタルモノナ
リ)斯ノ如ク被告佐藤屋ノ犯行ノ動機ハ國家道徳ヨリ觀テ實證ニ
値スルモノアルニモ拘ラス殺人ノ重大犯人トシテ其ノ罪ヲ問ハルル
所以ノモノハ其ノ善美ノ動機ヨリ招來セル行動力全ク非合法的手段
ニ依リテ實現セラレタルコトニ在ルカ故ニ右被告ノ罪ヲ責任ハ此
ノ非合法的手段タル濱口首相ノ暗殺ノ行爲ニ局限セラレ而モ其ノ行
爲ノ刑法的價值ハ私利私慾私心ニ出テタル殺人犯ノ如キ無價値モノ
モノニ非ラサル特質ヲ有ス此ノ國家道徳的犯罪ハ後ノ所謂貧民ヲ匿

一〇

救センカ爲ニスル義賊義勇場ヲサシカ爲ニスル盜犯者ノ如キ私
的犯罪ト比較シ其ノ行爲ノ價值性ニ於テ同日ノ談ニ非ス故ニ濱口首
相ノ死モ亦單ナル私的ノ無價値的ノ横死ニ非スシテ將士力戰場ニ於
テ斃レタルカ如キ種メテ有意義ナル國家的犠牲者タルモノナリ於是
被告佐藤屋ノ行爲ノ價值ヲ決定シ量刑ノ基準タルヘキ動機ヲ評價
スルトキハ正ニ未遂減輕ヲ受ケヘキモノナルコトハ刑法未遂犯ノ規
定及其ノ精神ニ照シテ明ニシテ而モ更ニ進シテ法ノ許ス限リノ酌量
減輕ヲ受ケヘキ資格ヲ有スルモノナリ然ルニ原審ハ前示判決ノ如ク
未遂減輕ノ規定及其ノ精神ヲ無視シ單ニ與ヘラレタル自由裁量ノ權
限ヲ形式的機械的ニ運用スルニ止マリ未遂減輕ハ勿論其ノ他ノ酌量
減輕ヲモ爲サズ彼ノ何等ノ價值性ヲ認ムルコト能ハサル極處非道
ル殺人犯ニ科スヘキ極刑タル死刑ヲ以テシタルハ蓋シ刑法ヲ正當ニ
運用セザルモノニシテ從テ刑ノ量定甚ダシク不當管理ナルモノト云
フヘタ當然嚴罰ヲ免レザルモノト思料スト云ヒ同第二階級判決ハ更
ニ他ノ方面ヨリ觀テ第一階級ト同一ノ不當量刑ニ陥レルモノト思料ス
即チ第一階級ハ主トシテ未遂犯ノ規定タル刑法第四十三條及第四十四
條ノ規定及其ノ精神ヲ精確ニ根據トシ且ツ原審ノ認定シタル事實ニ
依リテ被告ノ犯罪力未遂減輕及ヒ酌量減輕ヲ受ケヘキモノナルコト
ヲ演繹シタルモノナリ然レトモ本論點ニ於テハ主トシテ犯人以外ノ
諸般ノ事實及事情ヨリ歸納シテ裁判ノ公正ト感信ト爲ニ未遂其ノ
他ノ減輕ヲ爲ササルヘカラサル所以論辯セント欲スルモノナリ抑
々我國史ヲ按スルニ上代ニ於テハ推尊ノ精神ニ依リ總テノ刑罰ハ殺
ニヨリテ行ハレ其ノ後支那法制ノ輸入ニヨリ極處非道ノ者ニ對スル

國家主義系不穩事件論告裁判決録

死刑ノ制起リタリサレト其ノ後幾何モナク奈良朝ニ入ルヤ其ノ制ハ
聖武天皇ノ時代ヨリ以後勅令ヲ以テ廢セラレ爾來數百年ノ久シキニ
亘リテ死刑ヲ行ハス然ルニ源朝朝幕府ノ間キテテリ武家法現ハレ
其ノ刑罰ハ漸次ニ嚴酷トナリ豐臣秀吉ノ一錢切ニ至リテ其ノ極點ニ
達シ德川幕府ニ至リテモ其ノ度ヲ弛メズ殊ニ幕府ニ反抗スル政事の
犯罪ニ對シテ極刑ヲ以テセリ明治維新トナリテ王政復古ニ復スル
ヤ刑罰モ亦漸次ニ寬トナリ死刑ノ制ハ未ダ廢セラレズニ至ラスト雖
摩訶訶等ノ極刑ノ階級ハ廢セラレ唯單ニ絞ノ一種ノミトナレリ斯ク
ノ如ク我國ノ刑罰ハ朝野政治ノ武家政治ノ遺習ナル刑罰ヲ除キテ
ハ寛仁慈育ヲ以テ國民ヲ愛撫スル精神ニ基キ死刑ノ如キ極刑ハ極處
非道ノ者ニ限ラレタルナリ是レ我カ國體力精神制ノ一次血族國家ニシ
テ上皇室ヲ本崇トシ國民ヲ其ノ一族トスル一君萬民ノ制ヨリ必然
ニ招來セラルヘキモノナリ之ヲ近時ノ實例ニ徵スルモ死刑ハ大逆犯
人強盜殺人私怨ノ爲ニスル愚人殺害其ノ他慘虐ナル殺人殺害ノ如
キ極處非道ナル犯人ニ對シテノミ科セラレ私利私慾私憤ニ出テタ
ルニ非サル殺人犯ノ如キ者ニ對シテ科セラレタルコトナシカノ東京
市政中心ヲ成セル巨傑星亨ヲ殺害シタル伊庭想太郎原首相ヲ斃シ
タル中岡良一ノ如キモ皆既遂ナルニモ拘ラス死刑ヲ科セラレタルモ
ノアラズ更ニ進テ日下審理中ニ屬シ未決ノモノタルトハ言ヘ我國
體ト相容レサル異端思想タル共產主義者ノ首魁三田村某カ官人ヲ殺
傷シタルニモ拘ラス第一審ニ於テハ死刑ヲ科セラレタルヲ見ル然ル
ニ獨リ被告人佐藤屋ノ犯行カ前例ノ數倍ニ比シ其ノ情狀輕キモノ少
クトモ重シト斷スルコト能ハサルモノナルニモ拘ラス之ニ對シ死刑

一一

ヲ以テ臨ミタルハ刑ノ權術ヲ失シ裁判ノ公正ト感信トヲ書スルハ勿
論我國刑罰發展ノ史的過程ヲ追跡セシメ武家政治ノ苛刑制度ニ復歸
セシメタルモノト謂フヘシ更ニ均シク死刑ヲ科セラレタル極處非道ノ
大逆犯人、強盜ヲ極メタル幾多ノ殺人犯人ト本件被告人佐藤屋ト
比較シテ其ノ罪質ヲ考フルトキ誰カ又其ノ不公平ナルニ懲カサル者
アラザリ被告人佐藤屋ノ犯行ハ強盜殺人ヨリモ惡行非道ナリト謂フ
ニ至リテハ我日本國民ノ法律感情ハ果シテ不安ヲ感セスシテ之ヲ許
容シ得ルヤ實ハカカル人ノ法律感情ト公平ノ觀念ノ要求トハ既ニ
死刑ニ至ラシメテ幾多ノ階級ヲ設ケシメ斬ヨリ磔等ヲ與ヘ火燒等
酷刑ニ至ラシメテ以テ犯情ニ適應スル刑ヲ科シ而シテ刑ノ公正ヲ維持
シテ人々ノ法律感情ヲ満足セシメタルモノナリ是レ各國ニ於ケル死
刑制度ノ發展史カ雄辯ニ證スル所ノモノナリ更ニ現代ニ於ケル死刑
制度論ト其ノ立法狀態トニ付テ之ヲ觀ルトキハ學說トシテハ死刑制
度ハ之ヲ廢止スヘシトノ議論著シク擴張シ來リ之カ通有思想トナリ
タルハ世人ノ周知所ニシテ又此ノ思想カ立法ノ上ニ實現シ來リ
今ヨリ約六十年前西曆一八六三年白耳義カ刑法ノ條文ヨリ死刑ノ文
字ヲ除去去ツテ以來一まにやほるとる。諸般おしとりや、で
んまると、ふい、んらんと(濱洲)ノ諸國及瑞西ノ一部、亞米利加ノ一
部(八州)ニ於テモ之カ廢止ヲ見タルコトハ人ノ知ル所也死刑制度ニ
對スル最近ノ大勢ヲ如クナルニモ拘ラス此ノ大勢ニ逆行シ被告
人佐藤屋ニ對シテ前例ナキ死刑ヲ科スルカ如キハ甚シク刑ノ量定ヲ
誤レル不當ノ處置ナリト謂フヘシ又轉シテ現代ニ於ケル刑罰觀念ニ
思フ致ス時ハ被告人佐藤屋ニ對スル死刑ノ言渡ハ倍々背理不當ナル

控訴ヲ爲シタルモノヲシテ控訴シタリシヨリモ第一審判決ニ
照シタルノ極シテ悔ルカ如キ予盾ナカラシメトスルノ趣旨
ニ出テタルモノニシテ日本法律ノ美シキ情合ナリト云ハサル可カラ
ス、本件事案ニ於テ之ヲ見ルニ第一審判決ハ其ノ刑ニ於テハ第一審
判決同様死刑ヲ宣告シタルモノナルニ因リ敢テ第一審ヨリ重キ刑ヲ
宣告シタリト斷スルコトヲ得サレトモ其ノ理由ヲ檢討スルニ第一審
判決ニ於テ殺人既遂ト認定セラレタル同一事實ハ第二審判決ニ於テ
ハ殺人未遂ト認定セラレタリ果シテ然ラハ第二審判決ニ於テハ第一
審判決ヨリモ輕キコトヲ認定シタルモノナルニ依リ刑モ
亦之ニ準シテ輕減セラレサル可カラサルモ事理當然ナリ、然ルニ拘
ラス敢テ其ノ事ナシテハ控訴シタルカ爲ニ却テ犯狀ト刑トノ均
衡ヲ失シ爲ニ以テ刑ノ重減カ第一審判決ヨリモ第一審判決ニ於テ著
シク罰鍰トナリタリトノ非難ヲ免ルル能ハス即チ第一審判決ハ刑ヲ
量定スルニ當リ滿腔ノ信賴ヲ法律ニ捧ケントスル國民ノ情懷ニ挑撥
シタルニ於テ著シク非常アリト云ヒ、同第六號史實ニ就キテ檢査ス
ルニ刑罰法制定以來刺客ニシテ未ダ曾テ死刑ノ宣告ヲ受ケタルモノ
アルヲ見ス其ノ殺人未遂ナルモノハ案ヨリ其ノ殺人既遂ナルモノト
雖之ニ對シテ死刑ヲ以テ臨ミタルハ斷シテ其ノ事例ヲ見ルコト能ハ
サルナリ然リテ茲ニ被告人佐藤屋留雄ニ於テ始メテ死刑ヲ宣告
セラルルモ亦ハ未遂ニ屬シ因ハ統帥權ヲ干犯シ畏クモ御前會議ヲ許
リタル大奸ヲ排除セントスル崇高無限ノ忠誠ニ基クテ愛ソフ斯ク冷徹
無情ナル刑罰ヲ以テスルノ所以アラゾ左ニ前例ヲ例準シテ至公
至平ノ判斷ヲ俟タントス(板垣退助(宋送)刺客相原尙義相原尙義

ハ板垣退助ノ總理タル自由黨ハ自由民權ノ擴張ヲ主張シ其ノ赴ク所
皇軍ノ尊榮ヲ忘ルルモノナリト爲シ明治十五年四月六日板垣退助
カ岐阜縣厚見郡茂登村神道中教院ニ於ケル自由黨黨會ヨリ退席
スルニ際シ敬遠ノ禮ヲ示シテ接近シ短刀ヲ揮ヒテ其ノ胸部ヲ刺シ
暗殺ヲ企テタルモ遂ケス明治十五年六月二十八日岐阜重刑裁判所
於テ無期徒刑ニ處セラル(露國皇太子(宋送)刺客津田三藏露國皇
太子ニコラス、アレキサンドロウツチ我邦ニ來遊ス明治二十四年四
月二十七日長崎ニ著シ各地ヲ巡覽シテ同年五月十一日大津ニ來遊シ
遊覽ヲ終リテ歸途薩摩津田三藏拔刀シテ頭部ヲ斬ル鮮血淋漓
リ車夫之ヲ阻止シテ既遂ニ至ラサルヲ得タリ朝野爲ニ震駭シ明治天
皇御夜御山門遊サレ該皇太子ヲ京都及ヒ其ノ軍艦ニ御見舞遊サレ時
ノ内閣津田三藏ヲ死刑ニ處センコトヲ強要シタルモ大審院長兒島惟
謙毅然トシテ之ニ屈セズ之ヲ無期徒刑ニ處シ司法權ノ危懼ヲ救ヒタ
リ後世其ノ操守ヲ賞セサルモノナシ(松方正義内閣ニテ司法大臣ハ
山田顯義ナリ)(李鴻章宋送)刺客小山六之助、日清戰爭終リ媾和
條件ヲ議スルニ李鴻章馬關ニ來ル明治二十八年二月二十四日李鴻章
談話所ヲ出テ旅館ニ引上ケル途中山六之助拳銃ヲ以テ李鴻章
ヲ狙撃シ顔面ヲ傷ケタルモ死セズ明治二十八年三月三十日山口地方
裁判所ニ於テ小山六之助ヲ無期徒刑ニ處セリ(伊藤博文内閣ニテ司法
大臣ハ芳川顯正ナリ)(星亨(既送)刺客伊藤想太郎、星亨剛愎ニシ
テ所思ヲ斷行シテ顯ミズ殊ニ東京市會ヲ操縦シテ私アリ明治三十四
年六月二十二日東京市會議事堂ニ於テ執務中伊藤想太郎ヲ爲シ短刀
ヲ以テ刺客サレタリ當時奸詐謀シタリト斷アリ明治三十四年九月

十日東京地方裁判所ハ伊藤想太郎ヲ無期徒刑ニ處シタリ(種太郎内
閣ニシテ司法大臣ハ清浦奎吾ナリ)(板垣退助(既送)刺客中岡良一大正
七年九月二十九日政友會總裁原敬寺内閣ノ後ヲ承ケテ内閣ヲ組織
ス議會ヲ解散シテ絕對多數黨トナリ力ニ頼ミテ他ヲ顧ミズ大正十年
十一月黨務ノ爲ニ京都ニ赴カントシテ東京驛ニ至ル中岡良一之ヲ改
札口ニ要シ短刀ヲ揮ヒテ刺客ス東京地方裁判所之ヲ無期懲役ニ處シ
タリ(加藤友三郎内閣ニテ司法大臣ハ岡野敬次郎ナリ)(濱口雄幸
(宋送)刺客佐藤屋留雄、佐藤屋留雄カ濱口雄幸ヲ殺シテ以テ狙撃シ
タルハ昭和五年十一月十四日ニシテ其ノ狙撃シタル部位ハ生命ニ對
スル危險比較的少ナキ下腹部ナリ從テ濱口ハ昭和六年三月七日臨
田清湖(既送)三吉晉隆ノ全快シタリトノ進言ヲ受ケ同年十月廿日當中
參内シ梅氣全權ノ御禮ヲ言上シ畏クモ優禮ヲ拜シ即日内閣總理大臣
ニ復シタリ然ルニ猶クヘシ昭和七年四月二十二日東京地方裁判所ハ
之ヲ殺人既遂ナリト認定シ死刑ノ宣告ヲ爲シ更ニ昭和八年一月二十
四日東京控訴院ハ之ヲ殺人未遂ト認定シ有テ尚且死刑ノ宣告ヲ爲
シタリ以上ノ諸事例ヲ比較研究スルトキハ被告人佐藤屋留雄ニ對ス
ル刑罰ハ刑法制定以來ノ珍事ニシテ右五事件ニ比シ無慈悲無道極マ
レルモノト謂フヘシ特ニ所謂大津事件ト比シトキ輕重大小天地霄
壤ノ差アリト云ハサルヘカラス果シテ然ラハ第二審判決ハ刑ヲ量定
スルニ當リ愛國者ヲ過スルノ途ヲ辨ヘス爲ニ八千萬國民ノ公敵タル
孤城落日ノ中間支配階級ヲ擁護スルカ如キ結果ヲ招來シタルモノト
斷スルヲ得ヘク其ノ失當ハ天人俱ニ省スヘカラス處ナリト云ヒ
被告人佐藤屋留雄及松木良勝辯護人秋山高三郎横田重雄、菅野助助

上書趣意書第二號原審判決ニハ刑ノ量定甚シク過重ナリト思料スヘ
キ顯著ナル事由存ス原審判決ハ被告人留雄ニ對シテ刑法第九十九條同
第二百三條ヲ適用シ死刑ヲ以テ之ヲ處斷シタリト雖左ノ諸點ノ事情
顯著ニ存スルニ不拘極刑ヲ科シタルハ量刑甚シク過重不當ナリト思
料ス第一情狀及未遂ノ酌量ヲ爲ササルハ不當ナリ被告人留雄カ本件
ノ犯行ヲ爲スニ至リタル動機ニ關シテハ檢察以來其ノ陳述一貫シ明
白ナルトコロナリトス即チ昭和五年十一月十六日松坂檢事廳取書中
三問何故首相ヲ殺害スル考ヘニナツタカ答濱口氏個人ニ對シテハ私
ハ從來一箇議モナク何等ノ恩怨ハナイテアリマシテ敢テ口誹罵ナ良
面目ナ方タト信シ居リマス其ノ内閣ノ政策カ所謂緊急政策ヲ金解
禁以來不景氣深刻トナリ國民カ窮乏ニ陥リ生活難ニ苦シム者カ多ク
斯ル政策ノ内閣ハ早ク倒閣サセナケレハナラス斯ノ内閣カ瓦解スレ
ハ政黨政治ノ當道カラ第二黨タル政友會ニ行キ政友會カ内閣ヲ取
レハ所謂極端政策ヲ行ヒ其氣モ恢復シ國民ヲ救フコトモ出來ヤウレ
ニツケテモ現内閣ヲ倒スニハ其ノ首班タル濱口首相ヲ暗殺スレハ他
ノ議員モ當然職責スルテアラウト考ヘ濱口首相個人ニ對シテハ氣ノ
毒テアリマスカ殺害スルト云フ考ヘカラ云々尙察極端政策ノ問題ハカ
リテナクロンドン條約ニ於テ國民一般カラ七割ノ比率ヲ要求シテ居
ルノニ六割ニ減少シタノハ之亦怪シカラ云々新聞紙ニ現ハレタ海
軍々人ノ談話ナトカラ見テモ六割テハ戰爭ノ場合ニ日本ハ非常ナ
不利益ナ立場ニ立タネハナラヌ云々ト陳述シ豫審第一審及原審ニ於
テモ亦同趣旨ノ供述ヲ爲セリ當時濱口内閣ノ採リタル緊縮政策及ロ
シドン海軍條約締結ノ結果及影響ニツキ國內ノ輿論ヲ回想シ之ヲ要

約稿示スレハ一、財政ヲ極度ニ沈衰セシメタルコト二、我國産業ヲ極度ニ萎縮セシメタルコト三、前古未嘗有ノ失業群ヲ發生セシメ日ヲ追フテ其ノ數ヲ累増セシメタルコト四、國民ノ中堅タル農工商ノ勤勞階級ヲ擯テ生活苦シムタルコト五、財政ノ基礎ヲ動搖セシメタルコト六、以上ノ原因ニ基キ社會思想ノ陰鬱化ヲ來サシメタルコト七、ロンドン條約ノ六國讓歩ハ獨リ國防上ノ危險ヲ曲シタルノミナラス統帥權ノ干犯ナリトシテ國民ノ憤慨スルトコロナリ...

ノ立つテ居ル處カラ約二米ノトコロマテ來マシタトキ私ハ脱帽シテ少シ前方ニ身ヲカカメテ日禮ヲシ云々及同十一月十六日松坂檢事ノ聽取申五問ノ答ノ中ニ首相ノ下車ヲ待受ケマシタトコロ四時五十分前ノ列車ヲ首相ハ到着セラレ私ハソノ一開閉リ側ニ近キ狙撃シヤウカト思ヒマシタカ共ノ時ニハ別ノ箱(軍帽)カラ何方カ存シマセスカ 皇族殿下カ御降車ニナリ貴賓道ヲ御歩キニナツテ居ラレマシタノテ斯様ナ時ニ狙撃シテハ皇族殿下ニ畏レ多イト考ヘ狙撃ヲ中止シ云々等ノ供述アル等ヨリ之ヲ見レハ性格的ニ殘忍性狂暴性無ノ人格所有者ナルコトヲ推知スルニ足ル加公廷ニ於ケル被告ノ言論態度等ハ大家ノ力ヲ借リテ公廷ニ於テ怒號シ紛争ヲ起スカ如キ共黨黨一味ト自ラ異ナレルモノアリ罪ハ罪トシテ自ラ悔ムルニ躊躇スルトコロナク「國法ニ從フテ如何様ノ處斷モ甘シテ受ケル旨ヲ公廷ニ於テ陳述シタル等改悔ノ情願著ナルモノアリ然ルニ原審判決ハ之等ノ情狀ヲ考テ酌量スルトコロナカリシノミナラス被告ノ行為ヲ未遂ニ認定シタルニ不拘之亦何等量刑上減輕ヲ爲サリシハ頗ル當ヲ得サルトコロナリトス濱口首相ノ死因ハ被告人ノ行為ノ責任ニ依リテ發生スルモノニ非ラス素ヨリ我刑法ハ第四十三條ニ於テ未遂犯處分ニ輕減スルコトヲ得ル旨ノ規定存シ居リ被告人ノ自由ナル裁量權ニ任シタル法意ノ如シ然リト雖本件ノ如ク被告人ノ情狀ニ於テ客觀的事情ノ存在シタルコト又右ノ如ク被告人ノ人格並主觀的事情ノ明白ニ存在スルニ不拘情狀ノ酌量未遂減輕ノ法ヲナカラ之ヲ排斥スルカ如キコトハ之等裁判上ノ酌量未遂減輕ノ法

意ヲ曲解シ或ハ無視シタルモノニ非サルカヲ疑ハシム更ニ若シ本件ノ如キ事犯ノ再ヒ繰返サレタルコトノアルヘカヲサレコトノ念慮シテ右情狀酌量未遂減輕ヲ爲ササリシモノナラシニハソノ見解ノヨリ大ナルハナシト云ハサルヘカラス第二死刑ハ刑罰ノ目的ヲ達スルコトヲ得ス文明ノ進歩ハ刑罰改新ノ氣運ヲ促シ近世ノ刑法ハ進歩シテ死刑ノ廢止ヲ要求シツツアリ即チ死刑ハ一度之ヲ行フコトニ依リテ再ヒ回復スルコト能ハサルモノナリ刑罰ノ目的ハ犯人ノ改悔ト社會ノ防衛ニ在リ今若シ死刑ヲ科シタルトスルモ既ニ犯人ニ改悔ノ機會ヲ與フルヲ得ス從テ刑罰ノ目的ハ達セラレザルニ等シク然ラハ刑罰ハ宗教道德ノ感化力ヨリモ劣ルト云フヲ得ベシベツカリヤ曰ク殺人ノ行為ヲ罰セシカ爲法律自身殺人ノ行為ヲ爲スハ奇怪ナリ人民ヲシテ暗殺ノ行為ヲ爲サシムルカ爲法律自身之ヲ示スニ公然タル暗殺ヲ以テスルハ是豈刑法自ラ刑法ヲ殺スモノニ非スヤ又伊太利刑法カ死刑ヲ廢止シタル理由ノ一節ニ死刑ハ其ノ本體ニ於テ最モ殘虐ナル一犯罪ハ、、、、同胞ノ生命ヲ奪フノ罪ヲ撰選スルモノナリ而シテ死刑ハ畢竟吾人ノ最良ナル感情ヲ壓迫スルモノニシテ殺人ノ猖狂ノ増狂ヲ招ク以外何等ノ益ナシ(花井博士刑法論)ト謂フニ在リテソノ論旨是ニ明快ナリト云ハサルヘカラス刑法ハ殺人ノ行為ヲ罰シ更ニ自ラ死スル者ヲ補助フモ罰シアルニ不尙尙刑法ハ死刑ヲ採用シ居ルカ如キ亦ハ矛盾辯解ノ感ナキニ非ス人ノ生命ハ如何ナル國家社會ト雖之ヲ恣ニ奪フヘカラスハ人類ノ最高道徳トシテ之ヲ否定シ得ヘカラス況ンヤ日ノ主義特別豫防主義ニ依ル現下ノ刑罰理論ニ依ルトキハ死刑ハ到底刑罰ノ目的ヲ達スルモノニ非サルコ

ト論ヲ俟タス加之死刑ノ最大ノ目的タル威嚇ニ至リテハ政治犯及之ニ關係スル犯罪人ニ何等ノ效顯ナキノミナラス社會的ニモ亦威嚇ニ依リテ防衛的效力存スルモノニ非ラス何トナレハ彼等ハ自ラ國土ノ開土トシテ從容死ヲ怖レズ國民モ亦之ヲ賞讃スルカ如キコト稀ナラス死刑ハ倫理道徳教養上ヨリハ勿論コト政治上ニ於テモ亦有無價値ノ制度ナリト云フヘテ死刑ニ代フルニ長期ノ刑ヲ以テシ犯人ノ遷善改悔ヲ爲ス機會ヲ與フルコトハ行刑ノ目的ヲ達スルコトヲ得ルノミナラス人道的社會的ニ之ヲ觀察スルモ蓋シ最モ妥當ナルモノト云ハサルヘカラス殊ニ前記シタルカ如ク此種犯人ニ對シテノ死刑ハ何等ノ威嚇力ナク然ラハ絕對的ニ刑罰ノ目的ヲ達スル所以ニ非サルヲ以テ被告人留難ニ對シテ爲シタル原審判決ノ死刑ニ代フルニ長期ノ刑ヲ以テスルニ於テ始メテ刑罰ノ目的主義並特別豫防主義等ニ合致スル所以ナリト確信ス第三凡ソ刑ノ量定ニ際シテハ諸般ノ事情ヲ公明正大ニ判斷シ最モ適正ナラサルヘカラスハ論ヲ俟タス同一事情ノ下ニ同一事實ノ犯罪アリタルカ如キ場合一ノ裁判所ニ於テハ科刑著シク重ク他ノ裁判所ニ在リテハ甚シク減輕セラレタリト云フカ如キ事アリテハ裁判ニ對シ著シク國民ノ信賴ヲ失フ事明白ナルヘシ或ハ又之ヲ犯罪ノ動機目的ノ點ヨリ觀テ國體ヲ毀壞シ國權ヲ否認シ私有財產制度ヲ否認スル結社ヲ組織シ團體行動ヲ以テ目的ヲ達スル爲直接行動ヲ計シタルカ如キ被告事件ニ付一ノ裁判所ハ科刑比較的輕ク之ニ反シ他ノ裁判所ハ例ヘハ國家ノ前途ヲ憂フルノ餘行ノ止ムヘカラス事事情ノ下ニ敢テ頭目暗殺等ノ罪ニ出テタルトスルカ如キ事案ニ對シテ科刑著シク過重ナリト云フ場合ニ在リテモ亦

國家主義系不穩事件論告裁判決録

裁判ニ對スル國民の憤懣ノ影響スルコト前述ノ如ク大ナリト云ハサルヘカラス如何トナレハ其主義ニ對スル國民ノ呪詛の感情ト之ニ反スル愛國の感情トハ甚シク相異シ居ルコト明白ナルカ爲ナリ...

至誠ニ發スルモノタル事ハ何人ト雖モ之ヲ認メサルヲ得サル所ナリト信ス被告ハ被害者ニ對シ恩怨ノ情アルニ非ス只其國ノ隆昌ヲ庶幾ヒ一身ノ利害休戚ヲ顧ミ良心ノ命スル儘身ヲ挺シテ國家安康ノ拾石ヲシテ...

國家主義系不穩事件論告裁判決録

キモノナリヤ將又脅迫スヘキモノナリヤハ刑ノ適用上特ニ急務スヘキモノナルコト疑ヲ容レサル所ナリ然リト雖刑ノ輕重ハ必シモ犯罪ノ動機ノ一點ノミヲ標準トシテ抽象的ニ之ヲ論斷スヘキニ非ス更ニ犯人ノ性格被害者ノ地位犯罪ノ因リ法律秩序ニ及ボシタル影響ノ程度將來ニ於ケル豫防警戒上ノ關係其ノ他主觀客觀各方面ニ於ケル諸般ノ情狀ヲ較量シテ各犯人ニ付個別的ニ之ヲ決定スルヲ正當ナリトス...

大ニシテ國家ノ安危之ニ繫ルコトアリ之ヲ解決ハ一世ノ偉人ト雖一朝一夕ニシテ之ヲ能クスルコト能ハサルモノナシトセテ而シテ斯ノ如キ重大問題ニ付テハ自ら氷炭相容レサル反對見解ノ對立ヲ見ルコト數ノ免レサルコトコトナリト雖何レモ均シク愛國愛世ノ赤誠ノ發露タルニ於テ異ナルトコロアルヘカラサルカ故ニ假令内閣ノ施政ニ對シ不滿ヲ抱ケル者ト雖不法ノ手段ヲ以テ之ヲ倒壞シテ國力カキハ其ノ判斷ノ當否如何ニ拘ラス決シテ假借スヘキ行爲ニ非ス況ンヤ社會上ノ知識經驗ニ乏シキ者ニ於テ之カ爲ニ兇暴ナル行爲ヲ敢テスルニ於テヤ思フニ斯ル行爲者ノ性格社會的ニ危險ナルコト言ハス...

(二) 未遂罪ニ付テハ所謂中止犯ノ場合ヲ除クノ外裁判上ノ職權裁量ニ依リ其ノ刑ヲ減輕スルコトヲ得ルモノナルモ必然ノ減輕ヲ爲スコトヲ要スルモノニ非サルハ刑法第四十三條ノ法文上明白ニシテ多言ヲ要セザル所ナリ而シテ右職權裁量ニ關シテモ亦前段說明ニ係ル諸般ノ情狀ヲ參照スヘキモノニシテ獨リ動機ノ一部面ノミニ依リテ之ヲ斷定スヘキモノニアラス酌量減輕ノ運用ニ付テモ亦同ノ原則ヲ認定スル所ニ依リハ被告ノ留聲ハ消口達幸ヲ殺害スル意思ヲ以テ拳銃ヲ以テ之ヲ狙撃シテ重大ナル傷害ヲ加ヘタルモ殺害ノ目的ヲ達セザリシモノニシテ其ノ犯罪未遂ニ終レルモノナリト雖之ヲ以テ其ノ犯罪重大性ヲ否定スヘキ限ニ在ラス然レハ原則決カ被告ノ留聲ノ本件犯罪ノ情狀ニ鑑ミ未遂減輕酌量減輕ヲ爲サザリシコトヲ以テ不當ナリト爲スニ足ラス

(三) 死刑廢止ノ當否ハ立法上ノ問題ナリト雖本刑罰ノ必要ヲ認メテ之ヲ採用シツアル現行法ノ下ニ在リテハ之カ效果ヲ否定シテ其ノ適用ヲ非議スルヲ許スヘキモノニアラス但死刑ノ程度ノ嚴罰ヲルニ鑑ミ其ノ適用ヲ慎重ニスルノ必要アルハ勿論ナリト雖裁量諸般ノ情狀ニ照シテ執行罪重大ニシテ法律秩序ノ維持上已ムコト得ザルノ事情アル場合ニ於テハ斷乎トシテ此ノ極刑ヲ宣告スルコト實ニ刑法ノ精神ナリト謂ハサルヘカラス素ヨリ死刑ノ效果ハ必シモ絕對的ノモノニアラス即チ死刑ノ宣告ハ必シモ將來ニ於テ死刑ニ該ルヘキ重大犯罪ノ實現ヲ杜絶スルノ效果ヲ奏シ得ルモノニ非サルヘシト雖又此ノ種ノ犯罪ニ對スル懲戒力ヲ絕對ニ否定スヘキモノニ非ス然レハ原則決カ本件犯罪ニ付テ死刑ヲ科シタルヲ以テ甚シク不當ナリトス

ルニ足ラスト謂ハサルヘカラス

(四) 所論列挙ノ先例ヲ査スルニ多クハ舊刑法時代ニ屬ス就中殺人未遂ノ犯人ニシテ無期刑ニ處セラレタル者多キハ舊刑法ニ於テ未遂ノ刑ハ既遂ノ刑ニ等又ハ二等ノ減輕ヲ爲スヘキコトヲ規定セル結果タルニ外ナラサレハ此ノ點ニ付舊刑法ト主義ヲ異ニスル現行刑法上ノ亦案ニ關シテ之ヲ以テ例證ト爲スハ當ラス又現行刑法施行後ニ於テモ所論ノ如キ事例ナキニ非スト雖元來刑ノ適用ニ付テハ前段ニ説示セル諸般ノ事項並犯人ノ年齢及地位其ノ他一切ノ情狀ヲ參照スルコトヲ要スルモノニシテ此等ノ情狀ハ事件ノ異ルニ從ヒ其ノ趨ク同ウセザルモノナルカ故ニ裁量所ハ敢テ所謂先例ニ拘泥スルコトコトナク當ニ獨自ノ裁量ヲ以テ個別的ニ最モ適切ナル科刑ヲ爲スコト即チ刑法ノ精神ナリト謂フヘク所謂先例モ亦之ヲ詳査スルニ於テハ必スヤ或ハ犯人ノ年齢及地位等ニ於テ或ハ被害者ノ地位其ノ他ノ關係ニ於テ本件ト多ク其ノ趨ク異ニスルコトコトアルヘカカ故ニ以テ裁量ト爲スニ足ラス

要之以上何レノ點ヨリ觀察スルモ原則決ハ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著ナル事由アルモノト認ムルヲ得ス從テ上告裁判所ニ於テハ事實審理ヲ爲シ原則決ヲ駁毀スルヲ得ザルモノト認ムル旨何レモ理由ナシ

被告ノ松木良勝辯護人林逸郎角田良上告趣意書第一點原則決ハ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ル顯著ナル事由アリト信ス左ニ其ノ理由ヲ述フヘシ被告ノ松木良勝ニ對シテ原則決カ認定シタル要旨ハ被告ノ共同被告タル佐藤屋留聲ヨリ昭和五年十一月十三

日海軍本部内ニ於テ濱口首領組織用ニ使用スル爲拳銃ノ貸與ヲ要求スルルヤ其ノ情ヲ熟知シテ佐藤屋留聲ニ對シ拳銃ヲ藏匿シタル本箱ノ抽斗ヲ開拔スヘキ鍵ヲ交付シテ該拳銃ヲ貸與シ因テ佐藤屋留聲ヲシテ其ノ犯罪ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助セリト言フニ其ノ餘ノ判示記載事實ハ犯行ニ至ル經過事情ノ敘説ニ過キス然レニ被告ノ人ハ豫審以來右事實ヲ全部否認シ殊ニ問題トナレル鍵ハ前示本箱抽斗用ノ鍵ニ非スシテ自宅ノ抽斗用ノ鍵ナル旨辯解シ來レルモノニシテ一審公判以來本箱用ノ鍵ナリヤ將又卓子用ノ鍵ナリヤト鍵トシテ論争ノ焦點トナリタルモノナリ然レハ原則決ハ問題ノ核心ニ觸レルコトヲ避ケ單ニ本箱ノ抽斗ヲ開拔スヘキ鍵ヲ交付シ云々ト判示シ本箱用ノ鍵用ニ屬スル鍵ナル旨辯解カス蓋シ原則決カ此ノ鍵ヲ解カサルハ右ノ鍵ハ本箱ノ抽斗用ノ鍵ナリト抽斗用ノ鍵ニ開拔シ得可ク兩者ノ孰レノ專用ナルヤヲ判別スル能ハサリシニ因ルモノナラン(細島長吉第二回豫審調書斯ルコトハ毫モ不可思議ニ非スシテ普通アリフレタル鏡前ヲ有スル安價ナル西洋家具類ニ於テ往々發見シ得ル實例ナリ然レトモ苟モ被告ノ判示ノ如キ補助ノ責任ヲ負擔スルニハ餘クトモ本箱ノ抽斗ヲ開拔スヘキ鍵ナルコトヲ認識シテ代付シタル事實ナカル可カラス然レニ此ノ點ニ關シテ原則決ノ採用セル證據ハ勿論其ノ他本件記録中ニテ證明スヘキ何等ノ證據モ存在セズ右ハ被告ノ刑事責任ヲ負擔ス可キ有無ヲ決定スル唯一無二ノ學點ニシテ二審以來被告ハ元ヨリ辯護人ニ於テモ極力論證辯明ニ努メタリシナリ然レニ二審二審共ニ此ノ點ニ付多クノ注意ヲ拂ハシテ重大ナル事實ノ誤認ヲ爲シ被告ノ罪ニ對シ有罪ノ

判決ヲ爲シタルハ極メテ遺憾ナリ一、本箱ノ抽斗用ノ鍵ハ元來存在セズハ當時右本箱ノ所有者タル被告人松木良勝豫審調書二一六問答及証人佐藤屋留聲豫審調書七問答ノ供述記載ニヨリテ明瞭ナリ二、本件ノ鍵ハ當時被告人自宅ノ卓子ノ抽斗用ノ鍵ニシテ本箱ノ抽斗用ノモノニ非ス右ハ原審裁判所カ一且辯護人ノ申請ヲ却下シ再度ノ考察ニヨリ證據ヲ以テ喚問セラレタル被告人松木良勝三庭同案田三郎ノ證言ニヨリテ極メテ明白ナリ二、本件ノ鍵ハ偶然ニモ本箱ノ抽斗用ノ卓子ノ抽斗用ノ双方ヲ開拔スルコトヲ得ルナリ右ハ鏡前職タル被告人松木良勝第二回豫審調書第四問答ニヨリ明白ナリ四、被告上ノ如キ偶然ハ通常ノ鏡前ヲ有スル安價ナル西洋家具類ニ於テ往々發見セラルル所ナリ本件ノ本箱ノ卓子ノ場合又同シ五、然レトモ被告人カ本件ノ鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗用ニ使用シタル事實ナク又證明ナシ右ハ佐藤屋留聲ノ第八回豫審調書第十及第十一問答ニヨリテ明白ナルミニナラス原告官ハ此ノ點ニ付何等ノ證明ヲ爲サズ六、更ニ被告人カ本件ノ鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗用ノ開拔スヘキ鍵ナルコトヲ認識シタルトシテ採用シタルカ前者ノ供述記載中ニ「自分ハ鍵ハ何處ニアルノカト例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトヲ尋ネタルニ松木ハアツチニ置イテアルト答ヘタリ」トアル(例ノ拳銃ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトトハ佐藤屋留聲ノ主觀ニ過キスシテ同人カ被告人ニ呼ビ懸ケタル言葉ハ「鍵ハ何處ニアルカ」數語ニ過キス單ニ之レ丈ノ客觀的事實ヨリ被告人カ拳銃ノ入り居ル抽斗用ノ鍵ナルコトヲ認識シタルトノ證明トナラス又後者ノ供述記載中「二度共鍵ヲ以テ本

箱ノ抽斗ヲ開ケ券銃ヲ取リ出シタルカ右抽斗ハ鍵ヲ使ハサレハ開カス... 二十七日朝被告入留難ヨリ決行ニ先テ右券銃ヲ試射ヲ爲ス...

二十七日朝被告入留難ヨリ決行ニ先テ右券銃ヲ試射ヲ爲ス... 被告ハ其ノ庭園内ニ於テ被告入留難ヨリ...

内閣總理大臣濱口雄幸ヲ殺ス決心テアル旨ヲ二三回私ニ申シタコト... 被告ハ其ノ庭園内ニ於テ被告入留難ヨリ...

ソノシテ被告ナク行クモノテナイト云フ意味ヲ申シタノテアリマシ... 被告ハ其ノ庭園内ニ於テ被告入留難ヨリ...

處マテ本當カト思ヒマシタト各記數シアルニ依リ明カニシテ被告
人良勝ハ眞實佐藤屋カ濱口首相ヲ暗殺スルモノナリトハ信シ居ラサ
ルモノナリト被告入松木良勝ハ祭銃ヲ佐藤屋ニ貸與シタルモノニ
ラスシテ佐藤屋ハ勝手ニ之ヲ取出シ携帶シタルコトハ(被告入松木
良勝第三回豫審調書三〇四六)被告入佐藤屋カ昨年十月六日市ケ
谷刑務所ヲ出テ佐藤屋ニ對シ本件ノ祭銃ヲ所持シ居ル事ヲ語サナ
カツカ答左様ナリ御座イマシタ三田カラ其ノ祭銃カ返サレタ後
ノ亦十月十五日頃ノコトト思ヒマスカタ方ホテノ事務所テ私
ハ佐藤屋ニ對シ暴力團等カ來タ時ニハ祭銃ヲ使ワテヨソレハ事務
所ノ本館ノ左ノ抽斗ノ一番上ニ入レテアルト語シタ事カ御座イマシ
タ(被告入佐藤屋第三回豫審調書三三九)間、被告入ハ其ノ時祭
銃ノ亦ヲ語サナカツカ答申シマシタ只今申シタ事ニ引續イテ私
ソレニ就イテハ祭銃カ要ルカラ其方ハソレヲ持テ居ルカラソレヲ
シテ買ヒタイト申シマシタ四〇間、夫レニ對シ松木ハ何ト返事シタ
カ答親類ノ居ナイ時ニサウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナイトハナイカ
ト松木ハ申シマシタ四二間、松木ハソウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナ
ト云ハナカツカ答松木ハ親類ノ居ナイニサウ云フ事ヲ云フテモ
仕様カナイトハナイカト申シ選イカラ親類ト申シマシタ四二間、
ソレヲ被告ハ何ト云フタカ答私ハ自分トシテハ兎ニ角是非ヤラウト思
フカラ祭銃ヲ貸シテ買ヒ度イト申シマシタソレニ對シ松木ハ別ニ云
ハスニモ選イカラ親類トセキ立テマシタ、、、、四五間、被告
人ハ檢事ニ對シ其ノ時松木ハ祭銃ハホテノ太箱ノ抽斗ノ中ニ遺入ッ
テ居ルト申シタ様ニ中立テ居ルカ如何答檢事ニ對シテハ左様ニ申シタ

カモ知レマセヌカ其ノ後考ヘテ見ルト松木ハ祭銃ハ此處ニハナイヨ
ト申シタ様ニ思ヒマス四六間、被告入ハ檢事ニ對シ松木ハ暗殺ノ中
ニ私ノ決意ニ賛成シ祭銃ヲ貸スコトヲ承諾シタモノト信シタト申立
テ居ルカ如何答檢事ニ對シ申立ヲ駁ス譯テハアリマセヌカ其ノ點ハ
事實違フテ居リマス(ハ原院公判調書被告入佐藤屋留置ノ供達ト
シテ)間、時被告入ハ祭銃ヲ仕舞テアル抽斗ノ鍵ノ亦ヲ聞カナ
カツカ答左様ニ語ハシナカツタト思ヒマス其ノ時ヒストルヲ跋
ツテアル本館ノ抽斗ノ鍵ノ亦ヲ聞イタ様ナ記憶ハアリマセヌカ其ノ鍵
ニ付テハ前ニ松木ニ聞イタ事カアルノ時ノ亦ヲ聞違フテ十三
日ノ晩ニ聞イタ様ニ豫審テ申シタテアリマス間、昭和五年十一月
十三日ノ晩山本外三ヤ松木良勝ハ遊ヒニ行ツタカ答左様テアリマス
日間其ノ時十七號室ノ机ノ上ニ鍵カアツタカ答左様テアリマス其
ノ鍵ハ祭銃ヲ入レテアル本館ノ抽斗ノ鍵ナルカ答左様テアリマス
又テシタ間其ノ机ノ上ニハ靴櫃モアツタカ答左様テアリマス其ノ鍵
ニ靴櫃カツイテ居タテアリマス間其ノ靴櫃ハ之カ裁判長ハ此ノ時
同上親類ノ二十一ヲ示シタリ答左様テアリマス間其ノ時ノ鍵ハ之カ
裁判長ハ此ノ時同親類ノ十九ヲ示シタリ答左様テアリマス其ノ時
テ居リマセヌ(記數三四九一丁裏)(二)第一審公判調書被告入佐
藤屋留置ノ供達トシテ間、夫レカラ怎ツシタカ答松木ハ何カ十五號
ノ室ヲ覗イテ居タ様テスカ私ハ愛國社ノ事務所ノ展ワタラ山本外三
ハ未タ其處ニ居テパンフレットカ何カ置ンテ居リマシタ其ノ部屋ニ
ハ右ノ方ニテブルカ置イテアツタノテスカ其ノ時私カ其處テ見タ
ラ靴櫃ナンカト一諸ニシタ様カ置イテアツタノテ之ハ占メタト思フ

テ夫レヲ扶ニ入レマシタ、、、、間、被告ハ豫審ノ第四回ノ取調ノ
際ハ斯様ニ述ヘテ居ル様タカ如何此ノ時記數一五二丁以下、被告入
佐藤屋留置ニ對シ豫審第四回調書第三七乃至第四一各記數
載テ讀聞ケタリ答夫レハ違フテ居ル處方アリマス鍵ノコトヲ若シ私
カ答親類ノ居ナイ時ニサウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナイトハナイカ
ト松木ハ申シマシタ四二間、松木ハソウ云フ事ヲ云フテモ仕様カナ
ト云ハナカツカ答松木ハ親類ノ居ナイニサウ云フ事ヲ云フテモ
仕様カナイトハナイカト申シ選イカラ親類ト申シマシタ四二間、
ソレヲ被告ハ何ト云フタカ答私ハ自分トシテハ兎ニ角是非ヤラウト思
フカラ祭銃ヲ貸シテ買ヒ度イト申シマシタソレニ對シ松木ハ別ニ云
ハスニモ選イカラ親類トセキ立テマシタ、、、、四五間、被告
人ハ檢事ニ對シ其ノ時松木ハ祭銃ハホテノ太箱ノ抽斗ノ中ニ遺入ッ
テ居ルト申シタ様ニ中立テ居ルカ如何答檢事ニ對シテハ左様ニ申シタ

テ判示祭銃ヲ貸シタリト認ムヘキ確證ナク原判決ニ於テハ被告入
良勝ニ對シ證據不十分トシテ無罪ノ旨ヲ爲スヘキヲ相當トス然ル
ニ事致ニ出テサリ原判決ハ重大ナル事實ノ誤認アルモノニシテ破
毀スヘキモノト思料スト云ヒ被告入佐藤屋留置及松木良勝辯護人秋
山高三郎、横田東良、菅野助助上告意書第一點原判決ニハ被告
入松木良勝ニ對シ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス原審
判決(第二事實)ノ被告入良勝ニ對スル事實トシテ、、、、十月二
十三日頃前記自宅ニ於テ、、、、濱口雄幸ヲ同月二十七日夕刻東
京驛ニ送ヘテ暗殺セントスル決意アル旨ヲ告ケラレ且右兇行ニ使用
スヘキ前記祭銃ノ貸與方ヲ求メラレ、、、、右祭銃ヲ射撃ヲナ
スヘキコトヲ促サレ、、、、被告入良勝自ラ二回ノ射撃ヲ爲シ
テ發射ノ確實ナルコトヲ確カメ、、、、同前記、下車ニ先テ
右祭銃ヲ下車セラレタルヲ知り恐懼ノ餘決行ヲ果サス、、、、
右親末ノ報告ヲ受ケ、、、、十一月九日頃前記藏ノ如ク右義ホ
テル内ニ於テ被告入留置ヨリ同首相カ來ル十四日午前九時東京驛發
ノ列車ニテ出立四下セントスルニ際シ、、、、前記祭銃ノ貸與
方ヲ求メラレルヤ、、、、殺害スルノ用ニ供スルモノナルコト
ヲ熟知シナカラ同被告入ニ對シ右祭銃ノ藏置シタル前記本館ノ抽斗
ヲ聞披スヘキ鍵ヲ交付シ云々ト記數シ殺人幫助ヲ認定シタリト雖
左ノ點ニ於テ事實誤認ヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由存ス第一、昭
和五年十月二十三日頃被告入良勝方ニ於テ和被告入留置ヨリ祭銃貸
與方申出ノ事實確實性ナキコト、右ハ相被告入留置ノ豫審第一回調
問調書第十問答トシテ「本年十月二十三日頃夜十二時頃赤坂區田

町二丁十三番地松本良勝方二階入屋ノ間テ松本ニ語ラシ借リマシ
タトノ陳述ニ始マルモノナリト雖同調書第十五問答ニ於テ「松本ハ
私ノ言葉ニ對シ機成トモ否トモ申シマセテシタカ拳銃ハ愛國社ノ
ホテルノ事務室ノ本箱ノ左ノ抽斗ニ置イテアルト云ツタノテアリ
マス、ハ、ハ、ハ、私ハ本年十月二十七日ニ松本カ中シタ抽斗カラ其
ノ拳銃ヲ取リ出シマシタトノ陳述ノ記載アルニ反シ同被告ノ豫
審第三回調問書中「四五問被告ハ「檢事ニ對シ其ノ時松本ハ拳銃
ハホテルノ本箱ノ抽斗ノ中ニ置入ツテ居ルト申シタ様ニ立テ居ル
カ如何答檢事ニ對シテハ左様ニ申シタカモ知レマセカ其ノ後考ヘ
テ見ルト松本ハ拳銃ハ此處ニハナイヨト申シタ様ニ思ヒマス」トノ
問答ノ記載アルヲ見レハ十月二十三日頃本件拳銃ヲ被告ノ良勝カ
相被告ノ留聲ニ貸與シタルニ非ス又其ノ貸與ノ申込ヲ受ケテ拳銃ノ
所在ヲモ洩シタル事實無ク被告ノ良勝ハ相被告ノ留聲ノ酒口首暗
殺ニハ同意シ居ラサルノ事實アルニハナラズ此ノ問題ニ觸レルヲ避
ケ居タルノ真相ナリト云ハサルヘカラス此ノ點ニ關シ「相被告ノ
留聲ノ豫審第一回調問書中第十一問答トシテ「松本ハソノ事ヲ
云ツテモ今先生(岩田愛之助ノ事)モ留守カカラ仕模カナイト申シマ
シタト」ノ記載ニ「被告ノ良勝ノ豫審第四回調問書中第十三問答
トシテ「其ノ時私ハ佐藤屋ニ對シ拳銃ヲ人ヲ撃ツコトカナカナ
六ヶ敷外レ彈モアリ不發彈モアルヲ豫成モカナカナ敵軍重ヲ
ウト申シマシタト」ノ記載ニ「被告ノ留聲ノ豫審第三回調問書中第
四十九問答トシテ「然シ私ハ松本カ私此ノ事件ノ過中ニ卷込マレ
ル事ヲ恐レテ居タノテナイカト今思ヒマス」トノ陳述記載アルニ微

スレハ其ノ真相ヲ物語ルニ足ルヘキモノアリト信ス而シテ被告ノ良
勝カ拳銃ヲ所持セルヤ否及其ノ所在ニ關シテハ相被告ノ留聲ノ豫
審第三回調問書中第一問答トシテ「ハ、ハ、ハ、松本ニ對シ此ノ様ナ
團體ニ居テドスカ拳銃カナクテハイケスタラウト嬢ヲカケテ聞イ
様ニ前同申上ケマシタ左様ニ刀カ拳銃カナクテハイケスタラウト申
シタノハ展用龍之助方ノ自浪會テ誰カニ云フタコトヲ思ヒ違ヒシテ
松本ニ聞イタ様ニ前同申シタノテアリマス」トノ陳述記載及被告ノ
良勝ノ豫審第三回調問書中「ハ、ハ、ハ、十月十五、六日頃ノ事ト
思ヒマスカ方ホテルノ事務所テ私ハ佐藤屋ニ對シ暴力圍等カ来タ
時ニハ拳銃ヲ使ツテヨイソレハ事務所ノ本箱ノ左ノ抽斗ノ一番上ニ
入レテアルト話タ事カ御座イマシタト」トノ陳述ノ記載及相被告ノ
留聲ノ豫審第一回調問書中「七問被告ハ「松本ヨリ暴力圍カ来タ
時ニ拳銃ヲ使ツテモイイト云ハレタ事カアツタカ答左様ナコトヲ云
ハレタ様ニ氣カ致シマス、ハ、ハ、ハ、昨年十月六日市ヶ谷刑務所ヲ
出タ後カモ知レマセ云々」トノ陳述トノ記載アルヲ綜合考察スレ
ハ昭和五年十月二十三日以前同月十五、六日頃被告ノ良勝ハ相被告
ノ留聲ニ用途ヲ限定シテ拳銃ノ所在ヲ語リタル事實アルニ過キス
第二回調問書中「昭和五年十月二十七日被告ノ良勝カ所持セル拳銃ヲ持出シ
爾東京市外日黒町下目黒六百五十二番地日當期義方ニ於テ本件拳銃
ヲ射シタルコトハ争ヒナキ事實ナリト雖此ノ點ニ關シ「相被告
ノ留聲ノ第三回調問書中「六三問被告カ「滿洲支那ニ居タトキ
ローニンダヤ、コート(コルト)ノ誤記ナラン」ノ拳銃ヲ撃ツタコトハ

御座イマス然シ松本ノ持ツテ居ル拳銃等ハ未タ見タコトモ撃ツタコ
トモナイノテ松本ニ左様申シタノテアリマス六五問答ニシイカラ服
タト申シマシタ六六問答非一ツ一語ニ行ツテ呉レト申シマシタ、
ハ、ハ、ハ、松本ニ一語ニ行ツテ買ハナレハ拳銃ヲ手ニスル事カ出
來ナイト思ツタカラテアリマス」トノ陳述記載「被告ノ良勝ノ豫
審第四回調問書中二六問答、ハ、ハ、ハ、佐藤屋ハ庭ノ果木ノ側テ拳
銃ヲ弄ツテ居リ、ハ、ハ、ハ、佐藤屋ハ廿七動カナイト云ツテ其ノ
拳銃ヲ私ニ見セタノテ私ハ貸シテ見ロト云フテ其ノ拳銃ヲ取リ其
ノ場テ其ノ拳銃ノ彈丸ノ入ツテ居ルケースヲ抜イテ見タ處一發ノ彈
丸カ銃身ニ引掛ツテ居タノカ判ツタノテ其ノ彈丸ヲ取リソレヲ其ノ
ケースニ入レソレカラ其ノケースヲ元通り戻シテ折敷ノ形ニナツテ
地面ニ向ケ引金ヲ引イタコト拳銃ハ發射、ハ、ハ、ハ、ソレカラ又銃
身ヲ引張ツテ見タトコ又具合カ悪クナツタノテ云々」トノ陳述記
載「以テ觀レハ相被告ノ留聲ハ本件拳銃ヲ手ニスル爲被告ノ良勝ニ
對シ射撃ニ藉口シテ持出シ相被告ノ留聲ハ銃身ノ故障アルカ爲射撃
セス反ツテ被告ノ良勝カ射撃ニ一回ノ故障アルニ拘ラス相被告ノ留
聲ニ於テ射撃シタルノ事實無ク本件拳銃ヲ以テ酒口首暗殺セム
トスルノ決意アリトスルニ於テハ故障アル拳銃ナルカ故ニ自ラ射撃
スヘキモノニアラサルカト思ハシム尙右十月二十七日相被告ノ良勝
試射ニ赴キタル事由トシテ「拳銃ヲ手ニスルコトカ出来ナイト思フ
タカラ」ナル陳述信スヘシトスルニ於テ「前記第一ニ記スル同年十
月二十三日頃酒口首暗殺ノ爲被告ノ良勝ニ對シ拳銃貸與ヲ申出借
用ノ承諾ヲ得タリト云フ豫審第一回調問書記載事實ヲ益々疑ハシ

ム第三、昭和五年十月二十七日相被告ノ留聲カ酒口首暗殺ノ爲本
件拳銃ヲ持出シタル事ハ被告ノ良勝カ知ラサルコト昭和五年十月二
十七日相被告ノ留聲カ首暗殺ノ爲本件拳銃ヲ持出シタルコトハ被
告ノ良勝ニ於テ知悉シ居ルヤ否此ノ點ニ關シ「相被告ノ留聲ノ豫
審第一回調問書中「六二問答今晚ヤルノタトハ申シマセテシタ
云々」七四問答、ハ、ハ、ハ、私共カ歸ル時ニ日堂今日、陸下カ御歸リ
ニナルカラソノ物ヲ持ツテ居ルト危クハナイカト申シマシタ、リ
私ハ此ノ時初メテ、陸下カ其ノ日東京ニ御歸リニナルコトヲ知リマ
シタ七七問答ホテルノ事務所ニ歸ツテカラ直クニ松本ニ渡シ松本ハ
ソレヲ元ノ抽斗ニ入レマシタ七七八問答、ハ、ハ、ハ、松本ハ直ク山本君
松本ハ直ク山本君ノ入院シテ居ル池田病院ニ出カケマシタ八六問
答「松本カ抽斗ニ鍵ヲカケテ置イタナラ什ウシテ拳銃ヲ取出ス積リ
テアツタカ答其ノ時ハ其ノ本箱ノ開戸ヲ開ケテ其ノ拳銃ノ入ツテ居
ル上部ノ板ヲ押外シテ其ノ拳銃ヲ取出ス積リテシタ八七問答、
ハ、ハ、ハ、ソレカラ私ハ乘車口ニ出テ市電ヲホテリニ歸リマシタ
レハ午後五時頃頃テシタソレテ拳銃ヲ元ノ場所ニ藏ヒマシタ八八問
答ソレカラ私ハ電話ヲ池田病院ノ松本ニ、ハ、ハ、ハ、松本ハソノ事
カラソノ事電話ヲカケル奴カアルカト申シマシタ」トノ陳述記載
二、同被告ノ豫審第七回調問書中十八問答トシテ「ハ、ハ、ハ、
私カラ亦情ヲ聞イタ以後ハ段々私カラ遠サカル様ニシテ居リマシ
タ」トノ陳述記載三、被告ノ良勝ノ豫審第三回調問書中「四〇問其
ノ拳銃ヲ入レテ置イタ事務所ノ本箱ノ抽斗ニハ鍵ヲカケテ拳銃ヲ藏
ツテ置イタカ答サウテハアリマセ其ノ抽斗ニハ鍵ヲカケルハ取

ハ本件犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ヲ及ボササルモノト云ヒ得ヘキカ故ニ原判決カ右筆録ヲ置シアル本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ナル事實ヲ判定シ其ノ鍵カ本箱ノ抽斗ニ專用ノモノナリヤ將タ他ノモノトノ兼用ナリヤヲ判示セザリシハ當然ナリ又假令被告入留難ニ於テ同人ニ對スル豫審第八回調書中ノ二重共鍵ヲ以テ本箱ノ抽斗ヲ開ケ筆録ヲ取リ出シタルカ右抽斗ハ鍵ヲ使ハサレハ開カストノ供述ヲ第一審以後取消シタルトスルモ原審ハ其ノ兩供述ノ何レカ眞實ナリヤニ付自由心證ニ依リテ判斷シ以テ探査ヲ決スル權權ヲ有スルモノナルカ故ニ原審カ右公延ニ於ケル供述ヲ排斥シ豫審ニ於ケル供述ヲ採川シタルトスルモ違法ニ非ス記録ヲ精査スルニ原判決ニ重大ナル事實ノ誤認アルコトヲ疑フニ足ルヘキ顯著ナル事由ヲ發見セス所論ハ畢竟原審ト相容レサル獨自ノ見解ニ基キ又ハ原審ノ採用セサル證據ニ立脚シテ原審ノ專權ニ屬スル證據ノ取捨判斷延イテ事實ヲ認定フ非難攻撃スルニ外ナラス然レハ原判決ニ所謂事實誤認ノ違法ナク論旨誤レモ理由ナシ

審問調書ニ：自分ハ鍵ハ何處ニアルノカト例ノ筆録ノ入り居ル抽斗ノ鍵ノコトヲ尋ネタルニ松木ハアツチニ置イテアルト答ヘタリ云々ノ供述記載ト說明シアルノミニシテ原判決認定ノ如ク被告人良勝ハ被告人留難ヨリ同夜判示筆録ノ貸與方ヲ求メラレシ之ヲ藏匿シアル抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ同人ニ交付シタルトノ證據ハ之ヲ舉示スルトコロナシ然ラハ原判決ハ證據ニ憑ラスシテ事實ヲ認定シタル違法アルモノト思料スト云フニ在リ

ル違法ナシ論旨理由ナシ

同第三回調書ハ刑訴法第三百六十條第二項ニ違背スルモノナリ原判決ハ：被告人松木良勝ハ：次テ同月十三日深更右葉ホテル内ニ於テ被告人留難ヨリ右兇行ニ使用スル爲前記筆録ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告人留難ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ右筆録ヲ藏匿シアル前記本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該筆録ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ前記兇行ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シト認定シ被告人良勝ヲ殺人未遂幫助罪ニ問據處斷シタル然レトモ被告入留難ハ原院公判廷ニ於テ判示日時場所ニ於テ被告人留難ヨリ筆録ノ貸與方ヲ求メラレタルコトナク又同人ニ筆録藏匿ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シタルコトナシ自分ハ同夜山本三ト遊ヒニ出ル際筆録ヲ葉ホテル第十七號室ニ忘レ行キタルモ該室ハ自宅ノ机ノ抽斗ノ鍵ニシテ判示筆録ヲ藏匿シアル抽斗ノ鍵ニアラスト主張シタルコトハ原院公判調書中被告人良勝ノ供述ニ徴シ明ナリトス而シテ被告人良勝ノ右主張ハ刑訴法第三百六十條第二項ニ所謂犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原因タル事實上ノ主張ニ屬スルヲ以テ原判決ニ於テハ前記法條ノ規定ニ違ヒ被告良勝ノ此主張ニ對シ相當ノ判斷ヲ示ササルヘカラサルモノナリトス然ルニ此主張ニ對シ何等ノ判斷ヲ示ササル原判決ハ前記法條ニ違背シ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ然レトモ被告人良勝ニ關スル原判決ノ證據ニ依リテ確定シタル第二事實ニ依レハ被告人良勝ハ昭和五年十一月十三日深更葉ホテル内ニ於テ濱口首相殺害ノ用ニ供スル爲筆録ノ貸與方ヲ求メラルルヤ被告

國家主義系不穩事件論告裁判決録

入留難ニ於テ濱口首相ヲ狙撃シ之ヲ殺害スルノ用ニ供スルモノナルコトヲ熟知シナカラ同被告人ニ對シ實包六發ヲ裝填セル筆録ヲ藏匿シアル愛國社事務所内ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シ以テ該筆録ヲ貸與シ因テ同被告人ヲシテ其ノ犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナルコトヲ明ナリ然レテ原院公判調書ヲ查閱スルニ被告人良勝ハ原院公判廷ニ於テ主張シタルコロハ判示日時場所ニ於テ被告人留難ヨリ筆録貸與方ヲ求メラレシコトナク又同人ニ筆録藏匿ノ本箱ノ抽斗ヲ開披スヘキ鍵ヲ交付シタルコトナシ自分ハ同夜山本外三ト遊ヒニ出ル際筆録ヲ葉ホテル第十七號室ニ忘レ行キタルモ該室ハ自宅ノ机ノ抽斗ノ鍵ニシテ判示筆録ヲ藏匿シアル抽斗ノ鍵ニ非スト云フニ在ルコト所論ノ如シト雖右ハ畢竟原判決認定ニ係ル本件犯罪ノ積極的構成要件ニ對シ否認ニ外ナラサルコトハ右ニ掲ケタル原判決認定事實ト原審公延ニ於ケル同被告人ノ主張トヲ對比スルコトニ依リテ明白ニシテ斯カル否認ハ刑訴法第三百六十條第二項ニ所謂法律上犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ原因タル事實上ノ主張ニ該當セサルコトハ本院ノ夙ニ判例トスルコロナリ然レハ原審カ被告人良勝ノ右主張ニ對シ其ノ判決ニ於テ特ニ之ヲ判斷ヲ示サザリシハ當然ニシテ原判決ニハ所謂違法ノ廢アルコトナシ論旨理由ナシ

國家主義系不穩事件論告裁判決録

律適用理由ニ於テ：被告入松本良勝ノ所爲ハ刑法第九十九條
第二百三條第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ：其ノ所定中無
期懲役刑ヲ選擇シ從犯ナルヲ以テ：法律上ハ減刑ヲ施シタル刑
範圍内ニ於テ同被告入ヲ懲役八年ニ處シ：ト判示セリ抑々本件ノ
主犯者佐藤屋留雄ノ責任ハ殺人未遂ニシテ被告入ハ其ノ犯行ヲ補助
シタル從犯ニ過キサルニ拘ラス前者ニ死刑ヲ後者ニ無期懲役刑ヲ選
擇シタルハ裁判史上ニ於テ先例ヲ見サル過當ノ手段ニシテ結局刑ノ
量定甚シク不當ナル場合ニ該當スルモノト謂フヘシ但原判決ハ被告
入ニ對シ從犯ナルノ故ヲ以テ減刑ヲ爲シタルハ法律適用上當然ノ結
果ニシテ判官ノ自由裁量ニ屬スヘキ刑ノ量定トハ別箇ノ問題ニ屬ス
故ニ若シ原審科刑ニ關スル先例ヲ尊重シ被告入ニ對シ有期懲役刑
ヲ選擇シタルトモ更ニ從犯ニシテ法律上ノ減刑ニヨリ一年六月以
上七年六月ノ刑罰範圍内ニ於テ處斷セラルルコトトナリ得トモ原
審官刑ノ八年以下タルコトヲ得可シ加之原判決ノ判示スル所ニヨ
レハ本件犯行ノ動機ハ主犯タル佐藤屋留雄ニ於テハ濱口内閣ヲ金解
禁ノ時期ヲ誤リ夫レカ爲組織當初ノ聲明ヲ裏切り幾多ノ不祥ナル事
態ヲ惹起シタルコト(一)深刻ナル不景氣ノ爲失業者倒産者犯罪者等
出スル世相ヲ見ルニ及ソテ益々同内閣ノ施政ニ對シ不滿ノ情ヲ強
メタルコト(二)及同内閣力軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ屈シ軍
備縮小條約ヲ締結セルハ我カ外交ノ一大汚辱ニシテ兵力量定ニ關
スル大權ヲ干犯シタルノミナラス國防ノ安全ヲ脅カシテ憲テ國家ノ
存立ヲ危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果ニ出テテ國家ノ
ナリ而シテ被告入松本良勝モ亦右佐藤屋留雄ノ理由ト意見ヲ

抱懐シ之カ犯行ノ動機トナリシコトハ亦原判決ノ判示スル所ナリ
果シテ然ラハ被告入等ノ犯行ノ動機ハ愛國ノ興奮ニ出テタルモノニ
シテ私利私慾ヲ念トスルモノニ非ラス須ク斯ル動機ニ出テタル犯罪
ニ對シテハ刑法ノ誤ヲ濫キ酌量減刑ヲ爲スヲ相當ナリトスヘク事茲
ニ出テサリ原判決ハ此點ニ付テモ刑ノ量定甚シク不當ナリト批
難ヲ免レサルヘシ故ニ御廳ニ於テ事實整理ヲ爲シ刑ノ選擇量定ニ
付極正妥當ナル判決ヲラシメテ求ムル次第ナリト云ヒ被告入佐藤
屋留雄及松本良勝辯護人林逸郎辯護人上告趣意書第五點原判決ハ科刑者
シク不當ナリ原判決ハ被告入良勝ヲ殺人未遂補助罪ニ關係シ懲役八
年ニ處シタル然ルニ本件記録上被告入良勝ハ被告入留雄ノ行爲ヲ幫
助シタルモノニ非サルコトハ第一點ニ述フルカ如ク似ニ斯ル行爲ヲ
ナリタルモノモ其ノ動機ニ於テ前記述ナル所ト相異ルモノアルコト
ナク被告入良勝ニ於テ被告入留雄ノ行爲ヲ阻止セントシテ其ノ至難
ナルヲ説キ其ノ無罪ヲ戒メタルモ被告入留雄ニ於テ懸念スル所ナキ
ヲ以テ已ムヲ得テ判示系統ヲ貸與シタルモノニシテ我國ニ於ケル所
謂武士ノ情ト謂フヘク事情酌量スヘキモノアルヲ以テ原判決ニ於テ
ハ最モ寛大ナル處刑アルヘキモノナル事茲ニ出テサリハ科刑者
シク不當ニシテ破毀スヘキモノト思料スト云フニ在リ
然レトモ原判決第二事實ハ其ノ學示セル證據ヲ綜合シテ優ニ之ヲ認
ムルニ足リ該事實ハ殺人未遂補助罪ヲ構成スルコトハ明白ナリト
ス而シテ原判決ニ依レハ主犯者佐藤屋留雄ニ於テハ濱口内閣ヲ金解
禁ノ時期ヲ誤リ夫レカ爲組織當初ノ聲明ニ反シ幾多ノ不祥事態ヲ惹起
シタルト信シ又深刻ナル不景氣ノ爲失業者倒産者犯罪者等出スル

國家主義系不穩事件論告裁判決録

世相ヲ見ルニ及ソテ益々同内閣ノ施政ニ對シ不滿ノ情ヲ強メ尙軍備縮
小條約ヲ締結シタルハ同内閣力軍部ノ意見ヲ無視シテ米國ノ主張ニ
屈シタルモノニシテ我カ外交ノ一大汚辱ヲ印シタルノミナラス兵力量
決定ニ關スル大權ヲ干犯シテ國防ノ安全ヲ脅カシテ憲テ國家ノ存立ヲ
危クスルモノナリト思惟シ痛ク憤激シタル結果内閣更迭ノ目的ヲ以
テ濱口首相ヲ殺害セントシテ遂ケサリシモノニシテ被告入良勝ハ
右留雄ト略同謀ノ理由ト意見ヲ抱懐シ之ヲ動機トシテ本件犯行
爲ヲ敢テシタルコトヲ認メ得ヘシ然レハ被告入良勝ノ犯罪ノ動機亦
右想スヘキモノアリト雖合法的手段ヲ講スルニ非スシテ擅ニ直接行
動ヲ以テ内閣總理大臣ヲ殺害シ以テ内閣更迭ヲ圖リ其ノ兇行ヲ敢テ
シタル被告入留雄ノ犯行ノ情狀頗ル重ク其ノ罪責ニ甚大ナルコトハ
既ニ同人ニ係ル上告趣意書ニ付テ説明シタルトコロニシテ同人ニ對シ
其ノ犯行ノ用ニ供スル兇器ヲ貸與シ因テ其ノ實行ヲ容易ナラシメタ
ル被告入良勝ノ犯行罪責ノ重大ナルコト亦亦肯定スルコトヲ得サルモ
ノアルカ故ニ原判決カ之ニ關ムニ刑法第九十九條第二百三條所定
刑中無期懲役刑ヲ選擇シ尚同法第六十三條第六十八條第二號ニ則リ
從犯トシテノ法律上ノ減刑ヲ爲シタル刑罰範圍内ニ於テ同被告入ヲ
懲役八年ニ處シ第一審ニ於ケル未決勾留日數中百八十日ヲ本刑ニ算
入スル旨ノ判決ヲ爲シ更ニ之ヨリ輕キ刑ヲ量定セス又ハ其量減刑ヲ
爲ササリシヨリシテ其ノ刑ノ量定甚シク不當ナリト思料スヘキ顯著
ナル事由アリト認ムルコトヲ得ス論旨ハ理由ナキモノトス
被告入松本良勝辯護人林逸郎辯護人上告趣意書第三點共同辯護人
ノ上告趣意ハ之ヲ援用スト云フニ在リ

然レトモ其ノ各證據ヲ觀レモ理由ナキコトハ夫々當該説明ニ依リテ明
白ナルヲ以テ宜シク該説明ニ依リテ之ヲ認解スヘキナリ
右ノ理由ナルヲ以テ刑訴訴訟法第四百十六條二則リ主文ノ如ク判
決ス
檢察官頭文及吉田正武傳與
昭和八年十一月六日

大審院第一刑事部 裁判長判事 泉 高二 新 熊
判事 日 高 要 次 郎
判事 三 宅 正 太郎
判事 植 月 愛 明
判事 堀 田 年 明
右藤本也
昭和八年 月 日 大審院第一刑事部 裁判所書記

三、血盟團事件豫審終結決定書

豫審終結決定

本籍 東京都本郷區駒込西片町二十二番地
住居 不定
無職、日召事
井上 昭
當四十八年

本籍 茨城縣水戸市大字上市橋町十四番地
住居 不定
無職、古内、樂司
當三十三年

本籍 鹿兒島縣鹿兒島市南林寺町二十二番地
住居 元東京府豊多摩郡代々木町代々木上原
千八百八十六番地
權藤善太郎方
東京帝國大學法學部
學生、四、元、龍、龍
當二十六年

本籍 宮崎縣都城市姫城町三千八百九十番地
住居 元東京府豊多摩郡代々木町代々木上原

千八百八十六番地
權藤善太郎方
無職、池袋、正、銅、那
當二十九年

本籍 鹿兒島縣日置郡伊集院町下谷ワ
千八百三十五番地
住居 東京市本郷區駒込込分所六十番地
同巢會方
東京帝國大學文學部
學生、久、木、田、祐、弘
當二十四年

本籍 福島縣唐土郡渡利村大字渡利字永畑二番地
住居 元東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷
五百二十六番地
深澤長太郎方
國學院大學神學部
學生、須、田、本、那
當二十六年

本籍 鳥取縣鳥取市西町三百三番地一
住居 東京市本郷區本郷四丁目二十一番地
岩崎彌太郎方
東京帝國大學法學部
學生、田、中、邦、雄
當二十五年

本籍 福井縣大飯郡加斗村長井二十二號四番地
住居 東京市本郷區駒込上宮土前町十九番地
福田金一方
東京帝國大學文學部
學生、田、倉、利、之
當二十六年

本籍 兵庫縣津名郡假屋町久留屋二千二百
八十五番地
住居 京都市左京區田中門前町四十三番地
勝榮館方
京都帝國大學法學部
學生、森、重、二
當二十三年

本籍 熊本縣熊本郡田村大字庄三三十九番地
住居 京都市左京區田中門前町四十三番地
勝榮館方
京都帝國大學法學部
學生、星、子、健
當二十六年

本籍 茨城縣那珂郡平磯町四千五百三十五番地
住居 不定
無職、小、沼、正
當二十三年

本籍 茨城縣那珂郡前渡村大字前濱千九百
八十二番地一
住居 不定
無職、沼、五、郎
當二十二年

本籍 茨城縣那珂郡前渡村大字前濱六百
六十三番地
住居 不定
無職、黒、澤、大、二
當二十四年

本籍 東京市淺草區田島町二十番地
住居 元東京府北豊島郡板橋町元瀬野川
二千四百二十一番地
建築設計監督
彰道事、伊、福
當四十六年

右等ニ對スル殺人被告事件ニ付豫審ヲ送ケ終結決定スル事左ノ如
シ

主、文
被告人井上昭、同古内榮司、同四元義隆、同池袋正銅、同久木田祐
弘、同須田太郎、同田中邦雄、同田倉利之、同森重二、同星子健、同小沼
正、同深澤五郎、同黒澤大二對スル殺人及被告人伊藤廣ニ對スル
補助被告事件ヲ夫々東京地方裁判所ノ公判ニ付ス

國家主義系不穩事件論告並判決録

理由

被告入井上昭ハ、明治四十三年八月東京協賛專門學校第二學年ヲ中途退學シタル後、滿洲ニ渡リ、南滿洲鐵道株式會社社員タル傍ラ、陸軍參謀本部ノ謀報勤務ニ従事シ、大正二年北京ニ到リ、大總統袁世凱ノ軍事顧問ニシテ陸軍砲兵大佐タリシ坂西利八郎ノ許ニ同様謀報勤務ニ従ヒ、大正三年三月所謂第三革命即チ山東革命勃發スルヤ、予司令ノ最高顧問ナリシカ、同年九月頃一應歸國シ、同年十一月頃更ニ北京ニ渡リ、段祺瑞ノ遠防軍御用商人タル傍ラ、陸軍ノ謀報勤務ニ従事シ、大正六年八月頃遠防軍ノ敗ルルニ及ヒ、歸國シ、翌大正七年暮復又天津ニ赴キ、貿易商ヲ營ミ、ツツ更ニ陸軍ノ謀報勤務ニ従事シ、大正十年末頃歸國シ、タリ、然ルニ其後深ク我國情ヲ憂ヘ、國家主義運動ヲ起サン、亦有志シ、日連ノ教義法義ヲ研究シ、ヨリ思想ノ涵養ニ努メ、昭和三年春頃ヨリ、茨城縣那珂郡那珂町ノ通稱トシ、山ノ龍リテ、啓蒙運動ヲ始メ、翌四年末頃ヨリハ、同縣同郡磯濱町大洗東光堂ニ建立サレタル立正護國堂ニ入り、青年ヲ集メ、國家主義ノ要ヲ説キテ同志ノ獲得ニ力メ、一方其頃益々浦海軍飛行隊學生ニシテ海軍部内ノ中心トナリ、國家改造運動ヲ爲シ、ツツアリシ海軍中尉藤井齊ヲ組織リ、爾來海軍部内ニ於ケル同志トモ相提携スルニ至リ、タルカ、昭和五年十一月頃右護國堂ヲ去リ、東京シテ、同同志ノ獲得及國家主義ノ目的實現ニ努力シ居リタルモノ。

被告入古内榮司ハ、

大正十二年三月茨城縣立師範學校卒業後、同縣下石下尋常高等小學校、精誠尋常高等小學校等ニ調任トシテ奉職シ居タルモ、神經衰弱症ノ爲メ一時退職シ、昭和三年十月同縣那珂郡前渡村前濱尋常小學校調任ニ復職シ、昭和六年三月同縣入里村尋常高等小學校ニ轉動シ、同年十月五日職ヲ離シタルカ、夙ニ日連ヲ信仰シ、右前濱小學校ニ在勤中立正護國堂ニ出入シテ、被告入井上昭ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入四元義隆及被告入池發正、同縣那珂郡ハ、

共ニ第七高等學校造士館ヲ經テ、昭和三年四月以來、東京帝國大學ニ在學シ居タルカ、高等學校在學中、日本主義ヲ標榜スル七高敬天會ヲ組織シ、大學入學後ハ、同會内ニ存在シ、同一主義ヲ奉スル七生社同會タリ、昭和五年末頃ヨリ、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入久木山祐弘ハ、

右同様第七高等學校造士館ヲ經テ、昭和六年四月以來、東京帝國大學文學部ニ在學シ、高等學校在學中、七高敬天會ニ入り、大學ニ入ルニ及ヒ、七生社同人トナリ、昭和六年六月頃ヨリ、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入須田太郎ハ、

昭和五年四月以來、國學院大學商學部ニ在學シ、昭和六年十月頃、東都各大學專門學校學生ニヨリ、日本主義學生聯盟ヲ組織セラルルヤ、其ノ同人トナリ、同年十二月末頃ヨリ、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ

四〇

共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入田中邦雄ハ、

松江高等學校ヲ經テ、昭和五年四月以來、東京帝國大學法學部ニ在學シ、七生社同人タリ、昭和六年九月頃ヨリ、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入田倉利之ハ、

第七高等學校造士館ヲ經テ、昭和六年三月以來、東京帝國大學文學部史學科ニ在學シ、高等學校在學中、右七校敬天會ニ入り、大學ニ入ルヤ、同會内ニ存在シ、皇室中心主義ヲ標榜セル團體與會同人タリ、昭和六年九月ヨリ、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入森憲二ハ、

第六高等學校ヲ經テ、昭和六年四月以來、東京帝國大學法學部ニ在學シ、右協興學會同人タリ、昭和七年一月、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入皇子毅ハ、

第五高等學校ヲ經テ、昭和五年三月以來、東京帝國大學法學部ニ在學シ、右協興學會同人タリ、昭和六年末頃、被告入井上昭ニ接シ、其ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

被告入小沼正ハ、

茨城縣那珂郡前濱尋常高等小學校卒業後、十六才ノ時、大工ノ徒第トナリ、爾來昭和五年一月ニ至ル迄、同縣下或ハ東京市内各所ニ於テ、店員トシテ他ニ雇ハレ、昭和五年初メヨリ、歸郷シ、被告入榮沼五

國家主義系不穩事件論告並判決録

四一

郎ハ、昭和四年十月岩倉鐵道學校業務科卒業後、就職ノ途無クシテ之又郷里ニ在リ、被告入田中邦雄、大正二、茨城縣那珂郡前濱尋常高等小學校卒業後、家事ノ手傳ヲ爲シ居リ、昭和五年中、右護國堂ニ出入シテ、被告入井上昭ノ思想ニ共鳴シ、其ノ同志トナリタルモノ。

ナルカ、以上ノ被告入ハ、斯クシテ、階級相結合スルト共ニ、海軍部内同志ヲモ加ヘテ、被告入井上昭ヲ組織シ、下ニ一團ヲ形成シ、我國現下ノ狀態ヲ目シテ、政治經濟其他ノ諸問題ハ、何レモ多クノ缺點ヲ有シ、政黨問題ニ特權階級ハ、相結合シテ、私利私慾ノミニ没頭シ、國政ヲ紊リ、國家存立ノ大義ヲ限り居ルモノトナシ、之カ革正ヲ圖リ、眞ニ君民共治ノ實現ヲ期スル爲メニ、非常手段ニ依リ、政黨財閥並ニ特權階級等、舊勢力打倒セント企圖シ、テ、其ノ機會ノ到來ヲ待テ、ツツアリシモ、非國家改造ヲ口ニスルモノアルモ、徒ニ政權獲得等ノ野心ヲ抱ク不純分子多クシテ、容易ニ立タス加フルニ、從來運籌ノアリタル西田稅及陸軍部内同志ノ態度ニ、嫌ラサルモノアリ、遂ニ昭和七年一月九日夜、被告入中井上昭、古内榮司、四元義隆、池發正、須田太郎、田中邦雄、同縣那珂郡古賀清志、同中村義雄、海軍少尉伊東龜城、同大庭泰雄等ト共ニ、當時東京府廳多摩郡代々木區代々木上原千八百八十六番地、權藤泰太郎方ノ一室ニ會シ、之カ實行方法ヲ討論シタル上、參加人員ノ少數ナルト武器ノ十分ナラサル事情等ニ鑑ミ、右被告入井上昭ノ統制下ニアル同志即チ井上昭、古内榮司及海軍部内同志ノミヲ以テ、二月十一日、紀元節前後ヲ期シ、政黨財閥並ニ特權階級ノ互頭暗殺ヲ決行シ、革正運動ノ烽火ヲ揚ケ、以テ國家改造運動促進ノ氣運ヲ醸成セシムヘキト武器ハ、拳銃ヲ使用スヘ

キコト被告入四元義隆ヲシテ地方在住ノ海軍部内同志ニ之ヲ傳達
ヲナシシムル事等ヲ決行シ其後義隆ノ準備日標人物ノ偵察ヲ爲ス
等々其準備ヲ進メタルカ被告入四元義隆ハ同月十一日頃出立
右傳達ニ赴キタル儀歸來セシ且海軍部内同志中上海事變ノキヲ出
征スル者續出シタルヨリ右計劃ノ一部ヲ變更スルノ止ムナキニ至
リ同月三十一日被告入井上昭同古内榮司同渡邊正氣等 同中村義
雄海軍少尉大庭春雄ト共ニ右權藤善太郎方附近ニシテ其頃被告
人井上昭等ノ起居シキタル家屋内ニ集會議シ海軍部内同志ヲ分
離シ一先ヲ井上一派ノ民間同志ノミヲ以テ暗殺ヲ決行シ海軍部ハ
其後ヲ承ケテ他日職起スルコト被告入井上昭ハ計畫實行ノ指圖
制ニアタリ他ノ同志ニ於テ暗殺實行ヲ擔任スル事 暗殺ハ機會ヲ
見テ一人カ一人ヲ殺ス方法ヲ探ル事 直ニ行動ヲ開始スル事被告
人井上昭ノ活動不能トナリタル時ハ各員隨復ノ處置ヲ執ル事等ヲ
決定シタル上暗殺ノ日標人物トシテ政友會ノ大森毅 床次竹二郎
及鈴木喜三郎 民政黨右翼派大庭春雄 非上準之助及幣原喜重郎 財閥
三井系池田成彬及岡塚辰三 三菱系木村久 海軍少將 特權階級西園寺公
望 牧野伸顯 伊藤巳代治及徳川家達等ヲ選定シテ被告入井上昭
ヨリ同志間ニ於テモ各擔任人物ニ付諸リ合ハサルコト 日標人物
ニ付テハ精密ナル探察ヲ行ヒ然ル上井上昭ヨリ義隆ト交付ヲ受ケ
ヘキコト等周到ナル注意ヲ與ヘタル後右同席ノ起居タル民間ノ同志
ヲ順次一人別別室ニ招致シテ其ノ擔當スヘキ日標人物ヲ決定シタ
リ而シテ被告入四元義隆ハ同日右協謀ノ終了後歸京シタルヨリ翌

二月一日被告入井上昭ヨリ右協謀ノ經過ヲ告知シ且ツ其ノ擔當ヲ定
メ當時東京ニ在リタルモ右協謀ニ與ラザリシ被告入小沼正 菱沼
五郎 同黒澤大ニ及當時京都ニ在リタル被告入田倉利之 同森憲ニ
同星子毅ニ付テハ被告入古内榮司 同久木山新次等ヲシテ通知シ
被告入井上昭ニ會見セシメ夫等各被告入ニ對シ同月六日頃迄
ノ間ニ於テ右被告入井上昭ヨリ夫々右協謀ノ經過ヲ告知シ且ツ其
ノ擔當ヲ定メタリ。斯クシテ右被告入等ハ直ニ暗殺決行ノ準備ヲ
開始シ同月九日被告入小沼正ニ於テ井上準之助ヲ同年三月五日被
告入菱沼五郎ニ於テ岡塚辰三ヲ殺シタルカ計畫發露シ同月二十一日
頃迄ニ孰モ檢擧セラレ右計劃ノ全目的ヲ達ルルヲ得ザリシナリ
而シテ其ノ間ニ於テ

十一日迄同席ニ隠レ同志ノ指圖制ヲ爲シ

(一) 池田成彬暗殺ヲ擔當シ同年二月四日ヨリ同月十二日迄池田
邸附近ナル東京市麻布區飯倉片町十七番地中島幸太郎方ニ止
宿シ其間數次同區永坂町一番地ナル池田成彬邸神奈川縣大磯
町ナル同人ノ別邸及ヒ同人ノ勤先ナル同市日本橋區横河町一
番地三井銀行附近ヲ徘徊シテ其ノ動靜ヲ探察シタルモ遂ニ暗
殺決行ノ機會ヲ得ラザルヲ得ス

(三) 其ノ後被告入菱沼五郎ニ於テ鈴木喜三郎暗殺ニ失敗スルヤ

(1) 二月二十四日頃右濱濱治方ニ於テ被告入四元義隆ト協謀
シ被告入菱沼五郎ヲシテ岡塚辰三ヲ暗殺セシムヘキ事ヲ決定シ
被告入四元義隆ヲシテ菱沼五郎ニ之ヲ傳ヘシメ
(2) 同月二十六日頃ヨリ當時東京府豊多摩郡大久保町西大久保
三百四十三番地陸軍中尉大森榮一方ニ潛伏シ、同月二十七日
頃前記大磯町ニ赴キ池田成彬邸附近ヲ徘徊シテ池田ノ動靜
ヲ探察シ

シメソコトヲ決定シ被告入須田太郎ヲシテ夫々之ヲ傳達セシメ尚同月十八日當時東京府豊多摩郡澁谷町省線澁谷駅附近某喫茶店ニ於テ被告入菱沼五郎ニ對シ暗殺實行ノ用ニ供スル爲メフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈六發ヲ交付シ

(4) 前記(3)ノ(3)掲記ノ如ク同月二十四日頃被告入吉内榮司ト協議シ被告入菱沼五郎ヲシテ同月二十四日頃澁谷駅附近某喫茶店ニ於テ被告入菱沼五郎ニ對シ之カ實行ノ用ニ供スル爲メフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈十六發ヲ交付シ

(四) 被告入池袋正氣郎ハ

(1) 西園寺公望暗殺ヲ豫定シ同年二月三日被告入井上昭ヨリフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈二十五發入一箱ヲ受取り之ヲ携帶シテ同日同縣與津町ニ至リ同月二十七日迄同町清見寺ニ滞在シ其間同町内ニ在ル西園寺ノ別邸ニ至リ該別邸近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ窺ヒ

(2) 同年三月五日西園寺公望ノ入京スルヤ新橋驛ニ至リ該處ノ狀況ヲ觀察シタル上退京ノ時之ヲ暗殺セント決意シ其ノ機會ノ到來ヲ待テツツアリシカ同月十三日檢査セラレテ其ノ目的ヲ達セス

被告入久木田新次ハ

(1) 幣原喜重郎暗殺ヲ豫定シ同年二月三日、四日頃東京市本郷區上宮土前町二十三番地ナル幣原邸附近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ探知シ

(2) 同月四日頃ヨリ同月十三日迄迄ノ間被告入井上昭ノ命ニヨリ同志間ノ連絡ノ任ニ當リタル外榮統ノ授受ノ仲介等ヲナシ

(六) 被告入須田太郎ハ

(1) 徳川家達暗殺ヲ豫定シ同年二月四日頃ヨリ徳川邸附近ナル當時東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷五百二十六番地澤澤長太郎方ニ止留シ二月十一日ノ紀元節ニ際シ徳川家達ノ參内ノ途ヲヨウシ之ヲ暗殺セント決意シ居タルモ榮統ヲ入手シ得スニテ其ノ機會ヲ失フ

(2) 同年二月十七日頃前記ノ如ク被告入吉内榮司、同四元義隆ノ命ヲ受ケ前記被告入伊藤廣方ニ赴キ被告入菱沼五郎ニ對シ鈴木喜三郎ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ傳達シ

(3) 同月十八日頃前記ノ如ク被告入吉内榮司、同四元義隆ノ命ヲ受ケ前記被告入ニ赴キ被告入田合利之、同森憲ニ同星子毅ノ三名ニ對シ關西遊説中ナル若槻禮次郎ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ傳達シ之カ實行ノ用ニ供スル爲メ同人等ニフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈十二發ヲ交付シ

被告入田中邦雄ハ

(1) 若槻禮次郎暗殺ヲ豫定シ同人カ宇都宮市方面ニ遊説ニ赴クコトヲ探知シ之ヲ演説會場ニ據シテ暗殺セント企テ之カ實行

ノ川ニ供スル爲メ同年二月八日頃被告入井上昭ヨリフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈二十五發入一箱ヲ受取り同月十日東京武蔵野線加藤附近ニ於テ之カ試射ヲ行ヒタル所右若槻カ同月九日被告入小沼正ニ暗殺セラレタル井上準之助ノ遺儀委員長シテ選ハレタルコトヲ知り其ノ告別式當日ヲ期シ暗殺ヲ決行セント決意シ一先右榮統及實彈ヲ被告入久木田新次ニアツク同月十二日當時同志ノ連絡係トナリ右榮統ヲ保管シ居タル前記預備治ヨリ再ヒ之カ交付ヲ受ケ翌十三日之ヲ携帶シテ右告別式場タル東京市赤坂區青山三丁目青山會場附近ニ赴キタルモ榮統被奪ニシテ機會ヲ失フ遂ニ若槻禮次郎暗殺ヲ斷念シ

(2) 同年二月二十日頃前記天行會道場二階ニ於テ被告入井上昭同吉内榮司ト協議シタル結果床次竹一、一挺ヲ暗殺セント決意シ其後友人ナル同市本郷區根津區築町十八番地田村清長方止宿關根三子雄ヲシテ床次竹一、一挺ヲ暗殺ヲ以テ前會ヲ申込マンメ只管暗殺實行ノ機會ヲ得ントシツツアリシモ遂ニ其機會ヲ得ス同年三月十五日檢査セラレ

(八) 被告入田合利ハ

同月六日頃被告入井上昭ヨリ命セラレ被告入四元義隆ト共ニ牧野伸顯ノ暗殺ヲ豫定シ同年二月十日頃被告入四元義隆ヨリフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈二十五發入一箱ヲ受領シ爾來牧野伸顯ノ居住スル大田區附近ナル前記原田タツ方ニ止宿シ當ニ右官邸附近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ探知シ居タルカ同月

十二日前記ノ如ク被告入四元義隆ヨリ待機ヲ命セラレ一先京都ニ立歸リ

(九) 被告入森憲ハ

同月六日頃被告入井上昭ト協議シ大森毅暗殺ヲ豫定シ爾來同市御所區水田町首領官邸同區内山下町政友會本部及同市四谷區信濃町ナル大森邸宅附近ヲ徘徊シテ大森ノ動靜ヲ探知シツツアリシカ同月十二日前記ノ如ク被告入四元義隆ヨリ待機ヲ命セラレ一先京都ニ立歸リ

被告入星子毅ハ

(十) 被告入井上昭ト協議シ上大森毅、鈴木喜三郎、床次竹一、若槻禮次郎、井上準之助、幣原喜重郎等ノ中關西遊説ニ赴キタル者ヲ暗殺スヘキ旨ヲ訓達スル事トナシ翌日直ニ京都市ニ立歸リ豫テ知合ナル京都帝國大學學生住川逸郎、同大學武術道場專務巡視矢野田屋造ニ付榮統ヲ訓達セントシタルモ入手シ得ス且ツ同月八日頃京都市公會堂ニ於ケル演説會場ニ至リ若槻禮次郎ノ動靜ヲ探知シ

(十一) 被告入田合利之、同森憲ニ同星子毅ハ同年二月十八日頃前記勝榮館ニ於テ被告入須田太郎ヨリ關西遊説中ノ若槻禮次郎ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ受ケ之カ實行ノ用ニ供スル爲メ須田ヨリフロニンダニ對シ小型三號銃一挺及實彈十二發ヲ受取りタル上三名協力シテ若槻ヲ暗殺セントフロニンダニ對シ被告入森憲ニ於テ右榮統實彈ヲ携帶シ直ニ鳥取縣松江市ニ急行シ同市ニ遊説中ノ若槻ヲ暗殺セントシ其ノ機會ヲ窺ヒ居タルモ榮統被奪ニシ

テ遂ニ決行スルヲ得シテ歸洛シ次テ若槻カ同月二十一日朝京都ニ入り同夜出發セントスルヤ被告人田倉利之ハ裝填シタル右拳銃ヲ被告人森田ハ短刀一振ヲ各携帯シテ京都驛ニ赴キ若槻暗殺ヲ決行セントシタルモ之ヲ其機會ヲ失シタルニヨリ被告人田倉ニ於テ同月二十六日頃上京シ爾來若槻邸附近ナル東京市木郷區駒込上宿土前町十九番地福田金一方ニ止宿シ當ニ同區同町百二十九番地ナル若槻邸附近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ窺ヒ居タルモ遂ニ暗殺ノ機會ヲ得ス

(三) 被告人小沼正ハ

同年二月二日被告人井上昭ヨリ井上準之助ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ受ケ爾來用テナル探索ヲ遂ケタル上同月六日朝被告人井上昭ヨリフローンシテ小型三號拳銃一挺及實彈二十五發ヲ受取直ニ茨城縣ニ至リ同縣那珂郡瀧原海濱ニ於テ之ヲ試射ヲシ次テ同月九日正午頃井上準之助カ同夜東京市本郷區迫町百番地駒木小學校ニ於ケル衆議院議員候補者駒井重次ノ選舉演說會ニ出席スルコトヲ知ルヤ同夜七時頃ヨリ右小學校ニ至リ井上準之助ノ來ルヲ待テ受ケ井上準之助カ午後八時頃同校通門前ニ於テ自動車ヨリ下車シ同通門ヲ五六歩入リタル際同ノ背後ニ迫リ所獲ノ右拳銃ヲ其ノ背後ニ押當テ三發射擊シ爲メニ彈丸ハ同ノ胸腹部ニ命中シ遂ニ同人ヲシテ同日午後八時十分頃東京帝國大學醫學部附屬醫院ニ於テ胸腹部重要内臟器ノ損傷ニヨリ死亡セシメテ暗殺ノ目的ヲ遂ケ

(四) 被告人伊藤廣ハ

動車ヨリ下車シ同銀行表裏關ノ石段ヲ上リタル際同ノ右側ヨリ右拳銃ヲ胸ノ右胸部ニ突ケテ射擊シタル爲メ彈丸ハ同ノ右胸部ニ命中シ因テ同ノシテ間モ同銀行内ニ於テ失血死亡セシヲ以テ暗殺ノ目的ヲ遂ケ

(五) 被告人黒澤大ニハ

同年二月六日頃被告人井上昭ヨリ國孫啓ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ受ケタルモ未ダソノ準備ニ着手セサルニ小沼正カ井上準之助ヲ暗殺シ身邊危險ニ瀕シタルヲ以テ同月十日ヨリ當時北豐島郡瀧野川町字馬場五百十二番地國井善彌方ニ同月二十二日頃ヨリ右大規模方ニ潜伏シ其間雜誌「キング」二月號ニヨリ國カ右三井銀行ニ勤務シ居ルコト及其ノ容貌ヲ知り尙右三井銀行附近ヲ徘徊シテ國ノ動靜ヲ探察シ居タルカ偶々同年三月一日頃被告人伊藤ニ於テ暗殺ヲ擔當シ居ルコトヲ知りテ自己ノ擔當變更シタルモノト思惟シ別ニ指令ノ來ルヲ待テツツアリシ所前記ノ如ク同月五日被告人伊藤五郎カ國暗殺シタルヨリ再ヒ身邊ノ危險ヲ感シ直ニ同日右伊藤廣方ニ居テ移シ同月八日迄同所ニ隠レ其後同所ヲ出テ諸所ヲ轉々シ

(六) 被告人伊藤廣ハ

築地工手學校ヲ卒業シ建築設計業ヲ營ミ傍ラ東京市小石川區鷺籠町今泉定助方ヲ本部トスル教化團體日本皇政會事務部長タリシ所被告人井上昭、同古内榮司等カ右ノ如ク國家主義ノ爲メ政界財界特權階級ノ巨頭暗殺ヲ企圖シ被告人小沼正カ其ノ同志ノ一人トシテ同年二月九日井上準之助ヲ暗殺シ次テ同志カ順次暗

(1) 同年二月四日頃被告人井上昭ヨリ伊藤巳代治ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ受ケタルモ同月九日小沼正カ井上準之助ヲ暗殺シタルヨリ身邊ノ危險ニ未ダソノ探索ニ着手スルヲ得ス同月十二日ヨリ前記伊藤廣方ニ潜伏シ居タルカ同月十七日ニ至リ同所ニ於テ前記ノ如ク被告人須田太郎ヨリ鈴木喜三郎ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ傳ヘラレテ之ヲ承諾シ同日神奈川縣川崎市ニ至リ鈴木ノ推薦演說會ノ日程ヲ調査シ翌十八日當時東京府豊多摩郡澁谷町省縣邊茶屋附近某喫茶店ニ於テ被告人伊藤廣ヨリ演說會ヲ行フニ小沼正カ實彈六發ヲ受取リ之ヲ携帯シテ直ニ鈴木ノ推薦演說會場ナル川崎市宮前小學校ニ到リ鈴木ノ來タルヲ待テ受ケ居タルモ同ノ人カ出演セサルヲ知リ右暗殺ヲ斷念シ翌十九日ヨリ被告人伊藤廣ノ暗殺ニヨリ更ニ當時東京府北豐島郡東町宮下千六百八十二番地大規模方ニ移テ潜伏シ

(2) 同月二十七日頃前記皇政會ニ於テ被告人伊藤廣ヨリ國孫啓ヲ暗殺スヘキ旨ノ指令ヲ受ケ之ヲ承諾シ爾來東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町原宿三百四十四番地ナル國邸及同ノ出入スル東京市日本橋區淺草橋町三井銀行附近ヲ徘徊シ同ノ動靜ヲ探察シタル上同年三月三日當時東京府北豐島郡東町市電大塚終點附近某喫茶店ニ於テ被告人伊藤廣ヨリフローンシテ小型三號拳銃一挺及實彈十六發ヲ受取リ翌四日千葉縣船橋海岸ニ至リ該拳銃ヲ試射シ同月五日午前十時頃右三井銀行附近ニ到リ國ノ來ルヲ待テ受ケ午前十一時二十五分頃國カ自

殺ヲ實行スルモノナルコト及同志タル被告人伊藤五郎、同黒澤大ニカ小沼正ノ共犯ノ嫌疑アリシテ官憲ヨリ追ハレ之カ逮捕セラル、ニ於テハ右兩名ハ勿論其ノ他ノ同志ノ企圖セル計劃カ推折スルノ虞アルコトヲ知り乍ラ被告人井上昭、同古内榮司等ノ懇請ヲ容レ

(1) 同年二月十二日ヨリ同月十九日迄前記自宅ニ被告人伊藤五郎ヲ秘カニ止宿セシメ次テ前記大規模ニ依頼シ同月十九日ヨリ伊藤五郎ノ同方ニ止宿セシメ尙同年三月五日右被告人黒澤大ニカ被告人方ニ通レ來ルヤ同月八日迄之ヲ自宅ニ滞留セシメ

(2) 同年二月十四日頃同年初旬迄ノ間數回ニ亘リ前記天行會道場ナル被告人井上昭及前記濱野治方ナル被告人古内榮司ト被告人伊藤五郎、同黒澤大ニ等トノ間ニ於ケル連絡ヲ執リ以テ該被告人等ノ計劃實行ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シタルモノナリ

四、血盟團事件論告書(概要)

(木内竹益檢事)

目次

第一章 總論……………四八

第一節 所謂血盟團事件ト其ノ社會的影響……………四八

第二節 檢舉ノ得路並其ノ願末……………四八

第三節 本件事犯ノ原因動機並其ノ目的……………四九

第四節 本件事犯ノ計畫内容並所謂五・二五事件トノ關係……………四九

第二章 事實關係……………五〇

第一節 井上昭ノ本件事犯ニ及ホシタル思想的影響……………五〇

附 北一輝、大川周明、成澤幸權、藤澤孝三郎ノ思想ト本件事犯トノ關係……………五〇

第二節 被告人各個人ノ關係……………五一

第三節 被告人各個人ノ分組シタル行為ト之レニ對スル證據……………五一

第三章 情狀論……………五四

第一節 被告人等ノ觀タル現下ノ國情並其ノ心情……………五四

第二節 本件事犯ト國法……………五四

第四章 法律ノ適用……………五六

第五節 被告人各個人ノ犯情ト求刑……………五七

第一節 被告人各個人ノ犯情……………五七

第二節 求刑……………五八

第一章 總論……………五八

第一節 所謂血盟團事件ト其ノ社會的影響……………五八

附 昭和七年二月九日午後八時頃茨城縣ノ一青年小沼正カ民政黨ノ重鎮元大藏大臣井上準之助ヲ東京市本郷區駒込道分町駒木尋常小學校通門内ニ於テ拳銃ニテ射殺シ、次テ同年三月五日午前十一時二十五分頃小沼ノ同志藤沼五郎カ財界ノ巨頭三井合名會社理事長岡琢磨ヲ同市日本橋區駿河町三井銀行大玄関前ニ於テ同様拳銃ニテ射殺シタリト云フ事件勃發シタリ。之レカ所謂血盟團事件ノ外貌テアリマス。

茲ニ被告人等ノ所謂三月事件並十月事件アリ、次テ本件ノ如ク政界財界ノ重鎮巨頭相次テ暗殺セラル、ト云フカ如キハ、事案極テ重大ニシテ本件事犯勃發當初ニ於テハ其ノ背後ニ如何ナル人物潛ミ、更ニ如何ナル重大計畫有ルヤ豫測ヲ許サス、一般國民ハ極度ニ不安ノ念ヲ抱クニ至ツタノデアリマス。

第二節 檢舉ノ得路並其ノ願末……………五八

本件事案ハ前述ノ如ク其ノ社會ニ及ホシタル影響極テ重大ニシテ之

レカ檢舉亦迅速且徹底ヲ期スル要アリ、事件發生ト同時ニ警察廳ヲ督勵シ極力事件ノ真相糾明ニ努力シタノデアリマス。

小沼正ハ犯行現場ニ於テ直ニ逮捕シ、爾來其ノ背書等ニ付極力捜査ヲ進メタル結果、小沼ノ師事セル井上昭並井上昭カ茨城縣那珂郡磯沼町大宛東光堂ノ立正護國堂ニ於テ、附近ノ青年子弟ヲ集メ國家革新ノ思想ヲ鼓吹シ居リタル事實ヲ探知シ、井上昭ハ勿論同所ニ出入シタル古内繁司、藤沼五郎等ノ取調ヲ爲ス必要生シタルモ、同人等ハ當時既ニ茨城縣ヨリ委ヲ隠シ東京方面ニ潜伏シ居ル形跡アリタルヨリ、極力同人等ノ所在ヲ嚴密探知昭和七年三月五日ニ至リ藤沼五郎カ國庫貯蓄積入額ニ至リタルモノニシテ、藤沼ハ現場ニ於テ直ニ逮捕シ更ニ嚴重取調ノ結果、茲ニ藤沼並井上昭ヲ中心トシテ立正護國堂ニ出入セル一派並井上カ一時假寓シ居リタル成澤幸權藤澤孝三郎方同居又ハ同所ニ出入セル學生ノ一味カ一團トナリ國家革新ノ手段トシテ政黨財閥並特權階級ノ代表者ヲ順次暗殺スル計畫ヲ有スルモノナルコト略々判明シ是等一味ノ逮捕ニ全力ヲ擧ケタルヨリ藤沼ノ犯行當日(三月五日)ニハ先ツ小沼ノ犯行直後ヨリ藤沼等ヲ隠匿シ本件暗殺計畫ヲ援助シタル伊藤廣ヲ逮捕シ續テ黒澤大ニ、四元義隆、池袋正氣、須田大郎、古内繁司ヲ逮捕シ同日十一日ニ至リ井上昭モ亦一味カ順次逮捕セラレ檢舉ノ手、嚴重ナルヲ悟リ當該事局ニ自ら出頭シ更ニ同日二十一日迄ニ田中邦雄、田倉利之、森憲二、星子義久、木田新助ヲ夫々逮捕シ之レニ依テ本件事犯ニ關與セル一味ハ全數檢舉シ得タノデアリマス。

第三節 本件事犯ノ原因動機並其ノ目的……………五九

國家主義系不穩事件論告判決録

被告人等カ當公判廷ニ於テ本件事犯ヲ執行スルニ至リタル原因動機ニ付テ詳々陳述シタル處ヲ約言スレバ被告人等ノ所謂三月事件並十月事件ニ端ヲ發シ、支障階級タル政黨財閥並特權階級ヲ私利私慾ノミニ没頭シテ、國政ヲ紊リ、爲ニ事毎ニ國策ヲ誤リ、於テハ外交ニ失敗シ内ニ於テハ國家存立ノ本ヲ爲ス農村ノ疲弊ヲ殆テ、歐ミズ延テハ國民思想ノ惡化ヲ圖致シ我國ノ現狀ハ今ヤ思想ノ動搖、經濟ノ逼迫、外交ノ不振其ノ極ニ達シ、此ハ儘ニ放置センカ、國家ヲ危殆ニ瀕セシムルニ至ルコト火ヲ附ルヨリモ明カニシテ、之レカ匡救ノ途ヲ講スルニハ因循姑息ナル合法手段ヲ以テシテハ到底其ノ急ニ應スル能ハス唯一途捨石トナリ支障階級タル政黨財閥並特權階級ニ對シ非法手段タル直接行動ニ依リ一舉革新ノ烽火ヲ揚グルノ外ナシト謂フニ在リ。其ノ目的トスル處ハ非常手段タル直接行動ヲ執行スルコトニ依リ政黨財閥並特權階級ハ勿論一般國民ノ覺醒ヲ促カシ國家ノ革新ヲ期スルニ在リタノデアリマス。

第四節 本件事犯ノ計畫内容並所謂五・二五事件トノ關係……………五九

被告人等カ前述ノ如キ原因動機ニ基キ國家革新ノ目的遂行ノ爲ニ敢行シタル本件事犯ノ計畫内容並本件事犯ト所謂五・二五事件トノ關係ニ付テ一應簡單ニ申述ヘテ見タイト思ヒマス。

本件事犯ハ被告人等ノ所謂十月事件ノ後ヲ承ケ井上昭カ盟主トナリ、同志タル古内繁司、四元義隆、池袋正氣、久木田新助等カ之レヲ援ケ海軍側同志海軍中尉古賀清志等ト呼應シ東京市荒谷區代々木上原町一、一八六番地(舊東京府葛飾郡代々木上原一、一八六番地)

一八六番地) 所在當時ノ成郷軍權藤澤太郎附近ニシテ同人ノ管理シ居タル通稱空家ヲ根據トシ毎ニ會合謀議ヲ謀ラシ昭和七年一月九日井上昭一昧ノ民間同志並海軍側同志ノミカ一團ナリ同年二月十一日起元節ヲ期シ一舉政界財界並特權階級ノ巨頭暗殺ヲ決行シ國家革新ノ烽火ヲ揚ケンコトヲ決議シ之レカ準備ニ着手シタルカ、間モ無ク上海事變ノ爲海軍側同志タル藤井齊、三上京、村山格之等出征スル者續出シタルヨリ右計畫ヲ變更シ同年一月三十一日ニ至リ井上一昧民間同志ト古賀中尉等海軍側同志トハ分離シテ行動スルコトシ先ツ、井上一昧民間同志ノミテ一人一教主義ノ下ニ政界財界並特權階級ノ巨頭暗殺ヲ決行シ、次テ第二陣トシテ古賀等海軍側同志カ中心トナリ陸軍側同志ト提携シテ一舉集團的直捷行動ニ依リ國家革新ノ前衛隊トシテノ活動ヲ爲スコトニ決定シ暗殺目標人物トシテ政界ニ於テハ大藏省、床次竹二郎、鈴木三郎、若槻禮次郎、井上準之助、幣原喜重郎、特權階級ニ於テハ西園寺公望、牧野伸顯、伊東巳代治、德川家茂、財界ニ於テハ團琢磨、池田成彬、木村久、壽彌太郎ヲ選定シ夫々暗殺目標人物ノ適當ヲ定メ、其ノ武器ハ同志海軍少佐藤井齊(當時海軍大尉)カ昭和六年七月二十九日大連ニテ入手シタル「ブローニング」小型三國拳銃ハ艇海軍少尉伊東龜城カ同年四月九日同所ニテ入手シタル同型拳銃一挺並四元義隆カ同年十月以來海軍大尉鈴木四郎外一名ヨリ預リ居リタル拳銃三挺ヲ使用スルコト、シ其ノ翌日昭和七年二月一日ヨリ直ニ各部署ニ就キ同年二月九日先ツ同志小沼正力第一陣ヲ放チテ井上昭一昧ヲ暗殺シ同年三月五日ニ同志志沼五郎カ第二陣ヲ放チテ團琢磨ヲ暗殺シタルカ、盟主井上昭

ヲ始メ本件事犯ニ直接關係セル民間同志全部檢査セラレタルヨリ、古賀等海軍側同志ハ井上昭カ當檢事局ニ出頭シタル直後即同年三月十三日ヨリ第二陣トシテノ豫定ノ計畫ヲ進ムルコト、ナリ同年五月十五日ヲ期シテ一齊ニ首領官邸等ヲ襲撃シ、大藏省相等を暗殺シ所謂五一五事件ヲ惹起セシメタルヲテアリマス。

第二章 事實關係

第一節 井上昭ノ本件事犯ニ及ホシタル思想的影響
本件事犯ヲ檢討スルニ當リテハ先ツ盟主井上昭ノ本件事犯ニ及ホシタル思想的影響ヲ考察スル必要アリト信シマス。
井上昭ハ豫テヨリ大慈心即暗殺ナリトノ信念ノ下ニ國家革新ニハ先ツ非常手段ニ依リ現状ヲ打破スルコトヲ以テ第一義トシ、破壞階級當者カ自己ノ手ニ於テ同時ニ之レカ建設モ考フルコトハ卑劣ノ國家革新運動ノ精神的墮落ナリトノ思想ヲ抱キ、自ラ暴力の革新ノ階級當者ヲ以テ任シ居リ、古内榮司等英城組並、四元義隆等學生組、古賀清志等海軍側同志モ亦從來夫々國家ノ現状ニ對スル不滿ト憤懣ヨリ國家革新ノ志ヲ抱キ居リタルヨリ井上ノ此ノ破壞思想ニ共鳴シ國家革新運動ノ同志トナリタルモノニシテ本件事犯ガ井上ヲ盟主トシ同人ノ指揮統制ノ下ニ各自槍石トナリ決行セラレタル事實ヨリ觀ルモ井上ノ本件事犯ノ上ニ與ヘタル思想的影響ノ如何ニ甚大且深刻ナリシヤハ推測ニ難カラサル處テアリマス。
次ニ此際一言附加シタキコトハ、大川周明、北一輝、成郷軍權藤澤太郎、橋本三郎ノ思想カ本件事犯ニ影響アリシヤ否ヤノ點テアリマス。

(一) 大川周明ニ付テハ

被告人等ハ大川トハ交際ナク從テ同人ヨリ直接指導乃至思想的感化ヲ受ケタル事實ナキモ、本件事犯カ被告人等ノ所謂三月事件並十月事件ニ刺戟セラレ、之レカ後ヲ承ケテ計畫決行セラレタルモノナルコト明カニシテ大川カ概近勃興シテ力非非常手段ニ依リ國家革新ノ氣運ヲ助成シタルニ與シテ力アリタルニ人タル而巳ナラス、前述ノ所謂三月事件並十月事件ニ際シテハ、樞要ナル地位ヲ占メ居リタル關係上、大川モ亦本件事犯ニ思想的影響ヲ與ヘタルモノト謂フヘキテアリマス。

(二) 北一輝ニ付テハ

同人ハ本件事犯ニハ直接關係ナキモ同人ノ著書「日本改造法案大綱」ハ被告人等モ亦之レヲ耽讀シ同著書ニ記載セラレ居ル國家改造手段トシテノ直接行動ハ之レヲ是認シ居ルモノナルヲ以テ此ノ點ニ於テ此ノ思想モ亦本件事犯ニ影響アリタルコト明カテアリマス。

(三) 成郷軍權藤澤太郎ニ付テハ

同人ハ一君萬民農本自治ヲ主張シ被告人中、四元義隆等學生組カ權應ノ教ヲ受ケタルコトアルカ故ニ、四元等カ權應ノ思想的影響ヲ受ケタルコトアリトスルモ、本件事犯ノ決行ニ付テハ、直接其ノ影響ナカリシモノト認メラル、ノテアリマス。

(四) 橋本三郎ニ付テハ

同人ハ古賀中尉等ノ勸誘ニ依リ配下ノ愛郷塾生ヲ率キテ五一五事件ニ參加シ總電所襲撃ヲ擔當シタルモ、同人ハ特權階級トシテ所謂

國民共同體王道國家ノ建設ヲ主旨シ農本主義ノ下ニ國民ハ相互ニ兄弟愛ヲ以テ相親善シ各自ノ天職使命ヲ果スヘキモノナリトノ思想ヲ抱キ居リテ、元來破壞思想ヲ抱懐シ居リタルモノニ非サルカ故ニ、同人ノ思想ハ本件事犯決行ニ影響ナカリシモノト認メラルルノテアリマス。

第二節 被告人相互ノ關係

本件事犯ハ前述(第一節第四節)ノ如ク井上昭カ中心トナリ立案計畫セラレタルモノニシテ同人ハ昭和三年十二月頃ヨリ昭和五年十一月頃迄茨城縣那珂郡磯原町大洗實業家、立正護國堂ニ起隊シ居タルカ、當時古内榮司、小沼正、志沼五郎、黒澤大二、並所謂五一五事件民間側被告人川崎長光、星澤金吉、團琢磨、堀川秀雄等所謂茨城組ト稱識ルヤ、同人等ニ國家革新ノ思想ヲ鼓吹シ同人等ハ爾來其ノ運動ノ同志トシテ井上ト行動ヲ共ニスルニ至ツタモノテアリマス。
學生組ノ内、四元義隆、池袋正氣、那共ニ第七高等學校進士館ヲ卒業シ昭和三年四月四元ハ東京帝國大學法學部ニ、池袋ハ同大學文學部ニ夫々入學シ居リ、同大學々生ヲ以テ組織セル日本主義團體タル七生社同人トナリ且安岡正應ノ主宰ニ係ル金鷲學院ニ起隊シ居リタルガ、昭和五年十月同學院主催ノ筑波登山旅行ニ際シ井上ヲ識ルニ至ルヤ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。
久木田龍誠ハ昭和六年四月第七高等學校進士館ヨリ東京帝國大學文學部ニ入學シ七生社同人トナリ、同年六月中旬先號四元義隆ノ紹介ニ依リ井上ニ面接シ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。
田中邦雄ハ松江高等學校ヲ經テ昭和五年四月東京帝國大學法學部ニ

入學シ七生社同人トナリ昭和六年九月久木田祐弘ノ紹介ニ依リ井上ト相識リ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。

須田太郎ハ昭和五年四月以來國學院大學神道部ニ在學シ同大學々生ヲ以テ組織セル日本主義研究會ニ加入シ居リテ昭和六年十二月一日ヨリ東京市澁谷區代々木上原ノ權藤成方ニ起臥スルコト、ナリタル關係上、其ノ同所ニ起居シ居リタル井上昭ト相識ルニ至リ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。

京都組ノ田倉利之ハ第七高等學校法政士館ヲ經テ昭和六年四月京都帝國大學文學部ニ入學シ同大學々生ノ組織ニ係ル日本主義團體タル協興學會同人トナリタルモノナルガ、同人カ第七高等學校法政士館在學中同年一月下旬鹿児島市ニ於テ先頭四元義隆ノ紹介ニテ井上ヲ識ルニ至リ同年九月頃以來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。

星子毅ハ第五高等學校ヲ經テ昭和五年四月京都帝國大學法學部ニ入學シ、爾來協興學會同人ト爲リ、田倉利之ト相識ルニ至リ昭和六年十二月中旬田倉ト共ニ上京シ同人ノ紹介ニテ井上昭ト相識リ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。

森憲ニハ第六高等學校ヲ經テ昭和六年四月京都帝國大學法學部ニ入學シ爾來協興學會同人ト爲リ田倉星子ト相識リ、次テ田中邦雄トモ相識ルニ至リ、昭和七年一月中旬上京シタル際田中ノ紹介ニテ井上ト相識リ爾來同人ノ同志トナツタモノテアリマス。

伊藤廣ハ日本主義思想團體タル日本皇政會事務部長ニシテ昭和六年二月頃ヨリ井上昭ト交際ヲ結ブ、爾來同人ヲ深信スルニ至リタルヨリ昭和七年二月九日小沼正カ井上進之助ヲ暗殺直後井上昭ノ

依リニ依リ麥沼五郎、黒澤大二ヲ圍限シ同人等ト井上古内トノ間ノ連絡ヲ執リ、本件計畫遂行ノ援助ヲ爲スニ至ツタモノテアリマス。

第三節 被告人各個人ノ分擔シタル行為ト之レニ對スルニ其ノ概要ノミヲ申述フルニ止メマス。

(一) 先ツ第一ニ井上昭ハ本件犯ノ首魁ニシテ本件計畫ヲ立案シ、之レカ決行ニ當リテハ同志タル他ノ被告人ノ指揮統制ヲ爲シタモノテアリマス。

(二) 古内榮司、四元義隆ハ井上ノ參謀トシテ本件計畫ニ參畫シ且古内ハ池田成彬ノ暗殺ヲ、四元ハ牧野伸顯ノ暗殺ヲ夫々擔當シ之レカ勸誘ヲ探察スルハ勿論、右兩名ハ昭和七年二月十七日頃協興會上麥沼五郎ヲシテ鈴木喜三郎ヲ、田倉利之、森憲、星子毅ノ三名ヲシテ當時關西遊說中ノ若槻禮次郎ヲ夫々暗殺セシムルコトニ決定シ直ニ須田太郎ヲシテ麥沼田倉、森憲、星子ノ四名ニ之レカ指令ヲ傳達セシメ、其ノ後麥沼カ鈴木ノ暗殺ニ失敗ルヤ、更ニ同月二十四日頃協興會上麥沼ヲシテ關西遊說中ノ若槻禮次郎ヲ暗殺セシムルコト、シ麥沼ニ對シ之レカ指令ヲ發シ同人ヲシテ關西遊說中ニシテタモノテアリマス。

(三) 池田正敏、古内、四元ト同様本件計畫ニ參畫スルハ、勿論自ラ西園寺公望ノ暗殺ヲ擔當シ同人ノ別荘タル關西關與研所ノ坐落莊附近等ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ探察シ之レカ決行ノ機會ヲ窺フテ居ツタモノテアリマス。

(四) 久木田祐弘ハ池田と同様本件計畫ニ參畫シ且古内ハ警備員重部ノ暗殺ヲ擔當シ本郷區駒込上富士前町ノ同人邸附近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ窺ヒ、尙同年二月四日頃ヨリ同月十三日頃迄ノ間ニ於テハ井上ノ命ニ依リ同志間連絡ノ任ニ當リ又ハ拳銃授受ノ仲介等ヲ爲シタモノテアリマス。

(五) 須田太郎モ亦本件計畫ニ參畫シ且古内ヲ協同家達ノ暗殺ヲ擔當シ澁谷區千駄ヶ谷ノ同人邸附近ヲ徘徊シ其ノ動靜ヲ窺フ爲スハ勿論、古内、四元ノ命ヲ受ケ同年二月十七日頃麥沼五郎ニ對シ鈴木喜三郎暗殺ノ指令ヲ、其ノ翌日京都ニ赴キ田倉利之、森憲、星子毅ノ三名ニ對シ當時關西遊說中ノ若槻禮次郎暗殺ノ指令ヲ夫々傳達シタモノテアリマス。

(六) 田中邦雄モ亦本件計畫ニ參畫シ且古内ヲ協同家達ノ暗殺ヲ擔當シ、井上進之助ノ告別式當日タル同年二月十三日青山齋場ニ到リ親儀委員長タリシ若槻ノ暗殺ヲ決行セントシタルモ警備員重部ノ爲其ノ機ヲ得ス、次テ床次竹二郎ノ暗殺ヲ擔當シ之レカ決行ノ準備ヲ爲シテ居リタルモノテアリマス。

(七) 田倉利之ハ當初四元ト共ニ牧野伸顯ノ暗殺ヲ擔當シ之レカ勸誘ヲ圖シ居リタルモノ、其ノ後古内、次テ同年二月十八日頃須田太郎ヲ古内、四元等ヨリ當時關西遊說中ノ若槻禮次郎暗殺ノ指令ヲ受ケ森、星子ト共ニ之レカ決行ノ機ヲ窺ヒタルモ警備員重部ノ爲失敗ニ終リタルヨリ單身上京シ本郷區駒込上富士前町ノ若槻禮次郎邸附近ヲ徘徊シ同人暗殺ノ機會ヲ窺フテ居リタルモノテアリマス。

(八) 森憲ニハ當初大森義ヲ暗殺ヲ擔當シ之レカ勸誘ヲ探察シ、次テ前述ノ如ク當時關西遊說中ノ若槻禮次郎暗殺ノ指令ヲ受ケ田倉星子ト共ニ之レカ決行ヲ爲サントシ、先ツ單身拳銃ヲ携ヘテ板倉市ニ急行シ同地遊說中ノ若槻ヲ暗殺セントシタルモ警備員重部ノ爲其ノ機ヲ得シテ墮落シ、同月二十一日田倉ト共ニ京都驛ニ據リシ若槻ヲ暗殺セントシタルモノレ亦警備員重部ノ爲其ノ機會ヲ失ツタモノテアリマス。

(九) 星子毅ハ同月六日頃井上ト協謀シ上大森義、鈴木喜三郎床次竹二郎若槻禮次郎井上進之助警備員重部ノ内關西遊說ニ赴キタルモノヲ暗殺スルコト、ナリ翌日歸洛シ同月八日京都市公會堂ニ開セルセラレタル演說會場ニ到リ若槻ノ動靜ヲ探察シ、且其ノ間拳銃ヲ入手ニ奔走シ、次テ前述ノ如ク更ニ當時關西遊說中ノ若槻禮次郎暗殺ノ指令ヲ受ケ田倉、森ト共ニ之レカ決行ニ當ルコト、ナリ其ノ機ヲ窺フテ居リタルモノテアリマス。

(十) 小沼正ハ井上進之助ノ暗殺ヲ擔當シ同年二月九日午後八時頃本郷區駒込町駒本尋常小學校通門内ニ於テ井上ヲ拳銃ニテ狙撃シ同人ヲ暗殺シタルモノテアリマス。

(十一) 麥沼五郎ハ當初伊東巳代治ノ暗殺ヲ擔當シタルカ間モナク鈴木喜三郎ノ暗殺ヲ擔當スルコト、ナリ同年二月十八日川崎市宮前小學校ニ開セルレタル當時衆議院議員選舉ニ立候補シ居リタル鈴木喜三郎ノ推選演說會場ニ至リ同人ノ來ルヲ待テ居リタルモノ、人カ出席セザリシ爲メ、次テ關西遊說中ノ若槻禮次郎ヲ擔當スルコト、ナリ同年三月五日午前十一時二十五分頃日本橋區磯子町三井銀行

凡ソ事ヲ爲スニハ其ノ目的ノ正シキハ勿論、合法ノ手段ニ依リテ之ヲ行ハシメテ之ヲ達スルコトヲ要スルモノトアリマス。若シ目的ノ爲ニハ手段ヲ選バズトシテ思想ヲ是認シテ國法ヲ無視シテ直接行動ヲ容認スルカ如キ風潮、社會ノ一部ニ瀾漫シ居レリトモハ邦家ノ爲メニ遺憾ノ極ニシテ法律ニ照シテ嚴重ノレカ取締ヲ爲サナケレハナラナイノテアリマス。

第四章 法律ノ適用

本件事犯ハ既ニ説明セルカ如ク井上昭カ兇主トナリ同志他被告人之レカ一説トナリ國家革新ト云フ同一ノ下ニ、本件計畫ヲ立案シ之レヲ敢テシタルモノニシテ被告各人ノ實際シタル行爲ハ夫々個々異リ居ルモノ、之レ全計畫遂行ノ爲便宜上分擔シタルニ過キサレバ以テ本件事犯ハ個別的ニ觀察スヘキモノニ非スシテ多數共同ノ犯罪タルコトハ明瞭テアリマス。

- (一) 井上昭古内榮司、四元義隆池袋正氣地、久木田新、須田大庵、田中邦雄ノ七名ニ付テハ、
- 同人等ハ當初ヨリ本件暗殺計畫ニ參畫シ(須田、田中ハ昭和七年一月九日ノ謀議ニハ缺席)昭和七年一月三十一日ノ最後ノ謀議ニ於テ一人一役主義ノ下ニ本件暗殺計畫ヲ敢行スヘキコトヲ決定シ該計畫遂行ノ便宜上兇主トナリ井上昭ノ指揮統制ノ下ニ行動スルコトナリタルヲ、其ノ目的ハ國家革新ノ爲メ政界財界並ニ特權階級ノ巨頭ヲ暗殺スルニ在リ、從テ被告各人等自身モ亦認メ居ルカ如ク被告各人各例ノ分擔シタル行爲ニ付テ各各自ノ責任ヲ負フヘキハ勿論同

時ニ同志他被告各人ノ行爲殊ニ小沼正ノ井上進之助暗殺、沼五郎ノ國孫暗殺ニ付テモ亦當然其ノ責任ヲ負スヘキモノナルヲ以テ右七名ノ所爲ハ豫審終結決定書記載ノ如ク刑法所定ノ殺人共同正犯ノ法條ヲ適用スヘキモノトアリマス。

- (二) 田舎利之、森田、星野ノ三名ニ付テハ、
- 同人等ハ直接本件計畫ノ立案ニ參畫シ居ラサルモノ、被告各人等ノ所謂三月事件並ニ十月事件ニ刺戟セラレ、且井上昭等ノ國家革新運動ノ實行方法カ暴力ニ依ル破壞行動ニ出テ政界財界並ニ特權階級ノ巨頭暗殺ニ在ルコトヲ了知シ之レニ共鳴シ其ノ同志トナリ、井上昭等ノ實行運動ニ着手スルヤ直ニ參加シ井上ノ指揮統制ノ下ニ活動スルコトナリ、一時京都ニ於テ機會ヲ窺ヒ居リタルモノニシテ、昭和七年一月九日並同月三十一日ノ謀議ニハ直接關與シ居ラサルモノ、同月下旬四元義隆カ四下ノ際同人ヨリ當時ノ情勢並ニ謀議ノ内容ヲ聞知シ同年二月上旬東京、本件計畫ヲ執行ニ參加シ其ノ部
- (三) 小沼正、沼五郎、澤澤大ニ三名ニ付テハ、
- 同人等ハ所謂五月事件ノ被告各人川崎長光等ト共ニ井上昭トハ密接ナル關係ヲ有スル國家革新運動ノ同志ニシテ昭和七年一月九日並同月三十一日ノ謀議ニハ直接關與シ居ラサルモノ、田舎利之等京都組ノ項ニ於テ説明シタルト同様ノ理由ニ依リ本件計畫執行ニ

- 付テハ井上昭等ト共同ノ責任ヲ負フヘキモノニシテ、從テ豫審終結決定書記載ノ如ク小沼正ハ井上進之助ノ暗殺ハ勿論國孫暗殺ノ暗殺ニ付テモ共同正犯ノ責任ヲ負フヘキ、沼五郎ハ國孫暗殺ノ暗殺ハ勿論井上進之助ノ暗殺ニ付テモ小沼同様共同正犯ノ責任ヲ負フ、澤澤大ハ井上進之助ノ暗殺ニ付テモ小沼同様共同正犯ノ責任ヲ負フヘキモノトアリマス。
- (四) 伊藤廣ニ付テハ、
- 同人ハ井上昭ノ依頼ニヨリ本件暗殺計畫援助ノ爲メ沼五郎、澤澤大ニテ豫審シ且同人等ト井上昭、古内榮司間ノ連絡ヲ執リタルモノナルヲ以テ、本件事犯全體ニ對スル補助者トシテノ責任ヲ負フヘキハ當然ニシテ同人ノ所爲ハ豫審終結決定書記載ノ如ク殺人補助ノ罪ニ該當スルモノト思料シマス。

第五節 被告各人各例ノ犯罪ト事犯

第一節 被告各人各例ノ犯罪

今迄申述ヘタル處ニ依リ本件事犯ニ對シテ全般的説明ヲ終リタルヨリ、之レヨリ被告各人各例ノ犯罪ニ付一言シタイ思ヒマス。

- (一) 井上昭
- 同人ハ本件暗殺計畫ヲ立案シ、之レカ執行ニ當リテハ自ら指揮統制ノ任ニ當リタルモノニシテ所謂首魁ナルカ故ニ、其ノ刑事責任モ亦本件被告各人中於テ最モ重キモノト謂フヘキテアリマス。
- 井上昭カ國ノ至誠ヨリ本件事犯ヲ敢行シタルモノナルコトハ之レヲ認メ、其ノ心事ノ諒トスルモ、其ノ心事ノミニ捉ハレ事犯ノ責任ヲ輕視スヘキニ非ス。其ノ責任ヲ問フニ宜シク最高刑ヲ以テ處

ムヘキモノト信シマス。

- (二) 古内榮司
- 同人ハ本件事犯ノ副首領ノ地位ニ在リテ井上ノ參謀トシテ本件暗殺計畫ノ立案ニ參畫スルハ勿論、豫審終結決定書記載ノ如ク小沼正、沼五郎等ニ對シテ青年ニ國家革新ノ思想ヲ鼓吹シ本件事犯ノ同志ヲ獲得シ努力メ小沼、沼五郎等ヲシテ本件事犯ヲ遂行ノ動因ヲ與ヘ殊ニ井上カ昭和七年二月十日天行會道場ニ逃避シタル後ハ四元義隆ト協力シテ井上ニ代リ其ノ一味ノ指揮統制ヲ爲シタルモノナルヲ以テ、其ノ刑事責任モ亦井上、古内ノ次位ニ在リト謂フヘキテアリマス。

- (三) 四元義隆
- 同人モ亦古内榮司同様所謂副首領ノ地位ニ在リテ井上ノ參謀トシテ本件暗殺計畫ノ立案ニ參畫シ殊ニ井上カ前述ノ如ク天行會道場ニ逃避シタル後ハ古内ト共ニ井上ニ代リテ其ノ一味ノ指揮統制ヲ爲シタルモノナルヲ以テ、其ノ刑事責任モ亦井上、古内ノ次位ニ在リト謂フヘキテアリマス。

- (四) 池袋正氣地
- 同人ハ古内、四元ト同様本件暗殺計畫ノ立案ニ參畫シ本件事犯ノ樞要ナル地位ヲ占メ居リタルモノナルモノ、其ノ活動ノ程度ハ古内、四元ヨリ稍々劣ルモノナルヲ以テ其ノ責任モ同人等ニ比シテ輕減シテ可然モノト思料シマス。

- (五) 久木田新、須田大庵、田中邦雄
- 右三名モ亦四元、古内等ト同様本件計畫ニ參畫シタルモノ、其ノ關係セル程度並ニ其ノ後ノ活動池袋ヨリ劣ルモノナルヲ以テ其ノ責任亦

- (六) 田 介利之
同人ハ直接本件暗殺計畫ノ立案ニ參畫セサルモ、井上等ノ本件計畫ニ贊同シ憲憲ニ星子殺ノ罪ヲ申キテ本件事犯ニ加擔シタルモノニシテ其ノ活動ノ程度モ亦甚星子ノ比ニ非サルヲ以テ相當罪ヲ處斷スル必要アリト信シマス。
- (七) 森 憲二、星子 毅
右兩名ハ田介利同様に本件暗殺計畫ニ參畫セザルハ勿論田介利ノ勸誘ニ依リ本件計畫執行ニ參加スルコトナリタルモノニシテ其ノ活動ノ程度モ田介利ニ比シ劣ルモノアルヲ以テ其ノ刑事責任モ亦同人ヨリモ輕キモノト謂フヘキテアリマス。
- (八) 小沼 正、菱沼 五郎
右兩名ハ井上ノ思想的影響ヲ受ケタルコト最モ深ク、暴力ニ依ル國家革新ノ志厚ク且現ニ此ノ思想ニ基キ暗殺ヲ執行シ居ルモノナルヲ以テ宜シク嚴刑ヲ以テ處斷スヘキモノト思料シマス。
- (九) 黒澤 大二
同人モ亦小沼、菱沼ト同様井上ノ思想的影響ヲ受ケ暴力ニ依ル國家革新ノ志厚キモノアルモ本件ニ現ハレタル活動ノ程度低キヲ以テ其ノ刑事責任モ亦酌量シテ可然モノト信シマス。
- (十) 伊藤 廣
同人ハ井上ト僅カノ距離アリシコトカ奇蹟トナリ井上等ノ本件暗殺計畫ニ對スル理解並情義上ヨリ之レカ援助ヲ爲サ、ルヘカラサルニ立至リタルモノニシテ其ノ衷情ハ諒トスヘキモノアルヲ以テ此ノ點酌酌ノ上處斷スヘキモノト思料シマス。

以上申述ヘタル事實ニ基キ、最後ニ求刑ヲ爲スニ當リ、昭和八年十一月六日大審院ニ於テ言渡サレタル判決ニシテ本件事犯ノ最刑上極テ參考トナルヘキモノアリト信スルヲ以テ茲ニ之レヲ援用シタイト思ヒマス。

第二節 求刑

其ノ判決ノ理由書ニハ、「凡ソ犯罪ヲ決意スルニ至リタル動機ノ實質ハ犯罪行為ノ價值判定上、重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ刑ノ量定上犯罪ノ動機ニ付、深甚ナル考慮ヲ拂ハサルヘカラサルハ勿論ニシテ殊ニ其ノ動機カ本邦固有ノ淳風美俗タル忠孝其ノ他ノ道義上、又ハ公益上非難スヘキモノナリヤ、將又有意スヘキモノナリヤハ刑ノ適用上特ニ參酌スヘキモノナルコト疑ヲ容レザル所ナリ。然リト雖、刑ノ輕減ハ必スシモ犯罪ノ動機ノ一略ノミヲ標準トシテ抽象的ニ之レヲ論斷スヘキニ非ス更ニ犯人ノ性格被害者ノ地位犯罪ニ因リ法律秩序ニ及ホシタル影響ノ程度將來ニ於ケル豫防警戒上ノ關係、其ノ他主觀客觀ノ兩方面ニ於ケル諸般ノ情狀ヲ較量シテ各犯人ニ付、個別的ニ之レヲ決定スルヲ正當ナリトス」と說明シテ、實ニ其ノ動機ニ關スル刑罰ノ本義ヲ道義シタルモノニシテ動機ノミヲ偏重シテ行動ノ當否及其ノ影響ノ如何ヲ輕視セントスルモノアルヲ覺メタルモノテアリマス。而シテ此ノ趣旨ハ當今ノ世相ニ對シ極テ適切妥當ニシテ本件ノ量刑ニ關シテモ亦大ニ參考ニ資スヘシ

五、血盟團事件判決書

- 判決
本籍 東京市本郷區駒込西戸町二十二番地
住居 不定
- 無職
日召事 井 上 昭
當四十九年
- 本籍 茨城縣水戸市大字市楢町十四番地
住居 不定
- 無職
古 内 樂 岡
當三十四年
- 本籍 茨城縣那珂郡平磯町四千五百三十五番地
住居 不定
- 無職
小 沼 正
當二十四年
- 本籍 茨城縣那珂郡渡村大字前領千九百八十八番地ノ一
住居 不定

キモノト信スルカ故ニ、茲ニ右判決ノ趣旨ヲ援用スルト同時ニ本件モ亦既ニ述ヘタル如ク、被告人等ノ動機ニ於テ諒トスル處アルモ、其ノ社會事業ニ對スル判斷必スシモ正當ナラス、其ノ執リタル手段方法甚シク矯激、其ノ社會ニ及ホシタル影響モ亦極テ重大ナリシコトヲ再說シテ茲ニ各被告人ニ對シテ求刑ヲ爲ス次第テアリマス。

- 井 上 昭 死刑
- 古内樂岡 死刑
- 四元義隆 無期懲役
- 池袋正氣 懲役十五年
- 久木田新助 懲役十年
- 須田太郎 懲役十年
- 田中邦雄 懲役十年
- 田介利之 懲役十年
- 森 憲二 懲役八年
- 星子 毅 懲役六年
- 小沼 正 死刑
- 菱沼 五郎 死刑
- 黒澤 大二 懲役八年
- 伊藤 廣 懲役七年
- ニ夫々處スヘキモノト思料シマス。

國家主義系不穩事件被告判決録

無職 藤沼五郎 當二十三年
 本籍 茨城縣那珂郡前渡村大字前沢六百六十三番地
 住居 不詳 無職
 無職 黒澤大 當二十五年
 本籍 鹿兒島縣鹿兒島市南林寺町二十二番地
 住居 元東京府豊多摩郡代々木上原千八百八十六番地 権藤太郎方
 東京帝國大學法學部學生
 四元 當二十七年
 本籍 宮崎縣那珂郡那珂町三十八百九十番地
 住居 元東京府豊多摩郡代々木上原千八百八十六番地 權藤太郎方
 無職 池田正 當三十年
 本籍 鹿兒島縣日置郡伊集院町下谷口千八百三十五番地

六〇

住居 東京市本郷區駒込通分町六十番地
 同業舍方 東京帝國大學文學部學生
 久木田 當二十五年
 本籍 島根縣島取市西町三百三番地ノ一
 住居 東京市本郷區本郷四丁目二十一番地 岩崎彌太郎方
 東京帝國大學法學部學生
 田中 當二十六年
 本籍 福島縣信夫郡深利村大字深利字茶畑二番地
 住居 元東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷五百二十六番地 深澤長太郎方
 國學院大學神道部學生
 田本 當二十七年
 本籍 福井縣大飯郡加斗村長井第二十二號四番地
 住居 東京市本郷區駒込上宮土前町十九番地 福田金一方
 東京帝國大學文學部學生
 田倉 當二十七年

兵庫縣津名郡假屋町久留屋二百八十五番地

本籍 兵庫縣津名郡假屋町久留屋二百八十五番地
 住居 京都市左京區田中門前町四十三番地 勝榮館方
 京都帝國大學法學部學生
 當二十四年
 本籍 熊本縣鹿本郡和木村大字庄三十九番地
 住居 京都市左京區田中門前町四十三番地 勝榮館方
 京都帝國大學法學部學生
 當二十七年
 本籍 東京市淺草區田島町二十番地
 住居 元東京府北豐郡板橋町元瀬野川二千四百二十一町地
 建築設計監督 當四十七年
 右被告入井上昭同古内榮司同小沼正同藤沼五郎同黒澤大同田倉利之同藤憲一同星子毅同久木田祐同田中邦雄同須田太助同須田和助被告事件ニ付當裁判所ハ檢事木内曾益同岸本義廣同與審理ヲ遂

國家主義系不穩事件被告判決録

判決スルコト左ノ如シ

主文
 被告人井上昭ヲ無期懲役ニ處ス
 被告人古内榮司ヲ懲役十五年ニ處ス
 被告人小沼正ヲ無期懲役ニ處ス
 被告人藤沼五郎ヲ無期懲役ニ處ス
 被告人黒澤大ヲ懲役四年ニ處ス
 被告人池田正ヲ懲役十五年ニ處ス
 被告人久木田祐ヲ懲役六年ニ處ス
 被告人田中邦雄ヲ懲役六年ニ處ス
 被告人須田太助ヲ懲役六年ニ處ス
 被告人田倉利之ヲ懲役六年ニ處ス
 被告人藤憲ニ懲役四年ニ處ス
 被告人星子毅ニ懲役四年ニ處ス
 被告人伊藤廣ヲ懲役三年ニ處ス
 但被告人古内榮司同黒澤大同田倉利之同藤憲一同星子毅同須田和助同須田太助同須田和助之同藤憲一同星子毅同伊藤廣ニ對シテ未決勾留日數中五百日ヲ各右本刑ニ算入ス
 押收物件中プロトニング小型三號銃四挺(昭和七年押收ノ四號ノ七同年押收四九號ノ三及四〇)並白粉短刀一口(同年押收四六九號ノ四三)ハ勒レモ之ヲ沒收ス
 訴訟費用ハ全部被告人等ノ連帶負擔トス

理由

第一

被告人井上昭八

群馬縣利根郡川場村ニ於テ醫師好人ノ四男ニ生レ同縣立前橋中學校ヲ經テ明治四十二年東京協會專門學校ニ入學シタルモノニシテ幼少ノ頃ヨリ父ノ薫陶篤土ノ氣風等ニヨリ報國仁俠ノ精神ヲ涵養セラレタルカ生來懷疑ノ性格ニシテ長スルニ及ビ漸次自己ノ本體善惡忠孝ノ標準等ニ付疑問ヲ懷キ之ヲ解決シテ求メテ師長ニ教ヲ仰キタルモ結局自己ヲ満足セシムルニ足ルモノナク煩悶ノ末現在ノ教育道徳等ハ總テ支那階級カ感自覺ナル一般民衆ノ倒轉ヲ豫見スルノ歎滿ノ緒ニ他ナラスト爲シ自學自業ニ陥リ明治四十三年八月同校第二學年ヲ中途退學シ死ヲ決シテ滿洲ニ渡リ南滿洲鐵道株式會社社員タル傍ヲ陸軍參謀本部ノ醫務勤務ニ從事中偶々南滿公使館ニ於テ曹潤宗布教師東祖心ニ接シ其ノ排難ヲ受ケ初テ一道ノ光明ヲ認メタルモ間モナク同人ト別離スルニ及ビ再ヒ懷疑ノ人ト爲リ大正二年北京ニ到リ大總統袁世凱ノ軍事顧問陸軍砲兵大佐坂西利八郎ノ許ニ同僚醫務勤務ニ從事シ日獨戰爭ニ際シテハ天津駐屯軍軍務顧問ト爲リ功ニ依リ勳八等ニ敘セラレ其ノ後山東革命軍直隸軍等ニ關與シ大正七年春頃以降天津等ニ於テ貿易商ヲ營ミ尙傍ラ醫務勤務ニ從事シ居リタルトコロ宇宙人生等ニ付深刻ナル疑念ニ閉サレタルヲ以テ之ヲ解決シ爲シ自己一身ノ安心ヲ確立シ更ニ正ヲ闡ラントシテ大正九年春頃歸國シタリ而シテ當時ノ我國情ヲ見テ社會主義者ノ增加ヲ預見シ排難ノ積弊自覺等頗ル憂慮スヘキモノアリ此ノ憂放任シ置タヘキニ非スト思

惟シ加フルニ其ノ頃在滿當時ノ盟友木島亮之ニ邂逅シ同人ヨリ我勞働運動ハ悉ク社會主義者ノ指導下ニ在リテ衷心ニ堪ヘサルヲ以テ願起シテ之ヲ排擊シ勞働運動ヲ指導セヨト願ヒセラレタルモ前記ノ如キ心境ニ在リタル被告人ハ自己ノ安心確立ヲ第一義ト爲シ大正十一年春頃ヨリ郷里ナル川場村ノ三德庵ニ籠リ獨坐シテ日夜法華經目ヲ唱シ自己發願ニ奉念シタル精與宇宙全一ノ真理ヲ體得シ自覺安心ヲ得タリトシテ大正十三年九月初旬上京シタリ其ノ頃例々日進ノ教義ニ關スル著得ヲ續讀シ該教義ハ自己ノ體得シタル境涯ヲ理論的ニ說明シタルモノナルコトヲ識リ驚喜シテ之ヲ研究ヲ志シ身延山其ノ他ニ於テ法華經日進ノ遺文集及日進ニ關スル諸著書等ニヨリ同教義ノ研究ヲ爲シタル結果前記境涯ヲ誤ナキコトヲ證悟シ小我ノ生活ハ自己ノ本體即宇宙ノ真理ニ反スルモノト爲シ日進ノ教義ト自覺安心ヲ得タル自己ノ肉體ト武器トシテ自ラ國家革新運動ニ參加セント決意シ豫テ知合ナル高井次郎ト共ニ護國聖社ヲ結成シ又在滿當時ノ盟友前田虎雄等ヲ援ケテ建國會ノ創立ニ關與スル等國民精神作興運動ニ奔走シ居リタルカ當時國家革新ヲ唱道セル人々ト交ルニ及ビ其ノ多クハ非現實的ナル口舌ノ士ニ非サレハ單ナル不平等勸助家ニシテ身命ヲ惜マズ其ノ獨ニ當ルヘキ人物ナキヲ知リ被告人自ラ人物ヲ養成シ夫等ノ若ク率ヒテ之ヲ實行運動ヲ起サント決意シ之カ爲ニハ他人ヲシテ信賴ヲ置カシムルニ足ル德性ヲ涵養セルヘカラスト爲シ大正十五年夏頃ヨリ靜岡縣駿東郡原町ナル松蔭寺ニ赴キ山本玄峰ニ參禪シ昭和二年五月頃高井次郎ノ依頼ニ依リ同所ヲ辭シ茨城縣東茨城郡瀧野町岩船山通稱トド山ニ於テ自己獨自ノ加特祈禱

理由

第二

被告人井上昭八

ニ從事シ同年十一月頃前記川場村ニ引揚ケ爾來農村ノ疲弊狀態ヲ觀察シタル結果之カ救済ハ單ナル物質的給與ノミヲ以テ其ノ目的ヲ達成スルコトノ困難ナルヲ覺リ益々時勢ノ根本的刷新ノ必要ナルコトヲ痛感スルニ至リシカ昭和三年春頃高井次郎ニ再ヒ懇請セラレテ茨城縣東茨城郡瀧野町宇大洗東光寺ニ建立セラレタル立正護國堂ニ隨リ昭和五年十月頃迄同所ニ起居スルニ至レリ當時被告人ハ宇宙人生觀トシテ宇宙深淵萬象ハ同根一體絕對平等即宇宙全一ニシテ差別相共ノ儘全一絕對ナリ故ニ人間ハ差別相ニ於テハ分離對立シタル存在ナリト雖其ノ本體ニ於テハ其ノ儘宇宙ト一如合體シタル存在ナルコトヲ悟リ差別相ニ於ケル自己ノミニ執著シタル小我ノ生活ヲ爲ス自己ハ此ノ身此ノ體大衆ナルコトヲ自覺シ大衆ト苦樂ヲ共ニスル大我ノ生活即菩薩道ニ立脚スル報恩感謝ノ生活ヲ爲ササルヘカラスト觀シテ國家觀トシテ我國體ハ國祖神ニ在リシマス天照大神ノ御精神ニシテ大神カニ天孫ニ授ケ給ヘル三種ノ神器ハ大神ノ御精神ヲ人類最高ノ智慧武ヲ表象シ而モ大神御一方ノ御精神ヲ具現ナレハ大衆佛敎ニ所謂體用三位一體ノ關係ニ在リ即ち宇宙ノ真理ヲ表現シタルモノナリ故ニ大神ノ御精神タル我國體ハ宇宙ノ真理其ノモノニシテ天壤ト共ニ窮リ無シ而シテ歷代天皇ハ三種ノ神器ヲ天壤無窮ノ御神勅ト共ニ受繼キ給ヒ天照大神ノ御精神ヲ御承繼セラレ唯一絕對ノ元首トシテ國家ノ中心ヲ爲シ國民ト不二一體ニ在シマスト共ニ國民ノ大御親ニ在セラルカ故ニ一身ニ主神親ノ二體ヲ具スル現人神ニ在シマシ國民ハ神人一如ノ天皇ノ赤子ニシテ大

我觀ナルカ故ニ天皇ノ御精神ヲ以テ各自ノ本質ト爲シ依テ以テ君民一體一國一家ノ萬邦無比ナル理想國體ヲ成ス左レハ我國體ハ君民ノ間ニ何モノノ存在ヲモ許サズ國民ハ天皇ノ下ニ入トシテ其ノ處ヲ得サルモノナク國家全體ノ幸福ヲ目的トシテ各自其ノ地位ヲ守リ分ヲ盡シ何等ヲ僭奪ナク自己ノ未完成ヲ畏レシ慎ラス未完成ヲ未完成トシテ愈々精進シ日ニ新ニ日ニ新ニ創造的發展ヲ遂ケ國家ト共ニ完成セシメテ今カラス即國民ハ孰レモ日本人トシテ日本天皇國ヲ生活シテ國體ニ歸一シ以テ理想國家ノ光輝ヲ發揚シ延テハ之ヲ全世界ニ及ホシ四海同胞萬邦一家ノ理想社會ヲ建設シ世界人類永遠ノ平和ヲ招來セサルヘカラスト即日本精神ナリト觀シ我國體ノ批判トシテ支那階級タル政黨財閥特權階級ハ腐敗墮落シ國家觀念ニ乏シク相結托シテ私利私慾ニ没頭シ君民ノ間ヲ阻隔シ日前ノ權勢維持ニ努メ亦毎ニ國策ヲ誤リ爲ニ内訌外交ニ失敗シ就中農村ノ疲弊都市中小商工業者及勞働者ノ困窮ヲ拾テ爾ス幾多ノ疑獄事件ハ隨テ接シテ起リ國民教育ハ其ノ根本ヲ個人主義ニ置キ國體ノ絕對性ニ付何等教フルトコロナク智育偏重ニ流レ總テ忘レ延テハ國民思想ノ變化ヲ馴致スル等政治經濟思想教育外交等所有方面ニ種端ナル行詰ヲ生シ此ノ儘放置スルニ於テハ國家ハ滅亡ノ他ナク此ノ深刻ナル行詰ハ明治維新以來ノ支那階級力建國ノ本義ヲ忘レ徒ニ西洋文明ニ陶酔シ其ノ模倣ニ終始シ彼ノ個人主義ヲ基礎トスル資本主義ノ如キ宇宙ノ真理ニ反スル差別相對ノ原理ヲ以テ國民生活與國家組織制度ノ指導原理ト爲シタルカ爲ニシテ資本主義ニ內在スル矛盾

國家主義系不穩事件論告裁判決録

缺陥ハ餘ス所ナク我國ノ本質ヲ覆ヒ去リ人文憲ヲ閉ケテ道義日ニ衰
（内外共ニ混濁紛糾ノ極ニ達シ遂ニ昭和維新ヲ望ムル國民の血ノ
叫ト爲リタリ然ルニ世ニ所謂者宗教家ノ類ハ概テ氣概ナク此ノ現
狀ヲ目前ニシテナカラ支那階級ニ阿諛迎合シテ自己ノ利害打算ニ汲
タルニ非サレハ其手傍觀シテ何等爲ストコトナク又近時資本主義ノ
修正原理トシテ勃興シタル社會民主主義國家社會主義乃至共產主義
ノ如キモ畢竟スル所階級相對ノ原理ヨリ離脱セズ徒ニ支那階級相對
立抗爭ヲ事トシ却テ混濁紛糾ヲ助長スル險道ニシテ到底此ノ行詰
ヲ打開スルコト能ハスト爲シ

スル者ハ深ク自己ヲ反省シ先ツ日本精神ニ覺醒シ國家民衆ノ幸福ヲ
幸福トシ其ノ苦痛ヲ苦痛ト爲ス大慈慧心ヲ有スルト共ニ革命ハハ天
皇ノ赤子トシテ日本天皇國ヲ生活スル唯一絕對ノ道ナリト自覺シ
革命ヲ生クルノ境涯ヲ體シ苟モ革命ヲ事業視シ之ニ依リ權勢地位者
譽等ノ報酬ヲ期待スヘキモノニ非スト確信シ居リタリ
而シテ被告人ハ我國國家ハ既ニ取ナル論議ニ依テ救済セラレズ實踐
アルノミト爲シ其ノ手段トシテ當先宗教的ニ育成セラレタル四
人ノ同志ヲ獲得シ之等ノ者ト共ニ農村ニ入り農事ノ手傳ヲ爲ス傍ラ
農民ヲ日本精神ニ覺醒セシメテ國家革新ノ必然ヲ説キ一箇月一一人
カ一人ノ同志ヲ獲得スル所謂倍加運動ニ依リ三箇年ノ後ニ百萬ノ同
志ヲ獲得シ之ヲ糾合シテ上京シ政府議會等ニ對シ革新ノ實行ヲ迫
ント計畫シ同志ハ二一、成ルヘク從來社會運動ニ關與セザリシ眞面目
ナル人物二、成ルヘク宗教的信仰ヲ有スル者ハ宗教的鎖練ヲ經テ
ル者少クトモ革新運動ニ對シテ宗教的熱誠ヲ有スル人物三、以上ノ
條件ニ合セサルモ人間トシテ素質ノ純真ナル人物四、革新運動ニ身
命ヲ情マサル確固タル信念ニ安住セル人物五、大衆の嚮來ヲ受クル
コトヲ快トスル辯論者ニ非サル人物六、他人ノ保護ニヨルコト否ト
ハス成ルヘク自活シ得ル人物七、現在他ノ思想團體政治團體ト關
係ヲ有セサル人物八、成ルヘク僅少ク一家ノ責任輕キ者ナルカ或
ハ夫等ヲ超越セル人物ナル事等ノ各條件ニ適合セル者ヲ其ノ者ノ把
持スル理論ハ重ヲ置カス選定獲得スルコトト爲シ爾來同志ノ獲得
ニ努メ昭和三年頃ヨリ昭和五年九月頃迄ノ間ニ被告人等内閣司
同小沼正、同高田五郎、同黒澤六一ヲ始メ照沼堤、堀川秀雄、黒澤金

吉川崎長光等所謂京城組同志ヲ獲得スルト共ニ昭和四年十二月頃
以ニ國家革新ノ志ヲ抱懷シ海軍部内ニ於テ熱心ニ之ヲ啓蒙運動ヲ爲
シ居リタル當時盛ケ浦海軍飛行學校學生タリシ海軍中尉藤井齊ト相
識リ爾後計略相照シテ同志ト爲リ次テ昭和五年初頃ヨリ同年九月頃
迄ノ間ニ藤井齊ヨリ啓蒙セラレタル當時海軍少尉古賀清志、海軍少
尉候補生伊東亀城、同大庭泰良、同村山格之等所謂海軍組同志ヲ獲得
シタルカ其ノ間藤井齊ヨリ數次ロンドン海軍條約締結ノ結果對外關
係ノ危機切迫シ西曆千九百三十六年ノ交ニ於テ我國ハ未曾有ノ總局
ニ達スヘク舉國一致此ノ難局ニ當ランカ爲メ國家革新ノ急務ナルコ
トヲ力説セラレ茲ニ於テ社會情勢再認識ノ必要ヲ感シ昭和五年八月
頃群馬、栃木、東京等ヲ巡歴シテ國民大衆ノ生活狀態ヲ觀察シ識者ノ
意見ヲ聴キタル結果國家ノ危機急迫シ民衆ノ生活苦痛深刻ニシテ革
新ヲ望ムル聲都都ニ充満シ既ニ論議ノ秋ニ非ス連ニ革新ヲ斷行セ
サルヘカラスト爲シ從來ノ倍加運動ノ方法ヲ以テシテハ此ノ難局ノ
急ニ應ズル能ハサルノミナラス之ヲ實現ノ爲メハ大衆運動タル當然
ノ結果トシテ官憲ト大衆トノ衝突ヲ起シ流血ノ慘禍大ナルモノヲ
ルニ想到シ斯ル結果ヲ招來スレハ自己ノ革命精神ニ反スルモノトシ
テ該計畫ヲ擯棄シタリ而シテ事態ハ斯ノ如クナルニ拘ラス眞ニ一身
ヲ賭シテ困難危險ナル現狀打破ノ任ニ當ル者ナク而モ被告人等同志
ハ自ラ能力及金力ヲ有セズ且言論機關ハ總テ支那階級ノ掌握スル
コロナルノミナラス言論等ノ合法手段ニヨリハ彼等ニ何等ノ指彈
ヲ感セシメ得サルヲ以テ被告人等同志ニ於テ自ラ支那階級覺醒ノ爲
非合法手段ニ訴ヘ現狀打破ニ從事シ以テ革命ノ槍ヲ擔ヒタラント決意シ

國家主義系不穩事件論告裁判決録

且藤井齊ヨリ現狀打破ノ具體的方法及之ヲ執行ノ時期ノ決定同志間
ノ連絡國家革新運動ニ關スル情報ノ蒐集等ノ各事項ヲ一任セラレ
テ昭和五年十月頃立正護國堂ヲ去テ上京シタリ
爾來被告人等、昭和六年十月頃迄ノ間ニ被告人等内閣司、同池谷正
氣、同久木田新弘、同田中邦雄、同田中利和之等所謂學生組同志及藤井
齊ヨリ啓蒙セラレタル當時海軍中尉三上京、海軍少尉山根安等所謂
海軍組同志ヲ獲得シ且被告人等内閣司等ト連絡ヲ執リ昭和五年
十二月頃ヨリ昭和六年二月頃迄ノ間ニ被告人等小沼正、同高田五郎、同
黒澤六一及川崎長光ヲ同年十月初旬被告人等内閣司ヲ朝レモ上京待
候セシメ其ノ傍ラ後記其ノ一ノ(一)ノ如ク同年四月頃海軍組同志
對シ非合法運動ニ使用スヘキ拳銃ノ製造ヲ命ジタル同年六月七月
頃被告人等内閣司ノ斡旋ニヨリ愛媛縣長橋孝三郎ト東京市內某所ニ
於テ會見シテ深ク同人ノ人格識見ニ傾倒シ其ノ後同人ハ昭和維新成
就ノ途ニ於ケル新組織制度ノ建設ニ有用缺クヘカサル人物ニシテ
非合法的現狀破壞運動ハ其ノ任ニ非スト思惟シ同人ニ對シ破壞完成
後ニ於ケル建設ニ當ルヘキコトヲ勸告シ又上京以來國家革新運動ノ
一般情勢ニ注視スルト共ニ一方從來藤井齊ト親交アリ革新運動ニ從
事シ居リタル西田祝及共ノ背後ニ在リテ志ヲ同ウセリト目サレ居リ
タル陸軍部内ノ青年將校ト提携シ同人等ヲ自己ノ革命精神ヲ以テ誘
導セシメ同ノ企圖シ昭和六年八月下旬明治神宮外苑日本青年館ニ於
テ被告人等民間及海軍組同志ト西田祝一派トノ會合ヲ開キ他方藤井
齊ヲシテ當時革新運動ヲ爲シ居リタル大川周明一派ノ動靜ヲ探察セ
シムル等諸般ノ活動ヲ爲シ居リタルモノナリ

國家主義系不穩事件論告裁判決録

被告人古内繁司ハ

栃木縣芳賀郡中川村ニ於テ農哲太郎ノ長男ニ生レ敬神皇祖ノ家風
ニ育チ十六歳頃村ノ波弊ニ伴ヒ生家倒産シタル爲家族ト共ニ水
戸ニ移住シ務働ニ従事シテ家計ヲ助ケル傍ラ准教員養成講習會ヲ出
テ茨城縣東茨城郡吉田小學校ニ奉職シ次テ大正八年茨城縣立師範學
校ニ入學シ大正十二年三月同校卒業後同縣結城郡石下尋常高等小
校精進高等小學校等ニ調導シテ奉職シ其ノ間漸次現在ノ教育
自己ノ本體等ニ付疑問ヲ懷キ苦難ノ道ヲ歩ミ人生ヲ極メ盡シコト
ヲ決意シ全身全靈ヲ奉テ努力シ來リタルモノナルカ一時病ヲ爲退
職シ之方靜養中日理主義等ノ宗教書ヲ涉獵シ一道ノ光明ヲ認メ昭和
三年十月頃同縣那珂郡前濱尋常小學校調導ニ復職シ同年十二月
父ノ死ニ際會シテ悲憤ノ極ニ生スル社會的矛盾ヲ痛感スルニ至
リシ折柄其ノ頃立正護國黨ニ於テ被告人井上昭ヲ識リ爾後數次同被
告人ニ接シ其ノ指導ヲ受ケ法華題目ノ修業ニ専念シタル結果深ク同
ノ儀表現シタルモノニシテ此ノ勸諭ノ御精神ニ適合セラルルハ天恩ノ赤
子タルモノノ實務ナリト爲シ被告人井上昭ヨリ日榮ナル居士號ヲ受
ケ其ノ同志ト爲リ更ニ同志ヲ獲得セントシテ昭和五年二月頃ヨリ被
告人小沼正同澤沼五郎、同澤沼大ニテ始メ前記茨城郡ノ青年ヲ糾合
シテ御題目修業ヲ主唱シ自ラ之ヲ指導ノ任ニ當リ同青年等ヲ夫々被
告人井上昭ニ紹介シテ同志ヲシメ次テ被告人井上昭ノ上京後前記
同志ノ青年等ヲ夫々上京セシメントテ策シ居リタルトコロ間々後

テ知合ナル日本國民黨書記次長鈴木善一ヨリロンドン海軍條約問題
ニ關聯シ決死隊ヲ募集シ來リタルヲ好機ト爲シ被告人小沼正等ト謀
リ之ニ應答セシメテ同年十二月頃ヨリ昭和六年二月頃迄ノ間ニ被告
人小沼正、同澤沼五郎、同澤沼大ニ及川崎長光ヲ各上京セシメ其ノ後
同年三月頃同郡八里尋常高等小學校ニ轉勤シ同年八月頃迄ノ間數
回ニ互リ愛郷縣長橋本三郎ヲ訪問シ同人ヲ通シテ同派生中ヨリ數名
ヲ同志ニ獲得セント努力シ又前記ノ如ク橋本三郎ヲシテ被告人井上
昭ト會見スルニ至ラシメタルカ同年十月初旬ニ至リ被告人井上昭ノ
命ニ接シ直ニ教職ヲ辭シ革命ノ旗ヲタラント決意シテ上京シタル
ノナリ

被告人小沼正ハ
茨城縣那珂郡平磯町ニ於テ漁業傳吉ノ五男ニ生レ父ノ嚴格母ノ慈
愛及郷土ノ水戸勤王ノ遺風ニ成長シ大正十五年三月同郡平磯尋常
高等小學校卒業シ直ニ大工ノ徒勤トナリ其ノ後東京市內等ニ於テ
店員トシテ雇ハレ居リタルカ其ノ間社會人心煩悶シ株場ノ念日々ニ
薄ラキ行ク實狀ヲ見聞シ又強大ナル資本ヲ有スル者ハ種々特權ヲ
有シ弱小ナル企業者ヲ極度ニ壓迫シ爲ニ小中商工業者ノ間ニ憤出セ
ル幾多ノ慘狀等ヲ體験シ社會人生ニ疑念ヲ懷クニ至リ且病ヲ得タル
爲メ閣下トシテ昭和四年六月頃ヨリ歸郷シ居リタルモノ

ニ致命ナル紅藍色盲ノ爲疑不能ト爲リ自己及父兄ノ期待ヲ裏切
リ將來ノ希望ヲ失フト共ニ斯ル致命の缺陷ヲ有スル者ヲ入學セシメ
タル學校當局ノ無責任ヲ憤慨シテ黨利主義モ亦樹レリト爲シ廷テハ
社會人生ニ對シ疑念ト煩悶ヲ懷クニ至リテ郷里ニ在リタルモノ
被告人澤沼大ニハ
同村ニ於テ農患之痛門ノ二男ニ生レ敬神皇祖ノ家風及郷土ノ水戸
勤王ノ遺風ニ成長シ大正十四年頃同郡前濱尋常高等小學校卒業後
家事ノ手傳ヲ爲シ郷黨青年ノ信望ヲ集メ居リタルカ親シク農村ノ疲
弊及政黨政治ノ弊害ヲ純眞ナル農村青年ヲ海スル等ノ實狀ヲ見聞シ
憂慮シ居リタルモノ

ナルトコロ右被告人小沼正、同澤沼五郎、同澤沼大、三名ハ昭和
五年二月頃ヨリ同年五月頃迄ノ間ニ夫々被告人古内繁司ニ指導セラ
レテ御題目修業ヲ始メ日進ノ教義等ヲ通シ漸次國家社會問題ヲ研究
スルニ至リ同年六月頃同被告人ト共ニ立正護國黨ニ到リ被告人井上
昭ヨリ被告人小沼正、同日正、被告人澤沼五郎、同日正、被告人澤沼大ニ
ハ日大ナル居士號ヲ受ケ爾後被告人井上昭、同古内繁司ノ指導ノ下
ニ益々修業ニ精進シ深ク被告人井上昭ノ感化ヲ受ケ就中被告人小沼
正ハ其ノ頃茨城千葉、東京等ヲ行商シ農村ノ疲弊都市國民ノ困窮狀
態ヲ其ニ觀察シタル結果被告人井上昭ノ許ニ於テ自己ヲ鍛鍊シ國家
民衆ノ幸福ノ爲ニ一身ヲ供養シ以テ國家革新ニ邁進セント決意シ同年
七月頃ヨリ立正護國黨ニ起臥シ被告人井上昭ヨリ親シク其ノ黨陶ヲ
受ケ被告人小沼正、同澤沼五郎、同澤沼大ニハ執レモ被告人井上昭ノ
人格思想ニ共鳴シ其ノ同志ト爲リタルモノニシテ被告人井上昭ノ上

國家主義系不穩事件論告裁判決録

京後前記ノ如ク被告人古内繁司ト謀リ日本國民黨ノ決死隊募集ニ應
シ同年十二月頃ヨリ昭和六年二月頃迄ノ間ニ革命ノ旗ヲタラント決
意シテ閣下トシテ上京シ同黨本部ニ起居シ同年六月頃野野嶺ノ主筆セル行
地社ニ轉シ其ノ後被告人小沼正、澤沼大、澤沼五郎等ニ於テ自己鍛鍊ニ努メ被告
人澤沼五郎、同澤沼大、東京市內ニ於テ自動車運轉助手ト爲リ辛
苦ヲ嘗メテ執レモ待機シ居リタルモノナリ

被告人澤沼大ニハ
宮崎縣都城町ニ於テ農哲次ノ長男ニ生レ
執レモ幼時ヨリ父ノ澤沼及郷土ノ氣風等ニヨリ武士道精神ヲ涵養セ
ラレテ成長シ共ニ大正十四年四月第七高等學校造士館ニ入學シタル
モノナルカ在學中學生ノ赤化無氣力巧利の氣風及教育ノ無權威等ヲ
憤慨シテ日本精神ノ涵養ヲ目的トスル七高敬天會ヲ組織シ昭和三年
四月被告人澤沼大、東京帝國大學法學部ニ入學シ被告人澤沼大、澤沼五郎
部ハ自ら教育家ト爲リ教育界ヲ改善セント志シテ同大學文學部ニ入
學シ相次テ法學博士上杉慎吉カ主筆シ日本主義ヲ標榜セル七生社同
人ト爲リ同博士ノ死後岡田正徳ノ經營ニ係ル金雞學院ニ入り同人ノ
指導ヲ受ケテ修業ニ努メ居リタルモノ

被告人久木田新弘ハ
中華民國廣東省廣東ニ於テ官吏新俊ノ長男ニ生レ十二歳頃父ノ死
ニ際會スル迄父母ト共ニ海外ニ居住シテ祖國意識ヲ強メ其ノ後一家

國家主義系不穩事件論告並判決錄

學テテ鹿兒島縣日置郡伊集院村ナル母ノ實家ニ引取ラレ其ノ敬神尊皇ノ家風ニ成長シタルモノナルカ同家ノ扶養ヲ受ケタルト生來ノ痼疾トニヨリ人生ノ負債者タルノ感ヲ懷キ國家社會ニ報恩スルトコロアラント期シ昭和三年四月第七高等學校進士館ニ入學シ七高等大前同人ト爲リ昭和五年十二月頃當時鹿兒島縣警署ニ勤務シ以テ國家革新ノ志ヲ有シ居リタル陸軍中尉竹波三郎ヲ識リ被告人田谷利之ヲ共ニ其ノ指導ヲ受ケ漸次國家革新ヲ志スニ至リ同校卒業ニ際シ一度革命起ラハ共ニ之ニ投センコトヲ誓ヒ昭和六年四月東京帝國大學文學部ニ入學シ七生社同人ト爲リテ修養ニ努メ居リタルモノ

被告人須田太郎ハ 鹿兒島市下龍尾町ニ於テ教育家牧野長男ニ生レ父ノ感化ニ依リ尊皇ノ精神ヲ涵養セラレテ成長シ昭和三年四月第七高等學校進士館ニ入學シ七高等大前同人ト爲リ前記ノ如ク被告人久木田新助ト共ニ竹波三郎ノ指導ヲ受ケ漸次國家革新ヲ志スニ至リ同校卒業ニ際シ一度革命起ラハ共ニ之ニ投センコトヲ誓ヒ昭和六年四月東京帝國大學文學部ニ入學シ七生社同人ト爲リテ修養ニ努メ居リタルモノ

六八

學文部ニ入學シ同學内ニ組織セラレタル日本主義思想ノ研究ヲ目的トスル協興學會同人ト爲リテ修養ニ努メ居リタルモノ 被告人星千毅ハ 朝鮮山府ニ於テ米穀商第五郎ノ長男ニ生レ父ノ敬神尊皇ト叔父森田清允ノ國粹思想等ノ感化ヲ受ケテ成長シ第六高等學校ヲ經テ昭和六年四月東京帝國大學法學部ニ入學シ協興學會同人ト爲リテ修養ニ努メ居リタルモノ

被告人須田太郎ハ 熊本縣鹿本郡田村ニ於テ農進ノ二男ニ生レ父ノ敬神ト郷土ノ菊池家勤王ノ遺風ヲ受ケテ成長シ第五高等學校ヲ經テ昭和五年四月東京帝國大學法學部ニ入學シ協興學會同人ト爲リテ修養ニ努メ居リタルモノナルコト被告人四元義隆同池袋正氣館同人久木田新助同田中邦雄同須田太郎同田谷利之同森憲一同星千毅ハ孰レモ我現下ノ國狀ヲ眺メ建國ノ精神日ニ強セラレ政權腐敗ニ燃ユル政黨利權黨ニ渴スル財閥權勢黨ニ汲々タル特權階級ハ孰レモ腐敗墮落シ相藉托シテ私利私慾ニ趨リ之ヲ爲ニハ國利民福ヲ蹂躙シテ顧スニ内治外交ハ失敗ニ續クニ失敗ヲ以テシ外國威ヲ失墜シ帝國國威ハ其ノ權威ヲ失ヒ選擧界ハ腐敗シ幾多ノ疑獄事件ハ相次テ起リ國民大會ハ波弊困難ノ極ニ達シ教育界ハ萎靡沈滞シ教育家ハ身ヲ以テ子弟ヲ教導スルノ人権意識見識ハナク教育ノ根本タル德育ハ全然無視セラレ就中高等教育ハ徒ニ洋學ヲ偏重シ修身濟世ノ精神教育ヲ等閑ニ附シ爲ニ學生ハ忠君愛國ノ念ヲ失ヒ其ノ就クヘキ途ニ迷ヒ或ハ輕薄浮薄ナルアメリカ思想ニ感化シテ享樂ニ趨リ或ハ不逞ナル共產主義思想ヲ信奉シテ

國家主義系不穩事件論告並判決錄

我國體ノ變革ヲ企ツル等國民生活ノ不安動搖甚ク此ノ禍根ハ明治初年以來ノ支那侵略カ西洋唯物文明ニ歸附シテ移レニ努メタル資本主義的政治經濟組織ノ矛盾點即チ由來スルモノニシテ連ニ君民一體忠孝一本ノ我國建國ノ精神ニ則リ之カ根本ノ改革ヲ爲スニ非サレハ國家ノ前途眞ニ憂フヘキモノアリ而モ言論文章等ノ合法手段ヲ以テシテハ到底之カ改革ハ望ミ難シト爲シ其ノ實行運動ノ指導者ヲ求メ居リタルカ被告人四元義隆同池袋正氣館ハ例々昭和五年頃被告人井上昭ヲ識ルニ及ヒ深ク同被告人久木田新助ハ昭和六年十月頃被告人四元義隆ハ昭和六年二月頃福岡ニ於テ九州帝國大學教授河村幹雄ト會談シタル結果我國ハ其ノ本質上不波ナリト雖之ヲ不減ナラシムルハ吾人ノ努力ニ在リトノ確信ヲ得茲ニ國家革新ノ決意ヲ鞏固ナラシメ被告人池袋正氣館ハ其ノ頃一死報國ヲ決意シ其ノ以上就學ノ要ナシトシテ退學シ被告人久木田新助ハ昭和六年六月頃被告人四元義隆ノ紹介ニヨリ被告人田中邦雄ハ同年九月頃被告人久木田新助ノ紹介ニヨリ被告人井上昭ヲ識リ被告人田谷利之ハ同年十月頃被告人久木田新助ノ通知ニヨリ上京シテ被告人井上昭ニ接シ孰レモ同被告人ノ人格思想ニ共鳴シテ其ノ同志ト爲リ被告人須田太郎ハ同年春頃被告人井上昭ヲ識リ爾後同人ト交ルニ及ヒ其ノ人格思想ニ共鳴シ昭和七年一月末頃同志ト爲リ被告人森憲一同星千毅ハ共ニ昭和六年十月頃被告人田谷利之ヲ識リ五ニ國家革新ニ付其鳴スルニ至リ被告人星千毅ハ同年十二月頃被告人田谷利之ト共ニ上京シテ其ノ紹介ニヨリ被告人森憲一同星千毅ハ同年一月中旬頃被告人田谷利之ノ紹介ニヨリ被告人田中邦雄ヲ識リ同被告人ト共ニ上京シテ其ノ紹介ニヨリ孰レモ被告人井上昭ヲ識ルニ及ヒ同被告人ノ人格思想ニ共鳴シタルモノナリ

介ニヨリ孰レモ被告人井上昭ヲ識ルニ及ヒ同被告人ノ人格思想ニ共鳴シタルモノ未タ自己ノ修養足ラサルヲ自覺シ爾後益々自己鍛錬ニ努メ居リタルモノナリ 斯クテ被告人須田太郎同森憲一同星千毅ヲ除ク以上ノ被告人等ハ順次結合スルト共ニ前記海軍軍醫兼英成館ノ同志ヲ加ヘ被告人井上昭ヲ中心トシテ國家革新ヲ目的トスル一團ヲ形成シ之カ實行運動ニ從事スルコトト爲リタルカ昭和六年十月頃ニ至リ我國狀ヲ眺メ外ニ於テハロンドンノ海軍條約ノ失敗ニ加フルニ滿洲事變勃發ヲ契機トシテ國際情勢頓ニ惡化シ對外關係ノ危機迫近スルト共ニ内ニ於テハ舊態依然トシテ支配階級タル政黨財閥特權階級ハ私利私慾ニ耽リ自己一身ノ安逸ヲ貪リ國民大眾ノ深刻ナル經濟的苦難ヲ捨テテ顧スニ罔顧雖然トシテ將ニ我國ハ所謂危急存亡ノ秋ニ遭ヒ此ノ儘推移セシカバ危シト現狀ヲ打開シ國家ヲ累卵ノ危ヨリ救ヒ内國民大眾ノ要望ニ應ヘ外西曆千九百三十六年ノ國際危局ニ際シ舉國一致ノ實ヲ舉ケ以テ日本天皇國ノ眞意ヲ顯彰センカ爲ニハ國家革新ハ一日モ忽ニ爲スコトヲ得ス此ノ情勢ニ伴ヒ國內ニ國家革新ノ氣運瀆溢シ之ヲ口ニスル者多數輩出スルニ至リシカ後等ノ多クハ現在ノ財閥又ハ特權階級ト結託シテ既成政黨ヲ打倒シ之ニ代リテ政權ヲ獲得セントシ又ハ民衆ノ不安動搖ニ乘シ之ヲ煽動利用シテ自己ノ野望ヲ遂ケントスルカ如キ不純ナル意圖ヲ懷キ國利民福ヲ顧サルノ點ニ於テハ支配階級ト何等擇フトコロナク眞ニ國家民衆ノ懼トスル被告人等ハ到底後等ト其ノ行ヲ共ニスルコト能ハス固ヨリ現代ノ如キ複雑多岐ナル國家組織制度ヲ改革スルコトハ一朝一夕ノ業ニ非ス其

ノ成就ヲ有ル迄ニハ革命セントスル者ト革命セラルル者トノ間ニ幾多流血ノ慘禍ヲ經テシテ...

（ハ）略説シタリ
而シテ是ヨリ先昭和六年春頃ニ至リ被告人等ハ從來多少ノ連絡アリタル...

須田太郎ハ古賀清志中村義典大庭春雄等ト共ニ右種黨大庭方附近ニシテ...

等ニ對シ被告人等ハカラサルト暗殺ハ可及的の兇謀ニ決行スヘキコト...

月一日石家ニ於テ被告入四元義隆ニ對シテ前示協議ノ結果ヲ告知シ且同被告入ヲシテ牧野伸顯ノ暗殺ヲ擔當セシメ又右協議ニ加ハラサリシ被告入小沼正、同案沼五郎、同案沼大ニ對シテハ被告入全内禁閉ヲシテ夫々担當セシメ、被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ニ對シテハ被告入久木田福助ヲシテ上京ヲ促サシメ同年二月二日頃ヨリ六日頃迄ノ間ニ右案家ニ於テ夫々會見シ右協議ノ結果ヲ告知シタル上被告入小沼正ニ井上澤之助ヲ被告入沼五郎ニ伊東巴代治ヲ被告入想澤大ニ、岡塚啓ヲ被告入田倉利之ニ被告入四元義隆ノ補助トシテ牧野伸顯ヲ被告入森憲ニ、大義教ヲ暗殺スヘク命シ、尚被告入尾子毅ニ對シテハ武器足ラサルカ故ニ京都ニ於テ拳銃ヲ贈送シタル上大義教、辰次、一、鈴木三郎若親、大、井上澤之助、原喜重郎ノ中、西方面ニ遊説ニ赴キタル者ヲ暗殺スヘク命シ更ニ同月四日頃被告入久木田福助ノ擔當ヲ變更シテ同志間ノ連絡ヲ執ルヘキコトヲ命シ又同月三日頃被告入池袋正氣、同月六日頃同小沼正ニ同月七日頃同田中邦雄ニ同月九日頃同須田太郎使用ノ分トシテ同久木田福助ニ夫々ブローニング小銃三挺、拳銃各一挺、實彈數十發宛、同月九日頃被告入四元義隆ニ同案憲二、同案千毅、夫々交付シ

(三) 同月九日迄前記案家ニ於テ同志ノ指揮統制ニ當リ居リタルカ同日被告入小沼正カ井上澤之助ヲ暗殺シタルヨリ身邊ノ危險ヲ感シ翌十日殘餘ノ拳銃及實彈ヲ大庭春雄ヲシテ其ノ頃同志トナリタル當時東京府豊多摩郡代々木上原千八百八

十九番地海軍大尉濱野治方ニ運搬隠匿セシメタル上在滿當時ノ盟友大間憲一、郎ノ紹介ニヨリ當時同府同郡澁谷町當盛松十二番地天行會道場頭山秀三、方ニ移リ爾後同年三月十一日迄同所ニ隠レ其ノ間後記其ノ六ノ(四)(五)ノ如ク被告入四元義隆ヨリ被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ヲシテ、關門遊説中ナル若親、辰次郎ヲ暗殺セシムルコトトシ被告入須田太郎ヲ京都ニ派シテ其ノ旨傳達セシメタルコト及被告入沼五郎ヲシテ鈴木三郎次ヲ岡塚啓ノ各暗殺ヲ擔當セシメタルコト等ノ報告ヲ受ケ之ヲ承認シタル等同志ノ指揮統制ニ當リタル外數次前記古賀清志ト會見シ海軍團同志藏起ニ關シ同入ニ對シ前記候補生等ト連絡ヲ執ルヘキコト武器ハ大川周明ヨリ入手スヘキコト等號令ノ方途ヲ授ケ

其ノ二 被告入古内榮司ハ

(一) 同年一月三十一日池田成彬ノ暗殺ヲ擔當シ同年二月四日ヨリ同月十二日迄池田郡附近ナル東京市麻布區飯倉片町十七番地中島幸太郎方ニ止留シ其ノ間數次同區永坂町一番地ナル池田成彬、澤登川、中郡大磯町ナル同入ノ別邸及同入ノ動先ナル東京市日本橋區新町二丁目一番地三井銀行附近ヲ徘徊シテ其ノ動靜ヲ探索シタルモ遂ニ暗殺決行ノ機會ヲ捉フルコトヲ得ス

(二) 被告入小沼正カ井上澤之助ヲ暗殺シタル爲同年二月十二日ヨリ同月二十六日迄前記濱野治方ニ遊説シ居リタルカ其ノ間

(一) 同月十四日頃濱野治方ニ於テ被告入四元義隆、同田中邦雄ト協議シ上同田中邦雄ヲシテ岡塚啓ヲ暗殺セシムルコトヲ決定シ

(二) 同月十六日頃濱野治方當時東京府北豐島郡淵野川町宇馬場五百十二番地岡井善彌方ニ隠レ居リタル被告入想澤大ニノ許ニ遣シ其ノ附近ナル落葉軒ニ於テ被告入沼五郎、同案憲二ニ對シ更ニ指令アル迄外出セサル様傳達セシメ

(三) 同月十七日頃濱野治方ニ於テ被告入四元義隆ト協議シ當時神奈川縣下ニ於テ案議院議員選舉ニ立候補シ居リタル鈴木三郎ヲ被告入沼五郎ヲシテ又當時關西方面遊説中ナリシ若親、辰次郎ヲ其頃京都ニ立歸リ待機中ナリシ被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ニ對シテ夫々暗殺セシムヘク決定シ同日直ニ被告入須田太郎ヲ當時東京府北豐島郡板橋町元淵野川二千四百二十一番地被告入伊藤廣方ニ遣ハシ同所ニ隠レ居リタル被告入沼五郎ニ右指令ヲ傳達セシメ次テ翌十八日頃被告入須田太郎ヲ京都市左京區田中町前四十三番地遊説館ニ遣ハシ被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ニ對シ右指令ヲ傳達セシメ且之方實行ノ用ニ供スル爲ブローニング小銃三挺、拳銃一挺、實彈十二發ヲ交付セシメ

(四) 其ノ後被告入沼五郎ニ於テ鈴木三郎ノ暗殺ニ失敗スルヤ更ニ同月二十四日頃濱野治方ニ於テ被告入四元

義隆ト協議シ同案沼五郎ヲシテ岡塚啓ヲ暗殺セシムヘク決定シ被告入四元義隆ヲシテ同案沼五郎ニ之ヲ傳達セシム

(三) 同月二十六日頃ヨリ當時東京府豊多摩郡大久保町西大久保三百四十三番地陸軍中尉大庭榮一、方ニ潜伏シ同月二十七日頃前記大磯町ニ赴キ池田成彬邸附近ヲ徘徊シテ同入ノ動靜ヲ探索シ

其ノ三 被告入小沼正ハ

同年二月二日井上澤之助ノ暗殺ヲ擔當シ爾後周到ナル探索ヲ遂ケタル上同月六日被告入井上昭ヨリ前記ノ如ク拳銃一挺(昭和七年押第二〇四號ノ七)實彈四十六發ヲ受取リ直ニ茨城縣東茨城郡澁谷町ニ到リ之ヲ試射ヲ爲シ次テ同月九日正午頃井上澤之助カ同日夜東京市本郷區込込分町百番地駒木小學校ニ於ケル案議院議員候補者駒井重次ノ選舉演説會ニ出席スルコトヲ知ルヤ同夜七時頃前記案議院ヲ推ヘ右小學校通用門前ニ到リ井上澤之助ノ來ルヲ待受ケ同入カ午後八時頃右通用門前ニテ自動車ヨリ下車シ通用門ヲ入りタル際同入ノ背後ニ迫リ所携ノ拳銃ヲ以テ其ノ背部ヲ目標ケテ三發連射ヲ爲シ彈丸八同入ノ胸腹部ニ命中シ遂ニ同入ヲシテ同日午後八時二十分頃同區本富士町東京帝國大藥房藥部附屬病院ニ於テ胸腹部重傷ヲ受ケ死スルニ至ラシメ以テ暗殺ノ目的ヲ達セ

其ノ四 被告入沼五郎ハ

(一) 同年二月四日伊東巴代治ノ暗殺ヲ擔當シタルモ同月九日被

同月十四日頃濱野治方ニ於テ被告入四元義隆、同田中邦雄ト協議シ上同田中邦雄ヲシテ岡塚啓ヲ暗殺セシムルコトヲ決定シ

(二) 同月十六日頃濱野治方當時東京府北豐島郡淵野川町宇馬場五百十二番地岡井善彌方ニ隠レ居リタル被告入想澤大ニノ許ニ遣シ其ノ附近ナル落葉軒ニ於テ被告入沼五郎、同案憲二ニ對シ更ニ指令アル迄外出セサル様傳達セシメ

(三) 同月十七日頃濱野治方ニ於テ被告入四元義隆ト協議シ當時神奈川縣下ニ於テ案議院議員選舉ニ立候補シ居リタル鈴木三郎ヲ被告入沼五郎ヲシテ又當時關西方面遊説中ナリシ若親、辰次郎ヲ其頃京都ニ立歸リ待機中ナリシ被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ニ對シテ夫々暗殺セシムヘク決定シ同日直ニ被告入須田太郎ヲ當時東京府北豐島郡板橋町元淵野川二千四百二十一番地被告入伊藤廣方ニ遣ハシ同所ニ隠レ居リタル被告入沼五郎ニ右指令ヲ傳達セシメ次テ翌十八日頃被告入須田太郎ヲ京都市左京區田中町前四十三番地遊説館ニ遣ハシ被告入田倉利之、同案憲二、同案千毅ニ對シ右指令ヲ傳達セシメ且之方實行ノ用ニ供スル爲ブローニング小銃三挺、拳銃一挺、實彈十二發ヲ交付セシメ

(四) 其ノ後被告入沼五郎ニ於テ鈴木三郎ノ暗殺ニ失敗スルヤ更ニ同月二十四日頃濱野治方ニ於テ被告入四元

義隆ト協議シ同案沼五郎ヲシテ岡塚啓ヲ暗殺セシムヘク決定シ被告入四元義隆ヲシテ同案沼五郎ニ之ヲ傳達セシム

(三) 同月二十六日頃ヨリ當時東京府豊多摩郡大久保町西大久保三百四十三番地陸軍中尉大庭榮一、方ニ潜伏シ同月二十七日頃前記大磯町ニ赴キ池田成彬邸附近ヲ徘徊シテ同入ノ動靜ヲ探索シ

其ノ三 被告入小沼正ハ

同年二月二日井上澤之助ノ暗殺ヲ擔當シ爾後周到ナル探索ヲ遂ケタル上同月六日被告入井上昭ヨリ前記ノ如ク拳銃一挺(昭和七年押第二〇四號ノ七)實彈四十六發ヲ受取リ直ニ茨城縣東茨城郡澁谷町ニ到リ之ヲ試射ヲ爲シ次テ同月九日正午頃井上澤之助カ同日夜東京市本郷區込込分町百番地駒木小學校ニ於ケル案議院議員候補者駒井重次ノ選舉演説會ニ出席スルコトヲ知ルヤ同夜七時頃前記案議院ヲ推ヘ右小學校通用門前ニ到リ井上澤之助ノ來ルヲ待受ケ同入カ午後八時頃右通用門前ニテ自動車ヨリ下車シ通用門ヲ入りタル際同入ノ背後ニ迫リ所携ノ拳銃ヲ以テ其ノ背部ヲ目標ケテ三發連射ヲ爲シ彈丸八同入ノ胸腹部ニ命中シ遂ニ同入ヲシテ同日午後八時二十分頃同區本富士町東京帝國大藥房藥部附屬病院ニ於テ胸腹部重傷ヲ受ケ死スルニ至ラシメ以テ暗殺ノ目的ヲ達セ

其ノ四 被告入沼五郎ハ

(一) 同年二月四日伊東巴代治ノ暗殺ヲ擔當シタルモ同月九日被

其ノ九 被告人田中邦雄ハ
邦雄ヨリ同被告人カ所持セシ同形拳銃一挺實彈四十六發ヲ預
リ同月十二日頃右拳銃一挺及實彈ヲ濱野治ニ交付シ

(一) 同年一月三十一日若槻禮次郎ノ暗殺ヲ擔當シ同カ東北方
面遊説ニ赴クコトヲ探知シ之ヲ宇都宮ニ擔シテ暗殺セント企
テ之カ實行ノ用ニ供スル爲同年二月七日頃被告人井上昭ヨリ
ブローニング小型三發拳銃一挺(昭和七年押第四六九號ノ四
〇)實彈五十發ヲ受取リ同月十日頃東京武蔵野加藤附近ニ於テ
之カ試射ヲ行ヒタルモ若槻禮次郎カ同月九日被告人小沼正
爲暗殺セラレタル井上昭之助ノ罪儀委員長ニ選ハレタル爲東
北方面遊説ヲ延期シタルコトヲ知ルヤ一先ツ右拳銃及彈丸ヲ
被告人久木田福弘ニ預ケ同月十三日右井上昭之助ノ告別式場
タル東京市赤坂區青山町三丁目青山齋場附近ニ赴キ裝束ノ
狀況等ヲ視察シ

ニ至ラス
其ノ十 被告人須田太郎ハ
(一) 同年一月三十一日徳川家達ノ暗殺ヲ擔當シ同年二月四日頃
ヨリ徳川邸附近ナル當時東京府豊多摩郡千駄ヶ谷町千駄ヶ谷
五百二十六番地澤澤長太郎方ニ止留シ同町千駄ヶ谷三百三十
番地ナル徳川邸附近ヲ徘徊シテ其ノ動靜ヲ探察シタル上二月
十一日徳川家達參内ノ途ヲ擔シ之ヲ暗殺セント爲シタルモ拳
銃ヲ入手シ得ズシテ其ノ機會ヲ失シ

(二) 翌十四日頃前記濱野治方ニ到リ被告人古内繁司、同四元義
隆ト協議シタル結果若槻禮次郎ノ暗殺ヲ中止シ岡塚啓ノ暗殺
ヲ擔當スルコトニ決シ濱野治ヨリ再ヒ前記拳銃及實彈ノ交付
ヲ受ケ

(三) 同月二十一日頃前記天行會道場ニ於テ被告人井上昭、同古
内繁司ト協議シタル結果自ラ床次竹二郎ノ暗殺ヲ擔當シ其ノ
後友人ナル東京市本郷區根津菫菜町十八番地田村清長方關根
三子雄ヲシテ床次竹二郎ニ對シ書狀ヲ以テ面會ヲ申込マシメ
只管暗殺執行ノ便會ヲ窺ヒ居リタルモ遂ニ其ノ目的ヲ達スル
其ノ十一 被告人田中利之ハ
前記其ノ六ノ(一)ノ如ク被告人四元義隆ノ補助トシテ牧野伸顯ノ
暗殺ヲ擔當シ同年二月十日頃被告人四元義隆ヨリ拳銃一挺實彈五
十發ヲ受取リ牧野伸顯ノ居住セル内大臣官邸附近ナル前記原田タ
ツ方ニ止留シ爾後右官邸附近ヲ徘徊シテ牧野伸顯ノ動靜ヲ探察シ
居リタルカ同月十二日頃前記其ノ六ノ(二)ノ如ク被告人四元義隆ヨ
リ待機ヲ命セラレテ一先ツ京都ニ立歸リ

其ノ十二 被告人森憲二ハ
同森憲二ハ協議ノ上之ヲ京都府ニ擔當セントシ被告人田中利之ハ
右拳銃ヲ同森憲二ハ其ノ所有ニ係ル短刀一口(昭和七年押第四六
九號ノ四三)ヲ各擔當シテ京都府ニ到リタルモ又其機會ヲ失シ
タルヨリ被告人田中利之ハ同森憲二、同皇子毅ト協議シ上同月十
六日頃右拳銃ヲ擔當シテ原身上京シ爾後若槻禮次郎ナル東京市
本郷區駒込上富土前町十九番地福田金一方ニ止留シ數次同區同町
百二十九番地ナル若槻邸附近ヲ徘徊シテ其ノ動靜ヲ探察シ居リタ
ルモ遂ニ其ノ目的ヲ達セス

同月二十六日頃被告人井上昭ヨリ前記其ノ一ノ(二)ノ如ク京都ニ
於テ拳銃ヲ調達シタル上大發賣店床次竹二郎館不立三峯若槻禮次
郎井上昭之助、幣原喜重郎ノ中間地方遊説ニ赴キタル者ヲ暗殺
スヘキ旨ノ指令ヲ受ケ翌日直ニ京都ニ立歸リ豫テ知合ナル京都帝
國大學學生住川逸郎同大學武術道場專屬巡視長羽田慶造ニ付拳銃
ヲ調達セントシタルモ入手スルコトヲ得ズ

以テ被告人井上昭同古内繁司、同小沼正、同淺沼五郎、同黒澤大、同
四元義隆、同池田正氣、同久木田福弘、同田中邦雄、同須田太郎、同田
中利之、同森憲二、同皇子毅ハ共謀ノ上犯罪ヲ繼續シテ井上昭之助及
關塚啓ヲ暗殺シタルモノナリ

其ノ十四 被告人田中利之同森憲二、同皇子毅ハ
同年二月十八日頃前記ノ如ク遊説館ニ於テ被告人須田太郎ヨリ當時
關西地方遊説中ナリシ若槻禮次郎暗殺ノ指令ヲ受ケ且之カ實行ノ
用ニ供スル爲前記拳銃一挺(昭和七年押第四六九號ノ三八)及實彈
十二發ヲ受取リタル上京都府電百萬遍留置場附近路上ニ於テ三名
協同ノ結果被告人森憲二ニ於テ島根縣松江市ニ急行シ同地ニ若槻
禮次郎ヲ擔シテ之ヲ暗殺スルコトヲシ即日被告人森憲二ハ實彈ヲ
裝填シタル右拳銃ヲ擔帶シテ同市ニ赴キ翌十九日松江附近松江
驛場ニ於ケル演說會場入口及松江驛等ニ於テ決行セントシ其ノ機
會ヲ窺ヒタルモ遂ニ其ノ目的ヲ果サズシテ歸洛シテ若槻禮次郎
カ同月二十一日夜京都府發上スルコトヲ知り被告人田中利之ハ

被告人伊藤廣ハ
千葉縣香取郡栗原町ニ於テ慶愛治郎ノ二男ニシテ家庭教師トシテ
神樂組ノ氣風ヲ享ケテ成長シ明治四十四年築地工手學校建築科ヲ卒
業シ建築設計業ヲ營ミ居リタルカ昭和四年秋頃ヨリ今泉定助ニ師事
シテ日本精神ノ發見研究ニ努メタル結果

一、大日本帝國ノ皇統ニ基キテ天皇親政ノ大義ヲ宣明ス
二、天皇政治ノ天則ニ悖ル不良分子一切ヲ掃拂ヲ期ス
三、天皇意志貫徹國體觀念ヲ明徹ニシ民心ノ統一ヲ期ス
コトヲ綱領トスル教化團體日本皇政會ヲ組織シ其ノ本部ヲ東京市
小石川區徳福町今泉定助方ニ置キ自ラ同會ノ理事トシテ事業部ヲ擔

千葉縣香取郡栗原町ニ於テ慶愛治郎ノ二男ニシテ家庭教師トシテ
神樂組ノ氣風ヲ享ケテ成長シ明治四十四年築地工手學校建築科ヲ卒
業シ建築設計業ヲ營ミ居リタルカ昭和四年秋頃ヨリ今泉定助ニ師事
シテ日本精神ノ發見研究ニ努メタル結果

任シ皇化運動ヲ爲シ居リタルモノナルトコト昭和七年二月十四日頃ヨリ豫テ知合ノ被告入井上昭、同古内榮司等カ國家革新ヲ圖ラントシ之カ手段トシテ政黨財閥特權階級ノ巨頭階級ヲ計畫シ被告入小沼正カ其ノ同志ノ一人トシテ同年二月九日井上昭之助ヲ暗殺シタルモノナルト被告入藤沼五郎、同黒澤大ニカ執レモ被告入井上昭等ノ同志ニシテ官憲ヨリ捜査ヲ受ケ居リ之カ逮捕セラルルニ於テハ被告入井上昭等ノ右計畫カ地獄スルノ處アルコトヲ知りナカシ

人井上昭同小沼正、同藤沼五郎ニ對シハ無期懲役刑ヲ選擇斷スヘク其ノ餘ノ被告人等ニ對シテハ各有期懲役刑ヲ選擇シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人古内榮司、同四元義隆ヲ各懲役十五年ニ被告人池袋正氣、同藤沼五郎ニ各懲役六年ニ被告人久木田新助、同田中邦雄、同須田太助、同田中利之ヲ各懲役六年ニ被告人黒澤大、同藤沼大、同黒澤大ニ各懲役四年ニ夫々處スヘク被告人伊藤廣ノ判示第一ノ所爲ハ刑法第百九十九條第六十條第五十五條第六十二條第一項ニ該當スルヲ以テ其ノ所定期間中有期懲役刑ヲ選擇シ同法第六十三條、第六十八條第三號ニ則リ法律上ノ減輕ヲ爲シ其ノ刑期間内ニ於テ同被告人ヲ懲役三年ニ處スヘク被告人古内榮司、同黒澤大、同四元義隆、同池袋正氣、同久木田新助、同田中邦雄、同須田太助、同田中利之、同藤沼大、同藤沼大ニ對シテ同法第二十一條ニ依リ各未決拘留日數中五百日ヲ夫々右木刑ニ算入スヘク主文病記ノ押收物件ハ本件犯罪ノ用ニ供シ又ハ供セントシタルモノニシテ被告人等以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ同法第十九條第一項、第二號第一項ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項、第二百三十八條ヲ適用シテ全部被告人等ノ連帶負擔トス依テ主文ノ如ク判決ス(中略)

東京地方裁判所第一刑事部
裁判長 藤井 五 一郎
判事 居 森 義 知
判事 伊 能 幹 一

六、五二五事件(陸軍側)公訴狀

公訴狀

第一師團軍法會議

昭和八年五月二十五日檢察官陸軍法務官包坂春平第一師團軍法會議御中
左記被告事件ニ付別紙目録ノ通り書類及證據物及送付候條審判相成度候也

Table with columns for names and positions. Includes names like 元士官候補生 後藤 映 鏡, 中島 忠 秋, 篠原 市 之 助, etc.

國家主義派不穩事件論告判決録

犯罪事實

被告人後藤映鏡ハ大分縣立大分中學校第二學年修業ノ上大正十二年四月一日熊本陸軍幼年學校ニ入校シ昭和二年三月十七日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上飛行第四聯隊ニ入隊シ同年十月一日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ
被告人篠原市之助ハ愛媛縣立三島中學校卒業ノ上昭和三年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上飛行第四聯隊ニ入隊シ同年十月一日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ
被告人久木春雄ハ愛媛縣立今治中學校卒業ノ上昭和三年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上飛行第六聯隊ニ入隊シ同年

十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人石川關榮ハ山形縣立米澤中學校第二學年修業ノ上大正十四年四月一日東京陸軍幼年學校ニ入校シ昭和三年三月十七日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上歩兵第七十三聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人金清豐ハ山口縣立山口中學校第二學年修業ノ上大正十四年四月一日熊本陸軍幼年學校ニ入校シ昭和二年四月一日廣島陸軍幼年學校ニ轉校シ昭和三年三月十四日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上歩兵第七十七聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人西川武放ハ福岡縣立中學校第二學年修業ノ上大正十四年四月一日熊本陸軍幼年學校ニ入校シ昭和二年四月一日廣島陸軍幼年學校ニ轉校シ昭和三年三月十四日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上歩兵第七十九聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人野村三郎ハ青森縣立弘前中學校第二學年修業ノ上大正十四年四月一日東京陸軍幼年學校ニ入校シ昭和三年三月十七日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上歩兵第三十二聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

ナルカ豫テ同級同輩又ハ同兵科等ノ關係ニ依リ五ニ交友アリタルモノナル處以上有被告人ハ孰モ陸軍士官學校本科在學中昭和六年九月下旬ヨリ昭和七年二月頃マテノ間被告人後藤映範廣原市之助ヲ初メトシ逐次歩兵第三聯隊附陸軍歩兵中尉菅野三郎ノ許ニ出入シ同人ヨリ一君萬民ヲ基調トスル天皇親及國體現時ノ瞻望セル政治經濟其ノ他一般社會狀態明治維新ニ於ケル志士ノ言行我國現下ノ情勢ト軍人ノ使命等ニ關スル所説ヲ聴キ又其ノ間或ハ日本改造法案(北一輝著)自民黨(種彦成爲著)兵農分離ノ國論等ノ書籍其ノ他ノ文獻ヲ讀讀涉獵シ或ハ同輩間ニ於テ五ニ意見ノ交換ヲ行ヒ茲ニ我國現下ノ狀態ヲ日シ政黨時間及特權階級等ノ支離階級ハ孰モ廢棄墮落シテ私利私慾ヲ以テ波々トシテ相倚リ相助ケテ私利ヲ行ヒ國家存立ノ本義ヲ忘レテ國防ヲ輕視シ國政ヲ紊リ外ハ國威ヲ失墜シ内ハ國民精神ノ頹廢農村ノ疲弊ヲ來シ邦家ノ前途頗ル憂フヘキモノアリト爲シ此等時弊ヲ革正シ以テ建國ノ本義ヲ基調トスル皇國日本ヲ確立スルノ

國家主義系不穩事件論告判決録

年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人岩崎八雲縣立水戸中學校第四學年修業ノ上昭和三年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上飛行第六聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人吉原政巳ハ宮崎縣立都城中學校第一學年修業ノ上大正十四年四月一日熊本陸軍幼年學校ニ入校シ昭和二年四月一日廣島陸軍幼年學校ニ轉校シ昭和三年三月十四日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和五年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上野砲兵第一聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

被告人坂元榮一ハ宮崎縣立小林中學校第二學年修業ノ上大正十四年四月一日熊本陸軍幼年學校ニ入校シ昭和二年四月一日廣島陸軍幼年學校ニ轉校シ昭和三年三月十四日同校ヲ卒業シ同年四月一日豫科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和六年三月十八日同校豫科ヲ卒業シ同日士官候補生ヲ命セラレタル上歩兵第七十五聯隊ニ入隊シ同年十月一日日本科生徒トシテ陸軍士官學校ニ入校シ昭和七年五月二十五日同校ヲ退校セシメラレ同年六月十一日士官候補生ヲ免セラレタルモノ

必要ヲ感シ深ク國家改造運動ニ共鳴スルニ至リ然モ尋常手段ヲ以テ之ヲ改革正期シ難キヲ思ヒ遂ニ直接行動ニ依リ此等支離階級ヲ打倒シ以テ國家改造ノ機運ヲ醸成セシメテ國體ヲ維持シ昭和七年二月頃マテニ逐次同志トシテ相結合シ以テ機會ヲ到來ヲ待テテリ然ルニ是ヨリ先放海軍少佐藤井齊海軍中尉古賀清志等ハ夙ニ民間ニ在リテ國家改革運動ヲ志シ居タル日事井上昭等ト結ヒ昭和五年頃ヨリ共ニ國家改造運動ヲ策シ其ノ後更ニ西田稅及陸軍部内ノ一部青年將校等ト氣脈ヲ通シ五ニ連絡スル所アリタルカ昭和七年一月初頃ヨリ西田稅及陸軍部内ノ青年將校等ハ海軍側及井上昭一派ノ民間側ト意見ノ背離ヲ來シ行動ヲ共ニセサルコトナリ且間モナク上海事變勃發シ爲ニ海軍側同志ノ出征スル者續出シタルヨリ同月末頃海軍側同志タル前頭古賀清志及海軍中尉中村義雄等ハ井上昭等ト謀リ先井上昭一派ノ民間側同志ノミヲ以テ政黨財界及特權階級ノ巨頭ニ對シ一人一殺式ノ暗殺ヲ決行シ海軍側同志ハ他日其ノ後ヲ承ケテ聯起スルコトトシ因テ井上昭一派ハ同志小沼正ヲシテ同年二月九日井上準之助ヲ同黨沼五郎ヲシテ同年三月五日岡塚磨ヲ夫々殺害セシメタルモ未タ該計畫ノ全目的ヲ達スルニ至ラスシテ檢擧セラレタリ

同志ノ者アルヲ知リ共ニ之カ實行ニ當ラントテ先ツ同人等ニ
會見セント欲シ同年三月中旬陸軍歩兵中尉安藤三三對シ被告
篠原市之助等ト會見ニ付依頼スル所アリ因テ被告入篠原市之助ハ
昭和七年三月十八日頃安藤三三ヨリ海軍將校カ来ル三月二十日同人
所屬ノ歩兵第三聯隊ニ於テ士官候補生ニ面會シテ希望ヲ有スル旨
傳ヘラレ同日之ヲ被告告人等ニ告ケ一同協議トシ便宜被告告人坂元兼
一ヲ代表者トシ海軍將校ニ面會セシムルニ決シ被告告人坂元兼一ハ
同月二十日正午頃歩兵第三聯隊ニ到リ折柄來台セタル安藤三三及陸
軍砲兵中尉朝山小二郎陸軍歩兵中尉村中孝次等ト同席ニテ中村義雄
ト面會シタルニ其ノ席上ニ於テ中村義雄ハ安藤三三等ニ對シ革命ノ
客觀的情勢ハ其ノ機熟シタルニヨリ海軍側ハ近ク斷絶セントノ意圖
ヲ有スル旨ヲ告ケ且陸軍側青年將校ノ後援斷絶ヲ勸説シタルモ安藤
三三等ハ之ニ對シ何等明答ヲ與ヘズ暗ニ拒否スル態度ニ出テタルヨ
リ被告告人坂元兼一ハ之ヲ見テ陸軍側將校ノ態度ヲ嫌ラスト爲シ中村
義雄ヲ別室ニ呼ビ自分ハ貴官ト同意見ナル旨及他ニ同志ノ士官候補
生十名アル旨ヲ告ケタルニ中村義雄ハ右士官候補生等ト會見シテ意
思ノ疏通ヲ圖リタキ旨申出テ被告告人坂元兼一ハ明ニ二十一日本東京市外
大久保町百人町百七十八番地藤田儀治所有ノ空家ニ於テ會見セシ
ト約シ同月未頃マテ二手榴彈二十一個拳銃十三挺同實包數百發ノ武
器ヲ蒐集シ且同月三日ヨリ同年五月十三日マテ大川周明ヨリ合計
金六千圓ヲ受領シテ資金ヲ調達シ及實行計畫トシテハ同年三月下旬
ヨリ若々計畫ヲ進メ同志ノ直接行動ニ依リ戒嚴ノ宣布ヲ見ルニ至ル
ヘキ態ヲ作爲スル方針ノ下ニ海軍側同志士官候補生側同志(池松
武志ヲ含ム)及奥田秀夫ヲ以テ本隊ト爲シ本隊ハ首相官邸内府官邸
其ノ他數個所ヲ襲撃シテ支配階級代表者ヲ暗殺シ警察ヲ襲撃シテ
警察力ヲ破壞シ又別働隊ハ本隊ノ行動ト呼應シ東京市附近ノ變電所
數個所ヲ襲ヒ其ノ要所ヲ破壞シ送電ヲ不能ナラシメ因テ帝都ヲ混亂
ニ陥ルコトトシ右別働隊ノ参加人員各日糧ノ運送等細部ヲ計畫ハ
橋孝三郎一派ノ手ニ委ヌルコトヲ定メ別働隊所屬ノ武器トシテ手榴
彈六個ヲ同年五月六日東京府北豐島郡王子町下十條百五十番地田
代平方ニ於テ海軍側同志候補海軍少尉黒岩勇ヲシテ橋孝三郎一派
ノ同志林正三ニ交付セシメ其ノ襲撃決定日時ニ關シテハ被告告人等士
官候補生ノ大部分カ同年四月二十四日ヨリ滿鮮地方職權觀察ノ爲同
地方ニ旅行シ同年五月十四日歸校ノ豫定ニシテ且被告告人坂元兼一モ
亦同年四月三十日ヨリ滿洲演習ノ爲福島縣下ニ旅行シ同年五月十四
日歸校ノ豫定ナル等ノ事情ヲ斟酌シ同年五月八日東京府豊多摩郡遊

ヲ敢行セントノ意圖ヲ有ス吾人ノ本隊トモ稱スヘキモノニ大川周明
長野助及頭山某ノ各統アリ尙別働隊トシテ茨城縣ノ農民同志アリ吾
人ハ救國濟民ノ大義心ニヨリ起シモノニシテ來ル四月中旬乃至五月
中旬ノ間ニ之ヲ決行スヘク所屬ノ武器ハ海軍側ニ於テ之ヲ準備スヘ
キ旨等ヲ告ケ被告告人等ノ合同参加ヲ求メタルニ被告告人等及池松武志
ハ即時孰モ之ニ賛シ古賀清志等ト合同シ其ノ直接行動ニ参加セント
ト約シ又當日事故ノ爲右會合ニ列セザリシ被告告人中島忠秋ハ同年
三月二十七日被告告人後藤映範ノ日曜下宿ナル東京市四谷區坂町番地
不詳坂田權重方ニ於テ被告告人後藤映範同坂元兼一ト共ニ古賀清志ト
會見シ古賀清志ヨリ前記三月二十一日會合ノ際同人カ被告告人後藤映
範等ニ開示セルト同趣旨ノ意圖計畫ヲ聞キ直ニ之ニ賛シ之ト合同シ
其ノ直接行動ニ参加セント約スルニ至レリ
而シテ同年三月二十日頃豫テ國家改造運動ニ關心ヲ有シ居タル奥田
秀夫ハ中村義雄ノ勸誘ニ依リ又茨城縣東茨城郡當麻村ニ在リテ愛郷
塾ヲ開キ農村問題ヲ研究シ農村ノ窮狀ヲ打開センカ爲國家改造運動
ヲ志シ居タル橋孝三郎モ亦古賀清志ノ交渉ニ應ジ其ノ翌下タル後藤
映達及學生ト共ニ農民同志トシテ孰モ古賀清志等ト合同シ其ノ直接
行動ニ参加セント約スルニ至レリ
斯クシテ海軍側外ノ同志ヲ獲得シタル古賀清志及中村義雄等ハ一面
海軍部内ノ同志ト密會ナル運籌ニ努ムルト共ニ他面海軍部外ノ同志ト
連絡會合シテ指揮統制ヲ圖リ更ニ全同志ノ中心トシテ諸般ノ實行準
備ヲ進メ豫テ海軍部内ノ同志海軍中尉三上京等ノ入手セル手榴彈拳
銃同實包等ノ集中ヲ圖ルト共ニ當時東京府在野部大崎町上大街二百

三十一番地居住大川周明當時東京府豊多摩郡當麻村當麻林十二番地
居住頭山秀三及當時同家親善茨城縣新治郡土浦町眞鍋家千二百二十
三番地居住本間憲一即ト交渉シ拳銃又ハ實金等ト供給シ約セシメ同
年四月三日大川周明ヨリ拳銃五挺同實包二百二十五發ヲ同月十七日
ヨリ同月下旬ニ互リ本間憲一即ヨリ合計拳銃六挺同實包若干ヲ受領
シ因テ同月末頃マテ二手榴彈二十一個拳銃十三挺同實包數百發ノ武
器ヲ蒐集シ且同月三日ヨリ同年五月十三日マテ大川周明ヨリ合計
金六千圓ヲ受領シテ資金ヲ調達シ及實行計畫トシテハ同年三月下旬
ヨリ若々計畫ヲ進メ同志ノ直接行動ニ依リ戒嚴ノ宣布ヲ見ルニ至ル
ヘキ態ヲ作爲スル方針ノ下ニ海軍側同志士官候補生側同志(池松
武志ヲ含ム)及奥田秀夫ヲ以テ本隊ト爲シ本隊ハ首相官邸内府官邸
其ノ他數個所ヲ襲撃シテ支配階級代表者ヲ暗殺シ警察ヲ襲撃シテ
警察力ヲ破壞シ又別働隊ハ本隊ノ行動ト呼應シ東京市附近ノ變電所
數個所ヲ襲ヒ其ノ要所ヲ破壞シ送電ヲ不能ナラシメ因テ帝都ヲ混亂
ニ陥ルコトトシ右別働隊ノ参加人員各日糧ノ運送等細部ヲ計畫ハ
橋孝三郎一派ノ手ニ委ヌルコトヲ定メ別働隊所屬ノ武器トシテ手榴
彈六個ヲ同年五月六日東京府北豐島郡王子町下十條百五十番地田
代平方ニ於テ海軍側同志候補海軍少尉黒岩勇ヲシテ橋孝三郎一派
ノ同志林正三ニ交付セシメ其ノ襲撃決定日時ニ關シテハ被告告人等士
官候補生ノ大部分カ同年四月二十四日ヨリ滿鮮地方職權觀察ノ爲同
地方ニ旅行シ同年五月十四日歸校ノ豫定ニシテ且被告告人坂元兼一モ
亦同年四月三十日ヨリ滿洲演習ノ爲福島縣下ニ旅行シ同年五月十四
日歸校ノ豫定ナル等ノ事情ヲ斟酌シ同年五月八日東京府豊多摩郡遊

谷町寶通通り一丁目二十番地橋孝三郎等中村康平方ニ於テ海軍
側同志古賀清志黒岩勇海軍中尉山岸安海軍少尉村山格之士官候補生
側同志池松武志被告告人後藤映範同金澤總會合ノ際來ル五月十五日
ヨリテ本隊及別働隊ノ決行日ト爲スニ決シテ同月十三日茨城縣新
治郡土浦町村山本間憲一即ヨリ古賀清志中村義雄池松武志奥田秀夫及
橋孝三郎一派ノ同志後藤映達等會合ノ際本隊ノ決行時刻ヲ午後五時
三十分トシ別働隊ノ決行時刻ヲ午後七時頃ト爲スニ決シ又本隊ノ襲
撃日糧及行動計畫ニ付テハ若々ノ修正ヲ加ヘ同年五月十三日前記山
水園ニ於ケル同志會合ノ際
(一)本隊ハ之ヲ四組ニ分チ第一組ニ於テ一組ハ首相官邸二組ハ牧野
内府官邸三組ハ立憲友會本部四組ハ三菱銀行ヲ夫々襲撃シ第二
段ニ於テ一三三組ハ警察署ヲ襲撃シ警察署ニ對シ決戰ヲ爲シ然
ル後東京憲兵隊本部ニ自百四組ハ第一段決行後直ニ東京憲兵隊
本部ニ自百スルト
(二)入ノ配當ハ二組ニ黒岩勇三上村山格之山岸安後藤士官候補生
等五名一組ニ古賀清志池松武志士官候補生三名三組ニ中村義雄士
官候補生三名四組ニ奥田秀夫トシ
(三)武器ノ配當ハ二組ニ手榴彈六個拳銃六挺短刀若十二組ニ手榴彈
四個拳銃三挺短刀若十三組ニ手榴彈三個拳銃三挺短刀若十四組ニ
手榴彈二個短刀若十組トシ
(四)集合場所ハ二組ハ靖國神社二組ハ泉岳寺三組ハ新橋驛四組ハ東
京驛若ハ宮城前トシ
(五)集合時刻ハ十五日午後五時決行時刻ハ同五時三十分トシ

國家主義系不穩事件論告並判決錄

(六) 細密計畫トシテ

- (1) 行動ニハ自動車ヲ強制使用スルコト
- (2) 統制ハ年長者之ニ當リ絕對服従ノコト
- (3) 集合ノ際ハ特ニ注意シ不自然ニ沙ヲサル如ク例ハ偶然然知已ニ遇ヒタル如ク裝フコト
- (4) 武器ノ授受ハ集合後適宜之ヲ爲スコト 執行時期ニ因ハレ授受ヲ不完全ナラシメサル様注意スルコト 自動車内ニテ授受ヲ完了シテ行ニ移ルヲ可トス 但シ奥田秀夫ニハ十四日夜省縣原宿驛ニ於テ中村義雄ヨリ手榴彈二個ヲ交付スルコト
- (5) 武器ノ使用區分ニ付テハ
 - (イ) 手榴彈ハ第一段ニ於テ一組ハ三個以內二組三組ハ各二個以內四組ハ二個全部ヲ使用シ第二段ニ於テ一二三組ト最モ效果的ニ全體使用スルコト
 - (ロ) 拳銃ハ一二三組ト妨害者ニ對シテノミ使用スルコト 等ヲ決定シ且同日右會合ニ列セザリシ同志ニ對スル連發又ハ計謀傳達ノ方法ヲ定メ同月十五日正午頃マテニ該計畫ハ各同志ニ傳達セラレタリ而シテ被告人中豫テ濰州地方ニ旅行中ナリシ藤原市之助中島忠秋石川榮久木春雄野村三郎西川武藏菅野政巳ハ秋モ同月十四日正午頃又豫テ福島縣下ニ旅行中ナリシ坂入元策ニハ同日午後四時頃夫々其ノ旅行先ヨリ歸校シ秋モ同夜被告人後藤映鏡及同金清豐ヨリ前記五月八日會合ノ狀況ヲ聞キ連發ヲ爲朝十五日午前八時三十分頃被告人坂元策一ヲ外出セシメタルニ被告人坂元策一ハ池澤武志ヨリ前記五月十三日決定ノ計畫書一通ヲ受取リ同日午前十一時頃

歸校シ之ヲ各被告人等ニ回覽シ因テ被告人等ハ該計畫書ニ基キ各被告人ノ即當ヲ定メタリ前記計畫ニ基キ太陰ニ屬スル各被告人ハ之ヲ執行ニ參加スル爲昭和七年五月十五日午後四時頃ヨリ各自制規ノ服裝ヲ爲シ運次陸軍士官學校ヲ出發シテ夫々所定ノ集合場所ニ向ヒ第一、被告人後藤映鏡同藤原市之助同石川榮久木春雄同野村三郎ハ一組ニ屬シ同日午後五時頃マテニ靖國神社境内ニ於テ三上京原岩野山岸安村山格之ト合シ先ツ第一段ノ行動ヲ開始スル爲同日午後五時十分頃同神社前ニ於テ表門組三上京原岩野山岸安村後藤映鏡同石川榮久木春雄野村三郎山岸安村山格之被告人藤原市之助同野村三郎ノ二組ニ分レ各組毎ニ一輛ノ自動車ニ同乘シ表門組ヲ先頭トシ共ニ内閣總理大臣大藏省住居ノ東京市勸業永田町二丁目一番地所在内閣總理大臣官邸ニ向ケ進行シ其ノ途中車内ニ於テ表門組一同ハ岩野山岸安村山格之ヲ殺シテ其ノ武器ヲ分附シテ表門組三上京原途中自動車ヲ停メテ表門組山岸安村ヨリ拳銃(實彈裝填)一挺及同實包若干ヲ受取リ因テ表門組三上京原拳銃(實彈裝填)一挺同實包若干及短刀一口ヲ被告人後藤映鏡ハ拳銃(實彈裝填)一挺同實包若干及短刀一口ヲ被告人坂元策一ヨリ機帶シ同日午後五時二十七分、八分頃内閣總理大臣官邸表門ヨリ自動車ヲ乘入レ表門組ニ於テ下車シ同支關ヨリ一同屋內ニ侵入シ三上京原官邸警備部長村田嘉幸ニ對シ首相大義教トシテ面會ヲ求メ且首相ノ許ニ案内スヘシト迫リ更ニ首相ノ居ル所ヲ教ヘナイト之ダゾト告ケ拳銃ヲ擬シテ同人ヲ脅迫シタルモ要ヲ得ス又被告人後

國家主義系不穩事件論告並判決錄

藤映鏡ハ運次野村市之助ニ對シ拳銃一發ヲ發射シタルモ同人ニ命中セズ次テ一同首相大義教ノ所在ヲ覓メテ先ツ同官邸洋館ヲ限ナラシメ出シタルモ其ノ所在ヲ得ズ更ニ同官邸日本間ニ通スル廊下ヲ見出し板戸ヲ蹴破リ右日本間ニ闖入シ又裏門組山岸安村ハ短刀一口及手榴彈一個ヲ村山格之ハ拳銃(實彈裝填)一挺及同實包若干ヲ被告人藤原市之助同野村三郎ハ各拳銃(實彈裝填)一挺同實包若干及手榴彈一個ヲ機帶シ表門組ヨリ稍後レテ同時三十分頃同官邸裏門附近ニ到リ下車シ一同該裏門ヨリ進入シ山岸安村ノ指示ニ依リ被告人藤原市之助ハ同官邸日本間正支關前ニ在リテ外部ノ警戒ニ當リ他ノ一同ハ右支關ヨリ同官邸日本間ニ侵入シ右支關門組及裏門組ハ同官邸日本間正支關内側ノ廊下ニ於テ相合シ一同互ニ首相大義教ノ所在ヲ搜索シタルカ三上京原ハ右日本間洋式應接室ニ於テ巡查田中五郎ニ對シ拳銃ヲ發シ(首相ノ居所ヲ云)ト迫リタルニ同巡查カ「屏所ナシカ知ルモソカ」ト答ヘ反抗的態度ヲ示シタルヨリ同巡查ニ向ケ拳銃一發ヲ發射シテ命中セシメ同人ニ右胸部ヨリ貫傷ヲ損傷シテ左側腹部ニ至ル貫通銃創一個ヲ與ヘ次テ三上京原ハ更ニ進ンテ右日本間ノ食堂ニ到リ首相大義教ヲ發見シ直ニ其ノ面部ニ拳銃ヲ向ケ明鏡ヲ引キタルモ該拳銃ハ豫テ實彈一發ヲ裝填シテアリタルノミニシテ前記田中五郎組拳銃ノ爲發射シテシテ爲發射セシ因テ拳銃ヲ首相ニ擬シタル儘左手ニ持換ヘ實彈一發ヲ裝填シタルニ此ノ時首相ハ手ヲ舉ケテ之ヲ制止シマテ待テテ騒ガヌテモ話ヲスレハ判ル「アチラヘ行カウ」ト云ヒ同室ヲ立出テタルヨリ三上京原拳銃ヲ擬シテ之ニ迫隨シ且居ルヲタメ居ラザト呼號シ

ナカラ首相ト共ニ日本間十五條ノ客間ニ到リタルカ山岸安村山格之被告人後藤映鏡同石川榮久木春雄同野村三郎ハ右呼號ヲ聞キ相次テ同室ニ入り起立シ備置相ヲ圍繞シタルニ首相ハ床ヲ背ニシ應接室ノ前ニ背座シタル儘一同ニ對シ「靴位脱イダラドウカト詰リタルヨリ三上京原ハ靴ノ心履ナシカドウデモ宜イ吾々カ何ノ爲ニ來タノカ判ラズ居ルダロウ何カ云フコトカアツタラ早ク云ヘ」ト叱咤シテ山岸安村ハ「問答ハ要ラス」射ヲ射テト呼ビタルカ折衝同室ニ入り來レル岩野山岸安村ノ左前方ヨリ首相ニ向ケ拳銃一發ヲ發射シテ命中セシメ首相ニ左下頸部ノ直上ヨリ頭蓋腔内ニ至ル貫通銃創一個ヲ與ヘ被テ三上京原モ亦首相ノ右前方ヨリ首相ニ向ケ拳銃一發ヲ發射シテ命中セシメ首相ニ右額部耳殼前方ヨリ右眼外眥ノ上方ニ至ル貫通銃創一個ヲ與ヘタル上ニ同右射彈ノ命中セルヲ知リ山岸安村ハ「引上ゲロ」ノ聲ニ應シ前記日本間正支關ヨリ屋外ニ出テタルカ偶巡査平山八十松カ木劍ヲ提ケ一同ニ迫り來レルヨリ岩野山岸安村ノ相次テ同人ニ向ケ各拳銃一發ヲ發射シテ命中セシメ同人ニ右大額貫通銃創一個及左前額貫通銃創一個ヲ與ヘ又被告人藤原市之助ハ同官邸日本間正支關前ニ在リテ拳銃一發ヲ發射シテ之ヲ脅迫シ茲ニ同官邸ノ襲撃ヲ終リ同五時四十分頃一同官邸裏門ヨリ邸外ニ出テタルニ同裏門外ナル巡查派出所前ニ於テ氏名不詳ノ巡查一名カ一同ノ進路ヲ遮ラントセルヨリ被告人藤原市之助ハ同巡查ニ對シ拳銃ヲ擬シ「陸軍デハ今日三個大隊モ出テ來テ居ルカラ世様等ガイクラバタシテモ駄目

第一、被告等 同巡査ヲ脅迫シタル上同所ヲ引上ケタルカ内閣總理大臣大藏大臣前記負傷ニ基クテ出血ニ依リ瀕死セラレタル嗣ニヨル心臓及呼吸麻痺ヲ爲シ同日十六日午前二時三十分前記官邸ニ於テ死亡シ又巡査田中五郎ハ前記負傷ニ依リ瀕死セラレシ爲シ同日二十六日午前四時五十分東京市赤坂區傳馬町一丁目二十番地前田外科病院ニ於テ死亡スルニ至レリ斯クテ第一段ノ襲撃ヲ終リタル一組ハ第二段ノ行動トシテ警視廳ノ襲撃ニ移ランカ爲直ニ同市赤坂區池田通ニ出テ再ビ二輛ノ自動車ニ分乗シテ被告入後藤映爾同警原市之助同石川榮三ト同乗シテ先發シ東京市麹町區外堀田町警視廳ニ向ヒ同五時五十分前記警視廳前ニ到着シタルモ同處ニ於テハ二同ノ豫期セル如キ警備隊ノ非常召集ノ行ハレタル模様ナク爲ニ之ト決戦ヲ交ユルニ由ナキヨリ一同同處ノ襲撃ヲ中止シ其ノ儘同處前ヲ通過シ同日午後六時頃共ニ東京憲兵隊本部ニ自首シ又被告入八木泰雄同野村三郎ハ黒岩勇村山袴之下同乗シ前車ノ後ヲ追ヒ警視廳ニ向ヒ同五時五十分頃同處正前支關前ニ於テ一同下車シ共ニ同處舎内ニ侵入シ更ニ二階上リ一室ノ硝子戸ヲ破破ル等ノ暴行ヲ爲シタル上同處ヲ引上ケ自動車ニテ東京憲兵隊本部正門前ニ到リ停車場ノ内ノ状況ヲ窺ヒ同志一同未タ來着セサルモノト思惟シ黒岩勇ノ發議ニ依リ豫定外ノ襲撃ニ關シ協議ノ際偵察警備隊本部新堀吉吉カ被告入等ヲ追跡シ來リタルニ氣付キ黒岩勇ハ同警部副ノ乗車セル自動車ニ向テ發射シ一發ヲ發射シタルモ右自動車ニ命中セズ次テ一同更ニ豫定外ノ行動トシテ日本銀行ヲ襲撃スルニ決シ自動車ヲ驅リ同六時頃東京市

日本橋區本町三番地所在日本銀行前ニ到リ一同下車シ被告入野村三郎ハ黒岩勇ノ指示ニ依リ同行ノ前庭ニ進ミ正支關ニ向ケテ手榴彈一個ヲ投擲シ支關前ノ中庭ニ於テ爆發セシメ其ノ破片ニ依リ同行正支關及附近ニ無數ノ彈痕ヲ生セシメタル上一同同所ヲ引上ケ同日午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シ
第二、被告入西川武敏同菅野同坂元兼一ハ二組ニ屬シ同日午後五時頃マテニ東京市芝區高輪臺番町山門側ナル力亭亦山口彌太郎方ニ於テ古賀清志及池松武志ト合シ同所ニ於テ古賀清志ヨリ行動要領ノ授受ヲ説示セラレ且一同同所ヨリ武器ノ分配ヲ受ケ因テ古賀清志池松武志ハ各拳銃(實彈裝填)一挺同貨物若干及手榴彈一個ヲ被告入西川武敏ハ拳銃(實彈裝填)一挺及同貨物若干ヲ被告入菅野同坂元兼一ハ各手榴彈一個及短刀一口ヲ携帶シ先ツ第一段ノ行動ヲ開始スル爲メ一同同日午後五時十分頃同所ヲ出テ自動車ニ同乗シ内大臣野村伸居居住ノ東京市芝區三田坂町一丁目五番地所在内大臣官邸ニ向ヒ同五時二十四分頃同官邸正門前ニ到リ自動車ヲ停メ被告入菅野同坂元兼一ハ外部ノ警戒ニ任シ古賀清志及池松武志ノ兩名ハ下車シテ同門前ヨリ相次テ各手榴彈一個ヲ正支關方面ニ向ケテ投擲シ内一個ハ不發ニ了リタルモ他ノ一個ハ正支關前庭ニ於テ爆發セシメ其ノ破片ニ依リ同官邸正支關及附近ノ板塀等ニ無數ノ彈痕ヲ生セシメ次テ古賀清志ハ同邸立寄處を掃蕩シ一ニ對シ拳銃一發ヲ發射シテ命中セシメ同入ニ左肩榮馬喉突起部ニ貫通銃創ヲ與ヘ同五時二十七分頃同官邸ノ襲撃ヲ終リ一同自動車ニテ同所ヲ引上ケ

斯クテ第一段ノ襲撃ヲ終リタル二組一同ハ第二段ノ行動トシテ警視廳ノ襲撃ニ移ランカ爲直ニ自動車ヲ驅リ警視廳ニ向ヒ途中車内ヨリ後テ海軍側同志ノ準備セル日本國民ニ敵スト題スル陸海軍青年將校及農民同志名義ノ標榜扇刷り枚數數百枚ヲ路上ニ撒布シ同時四十五分頃警視廳正支關附近ノ車道ニ停車シ古賀清志ハ車内ニ止マリ他ノ一同ハ下車シ被告入菅野及同坂元兼一ハ古賀清志ノ指示ニ依リ相次テ路上ヨリ同處舎内ニ向ケテ各手榴彈一個ヲ投擲シタルモ孰モ不發ニ了リ次テ古賀清志ハ自動車内ヨリ同處正支關右段ニ在リタル氏名不詳ノ正限巡査ニ向ケテ拳銃一發ヲ發射シ又池松武志及被告入西川武敏モ路上ヨリ同支關ニ向ケテ各拳銃一發ヲ發射シ右三名ノ射彈中二個ヲ警視廳書記長坂元兼一ニ命中セシメ同入ニ下頸部貫通銃創及右膝關節骨骨折各一個ヲ與ヘ又其ノ射彈中一個ヲ警備新聞記者高橋義一ニ命中セシメ同入ニ右下腿貫通銃創一個ヲ與ヘタル上一同同所ヲ引上ケ同日午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シ

第三、被告入中島忠秋同金清源同吉原政巳ハ三組ニ屬シ同日午後四時三十分頃マテニ新橋驛ニ於テ中村義雄ト合シ先ツ第一段ノ行動ヲ開始スル爲メ同日三十分頃同驛ヲ出テ一同自動車ニ同乗シ東京市麹町區内山下町一丁目五番地所在立憲政友會本部ニ向ヒタルモ時刻尚早ク同市内青山方面及銀座方面ヲ乘越シ其ノ間車内ニ於テ中村義雄ヨリ一同ニ武器ノ分配ヲ爲シ因テ中村義雄ハ拳銃(實彈裝填)一挺同貨物若干及手榴彈一個ヲ被告入中島忠秋ハ拳銃(實彈裝填)一挺同貨物若干手榴彈一個及其ノ所有ニ係ル短刀一口ヲ同

金清源ハ手榴彈一個及短刀一口ヲ同吉原政巳ハ拳銃(實彈裝填)一挺及同貨物若干ヲ携帶シ同日午後五時三十分頃前記立憲政友會本部前ニ到リ自動車ヲ停メ中村義雄ハ先ツ下車シテ同本部門内ニ入り支關ニ向ケテ手榴彈一個ヲ投擲シタルモ爆發セザリシヨリ更ニ之ヲ拾取リ再ヒ前同様之ヲ投擲シタルモ不發ニ了リタルヨリ被告入中島忠秋ハ之ヲ見テ下車シ同本部門内ニ入り中村義雄ノ指彈ノ下ニ手榴彈一個ヲ同支關ニ向ケテ投擲シ之ヲ支關露天窓前ニ於テ爆發セシメ其ノ破片ニ依リ露天窓及支關附近ニ無數ノ彈痕ヲ生セシメ其ノ間被告入吉原政巳ハ車内ニ止リ拳銃ヲ擬シ被告入金清源ト共ニ自動車運轉手伊藤梅次郎ヲ威嚇強制シ同五時三十五分頃同本部ノ襲撃ヲ終リ一同同所ヲ引上ケ
斯クテ第一段ノ襲撃ヲ終リタル三組一同ハ第二段ノ行動ニ移ランカ爲直ニ自動車ニテ警視廳ニ向ヒ同五時四十分頃先ツ同處正支關前車道ニ自動車ヲ停メ被告入中島忠秋中村義雄ハ共ニ車内ニ止マリ被告入金清源及同吉原政巳ハ下車シテ被告入金清源ハ同處正支關左側車道ヨリ同處舎内ニ向ケテ手榴彈ヲ投擲シタルモ爆發セザリシヨリ更ニ之ヲ拾取リ再ヒ前同様之ヲ投擲シ同處前ノ鐵塔電柱上部ニ中リ爆發セシメ其ノ炸裂及破片ニ依リ同電線ヲ破損シ且同處舎窓前十個所ニ十數個ノ彈痕ヲ生セシメタル上同所ヲ引上ケ途中車内ヨリ前記同様ノ日本國民ニ敵スト題スル標榜扇刷り枚數數百枚ヲ路上ニ撒布シ同日午後五時五十分頃一同東京憲兵隊本部ニ自首シ
第四、前記田中秀夫ハ四組トシテ同日十四日夜名原宿驛ニ於テ中

村義雄ト會合シ同夜共ニ東京市赤坂區青山町六丁目十三番地橋
 本屋増田屋事首道文次方ニ到リ同家ニ於テ中村義雄ヨリ手榴彈二
 個及短刀一口ヲ受取リ翌十五日午後七時頃右手榴彈及短刀一口ヲ
 携帶シ東京市麹町區丸ノ内二丁目三番地所在三菱銀行裏ニ到リ手
 榴彈一個ヲ同銀行構内ニ投擲シ同銀行裏門ト三菱道場ト中間ニ於
 テ投擲セシメ
 前記別働隊ニ屬スル橋本三郎一派ノ横須賀喜久雄小室力也矢吹正
 吾崎五百枝大貫明高根澤與一温木秀則ハ橋本三郎及後藤隆彦等
 ノ指示ニ依リ前記本隊會組ノ執行ト呼應シ同電燈株式會社北足立郡
 旭ヶ谷町三ツ利二丁目七十四番地所在東京電燈株式會社旭ヶ谷
 變電所構内ニ手榴彈一個ヲ投擲シテ投擲セシメ(二)小室力也ハ同
 日午後七時頃東京府豊多摩郡戸塚町清水八百八十番地所在東京電
 燈株式會社日白變電所附近ニ到リタルモ同變電所ニ到ラスシテ製
 小松川町下平井高田三丁目二十八番地所在東京電燈株式會社龜戸變
 電所構内ニ手榴彈一個ヲ投擲シタルモ不發ニ了リ(四)吾崎五百枝ハ
 同日午後七時二十分頃東京府北豐島郡尾久町上尾久二千番地所在
 東京電燈株式會社田端變電所構内ニ到リタルモ所携ノ手榴彈一個
 ヲ投擲スルニ至ラスシテ立去リ(五)大貫明高根澤與一ハ共ニ同
 日午後七時三十分頃東京府北豐島郡尾久町下尾久二千番地所在鬼
 怒川水力電氣株式會社東京變電所構内ニ手榴彈一個ヲ投擲シタル
 モ不發ニ了リ(六)温木秀則ハ同日午後七時四十分頃東京府豊多摩

七、五・一五事件(陸軍側)論告書
 (要旨)

目次

第一、事實論	八九
一、公訴事實ニ關スル證明ニ就テ	八九
二、本件事犯ノ重大性ニ就テ	八九
三、本件事犯ノ動機ニ就テ	九〇
四、本件事犯ノ目的ニ就テ	九一
五、本件事犯ノ原因ニ就テ	九二
第二、法律論	九二
一、被告人等ノ身分ト陸軍刑法ノ適用ニ就テ	九四
二、被告人等ノ行為ト反亂罪ノ成立ニ就テ	九四
三、被告人等ノ反亂罪上ノ地位ニ就テ	九五
四、被告人等ノ行為ト反亂罪以外ノ罪名トノ關係ニ 就テ	九五
第三、情狀論	九五
第四、求 刑	九六

是ヨリ元士官候補生後藤隆彦外十名ニ對スル反亂被告事件ニ付主任
 檢察官トシテ事實及法律ノ適用ニ關シ意見を開陳セントス
 願レハ明治十四年十二月陸軍刑法ノ制定ヲ見、翌十五年一月一日ヨ
 リ之ヲ施行セラレ同法犯罪ノ首位ニ反亂ノ罪ヲ置キ嚴罰ヲ以テ之ニ
 臨ミ越ヘテ明治四十一年同法ノ改正ヲ見タルモ其ノ第二十五條反亂
 ノ罪ニ付テハ舊法ニ比シ僅カニ一部罰則ヲ修正アリタル外其ノ趣旨
 形體共ニ何等變更ヲ見ス蓋シ以テ反亂罪カ陸軍刑法上最大ノ事犯タ
 ル所以ヲ知ルヘキナリ
 而シテ前示刑罰軍刑法ノ施行ニ次キ明治十五年一月四日及七モ明治
 天皇ハ親シク陸海軍人ニ對シ訓諭ヲ垂レ賜ヒ爾來茲ニ五十年陸海軍
 人ハ只管職ヲ畏ミ夙夜奉職シテ眷々服膺ニ努メ専心一盡其ノ職務
 ニ精勵シ以テ力ヲ國家ノ保護ニ致シ爲ニ日清日露ノ兩戰役ヲ經テ益
 益基ヲ恢弘シ憲國威ヲ宣揚シタルノミナラス始終一貫克ク軍紀ノ
 恪守ニ努メ又當ニ國民ノ表率トシテ自ら其ノ行動ヲ慎ミ未ダ曾テ陸
 軍刑罰反亂ノ罪ニ該當スルカ如キ重大事犯ノ發生ヲ見タルコトナシ
 然ルニ今尙 被告人等士官候補生十一名カ海軍將校等ト共ニ本件
 事犯ヲ惹起シタルハ其ノ原因動機及目的ノ如何ニ拘ラス眞ニ昭明聖
 代ニ於ケル一大前無事ナリト謂ハサルヘカラス
 本隊ハ當事件ニ直面シ茲ニ本事件ヲ論斷スルニ當リ尚 非情愴ヲ能
 ハサルト共ニ事件ノ重大性ニ鑑ミ特ニ其ノ眞因ヲ探討闡明シ以テ將
 來斷シテ斯ル事犯ヲ反復セシメサルノ用意ニ費スルノ必要ナルヲ確
 信スルモノナリ

國家主義系不逞事件論告判決録

以下、第一事實論第二法律適用論第三情狀論第四求刑ノ順序ニ
 從ヒ意見を開陳ス(シ)
 第一、公訴事實ニ關スル證明ニ就テ
 本件公訴事實ニ付テハ
 1. 當公判廷ニ於ケル各被告人ノ供述、
 2. 當公判廷ニ於テ證據トシテ取調ヘラレタル
 イ、陸軍士官學校長ノ當軍法會議豫審官宛送付ノ被告人十一名
 ニ係ル各身元調書
 ロ、同學校長ノ當軍法會議豫審官宛被告人十一名ニ係ル士官候
 補生退校ノ件通牒
 ハ、陸軍省人事局補任課長ノ當軍法會議豫審官宛被告人十一名
 ニ係ル士官候補生免除ノ件通牒
 ニ、當軍法會議豫審官ノ被告人十一名ニ對スル各顧問調書
 ホ、同豫審官ノ説人池松武志吉賀清志中村義雄三上京、加賀
 勇、山岸安村山部之實波三郎安藤三三野藤市、村田新吾、
 田口早太郎平山八十松橋井龜一長坂弘一高橋輝新堀虎吉、
 山田彌湯口作松安藤康隆木下尚忠、伊藤次郎ニ對スル各
 顧問調書
 (東京地方裁判所豫審判事ノ爆發物取締期間違反、殺人及殺
 人未遂被告事件被告人橋本三郎後藤隆彦林正三横須賀喜久
 雄小室力也矢吹正吾崎五百枝大貫明高根澤與一温木秀
 則、被告人岡田松一菊地昇廣森川泰治澤田康三郎加藤正ニ對

國家主義系不穩事件論告裁判決録

スル各顧問調書ノ藤本
ト、東京地方裁判所檢察官ノ温木秀則ニ對スル聽取書ノ藤本
チ、當軍法會議檢察官ノ内閣總理大臣官舎内大臣官舎、立憲政
友會本部、警視廳及實行計畫策士題スル文書ニ係ル各檢證調
書
一、青山徹藏ノ大發射死體檢案書、
又、醫師工藤權之ノ田中五郎死亡診斷書及平山八十松診斷書
ル、岡岡木良三ノ田中五郎死因等ニ關スル鑑定書
ヲ、同秋谷良男ノ橋井龜一及長坂弘一各診斷書
ヲ、同島海軍軍醫ノ高橋藤雄診斷書
カ、藤田儀治中村康平古直又天山山口彌太郎ノ各對案書
ヨ、陸軍司法警察官ノ被告人十一名ニ對スル各員首調書
タ、海軍中尉三上直等反亂被告事件ニ付東京軍法會議(海軍)ニ
於テ證據物トシテ押收中ノ
手榴彈 一個(第二八號證)
拳銃 十二挺(第一號證乃至第二二號證)
短刀 七(第二〇號證乃至第二六號證)
當軍法會議檢察官ノ押收ニ係ル
手榴彈破片 一
等ニ係シ其ノ事實稱メテ明白ニシテ即チ本件公訴事實ハ全部ニ涉
リ其ノ證明十分ナリト認ム從テ該事實ノ各部分ニ對スル各員首調
書ニ關シテハ之カ說明ヲ省略ス
二、本件事犯ノ重大性ニ就テ

九〇

本件事犯ハ被告人等カ我國内外ノ情勢ニ照シ邦家ノ前途ヲ憂フルト
共ニ我國現代ノ支配階級ヲ以テ執モ腐敗墮落シテ私利私慾等ニ没頭
シ國防ヲ輕視シ國政ヲ紊リ國家ノ進運ヲ阻害シ民權ノ増進ヲ庶外視
セルモノト爲シ茲ニ直接行動ニ依リ國家革新ヲ企圖シ更ニ海軍將校
等ト結ヒ相集國シテ兵器ヲ執リ白晝公然内閣總理大臣官邸ニ侵入シ
畏クモ天皇陛下ノ御親任ニ依リ國務大臣ノ首班トシテ國務ノ樞機ヲ
掌リ機務ヲ察スルノ職ニ在リ内閣總理大臣ヲ殺害シ又帝親衛隊機
關ノ中樞タル警視廳ヲ襲撃シ更ニ日本銀行其ノ他ヲ襲撃シテ釐數ノ
下ヲ廢カシ帝權ヲ治安ヲ害シ人心ヲ極度ニ不安ニ陥レ國家ノ秩序ヲ
紊リ社會ノ安寧ヲ害シタルモノニシテ國法元ヨリ之ヲ禁シ道義亦斷
シテ之ヲ許ササル政治的社會的的重大事犯タルハ勿論其ノ行動タル我
國建軍ノ本旨ニ反シ軍人ノ本分ニ背キ軍紀ヲ紊ルコト甚大ニシテ軍
事ノニモ亦絕對ニ許スヘカラサル重大非行ナリトス
抑統帥權ハ天皇御親ヲ其ノ大綱ヲ體ラセ給ヘル所ニシテ軍隊及軍人
ハ總テ絕對ニ統帥權ノ節度ニ服スヘク斷シテ安リニ行動スヘキモノ
ニ非ス
又軍紀ハ軍隊成立ノ大本ニシテ實ニ軍ノ命脈ナルカ故ニ軍人ハ上將
帥ヨリ下ニ兵ニ至ル迄階級一貫克ク一定ノ方針ニ從ヒ衆心一致ノ行
動ニ出ツルヲ要シ且時ト所トヲ論セス上下齊シテ法規ヲ恪守シ機
以テ軍務ニ努力シ命令必ス行ハルヲ要ス而シテ軍紀カ如何ニ軍隊
成立ノ重要ナルカニ付テハ憲法第三十二條ニ於テ「本軍ニ掲グル條
規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セザル限リ軍人ニ進行ス」と規定
シ以テ憲法第二章「國民權利義務ニ關スル條規」モ軍ノ紀律ノ一歩

ヲ讓ルヘキヲ示シ又陸軍刑法第二十二條ニ於テ「多衆共同ノ暴行ヲ
煽動スル爲メハ敵前ニ在リ部隊ノ急迫ニ臨ミ軍紀ヲ保持スル爲メコ
トヲ得サルニ出テタル行為ハ之ヲ罰セス」必要ノ程度ヲ超エタル
行為ハ情狀ニ因リ其ノ刑ヲ減額又ハ免除スルコトヲ得」と規定シ更
ニ同法第二十三條ニ於テ「前條ノ規定ハ刑法又ハ他ノ法令ノ罪トナ
ルヘキ行為ニ亦之ヲ適用ス」と規定シ以テ總テノ刑罰法令ニ於テ罪
ト爲ルヘキ行為ニ付テモ軍紀ヲ保持ナルトキハ一定ノ條件ノ下ニ
之カ特例ヲ認メタルノミナラス陸軍刑法各本條ハ總テ軍紀保持ノ見
地ヨリ之カ規定ヲ設ケタルモノナルニ微シ明白ナリ、而シテ軍紀保
持ノ要道ハ服從ニ在リカ故ニ軍人ハ常に至誠上長ニ服從シ必ス其ノ
命令ヲ遵守シ至誠ナル軍紀ヲ保持シ努力サルヘカラス
從テ被告人等ヲ統帥權ノ發動ニ依ラスシテ私見ニ基キ軍力ヲ妄用シ
テ本件直接行動ヲ敢行シタルハ其ノ動機目的假令愛國ノ至情ニ出
タリトスルモ其ノ國禁ヲ犯シタルモノナルハ勿論統帥權ノ節度ニ反
シ軍人ノ本分ニ背キ軍紀ヲ紊リタル重大非行ナリト謂ハサルヘカラ
ス
三、本件事犯ノ動機ニ就テ
1. 直接行動決意ノ動機
被告人等ハ豫テ士官學校等ニ於ケル訓育指導ニ依リ軍人精神
ヲ涵養シ國體ノ特長建國ノ本義ヲ明カニシ皇室及國體ニ關ス
ル思想信念ヲ強メ有事ノ際奮テ國難ニ赴キ喜シテ大君ノ馬前ニ
斃ルルノ殉國精神ヲ體得シ更ニ書籍其ノ他ニ依リ之カ思想信念
ヲ鞏固ナラシメ一面我國現下ニ於ケル内外ノ情勢ヲ知ルニ及ヒ

九一

軍事外交思想經濟等各方面共至大ノ騷亂ニ在リテ腹取シ愛國
ノ念禁セザルモノアリ漸次政治的方面ニ關心ヲ有スルニ至リ而
モ支配階級ニ屬スル現在ノ政黨財閥及一部特權階級ヲ以テ執モ
腐敗墮落シ相托シテ私利私慾黨利黨略ニ没頭シ國防ヲ輕視シ
國政ヲ紊リ爲メ外ハ國威ヲ失墜シ内ハ國民精神ヲ頹廢農村ノ疲
弊中小商工業者ノ窮乏ヲ來シタルモノト爲シ之等支配階級ニ
對シ不滿ヲ覺ヘ茲ニ時勢ヲ革正シ建國ノ本義ヲ明徹ナラシメ
ンカ爲テ遂ニ國家革新ノ思想ヲ抱懷スルニ至リ遂ニ此等支配階級
ヲ打倒シ國民ヲ覺醒セシムルノ必要ナルヲ思ヒ之カ爲ニハ直接
行動ニ依リ外策ナシト爲シ互ニ相團結シ更ニ海軍將校等ノ動
議ニ應ジ之ト提携シ以テ本件行動ヲ敢行シタルモノナリ
想フニ被告人等カ士官學校等ニ於ケル訓育指導ニ依リ殉國精神
ヲ體得鞏固ナラシメタルハ帝國軍人トシテ而モ近ク將校ニ任セ
ラレントスル地位ニ在リタル者トシテ當然且緊要ノ事ニシテ且
我國現下ノ情勢ハ實ニ内外各方面共至大ノ騷亂ニアリ從テ國
民ハ正ニ上下舉テ協力一致シ此ノ難關打開ニ邁進セザルヘカラ
サルノ秋ナルヲ以テ被告人等カ邦家ノ前途ヲ憂フルニ至リタル
亦蓋シ當然ノコトナリ
而シテ所謂支配階級ノ腐敗墮落等ニ關シテハ果シテ斯ル事實ノ
存スルヤ否ヤ今茲ニ論斷スヘキ限ニ在ラスト雖其ノ存否如何ニ
拘ラス新聞雜誌其ノ他ノ出版物又ハ人言ニ依リ恰モ此等事實ノ
存スルカ如ク廣ク世上ニ流布セラレ之ヲ信スルモノ亦夥カラサ
ル現況ナルカ故ニ被告人等カ斯ル事實ノ存在ヲ眞ナリト信シタ

ルハ毫モ異トスヘキニアラス從テ斯ル事實ノ存在ヲ信シタル被告
人等カ愛國ノ至情ニ基キ此等時弊ヲ革正スルノ必要ヲ感スル
ニ至レル蓋シ已ムヲ得サル所ニシテ之カ爲更ニ國家革新ノ思想
ヲ抱懐スルニ至レル亦免レ難キ所ナリト謂フヘシ

2. 直接行動ノ動機

被告等ノ國家革新ノ思想ハ更ニ進展シテ直接行動ニ依リ所謂
支配階級ヲ打倒セントコトヲ企圖シ五ニ團結スルニ至リタルモ由
來被告等ハ孰モ當ニ士官學校内ニ起原シ日夜嚴密ナル監督ノ
下ニ在リタル爲被告等ノミヲ以テ決行セントスルモ之ニ必要
ナル武器資金等ノ準備頗ル困難ニシテ且被告等ハ未タ何等ノ
計畫準備ヲ進メタル事ナキモノナルカ故ニ被告等ノミニ依
リ直接行動ハ頗ル實現性ニ乏シカリシモノト謂フヘク從テ被告
等ノ直接行動ノ動機ハ海軍將校ノ勳勳ニ在リタリト謂ハサ
ルヘカラス

4. 本件事犯ノ目的ニ就テ

本件直接行動ハ被告等カ我國內外ノ情勢ニ照シ邦家ノ前途ヲ憂
ヒ茲ニ迫ニ所謂支配階級ヲ打倒ストル共ニ之ニ依リ一般國民ヲ覺
醒セシメ國家ノ現狀ヲ革新シテ建國ノ本義ヲ明瞭ナラシム以テ皇
道ヲ守内ニ宣布セントスルニ出テ其ノ窮極ノ目的ハ國家ノ隆昌發
展ヲ期スルニ在リテ全ク愛國ノ赤誠ニ基キ純情無私ノモノタル事
極メテ明瞭ニシテ又其ノ決行ニ方リテハ只々國家革新ノ捨石トナ
リ其ノ豫期セル繁榮隆下ノ決戰ニ於テ討死スルノ覺悟ヲ以テ之ニ
臨ミ且其ノ革新後ニ於ケル地位等ニ關シ何等野望ヲ有シタルモノ

支那階級ヲ打倒シ以テ國民ヲ覺醒セシメントコトヲ企圖スルニ至
リタルモノナルカ故ニ本件事犯ハ此ノ國防觀ニ對スル不滿ニ
端ヲ發シタルモノニ外ナラス從テ此ノ不滿ハ即本件事犯ノ要因
ナリト謂ハサルヘカラス

2. 紀律ノ精神修養ノ輕視

凡ソ軍人ハ職トシテ國家保護ノ任ニ在ルモノナルカ故ニ常ニ殉
國ノ精神即職分ノ存スル所存テ國難ニ赴キ身命ヲ君國ニ致シ水
火毛膚等モ悦ソテ任務ニ盡ルノ信念ヲ鍛鍊セサルヘカラス
ハ勿論ナルモ一面至嚴ナル軍紀ノ下ニ在ルモノナルカ故ニ常ニ
紀律ノ精神即職分ニ鑑ミ任務ニ照シ克ク上長ニ服從シ法規ヲ恪
守シ責ヲ重シ分ヲ守ルノ觀念ヲ向上セサルヘカラス而シテ此
ノ兩者ニ精勵合シテ始メテ其ノ使命職分ヲ全フサルヲ得ヘク若
シ徒ニ殉國ノ精神ノ鍛鍊ニ偏シ紀律ノ精神ノ向上ヲ忽ニセンカ
時ニ血氣ニ走り軍紀ヲ紊ルニ至ルヘキカ故ニ特ニ戒慎ヲ加ヘサ
ルヘカラス
然ルニ被告等ハ豫テ明哲維新等ヲ讀ミ深ク慕志士ノ殉國
の言行ニ感激シ強ク之カ感化ヲ受ケ慷慨死ニ赴クヲ以テ軍人ノ
本領ナリト爲シ遂ニ志士ノ氣風ニ走り爲ニ至嚴ナルヘキ軍紀モ
亦我國現在ノ難局打開ノ爲ニハ介意ノ要ナシト爲シ茲ニ直接行
動ヲ企圖スルニ至リタルモノナルカ故ニ畢竟被告等カ紀律ノ
精神ノ修養ヲ輕視シ之カ向上ヲ忽ニシタルニ因ルモノト謂フヘ
ク從テ其ノ紀律ノ精神修養ノ輕視ハ本件事犯ノ一因ナリト謂ハ
サルヘカラス

ニ非ス眞ニ一箇ノ私心ヲ有セザリシモノナリ
惟テ我國ハ上ニ萬世一系ノ皇運ヲ奉戴シ建國ノ昔ヨリ君民一體
實ニ萬邦無比ノ國體ニシテ國民ハ正ニ克ク建國ノ精神ヲ饒シ天壤
無窮ノ皇運ヲ扶翼シ奉ルヘキノ使命ヲ有ス、從テ國民ヲシテ眞ニ
其ノ使命ヲ覺醒セシメントスル被告等ノ窮極ノ目的ハ寧ろ時世ニ
適切ナルモノト謂ハサルヘカラス

5. 本件事犯ノ原因ニ就テ

本件事犯ハ被告等カ我國內外ノ情勢ニ照シ直接行動ニ依リ所謂
支配階級ヲ打倒シテ國家ノ現狀ヲ革新セントコトヲ企圖シタルニ出
タルモノニシテ其ノ原因ト曰スヘキモノ次ノ如シ

1. 國防觀ニ對スル不滿

凡ソ軍人ハ世論ニ惑ハス政治ニ拘ラス其ノ職ヲ守リ其ノ職ヲ盡
スヲ以テ第一義トスヘキハ勿論ナリ、雖其ノ職分ハ國家ノ保護
ニ在ルカ故ニ事苟モ國防ニ關スル限リ假令政治的問題ニ付テモ
全然之ニ無關心ナル能ハサルハ蓋シ免カレサル所ナリ而シテ世
界大變後我國國民ノ間ニ於テ或ハ軍備縮小ヲ以テ世界ノ大勢ニシ
テ平和ノ由テ來ル所ナリト爲スモノアルニ至リ更ニ一面國家財
政ノ不如意ト相俟テ政黨政治家達ノ間ニ於テモ我國軍備ノ縮減
ヲ唱フルモノアルニ至リ殊ニ海軍軍縮問題ニ絡ミ統帥權干犯問
題ヲ生スルアリテ爲ニ軍人ノ心意ヲ刺戟シ被告等ノ亦亦痛ク之カ
刺戟ヲ受ケ茲ニ政黨財閥特權階級等カ私利私慾ノ爲國防ヲ輕視
セルモノト爲シ之ニ對シ深ク不滿ヲ覺ヘ更ニ此等支配階級ノ腐
敗墮落ヲ信スルニ及ヒ深ク之ニ對シ反感ヲ抱クニ至リ茲ニ此等

3. 國法及軍紀ノ輕視

凡ソ國民ハ國法ヲ尊重シ敢テ違ハサラントコトヲ期セサルヘカ
ラス殊ニ軍人ニ在リテハ軍人職分ニ於テ法律規則ニ違犯シ罪ヲ
國家ニ得ルニ至テハ父祖ヲ辱シメ家聲ヲ汚シ後世ニ遺ス濁
リ其身現在ノ恥辱ノミナラサルナリ況ンヤ軍罪ノ如キハ各人天
賦ノ公權ヲ剝奪セラレ世ニ立チ人ニ接スルモ總テ對等ノ權利
ヲ得サルニ至ルニ於テヤ名譽ヲ尙トヒ廉恥ヲ重シスルノ軍人
ニ在リテハ殊ニ戒慎ヲ加ヘサルヘカラス就中陸軍刑法ハ軍隊ノ
害ヲ爲ス者ヲ懲ス爲メニ特ニ設ケラルルモノタルヲ以テ其ノ刑
亦頗ル嚴ナリ軍人ニシテ之ヲ犯セハ當ニ本分ヲ誤リ軍務ノ安寧
ヲ害スルノミナラス遂ニ世人ノ信用ヲ損シ陸軍ノ榮譽ヲ汚ス等
其實更ニ軍中不潔自ラ戒備シ決シテ違犯スヘカラスモノ也
ト定メラレ且之カ違守ヲ宣誓セルモノナルカ故ニ特ニ國法ヲ尊
重スヘキハ勿論其ノ行動ハ嚴肅ナル軍紀ニ依リ律セラルヘキモ
ノナルカ故ニ常ニ軍紀ヲ尊重シ克ク上長ニ服從シ法規ヲ恪守ス
ヘク決シテ自恣的行動ヲ許容スヘキモノニ非ス從テ恣ニ徒黨ヲ
結ビ集團ノ直接行動ヲ敢行スルカ如キハ特ニ國法ヲ尊重シ軍紀
ヲ恪守スヘキ軍人ノ斷シテ認容スヘキモノニアラサル事論ヲ俟
タス
然ルニ被告等ハ本件直接行動カ國法ニ觸レ軍紀ヲ紊リ且大體
ニ依ラスシテ行動スルモノナルヲ知リ乍ラ我國現在ノ難局打開
ノ爲ニハ何等介意スヘキニアラストシ且事實上之ヲ敢行スルニ
至リタルモノナルカ故ニ畢竟被告等カ國法及軍紀ヲ輕視シタ

二、法律論

ルニ因ルモノニシテ是亦本件事犯ノ一因ナリトス

一、被告人等ノ身分ト陸軍刑法ノ適用ニ就テ
被告人等十一名ハ孰モ本件直接行動執行當時士官候補生タリ且陸軍士官學校本科生徒タリシモノナルカ故ニ陸軍補充令第五十五條兵役法施行令第一條等ニ依リ陸軍所屬ノ生徒タリシコト明瞭ニシテ從テ陸軍刑法第九條第一項第一號ニ所謂陸軍所屬ノ生徒ニ該當スルノミナラス同條第二項ニ基テ命令即明治四十一年勅令第二百五十五號(陸軍刑法ヲ適用セラル陸軍所屬ノ學生、生徒ニ關スル件)ニ依リ特ニ除外セラレタルモノ(陸軍各部依託學生、生徒)ニ非サルカ故ニ陸軍刑法上陸軍軍人ヲ以テ律セラレ從テ當然陸軍刑法ノ適用ヲ受クヘキ者ナル事論ヲ俟タス

二、被告人等ノ行為ト反亂罪ノ成立ニ就テ
被告人等十一名ハ前述ノ如ク陸軍刑法上陸軍軍人ヲ以テ律セラルル身ヲ以テ政黨財團及特種階級等ノ支配階級ニ對シ共力シテ直接行動ヲ敢行スル目的ノ下ニ同志トシテ五ニ團結シタル上更ニ同種ノ目的ヲ有スル海軍將校等ト提携合同シ相共ニ手榴彈銃等ヲ携ヘ且此等ヲ使用シテ本件直接行動ヲ敢行シタルモノニシテ其ノ行為ハ當然陸軍刑法第二十五條ノ罪即反亂罪ハ陸軍軍人(黨ヲ結ビタルコト)兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタル事ノ二個ノ條件ヲ具備スルニ依リ成立スルモノニシテ

1. 「黨ヲ結ビ」トハ黨ヲ形成スルヲ謂ヒ、黨トハ一定ノ目的ヲ爲

ニ共力ノ意思ヲ以テ結合シタル二人以上ノ團體ヲ義ナリ
而シテ被告人等十一名ハ前述ノ如ク所謂支配階級打倒ノ目的ノ下ニ共力スル意思ヲ以テ相團結シテ一體の結合ヲ爲シタルモノナルカ故ニ其ノ「黨ヲ結ビ」タルモノニ該當スルヤ極メテ明ナリ

2. 「兵器ヲ執リ」トハ兵器ヲ其ノ性能ニ從テ使用シ又ハ直ニ使用シ得ヘキ狀態ニ置クヲ謂ヒ、兵器トハ機關ニ於テ直接攻撃又ハ防禦ノ用ニ供セラルヘキ特性ヲ有スル物件ノ義ナリ
而シテ本件直接行動ニ於テ使用セラレタル手榴彈銃等ノ如キハ當然如上ノ特性ヲ有スルモノナルカ故ニ其ノ「製式等」如何ニ拘ラス所謂兵器タルコト疑ヲ容レズ又被告人等十一名ハ此等兵器ヲ使用シ本件直接行動ヲ敢行シタルモノニシテ即チ所謂「兵器ヲ執リ」タルモノナルコト亦論ヲ俟タス

3. 「反亂ヲ爲シ」トハ國權ニ對シ合同の暴力ヲ行使スルノ義ナリ而シテ本件被告人等十一名ハ多衆ノ合同の暴力ヲ以テ内閣總理大臣官邸ニ侵入シタルノミナラス國務各大臣ノ官邸トシテ國政ノ樞機ヲ掌レル内閣總理大臣大藏省ヲ殺害シ且帝都警察廳ノ中樞タル警視廳ヲ襲撃シ更ニ内大臣官邸、政友會本部、日本銀行三處ヲ襲撃及東京市附近ノ變電所數箇所ヲ襲撃シテテ帝都ヲ治安ヲ亂シタルモノニシテ即國權ニ對シ合同の暴力ヲ行使シタルモノニ外ナラサルカ故ニ所謂「反亂ヲ爲シ」タルモノニ該當スル事毫モ疑ヲ容レズ

即チ被告人等十一名ノ行為ハ陸軍刑法第二十五條反亂罪ノ構成條

件ヲ總テ具備セルモノナルカ故ニ同條ニ所謂黨ヲ結ビ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シタルモノニ該當スルモノト謂ハサルヘカラス

三、被告人等ノ反亂罪上ノ地位ニ就テ
陸軍刑法第二十五條ハ其ノ第一號乃至第三號ニ於テ首魁以下ノ區別中何レニ該當スルヤヲ案スルニ

1. 「首魁」トハ合同體ニ於ケル主動者ノ地位ニ在ル者ヲ謂ヒ
 2. 「謀議ニ參與シタル者」トハ合同體ニ於ケル計畫ノ立案者ハ密議ニ參與シタル者ヲ謂ヒ
 3. 「群衆ヲ指揮シタル者」トハ合同體ノ實行行動ニ方リ群衆ヲ指揮命令シタル者ヲ謂ヒ
 4. 「其他諸般ノ職務ニ従事シタル者」トハ合同體ノ計畫ニ基キ又ハ首魁若ハ指揮者ノ指揮命令ニ依リ謀議參與者ハ群衆指揮以外ノ特定任務ニ従事シタル者ヲ謂ヒ
 5. 「附和隨行シタル者」トハ何等特定ノ任務ヲ有セスシテ合同體ノ實行行動ニ參加同行シタル者ヲ謂フ
 6. 「在リタル者」トハ非ス又右合同體ニ於ケル計畫ノ立案者ハ密議ニ參與シ又ハ合同體ノ實行行動ニ方リ群衆ヲ指揮命令シタル者ニ非サルコト事實明白ナルカ故ニ所謂「首魁」ニ勿論「謀議」ニ參與シタル者及「群衆ヲ指揮シタル者」ニモ該當セス
- 然モ被告人等十一名ハ孰モ本件直接行動ノ實行計畫ニ基キ各所定ノ目標ノ實現ヲ分擔シ且該任務ニ従事シタル者ニシテ決シテ何等特定ノ任務ヲ有セスシテ單ニ實行行動ニ參加同行シタル者ニア

國家主義系不穩事件論告並判決錄

ラサルカ故ニ所謂「附和隨行シタル者」ニ非スシテ「其ノ他諸般ノ職務ニ従事シタル者」ニ外ナラサルコト極メテ明白ナリ

從テ被告人等ノ行為ハ同條第二號後段ニ該當スルモノニシテ三年以上十五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處スヘキモノナリ

四、被告人等ノ行為ト反亂罪以外ノ罪名トノ關係ニ就テ
被告人等ノ行為ハ前述反亂罪ノ外更ニ殺人、殺人未遂及爆發物取締則違反等ノ罪名ニ觸ルルヤ否ヤニ付案スルニ反亂罪ハ黨ヲ結ビ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲スニ依リ成立スルモノニシテ即兵器ヲ執リ反亂ヲ爲スコトヲ以テ犯罪構成條件ノ一ト爲スモノナルカ故ニ其ノ反亂行為ニ依リ又ハ物ニ對シ殺傷又ハ損壞ヲ加フル事アルヘキハ勿論兵器ニ屬スル爆發物ヲ使用スルカ如キハ當然豫想セサルヘカラサル事ニ屬シ又反亂罪ハ治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害スル目的ニ出テタルモノヲ包含スルコト論ヲ俟タルカ故ニ反亂行為自體カ殺人、殺人未遂又ハ爆發物取締則違反等ノ嫌疑ヲ有スル場合ト雖モ此等ハ總テ反亂罪ノ罪體ニ包括セラルルモノニシテ別ニ他ノ罪名ニ觸ルルモノト爲スヘキニ非ス

三、情狀論
被告人等ハ本件決行ニ當リテハ警視廳ヲ決戦スルコトヲ知り警備隊トノ決戦テハ死スルコトノ覺悟ニテ進軍ヲ認メ諸準備ヲ整ヘタルモノニシテ自ハ單ニ統制ニ服従シタルニ過キス討死ハ當初ノ決心ナリ被告人等身上及地位ニ付テハ教育ノ階ニ於テハ近ク將校タラントスルモノナルカ軍隊學校生活ノミニテ社會トノ交遊薄ク且社會上重要ノ地位ニ在ルニ非ラズシテ又事件ヲ指導シタルモノニ非ス被告人

國家主義系不穩事件論告判決録

等ノ境遇ニ付テ特ニ申述フヘキ點ナキモ國家革新ノ經歷ニ付テモ僅
カニ事件ノ前年ヨリ思想ヲ抱クニ至リシモノニシテ亦性質素行ニ付
非誠スヘキ點ナシ當初ヨリ死ヲ賭シ愛國ノ赤誠ニ燃ヘ私心ナク純眞
無垢ナル點ハ一考スルノ要アリ

第四、求刑

求刑ニ先ツテ一言シタイ求刑ハ本職獨自ノ意見ニ基キ絶大ノ信念ニ
依テ求刑スルノテアツテ他ノ干渉ヲ受ケ左右サレ動カザレルモノテ
ナイコトヲ斷言シマス

被告人等十一名ニ對シテ何レモ陸軍刑法第二十五條第一號後段ノ
「其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ二年以上ノ有期懲役又ハ禁錮
ニ處ス」トアルモノ禁錮ヲ相當ト認メマシテ

- 被告人 後藤 映 純
- 中島 忠 秋
- 篠原 市之助
- 入木 春 雄
- 石 清 榮
- 金 清 三郎
- 野村 武 敏
- 西川 武 敏
- 菅 原 政 巳
- 吉 原 政 巳
- 坂 元 榮 一

以上十一名ニ對シテ夫々禁錮八年ヲ求刑シマス

八、五・一五事件(陸軍側)判決書

判決

大分縣大野郡大洞町大字下津尾三千七百三十二番地

重徳 二男

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 後藤 映 純

山口縣山口市大字上宇野令千六百三十三番地

土族 戸主

元野戰重砲兵第四聯隊

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 中島 忠 秋

愛媛縣宇摩郡川浦村大字榮生五十八番地

信市 二男

元飛行第四聯隊
陸軍士官學校本科第二中隊派遣
元士官候補生 篠原 市之助
明治十七年一月二十二日生

愛媛縣越智郡乃万村大字矢田甲五百六十七番地第一

海邊 五男

元飛行第六聯隊

陸軍士官學校本科第二中隊派遣

元士官候補生 八木 春 雄

山形縣米澤市本五十騎町四千八百八十五番地

繁次 弟

元歩兵第七十三聯隊

陸軍士官學校本科第二中隊派遣

元士官候補生 石 清 榮

山口縣都濃郡下松町大字東野千二十六番地

政吉 長男

元歩兵第七十七聯隊

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 金 清 三郎

青森縣弘前市大字鹽分町三千四番地

土族 眞市 三男

元歩兵第三十一聯隊

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 野村 三 郎

明治十七年一月一日生

國家主義系不穩事件論告判決録

福岡縣福岡市地行東町四百四十四番地

注連吉 長男

元歩兵第七十九聯隊

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 西川 武 敏

茨城縣東茨城郡酒門村大字酒門六十六番地

土族 孝次郎 五男

元飛行第六聯隊

陸軍士官學校本科第二中隊派遣

元士官候補生 菅 原 政 巳

宮崎縣北諸縣郡西嶽村千九百九十番地

土族 戸主

元野砲兵第一聯隊

陸軍士官學校本科第一中隊派遣

元士官候補生 吉 原 政 巳

宮崎縣西諸縣郡野村大字原田三十六番地

新藤 長男

元歩兵第七十五聯隊

陸軍士官學校本科第四中隊派遣

元士官候補生 坂 元 榮 一

明治十七年十月二十五日生

右ノ者等ニ對スル反復被告事件ニ付當軍法會議ハ檢察官陸軍法務官
包坂泰平干與審理ヲ違フ判決スルコト左ノ如シ

主文

被告人後藤映範同中島忠秋同藤原市之助同八木春雄同石關榮
同金清豐同野村三郎同西川武敏同吉原政巳同坂本兼
一ヲ各禁錮四年ニ處ス

但シ各被告人ニ對シ夫々未決拘留日數百五十日ヲ各本刑ニ算入ス

理由

被告人等ハ孰レモ陸軍士官學校在學中同校ニ於ケル訓育ニ因リ軍人
精神ヲ涵養シ專道ノ真髓ト體認シ尊嚴ノ對スル不拔ノ確信ヲ得
シ有事ノ日欣然シテ起テ慷慨死ニ赴クノ信念愈々鞏固ナルニ至リ
シカ昭和六年九月下旬ヨリ翌七年二月頃迄ノ間ニ於テ或ハ步兵第三
聯隊附陸軍歩兵中尉菅波三郎ノ許ニ出入シ同人ヨリ一君萬民ヲ基調
トスル天皇親及國體觀、現時ノ腐敗墮落セル政治經濟其ノ他一般ノ
社會狀態明治維新志士ノ言行、我國現下ノ狀勢ト軍人ノ使命等ニ關
スル所説ヲ聽キ或ハ國體思想、社會問題等ニ關スル書籍及各種ノ新
聞雜誌ヲ閱讀シ、或ハ同盟會ニ於テ互ニ意見ヲ交換シ行ヒ茲ニ我國
現下ノ狀態ヲ日シ皇道扶翼ノ精神ハ日ニ衰ヘ國體ノ尊嚴ハ日ニ疎ン
セラレ所謂支那階級タル政黨財閥及特權階級ハ腐敗墮落シ相持リ相
助ケテ私利私慾ニ没頭シ國防ヲ輕視シ國政ヲ紊リ外國威ノ失墜ヲ招
キ内民心ノ頹廢、農村ノ疲弊ヲ來セル等皇國ノ前途頗ル憂フヘキモ
アルノミナラス特ニ滿洲事變ノ勃發ニ伴フ國際狀勢及倫常軍縮條
約ノ結果我對外國係ノ危險ハ一日ノ給アリ許サズトシ速ニ此等時勢

ヲ改正シ以テ建國ノ精神ニ基ク皇國日本ヲ確立スル爲メ國家革新ノ必
要ヲ痛感シ而モ彼上進層ノ事應ト被告入當時ノ境遇上到底合法手段
ヲ以テシテハ之カ改正ヲ期シ難シトシ遂ニ自ラ國家革新ノ爲メ槍
トナリ直接行動ニ依リ是等支配階級一ノ角ヲ打倒シ支那階級及一般
國民ノ覺醒ヲ促シ以テ國家革新ノ機運ヲ醸成センコトヲ欲シ昭和七
年二月頃迄ニ逐次同志トシテ相結東シ以テ機會ノ到來ヲ待テリ
然ルニ是ヨリ先接テ海軍部内ノ同志ト共ニ國家革新運動ニ從事シ居
リタル海軍中尉古賀清志、同中村義雄ハ民間同志井上昭一派ノ所謂
血盟團事件ノ後ヲ承ケ同志ヲ糾合シ、集團的直接行動ニ依リ、國家革
新ノ機運ヲ促進センコトヲ企圖シテ連絡セシ陸軍部内ノ一部青年
將校ニ對シ共ニ驅起センコトヲ豫定シタルモ之ニ應スルモノナカリ
シヨリ豫テ被告人後藤映範、同藤原市之助其ノ他、士官候補生中ニ
國家革新ニ關心ヲ有スル者アルヲ知り同人等ヲ誘致シテ共ニ事ヲ舉
ケンコトヲ企テ同年三月中旬陸軍歩兵中尉、安藤三ヲ介シテ被告
人等ニ會見ヲ求メ中村義雄ハ同月二十日步兵第三聯隊ニ於テ安藤三
三其他ノ陸軍將校及被告人等ノ代表者タル被告人坂元兼一ニ面接
シ先ツ陸軍將校ニ對シ海軍部ハ近ク驅起ノ意圖ヲ有スル旨ヲ告ケ陸
軍部將校ノ後援ヲ起シ勸説シタルモ陸軍將校、何等明答ヲ與ヘズ暗
ニ之ヲ拒否スルノ態度ニ出テタルニヨリ被告人坂元兼一ハ陸軍將校
ノ態度ヲ懷ラズト爲シ中村義雄ヲ別室ニ伴ヒ自分ハ貴官ト同意見ナ
ル旨及他同志ノ士官候補生十名アル旨ヲ告ケタルニ中村義雄ハ右
士官候補生等ト會見シテ意思ヲ疏通シ計リタキ旨ヲ申出テタルニヨ
リ被告人坂元兼一ハ明二十一日東京市外大久保百人町(現淺橋區

百人町三丁目二七七七八番地) 藤田儀治所有ノ貸家ニ於テ會合セン
コトヲ約シ歸校後之ヲ他ノ被告人等ニ傳ヘタリ而シテ各被告人中
島忠秋ヲ除キタル後藤映範等十名ハ翌三月二十二日日記代家ニ於テ
元士官候補生池松武志ト共ニ古賀清志及中村義雄ト會合シ古賀清志
ヨリ被告人等ニ對シ吾人ハ救國濟民ノ大義懸心ニヨリ驅起シ井上昭
一派ノ所謂血盟團ノ社會ニ與ヘタル影響ヲ擴大シ革命ノ段階ニ進マ
シメシガ爲メ石トナリ支那階級ニ對シ直接行動ヲ敢行セントスルノ
意圖ヲ有ス吾人ノ別働隊トシテ茨城縣ノ農民同志アリ決行時後ハ來
ル四月中旬乃至五月中旬ノ間ニ之ヲ選定シ又所要ノ武器ハ海軍部ニ
於テ之ヲ準備スヘキ旨等ヲ告ケ被告人等及池松武志ノ參加ヲ求メタ
ルニ同人等ハ孰レモ即時之ニ贊同シ古賀清志等ノ直接行動ニ參加セ
ンコトヲ約シ又當日事故ノ爲右會合ニ出席セザリシ被告人中島忠秋
ハ同月二十七日被告人後藤映範ノ日曜下宿ナル同市四谷區坂町番地
不詳坂田權方ニ於テ被告人後藤映範、同坂元兼一ト共ニ古賀清志
ト會合シ古賀清志ヨリ前記三月二十一日會合ノ際同人カ被告人後藤
映範等ニ開陳セルト同一趣旨ノ意圖ヲ聞キ直ニ之ニ贊同シ其ノ直接
行動ニ參加センコトヲ約スルニ至レリ而シテ同年三月二十日頃豫テ
國家革新運動ニ關心ヲ有シ居リタル明治大學生東田秀夫ハ中村義雄
ノ勸誘ニ依リ又愛媛縣喜多郡三郎ハ古賀清志ノ交渉ニ應シ同熱教師
後藤國彦及同塾生等ト共ニ各其ノ直接行動ニ參加センコトヲ約スル
ニ至レリ

三上京等ノ入手セル海軍陸隊陸隊用手榴彈及拳銃、同實包等ノ蒐集ヲ
圖ルト共ニ神武會長大川周則、天行會長頭山秀三等ヨリ拳銃及實包
ヲ供給ヲ受ケ又池松武志、奥田秀夫ヲシテ短刀ヲ購入セシメ且實包
榴彈二十一箇拳銃十三挺同實包數百發短刀十數刀ヲ蒐集シ且資金
トシテ大川周則ヨリ數次ニ合計金六千四百圓ヲ受領シ又實行計畫トシテ
ハ同志ノ直接行動ニヨリ海軍部ヲ治安ヲ擾亂シ戒嚴ノ宣告ヲ見ルニ至
ルヘキ事應ヲ作スル方針トシテ海軍部同志被告人等、池松武志及
奥田秀夫ヲ數組ニ分チ首相官邸、内府官邸、警視廳等ヲ襲撃シテ首相
及内府ヲ暗殺シ帝都ノ警備力ヲ破壊シ又兩率三郎一派ノ農民同志ヲ
別働隊トナシ右各組ノ行動ト相呼應シテ東京市附近ノ變電所數ヶ所
ヲ襲撃シ其ノ架線等ヲ破壞シテ電報ヲ不能ナラシムルコト、シ向右別働
隊ノ行動計畫ニ就テハ兩率三郎一派ニ委任シタリ次テ五月十三日茨
城縣新治郡土浦町村山山園ニ於テ古賀清志ハ中村義雄池松武志、
後藤國彦及奥田秀夫ト會合ノ上豫テ古賀清志、中村義雄ノ立案ニ係
ル實行計畫ニ若干ノ修正ヲ加ヘ古賀清志、中村義雄、三上京、後藤國
海軍少尉島若勇、海軍中尉山岸宏、海軍少尉村山啓之、奥田秀夫、池松
武志及被告人後藤映範外十名ヲ四組ニ分チ前記武器ヲ使用シ年長者
ノ指揮統制ノ下、同月十五日午後五時三十分ヲ期シ第一段ニ於テ第一
組ハ首相官邸第二組ハ内府官邸第三組ハ政友會本部第四組ハ三
菱銀行ヲ各襲撃シ第二段ニ於テ第四組ヲ除ク他ノ三組ハ警視廳ヲ襲
撃シ同廳ニ於テ非常召集セルルヘキ警官隊ニ對シ決戦シタル後東京
憲兵隊本部ニ自首スヘキコト、各組ニ對スル人員及武器ノ配置、集合
場所及時刻、武器使用區分其ノ他細部ニ關スル注意事項ヲ書面ニ記

敵シ池松武志ヲシテ右會合ニ出席セサル被告等ニ之ヲ傳達セシメ
被告等ハ同日午後五時頃靖國神社境内ニ於テ三上京島岩山岸宏村
上格之ト會シ三上京島岩山岸宏村後藤鉄範同石關榮及同入木春雄
ハ表門組山岸宏村山岸之被告人籍原市之助及同野村三郎ハ表門組ト
ナリ各組毎ニ一輛ノ自動車ニ分乘シ表門組ノ先頭トシテ共ニ同市
町區水田町内閣總理大臣官邸ニ向ヒ途中車内ニ於テ表門組一同ハ
岩山岸ヨリ表門組一同ハ山岸宏ヨリ夫々武器ノ分配ヲ受ケ表門組三上
京ハ拳銃(實包裝)一挺同實包若干手榴彈一箇及短刀一口黒岩勇ハ
拳銃(實包裝)一挺同實包若干短刀一口被告入後藤鉄範ハ拳銃(實
包裝)一挺同實包若干手榴彈一箇及短刀一口山岸宏ヨリ山岸宏ハ手
榴彈一箇短刀一口村山格之ハ拳銃(實包裝)一挺同實包若干被告入
籍原市之助同野村三郎ハ各拳銃(實包裝)一挺同實包若干手榴彈一
箇ヲ携帶シ表門組一同五時二十七分頃同官邸表門ヨリ自動車ヲ乘入
レ表門組一同下車直ニ同官邸ヨリ屋内ニ闖入シ同支關閣開ニ
於テ同官邸警衛ノ巡查部長村田嘉幸ニ會ヒシヨリ三上京島岩山勇ハ

スル銃劔ヲ負ハシメ因テ同入ヲシテ同月十六日午前二時三十五分
官邸ニ於テ右銃劔ニ基因セル頭蓋内血管ノ損傷ニ因ル出血ニヨリ
救急セラレタル體壓ニ因ル心臓及呼吸器ノ爲死シタルニ至ラシメ
タリ斯クテ射撃ノ命中シタルヲ認ムルヤ山岸宏引上ケノ應ニ應シ
一同日本館正支關ヨリ屋外ニ出テタルニ偵察派山岸八十松カ木刀ヲ
揮ツテ一同迫リ來レルヨリ被告入籍原市之助ハ拳銃ヲ擡シテ之ヲ
脅迫シ黒岩勇及村上格之ハ相次テ同入ニ向ヒ各拳銃一彈ヲ發射シ因
テ同入ニ右大廳貫通銃劔及左前貫通銃劔ヲ負ハシメ一同裏門ヨリ
邸外ニ立出テタリ此時同裏門外ナル巡查派山岸所前ニ於テ氏名不詳ノ
巡查一名カ一同ノ進路ヲ遮ラントシタルヨリ被告入籍原市之助ハ同
巡查ニ對シ拳銃ヲ擡シテ之ヲ脅迫シ一同同市赤坂區瀧池町ニ於テ二
輛ノ自動車ニ分乘シ被告入後藤鉄範同籍原市之助同石關榮ハ三上
京島岩山岸宏ト同乘シ同五時五十分頃同市町區外櫻川町警視廳ニ到リ
タルモ豫期ニ反シ屋外車穩ニシテ警官隊ノ非常召集行ハレタル模様
ナキヲ以テ襲撃ノ翌ナトモトシ其ノ儘同裏門ヲ通過シ同日午後六
時頃東京憲兵隊本部ニ自首シ被告入入木春雄同野村三郎ハ黒岩勇村
山格之ト同乘シ同五時五十分頃警視廳ニ到リ正面支關閣前ニ於テ一同
下車シテ同廳舎内ニ侵入シ二階一室ノ硝子戸ヲ蹴破ル等暴行ヲ爲シ
タル上同廳ヲ引上ケ自動車ニテ東京憲兵隊本部正門前ニ到リ内部ノ
狀況ヲ窺ヒ同志來客ヲモテ思惟シタルカ力カ四々警視廳ヨリ
自動車ニテ同人等ヲ追跡シ來リタル同廳警備部補新堀虎吉ヲ發見シ黒
岩山岸ハ之ニ對シ拳銃ヲ擡シ同警備部補ノ逃レントスル後方ヨリ一彈ヲ
發射シタルモ命中セズ次ニ黒岩勇ノ發意ニ基キ同市日本橋區兩替町

日本銀行ヲ襲撃スルタメ一同自動車ニテ同六時頃同銀行前ニ到リ
被告入野村三郎及村上格之ノ兩名下車シ被告入野村三郎ハ黒岩勇ノ指
示ニヨリ同銀行ノ前庭ニ進ミ正支關閣ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シ支關
前庭ニ於テ炸裂セシメ其ノ破片ニヨリ同銀行正支關閣右段及敷石等
ニ多數ノ彈痕ヲ生セシメタル上一同同所ヲ引上ケ同日午後六時頃東
京憲兵隊本部ニ自首シ被告入西川武敏同菅野同坂元兼一ハ第二組ニ
屬シ同日午後五時頃一同市芝區高輪區高輪寺境内ニ於テ古賀清志池松
武志ト會シ同寺山門附近ノ茶店力亭山口彌太郎方二階ニ於テ古賀
清志ヨリ行動要領ノ概要ヲ指示セラレ一同同入ヨリ武器ノ分配ヲ受
ケ古賀清志池松武志ハ各拳銃(實包裝)一挺同實包若干手榴彈一箇
被告入西川武敏ハ拳銃(實包裝)一挺同實包若干被告入菅野同坂元
兼一ハ各手榴彈一箇及短刀一口ヲ携帶シ同日午後五時十分頃同店ヲ
出テ自動車ニ同乘シ同市芝區三田區町内大臣牧野伸顯官邸ニ向ヒ同
五時二十四分頃同官邸正門前ニ到リ自動車ヲ止メ被告入西川武敏同
菅野同坂元兼一ハ車内ニ止リ被告入西川武敏ハ拳銃ヲ擡シテ自動車
運轉手ヲ威嚇シ被告入菅野同坂元兼一ハ外部ノ警戒ニ任シ古賀清
志及池松武志ノ兩名ハ下車シテ先ツ古賀清志ハ同門前ヨリ門内ニ向
ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シ支關閣前庭ニ於テ之ヲ炸裂セシメ其ノ破片ニ依
リ同官邸正支關閣及附近ノ板塀等ニ多數ノ彈痕ヲ生セシメ池松武志モ
亦之ニ續イテ手榴彈一箇ヲ門内ニ向ヒ投擲シタルモ不發ニ終リ次
テ古賀清志ハ同邸立番勤務中ノ巡查番井井一ニ對シ拳銃一彈ヲ發射シ
テ同人ノ左肩脛處突刺部ニ貫通銃劔ヲ負ハシメタル後一同再び自
動車ニ同乘シテ警視廳ニ向ヒ途中豫テ海軍側同志ノ絶倫セル「日本

拳銃ヲ擡シ同人ヲ脅迫シテ首相大義毅ノ許ニ案内セシメントシタル
モ果サズ又被告入後藤鉄範ハ同所ニ居合セタル私服巡查カ支關外ニ
逃レ出テントセシヲ以テ背後ヨリ拳銃一彈ヲ發射シタルモ命中セズ
次テ一同首相ノ所在ヲ覺メテ同官邸洋間ヲ搜索シタル後三上京島
本館ニ通スル廊下ヲ發見シ同廊下板戸ヲ蹴破リテ一同ト共ニ内部ニ
侵入シ同洋間式客間ニ於テ巡查田中五郎ニ對シ首相ノ所在ヲ訊シタ
ルニ同人ノ態度反抗的ナリシニヨリ之ヲ憤リ同人ニ對シ拳銃一彈ヲ
放チ其ノ右胸部ヨリ膝臟ヲ損傷シ右側腹部ニ通スル貫通銃劔ヲ負ハ
シメ因テ同人ヲシテ同日二十六日同市赤坂區傳馬町一丁目二十番地
前田外科病院ニ於テ前記傷傷ニ基ク膝臟壞死ニ因リ死亡スルニ至ラ
シメタリ表門組ハ表門組ヨリ僅カニ後レテ同五時三十分頃同官邸裏
門附近ニ於テ一同下車シ同門ヨリ邸内ニ進ミ被告入籍原市之助ハ山
岸宏ノ指示ニヨリ同官邸日本館正支關閣前ニ於テ外部ヲ警戒中同所ニ
接近シ來リタル氏名不詳ノ數名ニ對シ威嚇ノ目的ヲ以テ拳銃一彈ヲ
發射シ爾後同支關閣ニ止リ他ノ一同ハ直ニ右正支關閣ヨリ屋内ニ侵入シ
テ表門組ト相合シ一同五二首相ノ所在ヲ搜索シタルニ間モナク三上
京島岩山岸ニ於テ首相ヲ發見シ直ニ之ニ對シ拳銃ヲ向ケ引鐵ヲ
引キタルモ發射セズ次テ首相ノ誘導ニヨリ同館十五樓數客室ニ到リ
途中大廳ヲ揚テ一同ニ發見ノ旨ヲ報シ同室ニ入り一同ト共ニ起立
レ俛首相ト相對シ一ニ問答ノ際突如山岸宏ハ「撃テ」ト叫ツヤ
黒岩勇ハ之ニ應ジテ首相ノ左前方ヨリ同人ニ向ヒ第一彈ヲ放チ左下
顎骨ヲ直上ヨリ頭蓋内ニスル貫通銃劔ヲ負ハシメ三上京島岩山勇亦直
ニ第二彈ヲ放チ首相ノ右額部耳發前方ヨリ右眼外骨ノ上方ニ貫通

國民ニ激ス。ト題スル激文數百枚ヲ沿道ニ撒布シ同五時四十五分頃
第三組ニ稍遅レテ警視廳ニ到着シタル處俟期ニ反シ決戦ヲ試ムヘキ
警官集合シ在ラザリシモ同應表支關附近ノ車道ニ停車シ古賀清志ヲ
除ク外一同下車シ被告人齊動及同坂元第一ハ古賀清志ノ指示ニ基キ
相次テ路上ヨリ同應舍ニ向ヒ各手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ何レモ不
發ニ終リ被告人西川武敏及池松武志ハ自動車内ナル古賀清志ト共ニ
表支關ニ向ツテ各暴徒一彈ヲ發射シ因テ同支關車寄ニ居合ハセタル
警視廳書記長坂弘一ニ對シテ上野區貫通線側及右隣警備隊員銃剣ヲ讀
賣新聞記者高橋龍三對シテ右隣貫通線側ヲ負ハシメタル上一同同所
ヲ引上ケ同日午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シ
被告人中島忠秋同金清豐同吉原政巳ハ第三組ニ屬シ同日午後四時三
十分頃新橋驛ニ於テ中村義雄ト會シ同驛前ニテ自動車ニ同乗シタル
モ未タ決行時刻ニ達セザリシニ依リ市内各所ヲ逡巡シ其ノ間車内ニ
於テ中村義雄ヨリ武器ノ分配ヲ受ケ中村義雄ハ拳銃(實包裝)一挺
同實包若手榴彈一箇被告人中島忠秋ハ拳銃(實包裝)一挺同實包
若手榴彈一箇及其ノ所有ニ係ル短刀一口同金清豐ハ手榴彈一箇及
短刀一口同吉原政巳ハ拳銃(實包裝)一挺同實包若手榴彈一箇及
時三十分頃同市町區内山下町立憲政友會本部前ニ到リ中村義雄ハ
單身下車シテ同本部前ヨリ僅ニ構内ニ入り支關ニ向ツテ手榴彈一
箇ヲ投擲シタルモ不發ナリシヨリ之ヲ拾ヒテ再ヒ前同標之ヲ投擲
シタルモ更ニ不發ニ終リシヲ以テ被告人中島忠秋ハ直ニ下車シテ同
本部構内ニ入り中村義雄ノ指示ニヨリ同支關ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投

擲シ支關前ニ於テ炸裂セシメ其ノ破片ニヨリ同支關及支關前露臺附
近ニ多數ノ彈痕ヲ生セシメ其間被告人吉原政巳ハ車内ニ在リテ拳銃
ヲ擬シ自動車運轉手ヲ威嚇シタル上一同同所ヲ引上ケ自動車ニテ警
視廳ニ向ヒ同五時四十分頃同應舍ニ到着シタル處俟期ニ反シテ決戦ヲ
試ムヘキ警官集合シ在ラザリシモ同應表支關前車道ニ停車シ被告人
中島忠秋中村義雄ハ車内ニ止リ被告人金清豐ハ同應表支關左側車道
ヨリ同應舍ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ炸裂セザリシニヨリ更
ニ之ヲ拾ヒ再ヒ前同標之ヲ投擲シタルニ過ツテ路傍ノ鐵塔電柱ニ命
中炸裂セシメテ電線及導子ニ多數箇ノ彈痕ヲ生セシメタル上一同自
動車ニテ同所ヲ引上ケ途中車内ヨリ前同標ノ激文數百枚ヲ沿道ニ撒
布シ同日午後五時五十分頃東京憲兵隊本部ニ自首シ
被告人中島忠秋同金清豐同吉原政巳ハ同日午後四時三十分頃同市町區
内山下町立憲政友會本部前ニ到リ中村義雄ト會シ同驛前ニテ自動車
ニ同乗シタルモ未タ決行時刻ニ達セザリシニ依リ市内各所ヲ逡巡シ
其ノ間車内ニ於テ中村義雄ヨリ武器ノ分配ヲ受ケ中村義雄ハ拳銃
(實包裝)一挺同實包若手榴彈一箇被告人中島忠秋ハ拳銃(實包裝)一
挺同實包若手榴彈一箇及其ノ所有ニ係ル短刀一口ヲ受領シ翌十五日
午後七時三十分頃同市町區有樂町三麥銀行裏ニ到リ同銀行構内ニ向
ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ不發ニ終リ大貫明幹ハ高層澤與一
ト共ニ同日午後七時二十分頃同府北豐島郡尾久町所在鬼怒川電氣

株式會社東京電燈所ニ到リ高層澤與一ヲシテ手榴彈一箇ヲ投擲シ
向ヒ投擲セシメタルモ不發ニ終リ塙五百枝ハ同日午後七時二十分頃
同府北豐島郡尾久町所在東京電燈株式會社田端變電所ニ赴キタルモ
遂ニ手榴彈ヲ投擲スルニ至ラズ小室力也ハ同日午後七時過頃同府
多摩郡戸塚町所在東京電燈株式會社日自變電所附近ニ赴キタルモ
變電所ニ到ラスシテ製機ヲ斷念シ横須賀喜久屋ハ同日午後七時過頃
埼玉縣北足郡鳩ヶ谷町所在東京電燈株式會社鳩ヶ谷變電所ニ到リ
屋外變機器ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ温水秀則ハ
同日午後七時十分頃東京府豊多摩郡滝橋町所在東京電燈株式會社
滝橋變電所ニ到リ構内建物ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セ
シメタルモノナリ

(證據有略)

法律ニ照スニ各被告人カ然ラ結ヒ兵器ヲ執リ反亂ヲ爲シ諸般ノ職務ニ
從事シタル判示所爲ハ各陸軍刑法第二十五條第一號後段ニ該當ス
量刑ニツキ按スルニ本犯罪ノ原因動機及目的等ニツイテハ之ヲ諒ト
スヘキモノアルモ至嚴ナルヘキ軍紀ヲ著シタル點ハ特ニ其ノ情甚タ
輕カラサルヲ以テ各被告人ニ對シ禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定期限範圍
内ニ於テ各被告人ヲ各禁錮四年ニ處スヘク各刑法第二十一條ニ依リ
夫未決拘留日數百五十日ヲ各本刑ニ算入スヘキモノトス

昭和八年九月十九日

第一師團軍法會議

裁判長判士陸軍砲兵中佐 西村 琢 磨

國家主義系不穩事件報告裁判決録

裁判官陸軍法務官 島田 明三 郎

裁判官判士陸軍歩兵大尉 平川 隆 之 郎

裁判官判士陸軍歩兵大尉 川 島 修 修 郎

裁判官判士陸軍歩兵大尉 横 田 洋 洋 郎

九、五二五事件(海軍側)公訴狀

左記被告ニ對スル各頭號罪名ノ被告事件審判相成度一件記録並ニ證
據物相添ヘ及公訴提起候也

昭和八年五月十七日

東京軍法會議檢察官海軍法務官

左記

(罪名)

依職海軍中尉 古賀 清 志

同 中村 義 雄

同 三 上 雄

同 預備役海軍少尉 黒 岩 勇

同 依職海軍中尉 山 岸 宏

國家主義系不穩事件論告日誌判決録

同 休職海軍少尉 村山格之
 反亂備 待命海軍少尉 伊東龜城
 同 大庭春雄
 同 待命海軍中尉 林正義
 同 待命海軍大尉 塚野道雄

犯事事實
 被告等ハ孰レモ直接又ハ間接ニ故海軍少佐藤井齊ヲ思想士其ノ感化指導ヲ受ケタルモナラズ右齊ハ海軍兵學校在學時代ヨリ日本ヲ盟主トシテ亞細亞民族ノ大同團結ヲ計リ白色民族ノ横暴ヲ激シ以テ道義ヲ世界ニ布カントスルノ所謂大亞細亞主義思想ヲ抱懷シ被告古賀清志同村山格之等ヲ指導シテ共ニ同志擴大ニ努メ居リシガ昭和五年軍縮會議問題ニ附隨シテ統帥權干犯問題起リ世論沸騰スルヤ之ヲ以テ政黨財閥及右翼軍閥ノ結託ニ依リ斯レ非違ヲ敢テシタルモノトナシ大ニ之ヲ憤ルト共ニ現代日本ニ於テハ政黨政治家財閥及特權階級等何レモ腐敗墮落シテ國家觀念ナク日本ヲシテ政治、外交、經濟、軍備思想等各種ノ方面ニ行詰リテ生ズ國家滅亡ノ虞アルニ至ラシメタリトシ之ヲ革新ノ要アル旨ヲ説キテ被告伊東龜城同大庭春雄等ヲ指導シ同年七月頃茨城縣新治郡土浦町料亭山水園ニ村山格之伊東龜城大庭春雄ニ被告三上京古賀清志、村山格之等十數名ヲ糾合シ國家革新ノ目的トスル一團ヲ形成シテ直接行動ニ依リ非合法運動ニ從事スルコトトナレリ。此ノ前後ニ於テ被告山岸宏ハ伊藤龜城、勸誘ヲ受ケ同年十二月ヨリ被告林正義ハ三上京ノ勸誘ヲ受ケ昭和六年二月、三月頃ヨリ

一〇四

被告中村義雄ハ古賀清志ノ勸誘ヲ受ケ同年十一月ヨリ被告黒岩勇ハ三上京ノ勸誘ヲ受ケ昭和七年一月ヨリ上記藤井齊ヲ中心トスル一團ニ加入シ爾來孰レモ石運動ニ從事シ來リタル處藤井齊ハ上海事變ニ出征シ同年三月五日戦死スルニ至リタルモ被告等ハ依然トシテ其ノ運動ヲ繼續シ被告塚野道雄モ亦林正義ノ勸誘ヲ受ケ同年三月ヨリ之ニ加入シタリ當時設ケ浦海軍航空隊ニ勤務シ運動ノ中心地タル帝都ニ遠カラザリシ關係上古賀清志、中村義雄ノ兩名ハ勢ヒ主トシテ其ノ衝ニ當ルコトトナリシヨリ前記葉志實散ノタメ先づ集團の直接行動ニヨリ帝都ノ治安ヲ紊シテ一時恐慌状態ヲ出現シ以テ戒嚴令ノ布告セララルニ至ルベキ情勢ニ立チ至ラシメ戒嚴令下ニ國家革新ノ實ヲ舉ゲンコトヲ企圖シ豫テ被告等ト其ノ目的ヲ同ジシテ革新運動ニ從事シ居リタル茨城縣茨城郡常盤村三十九番地愛菊長橋三郎同族教師後藤國彦同林正義三、同縣那珂郡前渡村大字前濱九百九十九番地川崎長光明治大學々生奥田秀夫、元陸軍士官候補生池松武志及陸軍士官候補生後藤映鏡外十名ト提携スルニ至レリ而シテ被告等ハ豫テヨリ直接行動ノ準備ニ専念シ之ニ使用スベキ武器入手ニ勵心シテ銃レモ手榴彈等ヲ蒐集セシメ

(一) 村山格之ハ
 一、昭和七年一月二十一日實父從弟佐賀縣小郡郡北多村大字多久原三三十四番地豫備隊歩兵大尉長尾秀雄ヨリ南部式拳銃一挺ヲ入手シ更ニ同人ノ紹介ニ依リ同年二月二十四日海軍少尉澤田源ヲシテ秀雄ノ知人第五師團勤務陸軍歩兵少佐岡田司昇ヨリ同拳銃用彈九百四十發ヲ入手セシメ同年二月中旬澤田源ハ右拳銃

國家主義系不穩事件論告日誌判決録

及彈丸ヲ下宿吳市下山手町二十八番地岩佐六郎ヲシテ古賀清志ニ送付セシメ

二、關遼遼澤ニ乘組シ同年二月二十三日上海ニ出征シ同年四月十六日上海陸海軍中隊團長ニ於テ海軍大尉田崎元武ヨリ「プロローグ」拳銃一挺、同彈丸五十發ヲ入手シ當時通信機トシテ上海ニ於テ世保間ヲ往復シ居リタル關遼遼澤乘組大庭春雄ヲシテ世保ニ持歸ラシメ次々同月二十一日ヨリ是ヲ古賀清志ニ手交シ居リタル手榴彈一箇ヲ其處所持シテ後送セラレ佐世保海軍病院ニ入院セシガ同年二月十二日同所ニ於テ之ヲ林正義ニ手交シ正義ハ同年三月二十二日之ヲ黒岩勇ニ郵送シ

(三) 三上京ハ上海出征中同年二月中旬特別陸隊隊用ノ手榴彈二十箇ヲ入手シテ之ヲ村山格之ニ手交シ格之ハ關遼遼澤乘組大庭春雄ニ手交シ春雄ハ同月二十七日頃之ヲ選擧シテ佐世保海軍團勤務林正義ニ手交シ正義ハ之ヲ同勤務隊野道雄ニ手交シ其ノ私室ニ隠匿セシメ更ニ同年四月二十九日正義ハ佐世保市鹿野町五番地塚野道雄宅ニ運搬シ同所ニ於テ林正義、大庭春雄、黒岩勇及塚野道雄ノ四名ニテ道雄所有ノ手榴彈一箇、同彈丸一箇ヲ持テ歸リ義ニ林正義ヨリ村大字別府四千四百一十一番地ノ實家ニ持テ歸リ義ニ林正義ヨリ郵送ヲ受ケタル一箇ト合セ手榴彈二十一箇ヲ同月二十一日鐵道便ヲ以テ東京市内ニ搬送シ次々友人東京府下王子町下十條千五百五十番地田代平方ニ隠匿シ

(四) 古賀清志、中村義雄ノ兩名ハ同年一月下旬ヨリ三月下旬ニ至ル

一〇五

間ニ於テ同府佐原郡大崎町上大崎二百三十一番地財團法人東亞經濟調査局 理事長齋藤武會頭津島博士大前周、同府豊多摩郡澁谷町常盤橋十二番地天行會長頭山秀三同會理事長木間憲一郎ニ上記金圓ノ大要ヲ告ゲテ其ノ贊同ヲ得テ清志ハ

一、同年四月三日周方ニ於テ同人ヨリ拳銃五挺、同彈丸九百二十五發及運動資金トシテ千五百圓ヲ
 二、同年四月二十九日同所ニ於テ周方ヨリ運動資金トシテ二千圓ヲ受領シ、
 三、同年五月十三日同所ニ於テ黒岩勇ヲシテ周方ヨリ運動資金トシテ二千五百圓ヲ受領セシメ
 四、同年四月十七日秀三方ニ於テ木間憲一郎ヨリ拳銃三挺同彈丸若干ヲ
 五、同年同月二十二日茨城縣新治郡眞鍋村三百二十三番地木間憲一郎方ニ於テ同人ヨリ拳銃二挺、同彈丸若干ヲ
 六、同年三月三十日頃同郡土浦町大和町三千二十八番地染谷忠助ヲ介シ同所ニ於テ憲一郎ヨリ拳銃一挺同彈丸若干ヲ受領シ

(五) 古賀清志及中村義雄ハ拳銃、手榴彈ノ不足ヲ補フ爲メ短刀ヲ入手セント欲シ池松武志及奥田秀夫ニ對シ資金ヲ給シテ之ガ購入方ヲ命ジ同年四月二十四日池松武志ヨリ四月同月五日奥田秀夫ヨリ三日月ヲ翌四日池松武志ヨリ二日同月十四日奥田秀夫ヨリ三日月ヲ受領リ

(六) 三上京ハ右同様ノ目的ヲ以テ同日短刀二口ヲ購入シタリ以上ノ外

(一) 三上京、上海出征中同年二月下旬特別陸隊隊員陸式拳銃一挺同彈丸九十五發及八發入彈倉二箇ヲ入手シテ之ヲ村山格之ニ手交シ格之ハ驅逐艦乘組大庭春雄ニ手交セシガ同ハ機テ京ノ指示ニ基キ上海北四川路長春路百八十七號松江洋行事務松下繁一ヲ介シ同年五月九日同洋行ニ於テ「モーセル」拳銃一挺同彈丸九百二十發、保彈鏡四箇及「メリオ」拳銃一挺同彈丸八十三發ヲ購入シテ上記陸式拳銃其ノ他ト共ニ法行ノ際受テ使用セントスル目的ヲ以テ同隊私室ニ隠匿シ置キタルモ其ノ意ヲ果サズ

(二) 塚野道雄及林正義、同年五月三日當時道雄方ニ同隊中ノ佐世保市濱野町川原石油店員候補後陸軍歩兵少尉岩重徳ニ對シ資金ヲ給シ長崎其ノ他ニ於テ拳銃入手ニ奔走セシメタルモ遂ニソノ目的ヲ達セザリシモノナリ

一方古賀清志ハ中村義雄ト相謀リ前記企圖ニ付キ其ノ實行計畫ヲ樹立セント欲シ同年三月下旬ヨリ之ガ起來ニ着手シ數次洗練ノ結果同年五月十三日一案ヲ得同月十五日ニ至ルマデノ間ニ於テ伊東龜城、大庭春雄、林正義及塚野道雄ヲ除ク外全部ノ同意ノ下ニ之ヲ決定シタリ即チ古賀清志、中村義雄、三上京、黒岩勇、山岸宏、村山格之、奥田秀夫、池松武志、及陸軍士官候補生後藤映鏡外十名ヲ四組ニ分チ上記ノ武器ヲ使用シ同月十五日午後五時三十分ヲ期シ第一段ニ於テ第一組ハ首領官即第二組ハ内大臣官即第三組ハ政友會本部第四組ハ三菱銀行ヲ襲撃シ第二段ニ於テ第四組ヲ除ク他ノ三組ハ相合シテ警視廳ノ襲撃ヲ敢行シ別ニ橋本三郎ノ一派ヲ別働隊トナシ同日午後七時頃日没時ヲ期シテ東京市内及其ノ附近ニ電力

ヲ供給スル變電所數箇所ヲ襲撃セシムルコトトシ之ニ依リ政黨ノ領袖ニシテ内閣ノ首魁タル者ヲ屠リ君側ノ奸ト目スル者ヲ除キ更ニ政黨財閥打倒ノ意ヲ闡明ニスルト共ニ警視廳ニ於テ動員セラルベキ武裝警察隊ト決意シテ警察力ヲ破壞シ以テ支配階級擁護ノ任ニアリトナス警視廳ヲ廢絶シ其ノ無力ヲ民衆ニ知ラシメテ之ガ奮起ヲ促シ變電所ヲ破壞シテ帝都ヲ暗黒化シ軍力ヲ以テスルニ非ズンバ克ク秩序ヲ維持スル能ハザルノ事應ヲ敢テ告セシメ廷臣嚴令ノ施行ニ至ラシメント期シ加フルニ從來被告等ト國家軍新運動ニ從事シタル東京府下代々橋町代々木山谷百四十四番地元陸軍歩兵少尉西田健ヲ日シテ被告等ノ計畫實行ヲ妨害スルモノトナシコノ機會ニ川崎長光ヲ日シテ之ヲ暗殺セシムルコトトシタリ而シテ古賀清志ハ豫メ前記武器中

一、手榴彈六箇ヲ變電所襲撃用武器トシ黒岩勇ノ手ヲ經テ林正義ニ正三八之ヲ後藤國彦ニ手交シ

一、短刀六口ヲ變電所襲撃ノ際攜帶スベキ武器トシ西田健殺用武器トシテ川崎長光ニ交附スベキ拳銃一挺同彈丸八發及短刀一口ト共ニ後藤國彦ニ手交シ

一、殘餘ノ武器ハ黒岩勇、中村義雄ト共ニ東京市芝區芝町十三番地東京水交社ニ運搬シ手榴彈三箇短刀一口ヲ三菱銀行襲撃用武器トシテ中村義雄ノ手ヲ經テ奥田秀夫ニ交附シ其ノ他ハ同水交社ニ於テ各組別ニ分配シタリ

一、斯クテ昭和七年五月十五日第一組ニ屬スル三上京、黒岩勇、山岸宏、村山格之ハ各自制服ヲ着用シ武器及日本國民ニ激スルト題スル旗交ヲ

數百枚攜帶シ陸軍士官候補生後藤映鏡、同入木春雄、同石關英、同原市之助、同野村三郎ト共ニ同日午後五時頃國境附近境內ニ集合シテ三上京、黒岩勇、後藤映鏡、入木春雄及石關英ノ五名ヲ表門組トシ山岸宏、村山格之、原市之助及野村三郎ノ四名ヲ裏門組トシテ二隊ニ分レ各隊自動車一臺ヲ使用シ東京市麹町區永田町二丁目一番地内閣總理大臣官舎ニ向ヒ途中各自自動車ニ於テ武器ヲ分配シ三上京ハ拳銃一挺手榴彈一箇及短刀一口、黒岩勇ハ拳銃一挺短刀一口、後藤映鏡ハ拳銃一挺、入木春雄及石關英ハ各手榴彈一箇、山岸宏ハ手榴彈一箇短刀一口、村山格之ハ拳銃一挺、後藤原市之助及野村三郎ハ各拳銃一挺手榴彈一箇ヲ攜帶シ表門組ハ同五時二十七分頃同官舎表門ヨリ自動車ヲ正面玄関前マデ乘リ入レシメ一同下車シテ直ニ同玄関ヨリ屋内ニ闖入シ豫テ偵察シタルトコロニヨリ首領ハ平常同官舎日本館ニ起居シ居ルヲ知り其ノ通路ヲ探索シタルモ見當ラズ一同玄関前間ニ於テ巡査部長村田嘉幸ニ出會セヨリ三上京、黒岩勇、同入ヲ脅迫シテ首領ノ許ニ案内セシメントシタルモ果サズ更ニ後藤映鏡ハ槍モ同所ニ來リタル私服巡査ニ對シ同探案内セシメントシタルニ之ニ應ゼズシテ玄関外ニ遁ルルヲ見テ其ノ背後ヨリ拳銃一挺ヲ發射シタルニ命中セザリキ其ノ後三上京ハ漸ク日本館ニ通ズル隙ヲ見出シ同階下板戸ヲ蹴破リテ一同ヲ内部ニ導キ日本館洋式客間ニ於テ巡査田中五郎ニ對シ首領ノ所在ヲ糾シタル處其ノ態度反抗的ナリシヨリ之ヲ憤リ同人ニ對シテ拳銃一挺ヲ放テ其ノ右胸部ヨリ貫刺シ損傷シテ右側腹ニ通ズル貫通銃創ヲ負ハシメ因テ同人ヲシテ同月二十六日同市赤坂區傳馬町一丁目二十番地前田外科病院ニ於テ死亡スルニ

至ラシメタリ山岸宏等ノ裏門組ハ同官舎裏門附近ニ於テ一同下車シ同門ヨリ屋内ニ進ミ日本館玄関ヨリ屋内ニ闖入シテ表門組ト合シルガ獲原市之助ハ同玄関前マデ乘リ入レシメテ附近ニ居合セタル制隊巡査ヲ威嚇スル目的ヲ以テ銃口ヲ斜上方ニ向ケ拳銃一挺ヲ發射シテ之ヲ逃走セシメ其ノ後同玄関内ニ止マリ外部見張リノ任ニ當リシガ須臾ニシテ三上京、黒岩勇、後藤映鏡、入木春雄、石關英、村山格之、野村三郎ト共ニ日本館食堂ニ於テ首領大發射ヲ發見シタルニヨリ大發ヲ揚ゲテ一同ニソノ旨ヲ知ラシメ首領ト共ニ二十五疊客間ニ至リ同室ニ於テ一同首領ヲ取圍ミ二三問答ノ際突然山岸宏ハ二問答無用射テトト叫ビ黒岩勇ハ之ニ應ジテ首領ノ左前方ヨリ同人ニ向ケ一彈ヲ放テテ左下顎骨角ノ直上ヨリ頭蓋腔内ニ入ル貫通銃創ヲ負ハシメ三上京モ亦第二彈ヲ放テ首領ノ右額部耳數前方ヨリ右眼外眥ノ上方ニ貫通スル銃創ヲ負ハシメ因テ同人ヲシテ同月十六日午前二時三十五分頃同官舎内ニ於テ出血ニ依リ窒息セラレタル腦壓ニ因ル心臓及呼吸麻痺ノ爲メ死亡スルニ至ラシメタリ彈丸ノ命中シタルヲ見ルヤ山岸宏ノ引キ揚ノ聲ニテ一同相謀イテ日本館玄関ヨリ外庭ニ出デシガ巡査平山八十松ガ木刀ヲ振ツテ被告等ニ立向ハントシタルヨリ篠原市之助ハ拳銃ヲ復シテ射ツト脅迫シ黒岩勇ハ同人ニ向ケ一彈ヲ放テテ右大腿貫通銃創ヲ負ハシメタルノミナラズ村山格之モ亦後方ヨリ同人ニ向ケ一彈ヲ放テテ左前額貫通銃創ヲ負ハシメテ一同首領官會裏門ヲ立用テ赤坂區溜池町ニ於テ二隊ノ自動車ニ分乘シ三上京、山岸宏、後藤映鏡、石關英、篠原市之助ノ一隊ハ午後五時五十分頃警視廳ニ到リタルモ其ノ豫期ニ反シ總外車隊ニシテ襲撃ノ要ナキヲ認メ之ヲ中止シテ其ノ儘同市麹町區丸の内一丁目十番地東京

憲兵隊ニ自首シ黒岩真村士等之、八木春雄、野村三郎ノ一隊ハ警視
廳襲撃ノ目的ヲ以テ同五時五十分過キ同隊ニ到リ表支關車寄ニ停車
セシメテ一同内部ニ闖入シ同隊二階一室ノ硝子戸ヲ蹴破ル等ノ暴行
ヲシテ自働車ニ同乗シテ上記憲兵隊正門ニ至リ内部ヲ窺ヒタル
モ同志未ダ自首シタル形勢見エザリシヲ以テ豫定外襲撃場所協議ノ
際偵察視察ヨリ自働車ニテ同人等ヲ追跡シ來リタル同憲警部補新須
虎吉ヲ発見シタルニヨリ黒岩真村等ハ之ニ對シ銃ヲ擬シ同警部補ノ週
レントスル後方ヨリ一彈ヲ發射シタルモ命中セザリキ右協議ニヨリ
同市日本橋區大森町三番地日本銀行襲撃ヲ決定シテ同銀行ニ至リ
村山格、野村三郎ノ兩名ハ下車シ三郎ハ同銀行玄関ニ向ヒ手榴彈
一箇ヲ投擲シテ玄関前庭ニ於テ炸裂シシメ敷石ノ石段等ヲ損傷シテ
二同東京憲兵隊ニ自首シタリ

シ清志ハ同門前ヨリ門内ニ向ツテ手榴彈一箇ヲ投擲シ玄関前庭ニ於
テ是ヲ炸裂シシメ板扉等ヲ損傷シ池松武志モ亦手榴彈一箇ヲ門内ニ
向ツテ投擲シタルモ不發ニ終リテ清志ハ拳銃ヲ擬シテ同邸ニ立寄
勤務中ノ巡査橋井龜一ヲ射撃シ同人ノ左肩脛處に弾ヲ貫通殊創
ヲ負ハシメ再ビ自働車ニ乗ジテ滑道ニ撒布シテ同五時四十分
分頃第三組ニ稍遅レテ警視廳ニ到着シタル處其ノ後期ニ反シテ決戦
ヲ試ムベキ警官ノ集會アラザリシモ同憲表支關ニ向ヒ左側車道ニ於
ケル同玄関附近ノ地點ニ停車シテ清志ヲ除ク外全員下車シ上記計畫
ニ從ヒ同所附近ニ於テ阪元策一及菅動ハ同應建物を對シテ手榴彈各
一箇ヲ投擲シシガ不發ニ終リ西川武敏及池松武志ハ自働車内ナル古
賀清志ト共ニ執レモ表支關ニ向ツテ銃ヲ發射シ因テ同支關車寄ニ
戻合セタル警視廳書記長坂坂一ニ對シテ頭部貫通殊創及右膝部貫
通殊創ヲ負ハシメタルノミナラズ警視廳新聞記者高橋隆三對シテ右
貫通殊創ヲ負ハシメタルノミナラズ同自働車ニ乗ジ同六時頃東京憲兵隊
ニ自首シタリ

差度ハ下車シテ同本部東入口ヨリ構内ニ立入同支關ニ向ツテ手榴彈一
箇ヲ投擲シタルモ不發ナリシヨリ之ヲ拾ヒテ再ビ投擲シタルニ之亦
不發ニ終リシヲ以テ患狀ハ直ニ下車シ同支關ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投
擲シテ之ヲ炸裂セシメ正面露天演習場附近ヲ損傷シ同五時四十分頃警
視廳ニ赴キタル處陳剛ニ反シテ決戦ヲ試ムベキ警官ノ集會アラザリ
シモ同憲表支關前車道ニ停車シ義雄ヲ除ク外全員下車シ上記計畫ニ
從ヒ金清豐ハ管動ノ投擲タル前示地階附近ヨリ建物ニ向ツテ手榴彈
一箇ヲ投擲セシガ誤ツテ階傍ノ電柱ニ中リ炸裂硝子電線等ヲ損傷シ
テ一同再ビ自働車ニ乗シ滑道ニ撒布シテ同五時五十分頃東
京憲兵隊ニ自首シタリ

ラレタル短刀一口ヲ携帶シ同七時十三分頃共ニ同府北豊島郡尾
久町下尾久二百番地尾久川水力電氣株式會社東京支店電所ニ到リ明
幹ハ與一ヲシテ右銃ヲ用ヒ同所西側貯水池附近ノ外構鐵線ヲ切斷
セシメタル上電動閉器室ニ侵入シ配電盤施設ノ冷却用水用電動閉
器第二號川三極閉器ヲ絶緣シテ右閉器ノ運轉ヲ停止シ金種ヲ以
テ同第一號川三極閉器ヲ破壞シ更ニ與一ヲシテ屋外ナル變壓設
備ニ向ヒ右手榴彈ヲ投擲セシメントシタルモ同人ハ明幹ガ破壞用
具ヲ投擲シテ逃走ヲ開始シタルヲ見テ俄カニ恐怖心ヲ生ジ右手榴
彈ヲ其ノ場ニ投擲シテ逃走シ

別働隊タル南三郎ノ一派ハ前記計畫ニ從ヒ
一、大貫明幹ハ後藤國彦ヨリ配布セラレタル手榴彈一箇短刀一口及
自ラ購入シタル金種電線各一挺ヲ高根澤與一ハ國彦ヨリ配布セ

一、堀五百枝ハ後藤國彦ヨリ配布セラレタル手榴彈一箇短刀一口及
自ラ購入シタル金種一挺ヲ携ヘ同七時十五分頃上記尾久町尾久二
千番地東京電燈株式會社田端變電所ニ到リ電動閉器室内ニ侵入シ
配電盤施設ノ電動用水用高ニ通ズル三極閉器二箇ヲ絶緣シテ右
閉器ノ運轉ヲ停止セシメ加フルニ金種ヲ以テ配電盤ト電流計四箇

國家主義派不穩事件論告裁判決録

ヲ破壊シ更ニ同室内電動機ヲ爆スル目的ヲ以テ右手榴彈ヲ投擲セ
ントシタル際當直員ニ發見セラレ其ノ意ヲ果サズシテ逃走シ
一、温木秀則ハ後藤園彦ヨリ配布セラレタル手榴彈一箇短刀一口及
リ自ラ購入シタル手斧一挺ヲ携ヘテ同七時十分頃同府警署多摩郡澁
川町警署五百八十六番地東京電燈株式會社澁川電燈所ニ至リ飲用水
用筒電動機小屋ニ侵入シ手斧ヲ以テ電動機周圍一本ヲ切断シタ
ルノミナラズ右手榴彈ヲ冷却塔ニ向ヒ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ因
テ同塔東北側板間ノ左上角ヲ炸裂シテ逃走シ
一、矢吹正吾ハ後藤園彦ヨリ配布セラレタル手榴彈一箇短刀一口及
自ラ購入シタル金鎗一挺ヲ携ヘテ同七時十五分頃同府警署多摩郡小
川町警署下平井二百六十五番地東京電燈株式會社澁川電燈所ニ至リ
電動機室内ニ侵入シ配電盤施設ノ連水及汲水電動機筒筒三極開
閉器四箇ヲ搦搦シテ同筒筒ノ運轉ヲ停止セシメタルノミナラズ同
室屋上ニ向ヒ右手榴彈ヲ投擲シタルモ不發ニ終リタル後逃走シ
一、小室力也ハ後藤園彦ヨリ配布セラレタル手榴彈一箇及短刀一口
ヲ携ヘテ同六時五十分頃同府警署多摩郡澁川町清水川八百八十番地東京
電燈株式會社澁川電燈所ニ到リタルモ機警ニ先チ恐怖心ヲ生ジテ
之ヲ斷念シタリ
前記ノ如ク別働隊ノ行動ハ單ニ變電所内設備ノ一部ヲ破壊シタルニ
止リ東京全市ハ勿論其ノ一部ヲ暗黒ナラシムル效果ヲ奏セザリシ
モノナリ
而シテ川崎長光ハ銃一挺短刀一箇及短刀一口ヲ林正三ノ手ヲ經テ
後藤園彦ヨリ受テ取リ同日午後七時頃西田現方ニ到リ同室二階六疊

一〇、五・二五事件(海軍側)論告書

(九月十一日於海軍大法官會)

ノ客間ニ於テ同人ニ面會シ之ヲ殺害ノ機ヲ窺ヒ同七時三十分頃税
向ツテ銃銃六發ヲ發射シ因テ右手掌貫通銃創右前脚貫通銃創右前
肩貫通銃創右前胸ヨリ右側胸部ニ互ル貫通銃創及下部肩貫通銃創ヲ負
ハシメテ逃走シタリ
一、被告中伊藤龜城ハ當時入院中ニ係リ大庭春雄、林正義及塚野道
雄ハ準備不充分ノ故ヲ以テ古賀清志、黒岩勇ニ對シ決行ノ延期ヲ
求メタルモ容レラズ爲メニ右實行ニ參加セザリシモノナリ
一、所謂政黨新聞及特權階級ノ腐敗墮落ニ就テ
被告入等ハ孰レモ異日同音ニ現代日本ニ於テハ政黨政治家新聞特
權階級等ハ孰レモ腐敗墮落シテ國家觀念ナク日本ヲシテ政治外交
經濟軍亦思想等各種ノ方面ニ行詰リヲ生シ國家滅亡ノ虞アルニ至
ラシメタリト爲シマシテ非合法手段ヲ以テスルモ速ニ之ヲ革新ノ
實ヲ擧ケナケレハナラヌト論シ各般ノ事實ヲ舉示致シテ居リマス
之等ノ事實ニ就キマシテハ被告入等ノ主張ノ如ク或ハ事實ナルコ
トモアリマセウ又或ル被告ノ告白シタ如ク認識不足ニ基ク點モア
ルテアリマセウ然シテ本報ハ斯クノ如キ事實ノ有無ノ問題ハ凡
テ之ヲ批判ノ外ニ置キ公平ナル世論ノ判斷ニ委スコトト致シマス
ルカ被告入中一年有餘ノ刑務所生活中沈黙考ノ末相當ニ其ノ認

シマス

然シテ其ノ裁判所法會議其最善ヲ盡シ搜查及豫審ニ於テ各被告ナル
連繫ヲ保テ親意ニ當リ尙當公判廷ニ於テハ同ヲ重ナル事十九回
重審相成リマシタル結果事件ノ真相判明スルニ至リマシタルコトハ
誠ニ軍司法ノ爲トヘキコトト存シマス
本件ハ被告ノ個々ニ依リ多少ノ認識ヲ異ニ致シテ居リマスカ要スル
ニ海軍軍人陸軍軍人互ニ黨ヲ結ビ及民間ノ同志ト相結ビテ爆彈其ノ
他兵器ヲ執リ軍人ハ孰レモ軍服ヲ着用シ自畫公然官服ヲ穿入シ
首相ヲ殺害シ一方ニ於テハ内府官邸及警視廳ヲ襲撃シ二三ノ巡査
其他ノ者ヲ殺傷シ政黨ノ本部及二大銀行ニ爆彈ヲ投シ並ニ帝都附近
ノ變電所ヲ破壊シ一時之ヲ暗黒状態ニ陥ラシメ依ツテ被擧ノ宣言セ
ラルヘキ非常ノ状態ヲ惹起セシメ被擧令下ニ軍政府ヲ樹立シ以テ現
時ノ政治機構及經濟機構ノ革新ヲ試ミントスルノ企圖ニ出テタルモ
ト認ムルコトカ出來ルノテアリマス
公訴ノ事實ニ對シテハ各被告入共豫審及當公廷ニ於テ孰レモ大體之
ヲ自認シテ居ルノミナラス其ノ他證憑モ完備致シテ居ル次第テアリ
マスカテ事實ノ證明ハ充分ト考ヘラル、ソテアリマス
從ツテ此ノ點ニ就テハ深ク致シ論及スルノ要ヲ認メマセウカテ省略
致シマス
事件ノ動機
被告入等カ國家ノ現狀ヲ破壞セントシタル動機ニ就キマシテハ各般
告入共當公廷ニ於テ屢々數萬言政黨政治家新聞又ハ特權階級ナルモノ
ノ腐敗墮落ヲ説キ或ハ政治外交經濟思想問題ニ付批判ヲ加ヘ或ハ

國家主義系不穩事件論旨判決録

識ノ誤ツタ點ヲ自覺シタルモノモアル様テアリマス...

根本的トシテ現實ニ立脚セシテ國家改造ニ偏重サレタル事テ...

被告入中村義雄ノ昭和八年四月十二日附豫審官ニ提出セル...

一一二

ナカツタノテアリマス即チ政治家特權階級等モ「ロシヤ」帝政時代...

國家主義系不穩事件論旨判決録

一、一般民衆ハ斯ク要求スルテアラウト考ヘテヤルコトハ...

一一三

トスルモ執レモ大體ニ於テ告白當時ト格別ノ變化ナキモノト認メ...

ト付付ケ又愛郷會ヲ創立シマシテ大地主義見地主義労働主義ノ三主義ヲ標榜シ農村青年ノ啓蒙ニ努メテ居リマシタ又自營的農村労働學校愛郷塾ヲ創設シマシテ農村青年ノ教育ニ努メテ居リマシタリマスカ昭和六年八月頃及同七年一月頃被告人等一部ノ者ニ對シ農村ノ窮狀ヲ力説致シマシテ現在ニ於ケル經濟機構ノ不合理ナルヲ物語リ非法改革ノ必要ヲ高調致シマシタ結果被告人等ヲシテ農村問題ニ關シマシテモ亦國家革新ノ要アルヲ感セシムルニ至リタノテアリマス

ニ至リマシテハ無謀ノ甚シキモノテアルト云ハナケレハナラナイノテアリマス 之ヲ要スルニ農村問題ニ關シマシテハ上述ノ如ク其ノ因ヲテ來ル原因ヲ探究シ徐ロニ適當ナル手段ニ依リ之ヲ解決ヲ圖ルヘキモノテアリマシテ端のニ現狀破壞ニヨリ之ヲ救済シ得ヘキモノテナイノテアルト信シマス 三、倫敦條約ニ關シ 倫敦條約締結ノ問題及同問題ニ牽連セル所謂統帥權干犯等問題ニ關シマシテハ各被告人共ニ孰レモ當時頗ル憤激スルトコロアリテ本件實行ノ動機ノ一部ヲ爲スモノノ如ク陳述致シテ居リマス當時被告人等ニ對シ指導者ノ位置ニアリタル藤井齊ハ被告人三上京カ當公廷ニ於テ授性ノ革命運動家ナリト批評ヲ加ヘテ居リマス西田院等ト相通シマシテ被告人等數名ヲ引率シテ當路者ヲ訪問シテ質問ヲ爲シマシタル事實カアリマス又藤井ノ作成セル「愛國機關」ト題スル文書同志鈴木四郎ノ作成セル「我神々ノ前ニ皇軍ノ更龍ヲ祈ル」ト題スル文書被告人等撰野道雄ノ作成セル吉田松陰名義ノ文書等カ夫々配付セラレタ事實モアリマス三上京ノ陳述及當公廷ニ於ケル陳述ニ依レハ同人ハ憤激ノ餘リ其筆及某氏ヲ東京驛頭ニ待受ケ之ヲ暗殺セント志シタルコトアル等ノ事實ニ據シマスレハ確ニ本問題力動機ノ一部ヲ爲スモノナルコトハ之ヲ認ムルニ足ルモノトシマス 被告人等ハ青年軍人トシテ單純ナル性情ノ致スルトコロ種々ナル狂想圖關ヲ信シ之ニ憤激致シタルモノト信シマスカ大凡斯ノ如キ復

難ニシテ後檢ナル關係ヲ有スル問題ニ付テハ須ク慎重ニ考慮ヲ加ラシ研究ヲ遂ケタル後其ノ當否ヲ判定スヘキ問題トハナイカト思フノテアリマス 倫敦條約ナルモノノ兵力甚其ノ他軍事ノ問題ニ就テハ門外漢タル吾人ノ批判スヘキ限リテハ無イノテアリマスカ只問題トスル路ニハ當時ノ政府當局ハ果シテ本件條約案ニ關シ軍部側ノ同意ヲ得タリヤ否ヤノ點ニ存シテ檢テアリマス 然シテ左列ノ如キ事實ノ問題ハ交渉ノ任ニ當リマシタル二三當局者ノ間ニ於テノミ知悉シ得ル極メテ微細ナル問題ニ屬シマス 一、カヲ部外者タル者ハ何人ト雖モ其ノ眞相ヲ承知スルコトヲ得サル筋合ノモノテアリマス而シテ此等微細ノ問題ハ又種々複雑ナル政爭等ニモ利用セラルルニ至リマシテ或ハ議會ニ於ケル論争トナリ或ハ所謂條約文書ノ配付トナリ遂ニ被告人等ノ憤激スル如キ統帥權干犯ノ議論ヲ生スルニ至リタモノト信スルノテアリマス 統帥權干犯ナル文字ハ統帥ノ大權干犯ナル意義ニモ解セラレ本件問題ノ場合ニ適用スヘキ適當ナル文字ニ非サルナキヤノ感ナキ能ハステアリマス 然シテ如キ文字ハ所謂條約文書等其ノ他ニ一般ニ使用セラルルニ至リマシタル爲自然大權干犯ナル事實アリタルヤニモ思料セラレ純情ナル被告人等ノ憤激ヲ買フニ至リ本件實行ノ動機ノ一トナリマシタコトハ誠ニ遺憾ナルコトテアリマスカ本件條約ハ果シテ天皇ノ諮詢ニ答ヘ重要ナル國事ヲ審議致シマスル憲法上ノ機關タル權密院ノ審議ヲ經テ居リテアリマス

加之重要軍務ノ諮詢機關タル海軍軍務會議ノ諮詢ヲモ經テ居ルノテアリマス如指慎重審議ノ末成立シタル次第テアリマスカラ其經過ニ關シ各機關ノ間ニ多少ノ輕微カアツタトシテモ之ヲ以テ直チニ被告人等カ統帥權干犯ノ事實アリト見タルハ首肯シ能ハサル所テアリマス又所謂上奏阻止ノ問題ニ付テハ當公廷ニ於テハ之ヲ肯定スル何等ノ資料モアリマセンカラ單ニ被告人等ノ陳述ハ根據ナキ陳述トシテ聞キ置クニ止ムルノ外アリマセズ 被告人等ハ海軍兵學校ノ課程ヲ終ヘ初級將校トシテノ教育ヲ經タル者テアリマスカ米多複雜ナル世故ニ慣レテ居リマセズテ他個人ノ言ニ疑ヲ挾ムト云フ如キ一種ノ惡感ト思料スルノ有様テアリマスカラ種々ナル處士橫議ノ徒ト相交ハリマシテ後等ノ謂フ所ヲ聞キ所謂條約文書又ハ新聞雜誌等ニ依リ傳ヘラレタル種々ノ流言浮説ヲモ取交セテ總テ眞實ナリト信シ遂ニハ本件條約ニ直接關係ナキ某々將官迄ヲモ非難攻撃スルニ至リマシタコトハ其ノ心懷諒トスヘキ點無イテハアリマセズカ海軍軍紀ノ爲該ニ遺憾ナク第テアリマス 殊ニ之等ノ信念カ今回ノ如キ大事ヲ決行スルノ動機ノ一ト相成リマシタト致シマスレハ眞ニ惜ムヘキコトテアリマシテ被告人等ノ爲ニ探ラサルトコロテアルト同時ニ斯ノ如キ問題ヲ深ク考究セス確實ナル資料ニ基カシテ彼等批判致シマスルコトハ軍紀上大ニ戒飭ヲ加フヘキ問題テアルト信シマス 被告人等統帥權問題ニ關シ上官ヲ批判スルニ當リ神聖ナル法廷ニ於テ上官ニ對スル敬意ヲ失シタル言アルノミナラス甚シキニ至リ

テハ往々上官侮慢ニ互レリト思科セラルル如キ言辭ヲ使用シタルモノモアリテ様テアリマスカ荷モ身ニ軍服ヲ著シ此ノ陛下ノ御名ニ於テ爲ス神聖ナル軍法會議ノ法廷ニ於テ斯ノ如キ不穩當ノ言辭ヲ使用致シマシタルコトハ被告人等ノ人格ノ爲ニ惜ムトコロトアリマス

事件發生原因

本事件發生ノ原因ト認メラルルモノニ就テ研究致シマスルトキハ多アルノテアリマスカ今其ノ主ナルモノニ二三ニ就テ論及シテ見タイト思ヒマス

一、西田税井上昭權成輝

西田税井上昭權成輝大川周明等處士横議ノ徒ト接觸シタルコト
西田税井上昭權成輝大川周明等處士横議ノ徒ト接觸シタルコトハ本件ニ於テキマシテハ被告等ノ地位ニ在リマスルカ本件ニ關シ重大ナル原因ヲ與ヘタルモノテアリマス

二、井上昭

井上昭ハ被告等ト相並ニテ本件被告人等ニ對シテ有力ナル指導ノ地位ニ在リマシタルコトハ豫審記録及被告人等ノ供述ニ於テ認メラルルモノニヨリ明コトコロテアリマス

三、權成輝

權成輝成輝カ藤井齊ニ接シマシタルハ昭和五年十二月頃テアリマス爾來藤井ノ勸誘ニ依リマシテ被告人等中權成輝ト接觸スル者次第ニ多クナリ同人ノ煽動ナル社會革新ノ思想ニ感服セルモノ亦尠クナカッタノテアリマス又同人等自國民院ハ殆ント同志ノ間ニ配付セラレテ其ノ思想ニ共鳴セル者亦多クテアリマス當公廷ニ於テハ被告人等中權成輝ヲ濫官シ權成輝ノ農本自治主義ヲ以テ「アナーキズム」ナリト貶シ支那思想ナリト誹リタル者モアリマスカ豫審記録ニ徴シマ

コトカアリ大正十一年内地ニ警報後島里ニ於テ坐陣シ或ハ身延山ニ登リテ修造シ或ハ行者トナリ昭和四年春立正護國黨ニ住スルニ至リタモノテアリマシテ豫テヨリ我國ノ政治及經濟社會ノ腐敗ヲ憤リ革新ノ要アリト爲シ同年十二月以降附近ノ青年等ヲ糾合シ之ヲ指導感化ニ努メテ居タルモノテアリマスカ其ノ頃ヨリ藤井齊ト相識リ共ニ國家革新運動ニ邁進セシコトヲ約シマシテ漸次藤井ノ指導ノ下ニ在リタル被告人等ト相接近シ共ニ國家革新ノ行動ヲ執ルニ至リタモノテアリマス

四、大川周明

大川周明ハ其方面ノ指導者タル位置ニ在リタル者テアリマシテ海軍同志ト關係ハ比較的薄シモノノ様テアリマス
又同人ノ思想ハ被告人等ノ抱懷スル思想トハ稍々異レルモノカアリマスカ同人ノ實力及其實行力ニ關シテハ其事件ノ例ニ鑑ミ相俦偉大ナルコトヲ信シテ居リマシタル被告人等ハ亦ヲ學クルニハ其ノ勢力ヲ加算スルノ要アリト考ヘ又大川周明モ被告人等ヲ利用シテ其ノ學ケシメ共ノ目的ヲ達成セシメタルノ意思アリ五ニ利用シテ其ラレ相結合スルニ至リタルモノテアリマシテ大川周明ノ非合法的國家革新運動ハ本件實行ニ對シ偉大ナル原因ヲ與ヘタルモノテアリマ

序二此ノ機會ニ於テ被告人中一部ノ者カ革新理論ノ金科玉條トシテ
 信賴セル「日本改造法案大綱及「自治民権」ノ思想ニ就テ一言批判ヲ
 加ヘテ置カウト思ヒマス
 日本改造法案大綱ハ北一輝カ大正八年上海ニ於テ支那革命運動中起
 草致シタモノテアリマシテ日本帝國ヲ如何ニ改造スヘキカト云フコ
 トニ就テ其ノ大綱ヲ定メタモノテアリマス
 改造ノ手段トシテハ大權ノ發動ニ依リ三箇年間憲法ヲ停止シ兩院ヲ
 解散シ全國ニ戒嚴令ヲ布ク而シテ其ノ方法トシテハ「クーデター」ニ
 依ル政治機構ニ就テハ一家ノ私有シ得ヘキ財產ノ限度ヲ百萬圓トス
 土地ハ地價十萬圓ヲ限リ私有スルコトヲ認メ其ノ限度ヲ超越セルモ
 ノハ無償ニテ國家ニ納付セシム
 其ノ他色々細目カアリマスケレトモ要スルニ同案ハ我國不磨ノ大典
 タル憲法ノ粉屑ヲ試ムルモノテアリマシテ許容シ難キ危險思想テアリマ
 ス又自治民権ノ指導原理トスル思想ハ君民ノ間ニ在スル權力階級
 指導階級ヲ抹殺シ大古ノ昔ニ遡リ一君萬民ノ思想ニ本來自治ノ思
 想ヲ唱道スルモノテアリマシテ又自治主義自治組織ヲ否認シテ下カラ
 ノ政治組織ヲ主張スルモノテアリマス
 又社權ヲ重シトシ君ヲ輕シトスル支那傳來ノ思想ヲ唱道シ我國古來
 ヨリノ傳統ト忠孝論ヲ否認スルカ如キ學說ヲ唱フルモノテアリマ
 ス
 現時日本主義ノ學者中其ノ思想ヲ非難攻撃スル者尠カラサル様テア
 リマシテ從テ採用スヘカラサル學說テアルコトハ極メテ瞭カテア
 リマス

第一 藤井齊ヨリ指導セラレタルコト
 藤井齊ハ被告人等同志ノ指導者タル地位ニ在リタルコトハ被告人
 等ノ供述ニ據ルモノヲ認メ得ルコトアリマス
 藤井ハ海軍兵學校在學當時ヨリ大亞細亞主義ノ思想ヲ抱キ民間ノ
 所謂志士ト相交リ兵學校ニ於ケル後進ヲ指導シ國家革新運動ヲ鼓
 吹シテ其ノ同志ヲ獲得シタモノテアリマシテ本件ノ主動者ナルコ
 トハ一斷ノ疑ヲ容レマセ初メ西田税ノ精成セント致シマシタル
 天劍黨ニ加盟スルコトヲ約シ同人ト共ニ國家革新運動ノ中心トナ
 リ昭和三年ニハ自ラ發企人トナリ玉體會ナル團體ヲ作り海軍部内
 ノ革正ヲ計ラウトシタコトカアリマス
 昭和五年倫敦條約締結ニ關シ統帥權干犯問題カ發生致シマスルヤ
 西田税等ト相呼應致シマシテ被告人等同志ヲ率ヒ當局ニ對スル反
 抗運動ヲ發シタルコトモアリマス
 又リノ頃井上日昭ト相識ルニ及ヒ互ニ肝膽相照シ國家革新運動ニ
 邁進セント約シマシテ屢々同志ヲ率ヒテ各所ニ會合シ又其事
 件ニ關シテハ同志ヲ率ヒテ率先シテ之ニ參加スルコトヲ約シタル
 コトカアリマス
 昭和七年一月末上海ニ出征スルニ際シマシテ後國ノ同志ニ委嘱ス
 ル等海軍同志ニ對シ總テ指導ノ位置ニ在リタルモノテアリマシテ
 若シ藤井齊無クハ海軍ニ於ケル從來ノ革新團體ナルモノハ無
 カツタモノト云フ事カ出來得ルノテアリマス
 藤井ノ日記ノ中ニ言フテ居リマス曰ク「希クハ一家悉ク健在ナレ
 アア我均質の扶養ヲ缺ク大不幸ナリ然レトモ後十年革命ナリテ我

願食スルノ秋分毎ノ名ハ希クハ天下ニ輝カムト然ルニ彼ハ革命
 ノ主動者トシテ倒レシ國家ノ干城トシテ上海ニ名譽ナル職ヲ遂
 ケ而シテ今ハ薩國ノ神トシテ廟食ノ身ト成ツテ居リマス人事運命
 ハ誠ニ不思議テアリマス
 第三 本件ニ先立ち發生シタル某事件ノ影響アリタルコト
 凡ソ亦ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニ非ス山ツテ來ル度アリテアリマス
 本件モ亦其ノ山ツテ來ル處久シク一朝一夕ニ起ツタモノテハナイ
 ノテアリマス被告古賀清志ノ當公廷ニ於ケル陳述ニ依リマスレ
 ハ古賀ハ某事件ニ參加シマシタル經驗ニ依リマシテ今回被告人等
 ノ企圖シマシタル戒嚴ニシテ宣告セラレルノ状況ニ立至レルトキ
 ハ當然之ヲ收拾シテ呉レル相當ノ大勢力ノ存在スルモノテアルコト
 ヲ知り遂ニ本件實行計畫ヲ策スル決心ヲ爲シタモノテアルト申シ
 テ居リマス
 右ノ陳述ハ素ヨリ古賀ノ獨斷ニ基クモノテアリマシテ所謂勢力ナ
 ルモノトハ何等連絡ハ無イノテアリマスカ少クモ古賀ヲシテ斯
 ノ如キ計畫案ヲ策セシムルニ至リマシタ事ニ付テハ某事件ハ最大
 直接原因ヲ爲シテ居ルト斷定スルコトカ出來ルノテアリマス
 尙此ノ機會ニ於テ一言シテ置キタイコトハ部下指導ニ關スル上司
 ノ態度ニ就テアリマス
 此ノ點ニ關シ本件發生當時某官憲カ上司ニ提出シタル意見書中ニ
 所見カアリマス曰ク
 「上司中往々彼等ノ所見ニ對シ極メテ優柔寛大ナル態度ヲ採リ彼
 等ヲシテ上司ハ其ノ行動ヲ認容シ居タルモノノ如ク誤信セシメタ

ルヤノ形跡ナキニ非スト云フノテアリマス
 之案件原因ト申ス程ノ事テハアリマセヌカ上司タル者下級者ヲ指
 導スルニ際シ明ニ是非トシ非ハ非トシ其ノ方向ヲ誤ラサラム
 ル如ク努ムルコトハ極メテ必要ナハナイカト存シマス
 軍人ニ賜リタル御勸諭ニハ
 世論ニ恣ハス政治ニ拘ラス只々一途ニ己カ本分ノ忠節ヲ守リ義ハ
 山獄ヨリモ重ク死ハ沙毛ヨリモ輕シト覺悟セヨ
 山獄セラレテ居リマス此ノ御勸諭ハ如何ナル事情ノ下ニ御下賜セラ
 レタルモノナルヤヲ考フルトキ現時ノ世相ハ如何ニ當時ノモノニ勢
 變タルモノアルヤヲ知ルコトカ出來マス
 此ノ御勸諭ハ明治十五年一月四日漢發セラレタルモノテアリマシテ
 當時ノ世相ヤ世論ニ概シ畏クモ軍人ト政治トノ問題ヲ解決シ之ニ關
 スル軍人ノ心得方ヲ示サレタモノテアリマス
 我國カ明治維新以來大體ニ於テ大權ノ下ニ三權分立ノ制ヲ定メラレ
 國家諸般ノ機關各其ノ分ヲ守リ權域ヲ分チ互ニ相干犯スルコトナク
 協力一致國運ヲ發展スル期セラレタルモノテアリマシテ封鎖時代ノ武士
 ハ兵權ト政權トヲ兼有シテ支配階級テアリマシタ
 リマシテ其ノ武士ノ一部ハ明治維新大業ノ一部ヲ襄贊シ奉ツタ者テア
 合ニ際會スルトキ直ニ之ヲ兵力ニ訴ヘテ最後ノ解決ヲ爲サントスル
 ノ弊習カアツタノテアリマス
 明治七年佐賀ノ事變モ同九年秩ノ事變モ亦同十年ノ西南ノ戰役モ其

ノ他幾多ノ動亂モ多クハ政治ノ問題ヲ兵力ニ依テ解決セントシタ
ノテアリマス之等ノ弊害ニ鑑ミマシテ當時政治ト軍事トノ關係ハ最
モ慎重ナル研究ヲ要スル問題デアツタノテアリマス
山縣有朋ノ爲セル「軍人調議」ニモ特ニ軍人ト政治トノ關係ニ意ヲ用
ヒテ居ラレマス曰ク
朝政ヲ是非シ憲法ヲ私議シ官省等ノ布告詔勅ヲ評議スル等ノ舉動
ハ軍人ノ本分ト相背馳スル事ニテ一人之アレハ衆皆之ニ倣ヒ竟ニ
ハ在上ヲ輕蔑スル端ヲ生シ其流弊瀕ラレザル者アリ軍人ト雖モ自
身本分ノ利害ニ於テ眞ニ見ル所ヲラハ適當ナル方法ニテ其意ヲ達
スル事モ難キニ非ス然ルニ曠々論辯ヲ逞フシ動モスレハ時事ニ傾
軋シ民權ナドト相ヘ本分ナラサル事ヲ以テ自任シ武官ニシテ處
士ノ權限ト書生ノ狂態トヲ擬シ以テ自ラ誇張スルハ固ヨリ有ル可
ラサルノ事ニシテ深ク戒ムヘキ事タルハ勿論本分ノ事タルモ軍秩
ノ次序ヲ歴シテ建議ヲ爲スモ許サレサル所ナルオヤ況ヤ所管ナ
ラサル官憲ニ對シ建議等ヲ爲スオヤ是固ヨリ重キ禁制タリ又新聞
雜誌ニ匿名書ヲ投シ時事ヲ論スル等モ亦本分ニ背キ事ナリ畢竟軍
人ハ軍籍ニ列スルノ初メニ當リ軍上ヲ奉養シ朝廷ニ忠ナラシコト
ヲ誓ヒシ者ナレハ二念ノ微モ此初心ニ愧ルコトナカレハシ
トテ政治ニ關シ軍人ノ本分ヲ用意周到ニ察シテ居リマス又明
治十四年十二月二十八日發布セラレタル海軍刑法及陸軍刑法中ニモ
軍人政治ニ關スル事項ヲ上書建白シタル海軍刑法及陸軍刑法中ニモ
テ之ヲ公告スルモノハ一月以上三年以下ノ罰禁錮ニ處スル處アリ
トノ規定カアリマス同様又ハ現行刑法ニ至ル迄尙一部修正ノ上存セ

ラレテ居ルノテアリマス
又我國憲法ノ起草者タル伊藤公ノ「帝國憲法發議」ニ
軍人ハ軍旗ノ下ニ在リテ軍法軍令ヲ格守シ専ラ服従ヲ以テ第一ノ
義務トス故ニ本章ニ掲クル權利ノ條規ニシテ軍法軍令ト相抵觸ス
ルモノハ軍人ニ通行セス即チ現役軍人ハ集會結社ニシテ軍政又ハ
政治ヲ論スルヨトヲ得ス政治上ノ言論著述印行及政談ノ自由ヲ有
セサル類之ナリ
トアリマス
以上説述セルトコロヲ綜合致シマスレハ軍人ハ國運ノ隆衰ニ關スル
國防ノ重任ニアル者ナレハ世論ヲ政治ノ如キ一般ノ世相ニハ超越ト
シテヨリ清クヨリ高ク已ヲ持シ國民ノ信賴ト尊敬トヲ集メテ其ノ傑
表タル實ヲ舉ケ皇威尊嚴ヲシテ愈々光輝アラシメ國家ノ干城タル軍
隊迄カ世論政治ノ弊害ニ陷ルコトナキ様御論シ給ヘルモノト拜察セ
ルルノテアリマス然ルニ被告人中一部ノ者ハ此ノ優渥ナル聖旨ノ
在ル所ヲ曲解シテ「政治ニ拘ラス」トハ政治ニ拘泥スル事ナクノ意ニ
テ政治ニ關係シテモ差支ナキモノノ如ク解スルモノカアリマス
此ノ如キ一種異様ノ解釋ハ世間一部人士ノ間ニモ行ハルモノテア
リマス洵カ洵カ思ハサルノ甚シキモノナリト云ハナケレハナリマセ
軍人ニシテ若シ聖旨ノ在スルトコロヲ辨ヘズ現代政治ヲ是非シ之ニ
關係シ遂ニハ力ヲ以テ自己ノ政治的所見ヲ實現セシメント企ツルカ
如キニ至リテハ敵ニ由ラズ數大罪ヲテアリマシテ置ニ軍隊ノ擁護タルノ
ミナラス國家ノ治安ヲ害スルコト正ニ計リ難キモノカアルノテアリ
マス

本件事案ノ發生セル所以モ其ノ源ヲ探スレハ畢竟此ノ「世論ニ惑ハ
ス政治ニ拘ラス」ト一途ニ己カ本分ノ忠節ヲ守リ云々トナル勸諭
ノ精神ヲ誤リ遂ニ政治風潮及經濟機轉ノ革新ヲ計ラントスルニ至リ
タルモノテアリマシテ最モ痛恨事ト謂ハサルヲ得サル次第ト信シマ
ス
暴力行爲ハ絕對ニ排斥スヘキコト
教育勸諭ニハ當ニ國憲ヲ重シシテ國法ニ遵ヒテ示サレテ居リマス
惟フニ國憲ハ國家ノ基礎ニシテ國法ハ國家ノ命脈ヲアリマスカラ之
ヲ尊重シ之ヲ嚴守セホハナラズコト國民トシテ當然ノ義務テアリ
マス
暴力乃非合法性行動ハ如何ヲ論セス絕對ニ之ヲ排斥セホハナ
リマセヌ或ハ説ヲ爲シテ其ノ動機ニシテ至誠至純ナルヲ之ニ基ク行
動モ亦恕スヘキニ非スヤト云フ者アラハ之重大ナル謬見ニ陷ルモノ
ト云ハサルヲ得ナイノテアリマス動機ノ如何ヲ問ハス違法性行爲ハ
當ニ違法タル性質ヲ變スルモノテアリマセヌ若シ論者ノ言ノ如ク
動機ノ純ハ行動ヲ純化スルモノナリ等ト云フ如キ論議ニシテ假ニモ
是認セラルル餘地アリトナスナラハ世ハ忽チ直接行動ノ巷トナルヘ
ク國家ノ將來ニ對シ重大ナル危險ト弊害ヲ醸スモノテアルコトハ當
然ノ結論トナリマス價マナケレハナラズ事ト思ヒマス殊ニ軍人ニハ
常人トシテノ一般義務ノ外ニ軍人トシテ特別ニ嚴肅ナル軍紀ニ服ス
ル義務ヲ持ツテ居ルモノテアリマスカ非合法性行動ニ付テハ二層之
價マナケレハナラナイ道理テアリマス
被告人等モ國法ニ背キ軍紀ヲ紊リタル罪萬死ニ値スト申シテ居リマ

ス誠ニ其言ノ通りテアリマス
結局被告人等ハ忠ナラント欲シテ忠ナラズ節ナラント欲シテ節ナラ
ザリシ結果ニ到達セルモノト斷セサルヲ得ナイノテアリマス
御勸諭ニモ己カ本分ノ忠節ヲ守リテ仰セラレテ居リマス軍人トシテ
ノ本分ヲ守リ其ノ職務ニ忠節ヲ盡スト云フコトハ眞ノ忠節ト相成ル
ノテアリマス
又被告人等ノ行動ハ大義ニ非カサルモノナルヲ以テ武勇ニ似テ決シ
テ眞ノ武勇テハナイノテアリマス
古語ニ曰ク君子勇アリテ義ナケレハ限ヲ爲スト云フテ居リマス限ヲ
爲ス如キ勇ハ決シテ眞ノ武勇テハナイノテアリマス
又曰ク白刃反ミテ縮クンハ千萬人ト雖モ我往カント申シテ居リマス
之レ眞ノ武勇テアリマス
大義ニ基キ正道ニ立テ俯仰天地ニ愧テス而シテ初メテ眞ノ武勇ヲ發
揮スルコトカ出來得ルモノテアリマス
之ヲ要シマスルニ動機ノ如何ヲ問ハス國法ハ之ヲ破ルヘカラス軍紀
ハ之ヲ紊ルヘカラス
國法ヲ破リ軍紀ヲ紊ル如キ行動ハ絕對ニ之ヲ排斥セサルヘカラスト
申スモノテアリマス
法ヲ同ル者ハ斷乎トシテ國法守護ノ天職ヲ
明治二十四年東亞ノ風雲急ナルトキ當時日本ヲ巡遊申テアリマシ
タ露國皇太子カ警衛ノ巡査軍田三藏ノ爲メニ傷害ヲ受ケタ事件カ起
リマシタ上御一人ハ素ヨリ盛譽ヲ備セラレ國民一般モ亦色ヲ喪フタ

ノテアリマシタ津田三蔵ハ大津地方裁判所ニ於テ審理セラレタノテ
アルカ法規ノ適用ニ關シ當時ノ爲政者ト司法官トノ間ニ法ノ解釋ニ
關シ見解ヲ異ニスル點カアリマシテ動モスレハ或ル力ノ爲ニ國法ヲ
枉ケラレントスルノ勢ニアツタノテアリマスカ當時ノ司法官見解難
議其人カアリマシテ幸ニ正説ヲ固守シ法規ノ解釋適用其ノ當ヲ得
タノテアリマスカ今ニ於テ司法官談トシテ歴史ノ其ノ名ヲ傳ヘラレ
ルニ至リタルモノナリ故アリト申スヘシテアリマスカ
國法ノ精神ハ之ヲ誤リテハナリマセヌ海陸軍律頒布ノ詔書ニモ兵民
途ヲ分チ實爲治ヲ異ニスル中サレテ居リマスカ
軍律ヲ破リ軍紀ヲ紊リタル者ニ對シテハ常律違反者ニ比シ一層烈白
ノ威ヲ示サネハナリマセヌコトハ申ス途アリマセヌ
法ノ適用ニ付テハ權威ニ屈スルコトナキハ勿論世論ニ迎合スヘカ
ラサルコトハ當然テアリマスカ今歴史ノ事實トシテ茲ニ一層附加致シ
テ置キタキコトハ彼ノ忠臣義士ヲ以テ有名ナル大石内蔵助等四十七
士ニ對スル處分論テアリマスカ等諸士ヲ如何ニ處分スヘキヤニ付テ
ハ現今ノ如ク法例ノ完備セサル當時ニ於テハ相當ノ難問題アリシナ
ルヘシト思料セラルノテアリマスカ情ニ從ヒ之ヲ救スヘキカ理ニ照
シ嚴罰スヘキカ論議ノ精華老中ノ謙未タ容易ニ決スルニ至ラナカッ
タノテアリマスカ當時松平吉保ノ臣義生復來ノ説ヲ容レテ遂ニ漸ク
議決スルコトナツタト云フコトテアリマスカ同人ノ説ト云フハ
大石以下ヲ罰レハ忠義ノ道ニ墜テシテ大石頭ヨリ申上テ談ハ
備者ノ道論ニシテ其理強ク擧ゲヘキニアラサレドモ若モ法禁ヲ犯
シ政令ニ背キタル者ナルニ向テス人臣ノ節ヲ盡セシトテ致命セラ

レンニハ天下ノ政道何ヲ以テ相立タンヤ且上移彈正大務其ノ實父
ノ仇ヲ看過スヘキニアラス若シ四十七人ノ行衛ヲ探索シテ怒ヲ辨
サンニハ諸方ニ騒動アランモ知ルヘカラス淺野安藤亦必死力ヲ盡
シテ救護スルコトトナラハ勢ノ激スルコロ兩家怨ヲ拂ヘ由由シ
キ大事ニ至ルヘシ旁々此ノ徒ニ死ヲ賜フテ一ニハ政道ヲ正シニ
ハ禍亂ヲ防クコト天下ノ御爲ナリ云々
ト云フニアツタノテアリマスカ
四十七士ノ行動ハ被告人等ノ行動トハ勿論同一性質ノモノテハナク
又當時今日トハ法制ノ粗穢完備等ノ點モ異ツテ居リマスカカラ之ヲ
比較論究スルハ當リマセヌト思ヒマスカ大體ニ於テ天下ノ政道乃チ
國法ハ之ヲ正サナケレハナラヌ亦此ノ如キ犯罪ヲ救免又ハ減刑スル
如キコトアラハ今後ノ禍亂測ルヘカラサルモノアルコト明論テアリ
マシテ今ニ於テモ傾聽ノ值アルモノト存シマスカ故ニ一層茲ニ附加
致シタル次第テアリマスカ
法律ニ對シテハ比較的多數ノ軍人カ共同ノ目的ヲ以テ相謀謀シ結
合スルヲ謂フノテアリマシテ蓋シ軍人ハ居常集團ヲ成シ結合ヲ爲
シ易キ狀態ニ居ルモノテアリマスカ軍律當時ヨリ結黨ト云フコ
トヲ重ク罰スルコトニナツテ居リマスカ
明治二年四月軍律ノ二箇條ニ左ノ規定カアリマスカ
一、徒黨ハ古來ノ禁制タリ之ニ依ツテ黨首ハ死刑云々
一、現行海軍刑法第五條ニハ左ノ規定カアリマスカ
一、本以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
一、規定セラレ居ルヨリ觀ルモ明ナル如ク黨ヲ結フコトノミニテモ
罪トナリ處罰セラルルコトトナツテ居リマスカ
第二、兵器ヲ執ルコト
一、兵器トハ通常戰闘ニ使用スル器具ヲ謂フノテ必スシモ陸海軍ノ兵
器規定ニ依ルヘキモノニアラサルコトハ解釋一定シ居ル處テアリ
マスカ
一、軍人ハ居常身ニ兵器ヲ帶ビ又ハ兵器ノ使用ニ訓練セラレテ居ルノ
コトハ軍紀上嚴ニ戒ムヘキ行爲テアリマスカ
明治三年四月軍律ノ第二箇條ニハ
一、武器被服ヲ携脱スルモノハ死刑タルヘシ
ト規定サヘ設ケラレテ居ル位テアリマスカ
一、現行海軍刑法ニ於テモ兵器ヲ執リ或ル種ノ犯罪ヲ實行シタルモノ

ニ於テ皇階階高置ヲ以テ其ノ宜ヲ制セサル可ケン哉海陸軍刑
律條約發テ告ク朕之ヲ閱スルニ損益要ヲ得程度ニ合セリ依テ頭
布シ有司ヲシテ遵守シ軍人ヲシテ懲罰スル處アラシム
而シテ其發布セラレタル海陸軍刑律ヲ見ルニ常律ニ比シ其ノ刑極メ
テ嚴酷テアリマスカ
蓋シ軍人ハ國民トシテ一般ノ義務ヲ負擔スルト同時ニ軍人トシテ特
別ノ義務ヲ有スルモノテアリマスカ
從ツテ軍人ニシテ罪ヲ犯セハ此ノ二重ノ義務ニ背クコト云フコトニ相
成リマスカ關係上其ノ刑モ亦從ツテ重クナツテ居ルノテアリマスカ
明治五年太政官布告第卅三號ヲ以テ改正軍人犯罪律カ發布セラレ
明治十四年十二月普通刑法制定ニ從ヒ海陸軍刑律モ又改正セラレ
海軍刑法別種刑罰ナルモノカ制定セラレ
明治十五年一月ヨリ施行セラレルコトニ成ツタノテアリマスカ
明治四十一年普通刑法改正ト同時ニ海陸軍刑法モ改正セラレ同年
十月一日ヨリ施行セラレタルモノカ現行海軍刑法及陸軍刑法テアリ
マスカ
本件ハ現行海軍刑法ノ反亂罪及反亂準備罪ニ該當スルモノテアリマ
ス
反亂ノ罪ハ軍紀ヲ紊リ治安ヲ害スルコト極メテ重大ナルモノアルヲ
以テ同法第二編ノ二ノ規定セラレ重刑ヲ以テ處シテ居リマ
ス
同罪ヲ構成スルニハ凡ソ左ノ三箇ノ要件ヲ具備スルコトヲ要スルコ
トニ成ツテ居リマスカ

第一、黨ヲ結フコト
黨ヲ結フコトハ比較的多數ノ軍人カ共同ノ目的ヲ以テ相謀謀シ結
合スルヲ謂フノテアリマシテ蓋シ軍人ハ居常集團ヲ成シ結合ヲ爲
シ易キ狀態ニ居ルモノテアリマスカ軍律當時ヨリ結黨ト云フコ
トヲ重ク罰スルコトニナツテ居リマスカ
明治二年四月軍律ノ二箇條ニ左ノ規定カアリマスカ
一、徒黨ハ古來ノ禁制タリ之ニ依ツテ黨首ハ死刑云々
一、現行海軍刑法第五條ニハ左ノ規定カアリマスカ
一、本以上五年以下ノ禁錮ニ處ス
一、規定セラレ居ルヨリ觀ルモ明ナル如ク黨ヲ結フコトノミニテモ
罪トナリ處罰セラルルコトトナツテ居リマスカ
第二、兵器ヲ執ルコト
一、兵器トハ通常戰闘ニ使用スル器具ヲ謂フノテ必スシモ陸海軍ノ兵
器規定ニ依ルヘキモノニアラサルコトハ解釋一定シ居ル處テアリ
マスカ
一、軍人ハ居常身ニ兵器ヲ帶ビ又ハ兵器ノ使用ニ訓練セラレテ居ルノ
コトハ軍紀上嚴ニ戒ムヘキ行爲テアリマスカ
明治三年四月軍律ノ第二箇條ニハ
一、武器被服ヲ携脱スルモノハ死刑タルヘシ
ト規定サヘ設ケラレテ居ル位テアリマスカ
一、現行海軍刑法ニ於テモ兵器ヲ執リ或ル種ノ犯罪ヲ實行シタルモノ

國家主義系不穩事件論告裁判決録

ハ夫々特ニ重ク處罰セラルコト相成ツテ居リマス
例ハ兵器ヲ執リ上官ニ暴行ヲ加ヘタ場合又ハ兵器ヲ執リ守兵ニ
暴行ヲ加ヘタ場合等ニアリマス
兵器ハ國ヲ護リ又ハ身ヲ守ル要具ニシテ之ヲ濫用スルコトハ極メ
テ危険デアリマスカラ特ニ之ヲ嚴ニ取締ル爲メ夫々法令ヲ設ケテ
レテキル次第デアリマス
第三 反亂ヲ爲スコト
反亂ヲ爲ストハ國憲ニ抵抗シテ暴動ヲ爲スコトヲ謂フノデアリマ
ス軍人ハ國家ノ干城トシテ國防ノ任ニ當リ又非常警察ノ場合ニ於
テ國家治安保護ノ任務ニ服スヘキモノデアリマス
然ルニ其ノ本分ニ背キ國憲ヲ紊亂スル如キ行動ハ嚴ニ之ヲ成メ
ハナリマセ
以上ノ三箇ノ要件具備スルトキハ茲ニ反亂ノ罪ヲ成立スルコトデアリ
マシテ此ノ罪ハ軍紀ヲ著リ治安ヲ害スルコト最モ重キモノトシテ現
行刑法第二編冒頭ニ規定セラレタ次第デアリマス從ツテ普通刑法ノ
内亂ノ罪トハ其ノ保護セントスル法益カ異ツテ居リマス關係上本罪
ノ成立ニハ内亂罪ノ如ク勸懲差限ノ目的ヲ必要ト致シマス
被告等ノ行爲ハ多數共同ノ目的ヲ達スル爲メ組織シテ團體ヲ結成シタ
ルコト明カデアリマス又機銃等兵器ヲ使用シタルコトモ疑ハ
リマセ
而シテ内閣職務ノ公廳タル首相官邸ニ侵入シ各大臣ノ首班トシテ國
務ヲ總理スル首相ヲ殺害シ及當時輔弼ノ任ニ當リ内大臣府ヲ統轄ス
ル内大臣ノ官邸ヲ襲撃シ又ハ非常警察ノ任ニ當リ警備隊ヲ襲撃ス

二二四

ル等國憲ニ抗敵暴動シタル所爲アルコトハ明瞭デアリマスカラ海軍
刑法第二十條反亂罪ヲ構成スルモノナルコトハ疑フ容ルル餘地ハア
リマセ
又被告伊東龜城外三名ハ前邊反亂ヲ爲スノ目的ヲ以テ手榴彈又ハ
機銃ヲ準備シ其ノ他謀議ヲ重スル等ノ所爲アリタルモ當日ノ決行ニ
ハ參加スルニ至ラザリシモノナルヲ以テ同法第二十七條ノ反亂豫備
罪ヲ構成スルモノト信シマス
而シテ第二十條ノ反亂ノ罪ハ首魁謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲
シタルモノ第三號ニ區分シ夫々刑ヲ異ニシ居ルヲ以テ各被告人ノ行
爲ハ其ノ何レニ該當スルヤハ論及スルノ必要カデアリマス
同條第一號ニ所謂首魁トハ反亂ノ主動者ト爲リ全般ヲ統率スル地位
ニ在リタル者ヲ謂フモノニシテ或ハ一人タルコトアリ又數人タルコ
トモアリマス
本件ハ海軍部内ニ於ケル國家革新ヲ企圖スル團體陸軍部内ニ於ケル
同種ノ團體及民間ニ於ケル同種ノ各團體カ共通ノ目的ニ向ツテ合流
結合シタルモノデアリマスカラ所謂首魁ナル者ハ各團體毎ニ存在ス
ル可能性アルモノト解スルコトカ出來マス
從ツテ本件ニ於テ海軍刑法ノ適用ヲ受クル者ノ間ニ於テ何人カ
首魁ノ位置ニアリタルヤヲ研究スルニ被告人中古賀清志ハ革新團體
成立以來主動ノ位置ニ在リタル者非僅出征ノ際後圖ヲ託セラレ又ツ
勤務場所ノ關係上連絡統率ノ任ニ當ルノ便宜ヲ有シタルヨリ全般
ノ行動計畫ヲ作成シ他同志ノ統率ノ任ニ當リタル事實ハ之ヲ認メ
ラルノミナラス本人モ自ら司令官兼隊長ニ任シタル如キ朝廷ノ陳

國家主義系不穩事件論告裁判決録

述アリ勞々海軍ニ關スル限り同人ヲ以テ本件反亂ノ罪ノ首魁ト認ム
ルヲ相當ト信シマス
謀議ニ參與シタルハ事件全體トシテ果シテ決行スヘキ否ヤ又ハ
如何ナル時期ニ於テ決行スヘキヤ若ハ實行スヘキモノトシテ如何ナル
行動計畫ニ出ツヘキヤ即チ戰術戰術等ニ關スル事項ノ協議ニ參加
スルヲ云フノデアリマス
被告人中村義雄ハ行動計畫ノ作成ニ參與シ亦友會本部襲撃部
隊ノ指揮者トシテ多數ヲ指揮シタル者デアリマスカラ同條第二號前
段ニ該當シ被告人三上東ハ上海出征中機銃等ヲ入手シ同志ヲシ
テ之レヲ内地ニ後送セシメ實行準備ヲ進ムル等諸般ノ計畫ニ參加シ
マタ昭和七年五月三日武雄温泉ニ於テ黒岩勇ト會合シ古賀清志ニ對
シ勇ヲ過シテ實行ノ時期及計畫ニ關スル意見ヲ述ヘ更ニ同日五日佐
世保ニ於テ同志ヲ糾合シ決行ノ參否ニ付謀議ヲナシ又決行當日東京
水安社ニ於テ古賀清志ト共ニ實行計畫ニ就イテ意見ヲ交換シタル
事實アリ加之決行ノ際ニハ首相官邸襲撃專門組ノ年長者トシテ多數
ヲ指揮シタル者デアリマスカラ同條第二號前段ニ該當スルモノデア
リマス
被告人黒岩勇ハ昭和七年二月二十日古賀清志ト東京ニ會見シテ佐
世保方面トノ連絡ノ任ニ當リ同年四月十七日佐世保市野野道連官
舎ニ於テ三上、林等ト實行計畫ニ付打ち合せヲナシ同年二十八日土
浦ニ於テ古賀清志ト會合シ決行日時決行方法等ニ付協議シ爾來東京佐
世保ノ間ヲ往復シテ決行ニ關スル協議ヲ爲シタル事實アリ同人モ亦
同條第二號前段ニ該當スルモノデアリマス

二二五

被告人山岸宏ハ國家革新運動ノ同志トシテ長期間五ニ連絡アリ積極
實働任後昭和七年五月二日古賀清志中村義雄ト土浦ニ會合シ決行ノ
時期及計畫ニ付五ニ討論シタル事實アリ又決行當日ハ首相官邸襲撃
專門組ノ指揮ヲ執リタル事實ニ備シ同人マタ同條第二號前段ニ該當
スルモノデアリマス
村山格ハ長期間國家革新運動ノ同志トシテ活動シ昭和六年頃ヨリ
リ武器ノ入手ニ奔走スル等實行ニ關スル諸般ノ準備ヲ進メ來リマシ
タカ昭和七年三月上海出征中古賀清志ヨリ實行計畫ヲ授ケ
意見ヲ求メラレレニ賛成シ翌四月横須賀鎮守府ニ轉勤ノ途次佐世
保ノ同志ト實行方法ニ付協議シ次テ同月廿一日霞ヶ浦ニ於テ古賀清
志ト會合シ陸軍ヲ誘致シ得ル見込アルヲ以テ一先ツ海軍側ノミニヨ
リ決行スヘキ旨ノ意見ヲ述ヘ實行計畫ノ細目ニ互リテ古賀清志ニ一
任スル旨ノ協議ヲナシタルノ事實アリ同人モ亦同條第二號前段ニ該
當スルモノデアリマス
既ニ述ヘタル如ク反亂罪ハ國憲ニ抗敵スル所爲ニシテ此ノ抗敵遂
行ノ目的ノ爲ニスル暴行ヲ爲ス此ノ抗敵ノ内容ヲ成スモノデア
リマスカラ殺人殺人未遂建造物毀棄等ノ罪ハ反亂罪ニ包含セラル
ヘク別ニ是等ノ罪ニ對シテ法律ヲ適用スルコトヲ要セナイノデア
リマスカ茲ニ多少ノ疑ヲ容レル餘地アリト思フセラルハ西田稅ニ對
スル殺人未遂ノ關係デアリマス然レトモ被告人古賀清志豫備罪開罰
書ニハ「西田ハ吾等ノ運動ニ對シテ妨害的行動ヲ執ツテ居ルヲテハ
ナイカ」トノ疑ヲ生シ決行當日モ亦妨害ヲ爲ス虞アリトシテ之カ殺
害ヲ思ヒ立テタルモノナルヲ以テ目的遂行ノ爲ニスル暴行ヲ爲ス

部ト見ラルヘク別ニ殺人ノ法律ノ適用ヲ爲スヲ要セザルモノト思ヒマス

爆発物取締規則ニ付テハ特ニ爆発物ヲ使用スルコトノ危險ヲ想定シテ特別法トシテ制定セラレタルモノテアリマスカ軍刑法中兵器ナルモノノ種類ニ制限カアリマセヌカラ手榴彈投擲ノ所爲ハ反亂罪中ニ包含セラルモノテアルト解シマス以上反亂ノ既遂罪ニツイテ古賀ト三上ト黒岩ハ其ノ情重ク中村山岸村山ハ其ノ情輕シト認メ又同階級罪ノ内伊東大庭林ハ其ノ情重ク塚野ハ其ノ情輕シト申シ上ケル次第アリマス

以上ノ見解ニ於キマシテ本職ハ、
被告古賀黒岩三上ニ死刑
山岸中村村山ニ無期禁錮
林大庭伊東ニ禁錮六年
塚野ニ禁錮三年
ヲホメマス

一、五・一五事件(海軍側)

判決書

佐賀縣佐賀市西馬町七十四番地
佐賀縣中尉 古賀 清 志
明治十七年四月十日生
福岡縣小倉市大字富野千二百五番地
佐賀縣中尉 中村 義 雄
明治十七年三月二十日生
佐賀縣佐賀市水ヶ江町百十七番地
佐賀縣中尉 三上 重 典
明治十七年三月二十日生
佐賀縣小城市大字別府四百二十一番地
佐賀縣中尉 黒岩 岩 男
明治十七年三月二十日生
新潟縣高田市東本町三丁目四十七番地
佐賀縣中尉 山 岸 宏
明治十七年九月二十日生

佐賀縣小城市大字多原五百二十六番地
佐賀縣中尉 村 山 精 之
明治十七年八月二十日生

青森縣青森市大字大野字長七十八番地
佐賀縣中尉 伊 東 龍 城
明治十七年二月十日生

東京府東京市豊島區下谷台町一丁目四百六番地
佐賀縣中尉 大 庭 春 雄
明治十七年三月二十日生

熊本縣鹿野郡池上村大字高橋九百十八番地
佐賀縣中尉 林 正 義
明治十七年三月十四日生

鹿児島縣肝付郡鹿屋町中名六百三番地
佐賀縣中尉 塚 野 義 雄
明治十七年二月二十日生

右古賀清志中村義雄三上重典黒岩男山岸宏村山精之ニ對スル反亂及伊東龍城大庭春雄林正義塚野道雄ニ對スル反亂豫備各被告事件ニ付當軍法會議ハ檢察官海軍法官官山本孝治干典審理ヲ遂ケ判決スルコト左ノ如シ

被告古賀清志同上三上重典各禁錮十五年ニ處ス

被告黒岩男ヲ禁錮十三年ニ處ス

被告中村義雄山岸宏村山精之ヲ各禁錮十年ニ處ス

國家主義系不穩事件論告裁判決録

被告入伊東龍城同大庭春雄同林正義ヲ各禁錮二年ニ處ス

被告入塚野道雄ヲ禁錮一年ニ處ス

但シ右伊東龍城大庭春雄林正義ニ對シテハ各五年間禁錮道雄ニ對シテハ二年間禁錮トモ右刑ノ執行ヲ猶豫ス

押收物件中銃銃十四挺(證第一號乃至第十二號第一百十號及第一百二號)拳銃五百五十四發(證第十五號乃至第十九號第一百十三號ノ一及二)短刀六口(證第二十號乃至第二十五號)ハ孰レモ之ヲ沒收ス

被告古賀清志ハ大正十四年三月佐賀縣立佐賀中學校第四學年修了後同年四月海軍兵學校ニ入學シ昭和三年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ同年十一月海軍少尉ニ同六年十二月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

被告中村義雄ハ大正十四年三月福岡縣立小倉中學校第四學年修了後同年四月海軍兵學校ニ入學シ昭和三年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ同年十一月海軍少尉ニ同六年十二月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

被告三上重典ハ大正十一年三月佐賀縣立佐賀中學校卒業後同十二年四月海軍兵學校ニ入學シ同十五年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ昭和三年一月海軍少尉ニ同四年十一月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

被告黒岩男ハ大正十二年三月佐賀縣立小倉中學校第四學年修了後同年四月海軍兵學校ニ入學シ同十五年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ昭和三年一月海軍少尉ニ同四年十一月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

被告山岸宏ハ大正十二年三月佐賀縣立小倉中學校第四學年修了後同年四月海軍兵學校ニ入學シ同十五年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ昭和三年一月海軍少尉ニ同四年十一月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

被告村山精之ハ大正十二年三月佐賀縣立小倉中學校第四學年修了後同年四月海軍兵學校ニ入學シ同十五年三月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ昭和三年一月海軍少尉ニ同四年十一月海軍中尉ニ任セラレ同七年五月待命翌八年五月休職仰付ケラレタルモノ

ヲ命セラレ昭和三年五月海軍少尉ニ任セラレ同四年三月豫備役付ケラレ同五年四月佐賀高等學校ニ入學シ同七年五月退校シタルモ...

被告人塚野道雄ハ大正五年三月鹿児島縣立志布中學校第四學年終了後同年八月海軍兵學校ニ入學シ同八年十月同校卒業海軍少尉候補生ヲ命セラレ同九年八月海軍少尉ニ同十二年二月海軍中尉ニ同十四年十二月海軍大尉ニ任セラレ昭和七年七月待命翌八年七月豫備役付ケラレタルモ...

ノアルノミナラス漢語並ニ作ヲ國語並ニ變及倫義並ニ變ニ於テ未嘗有ノ難高ニ達スヘク今ニシテ國民ノ覺醒ヲ促シ舞國一致時弊ノ刷新ヲ圖リ建國ノ精神ニ基キテ皇道ヲ宣揚シ皇國日本ノ眞姿ヲ顯彰スルニ非ス...

結果同人ヲシテ同級教師後援會及同級生等ヲ率ヒ別團體トシテ實行ニ參加セシメタルニ至ラシム...

國家主義系不穩事件報告並判決録

ニ使用ス(キ拳銃及拳銃彈ノ供與ハ約シタリ)
茲ニ於テ被告入古賀清志同中村義雄ハ決行時期ヲ同年四月下旬ヨリ
五月中旬迄ノ間ト豫定シテ其ノ準備ヲ進メ同年三月二十二日頃清志
ハ右ノ情勢ヲ鑑みニ在リタル被告入山岸宏佐世保ニ在リタル被告入
林正義上海ニ在リタル被告入村山格之ニ通知シテ各同志ニ傳達セシ
メ五ニ連絡通謀スルトコロアリタリ
尙被告入等ハ豫テヨリ直接行動ノ準備ニ専念シ之ニ使用ス(キ武器
入手ニ勵心シテ執レモ手榴彈拳銃等ノ蒐集ニ努メ
一、被告入村山格之ハ昭和七年一月二十一日實父ノ從弟長尾秀雄ヨ
リ南部式拳銃一挺ヲ入手シ更ニ同人ノ紹介ニ依リ同年四月二十四日海
軍少尉澤田源ヲシテ秀雄ノ知人西門外一ヨリ同拳銃彈約四十發ヲ
入手セシメ同年三月初旬迄ハ右拳銃及拳銃彈ヲ與市下山手町岩佐
六郎ヲシテ被告入古賀清志ニ送付セシメ更ニ格之ハ關連機運乘組
トシテ上海ニ出征中同年四月十六日同地砲中ノ軍艦田雲ニ於テ
海軍大尉田崎元武ヨリ「ブローニン」拳銃一挺同拳銃彈五十發ヲ
入手シ當時通信連絡ヲ爲上海在任世保間ヲ往復シ居リタル關連機運
乘組被告入大庭春雄ヲシテ世保ニ持歸ラシメ次テ横須賀機動ノ
際自ラ之ヲ携行シ同年二月二十一日土浦町ニ於テ被告入古賀清志ニ手
交シ
二、被告入伊東龜城ハ上海出征中同年二月三日職職ニ於テ負傷ノ際
關連機運乘組トシテ携帶シ居リタル手榴彈一箇ヲ其ノ儘蓄ニ所持シテ後
送セラレ同年十一月在任世保軍病院ニ入院セシカ翌十二月同院病
室ニ於テ之ヲ被告入林正義ニ手交シ正義ハ同年三月二十二日之ヲ

原告等ニ對シテ

三、被告入三上卓ハ上海出征中同年二月下旬特別陸隊隊用ノ手榴彈
二十箇ヲ入手シテ同年四月下旬之ヲ被告入村山格之ニ手交シ格之ハ之
ヲ關連機運乘組トシテ同年三月二十二日來滬中ノ關連機運乘組
ニ持參シテ同機運乘組被告入大庭春雄ニ交付シ春雄ハ之ヲ内地ニ輸
送シ同年二月十七日頃在任世保海兵團勤務被告入林正義ノ私室ニ運搬
シテ同人ニ交付シ正義ハ一旦之ヲ同室内ニ隠匿シ置キタルカ同年
末頃亦ノ發覺ヲ虞レ當時尙官憲ニ注目セラレザリシ同機運乘組被告
入堀野道雄ノ私室ニ運搬シ道雄ハ其ノ情ヲ知リナカラ之ヲ受領シ
テ同室内ニ隠匿シ四月九日正義ハ更ニ之ヲ在任世保市龍野町ノ道雄
私宅ニ運搬シ同所ニ於テ原告等大庭春雄及堀野道雄ト共ニ道雄所
有ノ手榴彈二箇ヲ納メ勇ハ即日一旦之ヲ佐賀縣小城郡東多村ノ自宅
ニ持歸リ義ニ正義ヨリ郵送ヲ受ケタル手榴彈一箇ト共ニ之ヲ同年
二十一日發遣便ヲ以テ東京市內ニ輸送シ其後自ラ東京市友人東
京府下王子町下十條田代平方ニ之ヲ隠匿シ
四、被告入古賀清志ハ同年四月三日大川周助ヲ訪ネ前示ノ約ニ從ヒ
同人ヨリ拳銃五挺拳銃彈二百二十五發及運動資金千五百圓同年二月
九日同人ヨリ運動資金二千圓ヲ受領シ更ニ五月十三日原告等ヨリシテ
同人ヨリ運動資金二千五百圓ヲ受領セシメ尙清志ハ本間憲一郎ヨリ
同年四月十七日拳銃三挺拳銃彈若干同月二十二日拳銃二挺拳銃彈
若干同月三十日頃泉谷忠助ヲ介シ拳銃一挺拳銃彈若干ヲ受領シ
五、被告入古賀清志同中村義雄ハ拳銃手榴彈ノ不足ヲ補フ爲短刀ヲ
入手セント欲シ池田武志及奥田秀夫ニ對シ資金ヲ貸シテ之ヲ購入

國家主義系不穩事件報告並判決録

方ヲ依頼シ同年四月二十四日武志ヨリ四月同日同年五月三日秀夫ヨリ
三日翌四日武志ヨリ二日同月十四日秀夫ヨリ三日ヲ受領シ
六、被告入三上卓ハ右同様ノ目的ヲ以テ同日短刀二口ヲ購入シタ
リ
以上ノ外
一、被告入大庭春雄ハ同三上卓カ上海出征中入手シタル陸式拳銃一
挺同拳銃彈若干同年四月初旬被告入村山格之ヨリ受領シ尙京ノ
指示ニ基キ同年五月九日上海北四川路松竹兼一ヨリ拳銃二挺拳銃
彈若干及保彈銀四箇ヲ購入シテ前示拳銃拳銃彈ト共ニ其ノ乘機輸
私室内ニ隠匿シ他日決行ノ際使用セントシタルモ遂ニ其ノ機ヲ得
ズ
二、被告入林正義ハ同堀野道雄ト共ニ同年五月初旬當時道雄方ニ同
居中ノ岩重機運乘組ニ資金ヲ貸シ同人ヲシテ拳銃入手ニ奔走セシメタ
ルモ遂ニ其ノ目的ヲ達セザリシモノナリ一方被告入古賀清志ハ同
中村義雄ト相謀リ前示ノ企圖ニ基キ同年三月下旬ヨリ之ヲ實行計
畫ノ起案ニ着手シ尙被告入三上卓同堀野道雄同山岸宏佐同村山格之等
トモ書簡ノ往復直接ノ對談又ハ原告等ヲ介スル等ノ方法ニ依リ互
ニ意見ノ交換ヲ爲シ種々策謀謀議スルトコロアリシカ更ニ同年五
月十三日土浦町山水閣ニ於テ池田武志奥田秀夫後藤團彦トモ會合
協議ノ上最後ノ案ヲ作成シ斯クテ同年五月十五日ニ至ル迄ノ間ニ於テ
被告入伊東龜城同大庭春雄同林正義同堀野道雄ヲ除ク外被告入全
部ノ同意ヲ許シ之ヲ決定シタリ即チ被告入古賀清志同中村義雄同
三上卓同堀野道雄同山岸宏佐同村山格之及奥田秀夫池田武志並ニ陸軍

國家主義系不穩事件報告並判決録

士官候補生後藤秋房外十名ヲ四組ニ分チ前示ノ武器ヲ使用シテ同
月十五日午後五時三十分ヲ期シ第一組ニ於テ第一組ハ内閣總理大
臣官邸第二組ハ内大臣官邸第三組ハ立憲政友會本部第四組ハ三菱
銀行ヲ襲撃シ第二組ニ於テ第四組ヲ除ク他ノ三組ハ相合シテ襲撃
隊ヲ襲撃スルコトトシ別ニ橋本三郎ハ右行動ニ呼應シ農民同志ノ
別働隊ヲ以テ同日夜七時頃日没時ヲ期シ東京市內及其ノ附近ニ
電力ヲ供給スル電燈所數箇所ヲ襲撃スルコトトシ
以上ノ行動ニ依リ政黨ノ首領ニシテ内閣ノ首謀タル者ヲ斃シ若シ側ノ
奸ト目スル者ヲ除キ更ニ政黨財閥打倒ノ意思ヲ表明スルト共ニ警視
廳ニ於テ急遽召集セラルヘキ警官隊ト決戦シテ警察力ヲ破壞シ電燈
ヲ作爲シ依テ他勢力ノ發動ヲ促進シ速ニ國家革新ニ向フノ端緒ヲ開ク
ニ至ランコトヲ庶幾シタリ尙被告入古賀清志ハ西田稅ヲ日シテ被告
人等ノ國家革新運動ヲ妨害スルモノナリトナシ橋本三郎ヲ通シテ川
崎長光ニ旨ヲ令メ同人ヲシテ此ノ機會ニ右稅ヲ暗殺セシムルコトト
シタリ
茲ニ於テ被告入古賀清志ハ前示武器中手榴彈六箇ヲ變電所襲撃用ト
シ堀野道雄ヲシテ林正義ニ交付セシメ又短刀六口ヲ右襲撃ノ際ノ携
帶用トシ拳銃一挺拳銃彈八發及短刀一口ヲ川崎長光ノ西田稅暗殺
用トシテ自ラ之ヲ後藤團彦ニ手交シ更ニ手榴彈二箇短刀一口ヲ三菱
銀行襲撃用トシ中村義雄ヲシテ奥田秀夫ニ交付セシメ其ノ他ノ武
器ハ被告入等ノ屬スル第一第二及第三ノ各組ニ分配スルコトトシ

國家主義派不穩事件報告並判決錄

斯ノテ被告古賀清志同村義雄同三上京同山岸宏村山格之八昭和七年五月十五日午後二時三十分頃迄東京市芝區榮町東京交社ニ集合ノ上二同軍服ヲ着用シ前示ノ武器分配ヲ爲シタル後...

一三三

リシヨリ之ヲ憤リ同人ニ對シテ拳銃一彈ヲ放テ其ノ右胸部ヨリ膝臟ヲ損傷シテ左側腹部ニ通スル貫通銃創ヲ負ハシメ因テ同人ヲシテ同月二十六日右傷傷ニ基テ膝臟破裂死ニ因リ死亡スルニ至ラシメタリ...

國家主義派不穩事件報告並判決錄

通徒創ヲ負ハシメ一同表門ヨリ邸外ニ出テ赤坂區池町ニ於テ二輛ノ自動車ニ分乘シ三上京山岸宏後藤映範石川義雄原市之助ノ一隊ハ...

一三三

ハ同門前ヨリ門内ニ向テテ手榴彈一箇ヲ投擲シ支那前庭ニ於テ之ヲ炸裂セシメ板壁等ヲ損壞シ池松武志モ亦似イテ手榴彈一箇ヲ門内ニ投擲シタルモ不發ニ終リ...

ニ再ヒ不發ニ終リシヲ以テ患伏ハ直ニ下車シ同支關ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ正面露天前境附近ヲ損壞シタル後一同所ヲ引揚ケ同五時四十分頃警視廳ニ到リタルトコヨリ後期ニ反シテ決戦ヲ交フヘキ警官ノ集合アラサリシモ同廳表裏關前ニ停車シ金清野吉原政巳ノ兩名下車シ豐ハ同廳表裏關前ヨリ同廳舎ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ炸裂セザリシニヨリ更ニ之ヲ拾ヒテ投擲シタルニ過ツテ路傍ノ電柱ニ命中炸裂シ碍子電線等ヲ損壞シタル上一同再ヒ自動車ニ乗り沿道ニ機文ヲ撒布シ同五時五十分頃東京憲兵隊ニ自首シタリ

第四組奥田秀夫ハ前示手榴彈二箇ヲ携ヘ同日午後七時三十分頃同市麹町區丸ノ内三番銀行裏ニ到リ同銀行構内ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ同銀行ト三番道場トノ中間路上ニ落下炸裂シ同銀行直ニ同道場ノ外等ヲ損壞シテ逃走シタリ

別働隊タル橋孝三郎ノ一派ハ其ノ計畫ニ從ヒ一、大貫明幹ハ高根澤與一ト共ニ同日午後七時過東京府北豐島郡尾久町所在鬼怒川水力電氣株式會社東京變電所ニ到リ明幹ハ電動機筒至ニ侵入シ電動機水噴筒ニ通スル三極閉閉器一箇ヲ開放シテ右ノ噴筒ノ運轉ヲ停止セシメ更ニ金種ヲ以テ他ノ閉閉器一箇ヲ損壞シ尙與一ヲテ所携ノ手榴彈ヲ必要ナル變電設備ニ向ヒ投擲セシメ同トシタルモ其ノ意ヲ果サズ一、横須賀喜久屋ハ同日午後七時過埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町所在東京電燈株式會社鳩ヶ谷變電所ニ到リ電動機筒至ニ侵入シ手斧ヲ以テ電機盤建設ノ三極閉閉器三箇及電動機筒ニ附着セル水壓計三箇

ヲ損壞シ更ニ所携ノ手榴彈一箇ヲ屋外變電器ニ向ヒ投擲炸裂セシメ因テ中性點接地抵抗器基礎ノ一部ヲ損壞シテ逃走シ

一、橋五百枝ハ同日午後七時十五分頃前示尾久町所在東京電燈株式會社田端變電所ニ到リ電動機筒至ニ侵入シ電動機水噴筒ニ通スル三極閉閉器二箇ヲ開放シテ右ノ噴筒ノ運轉ヲ停止セシメ加フルニ金種ヲ以テ電機盤上ノ電流計四箇ヲ破壞シ更ニ同室内電動機ヲ破壞スル目的ヲ以テ所携ノ手榴彈ヲ投擲セントシタル際當直員ニ發見セラレ其ノ意ヲ果サズシテ逃走シ

一、温水秀則ハ同日午後七時十分頃同府葛飾郡深溝町所在東京電燈株式會社深溝變電所ニ至リ飲料水用電動機小屋ニ侵入シ手斧ヲ以テ電動機配線一本ヲ切断シ且ツ所携ノ手榴彈一箇ヲ構内建物ニ向ヒ投擲シタルモ冷塔塔板圍ニ命中炸裂シ其ノ一部ヲ破壞シテ逃走シ

一、矢吹正吾ハ同日午後七時十五分頃同府葛飾郡小松川町所在東京電燈株式會社小松川變電所ニ到リ電動機筒至ニ侵入シ電動機筒用三極閉閉器四箇ヲ開放シテ同噴筒ノ運轉ヲ停止セシメ尙同室屋上ニ向ヒ所携ノ手榴彈ヲ投擲シタルモ附近ノ環中ニ落下不發ニ終リシ後逃走シ一、小室力也ハ手榴彈一箇及短刀一振ヲ携ヘ同日午後六時五十分頃同府葛飾郡戸塚町所在東京電燈株式會社戸塚變電所ニ至リタルモ襲撃ニ先テ恐怖心ヲ生ジテ之ヲ斷念シタリ一、橋本武夫ハ同日午後七時過東京府葛飾郡戸塚町所在東京電燈株式會社戸塚變電所ニ到リ電動機筒至ニ侵入シ手斧ヲ以テ送電機停止シテ密着ヲ暗黒ナラシムル目的ヲ達スルニ至ラ

(中略)

ザリシモノナリ川崎長光ハ前示計畫ニ基ク委屬ニ應ジ拳銃一挺ヲ携ヘ同日午後七時頃東京市外代々木山谷西田電宅ニ到リ同家二階六疊ノ客間ニ於テ同人ト面接シ投擲ノ機會ヲ窺ヒテ對談中同七時三十分頃突如視ニ向ツテ拳銃六發ヲ連射シ因テ右手掌貫通銃創及下腹背貫通銃創ヲ負ハシメタルモ殺害ノ目的ヲ達セザリシモノナリ一、橋本武夫ハ同日午後七時過埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町所在東京電燈株式會社鳩ヶ谷變電所ニ到リ電動機筒至ニ侵入シ手斧ヲ以テ電機盤建設ノ三極閉閉器三箇及電動機筒ニ附着セル水壓計三箇

而シテ被告人大庭春雄ハ同日十五日豫テ他日執行ノ際ノ準備トシテ蒐集シ置キタル前示拳銃三挺拳銃彈頭等ヲ其ノ發覺ヲ慮レテ密ニ關邊線路ノ私室ヨリ被告人塚野道雄ノ官舎ニ運搬シ隠匿方ヲ依頼セシヨリ道雄ハ其ノ情ヲ知りナガラ直ニ應諾ノ上之ヲ同官舎内ニ隠匿シ置キタルモノナリ

法律ニ照スニ被告人古賀清志同中村義隆同三上京、同黒岩勇、同山岸宏、同村山格之ヲ當然ヲ精兵兵器ヲ執リ反復ヲ爲シ謀謀ニ參與シタル判示所爲ハ各海軍刑法第二十條第二號前段ニ該當シ其ノ罪責莫ニ重大ナリト認察國ノ重情諒トスベキモノアルヲ以テ右所定刑中有期禁錮刑ヲ選擇シ其ノ刑罰範圍内ニ於テ被告人古賀清志、同三上京、同山岸宏、同村山格之各禁錮十年ニ處スベク、被告人伊藤龜城、同大庭春雄、同林正義ノ判示反復豫備ノ所爲ハ孰レモ同法第二十七條第二十條ニ該當スルヲ以テ罰禁刑ヲ選擇シ其ノ所定刑罰範圍内ニ於テ被告人各禁錮二年ニ處スベク、被告人塚野道雄、反復豫備ヲ幫助シタル判示所爲ハ同法第二十七條第二十條刑罰第六十二條第六十三條第六十八條第三號ニ該當スルヲ以テ禁錮刑ヲ選擇シ其ノ所定刑罰範圍内ニ於テ同被告人ヲ禁錮一年ニ處スベク尙伊藤龜城大庭春雄林正義塚野道雄ニ對シテハ夫々刑ヲ執行ヲ納豫スベキ情狀アリト認メ刑法第二十五條ニ則リ龜城、春雄、正義ニ對シテハ各五年間道雄ニ對シテハ二年間孰レモ右刑ノ執行ヲ納豫スベク主文掲記ノ押收物件ハ本件犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタルモノニシテ犯人以外ノ者ニ屬セザルヲ以テ刑法第十九條第一項第一號第二項ニ依リ之ヲ沒收スベキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決ス
昭和八年十一月九日

國家主義系不穩事件論告最判決録

東京軍法會議

裁判長判主海軍大佐 高須 四郎
裁判官判主海軍法務官 高須 潤治
裁判官判主海軍少佐 大和田 昇
裁判官判主海軍大尉 藤尾 勝夫
裁判官判主海軍大尉 木阪 義胤

一三、五・二五事件民間側豫審

終結決定書

豫審終結決定

本籍 水戸市馬口町二千二百八番地
住居 茨城縣茨城郡常磐村新立三千三十九番地
農 業 畑 圃 三 郎
當四十一年
本籍 茨城縣那珂郡五家村東木倉八百十八番地
住居 不定
農 業 後 藤 團 彦
當三十一年

一三六

本籍 同縣東茨城郡常磐村三千三十九番地
住居 同所
農 業 林 正 三
當四十一年
本籍 同縣久慈郡世矢村大字小日千八百二十七番地
住居 不定
農 業 矢 吹 正 喜
當二十二年

本籍 同縣東茨城郡上野村大字大野十九番地
住居 不定
農 業 横 須 賀 久 雄
當二十二年

本籍 同縣西茨城郡常磐町大字笠間千三百六十二番地
住居 不定
農 業 畑 圃 五 四 枝
當二十二年

本籍 同縣那珂郡野田村武田五百三十九番地
住居 不定
農 業 大 實 明 幹
當二十四年

本籍 同縣那珂郡大貫村大字若崎三百十九番地
住居 同縣那珂郡西大崎二千四百四十八番地

清水安造方

農 業 小 室 力 也

本籍 同縣西茨城郡笠間町大字笠間千二百九番地
住居 不定
無 職 春 田 信 義
當三十七年

本籍 廣島縣安藝郡吉野町大字吉野六千九百七十三番地
番地ノ二
農 業 畑 圃 三 郎
當三十七年

住居 東京市中野區新井四百五十三番地林新太郎方
學 生 奥 田 秀 夫
當三十四年

本籍 鹿兒島縣出水郡出水町上瀬田百三十九番地
住居 東京市渋谷區神宮通り二丁目三十番地東條輝方
無 職 池 松 武 志
當三十四年

本籍 茨城縣鹿島郡沼前村大字網掛二百三十番地
住居 同所
無 職 高 橋 一 郎
當二十三年

本籍 愛知縣寶飯郡郡町大字神ノ郷字殿市場八番地
地

國家主義系不穩事件論告最判決録

一三七

住居 茨城縣東茨城郡常磐村新立三千三十九番地受
鄭 泰 内
農 業 杉 浦 孝
當二十五年

本籍 同縣那珂郡深田八百三番地
住居 同縣那珂郡本米崎千五百六十二番地福引寅松方
小 學 校 調 導 堀 川 秀 雄
當二十八年

本籍 同縣前渡村大字長砂四百八十六番地
住居 同所
農 業 照 沼 操
當二十四年

本籍 同縣前渡村大字前沢八百三十五番地
住居 同所
農 業 黒 澤 金 吉
當二十六年

本籍 同縣前渡村大字前沢九百九十九番地
住居 不定
農 業 川 崎 長 光
當二十三年

本籍 東京市麹町區代官町一番地
住居 同市品川區上大崎四丁目二百三十一番地

國家主義系不穩事件論告裁判決録

無職 大川 周 明
本籍 同市澁谷區當分町十二番地
住居 同市澁谷區當分町十二番地
天行會々長 山 秀 三
本籍 同市日本橋區龜坂町四丁目十五番地
住居 同市澁谷區當分町十二番地

右各被告人ニ對スル爆發物取締則違反殺人及殺人未遂被告事件ニ付併合審理ノ上終結決定スルコト左ノ如シ
主 文
當四十四年
被告人橋本三郎同後藤國彦同林正三同矢吹正吾同横濱賀久建同堀五百枝同大貫朝香同小室力也同春田信義同奥田秀夫同池松武志ニ對スル爆發物取締則違反殺人及殺人未遂被告人高根澤與一ニ對スル同取締則違反殺人被告人杉浦孝ニ對スル同取締則違反殺人被告人堀川秀雄同照田清同黒澤金吉ニ對スル同取締則違反殺人被告人末達教義被告人川崎長光ニ對スル同取締則違反殺人及殺人未遂被告人大川周明同山秀三同木間憲一ニ對スル同取締則違反殺人及殺人未遂被告事件ヲ夫々東京地方裁判所ノ公判ニ付ス

被告人橋本三郎ハ

黨内閣ニ特權階級ヲ相托シテ上進明ヲ覆ヒ國政ヲ弄リ民衆ヲ擄取シテ私利私慾ヲ逞クシ國家存立ノ大義ヲ誤リ居ルニ因ルモノナルヲ以テ之ヲ非正ヲ期スルニハ非常手段ニ依リ右政黨内閣ニ特權階級ヲ打倒スルニ如カストノ思想ヲ懷クニ至リタリ爾來同被告人ハ右國家正ノ思想ヲ前記被告人後藤國彦同林正三及當時右黨幹部生タリシ被告人矢吹正吾同横濱賀久建同堀五百枝同大貫朝香同小室力也同春田信義等ニ鼓吹シ右各被告人等ハ孰レモ被告人橋本三郎ノ右思想ニ共鳴シ居リタルモノナルカ昭和七年二月頃ヨリ右井上昭吉内閣等カ國家改造ヲ企圖シテ政黨内閣ニ特權階級打倒ノ實行運動ニ著手シ一人一殺主義ニ據リ同年二月其同志小沼正カ井上昭吉之助ヲ同年三月五日其同志愛宕五郎カ岡塚隆ヲ各暗殺シ斯クテ漸次政黨界特權階級等ノ巨頭暗殺ヲ決定セントタルモ其一味ハ直チニ逮捕セラレタルヨリ茲ニ右被告人等ハ右井上昭吉等ノ計畫執行ノ後ヲ承ケ同年三月下旬以來右井上昭吉等ト其目的企圖ヲ同シ五ニ連絡ヲ執リ來リタル海軍中尉古賀清志同中村義雄同三上京同山岸安同少尉村山格之豫備海軍少尉黒岩勇及後藤映翁外ノ名ノ陸軍士官候補生等ニ被告人奥田秀夫同池松武志亡温永秀則等ト共謀ノ上右古賀清志等ノ海軍將校及陸軍士官候補生十一名並ニ被告人奥田秀夫同池松武志等ニ於テハ首相官邸内大臣官邸政友會本部三黨銀行總行等ヲ手榴彈ヲ使用シテ襲撃シ内閣總理大臣大藏大臣大隈野田等ノ兩名ヲ殺害シ之ヲ阻止セントスルモノハ同政黨統ニテ射殺シ被告人橋本三郎同後藤國彦同林正三及被告人矢吹正吾等愛宕五郎生並ニ亡温永秀則等ニ於テハ東京市並

國家主義系不穩事件論告裁判決録

明治四十五年三月茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シ大正元年九月第一高等學校第一部乙類ニ入學シ同年三月同校第三學年ヲ中途退學シタル後同年十二月頃ヨリ茨城縣茨城郡常磐村新立三千三十九番地ニ農場ヲ經營シ昭和四年十一月頃右農場ヲ中心トシテ愛郷會ヲ創立シ次テ同年四月十五日自營的農村運動學校愛郷塾ヲ設立シ愛郷主義ノ下ニ農村子弟ノ啓蒙教育ニ努メ來リタルモノ
被告人後藤國彦ハ
大正十年三月同縣立水戸農學校卒業後一時同縣北相馬郡寺原村尋常小學校等ニ代用教員トシテ奉職シ翌十一年五月同縣那珂郡柳川村尋常高等小學校ノ訓導トナリタルモ翌十二年四月其職ヲ辭シ同縣立農業教育養成所ニ入り翌十三年三月同養成所ヲ卒ヘ同年四月ヨリ同縣那珂郡柳川村尋常高等小學校ノ訓導ニ復職シ爾來其職ニ在リタルモ昭和六年六月頃ヨリ被告人橋本三郎ト相交ルニ至リ同年九月其職ヲ辭シ同年十月頃ヨリ右愛郷塾ノ教師トナリタルモノ被告人林正三ハ
明治四十五年三月同縣立水戸中學校ヲ卒業シ同年四月東京美術學校西洋科ニ入學シ大正六年三月同校ヲ卒業シタル後直チニ右被告人橋本三郎ノ經營ニ係ル農場ニ入り共ニ農業ニ従事シ傍水戸市所在私立大成高等女學校同好女學校同好女學校及同縣東茨城郡和田村赤塚所在私立水府高等女學校等ノ講師トシテ奉職シ昭和六年四月以降前記愛郷塾ノ教師トナリタルモノナルカ被告人橋本三郎ハ昭和六年三月頃ヨリ日本國家正ヲ志シ其同志ノ獲得ニ努メ居リタル井上昭吉内閣等ト相謀ルニ及ヒ現下農村廢弊ノ根源ハ改

ニ其近郊ニ電力ヲ供給スル重要ナル變電所ヲ手榴彈ヲ使用シテ襲撃シ帝都ヲ暗黒化シ一般人心ヲ混亂状態ニ陥レ治安ヲ妨ケ因テ以テ國家革新ノ段階ニ迄進展セシメ且其機會ニ於テ該計畫遂行ノ妨害ヲ爲シ居ルカ如キ疑念ヲ抱カレ居リタル西田院ヲモ併セテ殺害セントシテ企圖シ先古賀清志等陸海軍人及被告人奥田秀夫同池松武志等ハ四組ニ分レ同年五月十五日午後五時三十分頃ヨリ海軍中尉三上京同山岸安同少尉村山格之豫備海軍少尉黒岩勇及後藤映翁外四名ノ陸軍士官候補生等ノ第一組ハ東京市澁谷區永田町二丁目一番地内閣總理大臣官邸ニ到リ右三上京黒岩勇ノ兩名ニ於テ内閣總理大臣大藏大臣ヲ殺害シテ狙撃シ尙三上京ハ同人ヲ殺害シ居リタル襲撃隊連中五郎ヲ黒岩勇ハ同平山八十松ヲ右拳銃ニテ各狙撃シ大藏大臣ヲ額部頭部田中五郎ノ腹部等ニ各重傷ヲ負ハシメ大藏大臣ヲシテ翌十六日午前二時三十五分同所ニ於テ右傷ニ起因スル出血ニヨリ腦壓道呼吸及心臟ノ麻痺ノ爲メ死亡セシメ田中五郎ヲシテ同日二十六日午前四時五十五分同市赤坂區傳馬町一丁目二十番地前田外科病院ニ於テ右傷ニ因リ急性腹膜炎ノ爲メ死亡セシメ尚平山八十松ノ右大腿部及左前腕部ニ治療約六週間ヲ要スル創傷ヲ與ヘ海軍中尉古賀清志被告人池松武志及陸軍士官候補生坂本實一同著動同西川武敏等ノ第二組ハ同市芝區三田寮ヲ一丁目五番地内大臣官邸ニ赴キ古賀清志及被告人池松武志ノ兩名ハ所携ノ手榴彈各一箇ヲ同邸内ニ投擲シテ内一箇ヲ炸裂セシメ尚古賀清志ハ折衝之ヲ阻止セントシタル襲撃隊連中井上昭吉等ヲ拳銃ニテ狙撃シ同人ノ左肩脚部ニ治療約三週間ヲ要シタル貫通銃

國家主義系不穩事件論告裁判録

創り與へ海軍中尉中村義雄及中島忠秋金清野外一名ノ陸軍士官候補生等ノ第三組ハ同市麹町區山下町一丁目一番地立憲政友會本部ニ到リ中村義雄中島忠秋ノ兩名ニ於テ同本部正前支障目掛ケテ手榴彈二箇ヲ投擲シ内一箇ヲ炸裂セシメ次テ同日午後五時四十分頃ヨリ右三組合流シテ同區外櫻田町一番地警視廳ニ到リ右金清野坂本賢一並勤ノ三陸軍士官候補生ハ同建建物目掛ケテ手榴彈各一箇ヲ投擲シ内一箇ヲ炸裂セシメ且古賀清志西川武敏及被告人池松武志ノ三名ハ同所ニ居合セタル警備書記長坂一及讀賣新聞記者高橋龍ヲ殺害シテ狙撃シ右坂一以下頭部及右膝部ニ治療約四週間ヲ要シタル貫通竅ニ貫通銃創ヲ高橋ノ右下腿部ニ治療約五週間ヲ要シタル貫通銃創ヲ各負ハシメ更ニ第一組中ノ海軍少尉村山隆之隆備海軍少尉黒岩勇及陸軍士官候補生八木春雄同野村三郎ノ四名ハ同市日本橋區本町三番地日本銀行ニ赴キ右野村三郎ハ同銀行建物目掛ケテ手榴彈一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ被告人奥田秀夫ハ第四組トシテ同日午後七時頃同市麹町區丸之内二丁目三番地株式會社三菱銀行裏ニ到リ手榴彈二箇ノ内一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ之ト相呼應シテ被告人矢吹正吾同横須賀喜久建同堀五百枝同大貫明幹及亡温永秀則等ニ於テ同日午後七時頃ヨリ同市江戶川區平井二丁目三番地(舊稱東京府南葛飾郡小松川町下平井高田三百二十八番地)所在東京電燈株式會社社務所外四ヶ所ノ變電所ニ到リ各手榴彈ヲ投擲シテ之ヲ炸裂シ且同日午後七時頃被告人川崎長光ヲシテ同市澁谷區代々木山谷町百四十四番地(舊稱東京府澁谷區代々木山谷町代々木山谷百四

一四〇

十四番地)ノ四田稅方ニ於テ拳銃ニテ同人ヲ狙撃セシメタル同人ヨリ抵抗セラレタル爲メ同人ノ右側胸部下腹部外三ヶ所ニ治療約三ヶ月ヲ要シタル貫通銃創ヲ負ハシメタルニ止マリ之カ殺害ノ目的ヲ達ケザリシモノナリ
其間ニ於テ
第一 被告人橋本三郎ハ昭和七年四月中旬頃ヨリ同年五月上旬頃迄ノ間ニ前後四回ニ互リ茨城縣新治郡土浦町大和三千三百三十三番地料理山水閣等ニ於テ古賀清志ヨリ合計金千四百圓ヲ受取リ其頃其一部ヲ前記變電所襲撃ヲ擔當セル被告人矢吹正吾同横須賀喜久建同堀五百枝同大貫明幹同小室力也同春田信義及亡温永秀則等ニ其行動資金トシテ分與シ
第二 被告人橋本三郎同後藤團彦同林正三ハ謀議ノ上ニ於テ
(一) 同年五月六日東京市千代田区下十條千五百五十番地(舊稱東京府北豐郡王子町下十條千五百五十番地)田代平方ニ於テ黒岩勇ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手榴彈六箇(昭和七年押第六六〇號ノ一)及九十年押第六六三號ノ一七及一八外二箇)ヲ受取リ
(二) 同年四月十四日當時被告人後藤團彦ノ止留シ居リタル同市下谷區茅町二丁目一番地被告人千代田稅方田ニツカニ於テ被告人後藤團彦ノ手ヲ介シ亡温永秀則ニ對シ手榴彈二箇ヲ交付シ
(三) 同年五月十五日午後七時四十分頃前記ノ日のノ下ニ同市澁谷區澁谷五百八十六番地(舊稱東京府澁谷區澁谷町町管五百八十六番地)所在東京電燈株式會社澁谷變電

國家主義系不穩事件論告裁判録

電房構内ニ之ヲ投擲セシメ
(ロ) 他ノ一箇ハ同人ヲシテ同月十五日右八千代館ニ於テ被告人矢吹正吾ニ交付セシメ同被告人ヲシテ同日午後七時十五分頃頃前記ノ目的ノ下ニ同市江戶川區平井二丁目三番地(舊稱東京府南葛飾郡小松川町下平井高田三百二十八番地)所在東京電燈株式會社社務所構内ニ之ヲ投擲セシメ
(三) 同年四月十四日右八千代館ニ於テ被告人後藤團彦ノ手ヲ介シ被告人横須賀喜久建ニ對シ手榴彈一箇ヲ交付シ同被告人ヲシテ同日午後七時頃頃前記ノ目的ノ下ニ同市北區北足立郡葛谷町三ツ和二千七百四十六番地所在東京電燈株式會社澁谷變電所構内ニ之ヲ投擲セシメ
(四) 同年四月十四日右八千代館ニ於テ被告人後藤團彦ノ手ヲ介シ被告人堀五百枝ニ對シ同被告人ヲシテ同市荒川區尾久町四丁目二番地(舊稱東京府北豐郡尾久町下尾久二番地)所在東京電燈株式會社澁谷變電所構内ニ之ヲ投擲セシメ及被告人大貫明幹ニ交付セシムル爲メ手榴彈二箇ヲ交付シ内一箇ハ同被告人ヲシテ同日十五日當時同被告人ノ止留シ居リタル全市小石川區久堅町九十番地川土ふく方ニ於テ被告人大貫明幹ニ交付セシメ右被告人大貫明幹及被告人高根澤與一ノ兩名ヲシテ同日午後七時三十分頃頃前記ノ目的ノ下ニ同市荒川區尾久町二丁目二番地(舊稱東京府北豐郡尾久町下尾久二番地)所在鬼怒川水力電氣株式會社東京變電所構内ニ之ヲ投擲セシメ
(五) 同年四月十四日右八千代館ニ於テ被告人後藤團彦ノ手ヲ介シ被告人

一四一

小室力也ニ對シ同市澁谷區澁谷町三丁目百八十番地(舊稱東京府澁谷區澁谷町清水百八十番地)所在東京電燈株式會社澁谷變電所構内ニ之ヲ投擲セシムル目的ヲ以テ手榴彈一箇ヲ交付シ
(六) 同年四月下旬頃ヨリ古賀清志ト謀議ノ上前記變電所等ニ於テ同被告人等ノ手榴彈ニ據ル首相官邸内大臣官邸警察廳及東京市内ノ重要變電所六箇所ノ襲撃計畫ヲ被告人堀川秀雄同照沼操同黒澤金吉ノ三名ニ告ケ同被告人等ニ對シ之ヲ決行ニ參加スヘキコトヲ總議シ且西田稅方ハ右襲撃計畫ヲ熟知シ居リテ之ヲ遂行ノ妨害ヲ爲シ居ルモノナルニ依リ同人ヲ彈去ルニ非サレハ右計畫ノ目的ヲ達成シ得ラレサルヲ以テ同人ト面識アル被告人川崎長光カ同人暗殺ノ最悪任務ナルニヨリ同被告人ヲシテ右西田稅方暗殺セシムル探同被告人ヲ勸誘セラレ居リテ依頼ヲ爲シ同被告人川崎長光ニ對シテモ直接前記變電所等ニ於テ右同探同中ケテ西田稅方暗殺スヘキコトヲ總議シ之ヲ承諾セシメタル上同年五月十三日被告人後藤團彦ハ當時古賀清志ノ下宿シ居リタル茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地來栖流之助方ニ於テ右西田稅方暗殺ノ用ニ供スヘキ拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)實入發ヲ古賀清志ヨリ受取リ之ヲ同日十四日前記變電所等ニ於テ被告人林正三ノ手ヲ介シ被告人川崎長光ニ交付シ送同月十五日同被告人ヲシテ前記西田稅方ニ於テ右拳銃ヲ以テ同人ヲ狙撃セシメ同人ノ右側胸部下腹部等ニ前記ノ重傷ヲ負ハシメタルモ之ヲ殺害ノ目的ヲ達ケス
第三 被告人矢吹正吾ハ

同月十五日前記八千代館ニ於テ亡温水秀則ノ手ヲ經テ被告人橋孝三郎同後藤園彦同林正三ノ三名ヨリ手榴彈一箇(昭和七年押第六六三號ノ一八)ヲ受取リ同日午後七時三十分頃被告人高根澤與一ト共ニ前記ノ目的ヲ以テ前記鬼怒川水力電燈株式會社東京變電所構内屋外變壓器目掛ケテ之ヲ投擲シ

第四 被告人橋須賀久雄ハ

同月十四日前記八千代館ニ於テ被告人後藤園彦ノ手ヲ介シ同被告人及被告人橋孝三郎同林正三ノ三名ヨリ手榴彈一箇ヲ受取リ翌十五日午後七時頃前記ノ目的ヲ以テ前記東京電燈株式會社葛ヶ谷變電所構内屋外變壓器目掛ケテ之ヲ投擲シテ炸裂セシメ

第五 被告人橋五百枝ハ

同月十四日前記八千代館ニ於テ被告人後藤園彦ノ手ヲ介シ同被告人及被告人橋孝三郎同林正三ノ三名ヨリ手榴彈二箇ヲ受取リ(イ)内一箇(前記同押第六六三號ノ一七)ハ同被告人ニ於テ同日午後七時三十分頃之ヲ携帶シテ前記東京電燈株式會社田端變電所ニ到リ前記ノ目的ヲ以テ同所構内ニ之ヲ投擲セントシタル際同所員

第六 被告人大貫明幹ハ

同月十五日前記川上ノ方ニ於テ被告人橋五百枝ノ手ヲ經テ被告人同月十五日前記川上ノ方ニ於テ被告人橋五百枝ノ手ヲ經テ被告人

橋孝三郎同後藤園彦同林正三ノ三名ヨリ手榴彈一箇(昭和七年押第六六〇號ノ一)ヲ受取リ同日午後七時三十分頃被告人高根澤與一ト共ニ前記ノ目的ヲ以テ前記鬼怒川水力電燈株式會社東京變電所構内屋外變壓器目掛ケテ之ヲ投擲シ

第七 被告人小室力也ハ

同月十四日前記八千代館ニ於テ被告人後藤園彦ノ手ヲ介シ同被告人及被告人橋孝三郎同林正三ノ三名ヨリ手榴彈一箇(昭和七年押第六六三號ノ一八)ヲ受取リ翌十五日午後七時頃前記ノ目的ヲ以テ之ヲ携帶シテ前記東京電燈株式會社日白變電所ニ到リタル

第八 被告人春田信義ハ

被告人橋孝三郎同林正三外前記被告人矢吹正吾以下數名ノ被告人等ト同日同市東區東五軒町三十五番地林正二方ニ於テ前記手榴彈ニ據ル首相官邸變電所等ノ襲撃計畫ニ關スル謀議ヲ爲シ翌八日之方襲撃準備ノ爲メ被告人橋五百枝ト共ニ前記東京電燈株式會社田端變電所構内ノ視察ヲ爲シ以テ前記鬼怒川水力電燈株式會社東京變電所ニ赴キ同所構内ノ視察ヲ申込ミタルモ拒絕セラレ

第九 被告人奥田秀夫ハ

呼應シテ同日午後七時頃ヨリ同被告人等ニ於テ東京市内外ノ變電所六箇所ヲ同標手榴彈ヲ以テ襲撃シ帝都ヲ暗黒化シ治安ヲ妨ケ因テ國家革新ノ段階ニマテ進展セシメントスル計畫ナル旨告ケラレタル上同被告人ト共ニ右變電所構内ニ手榴彈ヲ投擲スヘキコトヲ

同月十四日同市赤坂區青山町六丁目十三番地増田辰雄商店事古道文次方ニ於テ中村義隆ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手榴彈二箇(前記同押第六六三號ノ一八)ヲ受取リ翌十五日午後七時頃前記ノ目的ヲ以テ右手榴彈二箇ヲ携帶シテ前記株式會社三菱銀行裏ニ到リ内一箇ハ同銀行構内ヲ目掛ケテ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ他ノ一箇ハ當時其友人小橋照夫ノ下宿シ居リタル同市杉並區高岡寺四丁目五百十一番地(舊稱東京府豊多摩郡杉並町高岡寺五百十一番地)堤次男方ニ投擲シ

第十 被告人池松武志ハ

同月十五日古賀清志等ノ前記第二組ニ加ヒ同市芝區車町六十三番地泉會寺門前料理店力亭亦山口彌太郎方ニ於テ右古賀清志ヨリ實彈ヲ裝填セル拳銃一挺及手榴彈一箇(前記同押第六六三號ノ一八)ヲ受取リ同日午後五時三十分頃前記大臣官邸ニ到リ同邸内目掛ケテ之ヲ投擲シ次テ同日午後六時頃前記警視廳ニ到リ古賀清志西川武敏等ト共ニ同所ニ居合ハセタル警備書記長坂一及讀賣新聞記者高橋ヲ拳銃ニテ狙撃シテ右長坂一ノ下顎部及右膝部ニ治

第十一 被告人高根澤與一ハ

同月九日被告人大貫明幹ノ勸誘ニ依リ水戸市ヨリ上京シ同月十五日午後六時三十分頃前記鬼怒川水力電燈株式會社東京變電所附近ニ於テ同被告人ヨリ同日午後五時ヲ期シテ陸海軍々人カ手榴彈ヲ使用シテ首相官邸變電所等ヲ襲撃シ大森首相等ヲ暗殺シ之ト相

同月十四日同市赤坂區青山町六丁目十三番地増田辰雄商店事古道文次方ニ於テ中村義隆ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手榴彈二箇(前記同押第六六三號ノ一八)ヲ受取リ翌十五日午後七時頃前記ノ目的ヲ以テ右手榴彈二箇ヲ携帶シテ前記株式會社三菱銀行裏ニ到リ内一箇ハ同銀行構内ヲ目掛ケテ投擲シテ之ヲ炸裂セシメ他ノ一箇ハ當時其友人小橋照夫ノ下宿シ居リタル同市杉並區高岡寺四丁目五百十一番地(舊稱東京府豊多摩郡杉並町高岡寺五百十一番地)堤次男方ニ投擲シ

第十二 被告人杉浦孝ハ

大正十四年十月以來被告人橋孝三郎ノ許ニテ其指導教育ヲ受ケ來リタルモノナルカ右被告人橋孝三郎外前記被告人等カ同月十五日陸海軍々人ト相提攜シ手榴彈ヲ使用シテ首相官邸東京市内外ノ變電所等ヲ襲撃シ大森首相等ヲ暗殺シ帝都ヲ暗黒化シ一般人心ヲ混亂状態ニ陥レ治安ヲ妨ケ因テ以テ國家革新ノ段階ニ迄進展セシメント企圖シ居ルモノナルコトヲ知リテ

(一) 同月七日被告人橋孝三郎同林正三等ノ命ニ依リ當時亡温水秀則ノ止宿シ居リタル同市在野區小山町三百二十四番地(舊稱東京府在野區在野町小山三百二十四番地)河村彌助方等ニ赴キ右温水及被告人大貫明幹同矢吹正吾等ニ前記手榴彈ニ據ル變電所襲撃計畫ニ關スル謀議ノ爲メ同日午後六時頃同市四谷區船ヶ丘

(二) 同月十四日被告人橋孝三郎同後藤園彦等ノ命ニ依リ茨城縣行方郡津沼村山田九百七十一番地宮本幸雄方ニ到リ同人ニ對シ前記襲撃計畫ニ關スル通知ヲ爲シ

(三) 同月十五日被告人林正三ノ命ニ依リ前記愛郷塾ヨリ前記八千代館ニ到リ被告人後藤國彦ニ對シ同日前記西田稅務署ヲ爲シ東京ニヘキ被告人川崎長光ヲ省警署谷縣ニ出迎ヘ同被告人ニ共ニ東京中ノ行動資金トシテ相當金員ヲ交付セラレ度キ旨通知ヲ爲シテ以テ被告人橋孝三郎等ノ前記手榴彈ニ據ル襲撃計畫遂行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シ

第十三 被告人堀川秀雄ハ

大正十四年三月茨城縣立師範學校卒業後同縣那珂郡中野尋常小學校ニ調任シテ奉職シ同年四月水戸步兵第二聯隊ニ二年現役トシテ入營シ同年八月除隊シ昭和二年四月更ニ右師範學校專攻科ニ入學シ翌三年四月同科ヲ卒業スルヤ直チニ同郡那珂郡尋常高等小學校調任ニ復職シ翌四年四月同郡那珂郡尋常高等小學校ニ同七年四月更ニ同郡那珂郡村木尋常高等小學校ニ各轉勤シタルモノ

被告人堀川秀雄ハ

昭和二年三月同縣立水戸農學校ヲ卒業シ同年四月同縣那珂郡那珂尋常高等小學校ニ代用教員トシテ奉職シ翌三年進級調任ナリ同年七月其職ヲ辭シタルモノ

被告人黒澤金吾ハ

右前記尋常高等小學校卒業後其家ニ在リテ農業ニ従事シ居リタルモノ、ナルカ右被告人三石ハ夙ニ日連ヲ信仰シ同郡那珂郡大洗東光堂ノ立正護國堂ニ出入シテ井上昭吉内務司小沼正三接シ右井上昭吉ノ國家革新ノ思想ニ共鳴シ其同志トシテ活動シ來リタルカ共謀ノ上

(一) 昭和七年四月中旬以降被告人橋孝三郎同後藤國彦等ヨリ前記愛郷塾等ニ於テ同被告人等カ前記ノ如ク古賀清志外數名ノ海軍將校及陸軍士官候補生等ト相提携シ同年五月十五日手榴彈ヲ使用シテ首相官邸内大臣官邸警衛廳及東京市内外ノ重要電報所等ヲ襲撃シ帝都ヲ暗黒化シ一般人心ヲ混亂状態ニ陥レ治安ヲ妨ケ因テ以テ國家革新ノ段階ニ迄進展セシメントテ企圖シ居ルモノナル旨ヲ告ケラレ且之カ決行ニ參加スヘキ機體感セラレ、ヤ之ヲ承諾シ其頃右手榴彈ニ據ル襲撃決行參加ノ爲メ前記愛郷塾等ニ於テ被告人橋孝三郎同後藤國彦同林正三等ト種々協議爲

(二) 同年四月下旬以降前記愛郷塾等ニ於テ被告人橋孝三郎同後藤國彦等ヨリ西田稅務署ハ同被告人等ノ前記襲撃計畫ヲ察知シ居リテ之カ遂行ノ妨害ヲ爲シ居ルモノナルニヨリ同被告人等ヲ去ルニ非マラサレハ右計畫ノ目的ヲ達成シ得ラレザルヲ以テ同被告人等同謀ル被告人川崎長光ヲシテ同被告人等ヲ勸誘セシムル機同被告人等ヲ勸誘セラレ度キ旨ヲ依テ受ケテ之ヲ承諾シ同年五月上旬頃ヨリ同縣那珂郡那珂村前領地内等ニ於テ被告人川崎長光ノ前記手榴彈ニ據ル首相官邸警衛廳等ノ襲撃計畫遂行ノ爲メハ前記ノ如ク西田稅務署ヲ暗殺セサル可カラサル事情ニアルコト等ヲ告ケテ同被告人等ニ對シ同被告人等ヲ勸誘スヘキコトヲ勸誘シ同被告人等ヲシテ之カ決意ヲ促シ且被告人橋孝三郎等ノ間ニ於テ直接之カ協議ヲ爲スニ付キ其通牒ヲ執

第十四 被告人川崎長光ハ

昭和四年三月同縣那珂郡那珂尋常高等小學校ヲ卒業シ同年九月上旬シ活字販賣店ノ店員トナリ翌五年六月歸郷シ其家ニ在リテ農業ニ従事シ居リタルカ同年八月頃ヨリ日連ヲ信仰シ被告人堀川秀雄同黒澤金吾同堀川秀雄等ト共ニ前記護國堂ニ出入シテ井上昭吉内務司等ニ接シ同人等ノ國家革新ノ思想ニ共鳴シ其同志トナリタルモノナルカ

(一) 昭和七年四月中旬以降被告人橋孝三郎同後藤國彦同林正三同堀川秀雄同堀川秀雄同黒澤金吾等ヨリ前記愛郷塾及同郡那珂郡前領地内等ニ於テ右被告人橋孝三郎等カ前記ノ如ク古賀清志外數名ノ海軍將校及陸軍士官候補生等ト相提携シ同年五月十五日手榴彈ヲ使用シテ首相官邸内大臣官邸警衛廳及東京市内外ノ重要電報所等ヲ襲撃シ帝都ヲ暗黒化シ一般人心ヲ混亂状態ニ陥レ治安ヲ妨ケ因テ以テ國家革新ノ段階ニ迄進展セシメントテ企圖シ居ルモノナル旨ヲ告ケラレ且之カ決行ニ參加スヘキ機體感セラレ、ヤ之ヲ承諾シ其頃右手榴彈ニ據ル襲撃決行參加ノ爲メ右愛郷塾等ニ於テ前記被告人等ト種々協議ヲ爲シ

(二) 同年五月下旬以降前記那珂郡那珂村前領地内及愛郷塾等ニ於テ前記被告人等ヨリ右襲撃計畫遂行ノ爲メハ前記ノ如ク西田稅務署ヲ暗殺セサル可カラサル事情アルヲ以テ同被告人等同謀ル被告人カ同人等ヲ勸誘スヘキコトヲ勸誘セシムル機同被告人等ヲ勸誘スヘキコトヲ勸誘セシムル機同被告人等ヲ勸誘スヘキコトヲ勸誘セシムル機同被告人等ヲ勸誘スヘキコトヲ勸誘セシムル機

第十五 被告人大川周助ハ

明治四十四年七月東京帝國大學文科大學哲学科ヲ卒業シタル後印度哲學ノ研究中現代印度ノ狀態ヨリ近世植民史及植民政策ノ研究ニ其歩ヲ進ムルニ至リタルカ該植民政策ニ關スル研究ハ遂ニ南滿洲鐵道株式會社ノ顧問トナリ同十四年特許植民會社ニ關セラレテ其東亞經濟調查局ニ課長トナリ同十四年特許植民會社ニ關スル研究ニ依リ法學博士ノ學位ヲ受ケ昭和四年六月頃右觀音局カ南滿洲鐵道株式會社ヨリ獨立シテ財團法人東亞經濟調查局トナルヤ其理事長ニ就任シ爾來其職ニ在リタルモノニシテ夙ニ日本主義ヲ奉シ日本國家ノ發展ヲ企圖シ來リタルカ現下ノ國情ヲ目シテ政黨財閥並ニ特權階級カ相精托シテ上野明ヲ覆ヒ國政ヲ專ル民衆ヲ擯シテ私利私慾ヲ逞シシ國家存立ノ大義ヲ誤リ居ルヲ以テ先ツ之等ヲ打倒シ國內ノ革新ヲ圖ラサルヘカラスト爲シ大正十四年頃ヨリ行地社ヲ創立シテ機關雜誌「月刊日本」ヲ發行シ右革新運動ノ指導の同志ノ獲得ニ力メ少壯陸軍將校及小學校教員等ノ間ニ多數ノ共鳴者ヲ得更ニ昭和七年二月ニハ神武會ヲ設立シテ維新日本ノ建設ヲ企圖シ居リタルモノナルコト、同年三月下旬以來數次古賀清志ノ訪問ヲ受ケ同人等少壯陸軍將校カ民間同志ト

ニ至リ同人等二階級差至ニ於テ同人等ニ面談シ同人等對該中其ヲ號ヒ所擧ノ右拳銃ヲ以テ同人等ヲ亂射シタルモノ同人等ヨリ抵抗セラレタル爲メ同人等右胸腹部下腹部三箇所ニ治療約三月ヲ要シタル其通牒ニ貫貫決創ヲ負ハシメタル止マリ之カ殺害ノ目的ヲ遂ケス

相提攜シテ同年五月中旬頃迄ノ間ニ手榴彈等ヲ使用シテ政界財界ノ巨頭等ヲ襲撃暗殺シ以テ國家改造ノ烽火ヲ揚ケントスルモノナルコトヲ告ケラレ其援助ヲ懇請セラレハヤシク容レ

(一) 同年四月三日同市品川區上大崎四丁目二百三十一番地(舊稱東京府原郡大崎町上大崎二百三十一番地)ノ同被告人宅ニ於テ右古賀清志ニ對シ拳銃五挺實彈約百二十五發及現金千五百圓ヲ供與シ

(二) 同月二十九日前同所ニ於テ古賀清志ニ對シ現金二千圓ヲ供與シ

(三) 同年五月十三日前同所ニ於テ黒岩勇ノ手ヲ介シ古賀清志ニ對シ現金二千五百圓ヲ供與シ

以テ前記古賀清志被告人等三郎等ノ計畫實行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シ

第十六、被告人頭山秀三ハ

昭和五年三月私立農學大學農藝化學科ヲ卒業シ翌六年二月一日武蔵野村ノ鼓吹ト東亞民族振興ヲ目的トスル天行會ヲ創立シ其會長トナリ同市澁谷區常盤松町十四番地(舊稱東京府豊多摩郡澁谷町常盤松十四番地)ニ武蔵野村ヲ經營シ居リタルモノ

被告人本間憲一郎ハ

明治四十二年三月茨城縣立水戸中學校卒業後東洋協會專門學校支那科ニ入學シ大正三年同校第三學年ヲ中途退學シ翌四年陸軍通譯ニ採用セラレ其後山東省四州利亞天津方面等ニ於テ陸軍ノ譯報勤務等ニ従事シ昭和三年九月歸國シ同年十月頃同縣警務課長

町眞鍋三郎千二百三十二番地ニ農科子弟ノ指導教育ヲ目的トスル紫山塾ヲ創設シ同年二月一日被告人頭山秀三カ右天行會ヲ設立スルヤ其理事トナリタルモノナルコトヲ被告人頭山秀三ハ同七年三月十三日頃及同月二十三日頃ノ二回古賀清志中村義雄ノ訪問ヲ受ケ古賀清志ヨリ同人等少壯海軍將校ヲ陸軍士官候補生及民間同志ト相提攜シテ井上昭等ノ國家改造ヲ目的トシタル暗殺決行ノ後ヲ承ケ同年五月上旬頃迄ノ間ニ手榴彈等ヲ使用シテ政界財界ノ巨頭等ヲ襲撃暗殺シ以テ國家改造運動ノ烽火ヲ舉ケントスルモノナルコトヲ告ケラレ其用ニ供スル拳銃ノ調達方ヲ依頼セラレハヤ直チニ之ヲ承諾シ同年三月下旬頃前記天行會武蔵野村内同被告人等三郎ニ於テ被告人本間憲一郎ニ對シ古賀清志等ノ右手榴彈等ヲ供與シテ計畫實行ノ依頼ヲ受ケ之ヲ承諾シタル事情等ヲ告ケ共ニ右拳銃ノ調達ニ盡力スヘキコトヲ命ジ茲ニ被告人等右共謀ノ上爾後被告人本間憲一郎ニ於テ古賀清志等トノ折衝ノ任ニ當リ

(一) 同年四月十七日東京市澁谷區常盤松町十二番地(舊稱東京府豊多摩郡澁谷町常盤松十二番地)頭山滿方ニ於テ古賀清志ニ對シ拳銃三挺及實彈五十發ヲ供與シ

(二) 同月二十日過頭前記紫山塾ニ於テ古賀清志ニ對シ拳銃二挺實彈二十五發ヲ供與シ

(三) 同月三十日頃茨城縣新治郡土浦町大和三千二十八番地茨城東條館ニ於テ同族館主人奥谷忠助ノ手ヲ介シ古賀清志ニ對シ拳銃

一、擬實彈七十五發ヲ供與シ

以テ前記古賀清志被告人等三郎等ノ計畫實行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シタルモノナリ

右被告人等三郎同後藤園春同林正三同矢吹正吾同横須賀久良同堀五百枝同大貝則幹同小室力也同春田信義同奥田秀夫同池田武志ノ所爲ハ各爆發物取締規則第一條刑法第九十九條及同第二百三條同第四十五條同第六十條ニ被告人高根源一ノ所爲ハ同取締規則第一條刑法第九十九條ニ被告人杉浦孝ノ所爲ハ同取締規則第一條刑法第九十九條同第六十二條ニ被告人堀川秀雄同照沼操同黒澤金吉ノ所爲ハ各同取締規則第四條刑法第九十九條同第四十五條同第六十條ニ被告人川崎長光ノ所爲ハ同取締規則第四條刑法第九十九條同第六十二條同第四十五條同第六十條ニ被告人大川周助同頭山秀三同本間憲一郎ノ所爲ハ各取締規則第一條刑法第九十九條同第四十五條同第六十二條ニ夫々該當シ公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルヲ以テ刑事訴訟法第三十一條第一項ニ則リ主文ノ如ク決定ス

昭和八年五月十一日

東京地方裁判所
豫審判事 大野 正 太郎
右藤本也

昭和八年五月十二日

東京地方裁判所
裁判所書記

國家主義系不穩事件論告裁判決録

一三、五二五事件(民間側)

論告書(概要)(木内會益檢事)

目次

第一章 總論……………一四八

第一節 所謂五二五事件……………一四八

第二節 本件事犯ノ社會的影響……………一四九

第三節 檢察ノ經過及其ノ順來……………一四九

第四節 本件事犯ノ遠因動機及其ノ目的……………一五〇

第五節 本件事犯ノ計劃內容……………一五一

第二章 事實關係……………一五二

第一節 大川周助井上昭等三郎等ノ思想ノ本件事犯ニ及ボシタル影響……………一五二

第二節 犯人側被告人ト常人被告人トノ關係……………一五三

第三節 常人被告人相互ノ關係……………一五四

第四節 被告人各個ノ分担シタル行爲ト之レニ對スル證據……………一五五

第三章 情狀論……………一五六

第一節 被告人等ノ觀タル現下ノ國情及其ノ心情……………一五六

一四七

第二節 之レニ對スル批判……………一五七

第三節 本件事犯ト國法……………一五八

第四章 法律ノ適用……………一五九

第一節 本件事犯ト内亂罪トノ關係……………一五九

第二節 本件事犯ト叛亂罪トノ關係……………一五九

第三節 本件事犯ト適用スヘキ法律……………一六〇

第五章 被告人各個人ノ犯情ト求刑……………一六二

第一節 被告人各個人ノ犯情……………一六二

第二節 求刑……………一六五

附錄 本件公訴事實ニ付キ意見ヲ開陳致シマス……………一六五

第一章 總論……………一六五

第一節 所謂五一五事件……………一六五

昭和七年五月十五日午後五時三十分頃陸海軍ノ制服ヲ着用シタル十數名ノ少壯軍人カ各手分ヲ爲シ首相官邸内大臣官邸 政友會本部等親臨日本銀行等ヲ襲撃シ首相官邸ニ於テハ大憲兵相並同首相官邸ノ爲同邸内ニ計メ居リタル田中平山園遊園ヲ襲撃シテ首相官邸各軍傷ヲ與ヘ其ノ結果大憲兵相及田中巡査ノ兩名ヲ死亡スルニ至ラシメ内大臣官邸ニ於テハ手榴彈ヲ投擲炸裂セシメ且同所ヲ襲撃シ居リタルル橋井巡査ヲ襲撃シテ重傷ヲ加ヘ警視廳ニ於テモ亦手榴彈ヲ投擲炸裂セシメ且同所ニ居合セタル長安警察書記高橋實新聞記者ヲ執レモ拳銃ニテ狙撃シ各軍傷ヲ與ヘ更ニ政友會本部日本銀行等ニ於テハ手榴彈ヲ投擲炸裂セシメタル上立去リタリト云フ點ヲ

キ事件カ勃發シタノテアリマス……………一四八

此ノ重大事件ニ相次テ同夕刻一暴漢カ三菱銀行ヲ襲撃シテ手榴彈ヲ投擲炸裂セシメ又他ノ一隊ハ各手分ケシテ東京電燈株式會社總務課電所外數ヶ所ノ變電所ヲ襲フテ手榴彈ヲ投擲シ以テ帝都ノ暗黒化ヲ圖リ又他面ニ於テハ既ニ檢舉取調中ノ井上召事井上昭一黨ノ所謂血團團事件ノ際ニ既ニ停止シ居リタル西田稅方ニ川崎長光ナル者乘込ミ西田ヲ拳銃ニテ狙撃シ重傷ヲ與ヘ逃走シタル事件カ發生シマシタ

所謂五一五事件ノ大體ノ筋ハ以上ノ通りテアリマス……………一四八

第二節 本件事犯ノ社會的影響……………一四八

本件事犯ノ勃發ハ實ニ吾天ノ震盪ニシテ軍服着用ノ陸海軍人カ徒黨ヲ組ミ白晝首相官邸ニ亂入シ一國ノ首相ヲ暗殺シ且各方面ノ襲撃ヲ爲スカ如キハ亦案種メテ重大ナル而已ナラス殊ニ當時ハ血團事件後舉直ニシテ國民ノ騷擾不安ノ念未タ全ク去ラス而モ事犯發生ノ原因並計劃ノ全貌詳ナラス如何ナル重大事犯爆發スルヤ豫測ヲ許サ、ル狀態ニ在リタルヲ以テ其間幾多ノ流言蜚語頻リニ起リ爲ニ一般國民ハ治安ノ維持ニ付危懼ノ念ヲ抱クニ至リ甚クシク不安狀態ニ陥ツタノテアリマス……………一四八

殊ニ國務ノ中樞タル首相官邸ニ白晝軍服着用ノ陸海軍人カ黨ヲ組ミ手榴彈拳銃等ヲ執ツテ闖入シ、上御一人ノ御信任ヲ辱シ國政變理ノ大任ニ在ル首相ヲ暗殺スルカ如キハ空前ノ不祥事ト謂フヘク其ノ結果政變ヲ惹起スルニ至ラシメタルハ我憲政史上一大汚點ヲ印シタルモノニシテ又良クモ、上御一人ノ威儀ヲ損シ奉リシコトハ洵ニ惡愾備極シ能ハサル次第テアリマス……………一四八

第三節 檢舉ノ經過及其ノ顛末……………一四九

本件事犯ハ前述ノ如ク其ノ社會ニ及ボシタル影響尠メテ重大ニシテ事應容易ナラスカ檢舉亦迅速且徹底ヲ期スルニ要アリ事件ノ發生ト同時ニ警視廳ヲ督勵シ銳意事件ノ真相發見ニ努力シタノテアリマス……………一四九

(一) 古賀清志等海軍青年將校六名、後藤映曉等陸軍士官候補生十一名及元陸軍士官候補生池原武志等、各其ノ分擔セル犯行ヲ遂行ノ上相前後シテ東京憲兵隊本部ニ自首シタル爲、是等ノ檢舉ハ比較的容易ニ行ハレ海軍將校六名ハ、東京軍法會議ニ、陸軍士官候補生十一名及池原武志ハ第一師團軍法會議ニ夫々送致セラレタノテアリマス……………一四九

(二) 古賀清志等陸海軍々々カ東京憲兵隊本部ニ自首直後爲シタル陳述ニ依リ自首者以外ニ尙明治大學生奥田秀夫ナル者本件ニ關シテ單身三黨銀行ノ襲撃ヲ決行シタルコト判明シタルモ變電所襲撃ニ至リテハ其ノ計劃及犯人並陸海軍々々人一派ト連絡ノ有無未タ明カナラサル際夜(昭和七年五月十五日午後十時頃)偶々代々橋警察(現代々木警察署)ヨリ同署管内居住西田稅方川崎長光ナル者ハ井上昭一黨所謂血團團ノ殘黨ナルコト及井上昭一黨ト古賀清志等海軍青年將校トハ從來國家革新運動ニ付ニ相謀シ同志ノ關係ニ在リタルコトハ、血團團事件ノ捜査ニ依リ既ニ判明シ居リタルカ故ニ、血團團ノ殘黨川崎カ西田ヲ狙撃スル以上此ノ狙撃ハ勿論變電所ノ襲撃モ亦古賀等ノ首相官邸等ノ襲撃ト何等カノ連絡アルニ非サト推測ヲ下シ得タノテアリマス……………一四九

茲ニ於テ更ニ捜査ノ計劃ヲ立テ警視廳ノ搜捕ナル活動ト相供テ事犯執行ノ翌日即チ五月十六日未明ニハ早クモ川崎長光ヲ芝區本芝二丁目二十番地沖人夫路負案新村三男方ニ於テ逮捕シ同時ニ同所ニ潜伏シ居リタル愛媛縣生大貫明幹ヲモ亦之ヲ引致スルコトヲ得タノテアリマス……………一四九

此ノ兩名ノ取調ニ依リ川崎ノ西田狙撃ハ古賀等トノ連絡ノ下ニ行ハレ且變電所襲撃ヲ豫謀シタル者ハ愛媛縣前橋三郎ニシテ、同黨人カ其ノ配下ノ塾生等ヲ事ヒ古賀等ノ計畫ニ參加シタル事實明瞭ハトナリタルヲ以テ其後引續キ是等既ニ逃走シタル犯人ノ逮捕ニ努力シ同月(昭和七年五月)二十四日迄ニ兩ヲ除キ變電所襲撃及西田稅方直接關係者並三黨銀行ヲ襲撃シタル奥田秀夫等全部ヲ逮捕シ得タノテアリマス……………一四九

(三) 變電所襲撃ノ首魁橋本三郎ハ本件事犯執行前五月十二日既ニ春田信義ヲ伴ヒ滿洲ニ逃避シタルコト判明シ追跡ノ上新京ノ隱家ニ於テ同伴者春田ヲ逮捕シタルカ其ノ際橋本ハ巧ニ警官ノ眼ヲ掠メテ逃走シ所在ヲ遁避シタノテアリマス……………一四九

然ルニ同人ハ自己カ率ヒテ襲撃計劃ニ參加セシメタル配下ノ塾生等カ全部逮捕セラレタルヲ知り獨リ自ラノ安泰ヲ計ルヲ得サルニ至リ昭和七年七月二十四日哈爾濱駐在憲兵隊ニ出頭シ同月三十一日東京憲兵隊ニ押送セラレ同日警視廳ニ於テ其ノ身柄ノ引渡ヲ受ケタノテアリマス……………一四九

(四) 次ニ奥田ノ取調中大川周明カ本件事犯執行ニ付資金ヲ提供シ居ル疑アルコトヲ推測シ當時須賀海軍刑務所收容中ノ古賀中村ノ

兩中尉ヲ取調ヘタル結果茲ニ大川カ本件事犯執行ノ用ニ供シタル資金並拳銃ヲ古賀ニ提供シタル事實判明スルニ至リテアリマス

大川ノ檢舉ニ付テハ特ニ苦心ヲ費シ同年六月十五日夜上野發着森行列車内ニ於テ同入ヲ逮捕スルコトヲ得マシタ

(五) 尚古賀中尉中尉ノ取調中本間憲一郎頭山秀三ノ兩名カ本件事犯執行ノ爲古賀等一派ニ拳銃ヲ提供シタル事實ヲ確證シ先ツ本間ヲ檢舉セントシタル處同入ハ既ニ所在ヲ晦マシ居リ同年九月十日ニ至リ漸ク逮捕スルコトカ出来タ様ナク次第テアリマス

而シテ本間ノ取調ニ依リ頭山ノ罪狀愈々明瞭トナリ同年十一月五日ニ同入ヲモ逮捕スルニ至リ茲ニ本件事犯ニ關係シタル民間側ノ犯人全部ヲ逮捕シ盡スコトヲ得タリテアリマス

(六) 次ニ池澤武志ハ元陸軍士官候補生タリシ關係上後藤映鏡等陸軍士官候補生ト同一行動ヲ執リタル爲陸軍々法會議ニ於テ勾留取調中ノ處同年七月十八日ニ至リ同軍法會議ヨリ移送ヲ受ケタリテアリマス

(七) 變電所襲撃ニ參加シタル愛媛縣生温水秀則ハ豫審中病ニ罹リ昭和七年十二月一日死亡シ同入ノ公訴權ハ之ニ依ツテ消滅シタリテアリマス

(八) 本件事犯ハ前述ノ如ク陸海軍人並民間側被告人ノ三者合流シテ爲シタルモノナルカ故ニ裁判官等ニ於テ海軍側被告人ハ海軍々法會議ニ陸軍側被告人ハ陸軍々法會議ニ民間側被告人ハ當裁判所ニ夫々分テテ取調スルコトナリ罪人亦陸海軍々法會議ニ於テハ

叛亂罪當裁判所ニ於テハ爆發物取締規則違反殺人及殺人未遂罪トシテ審理ヲ進メラル、コトニ相成リマシタカ之ハ法例上已ムヲ得サル處テアリマシテ當檢察局當裁判所ノ豫審ト陸海軍々法會議ノ檢察局同証豫審トノ間ニ於テハ相互ニ良ク協調通繋ヲ保チ十分ニ搜查審理ヲ遂ケ事犯ノ全貌ヲ明白ニスルコトヲ得マシタコトハ當裁判所ニ於テハ欣幸トスル處テアリマス

(九) 其後陸軍々法會議ニ於テハ昭和八年八月十九日ニ檢察官ノ諭告同年九月十九日ニ判決言渡アリ海軍々法會議ニ於テハ同年九月十一日檢察官ノ諭告同年十一月九日ニ判決言渡アリ孰レモ有罪判決確定シ殘ル處ハ當裁判所ニ屬スル民間側被告人ニ對スル裁判ノミトナツテ居ル様ナク次第テアリマス

第四節、本件事犯ノ遠因動機其ノ目的

被告人等カ本件事犯ヲ執行スルニ至リタル遠因動機其ノ動機トシテ當裁判所ニ於テ陳述シタル處ヲ要約スレバ其ノ遠因ハ被告人等ノ所謂三月事件以テ始メテ端ヲ發シ支那階級タル政黨財閥並特權階級相持トシ私利私慾ノミニ没頭シ國政ヲ紊リ爲ニ事得ニ國策ヲ誤リ外ニ於テハ外交ニ失敗シ内ニ於テハ國家存立ノ本ヲ爲ス農村ノ疲弊ヲ拾テ、顧ミズ延テハ國民思想ノ墮化ヲ朝致シ國家ノ現狀ハ今ヤ思想ノ動搖經濟ノ逼迫外交ノ不振其ノ極ニ達シ此ノ儘ニ放置スルトキハ國家ノ存立ヲ危ウスルニ至リ而カモ現下ノ狀勢ハ寸刻モ猶豫ヲ許サス而シテ之レカ匡救ノ途ヲ講スルニハ因循姑息ナル合法手段ヲ以テシテハ到底其ノ急ニ應スル能ハスト爲シ只一途支那階級タル政黨財閥並特權階級ニ對シ非合法手段タル直接行動ニ依リ一舉軍

新ノ烽火ヲ揚グルノ外ナシト思惟シ本件事犯ヲ執行シタト謂フニ在ルノテアリマス

而シテ其ノ目的トスル處ハ被告人ニ依リ多少相違シ軍人側被告人ノ如ク非常手段タル直接行動ヲ執行スルコトニ依リ帝都ヲ混亂シ階級或命令ノ宣布ヲ待テ軍部中心内閣ヲ成立セシメ政黨財閥並特權階級ノ墮落ヲ促シ舉國ニ當リ國威ノ發揚ヲ期セントシタルモノモアリ爾等三派ノ派ノ如ク軍部獨裁ニ反對ナルモ非常手段タル直接行動ヲ執行スルコトニヨリ政黨財閥並特權階級ハ勿論一般國民ノ覺醒ヲ促シ國家ノ革新ヲ期セントシタルモノモアリマスルカ窮極ノ目的ハ國家ノ現狀ニ不滿ヲ抱キ其ノ打開ヲ圖リ之カ修正ヲ期スルニ在リテ此ノ點ニ於テハ皆其ノ軌ヲ一ニシテ居ルノテアリマス

第五節、本件事犯ノ計劃内容

被告人等カ前述ノ如キ原因動機ニ基キ國家革新ノ目的ヲ遂行ノ爲ニ敢行シタル本件事犯ノ計劃内容ハ陸海軍々法會議當裁判所ノ審理ニ依リ既ニ判明セラレタルヲ以テ今茲ニ概説シ要ナキモ本論旨ヲ進ムル便宜上一應簡單ニ申述ヘテ見タイト思ヒマス

本件事犯ハ非上昭ニ黨カ二人一殺主義ノ下ニ政黨財閥並特權階級ノ代表者暗殺ノ計畫ヲ立テ昭和七年二月九日同志小沼正カ井上津之助ヲ同年三月五日同志五郎カ岡琢磨ヲ孰レモ暗殺シタル所謂血盟團事件ノ後ヲ承ケ其ノ同志タル古賀清憲等海軍青年將校之レカ中心トナリ後藤映鏡等陸軍士官候補生池澤武志、奥田秀夫及藤澤三郎ノ率ユル愛媛縣一派須川秀雄ヲ中心トスル血盟團ヲ發成シ之レニ合流シ敢行スルニ至リタルモノニシテ古賀、中尉中尉ハ總指揮ノ任ニ當リ昭

和七年三月下旬頃以來愛媛縣土浦町村山永岡ヲ根據トシ同所其ノ他ニ於テ陸軍士官候補生代表池澤武志學生奥田秀夫愛媛縣關係者藤澤三郎後藤映鏡等ト屢々會合謀議ヲ繰ラシ初ハ同年五月下旬召集セラルヘキ特別會談會中ノレヲ襲撃スル計劃ヲ立テタルモ同志タル陸軍士官候補生ノ大部分カ滿洲見學旅行中富山縣野野宮ノ爲ニ加不能ナル事情明カトナリ一旦右計劃ヲ擱棄シ更ニ種々謀議ノ末同年五月十三日ニ至リ漸ク一ノ成案ヲ得之レニ基キ本件事犯執行トナツタリテアリマス

茲ニ確立シタル本件襲撃計劃ノ内容ハ即チ其執行日ハ昭和七年五月十五日武器ハ同志海軍中尉三上京カ上海出征中入手シタル手榴彈二十個海軍少尉伊東龜城カ同シク上海出征中入手シタル手榴彈一個古賀中尉カ大川周明ヨリ受取リタル拳銃五挺頭山秀三本間憲一郎ノ兩名ヨリ實ヒ受ケタル拳銃六挺及海軍少尉村上格ノ拳銃二挺ヲ加ヘタルモノニシテ軍人側ハ古賀等海軍青年將校六名後藤映鏡等陸軍士官候補生十一名及池澤武志ノ十八名三派ニ分レ第一班ハ古賀中尉第二班ハ内大臣官邸第三班ハ政友會本部ノ襲撃ヲ擔當シ各自擔當ノ襲撃執行後合流シテ更ニ警察廳ヲ襲撃シ然ル後東京憲兵隊本部ニ目首スルコト第一班古賀中尉率門組ハ三上中尉外四名東京門組ハ山岸中尉外三名集會場所神戶神戶社境内第二班内大臣官邸組ハ古賀中尉外四名集會場所東京寺境内第三班政友會本部組ハ中尉中尉外三名集會場所新橋廣徳内トシ同日午後五時半ヲ期シ一齊ニ各部襲撃ニ就クコト古賀中尉ニ於テハ犬養首相ヲ内大臣官邸ニ於テハ牧野内大臣ヲ暗殺シ尙之レヲ阻止スル者ハ射殺スルコト奥田秀夫ハ同時ニ三愛銀行ヲ襲

擊シ橋孝三郎ノ申ニル愛護塾生等ハ午後七時ヲ期シテ一齊ニ東電電
 戸變電所外五ヶ所ノ變電所ヲ襲撃シ川崎長光ハ同時刻西田用方ニ
 到リ同人ヲ暗殺スルト謂フニ在リテアリマス
 西田用方ハ本件計謀ニ加ヘタル事情ハ元來非上昭ニ當リ古賀等海
 軍側同志ハ西田カ陸軍少壯將校ノ間ニ相當ノ勢力ヲ有スルモノト思
 惟シ居リタル關係上被害人等ノ所謂十月事件前ヨリ相携シ行動ヲ
 共ニシ來リタル處同事件後西田ノ態度約變シ其ノ行動往々曖昧ナル
 モノアリ殊ニ古賀等カ本件事犯決行ノ計畫ヲ立ツルニ當リテハ西田
 ハ時期尚早ヲ唱ヘテ之レニ參加ノ色ナキ而シテ古賀等カ後藤
 等陸軍士官候補生ト連絡ヲ執リ本件計畫ヲ進ムルヲ見ルヤ却テ之
 ヲ阻止シ本計畫ノ決行ヲ妨害セントシタルヤノ疑アリ爲ニ古賀等ハ
 西田ヲ同志ノ裏切者ト認メタルニ因リテアリマス
 日本銀行襲撃ハ最後ノ計畫案中ニハ合マレ居ラザリシモ當日第一班
 村山少尉外三名ヲ決定ノ犯罪遂行後連カニ發意實行シタルモノニシ
 テ亦本件事犯ノ派生的產物トシテ包括的ニ觀察スヘキモノナルコト
 ヲ特ニ附言シテ置ク次第デアリマス

活ノ自由政治生活ノ平等經濟生活ノ友愛ヲ理想トシ尙東亞殊ニ
 滿洲ト吾國トノ關係ノ重大性ニ鑑ミ之ガ解決ニハ此理想ノ大旗
 ノ下ニ先ヅ維新日本建設ノ要アリト爲シ自ラ思想團體タル行地
 社神武會ヲ主宰シ且又東亞ノ調査研究機關タル東亞經濟調查局
 ノ理事長トシテ其實權ヲ掌握シ之ニ據ツテ日本精神ノ鼓吹ニ努
 力シ來リタルコト茲ニ數年現下ノ吾國情ハ合法手段ヲ以テシ
 テハ到底之ガ目的ヲ達成スルコト能ハザルヨリ之ガ達成ヲ期ス
 ルニハ非法手段タル直接行動ニヨリテ外ナシト思想ヲ抱クニ
 至リ爾來之ガ其現ニ努力シ絶近勃興シ來レル國家革新ノ氣運ヲ
 軋致醸成セシメタル有力者ノ一人ニシテ被害人等ノ所謂三月事
 件並十月事件ニ際シテハ樞要ナル地位ヲ占ム延イテ本件事犯發
 生ノ氣運促進ニ與ツテ力ガアツタデアリマス更ニ此關係ヲ詳
 論スレバ古賀等海軍側同志ハ海軍兵學校在學時代ヨリ先發故海軍
 少佐藤井齊ヲ指導ニ依リ國家革新ノ思想ヲ抱クニ至リ當時大川
 ノ關係シ居リタル大塚憲三出入シ爾來同人ノ國家革新ノ思想ニ共
 鳴シ居リタルヲ以テ本件計畫ヲ爲スニ當リテモ其思想の經過
 於テ大川ノ抱懷セル思想ノ影響ヲ受ケタルコト論ナキ處ニシ
 テ國家革新運動ニ於ケル大川ノ地位ハ獨其思想の方面ニ於テ重
 キヲ爲ス而シテ被害人等ノ所謂三月事件並十月事件ニ依リ
 テ示サレタルガ如ク其實行力ニ於テ亦非乎ルモノアルガ故ニ
 大川ノ此實行の方面ノ威力ニ甚大ナル期待ヲ懸ケ同人ノ案中ニ
 收ムル所トハ日ノ威名ニ重大ナル影響アリト確信シ同人ノ
 援助ヲ乞フニ至リテアリマス

(二) 次ニ井上昭ニ付テハ
 同人ハ後予國家革新ニハ現狀ヲ打破スルコトヲ以テ第一義トシ破
 壞者カ建設者考フルコトハ國家革新運動ノ精神の墮落ナリトノ
 思想ヲ抱キ自ラ暴力の革新ノ擔當者ヲ以テ任シ居リタルモノニ
 シテ昭和五年中故園少佐藤井齊ハ井上ト相識ルニ及ニテ同人
 ノ思想ニ共鳴シ直ニ國家革新運動ノ同志トシテ相許スニ至リ又
 古賀等海軍側ノ者ハ藤井ヲ介シ井上ニ接スルニ及ニテ感化ヲ
 受ケ其一味トナリ謀議ノ末井上昭ニ黨カ一人ノ殺主義ノ下ニ先
 ツ發起シ古賀等海軍側共ヲ承ケテ第二段ニ集團的直接行動ニ出
 ツルコトノ計畫ヲ立テ兼ニ血盟團事件トナリ次テ本件事犯ノ決
 行トナリタルモノニシテ本件事犯決行ニツイテハ井上昭ノ思想
 的影響カ最も重大且深刻ナリシコトハ二點ノ疑ヲ容レサル處デア
 リマス
 (三) 橋孝三郎ニ付テハ
 同人ハ持論トシテ所謂國民共同體王道國家ノ建設ヲ主唱スル農本
 主義ノ下ニ國民ハ五ニ兄弟愛ヲ以テ相提携シ各自ノ天職使命ヲ果
 スヘキモノナリトノ思想ヲ抱キ自ラ第一高等學校ヲ中退學シ
 テ農ニ歸リ愛護會愛護塾ヲ創設シ其主義ヲ宣傳ニ努メ來リタ
 ルモノニシテ其抱懷セル思想ハ井上等ノ破壞思想トハ其ノ軌ヲ一
 ニセサル處アルモ國家革新ノ必要ヲ認メ之ヲ實現セントスル熱情
 ニ至リテハ一脈相通スルモノアリ五ニ相許シ居リタル爲ニ閣下ノ
 愛護塾關係者ヲ率ヒ本件事犯決行ニ參加スルニ至リタモノデアリ
 マス

(四) 更ニ此際一言得加シタキコトハ北一輝ノ思想カ本件事犯ニ影
 響アリヤ否ヤノ點デアリマス
 元來同人ハ本件事犯ニ直接關係ナキモ同人ノ昔昔「日本改進黨案
 大綱」中ニ戒嚴令下ニ於テ國家改造ヲ斷行スヘキコトヲ主張シ國
 家革新運動ニ志ス者ノ間ニハ相當ノ信奉者アリ古賀等ノ陳述ニ
 依ルモ同人等カ本件事犯ノ決行ニ依リ戒嚴令下ニ於テ軍部中心
 少佐藤井齊ヲ中心トシ古賀清志三上東山芳宏其他ノ同志相集リ一
 團トナリ國家革新ノ氣運醸成ニ努メ昭和五年中藤井カ井上昭ト相
 識ルニ及ニテ同人ノ一黨ノ所謂血盟團ト結ビ二層國家革新ノ志ヲ固
 メ尙陸軍青年將校ノ間ニ相當ノ地歩ヲ有スルモノト思惟セラレ居
 タル西田用方トモ連絡ヲ保チ被害人等ノ所謂三月事件並十月事件後
 同志間ニ於ケル國家革新運動ノ氣運一層濃厚トナルヤ海軍側モ亦
 井上昭トノ關係一層緊密ノ度ヲ加ヘ昭和七年一月ニ至リ井上一
 黨ト合流シテ獨自ノ立場ニ於テ槍石トナリ國家革新ノ烽火ヲ揚ケ
 シト一決シ先ヅ井上一黨ハ二人ノ殺主義ノ下ニ政黨財閥並特權階
 級ノ代表者暗殺ノ計畫ヲ立テ同志小沼正ハ井上昭之助ヲ密召五郎ハ
 團琢磨ヲ執レモ暗殺ヲ計謀シ所謂血盟團事件ヲ發起シ其間海軍側ノ中心
 人物トシ藤井齊ハ上海ニ出征シタルヲ以テ古賀中村ノ兩中尉ハ

當時設ケ浦航空隊ニ勤務シ、帝都近タニ居リタル關係上、藤井ノ志ヲ
繼キ海軍側同志指揮ノ任ニ當ルコト、ナリ、同年三月十一日井上
昭力警視廳ニ留置セラレタル後ハ、主トシテ古賀カ中心トナリ、
(第一軍第五師)説明シタルカ如ク茨城縣土浦町料亭山水閣等ニ於テ
池松武志、奥田秀夫、橋本三郎、後藤園彦等ト廣々合議ヲ開ラシ、
本件事犯執行ノ計畫ヲ進メテ來タノ有リマス。海軍中尉三上卓同
山岸安、同林正義、海軍少尉村山格之、同伊東東城、同大庭春雄等ハ從
來古賀等ト同族陸軍革新運動ノ同志ニシテ、豫備海軍少尉岩野勇ハ
昭和七年一月、三上ト相識ルヤ其同志トナリ、執レモ本件計畫ニ參加
シタモノテアリマス。後藤園彦等陸軍士官候補生ハ、古賀中尉ニ於テ
始メ國家革新運動ノ陸軍側同志トシテ陸軍少尉中尉安藤三郎等ニ對
シ本件計畫ニ參加ヲ求メタルモ同意ノ色ナキヲ見、後藤園彦等ニ
參加ヲ求ムルニ及ヒ直ニ之ニ贊同シタルモノ、池松武志ハ元陸軍士
官候補生ニシテ後藤園彦等ト同志ノ關係上亦之ニ參加シ海軍側陸
軍士官候補生側トノ間ノ連絡ノ任ニ當リタルモノテアリマス。奥田
秀夫ハ夙ニ井上一黨ト交遊アリ、後藤園彦等ト同志ノ關係上モ關係
アリタル間柄ニシテ、中村中尉ノ勸誘ヲ受ケルヤ直ニ同志トシテ參
加スルコトニナツタノテアリマス。次ニ橋本三郎一黨ノ愛郷關係
者力之ニ參加スルニ至リタル事情ハ、橋本從來井上一黨古賀中尉
等ト交遊アリ、元々國家革新運動ニ共鳴シ居リタルモノナルヨリ古
賀等ノ勸誘ヲ受ケルヤ、之ヲ機會ニ自己ノ理想ヲ履行スル國民共同體
國家ノ建設實現ノ爲、陛下ノ榮光ヲ奉ヒテ之ニ參加スルコトニナ
ツタノテアリマス。川崎長光、川崎秀、川崎清、川崎洋、川崎吉ノ四名ハ所

謂血盟團ノ殘黨ニシテ古賀等ノ勸誘ニ依リ本件計畫ニ參加スルニ至
リタルモノテアリマス。大川周明ハ既ニ説明シタルカ如ク國家革新
運動ノ先覺者ノ一人ニシテ、被告等ノ所謂三月事件致下月事件ハ
樞要ナル役割ヲ演ジ、國家革新運動者間ニ雖然タル潛勢力ヲ有シ居
リタル爲古賀等ハ本件事犯ニ大川ノ參加ヲ得ルコトハ、精神的ニモ
實行上ニモ重大ナル影響アリト考ヘ、古賀自ラ大川ノ門ヲ叩キ同人
ノ援助ヲ求メ同意ヲ得タモノテアリマス。頭山秀三ハ本間憲一郎ノ兩
名ニツイテハ、本間ハ元來井上昭ノ親友ニシテ同人ノ警視廳ニ留置
セラレ、遂約一ヶ月、頭山秀三ノ主筆セル天行會道場内ニ隠匿シタ
ルコトアリ、其間古賀、中村等カ井上ト連絡ノ必要上、屢々同所ニ出入
シ、頭山及本間ト相識ルニ至リ、尙井上カ當務事務局ニ出頭スル際頭山
ニ古賀等ノ計畫ヲ打聞ケ之ヲ援助センコトヲ依約シ、古賀等カ古
賀等ノ援助申出ヲ容レ、頭山先ツ之ヲ承諾シ以テ同人ノ口添ニ依リ
本間亦本件計畫ノ援助ヲ爲スニ至ツタモノテアリマス。
第三節 常人被告人相互ノ關係
民間被告人ノ中心人物トシテハ先ツ第一三橋孝三郎ヲ擧ゲナケレ
ハナラナイノテアリマス。三橋孝三郎ハ既ニ説明シタルカ如ク古賀等ノ勸
誘ニ依リ本件計畫ニ參加シタル事情ハ、既ニ説明シタルカ如ク古賀等ノ期
待シタル處ハ、一人ノ參加ニ在リ、非スシテ同人ノ統率スル愛郷派
ヲシテ實行部隊ヲラシメントスルニ在リ、橋本モ此ノ擧ニ賛成シ愛郷派
首領者後藤園彦等ト協議ノ上、榮光大則、矢吹正吾、堀五百枝、小室
力也、横須賀喜久、長春田信義、亡温水秀明等ヲシテ電報所製率ヲ擔當

セシムルコトニナツタノテアリマス。
從ツテ是等熱生ノ參加ハ全ク橋ノ熱意ニ依リタル關係上、藤井ノ志
於テハ是等熱生ノ參加ハ實現セザリシモノト見ナケレハナラナイノ
テアリマス。
右様ナ次節ト是等熱生ハ孰レモ橋乃至同人ノ代理者後藤園彦ノ指
揮ノ如ク活動シタルモノテアリマス而シテ此ノ電報所製率ハ實ニ橋
ノ提案ニ依リ製率側所ノ分擔ノ如キモノナリ、計畫指率ニ依リ決定シ
テアリマス。後藤園彦ハ愛郷派ノ首領者タル關係上橋ヨリ前述ノ
如キ計畫ヲ打聞ケ參加ヲ求メタルルヤ直ニ之ニ同意シ爾來同人ノ機
刀トシテ謀議ニ參與シ愛郷熱生等ヲシテ電報所製率ヲ擔當セシメ
ルノミナラス之レカ執行ニ際シテハ橋ニ代リ其ノ指揮統制ニ當リ
タルモノテアリマス。
林正三ノ本件計畫ニ參加シタル時期ハ後藤園彦ヨリハ少シク遅レ居
ルモ林モ亦愛郷熱生ノ地位ニ在リタル關係上本件計畫ニ參加シ
後藤ト共ニ橋ヲ輔佐シ事犯執行ニ重要ナル役割ヲ演シタルコトハ洵
ニ明瞭テアリマス。
高根澤與一ハ從來愛郷熱トハ何等關係ナカリシモ熱生大貫明幹トハ
知合ナリシ爲同人ヨリ勸誘ヲ受ケルヤ深キ思慮ヲモ拂ハス本件事犯
執行ニ參加スルニ至ツタノテアリマス。
川崎長光、川崎秀、川崎清、川崎洋、川崎吉ノ四名ハ元々古賀等海軍側ト同
志ノ關係ニ在リタル爲本件計畫執行ニ付橋等ヨリ古賀ノ意ヲ傳ヘ
參加ヲ求メラレ之レヲ承認參加スルニ至ツタモノテアリマス。
次ニ奥田秀夫、池松武志ノ兩名ハ既ニ説明シタルカ如ク、古賀等海軍

側乃至陸軍士官候補生側ト關係ニ於テ本件計畫ニ參加スルニ至リ
タルモノニシテ他ノ民間被告人トノ間ニ於テハ從來橋キ交渉カ
カツタノテアリマス。
大川周明、頭山秀三、本間憲一郎ノ三名モ亦既ニ説明シタルカ如ク古
賀等海軍側トノ關係ニ於テ本件計畫ニ援助ヲ與フルニ至リタルモノ
ニシテ之レ亦他ノ民間被告人トノ間ニハ直接ニハ交渉連絡カナカ
ツタノテアリマス。
第四節 被告人各個人ノ分擔シタル行為ト之レニ
被告人各個人ノ分擔シタル行為ハ豫審終結決定書記載ニ依リニシテ被
告人等ハ孰レモ當公判廷ニ於テ之レヲ爭ハサル處ナリヲ以テ簡單ニ
其ノ概要ノミヲ申述フルニ止メマス。
第一、先ツ愛郷熱關係ニ付テハ
橋孝三郎ハ陛下ノ榮光ヲ奉ヒテ古賀等ノ計畫ニ加ハリ其ノ立案ニ
參加シ殊ニ電報所製率ヲ提案シ愛郷熱生ヲシテ之レニ當ラシメ之
レカ執行ニ付テ指揮統制ニ任シ且ツ古賀ノ依頼ヲ受ケ川崎ニ對シ
西田殺敵殺傷ヲ總シ之レヲ承諾セシメ後藤園彦、林正三ノ兩
名ハ橋ヲ援ケテ本件計畫ニ參加シ且橋同様川崎ニ對シ西田ノ暗殺
ヲ勸誘シ殊ニ後藤ハ橋ノ總策謀トシテ活躍シ橋カ執行前五月十二
日退京シタル後、橋ニ代リ自ラ電報所ノ製率ノ總指揮ノ任ニ當リ
矢吹正吾ハ東電電局電報所、堀五百枝ハ東電電局電報所、小室
力也、横須賀喜久ハ東電電局電報所、長春田信義ハ東電電局電報所、
亡温水秀明ハ東電電局電報所

大貫明幹、高根澤與一ノ兩名ハ、鬼怒川水力東京發電所ノ襲撃ヲ夫
夫擔當シ執レモ其ノ擔當シタル變電所機内ニ手榴彈ヲ投擲シ
、堀五百枝ハ東田田端發電所ノ襲撃ヲ擔當シタルカ、單ニ變電所機内
ノ手榴彈ヲ投擲シ一部ヲ破壞シタルニ止マリ手榴彈ヲ投擲スル
ニ至ラスシテ逃走シ
、小宗力也ハ東電日自變電所ノ襲撃ヲ擔當シ同變電所附近ニ到リタ
ルモ中途途中心ヲ生シ手榴彈ヲ投擲シ中止逃走シ
、赤田信義ハ襲撃發電所ノ調査ヲ擔當シ且同志ノ間ヲ往復シ之レカ
連絡ノ任ニ當リ
、杉浦孝ハ本件計畫進行ノ爲後藤園林正三等ノ命ヲ受ケ同人等乃
至變電所襲撃擔當ノ發生間連絡ノ任ニ當タルモノテアリマス
、(二) 次ニ奥田秀夫ハ古賀清志等ヲ援ケ襲撃日機タル首相官邸内大臣
官邸等ノ調査ヲ爲シ且三麥銀行襲撃ヲ擔當シ同銀行裏手ニ手榴
彈ヲ投擲シ襲撃ニ於テハ玄關先ニ居合ハセタル者等ニ對シ拳銃
ヲ發射シタルモノテアリマス
、(三) 池部武志ハ後藤園林等陸軍士官候補生ヲ代表シ古賀海軍側ト
ノ間ノ交渉ノ任ニ當リ且古賀ヲ援ケ襲撃日機タル首相官邸内大臣
官邸等ノ調査ヲ擔當シ古賀等ニ對シ種々重要ナル進言ヲ爲シ決行
當日ハ古賀ノ車ニ乗ル第三班ニ加ハリ内大臣官邸ニ於テハ自ら手榴
彈ヲ投擲シ襲撃ニ於テハ玄關先ニ居合ハセタル者等ニ對シ拳銃
ヲ發射シタルモノテアリマス
、(四) 川崎長光ハ西田晴殺ヲ擔當シ同人ヲ拳銃ニテ狙撃シ同人ノ右側
胸部外四ヶ所ニ治療約三ヶ月ヲ要シタル貫通致盲管銃創ヲ負ハシ
タルモ殺害ノ目的ヲ達セナカシタルモノテアリマス

(五) 堀川秀雄、照田保、黒澤金吉ノ三名ハ最初川崎ト共ニ本件計畫ノ
實行隊ニ加ハル決定ナリシ處人員ノ都合上一時待機ヲ命セラレタ
ル爲第一線ニハ立タサリシモ古賀、園等ノ依頼ニヨリ川崎ニ對シ
西田晴殺ヲ擔當スルコトヲ勸告シ川崎ヲシテ之レヲ決行スルニ至
ラシメタルモノテアリマス
、(六) 大川周明ハ古賀等ノ依頼ニヨリ本犯計畫ニ贊成シ事犯決行ノ用
ニ供スル爲拳銃五挺資金六千圓ヲ古賀等ニ提供シタルモノテアリ
マス
、(七) 山田三三、木間憲一郎ノ兩名モ亦古賀等ノ依頼ニヨリ同シク本
件計畫ニ贊成シ事犯決行ノ用ニ供スル爲拳銃六挺ヲ古賀等ニ提供
シタルモノテアリマス
、(八) 以上カ當裁判所ニ關シ居ル被告人各個人ノ分擔シタル行爲ニシ
テ是等ノ事實ハ被告人等カ執レモ當公判廷ニ於テ認メ居レル而已
ナラス既ニ取調ヘタル證據ニ依リ非犯而ニ明白ナルヲ以テ其ノ證
據證明ハ省略シマス

第三章 情狀 論

第一節 被告人等ノ觀タル現下ノ國情及其ノ心構

本件被告人等ハ異口同音ニ政黨財閥並ニ特權階級相結托シ權勢ヲ專
ラニシテ國政ヲ弄シ私利私慾ヲ圖リ國民福利ヲ顧ミズ腐敗墮落ニ陥
ラリト主張シ其ノ例證トシテ所謂昭和ノ五大疑獄事件、昭和六年
求ノ弗ノ思惑、金谷田再禁、並論救海政ノ局ニ在ル者事毎ニ國
策ヲ誤リ、外ニ於テハ外交ニ失敗シ内ニ於テハ不況ノ爲被擧セル農
料ヲ捨テテ額ニミ却ワテ之レカ救済ヲ助長セシメ今ヤ農村ハ全ク破

死ノ狀態ニ在リ延ヒテハ國民思想ノ惡化ヲ明瞭成セシムルニ至
リ、現下ノ國情ハ各方面共全ク行詰リテ滅亡ノ淵ニ立チ一日忽セニ
スヘカラサル危急存亡ノ秋ニ遭遇シ居ルヲ以テ國民ハ強國シ如斯
巨致ノ策ヲ請フ請フ國家革新ノ努力セサルヘカラサルコトヲ強調シ如斯
狀勢ナルニ不爲政者其ノ他支那階級ノ地位ニ在ルモノモ毫モ之レニ
顧念スルコトナク、徒ニ目前ノ權勢維持ニ努メ國民參政ノ機關タル
帝國議會ハ政權ニ燃ニル權勢政治家ト名譽ニ満スル背議議員ノ
亂脚場ト化シ利益ノ爲メニハ、國家ノ利害ヲ無視シ政敵ヲ廢ス爲ニ
ハ國家ノ名譽信用ヲモ顧ミズ、眞面目ニ國政ヲ議スル誠意ト資格ト
ヲ缺ク者多ク被等ノ手ニ、國政ヲ委タルハ國家喪亡ニ導クモノニシ
テ合法手段ヲ以テシテハ到底改革ノ實ヲ舉グルコト能ハス而カモ今
ヤ内外共ニ事應ハ刻々逼迫シ、寸刻ノ猶豫ヲ許ササル危機ニ直面シ
居レルヲ以テ、黨國ノ至情傍觀スルニ忍ビス已ムヲ得ズ、自ら拾石ト
ナリ國家革新ノ烽火ヲ揚ケ非常手段タル直接行動ニ出ツルニ至リタ
ルモノナルコトヲ痛論シテ居ルモノテアリマス

第二節 之レニ對スル批判

被告人等カ主張スル如ク、所謂昭和ノ五大疑獄事件其ノ他陸續トシ
テ現ハレタル大小ノ疑獄事件、又ハ政黨ヲ背景トシ或ハ政黨人ニ關
係アル醜事實ナリトシテ幾多ノ事實カ其ノ當時日當新聞紙等ニ依リ
喧傳セラレタル爲、之レヨリ推シテ政黨者流ノ腐敗墮落甚シト爲シ
テ憤激シ且財界ニ於テモ私利私慾ニ專念シテ國民福利ヲ思ハズ甚シ
キハ、國ヲ賣ルモ尙意ニ介セサルカ如キ一部財閥者流アリトシ其ノ
背擧行爲ヲ非難スル世論聲々タルモノアリシヨリ、被告人等カ之レ

ニ多大ノ衝動ヲ受ケタルコトハ必スシモ無理カラス處ト思フモノテア
リマス、而シテ他本件事犯決行當時ノ我國情ハ農村ノ窮乏都市小
中商工業者ノ困窮、思想ノ惡化國際關係ノ急迫等幾多憂慮スヘキ事
態アリテ内外共ニ一大難局ニ當リタルヲ以テ此ノ難局打開ノ方途ヲ
請セサルヘカラストノ信念ヲ抱テハ國民トシテ當然ノコトテアリマ
シテ被告人等カ思フ如クニ致シタルハ深ク諒トスルモ其ノ執ルヘキ手
段ヲ誤リタルコトハ洵ニ遺憾トスル處テアリマス

被告人等ハ政黨財閥ノ腐敗墮落農村都市ノ疲弊窮乏、國民思想ノ惡
化等ハニ政黨財閥並ニ特權階級相結托シ私利私慾ニ没頭シタルニ
基因スルト主張シ居ルモ職ツテ冷靜ニ事應ヲ達觀スルトキハ、凡ソ
事弊ハ其ノ由ツテ來ル處一朝一夕ノコトニ非ス。現下思想界ノ動搖
經濟界ノ不況ノ如キハ單ニ我國ノミノ問題ニ非スシテ世界ノ風潮ニ
餘波トモ云フヘク我國ノ爲政者財閥並ニ特權階級ニノミ其ノ罪ヲ歸ス
ルハ餘リニモ亦衆ヲ曲解シタル見方ト謂フヘキテアリマス勿論政黨
財界及社會上層ノ一部ニハ腐敗墮落ノ蔽ヲヘカラサルモノアリ幾多
ノ事弊、重疊セルコトハ遺憾存ラ此ノ一面ノミヲ見テ直ニ我國ノ現
狀ハ滅亡ノ淵ニ立チ一日忽セニスヘカラサル危急存亡ノ秋ナリト
解スルハ、其ノ觀察極端ニ過キ決シテ正鵠ヲ得タ見方テハアリマセ
ヌ我國ハ他國今ヤ國力旺盛ヲ加ヘテ國際上ノ地位益々重ク重業ハ發
達シ貿易ハ伸張シ世界ノ脅威トナリ居ルコト亦見逃スヘカラサル
顯著ナル事實テアリマス

若シ夫レ軍縮條約問題、金解禁問題其ノ他國策上ノ重大問題ニ至リ
テハ相反スル意見相對立シ、容易ニ是非ノ判斷ヲ爲シ得ヘキモノニ

非ス。問題ノ如何ニヨリテハ、後世、史家ヲ待ツテ始メテ其ノ利害得失ヲ判断シ得ラル、モノモアルノテアリマス。

又世ノ所謂、記者評論家ノ中ニハ、或事柄ヲ報道批判スルニ當リ世人ニ刺激ヲ與ヘ、感興ヲ喚起スル爲、往々煽動ナル事例ヲ提ヘ、之レニ誇張粉飾ヲ加ヘ、事實ノ真相ヲ歪曲スル場合尠ナカラサルカ故ニ、之レヲ其ノ儘受ケスル、ハ、時ニ思ハサル誤解ヲ惹起スル虞ナシトセ、況ヤ筆者輩出所不明ナル所謂匿名書ノ如キハ、故意ニ事實ヲ捏造スル場合多ク、遠方ニ之レヲ傳播スルハ、危險此ノ上モナキモノテアリマス。故ニ複製権ナキ世ノ事象ニ對シテハ、須ラク冷靜ナル感情ト沈着ナル思索トヲ以テ、之レニ臨ムヲ必要トスルノテアリマス。

世上傳フル事實ヲ輕信シテ其ノ眞偽ヲ明辨セズ、眞相ヲ捉ヘスシテ憤ヲ發シ又自己ノ觀ル處ト反對ノ見解ヲ有シ、或ハ反對ノ行動ヲ執ルノ故ヲ以テ、直ニ之レヲ因縁若ハ實國奴ナリトシテ暴力ヲ以テ之レニ對抗セントスルカ如キハ、斷シテ許スヘカラス。況ヤ自己ノ主張ヲ貫徹センカ爲、暗殺ノ舉ニ出ツルカ如キハ、斷テシテ之レヲ排撃シナケレハナラナイテアリマス。殊ニ立憲政治ニ於テハ如何ナル場合ニ於テモ合法手段ノ外ハ絕對ニ之レヲ許サナイテアリマス。

當職ハ被告人等カ現下ノ事象ヲ觀察スル態度ニ於テ甚ダ遺憾トスル處ノモノガアルノテアリマス。又被告人等ノ行爲カ實國ノ至情ヨリ出テタルコトハ之レヲ認ムルモ、其ノ執リタル手段ハ不當不法ニシテ之レニ對シテハ國法ヲ定ムル處ニ依リ重キ責任ヲ負ハネハナラナイノテアリマス。本件事犯ヲ觀察スルニ當リテハ此ノ見地ニ立テテ

モ冷靜公平ニ判断シナケレハナラナイテアリマス。

第三節 本件事犯ト國法

前述ノ如ク被告人等カ難局打開策トシテハ、非常手段タル直接行動以外ニ途ナシト信シ、且亦應急道一日ヲ忽セニスヘカラサルモノアリ。已ムヲ得ス之レカ決行ヲ爲スニ至リタルモノナリト主張スルモ、國權國法ハ儼トシテ存在シ之レニ反スルノ直接行動ハ斷テシテ之レヲ排撃シナケレハナラナイテアリマス。

抑モ國家ノ安寧ハ國法カ嚴正ニ行ハル、コトニヨリ保タル、コトハ萬世不易ノ鐵則ニシテ法亂レテ國治スルコトハナイテアリマス。若シ國法ヲ重ンセサルカ如キコトアラハ、綱紀弛廢シ百弊、此ニ生シテ不測ノ禍害ヲ醸成スルニ至ルヘキハ、火ヲ賭ルヨリモ明カナル次第テアリマス。

而シテ本件被告人等ハ多數共謀ノ上、一國ノ首相ヲ官邸ニ於テ暗殺シ又警察官、新聞記者等ヲ殺傷シ且各所ニ爆彈ヲ投擲シタルモノニシテ世間ナル人ノ生命ヲ奪ヒ併テ國家ノ治安ヲ紊シ國法ヲ定ムル大罪ヲ犯シタルモノテアリマス。

如斯被告人等ノ行爲ハ國法ニ反スル非違ニシテ國家革新ノ手段ニ於テ既ニ誤リ居ル以上、此ノ誤リタル手段ニ依リテ國家ノ改造ヲ斷行セントスルモ、到底其ノ目的ハ達シ得ルモノニ非ス。

其ノ結果ハ更ニ第二第三ノ直接行動ヲ誘致シ、暴ニ亂ルニ暴ヲ以テスルニ至リ、停止スル處ヲ知ラス。縱使風ヲ爲シ、恐レヘキ結果ヲ招來スルニ至ルノテアリマス。

凡ソ事ヲ爲スニハ其ノ目的ノ正シキハ勿論合法ノ手段ニ依リ正々

々ノ方法ヲ以テ之レヲ遂ケルコトヲ要スルモノテアリマス。若シ目的ノ爲ニハ手段ヲ選ハストノ思想ヲ是認シ國法ヲ無視シテ直接行動ヲ容認スルカ如キ風潮、社會ノ一部ニ瀰漫シ居レドモ、邦家ノ爲、洵ニ遺憾ノ極ニシテ法律ニ照シ嚴重ニ之レカ取締ヲ爲サナケレハナラナイテアリマス。

第四章 法律ノ適用

本件事犯ハ既ニ說明シタルガ如ク古賀清志等海軍青年將校後援隊等陸軍士官候補生並陸軍三師等民間團體被告人ノ三者合流シテ國家革新ト云フ同一目的ノ爲本件襲撃計畫ヲ立案シ、之レヲ敢行シタルモノニシテ各被告人ノ相當シタル行爲ハ夫々個々ニ異リ居ルモ、全ク全計共進行ノ爲ニ分擔シタルニ過キサルヲ以テ、本件ハ各被告人ノ分擔シタル各行爲ヲ集團的ニ見ルト同時ニ夫々個別的ニ觀察評價シナケレハナラナイテアリマス。

第一節 本件事犯ト内閣罪トノ關係

然ラハ集團的執行ヲ爲シテ、本件事犯ハ刑法ノ内閣罪ニ該當スルヤ否ヤノ點ニ付テ先ツ考究スルニ、被告人等ノ當公判廷ニ於テ陳述ニヨリテ明カナルガ如ク、同人等ハ政黨訪問致意特權權限ノ範圍ヲ越スル處ニ本件事犯ヲ敢行シタルモノニシテ、其ノ目的タルヤ内閣罪ノ構成要件タル朝憲ノ紊亂ニ存セザルヲ以テ、本件事犯ハ内閣罪ノ構成要件ヲ缺クモノト謂ハナケレバナリマセズ。

次に一言附加シテ置キタイノハ、本件事犯ハ懲罰罪ニ該當スルヤ否ヤノ點テアリマス。懲罰罪ハ多數集合シテ暴行迫ヲ爲シ、因テ其ノ地方ノ靜謐ヲ害スルニ至リタルトキ成立スル犯罪ニシテ本件事犯ハ

國家ノ秩序ヲ破壞スル目的ノ下ニ犯人手分シテ數隊トナリ、其ノ各自分擔セル場所ニ於テ或ハ爆彈ヲ投シ、或ハ人ヲ殺傷シタルモノナレバ、其ノ犯行全部ヲ包括シテ觀察スレバ或ハ懲罰罪ヲ構成スルヤノ感ナキニ非ス。雖モ之レヲ仔細ニ觀察スレバ首相官邸其ノ他ノ襲撃ノ如ク數百一兩トナリテ行動シタルモノモ、多クハ邸内ニ於テ若クハ砲臺ノ間民衆ノ氣付カサル裡ニ行ハレ、是等ノ行爲ノ結果其ノ現場附近ノ靜謐ヲ害スル程度ニ達シタルモノナカリシヲ以テ懲罰罪ノ構成要件ヲ欠スルモノテアリマス。

第二節 本件事犯ト叛亂罪トノ關係

次に本件ハ現役軍人ト常人トノ共同シタル集團的犯罪ナルヲ以テ陸海軍刑法トノ關係ヲ一應論及スル必要アリト思ヒマス。

現役軍人ニ軍刑法ヲ適用アルコトハ異論ナキ處ニシテ、又現ニ陸海軍ニ法會議ハ軍刑法ヲ適用處斷シ居ルノテアリマス。仍テ問題トナルハ現役軍人ト共犯關係ニアル本件ノ如キ場合ニ於テハ軍人タル身分ナキ常人ニ對シ軍刑法ヲ適用アリヤ否ヤ、換言スレハ刑法第六十五條第一項ノ規定ハ本被告人等ニ適用アリヤ否ヤノ點テアリマス。

刑法第六十五條ハ刑罰法全體ノ總則規定ニシテ軍刑法ノ總則ト見ルヘキモノナルカ故ニ、現役軍人タル身分ヲ有スル者ト其ノ身分ヲ有セサル者トノ共犯ノ場合ニ於テハ、刑法第六十五條第一項ニヨリ軍刑法カ常人ニモ適用アルニ非スヤトノ疑問ハ、當然起ル問題ナリト信スルノテアリマス。

之レニ對シ當職ハ結論トシテ本件ノ場合ニ於テハ常人タル本件被告人ニハ軍刑法叛亂罪ノ規定ノ適用ナシトノ見解ヲ有スルコトヲ、先ツ

第一ニ申述ヘテ置キマス。何トナレバ刑法第六十五條第一項ノ規定ハ身分ヲ構成要素トスル場合ニ於テハ其ノ身分ヲ有セザル者ハ單獨ニテハ之ヲ犯スコトガ出来ナイ。換言スレバ公務員タル身分ナキモノガ欺瞞ヲ爲スモ、濫職罪成立セザルノミナラス他ニ如何ナル犯罪モ成立シナイノテアリマス。唯公務員ト共犯關係ニアル場合ニ於テノミ刑法第六十五條第一項ノ適用上濫職罪ノ成立ヲ認ムルテアリマス。即チ本末ハ全然犯罪ヲ構成セザル事實ナルガ共犯ト云フ特殊ノ事情カ加ハリタル爲共同正犯トシテ處罰スルノテアリマス。反シ身分カ刑罰輕重ノ條件ニ過キサル場合即チ犯罪ハ身分ノ有無ニ拘成立スルモ身分アル者ニハ特別ノ刑ヲ科スル場合例ヘハ殺人罪ヲ親ノ關係アル者ト然ラサル者ト共謀シテ犯シタル場合如キハ刑法第六十五條第一項ノ適用ナク同條第二項ノ適用アル場合ニシテ、此ノ場合ハ身分ナキ者ニハ身分アル者ノ刑ヲ科セズ、却テ通常ノ刑ヲ科スルコトニナルノテアリマス。...

當ナリト信スル次第テアリマス。... (1) 先ツ橋本三郎、後藤園彦林正三、矢吹正吾、横須賀喜久、堤五郎、百枝大實、明幹、小室力也、春田信義、廣田秀夫、池松武志、高橋澤與一、十二名ニ付テハ、... (2) 大川周明ニ付テハ、...

止セントスル者ヲ射殺シ向本件計畫進行ノ妨害ヲ爲スモノト疑ヒ居リタル西田昭ヲ併セテ暗殺シ且暴電所ニテ手榴彈ヲ投擲シテ之ヲ破壊シ、因テ以テ帝都ヲ暗黒化シ人心ヲ不安ニ陥ラシメントスルニ在リタルモノニシテ、右被告人ノ内、橋本三郎、林正三、池松武志、如ク直接此ノ計畫ニ參與シ居リタル者ガ共同正犯タル責任ヲ負フヘキハ勿論ナルモ、他ノ被告人ノ如ク、既ニ謀議成リタル後計畫ヲ打開ケ参加ヲ求メラレレシニ同意シ同志トシテ電報所ノ襲撃又ハ其準備の調査等全部ノ行動ヲ爲シタルモノニ付テモ是等行動ハ全計畫進行ノ爲メニ爲サレタル而已ナラス又其性質上全計畫進行ニ密接且重要ナル役割ヲ演シタルモノト爲スヘキカ故ニ決行當日並其ノ以前ニ於テ各目ノ行動ハ夫々相違シ居リタルモ、橋本三郎、池松武志、同シク、本件事犯全體ニ對シ共同正犯ノ責任ヲ負フヘキモノニシテ豫審ニ於テ是等被告人ニ對シ共同正犯ノ決定ヲ爲シタルハ極メテ當ヲ得タルモノト謂フヘキテアリマス。...

ヒ西田昭暗殺スル決意ヲ爲サシタル事實アリテ是等三名亦川崎ノ教唆者トシテ西田昭殺シノ責任ヲ分擔スヘキモノナルカ故ニ其法律上ノ責任ニ至リテハ川崎ト此ノ三名トノ間ニ軒輊アリモニ非ズ。而シテ既ニ述タル如ク本件事犯ガ集團的犯罪ニシテ之レノ個別のニ觀察スヘキモノニ非ズ。全計畫ノ内容ヲ知りテ之レニ參加シ其一端ヲ分擔スル意思ヲ以テ行動シタル者ニ對シテハ其ノ分擔シタル行爲如何ヲ問ハズ本件事犯全體ニ對スル責任ヲ負ハシムヘキモノナル以上西田昭殺シノ擔當シタル川崎ハ勿論同人ヲ教唆シタル他ノ三名亦均シク本件事犯全體ニ對スル共同正犯ノ責任ヲ負ルヘキモノトナシテアリマス。...

リマス面シテ大川ノ本件事犯ニ對スル責任ハ法理上ハ豫審終結決定書記載ノ如ク從犯ト認定スルヲ相當トスルモ其ノ實質ニ於テハ共同正犯ニ比スヘキ程度ノ重キ責任ヲ負フヘキモノト信スルノテアリマス。

(三) 次ニ頭山秀三本間憲一郎ノ兩名ハ本件襲撃計畫援助ノ爲古賀等ニ拳銃ヲ提供シ又杉浦孝ハ後藤園彦、林正三等ノ命ニ依リ同志間ヲ往復シ之レカ連絡ノ任ニ當リタルヲ以テ孰レモ本件事犯全部ニ對スル補助者トシテ責任ヲ負フヘキハ當然ニシテ豫審終結決定書記載ノ如ク援助物取締期間第一條違反、殺人及殺人未遂補助ノ罪ニ該當スルモノト思料スルノテアリマス。

第五節 被告人各個人之犯情ト求メ
第一節 被告人各個人之犯情
今迄所述ヘタル處ニ依リ本件事犯ニ對スル全般的説明ヲ終リタル故之ヨリ被告人各個人之犯情ニ付一言シタト思ヒマス。

(一) 橋本三郎
本件事犯全部ノ計畫ハ橋本古賀清志ノ創意ニ係ルモ、其ノ立案ニ當リテハ橋本亦謀議ニ參畫シ殊ニ愛郷塾生ノ撥當シタル變電所ノ襲撃ハ實ニ此ノ橋本ノ創意ニ出テ且自ら之レカ指揮統制ヲ爲シタルヲ以テ同人亦本件事犯ノ首謀者ノ一人ナリト謂フヘク其責任ハ民間被告人中最も重キモノト信スルノテアリマス。

橋本亦協同謀議等カ手榴彈ヲ投擲シタル點ニ付、共同ノ責任ヲ負フヘキコト勿論ナルモ小室自身トシテハ自己撥當ニ係ル犯行ノ際シ恐怖心ヲ生シ手榴彈ヲ投擲ヲ中止シタルカ故ニ此ノ點ヲ考慮シ、橋本ヨリモ更ニ輕ク處斷シテ可然モノト思料シマス。

(五) 春田信義
同人ハ自ら變電所ノ襲撃ヲ撥當セザリシモ事前變電所ノ調査ヲ爲シ且同志間連絡ノ任ニ當リタルコトアリ本件事犯トノ關係矢吹等實行隊ニ比シ幾分其ノ刑事責任ヲ輕減シテ可然モノト思料シマス。

(六) 杉浦孝
同人ハ本件計畫遂行ノ爲後藤園彦、林正三等ノ命ニ依リ同志間ヲ往復シ連絡ノ任ニ當リ種々活躍同種ノ任務ヲ撥當シタル同志春田信義ニ比シ其ノ活躍ノ範圍程度重大ナルモノアルカ故ニ同人ノ如ク他ニ撥當實行シタル行爲ナシト雖同人ヨリ特ニ輕減スヘキ理

ル變電所襲撃成功ヲタリトセンカ帝都ヲ暗黒世界ト化シ收拾スヘカラサル混亂状態ニ陥レ其ノ結果恐ルヘキモノアリタルコトハ推測ニ難カラサル處テアリマス從テ其ノ心事ノミニ提ハレ事犯ノ責任ヲ輕視スヘキモノニ非ス。其ノ責任ヲ問フニ宜シク嚴罰ヲ以テ臨ムヘキモノト信スルノテアリマス然レトモ同人ノ抱懐スル思想ハ元來建設ニ在リテ破壞ヲ目的トスルニ非ザリシモ、偶々古賀等ノ本件計畫ト國家革新ノ理想ニ於テ共通スル處アリシヲ以テ此ノ舉ニ參加シタル關係ニ在リ且橋本亦事ヲ舉グルニ先立ち既ニ滿洲ニ逃避シ其ノ實行ニ與ラザリシ點等ハ同人ニ對スル刑ノ量定上考慮ヲ加フヘキモノト思料致シマス。

(二) 後藤園彦
同人ハ橋本總參謀トシテ本件事犯ニ參畫シ、五月十二日清軍退後ハ、同人ニ代ツテ一切ノ指揮命令ヲ爲シ決行當日ハ變電所襲撃ノ總指揮官トシテ采配ヲ振ヒタルカ故ニ、其ノ刑事責任モ亦橋本ノ次位ニアルコト官ヲ俟タル處テアリマス。

(三) 林正三
同人ハ後藤園彦ト共ニ愛郷塾ノ指揮者タル地位ニ在リ然生間ニ重キヲ爲シ居リタル關係上橋本ノ謀議ニ贊同シ、其ノ參謀トシテ本件事犯ニ活躍シタルヲ以テ、本來後藤ト同等ノ責任ヲ負フヘキモノナルモ、其ノ參加シタル時期ニ於テ後藤ヨリ幾分過ク其ノ分擔シタル役割ニ於テ、同人ニ稍劣ルモノアリ、其責任亦同人ノ次位ニ在リト謂フヘキテアリマス。

(四) 矢吹正吾
矢吹正吾須賀喜久雄、堀五右衛門、大貫明幹、小室力也、同人等ハ由ナシト信シマス。

(七) 高橋博興
同人ハ大貫明幹ト共ニ鬼怒川本力東京變電所ノ襲撃ヲ撥當シ同變電所襲撃ニ手榴彈ヲ投擲シタルモ既ニ説明シタル如ク其ノ本件事犯ニ參加スルニ至リタル事情ニ於テ他ノ被告人ニ比シ想スヘキ點アルヲ以テ、最低刑ヲ以テ處斷スレハ足レリト思料シマス。

(八) 奥田秀夫
同人ハ血盟團事件ニ關係シ居リタル爲本件事犯ニ參加シ、事前ニ本件計畫遂行ニ必要ナル調査ヲ爲シ且決行ニ當リテ自ら第四班トシテ三愛銀行ヲ襲撃シタルカ、此ノ第四班ハ他ニ班員ナク奥田一人ニ過キサルモノ之レ全ク當日ノ人員配置ノ都合ニ出テタルモノニシテ其ノ實一方ノ指揮者ノ地位ニ在リタルコトハ當公判廷ニ於ケル供述ニ依リ明白ナルカ故ニ、同人ノ本件ニ於ケル地位ハ變電所襲撃ヲ撥當シタル愛郷塾生ト同日ノ論ニ非ス、其ノ刑事上責任亦是等愛郷塾生ニ比シ過ニ重キモノアリト謂ハナケレハナリマセン。

(九) 池松武志
同人ハ義ニ説明シタルカ如ク後藤園彦等陸軍士官候補生ヲ代表シ古賀清志等トノ間ノ交渉ノ任ニ當リタルモノテアリマス。士官候補生ハ當時陸軍士官學校在學中ニシテ橋本園彦等起臥シ機會少ク、海軍側ト直接連絡ヲ執ルコト困難ナル状態ニ在リタルヲ以テ池松ハ此ノ兩者ノ間ニ介在奔走シ計畫ニ關スル意見ヲ傳達シ連絡ヲ保ツニ盡メテ遂算ナカラシメタルモノテアリマス、從ツテ池松ナカリセハ士官候補生側ハ本件計畫ニ參加スル機會ヲ得ナカツタト思フノ

テアリマス、現ニ海軍側ニ於テハ、決行當日士官候補生等ヲ其ノ集合場所ニ迎フル迄ハ、同人等方參加シ得ルヤ否ヤニ付多大ノ懸念ヲ抱イテ居タリテアリマス、如斯ク士官候補生カ本件計畫ニ參加シタルハ全ク池松カ連絡係トシテ完全ニ其ノ任務ヲ果シタルニ因ルモノニシテ此ノ見地ヨリスレハ、同人ノ士官候補生側ニ於ケル關係ハ後藤園生ノ愛護發生ニ於ケル關係尠ク夫レ以上ノ重要性ヲ有スルモノト謂フヘキテアリマス、殊ニ池松ハ、單ニ連絡係トシテ活動シタルニ止マラス、奥田同様、本件計畫ノ遂行ニ必要ナル進言ヲ爲シ其ノ決行ニ非常ナル便宜ヲ與ヘタル事アリ、且決行ニ當リテハ、内府官邸ニ於テ自ら手榴彈ヲ投擲シ警視廳ニ於テ拳銃ヲ發射シタルモノナルカ故ニ是等ノ犯情ニ照ラシ責任重キモノト思料シマス、(十) 堀川秀雄、照澤操、黒澤金吉、此三名ハ、勿論ナルカ、假令ニ豫審終結決定正犯トシテ責任ヲ負フヘキトハ、勿論ナルカ、假令ニ豫審終結決定書記職ノ如ク、殺人ノ罪ニ付テハ、西田暗殺未遂ノ教唆遂行物取使則違反ノ點ニ付テハ、單ニ共謀ニ止マルモノトスルモ、爆發物取使用力本件亦犯ノ重大性ヲ加ヘタル事情、堀川、西田暗殺カ本件亦犯ノ一項角ヲ爲シタルノ事、是ニ鑑ミ、此ノ三名ノ責任亦輕カラサルモノト謂ハナケレハナリマス、(十一) 堀川、西田、照澤、黒澤、此四名ハ、唯此ノ三名ノ犯情ヲ個別のニ仔細ニ検討スレハ、照澤、黒澤、堀川、堀川ヨリモ、其ノ關係セル程度稍薄キカ故ニ、同人ニ比シ幾分輕ク處斷シテ可然モノテアリマス、(十二) 川崎長光

同人ハ所謂血盟團ノ一員ニシテ豫テ西田ト面識アリ、其ノ西田暗殺機密者ニ選ハレタルモ、全ク之カ爲ニ外ナラス、(十三) 本件亦犯ニ關係セル民間團體行隊中他ニ西田ト組織ルモノナク、同人ノ暗殺ヲ決行セントスルモ、川崎之レヲ引受ケル以上他ニ適當ノ擔當者ヲ發見スル能ハサル事情アリタルヲ以テ此ノ點ニ於テ川崎ノ地位ハ、極メテ重要ニシテ、余ナリテ代ヘ難キ見地ナル行爲ヲ敢テ實行シタルモノテアリマス、然レトモ、事未遂ニ終リ西田ノ負傷意外ニ早ク全快シ日常ノ活動ニ支障ナキニ至リタルカ故ニ、此ノ點ヲ斟酌シテ可然モノト思料シマス、(十四) 大川周明、同人ノ所爲ハ豫審終結決定書記職ノ如ク、本件亦犯ノ從犯ニ過キサルモ、同人ノ存在ハ、既ニ説明シタルカ、如ク、本件亦犯ニ重大ナル關係ヲ有シ、即チ同人ヨリ潤澤ナル資金ノ提供ナカリセハ、古賀等ノ活動經費迄ニ燃焼ナルヲ得タリシヤ否ヤ、又大川ヨリ拳銃ノ提供ナカリセハ、堀川、西田、照澤、黒澤、此四名ノ以テシテ本件亦犯ノ結果遂行深刻ナリシヤ否ヤ、共ニ疑ナキヲ得マセズ、或ハ活動資金ノ窮乏、或ハ使用武器ノ手薄ノ結果、本件計畫自體ニ阻礙ヲ來シタルナキヤ、斷言ヲ許サ、ルモノカ、アリマス、(十五) 本件亦犯ノ根源ニ遡テテ考フルニ、國家革新ハ、本件ノ如キ直接行動ニ依ルノ外、途ナシトノ思想ヲ國民ノ一部ニ有爲ノ青年ノ間ニ根強ク植付ケ、現下ノ日本ニ於テハ、非常手段ニ依ル國家革新ノ遂行最大義務ナリトノ危險ナル思想ヲ醗酵スルニ至ラシメタル責任ノ一擔ハ、大川周明共ノ人ノ負フヘキモノテアリマス、

斯様ニ觀察シ來レハ、本件ニ於ケル大川ノ行爲ハ從犯ニ該當スルトハ云ヘ亦件ニ於ケル地位ハ、洵ニ重大ニシテ其ノ犯情、共同正犯ト同一視スヘキモノテアリマス、以テ同人ニ對シテハ、嚴重處斷スル必要カナルノテアリマス、(十六) 頭山秀三、本間憲一、此ノ兩名ハ共同シテ、古賀等ニ拳銃ヲ交付シタルカ、是等ノ武器カ威力ヲ發揮シ、或ハ首相ヲ殺シ、或ハ西田ヲ負傷セシムル等、重大ナル結果ヲ惹起シタルコトハ、古賀ノ證言ニ依リ、極テ明白ナル而已ナラズ、頭山ノ如キハ、本件ニ共謀シ、古賀等ヲ種々激勵シタル事實アリ、本間亦古賀等ノ教習内府暗殺失敗ノ後ヲ承ケ、其ノ暗殺計畫遂行ノ爲ニ努力シタル事實アリテ、此ノ兩名ニ對シテモ相當重ク處斷スル必要カナルノテアリマス、(十七) 更ニ頭山、本間ノ兩名ニ對シテハ、別ニ懲罰ノ事實起訴セラレ、此ノ點ニ付テハ、既ニ共犯者タル山本貞美等ニ對スル懲罰被告事件ノ公判ニ於テ、佐野檢事ヨリ詳細ナル論告アリ、裁判所モ被告人側モ既ニ其ノ論告ヲ聴取済ナルヲ以テ、茲ニ之レヲ援用シ再論ノ煩ヲ避ケタイト思ヒマス、

刑ノ量定上犯罪ノ動機ニ付、深甚ナル者限ヲ持ハサルヘカラサルハ勿論ニシテ、殊ニ其ノ動機カ、本邦固有ノ淳風美俗タル忠義其ノ他ノ道義上又ハ公益上非難スヘキモノナリヤ將又窮乏スヘキモノナリヤハ、刑ノ適用上輕ニ參酌スヘキモノナルコト疑ナク、然レテモ、然リト雖、刑ノ輕重ハ、必スシモ犯罪ノ動機ノ一點ノミヲ標準トシテ抽象的ニ之ヲ論斷スヘキニ非ス、更ニ犯人ノ性格、被害者ノ地位、犯罪ニ因リ法律秩序ニ及ボシタル影響ノ程度、將來ニ於ケル豫防警察上ノ關係、其ノ他主觀客觀ノ兩方面ニ於ケル諸般ノ情狀ヲ較量シテ、各犯人ニ付個別のニ之ヲ決定スルヲ正當ナリトス、ト説明シテ、定ニ良ク刑ノ量定ニ關スル刑政ノ本義ヲ遵守シタルモノニシテ動機ノミヲ偏重シテ行動ノ當否及其ノ影響ノ如何ヲ輕視セントスルモノナルヲ警メタルモノナリ、而シテ此ノ趣旨ハ、當今ノ世相ニ對シ極テ適切妥當ニシテ本件ノ量刑ニ關シテモ、大イニ參考トスヘキモノト信シマス、カ故ニ、茲ニ右判決ノ趣旨ヲ援用スルト同時ニ、本件モ亦既ニ述ハタル如ク、被告人等ノ動機ニ於テ、既ニ論ズル處アルモ、其ノ社會事業ニ對スル判斷必スシモ正當ナラス、其ノ執リタル手段方法甚ダシク兇暴ニシテ其ノ社會ニ及ボシタル影響モ亦極メテ重大ナリシコトヲ再認シテ、茲ニ各被告人ニ對シテ、次ノ刑ヲ爲ス決テアリマス、

以上申述ヘタル事實ニ基キ、最後ニ求刑ヲ爲スニ當リ、當職ハ最近大審院ニ於テ斯ノ種ノ犯罪ニ對スル量刑上極メテ參考トナルヘキ判決(昭和八年十一月六日佐野檢事對スル殺人上告事件)カ、アリマシタ共ノ判決ノ理由書ニハ、凡ソ犯罪ヲ決意スルニ至リタル動機ノ實質ハ、犯罪行為ノ價值判定上、重大ナル關係ヲ有スルモノナルカ故ニ、

刑ノ量定上犯罪ノ動機ニ付、深甚ナル者限ヲ持ハサルヘカラサルハ勿論ニシテ、殊ニ其ノ動機カ、本邦固有ノ淳風美俗タル忠義其ノ他ノ道義上又ハ公益上非難スヘキモノナリヤ將又窮乏スヘキモノナリヤハ、刑ノ適用上輕ニ參酌スヘキモノナルコト疑ナク、然レテモ、然リト雖、刑ノ輕重ハ、必スシモ犯罪ノ動機ノ一點ノミヲ標準トシテ抽象的ニ之ヲ論斷スヘキニ非ス、更ニ犯人ノ性格、被害者ノ地位、犯罪ニ因リ法律秩序ニ及ボシタル影響ノ程度、將來ニ於ケル豫防警察上ノ關係、其ノ他主觀客觀ノ兩方面ニ於ケル諸般ノ情狀ヲ較量シテ、各犯人ニ付個別のニ之ヲ決定スルヲ正當ナリトス、ト説明シテ、定ニ良ク刑ノ量定ニ關スル刑政ノ本義ヲ遵守シタルモノニシテ動機ノミヲ偏重シテ行動ノ當否及其ノ影響ノ如何ヲ輕視セントスルモノナルヲ警メタルモノナリ、而シテ此ノ趣旨ハ、當今ノ世相ニ對シ極テ適切妥當ニシテ本件ノ量刑ニ關シテモ、大イニ參考トスヘキモノト信シマス、カ故ニ、茲ニ右判決ノ趣旨ヲ援用スルト同時ニ、本件モ亦既ニ述ハタル如ク、被告人等ノ動機ニ於テ、既ニ論ズル處アルモ、其ノ社會事業ニ對スル判斷必スシモ正當ナラス、其ノ執リタル手段方法甚ダシク兇暴ニシテ其ノ社會ニ及ボシタル影響モ亦極メテ重大ナリシコトヲ再認シテ、茲ニ各被告人ニ對シテ、次ノ刑ヲ爲ス決テアリマス、

第一節 求刑

無期懲役

後藤 正 三對シ 懲役十五年

林 正 三對シ 懲役十年

矢吹 正 吾對シ 懲役十年

濱須賀 喜久雄對シ 懲役十年

國家主義系不穩事件報告裁判決録

堀 五百枝ニ對シ 懲役八年
 大貫明幹ニ對シ 懲役十年
 小室力也ニ對シ 懲役七年
 春田春義ニ對シ 懲役七年
 奥田秀夫ニ對シ 懲役十五年
 池松武志ニ對シ 懲役十五年
 高根澤與一ニ對シ 懲役七年
 杉浦 孝ニ對シ 懲役七年
 堀川 秀雄ニ對シ 懲役十二年
 照沼 操ニ對シ 懲役十年
 黒澤 金吉ニ對シ 懲役十年
 川崎 長光ニ對シ 無期懲役
 大川 周明ニ對シ 懲役十五年
 頭山 秀三ニ對シ 懲役十年
 本間憲一郎ニ對シ 懲役十年
 ニ夫々處スヘキモノト思料シマス

一四、五・二五事件(民間側) 判決書(要旨)

判決 水戸市馬口旁町二千二百八番地

一六六

住居 同市新原町三千三十九番地 農 業 橋 孝三郎 當四十二年
 本籍 茨城縣那珂郡五條村大字東木介八百十八番地
 住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 後 福 國 彦 當三十二年
 本籍 水戸市新原町三千三十九番地
 住居 同 所 農 業 林 正 三 當四十二年
 本籍 茨城縣久慈郡世父村大字小目千八百二十七番地
 住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 矢 吹 正 吾 當二十三年
 本籍 茨城縣東茨城郡上大野村大字中大野十九番地
 住居 同 所 農 業 横 濱 實 重久雄 當二十三年
 本籍 同縣西茨城郡笠間町大字笠間

千三百六十二番地ノ四

住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 橋 孝三郎 當二十三年
 本籍 茨城縣那珂郡勝田村武田五百三十九番地
 住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 大 貫 明 幹 當二十三年
 本籍 同縣同郡大貫村大字岩崎三百十九番地
 住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 小 室 力 也 當二十三年
 本籍 同縣西茨城郡笠間町大字笠間千二百九番地
 住居 同 所 無 職 兼 田 信 義 當二十八年
 本籍 廣島縣安藝郡音戸町大字音戸六千九百七十三番地ノ二
 住居 東京市中野區新井四百五十三番地 林 新 太郎 無 職 兼 田 秀 夫 當二十五年
 本籍 鹿兒島縣出水郡出水町上崎四百三十九番地
 國家主義系不穩事件報告裁判決録

住居 東京市渋谷區宮通リ二丁目三十番地 東 條 輝 方 無 職 池 松 武 志 當二十五年

本籍 茨城縣鹿島郡沼田村大字細掛二百三十番地
 住居 同 所 無 職 高 根 澤 興 一 當二十四年
 本籍 愛知縣寶飯郡浦郡町大字神ノ郷字殿市場入番地
 住居 水戸市新原町三千三十九番地 農 業 杉 澤 孝 當二十六年
 本籍 茨城縣那珂郡深町八百三番地
 住居 同縣同郡神崎村大字崎千五百六十二番地 繪 引 寅 次 郎 無 職 堀 川 秀 雄 當二十九年
 本籍 同縣同郡前渡村大字長砂四百八十六番地
 住居 同 所 農 業 照 沼 操 當二十五年
 本籍 同縣同郡同村大字前濱八百三十五番地

國家主義系不穩事件論告並判決錄

住居 同所 農業 黒 澤 金 吉 當二十七年
本籍 同縣同郡同村大字前泊九百九十九番地
住居 同所 農業 川 崎 長 光 當二十四年
本籍 東京市麹町區代官町一番地
住居 同市品川區上大崎四丁目二百三十一番地
無 職 大 川 周 明 當四十九年
本籍 同市澁谷區常盤松町十二番地
住居 同所 無 職 山 秀 三 當二十八年
本籍 同市日本橋區寶町四丁目十五番地
住居 茨城縣新治郡真鍋町真鍋三十二番地
無 職 本 間 憲 一 郎 當四十五年

則違反殺人及殺人未遂被告事件
右頭山秀三、本間憲一郎ニ對スル爆發物取締規則違反殺人及殺人未遂被告事件ニ付當裁判所へ檢事木内曾益、吉江知義園與ノ上審理ヲ遂ケ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

理由(要旨)

第一、被告人橋孝三郎ハ明治四十五年茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シ大正元年九月第一高等學校ニ入學シ大正四年三月同校第三學年ヲ中途退學シ當時茨城縣東茨城郡常盤村新立三千三十九番地現在水戸市新原町三千三十九番地)ニ歸農シ同年秋頃ヨリ同所ニ於テ自ラ農場ヲ經營シ人ハ大地ヲ墾レテ生存シ得サルカ故ニ我カ國建國ノ基本ハ大地即チ農村ニシテ國民ハ總テ自他一切ノ爲ニ其心ヲ捧ケ相互愛ノ下ニ生き各自其天職使命ノ在ル所ニ從ヒ勤勞ノ限リヲ盡スヘキモノト爲シ自ラ之ヲ大地主義見解主義勤勞主義ト稱シ右三主義ノ在ル所即チ人ノ故郷ナリ人ハ其ノ故郷ヲ愛スヘキモノトシテ之ヲ愛郷主義ト名付ケ之ヲ信守シテ身ヲ提シテ農場經營ニ當リ居タルカ儘テ同被告人ノ兄弟等モ右農場ニ來リ投スルニ至リ茲ニ所謂兄弟村農場ノ完成ヲ見タリ其前後ヲ通シ同被告人ハ舉世治々トシテ西洋唯物文明ニ對シ愛國同胞精神ヲ喪失シ殊ニ農村ニ於テハ眞ノ農民存在セサルノ現況ヲ憂ヘ農村發展團體ノ育成ヲ希望シ居タル折柄昭和四年中同被告人ノ右越前ニ贊同スル青年在リテ茲ニ前示農場ヲ中心トシテ愛郷會ヲ創立シ前示愛郷主義ヲ醫シテ農村發展ニ努メ更ニ其領我カ國ハ農業ヲ以テ建國ノ基礎トセルモノナレトコトヲ確ヒ前記愛郷主義ニ依リ身ヲ以テ農村子弟ヲ

教育指導シ眞ノ農民ヲ養成セムト欲シ昭和六年四月十五日前示農場内ニ自營ノ農村勤勞學校愛郷塾ヲ設置シ自ラ其校長トシテ親シク農村子弟ノ教育ニ没頭シ只管農村發展ニ努力シ來リタルモノ被告後藤隆彦ハ大正十年茨城縣立水戸農學校卒業後一時同縣北相馬郡寺原村尋常高等小學校等ニ代用教員トシテ奉職シ翌十一年五月同縣那珂郡柳川村尋常高等小學校ノ訓導ト爲リタルモ翌十二年四月其職ヲ辭シ同縣立農業教員養成所ニ入り翌十三年三月同養成所ヲ卒ヘ同年四月ヨリ同縣那珂郡川田村尋常高等小學校ノ訓導ニ復職シ爾來其職ニ在リタルカ昭和六年六月頃ヨリ被告人橋孝三郎ト相識リ同被告人ノ前示愛郷主義ニ心服シ同年九月ニ至リ自ラモ同主義ノ下ニ農村勤勞生活ニ入ラムト欲シ其職ヲ辭シ同年十月頃ヨリ前記愛郷塾ニ來リ投シ其教師トシテ被告人橋孝三郎ヲ扶ケ農村子弟ノ教育ニ努メ傍ラ農場労働ニ從事シ居タルモノ被告人林正三八明治四十五年茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シ同年四月東京英學學校西洋漢科ニ入學シ大正六年三月同校ヲ卒業シ同年四月東京英學學校西洋漢科ニ入學シ大正六年三月同校ヲ卒業シ同年四月カ當時同被告人ト水戸中學校ノ同窓ナリシ被告人橋孝三郎カ前示ノ如ク歸農シ居タルヨリ被告人林正三八被告入橋孝三郎ニ共鳴シ前記農場ニ入り農業ニ從事シ其傍ラ水戸市所在私立大成高等女學校同好女實科女學校及茨城縣東茨城郡川和田村赤塚所在私立水府高等女學校等ニ講師トシテ教鞭ヲ執リ尙被告人橋孝三郎カ前示ノ如ク愛郷會ヲ創立スルヤ之ニ盡力シ同被告人カ更ニ愛郷塾ヲ設置スルヤ之カ教師ト爲リ同被告人ヲ扶ケ以テ農村發展ニ盡精シ來リタルモノ

國家主義系不穩事件論告並判決錄

被告人矢吹正吾同大貫明喬同小室力也同杉浦孝ハ孰レモ小學校卒業後被告人橋五百枝ハ茨城縣立水戸中學校卒業後夫々被告人橋孝三郎ノ開設シタル前記愛郷塾ニ入り同被告人ノ膝下ニ起居シテ同被告人ノ所謂愛郷主義ノ下ニ熏陶ヲ受ケ傍ラ前示農場労働ニ從事シ居タルモノ被告人橋孝三郎ハ其ノ故郷ヲ愛スヘキモノトシテ之ヲ愛郷主義ト名付ケ之ヲ信守シテ身ヲ提シテ農場經營ニ當リ居タルカ儘テ同被告人ノ兄弟等モ右農場ニ來リ投スルニ至リ茲ニ所謂兄弟村農場ノ完成ヲ見タリ其前後ヲ通シ同被告人ハ舉世治々トシテ西洋唯物文明ニ對シ愛國同胞精神ヲ喪失シ殊ニ農村ニ於テハ眞ノ農民存在セサルノ現況ヲ憂ヘ農村發展團體ノ育成ヲ希望シ居タル折柄昭和四年中同被告人ノ右越前ニ贊同スル青年在リテ茲ニ前示農場ヲ中心トシテ愛郷會ヲ創立シ前示愛郷主義ヲ醫シテ農村發展ニ努メ更ニ其領我カ國ハ農業ヲ以テ建國ノ基礎トセルモノナレトコトヲ確ヒ前記愛郷主義ニ依リ身ヲ以テ農村子弟ヲ

遺思想ヲ抱懷シ居タル陸軍中尉菅波三郎ノ指導ヲ受ケ居リタルモ
 被告人堀川秀雄ハ大正十四年三月茨城縣立師範學校本科一部ヲ卒
 業シ同縣那珂郡中野村中野尋常高等小學校ノ訓導ト爲リ昭和二
 年四月前記師範學校專攻科ニ入り翌三年四月卒業シ爾來同郡前渡
 村前渡尋常高等小學校同郡湊町湊尋常高等小學校等ニ教授ヲ執リ
 更ニ昭和七年四月以降同郡神崎村本末尋常高等小學校ノ訓導ト
 爲リタルモ
 被告人照沼保ハ昭和二年三月茨城縣立水戸農學校ヲ卒業シ同年四
 月同縣那珂郡前渡村前渡尋常小學校ノ代用教員ヲ命セラレ昭和七
 年三月三十一日依願退職シタルモ
 被告人湯澤金吉ハ小學校卒業後農業ニ従事シ被告人川崎長光ハ昭
 和四年三月茨城縣那珂郡湊町湊商業學校ヲ卒業シ一度ハ上京シタ
 ルカ後歸郷シテ農業ニ従事シ居タルモ
 ニシテ被告人堀川秀雄同照沼保同湯澤金吉及同川崎長光ノ四名ハ
 執レモ前示井上昭ノ黨團ヲ受ケ居タルモ
 ナルトコト被告人橋本三郎ハ夙ニ國家ノ革新ヲ志シ其抱懷スル國
 民共同體王道國家ノ理想ヲ以テ我國現下ノ國情ヲ眺メ經濟界ノ不
 況思想界ノ動搖ヲ其極ニ達シ疑獄事件ハ種々接シテ起リ國民
 精神日ニ頹廢シ殊ニ農村ノ疲弊甚ダシク農民ノ窮乏實情ニ絶スル
 所以ノモノハ畢竟國民力使ニ西洋唯物文明ノ成熟ニ非ハ全ク愛國
 同胞精神ヲ喪ヒ支配階級タル政黨財閥並特權階級ハ五ニ相結托シ
 テ私利私慾ヲ逞ウシ國政ヲ弄ヒ何等ノ利益ヲシテ其地位ニ據

ルカ爲ニ外ナラス此儘ニ之ヲ放置セムカ國家ハ遂ニ滅亡ノ瀕ニ瀕
 スルニ至ルヘシト觀念シ從來ノ所謂黨派主義ノ如キ平和的手段ヲ
 以テシテハ到底此農村ノ不況ヲ打開シ農民ノ窮乏ヲ救ヒ國家ヲ累
 卵ノ危懼ヨリ脱セシムルニ由ナキモノト思惟シ遂ニ非常手段ニ依
 リ右支配階級タル政黨財閥並特權階級等ニ打撃ヲ與ヘ以テ國家革
 正ノ烽火ヲ揚ケムトスルノ思想ヲ抱懷シ爾來同被告人ハ該思想ヲ
 被告人後藤國彦同林正三同矢吹正吾同横須賀喜久建同大貫助幹同
 橋五百枝同小室力也同春田信義同杉浦孝及元愛郷塾生亡温水秀則
 等ニ鼓吹シ右被告人等亦被告人橋本三郎ノ指導ヲ受ケテ井上昭
 人ト志ヲ同シスルニ至リタリ一方被告人奥田秀夫ハ前示井上昭
 ノ黨團ニヨリ被告人池松武志ハ前記菅波三郎ノ指導ヲ受ケテ夫々我
 カ國現下ノ國情ヲ視テ之ヲ革新ニ志シ被告人堀川秀雄同照沼保同
 湯澤金吉同川崎長光ノ四名モ亦井上昭ノ感化ヲ受ケ常ニ想ヲ現下
 ノ國情ニ致シ革新ノ烽火揚リ指令一度ヒ降ラハ何時ニテモ之ニ馳
 奔スルノ勇ヲ因メ居タル折柄昭和七年二月頃前示井上昭ハ古内
 榮司等ト共ニ國家革新ヲ企テ支配階級打倒ノ實行運動ニ著手シ所
 謂一人一殺主義ノ下ニ順次政黨財閥並特權階級等ノ巨頭階級ヲ決
 行セムトシ先づ同月九日同志小沼正正カ井上昭之助ヲ同年三月五日
 同志湯澤五郎カ園球磨ヲ各暗殺シタルカ其一味ハ間モナク檢舉セ
 ラレタルヨリ當時海軍部内ニ在リテ右井上昭等ト呼應シ國家革新
 運動ヲ繼續シ居リタル海軍中尉古賀清志及同中村義雄ハ同シク海
 軍中尉三上京同山岸安海軍少尉村山格之儀海軍少尉長若勇等ト
 共ニ右井上昭等ノ後ヲ承ケ我カ國現下ノ情勢ヲ日シ政治經濟共ニ

行詰リ政黨財閥並特權階級等ハ五ニ相結托シ國政ヲ弄リ國民ヲ極
 度ニ壓迫シ殊ニ最近ニ於ケル支配階級ノ墮落ハ到底階級ヲ許サザ
 ルモノ在リト爲シ手榴彈及拳銃等ヲ使用シ非常手段ニ依リ支配階
 級ニ一撃ヲ加ヘ彼等ノ黨團ヲ促サムコトヲ企圖シ其ノ計畫ヲ樹ツ
 ルニ至リタリ而シテ右古賀清志及中村義雄ハ昭和七年三月二十一
 日頃當時東京府豊多摩郡大久保町百人町（現在東京市豊島區百人
 町）渡川善助方ニ於テ後藤國彦並元愛郷一徹軍市之助ハ木春雄石關
 榮野村三郎並勳西川武敏金清豐吉原政巳等陸軍士官候補生及被告
 人池松武志ト相會シ古賀清志ヨリ前示計畫ヲ告ケ之カ參加ヲ求メ
 タルトコロ右陸軍士官候補生等及被告人池松武志ハ執レモ直チニ
 之ヲ承諾シ後陸軍士官候補生中島忠秋モ亦之ニ參加シ同月下旬頃
 右中村義雄ハ當時東京府豊多摩郡野方町新井四百五十三番地（現
 在東京市中野區新井四百五十三番地）林新太郎方等ニ於テ被告人
 奥田秀夫ト會見シ同被告人ヲ前示企圖ニ參畫セシメ其頃右古賀清
 志ハ前示黨團ヲ於テ被告人橋本三郎ニ對シ右企圖ヲ打明ケ同被
 告人ノ職起ヲ促シタルヨリ同被告人ハ既ニ前記ノ如ク非常手段ニ
 依リ現狀打開ヲモ辭セザルノ意圖ヲ抱懷シ居タル際ナリシヲ以テ
 敢然黨團塾生等ヲ率ヒテ之ニ參加スルコトヲ承諾シタリ
 斯クテ被告人橋本三郎ハ其ノ頃ヨリ同年五月上旬頃迄ノ間ニ互リ
 順次被告人後藤國彦同矢吹正吾同橋五百枝同大貫助幹同小室力也
 及亡温水秀則被告人林正三同横須賀喜久建同春田信義等ニ前示企
 圖ヲ告ケ同被告人等ヲシテ之ニ參加セシメ同年五月上旬頃被告人
 杉浦孝モ亦之カ行動ヲ共ニスルニ至リタルカ一方被告人橋本三郎

ハ同年三月下旬被告人後藤國彦ヲシテ被告人堀川秀雄ト交渉セシ
 メ同被告人ヲ介シ更ニ被告人照沼保同湯澤金吉同川崎長光ト會見
 シ被告人後藤國彦ハ同所ニ於テ被告人照沼保ト相會シ夫々前示計
 畫ニ參加スルヘキコトヲ求メ漸次被告人堀川秀雄同照沼保同湯澤金
 吉同川崎長光ヲシテ右計畫ニ加擔セシメタリ
 其前後ヲ通シ被告人橋本三郎同後藤國彦同林正三同池松武志同奥
 田秀夫ハ或ハ數人相共ニ或ハ各自單獨ニ屢々茨城縣新治郡土浦町大
 和三千三百三十三番地村山山水園其他東京市内外等ニ於テ前示古
 賀清志中村義雄若勇等ト會合協議ヲ遂ケ其他ノ前示被告人等
 モ夫々五ニ相結托シ結局右古賀清志等海軍將校後藤國彦等陸軍士
 官候補生被告人池松武志及同奥田秀夫等ニ於テハ首相官邸内大臣
 官邸政黨本部警廳及大銀行等ヲ手榴彈並拳銃等ヲ以テ襲撃シ以
 テ治安ヲ妨ケ内閣總理大臣大藏大臣ヲ殺シ右襲撃ヲ阻止スル者ハ
 之ヲ射殺シ被告人橋本三郎一派ノ民間同志等ニ於テハ當時東京
 市内外ニ電力ヲ供給シ居タル重要ナル變電所數箇所ヲ夫々手榴彈
 ヲ以テ襲撃シ帝都ノ暗黒化ヲ圖リ一般人心ヲ混亂状態ニ陥レ以テ
 治安ヲ妨ケ次ニ被告人川崎長光ニ於テハ右機會ニ乘シ從軍國家革
 正計畫遂行ノ妨害ヲ爲スカ如キ疑アリタル西田健ヲ暗殺シ因テ以
 テ國家革新ノ槍石ヲラムコトヲ決定シ次テ被告人大貫助幹ハ同年
 五月十五日其知人タル被告人高根澤與一ニ對シ右計畫ニ加擔スヘ
 キコトヲ懇懇シ同被告人ヲシテ之カ決行ヲ共ニスルコトヲ承諾セ
 シメタリ
 茲ニ於テ以上全部共謀ノ上

國家主義系不逞事件論告並判決錄

(ロ) 同年三月下旬頃ヨリ同年五月中旬頃迄ノ間或ハ單獨ニテ或ハ被告人後藤園彦林正三又ハ同春田信義等ト共ニ慶前示山水閣其他東京市内外等ニ於テ古賀清志中村義雄等ト合協謀ヲ遂ケ且其間前後四回ニ互リ右山水閣等ニ於テ古賀清志ヨリ直接又ハ被告人後藤園彦林正三等ノ手ヲ介シ右計畫ノ費用トシテ合計金千四百圓ヲ受取リ其領其一部ヲ被告人矢吹正吾同横須賀喜久雄同堀五百枝同大貫明幹同小室力也同春田信義及亡温水秀則等ニ變電所變電ノ費用トシテ分與シ

(ハ) 同年四月、五月ノ交變電所關係被告人等ヲシテ順次上京セシメ同年五月一日以降數次東京市牛込區東五軒町三十五番地林正一方等ニ於テ變電場所及手榴彈ノ效力等其前示計畫進行ニ付合協謀シ其頃右被告人等數名ヲシテ變電所ノ所在等ノ調査ヲ爲サシメ特ニ同月八日以前記林正一方ニ於テ被告人林正三同矢吹正吾同横須賀喜久雄同堀五百枝同大貫明幹同小室力也同春田信義及亡温水秀則ト相會シ被告人矢吹正吾力東京電燈株式會社總務課長同横須賀喜久雄力同會社總務課長同會社職員同堀五百枝力同會社職員同小室力也カ同會社職員同變電所ノ亡温水秀則力同會社職員同變電所ノ各變電所カ鬼怒川電力電氣株式會社總務課長同變電所ノ各變電所カニ付協謀シ且手榴彈ノ使用方法其效力等ニ付意見ヲ交シ同月十一日明治神宮外苑日本青年館ニ於テ右被告人等ト被告人後藤園彦ヲ加ヘテ協謀ヲ爲シ前示變電所ノ分擔ヲ確定シ

(二) 同年五月六日頃被告人林正三ヲシテ當時東京府北豐郡高野

ルニ至リ

タルモノナリ

(二) 被告人後藤園彦ハ昭和七年三月下旬被告人橋孝三ヨリ前示計畫ニ參加スヘキコトヲ求メラレテ直チ之ニ應ジ爾來同被告人ヲ扶ケテ計畫ノ進捗ヲ圖リ

(イ) 其頃同被告人ノ意ヲ承ケテ前記濠洲高等小學校等ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保同黒澤金吉同川崎長光ト連絡セシメ同年四月中旬頃前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ其領之ヲ前示變電所ニ於テ被告人橋孝三ヨリ交付シ更ニ同年五月一日頃變電所關係被告人等ノ上京ヲ機運セムカ爲東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

國家主義系不逞事件論告並判決錄

(ロ) 同年五月十日以前示日本青年館ニ於ケル會合ニ出席ノ上協謀ヲ遂ケ同月十二日以降ニ於テ被告人橋孝三ヨリ代リテ分配ヲ執リ同日東京市下谷區上野區町橋邊屋本末次郎方ニ於テ被告人林正三及同矢吹正吾等前示變電所關係分擔ノ各被告人等ト會合ノ上手續分配方法等ニ付協謀決定シタル後同月十日當時止宿シ居タル前示八千代館ニ於テ被告人林正三ヨリ前記手榴彈六個ヲ受取リ夫々投擲セシムル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ亡温水秀則及被告人堀五百枝ニ對シ手榴彈各一個ヲ被告人橋須賀喜久雄及同小室力也ニ對シ手榴彈各一個ヲ手交シ亡温水秀則ヲシテ其内一個ヲ被告人矢吹正吾ニ被告人堀五百枝ヲシテ其内一個ヲ被告人大貫明幹ニ各交付セシム

(ハ) 同月十三日茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地來栖酒之助方ナル古賀清志ノ下宿先ニ於テ同入ヨリ西田祝晴殺ニ使用セシムル目的ヲ以テ拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)及實彈八發ヲ受取リ之ヲ其頃被告人林正三ニ手交シ同被告人ヲシテ同月十四日前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ同日當時東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(二) 被告人後藤園彦ハ昭和七年三月下旬被告人橋孝三ヨリ前示計畫ニ參加スヘキコトヲ求メラレテ直チ之ニ應ジ爾來同被告人ヲ扶ケテ計畫ノ進捗ヲ圖リ

(イ) 其頃同被告人ノ意ヲ承ケテ前記濠洲高等小學校等ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保同黒澤金吉同川崎長光ト連絡セシメ同年四月中旬頃前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ其領之ヲ前示變電所ニ於テ被告人橋孝三ヨリ交付シ更ニ同年五月一日頃變電所關係被告人等ノ上京ヲ機運セムカ爲東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(ロ) 同年五月十日以前示日本青年館ニ於ケル會合ニ出席ノ上協謀ヲ遂ケ同月十二日以降ニ於テ被告人橋孝三ヨリ代リテ分配ヲ執リ同日東京市下谷區上野區町橋邊屋本末次郎方ニ於テ被告人林正三及同矢吹正吾等前示變電所關係分擔ノ各被告人等ト會合ノ上手續分配方法等ニ付協謀決定シタル後同月十日當時止宿シ居タル前示八千代館ニ於テ被告人林正三ヨリ前記手榴彈六個ヲ受取リ夫々投擲セシムル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ亡温水秀則及被告人堀五百枝ニ對シ手榴彈各一個ヲ被告人橋須賀喜久雄及同小室力也ニ對シ手榴彈各一個ヲ手交シ亡温水秀則ヲシテ其内一個ヲ被告人矢吹正吾ニ被告人堀五百枝ヲシテ其内一個ヲ被告人大貫明幹ニ各交付セシム

(ハ) 同月十三日茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地來栖酒之助方ナル古賀清志ノ下宿先ニ於テ同入ヨリ西田祝晴殺ニ使用セシムル目的ヲ以テ拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)及實彈八發ヲ受取リ之ヲ其頃被告人林正三ニ手交シ同被告人ヲシテ同月十四日前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ同日當時東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(二) 被告人後藤園彦ハ昭和七年三月下旬被告人橋孝三ヨリ前示計畫ニ參加スヘキコトヲ求メラレテ直チ之ニ應ジ爾來同被告人ヲ扶ケテ計畫ノ進捗ヲ圖リ

(イ) 其頃同被告人ノ意ヲ承ケテ前記濠洲高等小學校等ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保同黒澤金吉同川崎長光ト連絡セシメ同年四月中旬頃前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ其領之ヲ前示變電所ニ於テ被告人橋孝三ヨリ交付シ更ニ同年五月一日頃變電所關係被告人等ノ上京ヲ機運セムカ爲東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(ロ) 同年五月十日以前示日本青年館ニ於ケル會合ニ出席ノ上協謀ヲ遂ケ同月十二日以降ニ於テ被告人橋孝三ヨリ代リテ分配ヲ執リ同日東京市下谷區上野區町橋邊屋本末次郎方ニ於テ被告人林正三及同矢吹正吾等前示變電所關係分擔ノ各被告人等ト會合ノ上手續分配方法等ニ付協謀決定シタル後同月十日當時止宿シ居タル前示八千代館ニ於テ被告人林正三ヨリ前記手榴彈六個ヲ受取リ夫々投擲セシムル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ亡温水秀則及被告人堀五百枝ニ對シ手榴彈各一個ヲ被告人橋須賀喜久雄及同小室力也ニ對シ手榴彈各一個ヲ手交シ亡温水秀則ヲシテ其内一個ヲ被告人矢吹正吾ニ被告人堀五百枝ヲシテ其内一個ヲ被告人大貫明幹ニ各交付セシム

(ハ) 同月十三日茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地來栖酒之助方ナル古賀清志ノ下宿先ニ於テ同入ヨリ西田祝晴殺ニ使用セシムル目的ヲ以テ拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)及實彈八發ヲ受取リ之ヲ其頃被告人林正三ニ手交シ同被告人ヲシテ同月十四日前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ同日當時東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(二) 被告人後藤園彦ハ昭和七年三月下旬被告人橋孝三ヨリ前示計畫ニ參加スヘキコトヲ求メラレテ直チ之ニ應ジ爾來同被告人ヲ扶ケテ計畫ノ進捗ヲ圖リ

(イ) 其頃同被告人ノ意ヲ承ケテ前記濠洲高等小學校等ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保同黒澤金吉同川崎長光ト連絡セシメ同年四月中旬頃前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ其領之ヲ前示變電所ニ於テ被告人橋孝三ヨリ交付シ更ニ同年五月一日頃變電所關係被告人等ノ上京ヲ機運セムカ爲東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(ロ) 同年五月十日以前示日本青年館ニ於ケル會合ニ出席ノ上協謀ヲ遂ケ同月十二日以降ニ於テ被告人橋孝三ヨリ代リテ分配ヲ執リ同日東京市下谷區上野區町橋邊屋本末次郎方ニ於テ被告人林正三及同矢吹正吾等前示變電所關係分擔ノ各被告人等ト會合ノ上手續分配方法等ニ付協謀決定シタル後同月十日當時止宿シ居タル前示八千代館ニ於テ被告人林正三ヨリ前記手榴彈六個ヲ受取リ夫々投擲セシムル目的ヲ以テ同日同所ニ於テ亡温水秀則及被告人堀五百枝ニ對シ手榴彈各一個ヲ被告人橋須賀喜久雄及同小室力也ニ對シ手榴彈各一個ヲ手交シ亡温水秀則ヲシテ其内一個ヲ被告人矢吹正吾ニ被告人堀五百枝ヲシテ其内一個ヲ被告人大貫明幹ニ各交付セシム

(ハ) 同月十三日茨城縣新治郡土浦町大和三千五百五十二番地來栖酒之助方ナル古賀清志ノ下宿先ニ於テ同入ヨリ西田祝晴殺ニ使用セシムル目的ヲ以テ拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)及實彈八發ヲ受取リ之ヲ其頃被告人林正三ニ手交シ同被告人ヲシテ同月十四日前記濠洲高等小學校ニ於テ被告人堀川秀雄ト會見シ前示計畫ヲ告ケテ協謀シ同被告人ヲシテ被告人照沼保ト會談シ前示計畫參加ヲ提議シ一方其前後ニ互リ同月上旬以降同月下旬頃迄ノ間慶前示山水閣等ニ於テ或ハ被告人橋孝三ト共ニ或ハ單獨ニテ古賀清志等ト該計畫ニ付協謀シ其間同月十二日頃及同月二十日頃ノ二回ニ前示山水閣外一個所ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ合計金五百圓ヲ受取リ同日當時東京府北豐郡高野同月四日滿洲奉天ニ於テ被告人堀五百枝同矢吹正吾ヨリ託セラレタル郷里ノ父母宛債借書ヲ投函シテ同月九日歸京シ

(三) 被告人林正三、昭和七年四月中旬前記計畫ニ加擔シ被告人橋孝三郎ヲ輔佐シテ該計畫遂行ニ努力シ

(イ) 同月下旬頃當時東京府北豊島郡高田町雜司ヶ谷六百九十四番地(現在東京市豊島區高田町雜司ヶ谷六百九十四番地)所在ノ被告人橋孝三郎ノ借家ニ於テ同被告人及古賀清志岩野勇ト會合シ前記計畫ニ變電所製機用手續ヲ交付ヲ受ケルニ付協議シ更ニ其頃ヨリ同年五月下旬ニ互リ前記田代平方等ニ於テ岩野勇ト數回談合シ同年六月六日右田代平方ニ於テ岩野勇ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手續額合計六個ノ交付ヲ受ケテ之ヲ保管シ同年五月一日以降同月中旬ニ至ル迄ノ間前記林正一方等ニ於ケル前記會合ニ出席シ被告人橋孝三郎及同矢吹正吾等愛郷關係被告人數名ト製機場所及手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ爲シ殊ニ同年十二月前掲岸米次郎方ニ於ケル談合ニ依リ手續額分配ノ方法等ヲ確定シ尙同年四月三十日同林正一方ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ金五百圓ヲ受取リ同日同所ニ於テ之ヲ被告人橋孝三郎ニ交付シ

(ロ) 同月十四日前記入千代館ニ於テ被告人後藤園彦ヨリ四田院ノ贈與ノ券一紙及實額八發ヲ受取リ同日前記岩野勇ニ於テ被告人須川秀雄同園彦同黒澤金吉同川崎長光ト前記計畫ニ付協議シ右四田院贈與ノ券命ヲ帶ヒテ上京スル被告人川崎長光ニ對シ右券一紙及實額八發ヲ手交シ其使用ノ方法ヲ傳ヘ被告人須川秀雄ト共ニ其上京費用ヲ交付シ更ニ

同日被告人杉浦孝ヲシテ被告人川崎長光ノ上京ノ時間等ヲ前掲入千代館止留ノ被告人後藤園彦ニ通報セシメタル上翌十五日早朝被告人川崎長光カ上京ノ途ニ就カムトスルヤ被告人須川秀雄ト共ニ其服装等ニ付種々斃命シタルモノナリ

(四) 被告人矢吹正吾ハ昭和七年四月上旬前記計畫ニ參加シ同年五月一日上京ノ上爾來主トシテ當時ノ東京市外鷗戸町方面所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付觀察ヲ觀ケ且其頃前記林正一方等ニ於ケル被告人橋孝三郎等トノ會合ニ出席シ製機場所及手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ行ヒ其結果前記東京電機株式會社鷗戸變電所ヲ手續額ヲ以テ製機スルコトヲ引受ケ同年十二月前掲岸米次郎方ニ於ケル被告人後藤園彦等トノ協議ニ基キ同年十五日前記入千代館ニ於テ右計畫則ヨリ同人カ同日同所ニ於テ被告人後藤園彦ヨリ託セラレタル手續額一個(昭和七年押第六六〇號ノ九)ヲ受取リ同日午後七時十五分頃前記鷗戸變電所ニ到リ鷗戸ポンプ小屋目鬼ヶテ右手續額ヲ授け使用シタルモノナリ

(五) 被告人須川秀雄ハ昭和七年五月初頃前記計畫ニ參加シ同年三月三日上京ノ上爾來同月六日頃ヨリ當時ノ東京市外日暮附近所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付觀察ヲ爲シ同年七月以降前記林正一方等ニ於テ前記岩野勇ト付協議ヲ爲シ同月七日會合ニ出席シ製機場所及手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ遂ケ其結果前記東京電機株式會社鷗戸變電所ヲ手續額ヲ以テ製機スルコトヲ引受ケ同年十二月前記岸米次郎方ニ

於ケル被告人後藤園彦等トノ協議ニ基キ同月十四日前掲入千代館ニ於テ同被告人ヨリ手續額一個ヲ受取リ同日午後七時過頃前記鷗ヶ谷變電所ニ到リ同所内日鬼ヶテ右手續額ヲ授け使用シテ之ヲ炸裂セシメタルモノナリ

(六) 被告人橋五百枝ハ昭和七年四月上旬前記計畫ニ參加シ同年五月一日上京ノ上爾來主トシテ當時ノ東京市外日暮方面所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ヲ單獨又ハ被告人春田信義ト共ニ觀察シ且前記林正一方等ニ於ケル被告人橋孝三郎等トノ會合ニ出席シ製機場所及手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ爲シ其結果當時東京府北豊島郡鷗戸町上久二番地(現在東京市荒川區尾久町四丁目二番地)所在ノ東京電機株式會社日暮變電所ヲ手續額ヲ以テ製機スルコトヲ引受ケ同年十二月前記岸米次郎方ニ於ケル被告人後藤園彦等トノ協議ニ基キ同月十四日前記入千代館ニ於テ同被告人ヨリ手續額一個ヲ受取リ同年五月一日其内一個ヲ當時ノ自己ノ止留先ナル東京市小石川區久野町九十番地川上ぶく方ニ於テ被告人大貫明幹ニ交付シ一(昭和七年押第六六三號ノ二七)ヲ前記日暮變電所ニ授け使用スルノ目的ヲ以テ同日午後七時十五分頃右手續額ヲ携ヘ同變電所ニ到リタルモノモ遂ニ授け得ザリシモノナリ

(七) 被告人大貫明幹ハ昭和七年四月上旬前記計畫ニ參加シ同年五月一日上京ノ上爾來主トシテ當時ノ東京市外鷗戸及千住方面所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付觀察ヲ爲シ且其頃前記林正一方等ニ於ケル被告人橋孝三郎等トノ會合ニ出席シ製機場所及

手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ遂ケ其結果前記鷗ヶ谷變電所ヲ手續額ヲ以テ製機スルコトヲ引受ケ同年九月被告人高根澤與一ヲ勸誘シ水戸市ヨリ上京セシメ同年十二月前掲岸米次郎方ニ於ケル被告人後藤園彦等トノ協議ニ基キ同月十五日前記入千代館ニ於テ其前記被告人橋五百枝カ前記入千代館ニ於テ被告人後藤園彦ヨリ託セラレタル手續額一個(昭和七年押第六六〇號ノ二)ヲ受取リ右十五日前記變電所ニ向フ途中ニ於テ被告人高根澤與一ニ對シ前記計畫ヲ告ケテ之ニ參加セシメ同被告人ニ對シ右手續額ヲ手交シ同日午後七時三十分頃前記變電所ニ到リ同被告人ヲシテ同所内ニ授けセシメタルモノナリ

(八) 被告人小室力也ハ昭和七年四月上旬前記計畫ニ參加シ同年五月一日上京ノ上爾來主トシテ當時ノ東京市外日暮方面所在ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付觀察ヲ爲シ且其頃前記林正一方等ニ於ケル被告人橋孝三郎等トノ會合ニ出席シ製機場所及手續額ノ效力等其前記計畫遂行ニ付協議ヲ遂ケ其結果當時東京府鷗多摩郡鷗野清水八百八十番地(現在東京市狹橋區鷗野三丁目八百八十番地)所在ノ東京電機株式會社日暮變電所ヲ手續額ヲ以テ製機スルコトヲ引受ケ同年十二月前記岸米次郎方ニ於ケル被告人後藤園彦等トノ協議ニ基キ同月十四日前記入千代館ニ於テ同被告人ヨリ手續額一個(昭和七年押第六六三號ノ一)ヲ受取リ之ヲ前記變電所ニ授け使用スルノ目的ヲ以テ同日十五日午後七時過頃右手續額ヲ携ヘ同變電所ニ到リタルモノモ遂ニ之カ授け

ノ機會ヲ得サリシモノナリ

(九) 被告人春田信義ハ昭和七年五月六日頃前示計書ニ參加シテ上京シ同月七日以降前示林正一方等ニ於ケル被告人橋孝三郎等トノ會合ニ出席シ襲撃場所及手榴彈ノ效力等其前示計書送付ニ付キ協議ヲ爲シ同月八日及九日ノ兩日ハ被告人場五百枝ト共ニ前示東京電燈株式會社田端電燈所及燈ヶ谷電燈所等ノ位置及附近ノ狀況等ニ付觀察ヲ行ヒ尙其頃被告人橋孝三郎カ前示山水園ニ到リ古賀清志等ト前示計書ニ付會談協議スルニ際シ同被告人ニ隨伴シテ之カ協議ニ與リタルモノナリ

(十) 被告人奥田秀夫ハ昭和七年三月下旬前示計書ニ參加シタル上(イ) 同年四月下旬以降古賀清志、中村義雄等ノ依頼ニ依リ東京市內ニ於テ首領官邸內大臣官邸華族會館工寮俱樂部議院等ヲ襲撃目標トシテ其所在警備狀態出入者關係等ニ付觀察ヲ爲シ其頃前示山水園等ニ於テ古賀清志、中村義雄等ニ右觀察ノ結果ヲ報告シ且前記計書送付ニ付協議ヲ行ヒ同月十九日頃以降(ロ) 同年五月十三日前記山水園ニ於テ右古賀清志等ト最終ノ協議ヲ遂ケ其結果前記株式會社三菱銀行ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スルコトヲ引受ケ同月十四日東京市赤坂區原町六丁目十三番地増田屋敷家商店古道文次方ニ於テ中村義雄ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手榴彈二個(昭和七年押第六六三號)一八八一(一)ヲ受取リ右中村義雄ト手榴彈ノ使用方法等ニ付協議シ同月十五日午後七時頃前記三菱銀行裏手道場ニ於テ同銀行内

ニ到リ古賀清志等ト前示計書ニ付會談協議スルニ際シ同被告人ニ隨伴シテ之カ協議ニ與リタルモノナリ

(十一) 被告人奥田秀夫ハ昭和七年三月下旬前示計書ニ參加シタル上(イ) 同年四月下旬以降古賀清志、中村義雄等ノ依頼ニ依リ東京市內ニ於テ首領官邸內大臣官邸華族會館工寮俱樂部議院等ヲ襲撃目標トシテ其所在警備狀態出入者關係等ニ付觀察ヲ爲シ其頃前示山水園等ニ於テ古賀清志、中村義雄等ニ右觀察ノ結果ヲ報告シ且前記計書送付ニ付協議ヲ行ヒ同月十九日頃以降(ロ) 同年五月十三日前記山水園ニ於テ右古賀清志等ト最終ノ協議ヲ遂ケ其結果前記株式會社三菱銀行ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スルコトヲ引受ケ同月十四日東京市赤坂區原町六丁目十三番地増田屋敷家商店古道文次方ニ於テ中村義雄ノ手ヲ經テ古賀清志ヨリ手榴彈二個(昭和七年押第六六三號)一八八一(一)ヲ受取リ右中村義雄ト手榴彈ノ使用方法等ニ付協議シ同月十五日午後七時頃前記三菱銀行裏手道場ニ於テ同銀行内

タテテ右手榴彈ノ内一個ヲ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメタルモノナリ

(十二) 被告人池松武志ハ昭和七年三月二十一日頃前示計書ニ參加シタル上(イ) 同年四月三日明治神宮外苑禮堂前等ニ於テ古賀清志等ト會見協議シ襲撃目標タル首相官邸內大臣官邸其他數箇所ノ偵察ヲ引受ケ爾來其所在警備狀態等ニ付調査ヲ爲シ其頃前示山水園ニ於テ古賀清志等ト會合シ前記計書送付ニ關スル協議ヲ行ヒ且同被告人等ニ對シ前記調査ノ結果ヲ報告ヲ爲シ同月十九日頃以降ニ於テハ被告人奥田秀夫ト五ニ連絡ヲ上右偵察ヲ繼續シ

(十三) 同年四月二十四日頃東京市赤坂區市ヶ谷八幡町關東軍裝店方ニ於テ古賀清志、中村義雄ト共ニ陸軍士官候補生坂元兼一ト會見シ同年五月八日頃明治神宮表參道附近ノ某蕎麥屋ニ於テ陸軍士官候補生後藤映鏡、金清櫻ト共ニ古賀清志、山本安、村山格之及眞岩勇ト會合シ夫々前示計書送付ニ付協議シ次テ同月十三日頃山水園ニ於テ古賀清志ト最終ノ協議ヲ行ヒ同月二十日頃襲撃ノ日現場所及人員ノ配置等ヲ記載シタル書面二通ヲ託セラレ同日眞岩勇ニ翌十五日坂元兼一ニ各一通ヲ手交シ以テ古賀清志ト眞岩勇及坂元兼一ニ陸軍士官候補生トノ間ノ連絡ヲ執リ

(十四) 同年五月十五日午後五時頃東京市芝區車町六十三番地泉音寺門前料理店力亭亭山口湖太郎方ニ於テ古賀清志等ト會合シ

(一) 租ノ一員トシテ同人ヨリ手榴彈一個(昭和七年押第六六六號)ノ二三) 及實彈ヲ裝填セル拳銃一挺ヲ受取リ同日午後五時二十分頃前記內大臣官邸ニ到リ同邸内日菓ケテ右手榴彈ヲ投擲使用シ次テ同日午後六時頃前記三菱銀行ニ赴キ古賀清志、奥田武志ト共ニ同所ニ會合セタル前記長坂弘一及高橋健ヲ交シ拳銃ニテ射撃シ夫々同人等ニ對シ前記如キ銃創ヲ蒙ラシタルモノナリ

(十五) 被告人高根澤與一ハ昭和七年五月九日被告人大貫明幹ノ勸誘ヲ受ケテ水戸市ヨリ上京シ同月十五日午後六時頃前示東京電燈株式會社東京電燈所ニ向テ途中ニ於テ同被告人ヨリ前示計書ヲ告ケテ同被告人ト共ニ右電燈所ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スヘキコトヲ意思セラルルヤ直チニ之ニ應ジ以テ右計書ニ參加シ同被告人ヨリ前記手榴彈一個ヲ交付ヲ受ケ同日午後七時三十分頃同電燈所ニ到リ佛內屋外壁懸掛日菓ケテ之ヲ投擲使用シタルモノナリ

(十六) 被告人杉浦孝ハ昭和七年五月六日被告人橋孝三郎ト共ニ上京シ同被告人カ古賀清志等ト前示計書ヲ進メ居ルコトヲ知り其頃之ニ參加シ同月七日同被告人等ノ命ニ依リ當時亡温本秀則ノ止宿シ居タル當時東京府在府郡在府町小山三百二十四番地(現在東京市在原區小山町三百二十四番地)河村彌助方ニ到リ右温本秀則被告人欠穴正吾、同大貫明幹ニ對シ前示計書ニ關スル協議ヲ爲ス爲同月十六日日本青年館ニ參集スヘキ旨ノ通知ヲ爲シ同月十一日被告人橋孝三郎ヨリ豫テ前示計書ノ參加ノ意思アリ

タル茨城銀行方津浦津山田九百七十一番地宮本兼雄ニ對シ右計書ニ關スル通知ヲ爲スヘキ旨ヲ命セラレ同月十四日之ヲ果シ次テ同月十四日被告人林正三ノ命ヲ受ケテ前記襲撃熱ヨリ上京シ同月十五日頃前記入千代館ニ到リ被告人後藤園彦ニ對シ同日四田院暗殺ノ使命ヲ帯ヒテ上京スル被告人川崎長光ヲ省線餐館ニ出迎ヘ同被告人ニ右決行ニ必要ナル行動資金ヲ交付セラレ度キ旨ヲ通知ヲ爲ス等同志間ノ連絡ノ任ニ當リタル外同月十二日前記岸本末次郎方ニ於テ開カレタル被告人後藤園彦等トノ會合ニ出席シ前示計書ニ關スル協議ニ與リタルモノナリ

(十七) 被告人川崎長光ハ昭和七年三月下旬前記茨城高等小學校ニ於テ被告人後藤園彦ヨリ次テ同月二十九日頃及同年四月五日頃夫々前示襲撃ニ於テ被告人橋孝三郎ヨリ漸次前記計書ヲ告ケテ被告人照沼操、同恩澤金吉、同川崎長光ニ之カ通過方ヲ依頼サルルヤ右計書ニ加擔シ其頃之ヲ被告人照沼操ニ告ケ同被告人ヲシテ被告人照沼操、同川崎長光ニ該計書ヲ進セシムヘキコトニ被告人後藤園彦、同照沼操ト連絡ヲ執リ次テ同年四月下旬前記襲撃ニ於テ前示計書送付ニ付被告人橋孝三郎ト會談シ同被告人ト被告人川崎長光ヲシテ西田院暗殺ヲ擔當セシムヘキコトニ協議ヲ圖ヘ同年五月一日被告人照沼操、同恩澤金吉ノ斃傷ニ依リ茨城縣那珂郡渡村前地内ニ於テ被告人照沼操ト共ニ被告人川崎長光ト會合シ夫々同被告人ニ對シ西田院暗殺ヲ引受ケ總シテ其決意ヲ促シ更ニ同月上旬前示襲撃ニ於テ被告人橋孝三郎ト面談ノ上該計書ヲ爲シ尙同月十四日同所ニ於テ被告人

林正三、同郷沼澤、同郷澤金吉、同郷崎長光ト前示計書進行ニ付協議ヲ重テ被告入川崎長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシメ同被告入ニ對シ被告入林正三ト共ニ上京ノ費用ヲ交付シ翌十五日被告入川崎長光カ西田稅暗殺ノ爲上京ノ途ニ就カムトスルヲ其服股等ニ關シ種々豫備シタルモノナリ

(六) 被告入堀沼澤ハ昭和七年三月下旬以降同年四月月上旬ニ互リ茨城縣那珂郡前渡村大字長砂四百八十六番地ノ自宅外一側所ニ於テ被告入堀川秀雄ヨリ同年四月中旬前記愛郷塾ニ於テ被告入後藤園憲ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ其頃被告入黒澤金吉、同郷崎長光、同郷澤金吉、次テ同年五月一日前示計書ニ被告入堀川秀雄ノ來訪ヲ受ケ同被告入ト該計書進行ニ付該合シ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ之カ勸說ヲ爲スカ爲同被告入堀川秀雄カ被告入黒澤金吉、同郷崎長光ト會合スルニ際シ其協議ヲ爲シ同年四月十四日前記愛郷塾ニ於テ被告入林正三、同郷川秀雄ト共ニ前記計書進行ニ付種々協議ヲ遂ケタルモノナリ

(五) 被告入黒澤金吉ハ昭和七年四月十日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間茨城縣那珂郡前渡村大字前渡八百三十五番地ノ自宅ニ於テ被告入堀沼澤、同郷崎長光ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ同年五月一日前示計書ニ於テ被告入堀川秀雄ト該計書進行ニ付會談シ更ニ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ同日前記前渡村前渡地内ニ於テ被告入堀川秀雄ト共ニ被告入堀川長光ト會合シ右計書進行ニ付協議ヲ爲シ被告

(四) 被告入堀川長光ハ昭和七年四月十日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間茨城縣那珂郡前渡村大字前渡八百三十五番地ノ自宅ニ於テ被告入堀沼澤、同郷崎長光ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ同年五月一日前示計書ニ於テ被告入堀川秀雄ト該計書進行ニ付會談シ更ニ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ同日前記前渡村前渡地内ニ於テ被告入堀川秀雄ト共ニ被告入堀川長光ト會合シ右計書進行ニ付協議ヲ爲シ被告

(三) 被告入堀川長光ハ昭和七年四月十日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間茨城縣那珂郡前渡村大字前渡八百三十五番地ノ自宅ニ於テ被告入堀沼澤、同郷崎長光ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ同年五月一日前示計書ニ於テ被告入堀川秀雄ト該計書進行ニ付會談シ更ニ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ同日前記前渡村前渡地内ニ於テ被告入堀川秀雄ト共ニ被告入堀川長光ト會合シ右計書進行ニ付協議ヲ爲シ被告

(二) 被告入堀川長光ハ昭和七年四月十日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間茨城縣那珂郡前渡村大字前渡八百三十五番地ノ自宅ニ於テ被告入堀沼澤、同郷崎長光ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ同年五月一日前示計書ニ於テ被告入堀川秀雄ト該計書進行ニ付會談シ更ニ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ同日前記前渡村前渡地内ニ於テ被告入堀川秀雄ト共ニ被告入堀川長光ト會合シ右計書進行ニ付協議ヲ爲シ被告

(一) 被告入堀川長光ハ昭和七年四月十日頃ヨリ同月二十日頃迄ノ間茨城縣那珂郡前渡村大字前渡八百三十五番地ノ自宅ニ於テ被告入堀沼澤、同郷崎長光ヨリ夫々前示計書ヲ告ケラレテ之ニ參加シ同年五月一日前示計書ニ於テ被告入堀川秀雄ト該計書進行ニ付會談シ更ニ被告入堀川長光ヲシテ西田稅暗殺ヲ引受ケシムルコトニ協議ヲ圖ヘ同日前記前渡村前渡地内ニ於テ被告入堀川秀雄ト共ニ被告入堀川長光ト會合シ右計書進行ニ付協議ヲ爲シ被告

第一 被告入大川周明ハ山形縣立庄内中學校第五高等科ヲ修了後明治四十四年七月東京帝國大學文部科學科卒業シタル後印度哲學ノ研究ニ現代印度ノ情勢ヲ知其政治事情等ノ研究ヨリ近世植民史及植民政務ノ研究ニ歩ヲ進ムルニ至リタルカ該研究ハ遂ニ南滿鐵道株式會社ノ認ムルトコロトナリ大正八年聘セラレテ同會社東亞經濟調查局調査課長ニ就任シ大正十四年特許植民會社ニ關スル研究ニ依リ法學博士ノ學位ヲ受ケ昭和四年六月頃右調査局カ獨立シテ財團法人東亞經濟調查局トナルヲ其理事長ニ推サレ爾來其職ニ在リタルモノナルトコロ一方以テ日本歴史ノ研究ヲ爲シ日本國體日本精神ノ莊嚴ナル所以ヲ自覺シ徹底セル日本主義ヲ奉シ日本國家ノ發展ヲ企圖シ來リタルカ我が國最近ノ國情ヲ目シテ支配階級相持トシテ國政ヲ紊リ國民ヲ阻害シ民衆ヲ壓迫シ國家存立ノ大義ヲ誤リ居ルモノト爲シ先ツ之カ革正ヲ圖ラサルヘカラストノ信念ヲ抱キ大正十四年頃同志組織リテ行地社ヲ創立シ上層關係ヲ月何日本ヲ發行シ右革正運動ノ同志ヲ求メ更ニ昭和七年二月神武會ヲ設立シ維新日本ノ建設ヲ企圖シ居リタル折柄同年三月下旬以降數次當時東京府荏原郡大崎町上土崎二百三十一番地(現在東京市品川區上大崎四丁目二百三十一番地)ニ於テ自宅ニ海軍中尉古賀清志、同中村義雄等ノ訪問ヲ受ケ同人等ヨリ同人等少壯海軍將校カ陸軍士官候補生及民間同志ト提携シテ手榴彈及拳銃等ヲ使用シ政黨財閥等ニ一撃ヲ加ヘ國家革命ノ烽火ヲ揚ケムトスルモノナル旨ヲ告ケラレ之カ援助ヲ懇請サルルヤ右古賀清志等カ手榴彈及拳銃ヲ使用シ暴力ニ依ル破壊行動ヲ爲シ因テ人命ニ損傷ヲ來

スノ處アルコトヲ豫見シテ直チニ其諸ヲ容レ
(一) 同年四月三日前示計書ニ於テ古賀清志ニ對シ其武器トシテ同被告入所有ノ拳銃五挺實彈約二百二十五發及其費用トシテ現金千五百圓ヲ供與シ
(二) 同年四月二十九日同所ニ於テ同人ニ對シ其費用トシテ現金二千圓ヲ供與シ
(三) 同年五月十三日同所ニ於テ同人ノ意ヲ承ケタル豫備海軍少尉黒岩勇ニ對シ其費用トシテ現金三千五百圓ヲ手交シ因テ右古賀清志ニ之ヲ供與シ
以テ前記第一記載ノ古賀清志及被告入情事三部等以下ノ殺人及殺人未遂發物取締刑罰違反ノ所爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シタルモノナリ
第三 被告入堀川秀雄ハ私立成城中學校第四學年ヲ終了シ昭和二年四月私立農業大學農藝化學科ニ入り昭和五年三月同大學ヲ卒業シ翌昭和六年二月東亞民族ノ提携ト武道精神ノ鼓吹トヲ目的トスル天行會ヲ創立シ當時東京府荏原郡荏原町當麻松十四番地(現在東京市澁谷區當麻松町十四番地)ニ武道道場ヲ設ケ右天行會長ノ地位ニ在ルモノ
被告入本間憲一郎ハ明治四十二年三月茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シ後東洋協會專門學校支那語科ニ入學大正三年同校第三學年ヲ中途退學シ翌大正四年陸軍通譯ニ採用セラレ其後山東省西伯利亞天津方面等ニ於テ陸軍通譯勤務等ニ從事シ昭和三年九月歸國ノ上同年十月頃茨城縣新治郡眞鍋町眞鍋壑二千三百三十二番地ニ農村子弟

指導教育ヲ目的トスル禁山塾ヲ創設シ昭和六年二月被告人頭山秀三カ前記天行會ヲ創立スルヤ其理事トナリタルモノナルトコ
 (一) 被告人頭山秀三ハ昭和七年三月中旬頃前記天行會ニ海軍中尉古賀清志、同中村義輝ノ訪問ヲ受ケ古賀清志ヨリ同人等少壯海軍將校カ陸軍士官候補生及民間同志ト提携シテ井上昭等ノ暗殺執行ノ後ヲ承ケ手榴彈及拳銃等ヲ使用シ政黨財閥特權階級等ヲ襲撃シ國家革新ノ烽火ヲ揚ケムトスルモノナル旨ヲ告ケラレ其用ニ供スル拳銃ノ調達方ヲ懇請セララルルヤ直チニ之ヲ承諾シ同月下旬頃前記天行會ニ於テ被告人本間憲一郎ニ對シ古賀清志等ノ右計畫並被告人頭山秀三カ右計畫進行ノ用ニ供スル拳銃ノ調達方ヲ懇請セララルル事等ヲ告ケ共ニ拳銃ノ調達ニ盡力セラレ度キ旨ヲ依頼シ茲ニ同被告人等ハ協議ノ上爾後被告人本間憲一郎ニ於テ古賀清志等トノ折衝ノ任ニ當リタルカ同被告人等ハ孰レモ右古賀清志等カ手榴彈及拳銃ヲ使用シ暴力ニ依ル破壊行動ヲ爲シ因テ人命ニ損傷ヲ來スノ虞アルコトヲ豫見シ乍ラ被告人本間憲一郎ノ手ヨリ

(六) 同月三十日頃茨城縣新治郡土浦町大和三千二十八番地旅館東郷館築谷忠助方ニ於テ同人ヲ介シ古賀清志ニ對シ其武器トシテ同被告人所有ノ拳銃一挺及實彈七十五發ヲ供與シ以テ前記第一記號ノ古賀清志及被告人等三郎等以下ノ殺人及殺人未遂爆發物取締則違反ノ原爲ヲ容易ナラシメテ之ヲ幫助シ
 (七) 被告人頭山秀三及同本間憲一郎ハ昭和七年二月二十日施行セララルタル衆議院議員總選舉ニ際リ前記天行會ノ創設歸南里三省カ其郷里佐賀縣第一區ヨリ立候補セムトスルヤ右天行會理事山本貞美中澤亨及右南里三省ノ友人吉岡信敬ト共ニ其後援方ヲ別受ケ右南里三省ノ爲メ以上六名ニ於テ選舉運動費金ノ調達ニ奔走中同月五日頃被告人本間憲一郎ハ南里三省ト共ニ赤沼吉五郎ニ對シ該費金ノ融通方ヲ依頼シタルニ同人ハ之カ金策ヲ爲スヘキ旨承諾シタルニ拘ラズ爾來在在日ヲ過シタルニ因リ南里三省ハ前記立候補ニ必要ナル供託金ヲ調達スルコト能ハスシテ立候補ヲ断念スルノ已ムヲ得サルニ立至リテ前記前六名ハ孰レモ右赤沼吉五郎ノ推置ヲ憤慨シ居タル折柄同月三月十九日頃同人カ山本貞美ニ面談シタル際十七日日前記天行會ニ來ルヘキ旨ヲ約セシメ同日同人カ右天行會ヲ助レルヤ前記前六名ハ同日午前十一時頃ヨリ約一時間ニ亙リ同會階上十疊ノ間ニ於テ右赤沼吉五郎ニ對シ交々其不信ヲ難詰シ同人ヲ恩倒シ同人カ右六名ノ權幕ニ擧げスルヤ茲ニ右六名ハ同人ノ右舉幕ニ乘シ金員ノ交付ヲ受ケムコトヲ共謀シ山本貞美ヲシテ右赤沼吉五郎ニ

對シ金員ノ提供方ヲ懇請セシメ同人ヲシテ金五千圓ヲ天行會ニ對シテ寄附金名義ヲ以テ出捐スヘキコトヲ承諾セシメタル上同年三月三十一日頃現金四百圓同年四月六日頃金額六百圓ノ小切手一通同年五月初頃現金四百圓ヲ孰レモ赤沼吉五郎ヲシテ東京市芝區車町六十五番地ノ當時ノ山本貞美方ニ於テ同人ニ對シ前示金五千圓ノ一部トシテ交付セシメ更ニ右赤沼吉五郎ヲシテ同人カ山本貞美ニ對シ別方ヲ依頼シタル金額三千圓ノ約束手形ヲ山本貞美ニ於テ同年六月三日頃同市京橋區銀座西二丁目一番地京橋會館ニ於テ本間憲治ヨリ刺引ヲ受ケタル際其内金千五百圓ヲ前同様金五千圓ノ一部トシテ右山本貞美ノ手ニ保留セシメ因テ被告人頭山秀三同本間憲一郎ハ山本貞美南里三省中澤亨吉岡信敬ト共謀シテ右赤沼吉五郎ヨリ現金合計千六百圓及金額六百圓ノ小切手一通ノ交付ヲ受ケ以テ恐喝ノ目的ヲ達ケタルモノナリ

被告人頭山秀三等ニ對シテハ爆發物取締則違反罪ニツキ所定刑中無期懲役刑ヲ選擇シ、同被告人ヲ同罪ニツキ無期懲役ニ處スヘキ從テ同被告人ニ對シテハ刑法第四十六條第一項ニ則リ殺人既遂罪ノ刑ヲ科ス、其ノ餘ノ右各被告人ニ對シテハ各罪ニツキ何レモ所定刑中右期懲役ヲ選擇シ、刑法第四十七條本文第十條ニヨリ重キ右爆發物取締則違反罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲナシ、被告人小室力也、春田信義、高根澤與一、杉浦英、照沼操、黒澤金吉ニ對シテハ犯罪ノ情狀體諒スヘキモノアルヲ以テ同法第六十六條第六十八條、第三號ニ則リ酌量減輕ヲ施シ各其ノ所定期間内ニ於テ被告人後藤國彦、池武志ヲ各懲役十五年ニ、被告人林正三、奥田秀夫、川崎長光ヲ各懲役十二年ニ、被告人堀川秀雄ヲ各懲役八年ニ、被告人矢吹省吾、横須賀喜久雄、堀五百枝、大貫明幹ヲ各懲役七年ニ、被告人小室力也、照沼操、黒澤金吉ヲ各懲役五年ニ、被告人春田信義、高根澤與一、杉浦英ヲ各懲役三年六月ニ、夫レノ處スヘキハ被告人大川周朗ノ判示所爲中各被告人既遂幫助ノ點ハ刑法第二百三條、第九十九條、第六十二條第一項ニ爆發物取締則違反幫助ノ點ハ爆發物取締則第一條、刑法第五十五條、第六十二條第一項ニ各該當スル所右殺人既遂及七殺人未遂ノ各幫助ハ連續犯ヲ幫助シタルモノナルヲ以テ刑法第五十五條ヲ適用シ殺人既遂幫助ノ罪トシ、右殺人既遂幫助罪ニツキ所定刑中無期懲役刑ヲ爆發物取締則違反幫助罪ニツキ所定刑中右期懲役刑ヲ各選擇シ從犯ナルヲ以テ前者ニツキ刑法第六十三條第六十八條第一號、後者ニツキ同法第六十三條第六十八條第三

號ヲ各適用シテ、右各刑ニツキ法律上ノ減輕ヲ施シ、右三罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニヨリ重キ殺人既遂幫助罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲ爲シ其ノ所定期間範圍内ニ於テ同被告人ヲ懲役十五年ニ處スヘク、被告人頭山秀三、本間憲一郎ノ各所爲中各殺人既遂幫助ノ點ハ刑法第九十九條、第六十二條第一項ニ各殺人未遂幫助ノ點ハ同法第二百三條、第九十九條第六十二條第一項ニ各爆發物取締罰則違反幫助ノ點ハ爆發物取締罰則第一條刑法第五十五條第六十二條第一項ニ各恐喝ノ點ハ刑法第二百四十九條第一項第六十條ニ各該當スル所、右殺人既遂及ヒ殺人未遂ノ各幫助ハ連續犯ヲ補助シタルモノナルヲ以テ、同法第五十五條ヲ適用シ殺人既遂幫助ノ一罪トシ、右殺人既遂幫助罪ニツキ所定期間無期懲役刑ヲ爆發物取締罰則違反幫助罪ニツキ所定期間中有期懲役刑ヲ各選擇シ從犯ナルヲ以テ前者ニツキ同法第六十三條、第六十八條第二號後者ニツキ同法第六十三條、第六十八條第一號ヲ各適用シテ右各刑ニツキ法律上ノ減輕ヲ施シ、右各幫助罪及ヒ恐喝罪ハ同法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法第四十七條本文第十條ニヨリ最モ重キ殺人既遂幫助罪ノ刑ニ同法第十四條ノ制限内ニ於テ法定ノ加重ヲナシ、其ノ所定期間範圍内ニ於テ被告人頭山秀三ヲ懲役八年ニ被告人本間憲一郎ヲ懲役十年ニ各處スヘク、刑法第二十一條ニヨリ被告人後藤國彦、林正三、矢吹省吾、須賀喜久、堤橋五百枝、大貫則幹、小室力也、春田信義、奥山秀夫、池松武志、高根澤與一、杉浦孝、川崎秀良、國澤操、黒澤金吉、川崎長光、大川周明ニ對シ各未決勾

留日數中夫レノ四百日ヲ被告人頭山秀三、本間憲一郎ニ對シ各未決勾留日數中夫レノ三百日ヲ右各本刑ニ算入スヘシ。

一五・五・二五事件(民間側)控訴 審判決書

本籍 東京市麹町區代官町一番地
住居 同市品川區上大崎四丁目二百三十一番地
無職
大川 周明
本籍 東京市澁谷區常盤松町十二番地
住居 同上
無職
頭山 秀三
本籍 東京市日本橋區墨田町三丁目十三番地
住居 茨城縣新治郡眞鍋町眞鍋三丁目三百二十二番地
無職
本間 憲一郎
當四十五年

地
住居 東京市澁谷區西大久保三丁目二百七十一番地
本籍 山梨縣 御代山 本 眞 義
住居 同市澁谷區西大久保三丁目二百七十一番地
本籍 東京市澁谷區橋本谷塚町千七百七十一番地
住居 同市澁谷區百人町二丁目五十六番地
本籍 東京市小石川區久野町七十四番地
住居 同市同區大塚仲町四十一番地
無職
右被告人大川周明ニ對シ爆發物取締罰則違反殺人及殺人未遂、被告人頭山秀三、同本間憲一郎ニ對シ各爆發物取締罰則違反殺人及殺人未遂、被告人後藤國彦、林正三、矢吹省吾、須賀喜久、堤橋五百枝、大貫則幹、小室力也、春田信義、奥山秀夫、池松武志、高根澤與一、杉浦孝、川崎秀良、國澤操、黒澤金吉、川崎長光、大川周明ニ對シ各未決勾

被告人大川周明ヲ禁錮七年
被告人頭山秀三ヲ禁錮四年
被告人本間憲一郎ヲ禁錮五年
被告人山本眞美、同中澤亨ヲ各懲役五年
被告人吉岡信敬ヲ懲役四月
被告人大川周明ニ對シ原審ノ未決勾留日數四百日、被告人頭山秀三、同本間憲一郎ニ對シ原審ノ未決勾留日數各三百日、被告人山本眞美、同中澤亨ニ對シ原審ノ未決勾留日數各百五十日ヲ夫々右本刑ニ算入ス
但被告人山本眞美、同中澤亨同吉岡信敬ニ對シテハ、孰レモ參年間右刑ノ執行ヲ猶豫ス
押收ニ係ル樂銃壹挺(昭和七年押第六六三號ノハ)及手榴彈六箇(同年押第六六〇號ノ一、及九、同年押第六六三號ノ一七、一八及二八、同年押第六九六號ノ二三)ハ何レモ之ヲ沒收ス
爆發物取締罰則違反、殺人及殺人未遂被告事件ニ付生シタル部分ハ被告人大川周明、同頭山秀三、同本間憲一郎及原審相被告人橋本三郎等ノ連帶負擔トシ、本件恐喝被告事件ニ付生シタル部分ハ被告人頭山秀三、同本間憲一郎、同山本眞美、同中澤亨、同吉岡信敬、原審相被告人南里三省ノ連帶負擔トス

第一ノ一

被告人大川周明、山形縣立庄内中學校、第五高等學校ヲ經テ明治四十四年七月東京帝國大學文科大學哲學科ヲ卒業シタル後印度哲學ノ研究中現代印度ノ情勢ヲ知り其政治事情等ノ研究ヨリ近世植民史及植民政務ノ研究ニ少ヲ進ムルニ至リタルカ該研究ハ遠ニ南洋洲鐵道株式會社ノ認ムルコロトナリ大正八年轉セテ同會社東亞經濟調査局調査課長ニ就任シ大正十四年特許植民會社ニ關スル研究ニ依リ法學博士ノ學位ヲ受ケ昭和四年六月頃右調査局カ獨立シテ財團法人東亞經濟調査局トナルヤ其理事長ニ推サレ爾來其職ニ在リタルモノナルトコロ一方以日本歷史ノ研究ヲ爲シ日本國體、日本精神ノ莊嚴ナル所以ヲ自覺シ徹底セル日本主義ヲ奉シ日本國家ノ發展ヲ企圖シ來リタルカ我國最近ノ國情ヲ日シテ支那階級相持トシテ國政ヲ紊リ對民ヲ阻斷シ民衆ヲ壓迫シ國家存立ノ大義ヲ誤リ居ルモノト爲シ先ツ之カ修正ヲ圖ラサル可カラストノ信念ヲ抱キ大正十四年頃同志ト相謀リテ行地社ヲ創立ノ上機關雜誌月刊日本ヲ發刊シ右修正運動ノ同志ヲ求メ更ニ昭和七年二月神武會ヲ設立シ維新日本ト號稱シ居タル折柄同年三月下旬以來數次當時東京府原町大崎町二番地ナリ自宅ニ海軍中尉古賀清志同中村義雄ノ助問ヲ受ケ同人等ヨリ海軍少壯士官候補生及民間同志ト提携シテ支那階級ニ一撃ヲ加ヘ國家革新ノ烽火ヲ揚ケントスルモノナル旨ヲ告ケラレシカ援助ヲ懇請サルヤ右古賀清志等カ手榴彈、銃銃等ヲ使用シ集團ノ暴力ニ依リ政府官廳ヲ爲シ因テ治安ヲ妨ケ人命ニ損傷ヲ來

ス處アルコトヲ豫知シ乍ラ直チニ其諸ヲ容レ其武器トシテ銃銃ヲ供與スヘキコトヲ誓フト共ニ軍費金必要ナレハ如何程ニテモ調達シ遺ハスヘキ旨ヲ約シタル上、
(イ)同年四月三日前示自宅ニ於テ古賀清志ニ對シ自己所有ノ銃銃ハ五挺實彈約百二十五發及現金千五百圓ヲ贈與スル事ヲ誓フ
(ロ)同年五月二十九日同所ニ於テ古賀清志ニ對シ現金貳千圓
(ハ)同年五月十三日同所ニ於テ古賀清志ノ意ヲ承ケタル黒野勇ニ對シ現金貳千五百圓ヲ贈與スル事ヲ誓フ
又夫々供與シ以テ右古賀清志及中村義雄ニ對シ後記各犯罪實行ノ決意ヲ鞏固ナラシメタルノミナラス右拳銃ノ内一挺ヲ後記古賀清志ノ殺人未遂ノ用ニ供セシメ以テ同人等及橋孝三郎等ノ後記各犯罪實行ノ殺人未遂及遺棄發物取歸罪問違反ノ犯行特ニ古賀清志ノ殺人未遂ノ各犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シタルモノナリ

第一ノ二

被告人頭山秀三ハ私立成城中學校第四學年ヲ終了シ昭和二年四月私立農業大學農藝化學科ニ入學シ昭和五年三月同大學ヲ卒業シ翌昭和六年二月東京民族ヲ提携シ武田精一ノ鼓吹ヲ目的トスル天行會ヲ創立シ當時東京府豊多摩郡澁谷町當縣松十四番地ニ武田道場ヲ設ケ前示天行會長ノ地位ニ在ルモノ、被告人本間憲一郎ハ明治四十二年三月茨城縣立水戸中學校ヲ卒業シタル後東洋協會專門學校支那語科ニ入學大正三年同校第三學年ヲ中途退學シ翌大正四年陸軍通譯ニ採用セラレ其後山東、西伯利亞天津方面等ニ於テ陸軍通譯勤務等ニ従事シ昭和三年九月歸國ノ上同年十月頃茨城縣

第一ノ三

新治郡眞鍋町眞鍋茶二千三百三十二番地ニ農科子弟ノ指導教育ヲ目的トスル紫山塾ヲ創設シ昭和六年二月前記天行會カ設立セラレ、ヤ其理事ニ就任シタルモノナルトコロ、
被告人頭山秀三ハ昭和七年三月中旬頃前示天行會ニ海軍中尉古賀清志、同中村義雄ノ助問ヲ受ケ古賀清志ヨリ同人等少壯海軍將校カ陸軍士官候補生等ト提携シ井上昭等ノ暗殺決行ノ後ヲ承ケ手榴彈及拳銃ヲ使用シ集團ノ暴力ニ依リ政黨財閥特權階級等ヲ襲撃シ國家革新ノ烽火ヲ揚ケントスルモノナル旨ヲ告ケラレ其用ニ供スル拳銃ノ調達方ヲ懇請セララルヤ直チニ之ヲ快諾シ之ニ呼應スヘキ旨ヲ諭リ同月下旬頃前示天行會ニ於テ被告人本間憲一郎ニ對シ古賀清志等ノ前示計畫被被告人秀三カ右計畫遂行ノ用ニ供スル爲メ拳銃ノ調達方ヲ懇請セラレタル事情等ヲ告ケ共ニ右拳銃ノ調達ニ盡力アリタル旨ヲ諭リ其承諾ヲ得尙爾後被告人憲一郎ニ於テ古賀清志等トノ折衝ニ當ルヘキ事ト爲シ茲ニ同被告人兩名ハ孰レモ古賀清志等カ手榴彈及拳銃ヲ使用シ集團ノ暴力ニ依リ政黨財閥特權階級等ヲ襲撃シ人命ニ損傷ヲ來スニ至ルヘキコトヲ豫見シ乍ラ其謀ノ上被告人憲一郎ノ手ヨリ其武器トシテ右古賀清志ニ對シ、
(イ)同年四月十七日當時東京府豊多摩郡澁谷町當縣松十四番地頭山道場ニ於テ被告人憲一郎所有ノ拳銃三挺及實彈五十發ヲ贈與ス
(ロ)同年五月二十日過頃前示紫山塾ニ於テ被告人憲一郎所有ノ拳銃二挺及實彈二十五發ヲ贈與ス
(ハ)同年五月三十日頃茨城縣新治郡土浦町大和三千二十八番地旅

館東條館事發谷息助方ニ於テ同人ヲ介シ被告人憲一郎所有ノ拳銃三挺及實彈七十五發ヲ贈與スル事ヲ誓フ
又夫々供與シ以テ右古賀清志及中村義雄ニ對シ後記犯罪實行ノ決意ヲ鞏固ナラシメタルノミナラス右拳銃ノ内各一挺ヲ後記三上卓ノ殺人及川崎長光ノ殺人未遂ノ用ニ各供セシメ以テ右古賀清志等及橋孝三郎以下ノ後記各殺人及殺人未遂遺棄發物取歸罪問違反ノ犯行特ニ後記三上卓ノ殺人、川崎長光ノ殺人未遂ノ各犯行ヲ容易ナラシメテ之ヲ補助シタルモノナリ
第一ノ三 國家主義派不逞事件報告裁判決録
海軍中尉古賀清志、同中村義雄ハ夙ニ國家革新ノ志ヲ抱懷シ居リタルカ井上昭等ト交友ヲ結ブニ及ンテ應其所信ヲ鞏固シ昭和七年一月頃ニ至リ同人等ハ我國現下ノ狀況ヲ日シ政黨財閥特權階級互ニ相結托シ國政ヲ紊リ國民ヲ極度ニ壓迫シ殊ニ最近ニ於ケル支那階級ノ墮落ハ到底挽回ヲ許ササルモノアリト爲シ非常手段ニ依リテ支那階級ニ一撃ヲ加ヘ其反省ヲ促スト共ニ國家革新ノ機運ヲ醸成センコトヲ期シ右井上昭等ト相呼應シ種々策謀スルトコロアリタル折柄同年二月頃右井上昭一派カ支那階級打倒ノ實行運動ニ着手シ所謂二人ノ殺主義ノ下ニ順次政黨財閥特權階級ノ巨頭暗殺ヲ決行セントシ先ツ同月九日小沼正カ井上昭之助ヲ同年三月五日菱沼五郎カ團琢磨ヲ各暗殺シタルモ間モナク其一味カ陰謀セラルルニ至リタルニヨリ右古賀清志及中村義雄ノ兩名ハ豫テ志ヲ同ウセル海軍中尉三上卓、同山根宏、海軍少尉村山格之、後海軍少尉黒野勇ト共ニ右井上昭一派ノ所謂血盟團事件ノ後ヲ承ケ同志

ヲ糾合シテ一齊集團的ニ爆弾等ヲ使用シテ直接行動ニ訴ヘ以テ前示來志ヲ貫徹セシメ...

スルコトナリタルカ更ニ其頃中村義雄ハ明治大學ニ生奥田秀夫ヲ同入ノ止留先ナル當時東京府警視廳野方町新井...

定シ因テ以テ國家ノ擔持ヲシテ大貫明幸ハ同年五月十五日其知人ナル高根澤與一...

右古賀清志等海軍將校後藤藤雄等陸軍士官候補生池松武志...

法ヲ以テ同巡査ヲ阻撃シ其乗取部等ニ銃剣ヲ負ハシメ同月十六日午前四時五十分頃同市赤坂區傳馬町一丁目二十番地...

車ニ分乘シ三上草山并安後藤鉄範石岡榮篤原市之助ノ五名ハ其儀憲兵隊ニ自首シ黒岩勇村山格之八木春雄野村三郎ノ四名ハ更ニ同市日本橋區本町三番地日本銀行ニ赴キ野村三郎ニ於テ所携ノ手榴彈一箇ヲ同銀行建物目録ヲ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメ...

(2) 第二組ニ屬スル古賀清志ハ同日午後四時三十分頃同市芝區高輪區寺町内ニ到リ陸軍士官候補生坂元兼一(警動西川武敏及池根武志ト會合シ同寺町前茶店ニ於テ古賀ヨリ武器ヲ分取シ夫々拳銃手榴彈短刀等ヲ携帶シテ同所ヲ立出テ一同自動車ニ同乘シテ同五時三十分頃同市芝區三田町内大田牧野仲綱官邸ニ赴キ同門前ニ自動車ヲ停メテ古賀及池根ノ兩名下車シ所携ノ手榴彈各一箇ヲ順次同官邸表門ヨリ同官邸内日菓ヲ投擲使用シ池根武志ノ投シタル一箇ハ不發ニ終リタルモ古賀清志ノ投シタル一箇ヲ炸裂セシメ尚同入ハ折柄右投擲ヲ阻止セントシタル巡査番井通一ヲ所持ノ拳銃ニテ射撃シ同入ニ對シ其左肩部ニ治療日數約三週間ヲ要スル貫通銃創ヲ蒙ラシメタルモ同入ヲシテ死亡セシムルニ至ラス夫レヨリ一同再ヒ自動車ニ搭乗シ沿道ニ機文數百枚ヲ撒布シテ後記第三組ニ稍通レテ警視廳ニ到リ同憲表支關附近ノ車道ニ停車シ古賀清志ヲ除ク一同下車シ坂元兼一及警動ニ於テ相次同憲表支關附近ノ手榴彈各一箇ヲ投擲使用シタルモ不發ニ終リタルカ一方古賀西川池根ノ三名ハ同憲表支關附近ニ居合セタル警視廳書記長坂元一及警動新聞記者高橋隆ヲ所持ノ拳銃

ニテ交々狙撃シ右長坂弘三ニ對シ下部及右膝關節ニ治療日數約四週間ヲ要スル貫通銃創ヲ負ハシメタル...

(8) 第三組ニ屬スル中村義雄ハ武器及機文數百枚ヲ携帶シテ同日午後四時三十分頃新橋驛ニ到リ陸軍士官候補生中島忠秋金清豐吉原政巳ト會合シ同驛前ニ於テ自動車ニ同乘シ車内ニ於テ武器ヲ分取シタル上同五時三十分頃同市麹町區内山下町立憲友會本部前ニ到リ義雄ハ單身下車シ同支關ニ向ツテ手榴彈一箇ヲ投擲使用シタルモ不發ナリシヨリ之ヲ拾ヒテ更ニ投擲シタルニ再ヒ不發ニ終リシヲ以テ中島忠秋ハ直チニ下車シ同支關ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シテ之ヲ炸裂セシメタル後一同同所ヲ引揚ケ同五時四十分頃警視廳ニ到リ同憲表支關附近ヨリ同憲表支關ニ向ヒ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモ炸裂セサリシヨリ更ニ之ヲ拾ヒテ投擲シ路傍ノ電柱ニ命中炸裂セシメ夫レヨリ一同再ヒ自動車ニ搭乗シ沿道ニ機文數百枚ヲ撒布シテ同六時頃東京憲兵隊ニ自首シ...

(4) 第四組トシテ奥田秀夫ハ同日午後七時頃同市麹町區九ノ内二丁目三番地株式會社三義銀行裏ニ到リ所携ノ手榴彈二箇ノ内一箇ヲ同銀行建物目録ヲ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメ原審相被告入藤孝三郎一派ノ民間同志ニ於テハ同被告入及原審相被告入後藤國彦同林正三ノ憲ヲ承ケ亡温永秀則致原審

相被告入矢吹正吾同横須賀喜久長同堀五百枝同大貫明純同高根博興一岡小室力也ノ七名カ夫々手榴彈ヲ以テ當時東京府府廳多摩郡澁野町大字角管五百八十六番地(現在東京市澁野區澁野五百八十六番地)所在東京電燈株式會社澁野變電所外當時ノ東京市外及埼玉縣下ノ變電所五箇所ヲ襲撃スルノ手管ヲ定メタル上同五月十五日午後七時十五分頃ヨリ一變電所ニ付一箇ノ割合ヲ以テ手榴彈ヲ抛ヘ相前後シテ各變電所ニ到リ結局亡温永秀則ニ於テ前示澁野變電所ニ手榴彈一箇ヲ投擲使用シ以テ之ヲ炸裂セシメタル外右矢吹正吾ニ於テ當時東京府南葛飾郡小松川町下平井高田三百二十八番地所在東京電燈株式會社龜戸變電所ニ對シ右横須賀喜久長ニ於テ埼玉縣北足立郡鳩ヶ谷町三ノ和二千七百四十六番地所在前示會社鳩ヶ谷變電所ニ對シ右大貫明純及高根博興ニ於テ當時東京府北豐島郡尾久町下尾久二百番地所在鬼怒川水力電氣株式會社東京變電所ニ對シ夫々一箇ノ手榴彈ヲ投擲使用シ以テ右横須賀喜久長ノ投シタル一箇ヲ炸裂セシメタル...

(ハ) 原審相被告入川崎長光ニ於テハ前示計畫ニ基キ西田稅務署方ヲ引受ケ同五月十五日午後六時頃當時東京府多摩郡代々木橋町代々木山谷百四十四番地西田稅務方ニ到リ同家二階六疊ノ客間ニ於テ同人ト對談中同日午後七時頃突如所携ノ拳銃(昭和七年押第六六三號ノハ)ヲ以テ同人ヲ狙撃シ同人ニ彈丸數發ヲ命中セシメタルモ同人ニ抵抗セラレタル爲メ同人ノ右側胸部外四箇ノ所ニ治療日數約三個月ヲ要スル貫通銃創ヲ負ハシメタル

ニ止マリ之ヲ殺害ノ目的ヲ達セザリシモノニシテ以上多寡案合シテ暴行脅迫ヲ爲スニ當リ右古賀清志及中村義雄ハ相共ニ主トシテ同志ノ糾合實行計畫ノ起點武器及資金ノ調達其他犯罪ノ遂行ニ付種々畫策謀議シタルノミナラス同志ヲ統率シテ犯行現場ニ臨ミ古賀清志ニ於テハ拳銃ヲ發射シ又中村義雄ハ手榴彈ヲ投擲使用スル等指揮統率ノ任ニ當リタルモノナリ...

第二 被告入頭山秀三ハ前記ノ如ク東亞民族ノ提攜ト武運精神ノ鼓吹トヲ其主たる目的トスル東京市澁野區澁野町十四番地(元東京府多摩郡澁野町常盤松十四番地)所在天行會ノ會長被告入本間憲二郎同山本貞典同中澤亨ハ何レモ右天行會ノ理事ニシテ又被告入吉岡信敬ハ右天行會ノ劍道師原審相被告入南里三省ト親交アルモノナルトコロ右南里三省力昭和七年二月二十日施行セラレタル衆議院議員選舉ニ際シ其郷里佐賀縣第一區ヨリ立候補セントシタルヨリ前示被告入等五名ハ其後援方ヲ引受ケ選舉運動資金ノ調達ニ奔走中同月五十六日頃被告入秀三同憲一郎ハ右南里三省ト共ニ豫テヨリ頭山家ニ出入セル赤沼吉五郎ヲ當時東京市外東大久保ノ同人ノ自宅ニ訪ネ同人ニ對シ該選舉運動費ノ融通方ヲ依頼シタルトコロ同人ハ之ヲ承諾シ次テ其翌日頃右天行會ヲ訪ネテ被告入等ニ對シ該選舉費用ノ調達方ヲ確約スルニ至レリ依ツテ右被告

人等ハ前記赤沼吉五郎ノ旨ニ信賴シ南里三省ニ於テハ直チニ選挙運動ノ準備ニ着手シ兵管右赤沼ヨリノ出金ノミヲ期待シ居リタルニ同人ハ其旨ヲ食ミテ言フ挨拶モテク准毎日ヲ過シ右依頼ノ趣旨ヲ實行セザリシタメ右南里三省ニ於テハ法定ノ期限迄ニ立候補ノ爲メノ供託金ヲ納付スルコト能ハス途ニ立候補ヲ断念スルノ已ムナキニ立至リタリ。是ニ於テ前記被告等及南里三省ハ捕赤沼吉五郎ノ背信の措置ヲ憤慨シ居リタル折柄同年三月十九日頃偶被告入山本貞美ニ於テ右赤沼ニ出會シ同人ヲシテ同月二十七日日記天行會ニ來訪スヘキ旨ヲ約セシメタルヨリ茲ニ前記被告等五名及南里三省ハ赤沼吉五郎ヲ懲罰シテ憤慨ヲ舞サンコトヲ謀リ右三月二十七日赤沼吉五郎カ天行會ヲ訪レルヤ同人ノ會席上ノ刀劍類ヲ存置スル十疊間ニ導キ入レタル上前記六名ニテ右赤沼ニ對シ其不信ヲ難詰シ同人カ金策ヲ爲シ得ザリシ事情等ヲ辯解スルヤ前記六名ハ一齊ニ激怒シ同日午前十二時頃ヨリ約一時間餘ニ互リテ交々右赤沼ニ對シ大聲ヲ發シテ不持ナ奴タハ人非人外道等凡ユル罵詈雑言ヲ浴ビセテ之ヲ罵倒シ或ハ我々ノ面目ヲ潰シタルハ不都合ナリ出入ヲ禁止メル等ト申迫リ、又被告等一隊ニ於テ右赤沼ニ對シ座布團ヲ數タトハ不都合ナリト叱咤シテ同人ヲシテ座布團ヨリ飛下ラシメ更ニ自決セヨト怒號シ、被告等中澤カ座布團ニ對シ腹ヲ切レト大喝スルヤ之ニ應ジテ被告等一隊ニ於テ傍ヲニ日本刀ヲ投ケ出ス等ノ舉ニ出テ以テ右赤沼吉五郎ノ身體ニ危害ヲ加フヘキ氣勢ヲ示シ因テ共同シテ同人ヲ脅迫シタルモノナリ。

判示第一ノ一ノ事實ハ、(一)原告第三回(昭和八年十一月十一日)公判調書中被告入山本貞美ノ供述トシテ自分ハ昭和七年三月二十七日頃判示自宅ニ於テ海軍中尉古賀清志ト會見タルニ同人ハ今同農民ト共同シテ暴力ニ訴ヘ國家改造ヲ促進シ度キ故拳銃ヲ調達セラレ度キ旨ヲ告ケタルヲ以テ自分ハ之ヲ承諾シ四月三日ニ拳銃及金ヲ手交スル旨ヲ告ケタリ同人ノ所謂暴力ニ訴ヘルトハ暴力ニ依ル破壊行動ヲ爲シ社會改造ノ烽火ヲ舉グルト謂フ意味ニ理解シタリ同年四月三日古賀中尉ハ再び訪問シ來リタルヨリ自宅ニ於テ同人ニ對シ拳銃五挺實彈約百二十五發現金千五百圓ヲ手交シタルカ右拳銃ハ奉天ニ於テ昭和四年頃買求メタルモノナリ次テ同年五月十三日自分方ニ古賀清志ノ手紙ヲ持テ里居ヨリ來訪シタルヨリ同人ニ現金千五百圓ヲ手交シタル右現金ハ同人ヨリ古賀清志ノ手ニ渡リタルモノト思フ右拳銃ハ古賀等カ他ノ陸軍軍人及農民ト共同シ暴力ニ依ル破壊行動ヲ爲スニ付使用シ現金ヲ其費用トスルモノナルコトハ承知シ居リ同人等ハ手榴彈カアルナラハ之ヲ使用スルモノト想像シ居タリ三月事件以來手榴彈ヲ拳銃ノ路ハ耳ニ聞キ居タル程聞キ居タル故斯ク想像シ居タリ古賀等ノ破壊行動カ議會開會前ニ行ハルモノナルコトハ聞キ居タルモノナラス古賀等ハ誰カヲ狙ヒ暗殺ヲ行フコトモ想像ニ在リタル旨ノ記載。

設立シ維新日本ノ建設ヲ企圖シ居リタリトノ點ニ至ル迄ノ事實ニ付判示同趣旨ノ記載。

(三)同上第三回調書中被告入山本貞美ノ供述トシテ三月下旬古賀中尉ハ自分方ニ來リ、今度命ヲ懸ケテ日本ニ御來公シ政黨ヲ財閥ノ連中ニ擊ツルハ國家改造ノ氣分ヲ促進サセ度イト思フテ居ルカソレニハ拳銃カ入用ナルカヲ拳銃ヲ出來ル丈多ク都合シテ買ヒ度イト申シタルヨリ同人カ日本改造ノ氣運促進ノ爲生命ヲ賭シ直接行動即チ暴力ニ依ル破壊行動ヲ爲スモノニシテ其必要上拳銃等ノ武器カ入用ナルモノト想像シ同人ノ申出ヲ承諾シ古賀ハ農民ト共同ニヤルト申シタルヨリ農民ヲ脅迫シ運動ヲ起スモノト考ヘ同人ニ金ハ要ラナイカト申シタルトコロ同人ハ入用ナル旨ヲ答ヘタルヲ以テ四月三日拳銃ト金トヲ手交スル旨ヲ告ケタリ自分ハ古賀等ヨリ具體的計畫ハ聞カス結局軍資金及武器ヲ供給シ彼等ノ計畫實行ヲ援助スルノミニシテ夫レ以上ノ行動ニ出ツルノ意思ハ全然ナカリシ旨ノ記載。

(四)原告第三回(昭和七年三月二十七日)大川周助ノ判示居宅ニ於テ同人ト會見シ、我々今同計畫ノ實行ヲ爲スニ付武器カ不足ナル故調達シテ買ヒ度イト申シタルニ同人ハ之ヲ承諾シ且金モ準備シ置ク旨ヲ述ヘタリ其後同年四月三日判示同人方ニ於テ同人ヨリ拳銃五挺實彈約百二十五發及現金千五百圓ヲ受取リ同月二十九日同所ニ於テ同人ヨリ現金千五百圓ヲ受領シ更ニ思若勇ノ手ヲ經テ現金千五百圓ヲ受取リタリ大川周助ヨリ受取リタ

ル右拳銃五挺ハ五月十五日ノ襲撃ノ際全部護カカ換ヘ居タルコトハ相違ナキ旨ノ記載。

(四)同人等ハ對スル豫審判事ノ第三回調書中同證人ノ供述トシテ昭和七年三月二十七日判示大川周助方ヲ訪ネ同人ニ對シ血闘圖カ檢舉セラレタル故京都ニ於テ四月月中旬ヨリ五月月中旬迄ノ間ニ集團テロヲ決行スル積リナリト云フヲ大川ハソレテハ自分方ニ於テモ其積リテカラウト答ヘタリ自分ハ更ニ豫審判事ニ於テ入用ナルモノト想像シ居タル程聞キ居タル故斯ク想像シ居タルニ同人ハ之ヲ承諾シ軍資金ハ要ラナイカト謂ヒタルヲ以テ價額用ニ二百圓入用ナル旨ヲ知レサル旨ヲ答ヘタルトコロ同人ハ田來ル範圍ナラ幾ラテモヤルカ大丈夫カト申シ次ノ日曜日ニ拳銃ヲ用意シ置ク旨ヲ述ヘタリ大川ハ自分ニ對シ具體的計畫ハ決行スル者以外ハ餘リ話サナト申シタル故自分ハ同人ニモ計畫ニ關スル具體的計畫ハ教サザリシ故大川モ自分等カ爆彈拳銃ヲ使用シテ集團テロヲ行ハルト云フ位シカ知ラザリシモノト思フ同人ト右ノ如ク對談中村養雄カ訪問シ來リタルヤウニ記載スル旨ノ記載。

(五)同上第六回調書中同證人ノ供述トシテ同年四月二十九日大川周助方ニ到リ五月十五日頃憲兵ヲ執行スルコトニナリタルカ軍資金カ不足ナル故少シ買ヒ度キ旨ヲ申シタルトコロ同人ハ百圓札ニテ三千圓手渡シ與レタルヨリ少シ多過キル様タト謂ヒタルニ同人ハ、別働隊ノ方ニテモ相當金カ要ララウカラ其方ニ廻セハ良イト申シタル旨ノ記載。

同上第十回調書中同証人ノ供述トシテ今四ノ事件ニ付軍資金ハ自分カ二度ニ大川周明ヨリ三千五百圓受取リ...

(五) 証人 中村義雄ニ對スル同上第三回調書中同証人ノ供述トシテ昭和七年三月二十七日古賀清志ト共ニ自分ハ大川周明ヲ...

階級ニ對シ集團テロヲ執行スル旨ヲ話シタルニ止マリ計畫ノ内容ハ具體的ニ語リタルコトナキ旨ノ記載...

(七) 後記第一ノ三ノ事實ニ付掲ケタル各證據ヲ綜合シテ之ヲ認メ...

昭ノ志ヲ繼キ國家改造ノ爲政界財界ノ巨頭等ヲ殺害シ...

等ヲ使用シ政黨財閥特權階級ニ暴スル人々ヲ暗殺シ暴力ニ依ル國家革新ヲ行フモノト知り乍ラ古賀等ノ計畫ヲ援助スル意思...

(三) 被疑者 頭山秀三ニ對スル豫審判事ノ期間調書中同被疑者ノ供述トシテ昭和七年三月十三日古賀、中村兩中尉ヨリ...

昭ノ志ヲ繼キ國家改造ノ爲政界財界ノ巨頭等ヲ殺害シ...

(五) 原告第二回公判調書(昭和八年十一月九日)中被告入本間憲一郎ノ供述トシテ昭和七年三月二十日頃天行會ニ於テ自分ハ...

昭ノ志ヲ繼キ國家改造ノ爲政界財界ノ巨頭等ヲ殺害シ...

和七年三月二十日過頭山秀三ハ自分ニ向ヒ古賀中尉ノ話テハ
 同人等ハ今度ヤルソウテアルカソレニ付テハ成ルヘク多ク拳銃
 フ集メテ與レトノ事テアツタノテ自分ハ之ヲ承知シタカ君モ出
 來ル拳銃ヲ集メテ與レト申シタルヲ以テ古賀等モ陸海軍合
 同シテ暴力ニ依ル破壊行動ヲ行ヒ革命ニ導クモノト想像シ自分
 カ其拳銃運達ヲ引受ケ頭山ヲ其關係ヨリ離脱セシムト思ヒタ
 リ次ニ同月二十四日頃頭山ヲ古賀ト會見シタル際同人
 ハ「自分等ハ近ク上海ヨリ歸リテ來ルコトニナツテ居ル海軍連
 中ノ陸軍ヲ待ツテヤル考テ手榴彈ハ同志方上海テ手ニ入レタカ
 拳銃ノ方カ足りナイカラ頼ム」ト申シタル旨ノ記載
 (七) 原審ニ於ケル證人古賀清志ニ對スル詢問書中同證人ノ供
 述トシテ自分ハ昭和七年四月十七日頃頭山秀三ニ於テ本間
 憲一郎ヨリ拳銃三挺及實彈ヲ同月二十日頃頭山秀三ニ於テ
 同人ヨリ拳銃二挺及實彈ヲ同月三十日頃頭山秀三ニ於テ
 同人ノ手ヲ介シ本間ヨリ拳銃一挺及實彈七十五發ヲ受取リタリ
 コレヨリ先頭山秀三ニ對シ拳銃ノ運達ヲ依頼シタルニ同人ハ之
 ヲ承諾シタルカ其後昭和七年三月二十三日頃本間ニ會ヒタル
 トコヨリ同人ハ拳銃ノ方ハ自分ノ方テヤルカラ頼ムニハ話スナレ
 ト申シタルヨリ自分ハ頭山ニ迷惑ヲカケサル爲メ解決シタルモ頭
 山ヨリ拳銃運達ノ拒絶ヲ受ケタルコトヲ本間ハ今後ハ同人ト
 連絡ヲ執レト申シ居タリ自分カ本間ヨリ受取リタル拳銃六挺ハ
 昭和七年五月十五日ノ執行ニ際シ全部何人カ携ヘ居リ殊ニ三上
 卓ノ使用シタル拳銃ハ本間ヨリ交付セラレタルモノニ相違ナク

又昭和七年押第六六三號ノ八ノ拳銃モ本間ヨリ受取リタルモノ
 ニ相違ナキ旨ノ記載
 (八) 同證人ニ對スル機密判事ノ第三回詢問書中同證人ノ供述
 トシテ昭和七年三月十三日頃夕方中村義雄ト共ニ天行會道場
 ニ頭山秀三ヲ訪ネ同人ヨリ井上昭ノ拳銃運達ニ自首シタル事及
 井上カ海軍ノ同志カ血闘團ノ後ヲ繼ギ願ヒタル故頭山ト申置キ
 タルコトヲ聞キ頭山ニ對シ「陸軍士官候補生ノ方トモ連絡カ執
 レル事ニナリ爆彈モ上海テ手ニ入ツテ居ルカラ之ヲ以テ我々ハ
 近ク執行シヤウト思フテ居ルアナタノ方トモ考慮シテ與レ尙拳
 銃ヲ何トカ都合シテ貰ヒ度イ」ト申シタルニ頭山ハ自分モ其積
 リニテ全國的ニ連絡ヲトシテ見ル拳銃ハ三十挺位海軍側ニ
 提供シ得ル旨申シ居タリ尙其際頭山ニ對シ井上ノ後ヲ繼イテ爆
 彈拳銃ヲ以テ大官財團ノ集團テロヲヤル考ナル故貴殿モ一様ニ
 ヤラスカト申シタルコト頭山ハ大變勇氣ニナリ一様ニヤラウ
 ト申シタリ同月二十三日頃本間憲一郎ヨリ電話ニ依リ同人ヲ
 眞宿野ノ宅ニ訪ネタルトコヨリ同人ハ「頭山秀三ヨリ開キタルカ
 拳銃ハ自分カ引受ケテ都合スル」ト申シ自分ハ手榴彈ハ上海ノ
 同志カ入手シタルモ拳銃カ不足ニ付出來ル限リ多數運達セラレ
 度シ執行ノ時期ハ五月中頃頃ナル旨ヲ告ゲタリ從テ本間ハ自分
 等ノ計畫カ手榴彈拳銃等ヲ使用シ集團的破壊行動ヲ行ヒ革命ノ
 烽火ヲ掲グルモノナルコトハ十分承知シ居リ殊ニ同人ハ「執行
 スルニシテモ餘リ殘酷ナヤリ方ヲシテハイケナイ國民ノ同情ヲ
 無クスル處アルカラ」ト申シ居タル旨ノ記載

(九) 證人中村義雄ニ對スル第二回詢問書中同證人ノ供述
 トシテ昭和七年三月十三日夕方古賀中尉ト共ニ天行會道場ニ
 頭山秀三ヲ訪ネ井上昭ノ拳銃運達ノ事情ヲ聞キタル後右頭山
 ニ對シ古賀ヨリ拳銃ノ運達ヲ依頼シタル旨ノ記載
 (十) 證人染谷忠助ニ對スル詢問書中同證人ノ供述トシテ
 自分ハ茨城縣新治郡土浦町大和町三千二十八番地ニ於テ旅館業
 ヲ營ミ居ルカ昭和七年四月下旬本間憲一郎ヨリ古賀ニ渡スヘキ
 旨ヲ依頼セラレ風呂敷包一箇ヲ預リ自宅ニ於テ同年五月月上旬古
 賀ニ手交シタル旨ノ記載
 (十一) 後記第一ノ三ノ事實ニ付揚ケタル各證據
 ヲ綜合シテ之ヲ認メ
 判事第一ノ三ノ事實ハ
 (一) 證人古賀清志ニ對スル機密判事ノ第二回詢問書中同證人
 ノ供述トシテ昭和七年二月頃ヨリ三月ニ互リ行ハレタル井上日
 石一派ノ血闘團事件ニハ中村義雄ト共ニ最初ヨリ關係シ同年一
 月三十一日ノ會合ノ結果井上ノ派ノ民間側同志カ一人ノ殺害義
 ニ依リ機密ヲ見テ頭山日石等シ海軍側ハ其後ヲ承ケテ願
 起シ陸軍側本隊ヲ引繼ルヤウニスルコトト定メ其後同年二月六
 日及七日ニ井上日石ト會ヒタルカ同月九日小沼正カ井上準之助ヲ
 暗殺シタル以後ハ暫ク井上ノ注意ニ依リ上京ヲ見合セ同月二十
 日以降ニ於テ更ニ三回井上ト會見シ次テ同年三月五日ニハ中村
 義雄ト共ニ上京シ天行會道場ニ於テ井上日石ト會見シタリ當日
 上京ノ途中淺沼五郎カ團隊ヲ暗殺シタルコトヲ報外ニテ知リ

タルニヨリ井上ニ對シ團體殺ニ依リ民間個人テロハ不可能ト思
 フ故海軍側同志ト共ニ集團テロヲ執行セムト申シタルトコヨ井
 上モ大體同意見ナル旨答ヘタルカ其後井上等カ檢察セラレタル
 ヲリ中村ト共ニ同年五月頃ニ互リ好機アリ次第集團テロヲ行ハ
 ムト定メタル旨ノ記載
 (十二) 同證人染谷忠助ニ對スル詢問書中同證人ノ供述トシテ自分カ中村義雄ト
 共ニ井上ノ派ノ意思ヲ繼ギ國家改造計畫ヲ進ムルニ付連絡ヲ執
 リタル者ハ海軍側同志トシテ村山格之、三上卓、山岸宏林正義、
 村上功、黒岩勇、陸軍側トシテ元士官候補生池松武志及士官候補
 生後藤映範、坂元兼一、中島忠秋、原市之助外七名、民間側トシ
 テ橋本三郎、後藤隆壽等、愛郷結團係一、派奥田秀夫、本間憲一郎
 大川周明、頭山秀三等ニテ昭和七年三月二十一日大久保百人町
 池松武志ノ下宿ニ於テ中村義雄ト共ニ後藤映範、坂元兼一、原
 市之助等、陸軍士官候補生及池松武志ノ約十一名ト會見シ一同
 ニ對シ井上日石一派ノ血闘團カ社會ニ與ヘタル影響ヲ擴大シ革
 命ノ段階ニ迄進ムヘク我々軍部ノ者カ槍石トナリ事ヲ學ケムト
 シテ居リ執行ノ時期ハ四月中旬ヨリ五月中旬頃迄ノ豫定ナル旨
 ヲ告ケタルニ一同ハ之ニ賛成シ相提攜スルコトヲ誓ヒ、同年三
 月二十七日ニハ陸軍士官學校附近ノ後藤候補生ノ下宿ニ於テ同
 人及中島忠秋ノ兩名ト會合ノ上連絡ヲ執リタリ、次ニ同月十九
 日橋本三郎ヲ愛郷聚ニ訪ネ同人及後藤等ト會見シタルカ其際橋
 本ト對シ井上日石ノ一黨カ檢察セラレタルヲ以テ今度ハ吾々軍部
 ノ者カ應立ツコトトナリタルカ陸軍將校ノ方ハ第一級の破壊行

動ニ參加ノ見込有キモ陸軍士官候補生トハ連絡ヲ執リ得ル見込アリ自分等ハ四月中旬ヨリ五月中旬頃迄ノ間ニ好機アリ次第支隊階級ニ對シ集團テロヲ執行スル積リナレハ相提攜セラレ度キ旨ヲ告ケタルトコト同ハ之ヲ承諾シタリ尙其際大洗ノ井上日召ノ同志ニ連絡スルコトヲ依頼シ更ニ同月二十六日午後變遷熟ニ到リ橋後藤、林等ト會ヒ尙前同訪問ノ時ト略同様ナル話ヲ爲シ尙前同ノ一黨ハ軍部ト異リタル箇所ヲ別離隊トシテ襲撃スル方カヨシカルヘシト申シタルニ同ハ東京市内外ノ變遷所ヲ襲撃スル旨ヲ話シ居タルヤウニ思フ旨ヲ記載スル

人ニ對シ變遷熟ニテハ別離隊トシテ適當ナル目標ヲ定メテ襲撃セラレ度キ旨ヲ話シタルヤウニ記憶スルニ同月三日中村義雄ト共ニ牛込ノ三省會ニ坂元候補生ヲ助メ第一次計畫ヲ告ケ同人ヲ伴ヒ明治神宮外苑禮堂前ニ於テ池松武志ト會ヒ上野ノ某食堂ニ到リ池松ニ對シ計畫内容ハ坂元ヨリ聞ケト申シ且支隊階級ノ平素集合スル場所及首相官邸、内大臣官邸等ヲ偵察シ其結果ノ報告ヲ兼テ連絡ノ爲メ毎週水曜日午後六時迄ニ山水園ニ來ルヘキ旨ヲ依頼シタルトコト同ハ之ヲ承諾シ自分ハ同人ニ對シ軍資金百圓ヲ交付シタリ尙奥田秀夫、中村カ同志トシテ參加セシムルコトトシタルモノニシテ中村ハ奥田ニ第一次計畫ヲ告ケ支隊階級ヲ集合場所ヲ偵察スヘキ旨ヲ依頼シタル管ナリ而シテ同月五日火曜日ニ自分ト中村ト山水園ニ於テ池松ニ會ヒタルカ同ハ首相官邸、牧野内大臣官邸ノ偵察ヲ持參シタルヨリ、更ニ政友會本部、民政黨本部ノ偵察ヲ依頼シタリ、其翌日同所ニ於テ奥田ニ會ヒ同人ヨリ首相官邸、工業俱樂部ノ偵察ヲ受取リ更ニ中村ハ奥田ニ對シ他ノ目標箇所ノ偵察ヲ命ジタル旨ヲ記載スル

十日及二十七日ニ山水園ニ於テ中村ト共ニ奥田ト會ヒ同月十六日愛媛縣ヲ訪問シ夫々連絡シタルカ池松ハ右十二日ニハ豫テ依頼シ置キタル襲撃目標箇所ノ偵察ヲ持參シ橋後藤、後藤カ山水園ニ來リタルヨリ之ヲ池松ニ紹介シ同月十九日ニハ池松ヨリ議會ノ偵察ヲ受取リ坂元候補生トノ連絡ヲ頼ミ同月二十四日池松ノ連絡ニ依リ明治神宮外苑禮堂前ニ於テ中村ト共ニ池松及坂元ニ會ヒ前記坂元ノ下宿ニ到リ今同月執行目標會議ナルコト及今同月計畫ヲ四田等ニ知ラルトキハ妨害サルル處アルニヨリ絕對ニ秘密ニスルコト等ヲ話シタリ次ニ同月二十七日ノ奥田ノ會合ノ際ハ同人ニ短刀ノ購入方ヲ依頼シテ金三千圓ヲ交付シ尙池松及後藤候補生ニ對シ手紙各一通ヲ託シタリ尙同月二十一日土浦町待合竹葉ニ於テ村山格之下會合シ議會目標ノ點及民間側トノ連絡ヲ點ニ付談合シ同人ヨリ佐世保ノ林正義ヨリ爆彈到着ノ旨報告アリ同夜ハ同所ニ泊シ翌朝同待合ニテ村山ヨリ拳銃一挺、彈丸五百發ヲ受領シタリ其後同月二十七日奥田ト共ニ第二次計畫ヲ變更シ五月十五日首相官邸襲撃ヲ爲スコトトシタル旨ヲ記載スル

カニ於テ四田暗殺ヲ引受ケルヤウ話サレ度キ旨ヲ依頼シタルニ橋後藤カ川崎カ適任ナル旨申シ自分モ川崎ナラハ四田ト暗殺アリ好都合ナレハ川崎ニ四田暗殺引受ヲ話シ進メラレ度キ旨申シトノ回答アリタルニヨリ五月十五日我々ノ執行ト同時ニ四田暗殺ヲ執行セシメタルモノナリ次ニ同月二十八日正午頃奥田ヨリ同月午後四時半頃東京驛ニ著ク旨ヲ電報ヲ受取リタルヨリ電話ニテ橋後藤ト打合せ同人ト同シ汽車ニテ上京シ同日午後五時四十分頃東京驛ニテ奥田ト會ヒ一同池袋附近ト思ハルル橋後藤、借款ニ赴キ林正三ト會見シ同所ニ於テ自分ハ五月十五日首相官邸ヲテヤツプリン射撃會ヲ襲撃スル旨ヲ、橋後藤候補生カ東京市附近ノ六箇所ニ決定シタル旨ヲ、奥田ト會見シ、奥田ハ汽車便ニテ池袋アル旨ヲ、夫々話シタル上自分ハ奥田ニ翌二十九日同所ニテ橋後藤ト手榴彈六箇ヲ渡シ奥田ト申シ右借款ヲ辭シ奥田ト共ニ土浦町ニ歸リタルカ其途中ノ汽車ニテ右借款ヲ暴露ノ危險アリト感シ翌二十九日奥田ヨリ手榴彈二對シ手榴彈八個ヲ友人宅ニテ手交スル旨ヲ通セシメタリ同月二十九日大川周明ヲ訪ネ同人ヨリ金二千圓ヲ軍資金トシテ受取リタル上同夜奥田、中村ト共ニ神樂坂ノ待合ニ行キ一泊シ同所ニテ奥田、中村ト共ニ對シ變遷熟ノ計畫ニ對シ軍資金トシテ五百圓ヲ渡シタリ同月三十日午前九時頃飯田町驛半込見附日ニ於テ林正三ト會ヒ牛込區東五軒町ノ林正一ト會ヒ同所ニ於テ林正三ニ軍資金トシテ五百圓ヲ交付シタルカ其時橋後藤モ來リタルヨリ軍部ノ方ハ相當計畫力進ミ

居ル故變態ノ方モ急キ準備セラレ度キ旨申置キタル旨ノ記載
同上第七回開調書中同證人ノ供述トシテ自分ハ中村ト相談
シタル結果首相官邸ノチャップリン歡迎會ニ關スル情報ハ正確
ヲ缺キタルヲ以テ更ニ確實ナル實行計畫ヲ樹テムトシテ五月二
日頃第四次計畫ヲ立案シタリ同計畫ハ前掲第三組ニ分チ第一段
ニ於テ一組カ首相官邸ニ組カ牧野内大臣官邸三組カ工業俱樂部
ヲ各手榴彈ヲ以テ襲撃シ第二段ニ於テ一組及二組カ警視廳ヲ襲
撃シ三組ハ東郷元帥ヲ宮中ニ伴フコトヲ定メ各組ノ人員ノ配置
ヲモ決定シ尙前二派ノ農民ハ右執行ト同時ニ東京市内外ノ主要
ナル電燈所六箇所ヲ襲撃シ帝都ノ暗黒化ヲ企テ川崎長光ハ四日
税ヲ暗殺スルコトヲ以テ其内容トシタリ右計畫樹立後同月二日
山水閣ニ於テ隔ト面接シ同人ニ軍資金トシテ金四百圓ヲ手交シ
同日同所ニ於テ中村ト共ニ山岸宏及同所ニ計謀ノ打合ヲ爲シ翌三日
同所ニテ中村ト共ニ池松、奥田ト會合シ同人等ヨリ短刀七、八口
ヲ受取リ尙池松ハ首相官邸、内大臣官邸議會等ノ偵察狀況ヲ記
載シタル紙片及名士ノ寫眞ヲ持參シ與レタリ自分ハ同人ニ對シ
五月八日原宿驛ニテ士官候補生ト會見スルニ付連絡方ヲ依頼シ
更ニ議會襲撃ヲ中止シタル旨ヲ告ケ次ニ同月六日頃山水閣ニ
於テ隔及春田信義ト會ヒ彈彈ノ效力ノ語ヲ尋テ七日山岸宏、
村山權之ト上野驛等ニ於テ面會シ其後ノ情勢ヲ語り同日八日
同人等ト共ニ原宿驛ニ赴キ後藤義徳、池松及黒野外一同ト會
ヒ明治神宮表參道附近ノ蕎麥屋ノ二階ニ於テ會合ヲ開キタル上
池松ニ對シテハ五月十三日ニ執行時期ヲ決定スル故山水閣ニ來

ルヘキ旨ヲ墨岩ニ對シテハ手紙ニシテ池松ニ託スル旨ヲ告ケ墨
岩ハ持參シタル手榴彈ヲ示シ其使用方法ヲ教ヘタル後一同散會
シタリ翌九日ハ山水閣ニテ後藤義徳ト東郷館ニテ墨岩ト夫々
會見シタリ中村義雄ハ同月十日山水閣ニテ奥田ト會ヒ同人ヨリ
池松カ我々ニ宛テタル手紙ヲ受取リタルカ其手紙ニハ工業俱樂
部ノ襲撃ヲ中止シ致友會本部及三菱銀行ヲ襲撃シテハ如何トノ
趣旨カ記載セラレ居タル旨ノ記載
同上第八回開調書中同證人ノ供述トシテ昭和七年五月十一
日頃佐世保ノ林正義ヨリ思ハシク行カヌ待テトノ電報アリ
リ佐世保ノ同志ノ土京不能トナラハ人員ノ配置ヲ全然改ムル必
要アリ且池松ヨリモ襲撃目標ノ變更要求アリタル際ナリシヨリ
同月十二日夜土浦町ノ下宿ニテ中村ト相談シ上第五次計畫ヲ樹テ
タリ同計畫ハ第一段ニ於テ一組カ首相官邸、二組カ牧野内府官
邸三組カ致友會本部、四組カ三菱銀行ヲ各襲撃シ第二段ニ於テ
一組二組三組カ合隊シ第一段執行後警視廳ヲ襲撃シ軍部ノ決
行ト同時ニ隔ノ別働隊ハ東京市内外ノ電燈所六箇所ヲ襲撃
スルコトヲ内容トシ人員配置ハ一組墨岩勇三、上京、村山權之、山
岸宏及陸軍士官候補生後藤義徳外四名、二組自分池松武志及同
候補生三名、三組中村義雄及候補生三名、四組奥田秀夫外民間
同志四名トシ武器ニ付テハ一組ニ手榴彈六箇、拳銃六挺短刀
若干口、二組ニ手榴彈四箇拳銃三挺短刀若干口、三組ニ手榴彈
三箇拳銃三挺短刀若干口、四組ニ手榴彈二箇拳銃一挺短刀若
干口トシ夫々分配方法ヲ定メ拳銃ハ幼弱者ニ對シテ使用スルコ

トシ集會場所ハ一組靖國神社二組赤坂寺三組新橋驛四組東
京驛又ハ宮城前集合時刻ハ執行時刻前三十分トシ其他武器分配
ノ細目等ヲ定メ執行時刻ハ同年五月十三日ニ決定シ尙細部計畫
トシテ統制ハ年長者之ニ當リ絕對服從ノコト等ヲ定メ右決定事
項ハ池松ヨリ墨岩等及陸軍士官候補生等ニ通知スルコトトナシ
後藤義徳及奥田ハ山水閣ニ於ケル執行時刻決定ノ會合ニ出席ス
ルコトトシタルモノナリ尙右計畫ノ四組ニ奥田外四名トハ井上
日石一黨ノ大流組ノ川崎長光、堀川秀雄外二名ヲ指スモノニシ
テ右計畫立案ノ際中村ト相談シ上川崎長光ノ四日税暗殺ハ中止
スルモノナリト爲シタルヲ以テ右四人ヲ四組ニ編入スルコトト
シタル次第ナリ同月十二日右計畫ヲ樹テタル以前ニ後藤義徳ト
山水閣ニ於テ會見シ翌十三日夕刻執行時期ヲ決定スル故同所ニ
來訪スヘキ旨ヲ告ケ墨岩翌十三日午後六時頃ヨリ自分ト中村ト
ハ同所ニ於テ豫メ計畫通り奥田、池松及後藤義徳ト會合シ計
畫執行ノ打合ヲ行ヒタルカ其際池松、奥田ノ意見ヲ汲ミ執行時
間ヲ十五日午後五時三十分集合時刻ヲ同日午後五時ト定メタリ
尙當日後藤ハ池松、奥田ヨリモ先ニ山水閣ニ來リ自分ニ對シ川
崎長光カ四日税暗殺ヲ引受ケタル旨申シタリコレヨリ以前ニ同
様ナルコトヲ橋カ後藤カラ聞キタルモノ不確實ナリト思ヒ第五次
計畫ノ配員ヲ定ムル際中村ト協議シ川崎等ヲ四組ニ編入シ墨キ
タルカ右後藤ヨリ明確ニ川崎カ引受ケタル旨ヲ聞キ即座ニ四組ノ
配員ヲ變更シ奥田一人ト爲シタリ軍部ノ執行時刻決定後後藤
ニ對シ變態所襲撃ハ我々ノ執行後大體日没頃ニ爲サレ度キ旨ヲ

申シ右會合後後藤ヨリ自己ノ下宿ニ住ヒ本間ヨリ受取リタルア
ストヲ拳銃一挺、彈丸八發、短刀七口ヲ渡シ右拳銃彈丸及短
刀一口ハ川崎長光ニ手交アリ度キ旨依順シタル旨ノ記載
同上第九回開調書中同證人ノ供述トシテ昭和七年五月十五
日中村ト共ニ東京市芝區芝町水交社ニ赴キ同所ニテ武器ヲ各組
別ニ風呂敷包ト爲シ入れ入レ置キタルニ同日午前十一時頃山
岸宏、村山權之ノ兩名カ横須賀ヨリ來リ三上京、墨岩勇ノ兩名モ
午後二時頃同所ニ來リタリソコテ自分ハ當日使用ノ自動車貨ト
シテ一同ニ少シ軍資金ヲ分ケ残り二百圓ヲ墨岩ニ渡シタリ而
シテ同日午後三時頃ヨリ四時十五分頃迄ノ間ニ各組トモ刺當テ
ラレタル武器ヲ携ヘ向一組カ致友會本部及三組カ各約二
百枚ヲ夫々所持シ相前後シテ水交社ヲ出發シタルカ自分ハ中村
ト共ニ三上京等ノ後ヨリ出發シ同所ニテ中村ト別レ午後四時三
十分頃自動車ニテ二組ノ集會場所タル赤坂寺ニ到リ陸軍士官候
補生坂元外二名ト會ヒ同寺門前ノ茶屋ノ二階ニ於テ池松ヲ待合
セ居タリ間モ中村ト會ヒ同所ニ來リタルヲ以テ一同ニ行動ノ順序及分
撤トシテ牧野内府官邸前ニ於テ自動車ヲ停メ自分ト池松トカ順
次手榴彈一個宛ヲ投擲シテ警視廳ニ向ヒ同所ニテ殘餘ノ手榴彈
及拳銃ヲ使用スル旨ヲ告ケ次テ所携ノ拳銃三挺、手榴彈四箇短
刀二口ヲ取出シ池松ニ手榴彈一箇、拳銃一挺ヲ手交シ自分ニ機
キテ手榴彈ヲ投擲スヘキ旨ヲ告ケ他ノ一名ノ候補生ニ拳銃一挺
ヲ渡シ牧野内府官邸ニ於テ自分等ノ投擲ノ際自動車運轉手ヲ停
迫スヘキ旨ヲ命更ニ坂元外一名ニ手榴彈一箇、短刀各一口

ヲ交付シ警視廳ニテ使用セヨト申シ一同ニ手榴彈ノ使用方法ヲ教ヘ同日午後五時十分前頃右茶屋ヲ立出テ自動車ヲ頼ミ五時二十分頃芝罘三田繁野ノ牧野内府官邸正門前ニ赴キ池松ト共ニ同所ニ下車シ先ツ自分ハ二三歩前進シ門内見鬼ケテ手榴彈一箇ヲ投込ミタリ其際門ノ附近ニ居合セタル巡査カ何事カト思ヒシカ手榴彈ノ方ヘ走り行キタルトコロ右手榴彈カ炸裂シタル爲驚キ門ノ方ニ向ヒ来リタルヨリ同巡査ニ拳銃一發ヲ發射シタルニ同巡査ハ「アツ」ト謂ヒ乍ラ兩手ヲ舉ケ乍ラ門内ニ走り去リタリ次テ池松モ手榴彈一箇ヲ門内ニ投込ミタルカハ不發ニ終リタリ夫レヨリ自分等ハ直チニ自動車ヲ警視廳ニ向ケ同日午後六時直前同所ニ到着シ自動車ヲ正門支關前ニ停メ同所ニ自分以外ノ者ハ全郡下事ヲ自分ノ組カ同所ニ到着シタルトキ中村ノ外ユル三組ノ一候補生カ手榴彈一箇ヲ投込シタルトコロ電柱ニ當リテ炸裂シタリ之ニ續キテ坂元候補生外一名カ手榴彈ヲ警視廳建物日真ケテ投込シタルカ不發ニ終リタリ其時正服ノ巡査カ一名自動車ニ近付キ来リタルヲ以テ車中ヨリ同巡査ニ拳銃一發ヲ發射シタルトコロ同巡査ハ逃ケ去リタルカ之ト殆ト同時ニ自動車ノ後方ニテ二三發拳銃ノ音カ致シタル故返り見タルニ池松ト一士官候補生トカ同黨支關ノ群衆ニ向ケ拳銃ヲ振シ居タリ此間非常召集ノ警官カ力集リ來ラザルヲ案シ拳銃ヲ右手ニシテ身ヲ自動車ヨリ棄出シ見廻シタルニ別ニ斯カル様ナリハナカリシ故自分ノ組ノ者一同ニ合圍ヲ爲シ一同自動車ニ乗り込ニ同所ヲ引上ケ午後六時頃憲兵隊本部ニ自百シタリ同日午前中池

松ト水交社ニテ會見シ同人ニ對シ決行時刻ハ先ニ決定シタル通りナル旨ヲ告ケ後藤團長トモ同所ニテ會見シ決行時刻ハ豫定ノ各交付シタル旨自分カ右牧野内府官邸ニテ發射セシ拳銃ノ彈丸カ巡査ノ肩ノ邊ニ命中シタルコトハ二、三日後ニ渋谷憲兵隊ニ於テ開カサレテ承知シタル旨ノ記載ニ依リテ決行ニ當リテハ軍資金トシテ大川則男ヨリ二回ニ三千五百圓ヲ直接受取リ更ニ二千五百圓カ二千圓ヲ湯澤ヲシテ受取ラシメタルカコノ金ノ内ヨリ警視廳關係ノ方ニ對シ五回ニ合計金千六百圓ヲ軍資金トシテ交付シタル其内四月中旬頃發射シテ後藤團長ニテ後藤團長ニ金三百圓其領山水閣ニ於テ同人ニ金二百圓、四月三十日頃平込ノ林正一方ニテ林正三ニ金五百圓、五月十日頃山水閣ニテ橋本三郎ニ金四百圓、同月十五日水交社ニテ後藤團長ニ金二百圓渡シタル旨及本件決行ニ付自分カ入手シタル武器ハ拳銃十三挺、手榴彈二十一箇、短刀十二口ナル旨自分カ直接行動ニ依リ國家改造ノ必要アリト思フ所以ハ我カ現代日本ハ政治的ニハ官治主義カ制度ニ發達シ其實權ハ政黨政治カ體斷スルトコロニシテ經濟的ニハ資本主義カ制度ニ發達シ少數資本家ノ封建的獨占時代ニ在リ其弊ヲ極度ニ發揮シ政治機構モ經濟機構モ共ニ没落ノ前提ニ在ルカ故ニ相互カ相拮抗トシテ落防シテ全力ヲ傾注シ凡ル意味ニ於テ人民ヲ極限取道シ其向上發展ヲ阻害シ特權階級ハ國民ノ總意ヲ無視シテ政黨財閥ノ傀儡ト爲リ最近ニ於ケ

ル經濟恐慌ニ依リ支配階級ノ腐敗墮落ハ益進セテラ國民ハ之ニ對シ最後ノ闘争ヲ開始セザルヲ得ザルニ至リ而モ支配階級ニ對スル闘争ハ合法的手段ヲ以テ敢行セザルルト謂フコトハ理論上實際上右利得ヘカラサルカ爲ナリ蓋シ合法的トハ支配階級カ認容スルコトヲ意味スルカ故ナル旨ノ記載ニ依リテ決行ニ當リテ自分等カ本件製藥ヲ決行シタル趣意ハ現在ノ政黨財閥、特權階級カ君民ノ間ニ介在シテ二君萬民、君民一體ノ理想ヲ妨グルカ故ニ此理想ヲ實現スルためニハ先ツ此等ノ介在ヲ破壊セザルヘカラストノ信念ニヨリテ憤起シタルモノニシテ現在ノ基本制度ヲ破壊シ之ニ代ルヘキ制度ヲ樹立セントスルモノニハアラス例之ハ現在ノ政黨カ其政治ノ運用ヲ誤リ前示ノ理想ニ背馳スルカ故ニ此政黨ヲ廢絶セントスルニアテテ議會政治ヲ否認セントスルモノニアラサルナリ尤モ自分等カ社會ノ秩序ヲ破壞セハ吾等ノ同志所タル軍部ノ人達カ中樞トナリテ軍政府ヲ樹立スルモノト考ヘ居タリ尙自分等ハ帝都ヲ擾亂シ人心ヲ擧動スルコトカ目的ニテ或一部ノ人ヲ殺傷スレハ足ルト云フニハアラサリシ旨

及自分カ對示五月十五日犯行現場ニ携ヘ行キタル拳銃ハ大川則男ヨリ交付セラレタルモノナル旨ノ各記載ニ依リテ決行ニ當リテ自分等カ對スル豫審判事ノ第一回開問調書中同證人ノ供述トシテ自分ハ昭和六年十二月一日海軍中尉ニ進級スルト共ニ發射機空機飛行學生トナリ艦ケ浦ニ赴任シタルモノナルカ同志ト共ニ國家改造運動ニ從事セムトシタルハ右航空隊ニ於テ當時國家改造ヲ志シ海軍部内ノ同志獲得ニ努メ居タル海軍中尉古賀清志ト握手シテ以來ノコトニ係リ自分モ革命運動ノ實行ニ當ラムコトヲ決意シタルカ當時海軍中尉志ナリシハ故海軍少佐藤井實、海軍大尉濱勇治、海軍中尉古賀清志、山岸法三、上京林正義、海軍少尉村山健之、大庭春雄、伊東龜藏外ニ名海軍機關大尉井上功、海軍大尉藤野英外ニ名、豫備海軍少尉湯澤勇ナル旨ノ記載ニ依リテ決行ニ當リテ自分等カ本件製藥ヲ決行シタル趣意ハ現在ノ政黨財閥、特權階級カ君民ノ間ニ介在シテ二君萬民、君民一體ノ理想ヲ妨グルカ故ニ此理想ヲ實現スルためニハ先ツ此等ノ介在ヲ破壊セザルヘカラストノ信念ニヨリテ憤起シタルモノニシテ現在ノ基本制度ヲ破壊シ之ニ代ルヘキ制度ヲ樹立セントスルモノニハアラス例之ハ現在ノ政黨カ其政治ノ運用ヲ誤リ前示ノ理想ニ背馳スルカ故ニ此政黨ヲ廢絶セントスルニアテテ議會政治ヲ否認セントスルモノニアラサルナリ尤モ自分等カ社會ノ秩序ヲ破壞セハ吾等ノ同志所タル軍部ノ人達カ中樞トナリテ軍政府ヲ樹立スルモノト考ヘ居タリ尙自分等ハ帝都ヲ擾亂シ人心ヲ擧動スルコトカ目的ニテ或一部ノ人ヲ殺傷スレハ足ルト云フニハアラサリシ旨

國家主義系不穩事件論告並判決録

ト申シタル處井上モ同意見ナル旨答ヘタリ其後井上及濱大尉等
カ檢舉セラレタル爲古賀ト相談ノ結果四月中旬ヨリ五月中旬頃
迄ノ間ニ好機會アリ次第集團テロヲ實行スルコト決定メ其準備
ヲ爲シ古賀ハ橋本三郎一派ヲ決行ニ參加セシムルヤウニ運動シ
自分ハ奥田秀夫等ニ連絡ヲ執リ同人等ヲ吾々ノ運動ニ誘致スル
コトトシテ陸軍士官候補生トノ連絡ハ昭和七年三月二十日頃
麻布三聯隊ニ安藤中尉ヲ訪問シ同所ニ居合セタル將校三名及坂
元候補生ニ對シ直チニ脈起ノ要アルコトヲカ説シ陸軍側モ概イ
テ立ツヘキコトヲ勸説シタルニ一同當惑ノ態ナリシカ獨リ坂元
ハ自分モ決行ニ參加セシメラレ度ヲ自分ト同シヲ持ツ者他ニ
十名居ル旨申シタルニヨリ翌二十一日正午頃新大久保隣近ナ
ル池松武志ノ借家裏家ニテ會見スルコトヲ約シタリ次右二十
日自分ハ東京市外野方町新井林太郎方ニ於テ奥田秀夫ト會ヒ
同人ニ對シ我々ハ近々工業俱樂部裏會館等ヲ襲撃セムトノ計
畫ヲ樹テ居ル故參加セラレ度キ旨ヲ告ケタルニ同人ハ國家ノ爲
ナラハ何時ニテモ命ハ捨ツル決行ノ際ニハ是非參加シ度シトノ
事ナリシヲ以テ後日再ヒ來訪スル旨ヲ述ヘテ歸去シタル旨ノ記
載

チニ賛成シタリ其頃自分等ハ海軍側同志ニモ手紙ヲ以テ連絡ヲ
圍リ同月二十八日頃ヨリ三十日迄ノ間古賀ト相談ノ結果土浦町
大和町ノ來稿萬之助方ニ於テ所謂五一五事件ノ第一次計畫ヲ
樹テ其後種々ノ事情ヨリ此計畫ヲ變更シ同年五月十五日決行迄
ニハ同年四月十日頃同月二十七日頃同年五月一日頃及同月十二
日頃ノ四回ニ互リテ計畫ヲ樹テ直シ結局其第五次計畫ヲ實行シ
タル旨ノ記載

國家主義系不穩事件論告並判決録

同上第五回調書中同證人ノ供述トシテ昭和七年四月十三
日山水閣ニテ奥田秀夫ニ會ヒ更ニ同月十六日大塚芳雄方ニテ奥
田ト面會シ其都度偵察狀況ノ報告ヲ受ケ同月十九日ニハ山水閣
ニ於テ古賀ト共ニ池松武志ト會ヒ我々兩名ヨリ議會襲撃計畫
ノ内容ヲ告ケ更ニ議會ノ偵察ヲ依頼シ今後ハ池松武志ト共ニ連
絡ノ上偵察アリ度キ旨ヲ述ヘ向池松ヨリ古賀ニ襲撃場所ノ偵察
見ヲ交付シ古賀ヨリ池松ト對シ同月二十四日坂元候補生トノ會
見ノ連絡方ヲ依頼シタリ而シテ右二十四日正午頃自分ト古賀ト
ハ明治神宮外苑禮堂前ニテ池松、坂元ト會ヒ坂元ト下宿ナル
土着學校附近ノ某家裏店ニ赴キ右兩名ト計畫遂行ノ付相談シ同
月二十七日ニハ古賀ト共ニ山水閣ニ於テ奥田ニ會ヒ池松ニ宛テ
タル軍資金ニ關スル手紙ヲ託シタリ右二十七日頃自分等ハ第
三次計畫ヲ樹テタルカ日時ハ記憶セサルモ現ニ角其頃自分ト古
賀トカ山水閣ニ於テ橋本三郎ニ會ヒタル際古賀ヨリ五月十五日ノ首
相官邸ニ於ケルチャップリン歡迎會ヲ襲撃スル豫定ナル旨ヲ話
シタルニ橋本ハ變電所襲撃ノ計畫ヲ決定シタル旨申シタリ次同
月二十八日九州地方同志トノ連絡ヲ執リ土着シタル襲撃勇ト土
浦町東郷館ニ於テ古賀ト共ニ會見シ襲撃計畫ニ付相談シ同月三
十日ニハ牛込東五軒町林正一方ニ於テ古賀ト共ニ林正三、橋本
三郎及後藤團彦ト會見シ計畫ニ付話シ其際古賀ハ林正三ニ對シ
軍資金五百圓ヲ手交シタル旨ノ記載

ハ確實性ナキカ故ニ第三次計畫ヲ變更シ第四次計畫ヲ樹テ自分
等ハ首相官邸内大臣官邸、工業俱樂部、警視廳ヲ手榴彈、銃ヲ
以テ襲撃シ橋本三郎一派ハ我々ヲ決行ト同時ニ別働隊トシテ東
京市内外ノ變電所ヲ襲撃シ密着ノ暗黒化ヲ企ツルコトトシ向川
崎長光ヲシテ西田祝晴ヲ爲サシムルコトモ其内容トシタリ右
計畫ヲ樹テ後古賀ト共ニ同月二日山水閣ニ於テ山岸大下會ヒ
右計畫ニ付話リ翌三日同所ニ於テ奥田秀夫ト面會シ同人ニ對シ
五月十五日決行ノ豫定ナル故池松ニモ其旨傳ヘ尙明四日山水閣
ニ來訪スヘキ旨ノ傳言ヲ頼ミ翌四日同所ニ於テ池松ト會見シ古
賀ハ池松ヨリ議會、首相官邸、牧野内府官邸等ノ偵察圖及目標人
物ノ寫眞等ヲ受取リ同月八日士官候補生ト會見シ得ルヤウ連絡
方ヲ依頼シタリ同月五日ニハ古賀ト共ニ東郷館ニ於テ襲撃勇ト
會見シ今同ノ計畫ニ付各種協議シ同月七日ニハ林新太郎方ニ
於テ奥田ト會ヒ十五日ニ決行スル積リナル旨ヲ告ケ同月九日ニ
ハ山水閣ニ於テ古賀ト共ニ後藤團彦、襲撃勇ト會見シ襲撃手
榴彈六箇ヲ林正三ニ渡シ使用方法ヲ説明シ置キタル旨ヲ報告シ
翌十日ニハ山水閣ニ於テ奥田ト面會シタルトコロ同人ヨリ十五
日ニハ内大臣ハ宮中武道大會ノ爲日中ハ不在ナルヘシ工業俱樂部
部ハ財界ノ巨頭ノミノ集合場所ニ非ス殊ニ二十五日ハ日曜ナレハ
何人モ同所ニ集マラサルヘク之ヲ襲撃スルモ無意味ナル旨ヲ話
アリタルヲ以テ古賀ト相談スル故十三日ニ來訪アリ度キ旨ヲ告
ケ池松ニモ同様傳言方ヲ依頼シ尙奥田ヨリ池松ヨリ古賀ニ宛テ
タル十五日ハ日曜日ニテ工業俱樂部ヲ襲撃スルモ無意味ナル故致

國家主義系不逞事件論告裁判決録

友會本部三井又ハ三菱銀行或ハ其本社ヲ襲撃シテハ如何尙軍資金百圓買ヒ度キ旨ヲ認メタル手紙ヲ預リタリ右十日ニハ其外同所ニ於テ兩率三郎ニモ同會シテ三月十二日夕方山水園ニ於テ自分ト古賀トハ後藤園遊ニ會ヒ翌十三日夕刻決行時間ヲ決定スル故來訪アリ度シト告ケタル旨ノ記載...

上京シ上野驛ニ於テ黒岩三上ノ兩名ニ會ヒ四人ニテ水交社ニ赴キ次テ黒岩ノ持チ來リタル手榴彈中二箇ヲ抛ヘテ同日午後七時過頭水交社ヲ出テ青山六丁目附近ノ藤原屋ノ二階ニ於テ奥田秀夫ニ對シ手榴彈一箇ヲ擲シ使用方法ヲ教ヘタル旨ノ記載...

國家主義系不逞事件論告裁判決録

中島候補生トハ自動車ニ乗り居タリ右金満候補生ハ車寄ノ左側ニ行キ車道ト歩道ノ中間ヨリ同建建物目録ケ手榴彈一個ヲ投擲シタルカ不致ニ終リタルヨリ同人ハ更ニ之ヲ拾ヒ略同位置ヨリ再ヒ建物ニ向ヒ投擲シタルトコロ電柱ニ當リ炸裂シタリ此時警...

シテ質實關係ナル傳説的傳説ニ立返ラシメ名實共ニ天皇親政ノ日本ヲ實現セシムルコトハ我々ノ任務ナリト思惟シ其手段トシテ先ツ支那階級ニ對シ直接行動ヲ決行シ國民ノ自覺ヲ促サム...

シテ稱ニ渡シ吳レト申シタリ自分ト古賀トハ夫レヨリ土浦町ニ
向ヒタルカ其途中古賀ト稱ノ借家ハ男世帯ナレハ人ニツキ易
ク亦發覺ノ恐アル故手榴彈ハ自分ノ友人方ニ於テ手交スヘキ旨
ノ相談ヲ爲シタリ同夜自分ハ東郷館ニ於テ中村義雄ト會見シ種
種計畫ニ付談合シタル結果連絡ノ爲ニ世保ニ歸リ五月五日東京
スルコトトシ尙古賀ト相談ノ上テ手榴彈六箇ハ五月六日東京府下
王子町下十條千五百番地田代平方ニテ橋一派ニ手渡スコトト
定メタリ翌二十九日午前中松尾助光方ニテ先ニ預ケ置キタル手
榴彈入トランクヲ受取リ之ヲ田代平方ニ預ケタル爲メ同人ノ借家
ニ到リタルカ同人カ歸郷不在ナリシヨリ松尾助光ニ依頼シテ右
借家ノ家主ノ家ニ右トランクヲ預ケシメテ難荷ケ谷ノ橋ノ借
家ニ於テ後藤園彦ニ會ヒ手榴彈ノ鑿針ヲ示シテ手榴彈ノ使用方
法ヲ教ヘ聞モノク橋及林正三モ戻リ來リタルヲ以テ同人等ニ對
シ手榴彈ハ五月六日田代平方ニテ渡ス旨ヲ告ケ林正三ニ對シ田
代平ノ所傳ヲ渡シ尙二三相談シテ同家ヲ離シ四月三十日東京出
發郷里ニ向ヒタル旨ノ記載...

午寅手榴彈一箇ヲ持テ原宿驛ニ來レトノ話アリ中村ヨリ聞カ林
正三ヲシテ手榴彈受領ノ爲田代平ニ赴カシムルニ付手渡シ吳レ
ト自分ニ傳言アリタル旨ヲ告ケラレ翌六日古賀ヨリ發六挺
彈丸二十五發入トランクヲ託セラレ東京タリ而シテ
兼少シ前頃田代平方ニ行キ直チニ家主ニ預ケタルトランクヲ受
取リ來リ支關ニ置キ待チ居タルコロ同日午後三時カ四時頃林
正三カ參リタルニヨリ支關三疊ノ間ニ於テ同人ニ手榴彈六個ヲ
手交シ尙其實物ニ付紐立法使用法等ヲ教ヘ投ケ方ノ注意ヲ與ヘタ
ルニ同人ハ手榴彈ヲ持參ノトランクニ入レ間モノク離シ去リタ
リ翌八日ハ手榴彈一箇ヲ携ヘ正午原宿驛ニ到リ古賀、池松及
土官候補生三名ト會ヒ種々打合ヲ爲シ手榴彈ヲ取出シ其使用
方法ヲ教ヘ古賀ヨリ決行日ハ十五日トシ時刻ハ十三日ニ決定ス
ル旨ヲ告ケ尙同人ハ自分ニ對シ池松カ最後ノ決定案ヲ持チ十三
日午後十時二十分上野野原ノ列車ニテ土浦ヨリ歸ルコトニ致ス故
ソレヨ受取リ地方ヨリ東京スル同志及山岸、村山ニ傳ヘテ吳レ
ト申シ池松ヲ自分ニ紹介シタリ右會合ヲ打切リ同家ヲ出テヨリ
自分ハ山岸ト十四日ノ連絡方法ヲ打合セタリ翌九日午前中塚野
道雄、三上卓宛宛々打合セノ手紙ヲ差出シ同日午後六時頃山岸
閣ニ於テ古賀、中村及後藤園彦ト會見シ林正三ニ手榴彈六個ヲ
渡シタル事等ニ付報告シタル旨ノ記載...

ヨリ自分ハ同人ヲ出迎ヘ同人ヨリ實行計畫及注意事項等身入ノ
古賀ノ手紙一通ヲ受取リ翌十四日午前中横濱驛ニ三上卓ヲ出迎
ヘ東京ノ上、京橋吳服橋際ノ旅館名館ニ入り三上卓ニ前後受
取リタル計畫書ヲ説明ヲ爲シ同人ト製案計畫ニ付相談シ次テ同
日午後四時十二分上野野原ノ汽車ニ同合ヲヤウ古賀等ニ渡ス
手榴彈、鑿針等ヲ入レアルトランクヲ携ヘ三上ト共ニ難荷谷橋ヲ
出テ上野驛ニ到リ同驛ニテ土浦ヨリ東京シ來レル古賀、中村ヲ
迎ヘ同自動車ニテ水交社ニ入り同所ニテ相談ノ上精製製計
畫進行ニ付横須賀トノ連絡ヲ執ルコトトシテ水交社ヲ辭去シ同
日田代平ニ依頼シテ横須賀ニ赴キ村山ニ對シ靖國神社ニ午後五
時集合スルコトト爲リタル旨ヲ傳ヘ實ヒ尙十五日午前中ニ水交
社ニ古賀ヲ訪ネルヤウ傳言セシメタル旨ノ記載...

ハ途中ニテ自動車ヲ停メシメ裏門前ノ自動車ニ到リ發銃一挺ヲ
受取リ來リ再ヒ自動車ヲ進メ間モノク古賀首相官邸正面玄關ニ到リ
二同下車シ表玄關内ニ入リタリ附近ニハ人ノ影モ見エザリシカ
首相ハ平常日本間ニ居ルコトヲ聞キ居タル故ソレヨリ大發首相
ヲ探ス積リニテ玄關ヨリホールニ出テ右方ノ奥迄行キタルモ犬
糞首相カ平素居ル日本間ノ所在判明セザリシ故ニ再ヒ玄關ニ引
返シタルコロ背後服ノ男カ參リタルヨリ同人ニ案内セシメテ
應接間ニ入り三上ハ同人ト問答シ居リタルカ其ノ時表玄關ヲ見
ルト二三人ノ人影カ見エタルヲ以テ自分ハ三上トモウ駄目ぞト
申シタリ三上ハ何カ謂ヒタルヤウナリシカ間モノク其男ヲ先頭
ニ其部屋ヨリ「ホール」ニ出テタリ其時離カカ其男ニツイテ行ケ
ト申シタル故自分ハ發銃ヲ其男ノ背ニ付ケ首相ノ所ニ案内セヨ
ト脅迫シタルカ其男ハ懸テ表玄關ノ前庭ニ逃去リタリ自分ハソ
レヨリ同官邸ノ二階ニ昇リ次テ階下ニ降り三上等ト會ヒ二同奥
ニ進ミ裏玄關内側ノ廣間ニ出テタル際奥ニ向ヒ左前方ニテ發銃
左ニ曲ケ左腹邊ヲ仰ヘ射メキキテ出テ來リ部屋ノ内ニハ三上カ
發銃ヲ右手ニシ居ルヲ認メタルヲ以テ自分ハ三上カ射撃シタ
ルモノト直感シタリ其處ヨリ更ニ日本間ニ進ミ途中山岸ト會ヒ
同人ト共ニ黨所ニ行キ又引返シ黨所ニ進スル廊下ト下字形ヲ爲
セル廊下ノ右方ヲ見ルト三上カ大發首相ト致ヒテ來リタルニヨ
リ之ニ近付キ首相ヲ中央ニシテ其左側稍後方ニ致ヒ内玄關ニ向
ヒテ進ミタルカ自分ハ後方ヨリ來ル婦人ヲ認メコレヲ後方ニ去

國家主義系不穩事件報告裁判決録

ラシメトシ數歩引返シ交渉シタルトコロ婦人ハ何モ答ヘサリシヲ以テ他ノ同志ノ後ヲ追ヒ廊下ノ右側ノ日本間ニ入りタリ日本間ニ於テハ首相ハ床ヲ背ニシテ中央ノ卓子ノ右側ニ座シ其斜右前方ニ三上及拳銃ヲ右手ニシテ立テ正面卓子ノ右側ニ山岸カ立チ同入ト殆ト被ヒテ村山カ立チ右兩名ノ後方ニ土官候補生五名カ立ヒ居タリ自分カ同室内ニ入ラムトシタルトキ誰カカ「撃テ」ト申シタルヲ以テ自分ハ村山ノ右側ニ立テ同時ニ右手ノ拳銃ヲ前方ニ突山首相ニ向ヒテ發射シタリ之ト同時ニ首相ハ腹部左寄リノ所ヲ兩手ニテ抑ヘ槍前方ニノリ身體ヲ左側ニ傾ケタリ其時ドント調ヲ拳銃ノ音カシタルヨリ其方ヲ見タル二三上ノ拳銃ヨリ槍カ出テ居リ首相ノ右額部前方上部ニ血ノ輪ノ如キモノヲ生シ居ルヲ認メタルカ首相ハ漸次頭部ヲ下ケ倒レタリ仍テ一同相前後シテ其場ヲ引上ケ内支關ヨリ戶外ニ出テタルカ内支關ヨリ車寄ノ内部ヨリ見テ右側ニ出テタル際警察官數人ハ男カ木刀ヲ振ヒ來リタルヲ以テ「射ツ」ト怒鳴リタルト人ハ車寄ノ前方ヲ左方ニ向ヒ駆出シタル故同人ニ向ケ拳銃ヲ上ヨリ下ニ振下ケテ發射シタリ自分ノ射タル彈丸カ其男ニ當リタル事ハ後日警察官ヨリ聞キテ知リタリ夫レヨリ直チニ同官邸裏ニ向ヒ裏門ヲ出テ赤坂池邊ノ電車道ニテ自動車ヲ呼止メ村山及土官候補生二名ト共ニ之ニ乘リテ警視廳ニ向ヒ間モナク到着シ一同警視廳附近ニ自動車ヲ停メテ下車シ一同正面支關ノ上ヨリ更ニ二階ニ到リタルモ何人モ居合セザリ故自動車ヲ引上ケ東京憲兵隊本部ノ表門ニ到リ一同下車シタルカ同所ニ於テ更ニ自分

ヨリ日本銀行襲撃ヲ提案シタルトコロ一同賛成シタルヨリ直チニ自動車ニテ日本銀行ニ赴キ向ツテ右側ノ橋門附近ノ道路ニ自動車ヲ停メ一土官候補生ニ對シ手榴彈ヲ投スヘキコトヲ命ジタルニ同候補生ハ村山ト相前後シテ下車シ同銀行ノ外庭ニ入り中央積込ノ右手近ク迄進ミ同銀行建物を向ヒ手榴彈一個ヲ投擲シ自動車ニ引返シタルニ間モナク手榴彈ハ炸裂シタルヨリ一同自動車ニテ東京憲兵隊本部ニ引上ケタル旨ノ記載
(六) 証人山岸宏ニ對スル同上第一回訊問調書中同証人ノ供述トシテ自分ハ海軍中尉ニシテ現在待命中ナルカ昭和六年一月以來日本國家改造運動ニ從事セムト志シ海軍部内ノ同志等ト共ニ努力シ來リタルモノニシテ昭和七年五月十五日古賀清志等カ首相官邸ノ内大臣官邸等及東京近郊ノ變電所ヲ襲撃シタル際ハ其計畫實行ニ參加シ首相官邸ヲ襲撃シタリ自分ハ同年四月二十二日横須賀鎮守府ニ轉任シタルカ其頃假ケ浦船廠ノ古賀清志ヨリ二回程機務ノ報告ヲ受ケ其後數回同人及中村義雄ト會見シ計畫ノ進行狀態ヲ聞キタルモ要スルニ古賀等ノ明テタル計畫ニ同意シ其實行ニ關與シタルモノナル旨ノ記載
同上第二回訊問調書中同証人ノ供述トシテ昭和七年五月十五日村山ト共ニ東京市午前十一時頃水交社ニ赴キ古賀清志ニ會ヒ同人ヨリ實行計畫ノ説明ヲ聞キ同人ト該計畫ニ付談合シ同人ヨリ拳銃ノ配付ヲ受ケ且ソノ使用方法ノ教ヲ受ケタリ次午後二時半頃憲兵三上モ來リ間モナク一同軍服ヲ着シ出發シ準備ヲ調ヘ同日午後三時十五分頃表門ノ三上及眞岩カ出發シ約十

國家主義系不穩事件報告裁判決録

分ノ後裏門組ノ自分村山ト出發シ途中車輪ノ家ニ立寄リ九段ノ向ヒタリ午後五時頃靖國神社ニ到リ先着ノ三上、眞岩及二三名ノ土官候補生ト會ヒ眞岩ニ決行時間ヲ聞キ、大島屋ノ下ニ裏門組ノ候補生二名ト一緒ニナリ午後五時少シ過キタル頃自動車ヲ呼止メ表門組ノ自動車ニ積キ首相官邸ニ向ヒタリ其自動車ニ於テ村山カ武器包ヲ開キ四名ハ夫々拳銃一挺宛テ所持シ尙候補生二名ニ手榴彈一個宛テ手交シタリ暫クシテ途中ニテ表門組ノ自動車カ停車シタルヨリ自分等モ自動車ヲ停メタルトコロ三上カ前方ノ自動車ヨリ自分ニ對シ拳銃ヲ渡セト申シタルヨリ所持シ居タル彈倉ノ工合懸キ拳銃ト換ヘテ一發宛裝填セヨト注意シタリ夫レヨリ再ヒ進行シタルカ車中ニテ自分ハ村山ヨリ手榴彈一個ヲ受取リ右ポケットニ入レ置キタリ間モナク午後五時三十分頃前方ノ自動車カ首相官邸ト表札ノ掛ケアリシ大邸宅ノ門内ニ入り支關ニ横付ケトナリタルカ自分等ノ自動車モ之ニ横カムトシタルヨリ自分ハ之ヲ停車セシメ更ニ後退セシメ直チニ表ニ向ツテ左方ニ進ミ眞岩ト辻ヲ右ニ廻リ其處ヨリ右側ニツノ辻ニテ下車シ裏門ヲ見付ケ同所ヨリ裏支關車寄ニ到リ官邸内ニ入りタルカ其時内部ヨリ背腹照リ男カ腹ヲ押ヘ乍ラ「ヤラレ」ト謂ヒツツ出テ來リタリ自分ハ二土官候補生ニ戸口ヲ警戒セシメ置キテ内部ニ進ミ表門組ト出會ヒ廊下ヲ右ニ進ミ自分ト眞岩トハ右側ノ室ヲ三上ハ左側ノ室ヲ踏檢シ乍ラ進ミ裏所ニ行キ更ニ元來リタル所ヲ引返カムトシタル際右手廊下ヨリ首相ハ右ニ三上左ニ眞岩ニ護ラレ退避シテ話シタリ判ルタラ

ウト云ヒ乍ラ歩ミ來リタルヨリ之ニ隨ヒ日本間ニ入りタリ首相ハ部屋ノ中央ニアル角型卓子ノ右側ニ床ヲ背ニシテ座シ三上ハ卓子ヲ距テ首相ノ斜右側ニ土官候補生二名ハ卓子ノ首相ノ反對側ニ立チタリ自分ハ大邸宅ニ入室内ニ入り首相ノ正面ニ立チ居タリ首相カ三上ト問答ヲ爲シ居ル時自分ハ首相ノ顔ヲ監視シ居タルカ其中ニコミ上ケテ來ルヤウナ氣持ニナリ大邸宅ニ「撃テ」ト號令シタルトコロ三上カ「ヨシ」ト云ヒタリ其時首相ハ右手ノ拳銃ヲ前方ニ向ケ顔ノ直前ニ懸シ左手ヲ後ニ引キ身體ヲ稍後方ニ反ラセタリ見ルヤツレト同時ニ眞岩カ自分ノ右斜前ニ出テ來リタルカ其際拳銃ノ音カ聞エ首相ハ直チニ兩手ニテ腹部ヲ抑ヘ右斜前ニ隔ミタリ其時再ヒ拳銃ノ音カシ其際首相ノ向ツテ左額部ニ於テ稍上方ニ出血シ首相ハ左方ニ倒レタリ仍テ自分ハ引上テ命シ廊外ニ出テ溜池邊リニ於テ自動車ヲ廻ヒ三上及候補生三名ト共ニ襲撃ノ目的ヲ以テ警視廳前ニ到リ同証人ノ様子ヲ窺ヒタルモ別ニ眞岩ナカリシ故憲兵隊本部ニ自分申出テタリ時ニ午後五時五十二分ナリ旨ノ記載
(七) 証人三上京ニ對スル同上第一回訊問調書中同証人ノ供述トシテ自分ハ海軍中尉ニシテ現在待命中ナルカ昭和五年七月頃ヨリ國家改造運動ニ從事セムト志シ昭和七年二月民間團ノ同志井上昭等カ個人テロ計畫ヲ爲シタル後ヲ承ケ海軍側同志カ中心トナリ策謀テロ實行ノ準備ヲ爲シ同年五月十五日古賀清志等カ首相官邸、内大臣官邸等及東京近郊ノ變電所ヲ襲撃シタル際首相官邸ノ襲撃ヲ爲シタル旨ノ記載

國家主義系不穩事件論告裁判決録

同上第二回調書中同証人ノ供述トシテ吳ニ轉任ノ後昭和七年四月二十六日ヨリ八日間航海休暇ヲ貰ヒ郷里在實縣ニ歸リ五月三日武蔵野ノ東洋館ニ於テ黒岩勇ト會合シ襲撃計畫實行ニ付協議シタル外同月五日迄ノ間佐世保ノ同志ト會合協議シ同月五日及七日ノ二回黒岩ニ手紙ヲ差出シ襲撃計畫ノ打合ヲ爲シ七日朝吳ニ歸リ同月十二日黒岩ヨリノ通知ニ依リ決行日時ヲ知り翌十三日午後一時五十分吳ヨリ上京ノ途ニ就キ翌十四日朝橫濱驛ニ黒岩ノ出迎ヲ受ケテ上京シ龍名館ニ投宿シ黒岩ヨリ實行計畫書ヲ示サレテ具體的計畫ヲ知り更ニ同日午後四時十一分上野驛ニ於テ當日上京シ來ル古賀、中村兩名ヲ迎ヘテ水交社ニ赴キ種々計畫ニ付談合シタル旨ノ記載...

一一一

門組ニ行キ居ルトノコトナリヨリ自動車ヲ停止シ門組ノ自動車ニ到リ山岸ヨリ拳銃一挺ヲ受取り來リ再ヒ自動車ニ乘リ同日午後五時三十分頃首領官邸正面玄関ニ自動車ヲ横付ケトシ一同下車シタリヨリ黒岩ト共ニ先頭ニ立テ玄関ヨリ内部ニ進ミ大森首相ヲ求メテ階上ノ開議室ニ階下ノ控室等ヲ探ス中奥ニ通スル廊下ヲ發見シタルヨリ其廊下ヲ進ミ階段ヲ降リタリ處ニテ黒岩等ト會ヒ自分ト黒岩カ先ニ立ツテ進ミ行クト其廊下ノ前方ノ板戸ニ鍵ヲカケル音ヲ聞キタルヨリ其内カ日本間ナラント思ヒ該板戸ヲ蹴破ツテ裏玄関ノ内側ニ在ル廣間ニ出テ更ニ奥ニ向ツテ左側ノ部屋ニ進入リタルニ背後服ノ男ニ名原台セタルヨリ「名ノ男ニ拳銃ヲ突付ケ」首相ノ居ル處ヲ言フト申シタルコトヨリ其男ハ反抗的ナル態度ナリシヲ以テ自分ハ同人ノ腰部ニ向ヒ拳銃ヲ發射スルニ同人ハ兩手ニテ腹部ヲ抑ヘ倒レサウニナリ乍ラ其儘廣間ノ方ニ立去リタリ更ニ自分ハ他ノ一人ニ對シテ「居所ヲ言ヘ」言ハヌト貫様モ之ヲソト勢迫シタルニ同人ハ「知ラヌ」ト申シタルヨリ同人ヨリ開クコトヲ斷念シ廣間ニ戻リ日本間ノ奥ニ通スル廊下ヲ奥ニ進ミ裏所ニ通スル廊下カ右ニ伸ヒ居ル所ニ出テ更ニ廊下ヲ直進シ進ミ外廊下ニ出テ右ニ曲リタル角ノ部屋(京子ヤ銅鹿品ノ様子ヨリ食堂ナルコト判リタリ)ニ入りタルニ其部屋ノ中央ノ卓子ノ向側ニ兩手ヲ卓子ニ突クニ自分ノ方ヲ見テ立テ大森首相ヲ發見シタリ尙首領官邸側ニハ背後ノ男一人、和服ヲ男一人入りタリ首相ハ自分カ其部屋ニ進入ルト同時ニ卓子ヨリ手ヲ放シ一二歩後退シタルカ自分ハ

國家主義系不穩事件論告裁判決録

直チニ首相ノ顔面ニ拳銃ヲ發射シコラツト云ヒ乍ラ拳銃ノ引金ヲ引キタルモ彈丸カナカリシタメ發射セズ自分ハ其場ニテ拳銃ヲ左ニ持換ヘ首相ニ突付クタル儘右ボケツヨリ彈丸ヲ一發取出しシテ裝填シタリ其際首相ハ兩手ヲ前ニ出シ自分ヲ制スルカ如キ態度ニテ「マア待テ話ヲスレバ」判ルチヤナイカコツチデネルニル話ヲ仕様、話ヲ聞ケバ判ルコトチヤラウ」ト云ヒ乍ラ自分ニ近ツキ來リ夫レヨリ首相カ先ニ立ツテ外廊下ニ出テタリ自分ハ首相ト致ヒテ廊下ヲ表玄関ノ方ニ進ミタルニ途中ニテ黒岩山岸其他ノ同志モ駆付ケ來リタルカ首相ハ先ニ立ツテ日本間ニ進入リタリ其部屋ニ中央ニ卓子カ入り入口ヨリ向ツテ右ニ床ノ間カアリタルカ首相ハ床ノ間ヲ背ニシテ卓子ノ右側ニ座リタルヨリ自分ハ卓子ノ反對側首相ノ斜左前方ニ立チ山岸ハ卓子ヲ距テテ相對シ其右ニ村山カ居リ其後方ニ候補生カ何名カ立チタリ首相ハ「黒岩」ト呼ビタルコトヨリ首相ハ其時山岸ハ「問答ハ要ラヌ」ト叫ビタルトコヨリ首相ハ何レカノ手ヲ前方ニ差出しタリ自分ハ「ヨシ」ト謂ヒ乍ラ右手ノ拳銃ヲ首相ノ頭部ニ突出シタル際首相ノ斜左方ニ拳銃ノ音カ致シ同時ニ首相ハ腹ノ邊ヲ抑ヘ乍ラ前方ニ上體ヲ傾ケタルヨリ自分モ其頭部ノ頭部ヲ狙ヒ拳銃ヲ發射シ首相ハ右額部損傷上ヨリ出血シ頭部ノ前方ニ下ケタリ、其時山岸ノ引上ケノ命ニ依リ一同表玄関ヨリ屋外ニ出テ自分ハ最後ニ出テタルカ裏門近クニ到リタル際返返リ見タルニ後方五十米先ニ二三名ノ男カ居リ其ノ中ノ一人ハ拳銃ヲ手ニシテ走り來ルヲ目撃シタルヨリ自分ハ門外ニ向ツテ

一一三

走りツテ、アリン同志ニ向ヒ手榴彈ヲ投ケト叫ビシカ應スル者ナカリキ、官邸ノ裏門ヲ出テ少シ行クト交番カアリ制取遊査ニ名私服ノ男一人居リ制取遊査カ道路ノ中央ニテ兩手ヲ擴ケ我ヲ制止セシメタルヨリ自分カ拳銃ヲ發シテ威嚇シタルコトヨリ同人等ハ逃ケ去リタリ夫レヨリ自分ハ電單車ニ出テ自動車ニ乘リ山岸及候補生三名ト共ニ警視廳ニ行キ同所ヨリ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載...

國家主義系不穩事件論告裁判決録

方法ヲ教ヘ尙自分ニ懸念自働人員ノ配置等記載ノ計畫案ヲ示シテ...

シヨリ岩岩ノ提案ニテ日本銀行ヲ襲撃スルコトシ同銀行ニ向ヒ...

二一四

ツ命シ屋内ニ進ミタリ自分モ之ニ續キ窓所ニ到リ更ニ表裏開ク...

國家主義系不穩事件論告裁判決録

シヨリ岩岩ノ提案ニテ日本銀行ヲ襲撃スルコトシ同銀行ニ向ヒ...

二一五

正ノ烽火ヲ擧ケントノ志ヨリ本件ノ襲撃計畫ヲ樹ツルニ至リタ...

古賀ハ陸軍士官候補生十一名ト連絡カツキ村山格、山岸宏等ハ横須賀轉任トナリ精海軍將校七名士官候補生十一名カ主トナリ特別議會開會中ノヲ襲撃スル豫定ニシテ手榴彈ハ三上京カ既ニ入手シ居ルニ付愛郷熱ノ方ヘモ分與スル積リナリ尙來週ノ月曜又ハ火曜ニ軍費金ヲ渡ス故受取リニ來ルヘキ旨ヲ告ケ自分ハ兩中尉ニ對シ愛郷熱生及井上昭ノ同志堀川等ヲ襲撃計畫ニ參加セシムルコト及東京市内外ノ襲撃所ヲ襲撃スルコトヲ告ケタルニ兩中尉ハ異議ナク之ヲ承諾シタリ次ニ熱生ヲ此計畫ニ參加セシメタルハ、襲撃計畫ヲ後藤ニ話シタル二、三日後ハコトニシテ愛郷熱ニ於テ夜中塙五百枚ヲ呼起シ熱生至ニ呼ヒ本件襲撃計畫ヲ告ケ參加スルヤ否ヤヲ問キタルコト同入ハ之ニ賛成シテ參加ヲ承諾シ矢吹正吾、大員朝野兩名モ同様願次參加セシメ右三名ト相談ノ上小筆力也ヲ參加セシメ右各人ノ參加ニ付後藤ノ事後承諾ヲ得タリ、福水秀則ハ當時紫山熱ニ居タルカ同年四月五、六日頃愛郷熱ニ呼寄セ、今同ノ襲撃計畫ノ一切ノ事情ヲ告ケテ參加ノ承諾ヲ得續須賀久雄ハ親元ニ歸リ居タルカ矢吹、大員、堀ノ三名ニ對シテ横須賀ニ話シテ設置ト命シタルヨリ其結果參加スルニ至リ春田信義ハ同年五月一日出陣シ計畫ヲ上海事變ヨリ歸リタル故塙、矢吹、大員、小室ヲシテ此計畫ヲ告ケシメタル結果參加スルニ至リタルモノナリ宮本宗雄ニハ同年四月三日愛郷熱ニ於テ後藤及自分ヨリ話シ宮本モ立ッコトナリタリ尙同月一日後藤ヲシテ堀川ト會見セシメ堀川長光ニ來案方ノ傳達ヲ乞ヒ同月五日堀川ト愛郷熱ニテ面接シ四月一日古賀ヨリ聞

キタル程度ノ話ヲ爲シ同月十二日後藤ハ山水閣ニ到リ古賀ヨリ金二百圓ヲ受取リ來リタルヲ以テ自分ハ其内百圓ヲ運動資金トシ自分ノ手ニ殘シ残りノ百圓ヲ後藤ニ手渡し置キタリ右ハ大川周明ヨリ出テタル金ナリ次同月十六日頃古賀山崎カ愛郷熱ニ來リタルヨリ會見相談シタルカ同入ハ海軍將校七名士官候補生十一名カ參加シ既ニ手榴彈ヲ入手シタルヨリ之ヲ以テ内大臣官邸、議會、警視廳、政友會本部、日本銀行、三菱銀行東京日東、京朝日新聞社等ヲ襲撃シ同時ニ愛郷熱側ニテハ東京市内外ノ襲撃所ヲ襲撃シ帝都ヲ暗黒化スル計畫ナル旨ヲ告ケ自分ハ計畫相談ノ場所トシテ東京ニ借家スルコトヲ話シ古賀ハ打合ノ爲毎週木曜日ニ山水閣ニ來ルヘキ旨ヲ申出テタリ翌十七日ニハ林正三ト二人ニテ上京シ林ノ手ニ雜荷ケ谷家屋ヲ借受ケ同月十九日林正三ト共ニ山水閣ニ到リ中村中尉ト會見借家シタルコト等ヲ語り翌二十日後藤ハ塙、矢吹、大員、小室ヲ連レテ龍ヶ浦航空隊ヲ見學シ古賀ヨリ金三百圓ヲ受取リ來リタルヲ以テ之ヲ受取リタリ右三百圓モ大川周明ヨリ出テタルモノナリ同月二十一日後藤ト共ニ山水閣ニ古賀、中村兩中尉ヲ訪問スルヤ古賀ハ陸軍士官候補生カ瀋洲見學ニ赴キ五月十四日歸京更ニ同月十八日富士ノ裾野ニ演習ニ行クコトナリ居リ一方今同ノ計畫カ其筋ニ洩レ居ルカ如キ疑アリ到底臨時議會ヲ待ツコト能ハザルヨリ計畫ヲ變更シ五月十四、五兩日中ニ決行スル豫定ニシテ議會襲撃ハ之ヲ見合セ首相官邸ヲ目標トスル事トシ其他ハ從前通りナルカ新聞社ト襲撃ハ之ヲ中止スルコトニシタル旨及民間ヨリ

池田武志、奥田秀夫ノ兩人ヲ該計畫ニ參加セシムルコトナリ同人等ハ目下襲撃場所ノ出入狀態等ヲ東京ニ於テ調査中ナル旨ヲ述ヘ尙西田祝ハ我々ノ今回ノ行動ニ對シ積極的助言ヲ爲シ海軍副將校カ陸軍ノ統制ヲ紊ルト宣傳シ陸軍士官候補生カ瀋洲及富士ノ裾野ニ行クノモ右西田ノ指金ナリ殊ニ警視廳方面ニ今同ノ計畫カ洩レ居ルカ如キ疑アル現在此種放置セハ西田ハ如何ナル行動ニ出ツルヤモ知レズ彼ハ裏切者ナレハ彼ヲ清算スル必要アリ就テハ彼ト面談アル川崎長光ニ勸メテ西田暗殺ヲ引受ケシムル様盡力アリ度旨ヲ告ケタル故之ヲ引受ケタリ、自分等カ右計畫ニ依リ首相官邸、内大臣官邸、政友會本部、銀行等ヲ襲撃スルハ特權階級政黨ノ代表的ナルモノナルカ故ニシテ警視廳ハ政黨ノ襲撃ニ甘スルカ爲ナリ尙襲撃ニ際シ大憲法根在耶セハ殺傷セラルルカモ知レサル事ハ勿論想像シタリ右二十一日ノ古賀ノ話ノ内容ハ林正三及參加熱生等ニモ告ケタルカ西田祝ニ關スル部分ハ其際ハ話サズ尙同二十一日ノ夜愛郷熱ニ於テ右後藤、林政三參加熱生ト襲撃計畫ニ付談合シ自分ヨリ襲撃所見學ヲ協議シ同月二十三日水谷市所在東邦電力株式會社觀電所ヲ後藤、林、矢吹、大員、小室、杉浦及其他ノ熱生ヲ引連レ見學シタリ、コレヨリ養四月十八日川崎長光ト愛郷熱ニ於テ會見シ四月十六日古賀ヨリ聞キタル程度ノ話ヲ爲シタルニ川崎モ參加ヲ承諾シ次ニ同月二十四日愛郷熱ニ於テ堀川秀雄ト會見シ同月二十二日古賀ヨリ聞キタル襲撃計畫ノ内容ヲ告ケ西田祝暗殺ノ點ニ付川崎ニ西田暗殺ヲ引受ケルヤ取次キ方ヲ依頼シ堀川モ之ヲ承諾

シタリ翌二十五日古賀ヨリ電話アリタル爲後藤ト共ニ山水閣ニ到リ古賀、中村兩中尉ト會見シタルニ古賀ハ手榴彈カ固キタル故之ヲ手渡し置キ是非上京シ與レト申シタルニ付之ヲ承諾シ愛郷熱側ノ情勢報告ヲ爲シテ熱生ト同日愛郷熱ニ於テ後藤ト襲撃計畫決行準備ノ爲熱生ヲ上京セシムルコト瀋洲移民ヲ口實ニ世間諺ヲ囂スルコト及後藤ヲ瀋洲ニヤルコト等ヲ話シ合ヒタルカ後藤ハ瀋洲行ハ瀋洲ヨリ熱生ノ親元ニ宛テ手紙等ヲ出シ熱生等ノ上京ヲ囂スル等ノ目的ヨリ老案セシモノナリ同月二十八日古賀ヨリノ通知ニ依リ自分ハ林正三ト共ニ、後藤ハ單獨ニテ上京シ自分ノ東京轉ニ赴キ古賀、熱生ト會見シテ右兩人ヲ雜司ケ谷、借家ニ伴ヒ行キ林正三ハ同借家ニ直行シタリ、同借家ニ於テ熱生ハ手榴彈ハ友人ノ家ニ送り置ケアル故明日受取リ分置スル旨ヲ告ケ、同日自分ト林トハ半込區東五軒町三十五番地林正三、方ニ赴キ後藤ト落合ヒ翌二十九日自分、後藤、林正三ト三名ニテ前借家ニ到リ熱生ト會見同入ヨリ右借家ハ危險ナル故手榴彈ハ五月五、六日頃至テ下下條ノ田代平方ニ於テ手交スル旨ヲ聞キタリ、右二十九日自分ノ愛郷熱ニ歸リ堀川秀雄ト會見同入ヨリ西田暗殺ヲ川崎ニ頼ミタルコトニ付報告アリ尙種々懇談シタリコレヨリ先五月一日熱生ヲ上京セシムルコトヲ確定シ四月二十八、九日頃小室、塙、矢吹ヲ費用調達ノ爲親元ニ遣リ堀ヲシテ金二百圓欠吹ヲシテ金三十圓ヲ調達セシメ同月三十日上京シ林正三、方ニ於テ古賀、中村兩中尉、後藤、林正三ノ四名ト會合シ二十九日堀川ト會合ノ頃來リ語りタルニ古

實中尉ハ亦急ヲ要スル故川崎長光ニ引受ケ買フヨリ外任方ナキ
旨申シ居タリ、五月一日ハ愛郷黨ニ於テ、槍、小銃、金二百圓、矢吹
ヨリ金三十圓ヲ取上ケ手許ニ在リタル九十圓ヲ加ヘ、槍、矢吹、小
銃、大貫ノ四名ニ八十圓宛分與シ、更ニ四十圓ヲ出シテ、東京ノ準
備ヲ測ヘシメ同日午後二時頃赤坂驛ヨリ右四名ヲ連レテ、東京シ
上野驛ニ於テ林正三、後藤開彦ヲ出迎テ、同青山ノ日本青
年館ニ赴キ、同夜同所ニ於テ、變電所所在ノ調査等ニ付協議シ、矢
吹、大貫ハ龜戸方面、川崎長光ハ日暮方面ノ變電所ヲ調
査スルコトトシ、夫々其方面ニ宿所ヲ定ムルコトニ申合セ、尙温
秀則ヲシテ、池袋方面ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ決定シ、更ニ右參
加塾生等ニ當日迄ニ判明シ居タル變電計畫ノ内容ヲ告ケタルカ
其大體ハ五月十五日頃東部カ首相官邸其他ノ據點ヲ以テ變電ス
ルト同時ニ愛郷黨ニ於テ東京附近ノ變電所ヲ同機變電ニテ變電
シ同計畫ノ一部トシテ西田親ヲ川崎長光ヲシテ暗殺セシムル豫
定ナリ手榴彈ハ近ク入手スル故決行直前ニ分與スル旨ニシテ決
行ニハ、春田、横須賀兩名ノ外、川崎、照沼、照沼一派、宮本一派モ
參加スル旨ヲ話シ、同日午後池袋驛ハ、池袋、池袋ニ上リ矢吹、槍等ハ
親元ニ宛テタル手紙ヲ託シタリ、翌一日日本青年館ニ於テ温水秀
則ニ會ヒ前日ノ協議ノ内容ヲ話シ同日歸郷ノ上、川崎長光ト會ヒ
タルニ、同人ハ川崎カ西田暗殺ノ重大性ヲ判然知リ度キ由ナルヲ
以テ今一度古賀ト會談アリ度キ旨ヲ申シ、自分ハ五月一日ノ協議
事項ヲ細川ニ話シタリ、尙右五月二日横須賀久遠カ來タルシタル
ヲ以テ同人ニ對シ本件計畫ヲ進行スル協談決定事項等ヲ告ケ

參加タルヤ否ヤヲ質シタルニ、同人ハ參加ヲ承諾シタルヲ以テ、三
日林正三ト共ニ、東京セシメタルカ其際横須賀ニ金百二十四圓ヲ費
用トシテ手交シ、次々同日六月日春田信義ヲ愛郷黨ニ呼寄セ、本
件計畫ノ具體的内容ヲ告ケテ、同人ヲ參加セシメ、金百二十四圓ヲ與
ヘテ、同人及杉浦孝ト共ニ、東京ノ途ニ就キ、途中杉浦ニモ本件計畫
ノ具體的内容ヲ話シ、同日ハ林正三一方ニ宿泊シ、林正三ヨリ東
京ノ情勢ヲ聞キ、更ニ同人ト決行後ニ於ケル塾生等ノ身ノ振方ニ
付相談シ、同人カ、黒岩勇ヨリ手榴彈六箇ヲ入手シタル話モ聞キ
タリ、同日七日頃、林正三一方ニ於テ、林正三、槍、矢吹、大貫、小室、横
須賀、春田、温水ト會合シ、判明シ居タル變電計畫ノ五變電所及鬼
怒川水力電氣株式會社東京變電所ヲ變電スルコトニ決シタルカ
其話ノ後、ニテ林カ手榴彈一箇ヲ取出シ、今同ノ機變電ニ用ユルノハ
之ヲト云ヒ、一同ニ示シタルトコロ、春田ヨリ之レハ、變電所ヲ敗
壞スル效力ナシトテ、異議カ出テタルヲ、同夜自分ハ、春田ト共ニ
山水閣ニ到リ、古賀ニ手榴彈ノ效力ヲ確メタリ、其際古賀ヨリ金四
百圓ヲ受取リ、歸郷シ、五月八日、東京シ、林正三一方ニ於テ、前日ノ九
名ニテ會合ヲ開キ、手榴彈ノ效力ハ十分ナル故、心配スルナト申シ
尙協議ノ結果、温水カ、池袋變電所、矢吹カ、龜戸變電所、小室カ、日暮
變電所、須賀カ、池袋變電所、川崎カ、田端變電所、大貫カ、鬼怒川變電所
ヲ各據點變電スルコトヲ定メ、後藤、開彦、歸郷後、今一度會合決定ヲ爲ス
ベキ旨ヲ告ケ、同日九月日、愛郷黨ニテ、川崎長光ト會見シ、シモ、エ
至リテハ、已ムヲ得、故、西田暗殺ハ、是非、川崎ニ引受ケセシメ、エ
レ度キ旨ヲ告ケ、尙本件決行ニ付テハ、如何ナル事態ニナルヤ、如

何ナル指令來ルヤ判明セサレハ、川崎、照沼、照沼ニ於テモ、池袋
上野驛セシムルコトトシタリ、翌十日、東京日本青年館ニ於テ、後
藤、林、矢吹、槍、横須賀、大貫、小室、春田、温水ノ九名ト會合シ、
變電所變電人物ノ配役等ニ付相談シ、手榴彈ハ、十四、五日頃手
渡スコトトシ、後藤、開彦ニ對シ、西田親暗殺ノ點ヲ告ケ、同日山水閣ニ赴
キ古賀ニ會ヒ、同所ニ泊リ、十一日、東京ノ上日本青年館ニ於テ、五月
十日會合ノ九名ト會合シ、五月八日ノ協議ノ通り、變電所變電ノ分
擔ヲ確定シ、尙同日林正三一方ニ於テ、杉浦孝ト會ヒ、同人ニ對シ、宮本
幸雄ニ會同ノ計畫ニ參加ノ必要ナキ旨ヲ傳フヘキコトヲ命シ、翌
十二日、東京驛出發ノ上、決行ニ先立テ、渡滿シタル旨ノ記載
(七) 原審第八回公判調書中被告入後藤開彦ノ供述トシテ、自分ハ
愛郷黨ノ教師ナルカ、昭和七年三月下旬、浦三郎ヨリ、愛郷黨ニ於
テ、海陸軍將校ノ一部カ、帝都ヲ變電スルコトトナリ、愛郷黨ニ於テ
モ、之ニ參加スル積リナル旨ヲ告ケ、ラレ、之ニ參加スルニ、至リタル
カ、同年四月二十一日、山水閣ニ於テ、古賀中尉ヨリ、軍部側ニ於テ、同
年五月十五日頃、手榴彈發射ヲ用ヒ、首相官邸、内大臣官邸、政友會
本部、警視廳三變電行等ヲ變電シ、變電黨ニ於テハ、變電所ヲ變電
シ、尙川崎長光ヲシテ、西田親ヲ暗殺セシムル豫定ナル旨ヲ聞キ、タ
リ、從テ自分ハ、手榴彈及拳銃ヲ使用スルモノナレ、ハ人命ヲ損傷
スル虞アルコトハ、想像シ居リ、タリ、而シテ、其、須賀、三郎ノ意ヲ承
ケ、川崎長光ト會見シ、前示計畫ヲ告ケ、テ、協議シ、同人ヲシテ、照沼
提、川崎長光ト連絡セシメ、同年四月中旬頃、愛郷黨ニ於
テ、照沼提ニ對シ、前示計畫ニ參加方ヲ懇願シ、一方、其前後ニ互リ、同

月上旬以降、同月下旬迄ノ、間山水閣等ニ於テ、變電計畫三郎ト共ニ
或ハ、單獨ニテ古賀清志等ト、談話ニ付、計畫シ、其間同月十二日頃
及同月二十日頃ノ二回、古賀清志ヨリ、右計畫ノ費用トシテ、合計
五百圓ヲ受取リ、其頃之ヲ、右、清志ニ交付シ、更ニ同年五月一日頃、愛郷
黨關係者入等ノ、東京ヲ、離、セ、ム、カ、タ、メ、東京驛出發、渡滿シ、同月
四日、滿洲天ニ於テ、塔子溝五百校等ヨリ、託セ、ラ、レ、タル、鄉里ノ、父母ニ
宛テ、タル、信書等ヲ、投函シ、テ、同月九日、歸郷シ、同日、十日、ニハ、日
本青年館ニ於ケル、會合ニ出席、本件計畫、進行ニ、關スル、協議ニ、與カ
リ、同月十二日、浦三郎カ、滿洲ニ、出發シ、タル、後、東京市、下谷區、上野
廣小路附近ノ、蕎麥店ニ於テ、林正三、矢吹、正五等、變電所變電ヲ、分
擔セル、塾生等ト、會合シ、手榴彈分配方法等ニ、付、協議決定シ、タリ、翌
十三日、自分ハ、土浦ニ、行キ、古賀、中村、中尉、及、池袋、武志、奥田、秀夫
ニ、會ヒ、タル、ニ、古賀中尉ヨリ、自分ニ、對シ、計畫、決定シ、同人等、軍
部側ハ、十五日、午後、五時半、ヲ、期シ、首相官邸、牧野、内大臣官邸、政友
會本部ヲ、變電シ、更ニ、合流シ、テ、警視廳、ヲ、變電シ、奥田、三變電行
ノ、變電ヲ、擔當スルコトニ、定マリ、タル、故、變電黨、方ニ、於テ、モ、同日
午後、七時、十五分、ヲ、期シ、一齊ニ、變電所ヲ、變電シ、テ、實ヒ、度キ、旨ヲ、話
アリ、タリ、夫レ、ヨリ、古賀中尉、同伴、ハ、レ、テ、同人ノ、下宿ナル、土浦、大
和、三千五百五十二番地、茶屋、之、助方ニ、行キ、タル、ニ、古賀ハ、拳銃、一
挺、實彈、八發、及、白粉ノ、短刀、七日、ヲ、渡シ、右、拳銃、實彈、及、短刀、一日ハ、
川崎長光ニ、渡シ、十五日、午後、五時半、ヨリ、七時迄ノ、間、西田親ヲ、
殺害スルヤ、ウ、傳ヘ、テ、與レ、殘リ、短刀ハ、塾生、達ニ、渡シ、テ、與レ、ト
申シ、タリ、自分ハ、右、拳銃、實彈、及、短刀ヲ、古賀ヨリ、受取リ、テ、直チニ

國家主義系不穩事件論告並判決録

上京シ林正三ニ會ヒ右筆類ヲ全部同人ニ預ケタリ翌十四日ハ
自分ノ止宿八千代館ニ於テ林正三ヨリ手榴彈六筒及短刀七口ヲ
受取リ之ヲ小室及横須賀ニ各手榴彈一筒及短刀一口、温水、城ニ
各手榴彈二筒、短刀二口ヲ同人等カ豫備シテ變電所襲撃用トシテ
交付シタリ、翌十五日早朝杉浦カ八千代館ニ自分ヲ訪ネ來リ、川
崎長光カ本日前九時頃餐券ヲ著ク旨報告シタルニヨリ自分
ハ鷺谷驛ニ川崎ヲ迎ヘ同人ヲ同道シテ八千代館ニ戻リ同人ニ金
三十五圓ヲ與ヘ古賀中尉ヨリ聞キタル最後ノ計畫ノ内容ヲ話シ
西田啓吾ノ件ヲ依頼シタリ、其時川崎ハ、爾等ノ中ヨリ、筆類及實
彈ヲ取出シ實彈六發ヲ充實シテ再ヒ右筆類ヲ副巻ニ收メタ
ルカ川崎ハ今一度古賀ニ面會シ度シト申シタル故川崎ヲ東京驛
ニ待タセ自分一人ニテ芝ノ水交社ニ行キ古賀ニ其旨ヲ傳ヘタル
トコロ時間モ切迫シ居ル事ナレハ、會ハヌト申シタリ、尙其際古
賀ハ之ヲ持參セヨト申シ二百圓ヲ自分ニ與レタリ、夫レヨリ自
分ハ東京驛ニ戻リ川崎ニ面會シテ古賀ヨリノ話ヲ傳ヘテ川崎ト
別レ自分ハ右古賀ヨリ實シシ金ヲ分配セント思ヒ小室ノ下宿ナ
ル當時東京府在原郡大崎町南谷清水安雄方ヲ訪ネ金七十圓ヲ
渡シ温水矢吹、城濱須賀、大高、高根、小室ニ於テ分配セラレ度
キ旨ヲ告ケ小室ニハ車代トシテ別ニ五圓交付シタルノ旨及自
分ハ橋本三郎ノ主張セシ直接襲撃行動ニ依リ愛國革新ノ理想ハ
共鳴シ獨敗、墮落セル亡國ノ状態ヲ打開シ更生日本ノ建設ニハ
直接行動以外途ナシト考ヘ本件ノ行動ヲ爲シタル次第ナル旨ノ
記載

(十二) 原審第九回公判調書中被告入林正三ノ供述トシテ自分ハ
愛國教師ナルカ昭和六年八月頃以來政義、財閥特權階級等カ
相替リシテ私利私慾ヲ圖リ國民福ヲ少シモ考慮セサルコトニ
付憂慮感嘆シ居リタル折昭和七年三月下旬愛國熱ニ於テ橋本
三郎ヨリ「今や皇國日本ノ礎石アル農兵ハ瀕死ノ状態ニ在ル
是將ニ日本ノ重大危機ヲアル、自分ハ身ヲ抛シ非常手段ニ訴ヘ
テ農民ノ爲支那階級ノ醒醒ヲ促ス決心アル」旨ヲ語ラレ自分
モ之ニ同意シタリ、而シテ自分カ具體的ニ本件襲撃計畫ニ參加
スルニ至リシハ昭和七年四月十七日橋本二人ニテ借家ヲ探ス爲
上京シタル以來ノコトナルカ其前日ノ四月十六日古賀中尉カ愛
國熱ニ參リ又同月二十一日橋本及後藤カ山水閣ニ於テ古賀中尉ト
會見シ兩者ハ間ニ取交ハサレタル話ノ内容ニ付テハ夫々橋本ヨリ
聞キタリ其翌日ハ海軍青年將校ト陸軍士官候補生其他民間ノ同
志二名參加シテ首相官邸ノ内大臣官邸ヲ襲撃、政友會本館、三菱
銀行等ヲ襲撃シ愛國熱ニ於テハ東京市内外ノ重要ナル變電所ヲ
襲撃シ其武器トシテ手榴彈及拳銃ヲ用ユルト謂フニ在リタリ從
ツテ首相官邸其他ヲ襲撃スルニ際シ建物カ破壊サレ人命ヲモ損
傷スルコトアルヘキコト、場合ニ依ツテハ首相、内大臣カ殺害セ
ラルコトモアリ得ルコト想像シタリ尙四月二十日過頭矢張
橋本ヨリ「西田稅方居ツテハ右計畫ノ実行ニ妨害ナル故同人ヲ
殺害セヌハナラヌ」ト云フ語ヲ聞キ之ニ同意致シタリ、右四月
二十一日ノ夜橋本、後藤及自分ノ三人ニ於テ右襲撃計畫ニ參加ス
ル熱生達ヲ熱長室ニ呼寄セ本件襲撃計畫ノ具體的内容ヲ説明シ

開カセタリ、自分ハ同月下旬當時東京府北豊島郡高田町兼南
ヶ谷六百九十四番地ノ借家ニ於テ橋本、後藤ト共ニ黒野勇ト會見
シ手榴彈ヲ買受ケルコトニ付協議シ次テ五月六日當時東京府下
王子町下十條田代平方ニ於テ右黒野ヨリ手榴彈六筒ヲ受取リ同
月十四日東京市下谷區茅町一丁目一番地八千代館ニ於テ後藤
彦ニ手榴彈ヲ交付シタルカ其際後藤ハ拳銃一挺實彈ヲ取出
出シ川崎長光ニ渡スヤツ自分ニ依頼シタルヲ以テ同日愛國熱ニ
歸リ右川崎長光等ト西田稅方等ノ事ニ付協議シタル上川崎ニ右
筆類及實彈ヲ交付シ尙上京ノ費用トシテ堀川秀雄ト出金シ
合セテ金十八圓ヲ交付シタリ尙自分ハ同年五月一日以降同月中
旬迄ノ間半込區東五軒町三十五番地林正一方其他ニ於ケル會合
ニ出席シ橋本三郎、矢吹正吾等愛國熱關係ノ人トシテ襲撃場所手
榴彈ノ效力其他襲撃計畫ノ進行ニ付種々協議シ殊ニ四月十二日
下谷區元町門前橋本屋本末次郎方ニ於ケル同志ノ會合ニ出席
席シ手榴彈分配ノ方法等ヲ議シタル外同年四月三十日右林正一
方ニ於テ古賀清志ヨリ右計畫ノ費用トシテ金五百圓ヲ受領シ同
日同所ニ於テ橋本三郎ニ渡シタル事實アル旨ノ記載
(十一) 原審第十回公判調書中被告入矢吹正吾ノ供述トシテ自分
ハ昭和六年四月橋本三郎ノ經營スル茨城縣茨城郡常盤村(現
在水戸市新原町三千三十九番地)愛國熱ニ入り爾後其寄宿舎ニ
起居シ同人ノ黨羽ヲ受ケ居リタル者ナルカ昭和七年三月下旬愛
國熱ニ於テ橋本ヨリ本件襲撃計畫ノ旨ヲ該計畫ニ付陸軍軍ノ同
志カ策策シ居ルコト、自分達ハ之ト呼應シテ東京市内外ノ變電

所ヲ襲撃スルモノナルコト等ヲ話サレ其計畫ニ參加ヲ求メラレタ
ルヨリ直チニ參加ヲ承諾シタリ其後同年四月二十一日愛國熱ニ
於テ自分等參加熱生ニ對シ橋本ヨリ襲撃計畫ニ付テ具體的内容ヲ
説明アリ越ヘテ五月一日自分等參加熱生ハ橋本三郎ニ連レラレ
テ上京シ東京市内外ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ノ觀察ヲ繼
ケ其頃前記林正一方等ニ於ケル橋本三郎等ト會合ニ出席シ襲
撃場所、手榴彈ノ效力其他計畫進行上ニ付協議シ其結果自分ハ
元東京府南葛飾郡小倉町下平井高田三百二十八番地東京電燈
株式會社變電所手榴彈ヲ以テ襲撃スヘキコトヲ引受ケ同
月十二日下谷區元町門前橋本屋本末次郎方ニ於ケル後藤彦
等トノ協議ニ基キ同月十五日前記八千代館ニ於テ温水秀則ニヨ
リ同人カ右後藤ヨリ託セラレタル手榴彈一筒ヲ受取リ同日午後
七時十五分過頭前記變電所ニ到リ構内ポンプ小屋前隅ケテ
右手榴彈ヲ投擲使用シタルモノ不發ニ終リタリ自分ハ手榴彈ヤ短
刀ヲ以テ本件襲撃ヲ行フ場合ニ殺人等ノ行ハルヘキコトハ之ヲ
豫想シ居リタル旨ノ記載
(十三) 原審第十回公判調書中被告入大貫明幹ノ供述トシテ自分
ハ昭和四年九月判示橋本三郎經營ノ愛國熱ニ入り其訓練ヲ受ケ
居タル者ナルカ昭和十年四月二十三日頃愛國熱ニ於テ右橋本ヨリ
本件襲撃計畫ニ付話サレ自分モ該計畫ニ參加スルニ至リ同月二
十一日愛國熱ニ於テ橋本ヨリ右計畫ノ具體的内容ニ付説明ヲ受ケ
タリ而シテ同年五月一日自分ハ橋本、小室ト共ニ橋本ハレ
テ上京シ爾來當時ノ東京市附近ノ變電所ニ付其位置及附近ノ情

國家主義系不穩事件論告並判決録

況等ヲ觀察シ且前記林正一方等ニ於ケル情等トノ會合ニ出席シ
 兇撃場所ノ手榴彈ノ效力等其前記計畫書ニ開シ種々協議ヲ
 遂ケ其結果ハ當時東京府北郷葛尾久町下尾久二百番地鬼
 怒川水力電氣株式會社東京變電所ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スヘキコ
 トヲ引受ケ同月九日高根澤與一ヲ勸誘シテ水戸市ヨリ上京セシ
 メ同月十二日行ハレタル下谷區元馬町ノ瀨原屋ニ於ケル後藤
 閉塞等トノ會合協議ニ基キ同月十五日頃ノ下宿ナル小石川區久
 堅町十九番地川上ふく方ニ於テ、其前日頃カ八千代館ニ於テ右
 後藤ヨリ託サレタル手榴彈一箇及短刀一口ヲ受取リ右十五日
 示變電所ニ向テ途中ニテ高根澤與一ニ前記計畫ヲ告ケ之ニ參加
 セシメ同人ニ右手榴彈ヲ手交シ同月午後七時半頃前記變電所ニ
 到リ同人ヲシテ同所構内ポンプ小屋附近ニ投擲セシメタルモ炸
 裂セザリシ旨及手榴彈拳銃、短刀等ヲ使用シテ首領官即其他ノ
 箇所ヲ襲撃スル際場合ニヨリテハ殺人或ハ傷害行為ノ起リ得ヘ
 キトハ想像シ居リタル旨ノ記載

(十四) 前記公判調書中被告人高根澤與一ノ供述トシテ自分ハ大
 貫明幹トハ豫テヨリ知合ニシテ同人ヲ介シ橋孝三郎ニ指導ヲ受
 ケルモ、ト考ヘ居リタルカ昭和七年五月九日大貫ノ勸誘アリ
 タル爲メヨリ上京シ同月十五日ハ大貫ト上野驛ニテ會合シ同人
 ト行動ヲ共ニシテ同日午後尾久町方面ニ到リ千葉方面行電車ガ
 下ノ下ニ於テ自分カ判示鬼怒川水力電氣株式會社東京變電所
 ヲ見テ「大キナ變電所カアル」ト申シタルトコロ大貫ハ「アレヲ
 ヤルノヲ」ト申シ尙歩ミ居ル中同人ハ夕夕陸海軍人カ都都ヲ襲

ヒ大養首相ヲ官邸ニ於テ暗殺シ襲撃シ愛郷熱ニ於テハ
 變電所數箇所ヲ襲撃スル旨ヲ告ケタリ自分等二人ハ前記變電所
 ニ赴キ周圍ヲ二周シ附近ノ飲食店ニ入り大貫ハ手榴彈ヲ投擲シ
 付諸リ午後六時半頃同所ヲ立出テ同變電所構内前二行キ更ニ同
 變電所裏貯水池ノ邊ヨリ構内ニ入り大貫ヨリ手榴彈ヲ受取リタ
 リ同人ハ直チニ砲筒室ニ入りスキツテ切リ、モーターハ止マ
 リタルヨリ直チニ出テ來リ逃走シタルヲ以テ自分モ手榴彈ヲ同
 所ニ投棄シタル旨ノ記載

(十五) 同被告人ニ對スル豫審判事ノ第二回開調書中同被告人
 ノ供述トシテ自分ハ小學校五年ヲ中退退學後諸所ニ奉公シタル
 カ昭和六年十月頃ヨリ水戸市上野裏信願寺町花屋「花金」ノ配達
 夫ヲ爲シ居ル中大貫明幹ト知合トナリタリ自分カ昭和七年五月
 九日上京シ同月十五日午後七時四十分頃判示鬼怒川水力電氣株
 式會社東京變電所ニ大貫ト共ニ手榴彈ヲ投擲シタルトハ開遠
 ナク同日午後六時半頃同變電所附近ニ於テ大貫ヨリ同日午後五
 時陸海軍軍人カ首相官邸、警視廳ヲ爆彈ニテ襲撃シ大養首相ヲ
 暗殺スルコトナリ居リ大貫等ハ變電所六箇所ヲ襲撃スルモノ
 ナル旨ヲ告ケラレ大貫ノ命スル儘ニ手榴彈ヲ投スルニ至リタル
 旨ノ記載

(十六) 原審第十回公判調書中被告人橋孝三郎ノ供述トシテ
 自分ハ昭和六年十一月下旬橋孝三郎ノ經營スル愛郷熱ニ入り翌
 七年二月下旬退學シタルモノナルカ昭和七年五月初旬右橋ヨリ
 首相官邸、内大臣官邸、警視廳等ヲ陸海軍ノ軍人カ爆彈ヲ以テ襲

撃シ愛郷熱生等ハ東京市内外ノ變電所ヲ爆彈ヲ以テ襲撃シテ帝
 都ノ暗黒化ヲ圖ル計畫ナル旨ヲ告ケラレ參加ヲ求メラレタルニ
 ヨリ之ヲ承諾シ其結果同月三日林正三ニ連レテ上京スルニ
 至リタリ而シテ同月六日頃ヨリ當時ノ東京市外日附近所在其
 他ノ變電所ノ位置及附近ノ状況等ニ付觀察ヲ爲シ一方同月七日
 以降林正一方、日本青年館等ニ於テ開催セラレタル橋孝三郎以
 下同志ノ會合ニ出席シ襲撃場所ノ手榴彈ノ效力等其計畫書行
 上ノ協議ニ加ハリ其結果自分ハ判示東京電燈株式會社葛尾谷變
 電所ヲ手榴彈ヲ以テ襲撃スルコトヲ引受ケ同月十二日岸本米次
 郎方ニ於ケル後藤閉塞等トノ協議ニ基キ同月十四日八千代館ニ
 於テ同人ヨリ手榴彈一箇及短刀一口ヲ受取リタリ翌十五日ニハ
 葛尾谷谷變電所襲撃ノ爲午後三時頃手榴彈ヲ擲ヘテ在在町小
 山ノ下宿ヲ立立シ途中ニテヘンテ、手斧等ヲ買求メタル上同日
 午後七時十五分頃前記變電所ニ到着シタリ夫レヨリ高サ五尺位
 ノ針金ノ網ヲ飛越ヘテ構内ニ入り更ニポンプ小屋ニ忍入り同所
 ニ備付ケアラタルスイツチ四箇、メーター五箇ヲ手斧ヲ以テ打
 壞シ電線約八本ヲ切斷シテ戸外ニ出テ再ヒ網ヲ飛越ヘテ道路ニ
 出テタル上所擲ノ手榴彈ヲ取出シテ屋外變電器目鏡ケテ投擲シ
 タルトコロ大貫等ヲ立テテ爆發シ破片等カ飛散シ建物等ニ當
 ル音カ致シタルヨリ自分ハ直チニ其場ヲ立去リタリ尙自分ハ橋
 孝三郎ヨリ本件行動ノ爲メノ費用トシテ百二、三十圓位受領シ
 タル旨ノ記載

(十七) 原審第十回及第十一回各公判調書ヲ通シ被告人橋孝三郎
 國家主義系不穩事件報告裁判決録

ノ供述トシテ自分ハ昭和六年六月水戸市外常盤村ノ愛郷熱ニ入
 リ引續キ在籍スル者ナルカ昭和七年四月三日右愛郷熱ニ長室ニ
 於テ橋孝三郎ヨリ本件襲撃計畫ニ參加ヲ求メラレ直チニ之ニ同
 意シテ參加シタリ而シテ五月一日橋ニ引率セラレテ矢吹、大貫
 小室ト共ニ上京シ爾來主トシテ當時ノ東京市外日附方面所在ノ
 變電所ノ位置、状況等ヲ單獨又ハ春田信義ト共ニ觀察シ且林正
 一方等ニ於ケル橋孝三郎其他ノ同志トノ會合ニ列シ襲撃場所
 手榴彈ノ效力等其計畫書行ニ付協議ヲ遂ケ其結果當時東京府
 北郷葛尾久町所在東京電燈株式會社田端變電所ヲ手榴彈ヲ以
 テ襲撃スヘキコトヲ豫定シ同月十四日岸本米次郎方ニ於ケ
 ル後藤閉塞等トノ協議ニ基キ同月十四日同人ヨリ手榴彈二箇、
 短刀一口ヲ受取リ同月十五日其内各一箇ヲ當時自分ノ下宿シ居
 タル東京市小石川區久堅町十九番地濱物商川上ふく方ニ於テ同
 志大貫明幹ニ交付シタリ夫レヨリ同日午後五時頃前記手榴彈短
 刀、ハンマー等ヲ擲ヘテ下宿ヲ立出テ同七時十五分頃前記田端
 變電所ニ到リ同構内ポンプ小屋ニ入り、ポルトメーター四箇ヲ
 ハンマーヲ以テ叩キ壞シタリ等スル中人際ニ驚キポンプ小屋ヲ
 飛出シ構外ニ逃ケ去リタルカ暫ラシテ再ヒ引返シ手榴彈ヲ投
 擲セントシタルモ工夫詭計ノ男カ二人、三人警戒シ居タル爲メ其機
 ヲ得ズ投擲ヲ斷念シテ立去リタル旨ノ記載

(十八) 原審第十一回公判調書中被告人小室力也ノ供述トシテ自
 分ハ昭和六年九月四日愛郷熱ニ入り橋孝三郎ノ瀨原ヲ受ケ居タ
 ルモノナルカ昭和七年四月三、四日頃右橋孝三郎ヨリ愛郷熱ニ

於テ本計畫ニ參加シテテヲ承諾シタルトコロ同月二十
二日同熟ニ於テ及後廢ヨリ本件製藥計畫ノ内容ニ付テ其體
ニ説明アリタリ而シテ同年五月一日前ニハレテ上京シ爾來主
トシテ當時ノ東京市外日自方面所存ノ製藥所ノ位置ノ附近ノ状況
等ニ付觀察シ且其頭數同林正一方等ニ於ケル橋幸三郎以下同志
トノ會合ニ出席シ製藥場所及手榴彈ノ效力其他前記計畫遂行
ニ付協議ヲ爲シ其結果自分ハ東京電燈株式會社日自變電所ヲ手榴
彈ヲ以テ襲撃スヘキコトヲ豫當シ同月十二日ノ後廢閉塞等トノ
協議ニ基キ同月十四日八千代館ニ於テ同人ヨリ手榴彈一箇短
刀一口ヲ受取リ同月十五日午後六時半頃手榴彈短刀ヲ携ヘ
テ止宿在厚大崎町間谷清水安雄方ヲ立出テ同六時五十分頃
日自變電所ニ到リタルカ手榴彈投擲ノ機ヲ得スニ終リタル旨
記載

(十九) 原審第十二及第十四回公判調書中被告人池松武志ノ供述
ニシテ自分ハ昭和六年十二月自分カ士官候補生タリシ頃社會間
題ニ關シ同僚木津某ノ執筆シタル文書ヲ印刷配布シタル應ニヨ
リ昭和七年一月陸軍士官學校ヲ退校セラレタル者ニシテ豫テヨ
リ國家革新ノ志ヲ抱懷シ居ルモノナルカ昭和七年三月二十一日
東京府下大久保百人町遊用警助方ニ於テ本件製藥ニ參加セリ
候補生等ト共ニ海軍中尉古賀及中村ノ兩名ニ會ヒタルトコロ古
賀ヨリ若々ハ歐立ツテ砲散落セル政策ノ財閥特權階級ヲ倒シ
國家改造ヲ企圖スルコトトナリ之ニ使用スヘキ武器トシテ手榴
彈ヲ發射スル海軍側ニ於テ選定スル故士官候補生ノ參加ヲ望ム

寺ニ向ヒ同境内ノ茶屋力亭ニテ古賀省西川等ニ會ヒ古賀ヨリ
一同武器ノ分配ヲ受ケ自分ハ手榴彈一箇拳銃一挺實彈若干發
ヲ受取リタルレヨリ一同自動車一同乘車一同五時十五分頃泉
番寺ヲ出發シ芝區三田家町一丁目五番地内大原官邸ニ向ヒ到着
スルヤ同官邸表門附近ニ車ヲ停メ先ツ古賀カ下車シテ同門前數
石ノ所ヨリ門内日算ケテ手榴彈一箇ヲ投擲シタルトコロ門内ニ
於テ炸裂シタリ其時門前ノ警官カ一名古賀ニ飛擲ラントシタル
ヨリ古賀ハ之ニ拳銃ヲ向ケタルニ其警官ハ門内ニ逃込ミタルカ
古賀ハ後ヨリ同警官ニ向ツテ拳銃ヲ一發射撃シタリ夫レニ續イ
テ自分モ手榴彈ヲ一箇古賀ト同シ場所ヨリ門内ニ向ツテ投擲シ
タルニ之ハ不發ニ終リタリ其間西川ハ車内ニアツテ運轉手ニ拳
銃ヲ突付ケ其逃亡ヲ警戒シ居タリ夫レヨリ一同自動車一同乘車
途中海軍側ニ於テ作成シタル機文ヲ撒布シテ一同觀望ニ向ヒ警
視觀ニ到ルヤ表玄関附近ニ車ヲ停メ古賀ヲ殘シテ一同下車シタ
ルカ其際第三組ノ人達カ既ニ到着シ其中ノ一人カ表玄関附近ニ
投擲シタル手榴彈カ電柱ニ當ツテ炸裂スルヲ目撃シタリ續イテ
坂元モ手榴彈ヲ投シタルカ不發ニ終リタリ坂元カ手榴彈ヲ投セ
シ頃ニハ表玄関附近ニ約二十人位ノ人カ出て來リ同タルヨリ古賀
ハ車中ヨリ其群衆ニ向ツテ拳銃ヲ發射シ自分ト西川モ續イテ拳
銃ヲ發射シタルカ其時古賀ヨリ引揚ノ號令一下シタルヲ以テ再
ヒ一同自動車ニ乘リ午後六時頃憲兵隊ニ自白シタリ同同志カ首
領官邸ヲ襲撃シテ大憲相ヲ殺害スルコトハ豫テ決定シ居リタ
ル所ナル旨ノ記載

旨ノ話アリタリ依ツテ自分ハ古賀等カ自分達ト同一ノ思想ノ下
ニ計畫シ居ルコトヲ知リ直チニ參加スヘキ旨ヲ答ヘ以テ本件製
藥計畫ニ參加シタリ而シテ其後四月三日上野野前ノ某飲食店
ニ於テ古賀清志、中村義雄、坂元候補生ト會見シ古賀ヨリ製藥目
標タル首領官邸、内大臣官邸其他數ヶ所ノ偵察方ヲ依頼セラレ
テ之ヲ引受ケ爾來之ヲ調査ニ當リ五月七日頃ヨリハ奥田秀夫ト
五ニ連絡シテ其調査ノ結果ハ土浦町山水閣等ニ於
テ古賀清志ニ報告シタリ又四月十九日山水閣ニ於テ古賀ト會見
シタル際製藥ニ使用スヘキ短刀ノ購入方ヲ依頼セラレ其東京
市内ニ於テ二回ニ合計七口ヲ買求メ之ヲ古賀ニ渡シタリ同月
十四日ハ東京市牛込區市ヶ谷八幡町關東藥店方坂元候補生
ノ日曜下宿ニ於テ同人、古賀、中村兩中尉ト會見シ次テ同年五月
八日ハ明治神宮表參道附近ノ關東店ニ於テ陸軍士官候補生後
藤映鏡、金澤豐ト共ニ古賀、村山、山岸、黒岩ト會合シ夫レ計畫遂
行ニ付協議シタルカ更ニ同月十三日ハ前記山水閣ニ於テ奥田
秀夫後藤映鏡右古賀、中村等ト會見シ軍人側ハ同月十五日午後
五時半頃製藥ヲ執行スヘキコト、後藤等ノ農民隊ハ午後七時ヲ期
シテ一齊ニ變電所ヲ襲撃スヘキコト其他製藥場所人員ノ配置、
武器ノ調製等ヲ決定シタルカ古賀ヨリ以上ノ事項其他同日行
自ノ行動要領ヲ記載シタル書面三通ヲ託セラレタルヲ以テ同行
録京ノ右右二通ヲ黒岩勇ニ手交シ翌十五日他ノ一通ヲ坂元一
ニ交付シタリ、同月十五日歐本件製藥ニ際シテハ自分ハ坂元ト共
ニ第二組ニ屬シタル故午後四時頃同人ト共ニ下宿ヲ立出テ泉番

(二〇) 原審第十五回公判調書中被告人奥田秀夫ノ供述ニシテ自
分ハ明治大學理科ノ學生ニシテ豫テヨリ井上昭等ト交友アリ國
家革新ノ志ヲ抱懷シ居ル者ナルカ昭和六年(七年ノ誤記ト認ム)
三月二十日頃當時自分ノ下宿ナル東京府豊多摩郡野方町新井四
百五十三番地林新太郎方(中村義雄カ來訪シ自分ニ對シ同人等
カ血闘事件ノ後ヲ承ケテ第二次的ニ集團テロニ依リ國家革新
運動ヲ計畫シ居ル旨ヲ告ケタルニヨリ自分モ是非參加セシメラ
レ度キ旨ヲ申入レ此時ヨリ本件計畫ニ關係スルニ至リタリ而シ
テ昭和七年四月二日頃以降古賀清志、中村義雄等ノ依頼ニヨリ
東京市内ニ於テ首領官邸、内大臣官邸、華族會館工業俱樂部議
院等ヲ襲撃目標トシテ其所在ノ警備狀態出入者關係等ニ付偵察
ヲ爲シ殊ニ同月十九日以降ハ池松武志ト五ニ連絡シテ之カ偵察
ニ當リ右側ヲ結果ハ其頃土浦町山水閣等ニ於テ右古賀、中村
等ニ報告シ且五月中旬頃迄ノ間前山水閣其他ニ於テ屢々古
賀、中村及池松等ト連絡シ前記計畫遂行ニ付協議シ來リタリ同
四月十九日古賀ヨリ池松ト共ニ本件計畫遂行ニ使用スヘキ短刀
十數口ノ購入方ヲ依頼セラレ其後東京市内ニ於テ短刀六口ヲ買
求メ之ヲ古賀及中村ニ手交シタリ、五月十三日ハ池松武志ト
共ニ山水閣ニ到リ古賀、中村及後藤映鏡ト會合シ古賀、中村兩名
ヨリ本件製藥計畫遂行ノ日時、場所等受持箇所其他行動要領ニ
關スル説明アリ自分ハ第四班トシテ三菱銀行又ハ三菱本店ノ襲
撃ヲ命セラレ之ニ使用スヘキ手榴彈一箇ヲ翌十四日夜省線原宿
驛ニ於テ中村ヨリ渡シ旨申サレ且其費用トシテ古賀ヨリ金五十

國家主義派不穩事件論告並判決録

圓濱サレタルカ右軍資金ハ大川周明ヨリ出テタル旨宣貫ハ申シ
居リタリ至十四日ニハ原宿驛ニ於テ中村義雄ニ會ヒ同人ト共ニ
青山六丁目附近ノ増田屋ト云フ蕎麥店ニ到リ同所ニテ中村ヨリ
手榴彈二個ヲ受取リ其使用ノ方法ニ付テ指示ヲ受ケタリ木
件決行ノ當日タル十五日ニハ自分ハ明治大學ニ生ノ制服を着
著シ前テ手榴彈二箇ヲ携ヘテ午後四時頃下宿ヲ立出テ麹町區丸
ノ内二丁目三番地ニ至リテ三菱銀行ニ到リテ手榴彈一箇
比谷ニ行キ美松ノ屋上ニ上リタルニ午後五時半頃警視廳ノ方
ニ當リテ爆音ヲ聞キ九ノ内警察署ヨリ巡査力大發出スヲ認メ
タルヨリ急々軍部ノ者カ襲撃ヲ開始シタリト思ヒ三菱銀行附近
ニ到リタル午後七時カ民間側ニ於テ變電所ヲ襲撃スル時刻ナ
レハ其時刻ニ一様ニ決行セント思ヒ東京驛ニ行キテ時ヲ過シ午
後七時少前ニ同所ヲ出テ徒歩ニテ三菱銀行ニ到リ其北側裏ノ
道路ヲ距テタル電車道路ノ歩道上ニテポケットヨリ手榴彈一箇
ヲ取出シ同銀行裏庭ヲ見蒐ケテ投付ケタルトコロ樹木ノ枝ニ觸
レタルタメ彈丸ハ裏庭迄達セテ同銀行ト三菱道場トノ間ノ道路
ノ中程ニ落下炸裂シタリ依テ其爆力ハ其場ヲ立去リタル旨ノ
記載

(二十一) 原審第十七回公判調書中被告八川崎長光ノ供述トシテ
自分ハ昭和五年九月頃以來非上昭ノ黨員ヲ受ケ來リタル者ナル
カ昭和七年四月十五日昭官探偵隊城野河野前濱村頭濱ノ沼自
分方ニ訪ネ來リ右前濱ナル右昭沼ノ下宿屋澤勇吉方ニ於テ昭沼
ニ會ヒタルトコロ同人ヨリ前ノ血闘事件ハ失敗ニ歸シタルニ

ノ關係室ニ於テ同人ニ問接シタリ自分ト西田トハ卓子ヲ用ニシ
五尺位隔テ、相對座シ、血闘事件ノ其關係報告等ノ事ナト
ニ付親シク談合シ居ル中時ニ過キ西田ニ對シ氣ノ毒ニ思ヒ殺害
ノ決意モ鈍リタルカ決心ヲ取リ辰シ七時半頃去リ氣ナク右手ヲ
懐中ニ入レテ腹巻ノ中ヨリ拳銃ヲ取リ出シテ右手ニ握リ安全裝
置ヲ外シタル上懐中ヨリ取り出スト同時ニ椅子ヨリ立上リサマ
西田ノ胸邊ヲ狙フテ一發ヲ射シ更ニ同人カ立上リタル所ヲ一發
狙撃シタルトコロ同人ハ前ニアリシ卓子ノ下ニ頭ヲ入レ其兩脚
ヲ持チテ押シ來リタルヲ以テ自分ハ之ヲ左側ニ避ケ西田ノ右方
ヨリ又二發打チ放チタルトコロ卓子カ倒レタルカ難テ西田カ立
上リ自分ノ方ニ向ヒ來リタルヨリ自分ハ西田ニ向ヒ更ニ二發々
射シタリ、スルト西田ハ大分驚リタル如ク自分見受ケタルカ尙モ自
分ニ向ヒ來ラントスル様子ヲ見セタリ然レバ既ニ彈丸ヲ全
部射テ盡シタルヲ以テ其場ヲ逃走シタル旨ノ記載
(二十二) 亡温水秀則ニ對スル檢事ノ第一回證取審問中同人ノ供述
トシテ自分ハ昭和六年十二月一日愛郷塾ニ入り兩率三郎ヨリ農
村被弊ノ根本原因ハ資本主義、都會中心主義、利己主義、個人主
義ノ爲ニシテ其解決ニハ現在ノ社會制度カ腐敗ノ極ニ在ル故ニ
テ破壊シ農村本位ノ社會ヲ建設スルコトヲ要スル等ノ教ヲ受ケ
農民ノ爲闘ヲ意思ヲ固メタルカ昭和七年三月一日頃兩ノ命ニ依
リ本間憲一郎ノ斃山然ニ入り同塾ニ於テ生活シ居リタルトコロ
同年四月四日朝愛郷塾ヨリ電話アリタルヲ以テ正午頃上水戸驛ニ
著キ愛郷塾ニ歸リタリ同夜九時頃兩ノ遺骸ニ於テ同人ト會ヒタ

國家主義派不穩事件論告並判決録

付此度井上昭ノ意思ヲ繼キ海軍將校、陸軍士官候補生、橋本三郎
等愛郷塾ノ者等カ合同シテ同年五月六日ヲ期シ發願書其他ヲ爆
彈ヲ以テ襲撃シ政界財界ノ巨頭ヲ暗殺スル計畫ナル旨ヲ告ケラ
レ同月二十日愛郷塾ニ於テ橋本三郎ニ會見シタル際モ同人ヨリ
木件襲撃計畫ニ付テアリ之カ參加ヲ求メラレタリ其時黒澤金吉
ト連絡シ種々右計畫ニ付談合シ居タルニ同年五月一日夜前記前
濱地内ニ於テ堀川秀雄、黒澤金吉ト會合シタル際同人等ヨリ西
田暗殺方ヲ引受ケラレ度キ旨勸説セラレ次テ同月十四日愛郷塾
ニ於テ林正三ヨリ木件襲撃計畫ノ内容ニ付テ詳細説明アリタリ
其要旨ハ陸軍士官候補生及海軍將校ニ民間ノ者一名參加シテ首
相官邸内大臣官邸警察廳、政友會本部、三菱銀行等ヲ爆撃ヲ以
テ襲撃シ一方愛郷塾生ニ於テハ六箇所ノ變電所ヲ襲撃シテ帝都
ヲ暗黒化シ向四田院ヲ擧ルト謂フニ在リテ右西田院暗殺ヲ自分
ニ引受ケケシムヘク古實ヨリ傳言アリタル旨申シタリ依テ自分ハ
西田院暗殺ヲ木件襲撃計畫ノ一部ナリト考ヘ之ヲ承諾シ即時林
ヨリ拳銃一挺ト實彈八發ヲ交付ヲ受ケタリ而シテ翌十五日朝愛
郷塾ヲ出テ、上京シ後藤園彦ノ出迎ヲ受ケ同人ト共ニ同人ノ下
宿ナル上野驛附近ノ八千代館ニ行キ同所ニテ更ニ右後藤ヨリ本
件襲撃計畫ノ内容ニ付先ニ林ヨリ話サレタルト同様ノ説明ヲ聞
カサレ費用トシテ金三十五圓ノ交付ヲ受ケタリ尙同所ニ於テ拳
銃ニ實彈六發ヲ裝填シ殘リ二發ハ後藤ニ返還シタリ夫レコロ新
宿附近、東京驛等ニテ時ヲ過シ午後六時半頃當時東京府警多摩
郡代々橋町代々木山谷百四十四番地西田院方ニ到リ同人方ニ階

ルニ同人ハ今回軍人側ノ首相官邸、警察廳、政友會本部等ニ爆撃
ヲ發シ愛郷塾ニ於テハ之ヲ援ケタル爲東京附近ノ變電所ヲ襲撃シ
東京市内ヲ暗黒化スルニトナリタル旨ヲ告ケ參加ヲ求メラレ
タルヨリ暗殺セル政治組織ヲ破壊スルノ時機到來シタルモノト
喜ビ死ヲ決シテ參加スルコトヲ承諾シタリ而シテ當時東京府在
原町小山三百二十四番地河村驛助方ニ從兄温水竹則カ下宿シ居
タルヨリ同人ノ許ニ赴キ變電所ノ所在及位置等ヲ調査スルコトナ
リ四月八日午前六時頃兩ヨリ金二十圓ヲ貰ヒ上京ノ上河村驛助
方ニ行キ温水竹則ト同居スルニ至リタリ同月十一日以降東京市
内外ノ變電所ヲ調査シ居タルカ同年五月二日突然林正三、小室
力也ノ來訪ヲ受ケ同日日本青年館ニ於テ橋本ト會合シ變電所
襲撃ニ付協議シ同月三日ハ小室ト共ニ日黒變電所ヲ視察シ同月
五日ハ横須賀ト共ニ海軍變電所ヲ見分シ尙東京驛等ニ於テ小
室矢吹、大貫等ト會合シ同月七日ハ林正一方ニ於テ橋本ト會合
協議シ同月十日頃日本青年館ニ於テ午後七時頃ヨリ橋本ト會合
シ襲撃計畫ニ付協議ヲ爲シ結局遠濱變電所ヲ襲撃ヲ引受ケ尙同
日兩ヨリ金三十圓ヲ渡サレタリ同月十二日ハ滿洲ニ行ク兩
春田ヲ東京驛ニ見送りタルカ其際兩ヨリ更ニ金二十圓ヲ受取リ
其歸途後藤園彦、林正三等ト共ニ上野附近ノ某蕎麥屋ニ赴キ變
電所襲撃等ニ付話シ合ヒ同月十四日八千代館ニ於テ後藤ヨリ自
分及矢吹ノ分トシテ手榴彈二箇ヲ受取リ使用方法ヲ教ヘラレ同
月十五日午前九時半頃爲谷驛ニ行キ川崎長光ニ渡スヘキ金五圓
ヲ橋ニ渡シ次テ同日午後矢吹ト共ニ八千代館ニ到リタルトコロ

國家主義系不穩事件論告別録

後藤ハ不在ナリシヲ以テ待合セ申所ニ於テ矢吹ニ手榴彈一箇ヲ渡シタリ同日午後二時半頃後藤ハ降り坂上眞一郎方ニ金二千圓預ケ置キタル旨ヲ告ケタルヨリ自分ハ矢吹ニ金十圓ヲ渡シ坂上ヲ展リ金二千圓ヲ受取り午後三時頃坂上ヲ出テ午後六時三十分頃後藤電新案ニ到リ午後七時十分頃後藤所ノ建物ニ投付タル目的ヲ以テ手榴彈ノ機關銃ノ端ヲ持テ三回由ニ振リ投擲シタルニドーント謂フ音カシタルヲ以テ炸裂シタルモノト思ヒ逃走シタル旨ノ記載...

(二十三) 被告入後藤映範ニ對スル陸軍々法會議ニ於ケル殺人及殺人未遂遺物取歸罰違反被告事件ニ於ケル陸軍法務官ノ第一二回開調書ノ際本中同被告入ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日東京市外新大久保隣附近ノ澁川某ノ住居ニテ中村 古賀南中尉池澤武志等ト會ヒ古賀中尉ヨリ同年四月下旬ヨリ五月上旬ノ間ニ海軍側ハ夜襲ヲ伺ハ特種階級ニ向テテ集團テ行ハシメ強奪ノ火蓋ヲ切ルト云フ語ヲ聞キテ之ニ參加シ同年五月八日澁谷町某藩邸ニ於テ金清野ト共ニ古賀山岸中尉 村山少尉 黒岩若及池澤ト會合シ右計畫ニ付協謀ヲ行ヒ同年五月十五日坂元第一号行動要領書ヲ受取リ之ヲ參加候補生ニ示シ當日ハ一班ニ屬シ同日午後五時十分頃澁谷町社ヨリ東京市麹町區永田町二丁目一番地ノ首領官邸ニ向テ一行ハ三上海軍中尉 黒岩某 山岸海軍中尉 村山海軍少尉 八木 石岡 齋原 野村 各候補生及自分ノ九名ナリシカニ組ニ分レ首領官邸ノ表門及裏門ヨリ入りタリ自分ハ表門組トシテ左開ヨリ

屋内ニ入り大塚首領ヲ探シ求メ居タルトコロ應接室ノ前ニ背腹服ノ男カ一二名居リ自分等ヲ見テ二名カ逃ケ出シタルヨリ自分ハ逃カシテハナラヌト思ヒ其男ノ背後ヨリ拳銃ヲ一發發射シタルカ彈丸ハ海中セサリシモノノ如ク其男ハ何處ヘカ逃ケ行キタリ其中首領カ海軍將校ノ誰カト候補生一名位ニ連レラレタルニ出會ヒ同人等ト右側日本至ニ入り右側ニ首領カ座シ其正面ニ三上海軍中尉カ立チ自分ハ首領ノ左前方ニ居タリ其際二回問答ノ末三上海軍中尉カ先ツ拳銃一發ヲ首領ニ發射シ次テ右側名ノ執レカカ又一發發射シ夫々命中シ首領ハ二發目ニテ左前方ニ倒レタルヨリ一同ハ裏口ヨリ屋外ニ出テタリ自分ハ首領ヲ狙撃シタル室ノ前支關ニ近キ日本間ノ中ニテ海軍將校カ背腹服ノ男一名ヲ拳銃ニテ射撃シタル直後ノ状況ヲ見タリコレヨリ山岸中尉三上海軍中尉 齋原 石岡 齋原 候補生ト共ニ自動車ニテ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載...

國家主義系不穩事件論告別録

ヲ降り左ニ曲リタル所ノ左側ノ室ニ背腹服ヲ着シタル男カ腹ヲ抑ヘヤラレタト云ヒ倒レテ見タルカ三上海軍將校ノ男トモノト思ヒタリ自分カ食堂ヲシキ室ニ行キタルトモ三上海軍將校ニ拳銃ヲ探シ居ルヲ發見シタルカコレヨリ首領ハ三上海軍將校及候補生ト共ニ日本至ニ入り三上海軍將校カ首領ニ直向シ立チ候補生ハ村山ノ右側ニ立チ二回問答ノ後黒岩及三上海軍將校ニ一發發射シタルヲ發射シタルトコロ首領ハ應接室ノ上ニ頭ヲ下ケタル故一同其室ヲ出テ自分ハ裏門ヨリ少シ右ニ行キ左側ノ石段ヲ下リタル所ニテ黒岩少尉 村山少尉 野村候補生ト共ニ自動車ニ乘リ警視廳ヘ向ヒ午後五時三十分頃頃自動車カ到着シタルトモハ既ニ他ノ組カ警視廳ヲ襲撃シ去リタルヲ知リシヲ以テ自分等ハ同所ニテ下車シタルモ手榴彈モ拳銃モ使用セズ自分等ハ同所ヨリ憲兵隊ニ行キタルモ他軍ハ未ダ到着セザリシヨリ再び自動車ニ乘リ日本銀行前ニ行キ全員下車シ野村カ手榴彈ヲ門外ヨリ構内ニ投込ミタルニ爆發シタリ仍テ一同ハ全部自動車ニ乘リ同日午後六時頃頃憲兵隊ニ自首シタル旨ノ記載...

ヒタリ更ニ進ミタルニ海軍將校カ首領ヲ伴ヒ來ルニ會ヒタルヲ以テ之ニ隨行シテ日本間ノ應接室ニ入りタルニ首領ハ床ヲ背ニシテ座シ自分等ハ其前面ニ立チ山岸カ一撃ヲ撃テト申シタルヨリ黒岩カ首領ヨリ拳銃ヲ發射シ機イテ三上海軍將校ト共ニ一發發射シタルヲ發射シタルトコロ首領ハ俯伏シタリ彈丸ハ首領ノ右額頭部ニ命中シタルモノヲシテ其額ハ赤ク見エタリコレヨリ皆一掃ニ横支關ヲ通り歩歩ニテ裏門ヨリ出テ自動車ヲ雇ヒ三上海軍將校 齋原ト共ニ之ニ乘リ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載...

ハ海軍將校ト會合セザリシモ他ノ同志ハ數回會合シタリ斯クテ四月二十四日自カ滿見學旅行ニ出發スル頃ニハ製菓自體ハ大衆首相、牧野内大臣、工業俱樂部ト聞キ居リタルモ五月十四日右旅行ヨリ歸還スル途ハ内地ヨリ情報等ハナク右十四日ニ歸還シテ本件計畫ノ詳細ヲ聞キ十五日ニ決行スルニ至リタル旨ノ記載

(二十一) 同黨原市之助ニ對スル同上第二回訪問調書ノ際本中同人ノ供述トシテ自分ハ元陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日頃東京市外新大久保隣附近ノ或ル家ニ於テ中村、古賀兩中尉及池松武志、石關榮外入候補生ト會合シ判示計畫ニ參加シ同年五月十五日ニハ第一班ニ屬シ午後四時二十分頃靖國神社ニ行キ自分ハ山岸海軍中尉村山海軍少尉、野村候補生ト共ニ自動車ニ乘リ首相官邸ニ向ヒ車中ニテ手榴彈一箇、拳銃一挺、實包十六箇ヲ武器トシテ受取り自分等ハ裏門ヨリ入リテ自動車を廻シタルカ道力達ヒタルヨリ自動車ヲ下リ徒歩ニテ裏門へ行キ同所ヨリ官邸内ニ入り玄關附近ニテ威嚇ノタメ拳銃一發發テタリ然レ何人ニモ命中セズ其後自分ハ玄關ニテ警戒ノ任ニ當リタリ從テ内部ニ於ケル事實ハ知ラサルモ其内ニ自分ノ組ノ者モ表門ヨリ入りタル者ト共ニ出テ來リタルヲ以テ自動車ヲ照ヒ三上、山岸兩中尉、石關、後藤兩候補生ト共ニ東京憲兵隊本部ニ自首シテ首相官邸ニ於ケル行動ハ午後五時十分頃過リヨリ三十分頃ニ互リ爲サレタルモノト思フ旨ノ記載

ノ供述トシテ自分ハ元陸軍士官候補生ナルカ昭和七年五月十五日午後四時三十分頃後藤ト共ニ士官學校ヲ出テ靖國神社ニ到リタルトコロ暫クシテ篠原、石關、八木及海軍將校カ來リタルヨリ三上海軍中尉、黒岩海軍少尉後藤、石關、八木三候補生ノ組ト山岸海軍中尉、村山海軍少尉、藤原候補生及自分ノ組トノ二組ニ分レ自動車ニ乘リ首相官邸ニ向ヒ自分ハ車中ニテ海軍將校ヨリ拳銃一挺手榴彈一箇ヲ受取り自分等ノ自動車ハ裏門附近ニテ停車シタルヨリ全員下車ノ上徒歩ニテ午後五時半頃ト思ハレル頃裏門ヨリ入り篠原ハ玄關口ニテ警戒ノ任ニ當リ自分等ハ玄關ヨリ屋内ニ進入リ右ノ方ニ參リタルニ表門組ト出會ヒ廊下ヲ數歩進ミタルトキ奥ヨリ大發首相ヲ先ニ三上中尉カ被キ來テ右側ノ日本室ニ入り首相ハ床ヲ背ニ應接室ノ前ニ座シ海軍將校及士官候補生ハ其前ニ立チタルトキ山岸中尉カ「緊テ撃テ」ト申シタル故拳銃カ發イテ二發發射セラレ首相ニ命中シ首相ハ俯伏シタルヨリ一同引上ケ自分ハ黒岩村山、八木ト共ニ自動車ニテ警戒ニ向ヒ表玄關ニ到著シ一同下車玄關ヨリ屋内ニ入り海軍將校カ前子戸ヲ蹴破リタルカ何モ得ルトコロナク再び自動車ニテ憲兵隊本部正門前ニ行キ午後六時前更ニ日本銀行ニ到リ自分ハ門外ヨリ手榴彈一箇ヲ投入シタルトコロ爆發シタリソレヨリ自動車ニテ憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載

同上第三回訪問調書ノ際本中同人ノ供述トシテ昭和七年三月廿一日頃東京市外新大久保隣附近ノ某家ニ於テ古賀、中村兩中尉池松武志ト自分等候補生ト會見シタル以來判示計畫ニ參加シ同年五月十五日午後四時頃會合ト共ニ泉番等ニ赴キ門前ノ茶店ニ階ニ於テ古賀中尉、坂元、池松ト會シ古賀ヨリ實包六發裝填ノ拳銃一挺及實包六發ヲ受取り午後五時十分頃一行五名泉番等ヨリ自動車ニテ内大臣官邸正門前ニ到リ古賀、池松ノ兩中尉ト共ニ手榴彈一箇宛リ門内ニ投擲シタリ而シテ古賀中尉ノ投擲シタル一箇ハ溝に墜ルシタルカ其際自分ハ自動車ニ止マリテ運轉手ノ邊ヲ防クタメ之ヲ威嚇シテ坂元ハ外方ヲ警戒シ居タリソレヨリ一行ハ再び自動車ニテ同日午後五時四十分頃警察廳ニ赴キ先ツ坂元カ下車シ次テ自分及池松カ下車シ實包八手榴彈各一箇ヲ投擲シ自分ト池松トハ折柄玄關ヨリ出テ來リタル巡査一二名ヲ擲服シテ十數名ニ對シ拳銃ヲ一發發射シ古賀中尉ノ指示ニテ同所ヲ引上ケ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載

原西川、八木等ニシテ其日古賀中尉ノ話ニ依リ判示計畫ニ參加スルニ至リタル旨ノ記載

(二十二) 同黨動ニ對スル同上第二回訪問調書ノ際本中同人ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日頃大久保隣附近ノ或ル家ニ於テ古賀、中村兩中尉、池松武志等ト會合シ談合ノ結果判示計畫ニ參加シ同年五月十五日午後四時頃西川候補生ト共ニ士官學校ヲ出テ芝罘湯島湯島寺ニ赴キ古賀中尉及坂元、池松ト同所山門右側ノ茶店ニ階ニ於テ相會シ古賀中尉ヨリ武器彈藥ノ分配ヲ受ケタルカ自分ハ手榴彈一箇、短刀一口ヲ交付セラレタリソレヨリ同日午後五時十分頃泉番寺前ヨリ一行五名同乘シ東京市芝罘三田茶店一丁目五番地牧野内大臣官邸正門前ニ到リ古賀中尉ト池松ト下車シ同入等ハ順次手榴彈一箇宛リ門内ニ投擲シタルトゴロ古賀中尉ノ投擲シタル一箇ハ溝に墜ルシタルカ其際自分ハ自動車ニ止マリテ運轉手ノ邊ヲ防クタメ之ヲ威嚇シテ坂元ハ外方ヲ警戒シ居タリソレヨリ一行ハ再び自動車ニテ同日午後五時四十分頃警察廳ニ赴キ先ツ坂元カ下車シ次テ自分及池松カ下車シ實包八手榴彈各一箇ヲ投擲シ自分ト池松トハ折柄玄關ヨリ出テ來リタル巡査一二名ヲ擲服シテ十數名ニ對シ拳銃ヲ一發發射シ古賀中尉ノ指示ニテ同所ヲ引上ケ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載

ヨリ之ヲ拾ヒ更ニ投擲シタルモ再び不發ニ終リニ方西川、池松ト下車シ警察廳ノ玄關ニ向ケ拳銃ヲ發射シ古賀中尉モ自動車内ヨリ拳銃ヲ發射シタルヤウニ見エタリ此時警察ノ巡査一二名皆擲服ノ男四、五名カ屋内ニ逃込ミタリ自分等一行ハ同所ヨリ自動車ニテ午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載

(二十三) 同黨西川武敏ニ對スル同上第二回訪問調書ノ際本中同人ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日頃東京市外新大久保隣附近ノ某家ニ於テ古賀、中村兩中尉池松武志ト自分等候補生ト會見シタル以來判示計畫ニ參加シ同年五月十五日午後四時頃會合ト共ニ泉番等ニ赴キ門前ノ茶店ニ階ニ於テ古賀中尉、坂元、池松ト會シ古賀ヨリ實包六發裝填ノ拳銃一挺及實包六發ヲ受取り午後五時十分頃一行五名泉番等ヨリ自動車ニテ内大臣官邸正門前ニ到リ古賀、池松ノ兩中尉ト共ニ手榴彈一箇宛リ門内ニ投擲シタリ而シテ古賀中尉ノ投擲シタル一箇ハ溝に墜ルシタルカ其際自分ハ自動車ニ止マリテ運轉手ノ邊ヲ防クタメ之ヲ威嚇シテ坂元ハ外方ヲ警戒シ居タリソレヨリ一行ハ再び自動車ニテ同日午後五時四十分頃警察廳ニ赴キ先ツ坂元カ下車シ次テ自分及池松カ下車シ實包八手榴彈各一箇ヲ投擲シ自分ト池松トハ折柄玄關ヨリ出テ來リタル巡査一二名ヲ擲服シテ十數名ニ對シ拳銃ヲ一發發射シ古賀中尉ノ指示ニテ同所ヲ引上ケ東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ記載

(二十七) 同黨坂元兼一ニ對スル同上第二回訪問調書ノ際本中同人ノ

國家主義系不逞事件論告裁判決録

供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日
東京市外新大久保驛附近ノ某家ニ於テ今同ノ事件ニ關シタル
士官候補生十一名及池松武志ト古賀中尉兩中尉トカ會合シ共
同シテ政黨財閥特權階級ニ對シ直接行動ニ出ツヘキコトヲ決
議シ爾來其實行計畫ニ付種々協議シタルカ結局同年五月十五日
池松武志ト自分トカ水交社ニ古賀中尉ヲ助メ池松ニ於テ古賀ヨ
リ託セラレタル行動要領書ヲ自分カ受取リ之ヲ士官學校ニテ後
藤映範ニ手交シタリ自分等ハ右行動要領書ニ依リ計畫カ最後の
ニ決定シ之ニ基イテ判不十五日ノ決行ト爲リタルモノナルカ自
分ハ同日第二組ニ屬スルコトナリ午後四時三十分頃泉宿寺ニ
赴キ古賀中尉、四川、池松ト共ニ同所ノ茶店ニ階ニ上リ古賀
中尉ヨリ手榴彈一箇短刀一丁ヲ受取リ同日午後五時二十分頃
右茶店ヲ出テ泉宿寺前ヨリ自動車ニ二行五名同乘シ牧野内大臣
官邸前ニ到リ古賀、池松ノ兩中尉ト手交シ手榴彈一箇ヲ内ニ
投擲シタルトコロ古賀中尉ノ投擲シタル一箇ハ爆發シタリ之
同時ニ同所ニ停止シ居タル巡査一名カ向ヒ来リタルヨリ古賀
中尉ハ同巡査ニ拳銃ヲ擬シ同巡査カ即内ニ逃込マムトストキ
同巡査ノ後方ヨリ拳銃一發ヲ發射シタリ夫レヨリ自分等一行ハ
古賀中尉ノ持セル日本國民ニ機スル短刀ニ機文數枚ヲ進行
中ノ自動車ヨリ街路ニ撒布シツツ警視廳ニ向ヒ同日午後五時四
十分頃到着シ自動車ヲ司法省側ニ向シタル車道ニ停メ自分等
トカ下車シ之關ニ向ケ手榴彈ヲ投シタルモノ不發ニ終リ若モ投擲
シタルカ之亦不發ニ終リタリ尚池松及西川兩中尉モ下車シ之關ニ

二二三

向ケ拳銃ヲ發射シ古賀中尉モ自動車内ヨリ拳銃ヲ發射シタリ右
行動カ終リテ後自分等ハ午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シタ
ル旨ノ記載
(三十一) 同中島忠秋ニ對スル同上第二回開問調書ノ陸本中尉人
ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年五月十五日
午後四時頃士官學校東通門ヨリ出テ金清及吉原ト落合ト自動
車ニテ新橋驛ニ赴キ中尉ト會合シ同日午後五時頃同所ヲ出
發シタルカ夫レ時間カ早カリシタマヒ芝公園、明治神宮外苑等ヲ自
動車ニテ巡視シ右自動車内ニテ中尉ト會合シ其日ノ行動ニ付テ
要領ヲ聞キ且武器ノ分配ヲ受ケ自分ハ拳銃一挺實包九發手榴彈
一箇ヲ受取リ同日午後五時三十分頃麹町區内山下町致友會本部
ニ到リ東側道路ニ停車シタリ先ツ中尉ト會合シ手榴彈一箇
ヲ同本部支關露露ニ投擲シタルモノ不發ニ終リタルヨリ同中尉ハ
更ニ之ヲ拾ヒ投擲シタルカ再ヒ不發ナリシヲ以テ自分ハ同中尉
ノ不結果ヲ補フ爲メ下車シ同中尉カ投擲シタル箇所ヨリ露露ヲ目
標トシテ手榴彈ヲ投擲シタルニ爆發シタリソレヨリ同中尉ト共
ニ自動車ニ乘リ警視廳ニ向ヒ同日午後五時四十分頃到着シ樹田
門前ノ支關前空地ニ自動車ヲ停メ金清及吉原ノ二名カ下車ノ上
金清ハ右支關附近ノ歩道ヨリ第一階前子窓附近ヲ目標トシテ手
榴彈一箇ヲ投シタルモノ不發ナリシヨリ更ニ之ヲ拾ヒ二階ノ硝子
窓附近ヲ目標トシテ投擲シタルトコロ其前ノ電柱ニ當リ爆發シ
タリ其頃古賀中尉ノ組モ警視廳ニ到着シ候補生二名カ手榴彈投
擲ノ箇所ヲ物色シ居リタルカ自分等ハ古賀中尉ノ組ヨリモ早ク

同所ヲ引上ケ同日午後六時頃東京憲兵隊本部ニ自首シタル旨ノ
記載
(三十) 同吉原政巳ニ對スル同上第二回開問調書ノ陸本中尉人
ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日
東京市外新大久保驛附近ノ某家ニ於テ古賀、中尉兩中尉及池
松武志ト士官候補生ト會合シハ出席セザリシモ同日ノ
會合ノ状況ハ同夜藤原ヨリ聞キタリ同年五月十四日滿鉄旅行ヨ
リ歸校シタル際ハ直接行動ハ思ヒ止マムト欲シタルモノ既ニ計
畫ハ懸ヒ居タルヲ以テ自己ノ心境ノ變化ハ之ヲ拋棄シ今同ノ行
動ヲ共ニシタル旨ノ記載
(三十二) 同金清豐ニ對スル同上第二回開問調書ノ陸本中尉人
ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日
東京市外新大久保驛附近ノ某家ニ於テ古賀、中尉兩中尉及池
松武志ト士官候補生ト會談シタル結果判示計畫ニ參加シ同年五
月十五日午後四時頃士官學校東通門ヨリ金清ト共ニ出テ中島
ト落合ト自動車ニテ新橋驛ニ赴キ中尉ト會見シ共ニ同日午
後五時頃自動車ニ乘リ芝公園、明治神宮外苑等ヲ巡視シ致友會
本部ニ到リタルカ其自動車内ニテ中尉ト會合シ拳銃一挺及實包
若干發ヲ受取リ午後五時三十分頃致友會本部ニ到着シタリ到
著スルヤ中尉ト會合シ手榴彈一箇ヲ同本部支關ニ投擲シ
タルトコロ不發ニ終リタルヨリ同中尉ハ之ヲ拾ヒ更ニ投シタル
モノ爆發セス其内中島忠秋ト手榴彈一箇ヲ投擲シタルニ雖然
爆發シタリ中尉及中島ハ順次自動車ヲ引上ケソレヨリ警視
廳ニ向ヒ同日午後五時四十分頃警視廳ニ到着シ自分ト金清ト下

國家主義系不逞事件論告裁判決録

二二三

車ト自分ハ金清ノ投擲ヲ掩護スル爲メ同人ニ隨伴シ同人ハ支關前
司法省側道路ヨリ手榴彈一箇ヲ投擲シタルモノ不發ニ終リタルヲ
以テ更ニ之ヲ拾ヒ同地點ヨリ警視廳三階窓前子ヲ目標トシテ投
擲シタルトコロ電柱ニ當リテ爆發シタリ其頃古賀中尉ノ組モ來
リタルカ自分等ノ組ハ直チニ引上ケ同日午後六時頃東京憲兵隊
本部ニ自首シタル旨ノ記載
(三十三) 同金清豐ニ對スル同上第二回開問調書ノ陸本中尉人
ノ供述トシテ自分ハ陸軍士官候補生ナルカ昭和七年三月二十一日
東京市外新大久保驛附近ノ某家ニ於テ古賀、中尉兩中尉及池
松武志ト自分等候補生ト會談シタル結果判示計畫ニ參加シ
其後同年五月八日午後八時頃池松ヲ助メ同人ト打連レ原宿驛
ニ於テ古賀中尉、照野少尉ト會ヒ明治神宮參道ニテ山岸中尉、村
山少尉ト會見シ相共ニ神宮通ノ省線ガード附近ノ某蕎麥屋ニ到
リ同家ニ階ニ於テ判示計畫ニ付談合シ同日十五日ハ午後四時
頃士官學校東通門ヨリ吉原ト共ニ外山ト會合シ自動車
ニテ新橋驛ニ到リ中尉ト會合シ同日午後五時頃自動車ニ
同乘シテ同所ヲ出發シ芝公園、明治神宮外苑等ヲ巡視シ致友會
本部ニ到リタルカ其車中ニテ中尉ト會合シ手榴彈一箇、短刀一
丁ヲ受取リ午後五時三十分頃致友會本部東側ノ道路ニ自動車ヲ
停メ先ツ中尉ト會合シ手榴彈ヲ同本部支關露露ヲ目標ト
シテ投擲シタルトコロ不發ニ終リタルヨリ同中尉ハ之ヲ拾ヒ更
ニ同地點ヨリ之ヲ投シタルモノ再ヒ爆發セス其内中島忠秋ト手
中尉ト共ニ行キ手榴彈一箇ヲ投擲シタルニ支關露露ノ何處ニ

常リタルカ不明ナルモ、然レテモ、以テ右兩名ハ自動車ニ引返シ直チニ警視廳ニ向ヒ同五時四十分頃警視廳田門寄支關前ノ空地ニ自動車ヲ停メ、自分ハ吉原ト共ニ下車シ、同支關前向テ法者側ニ面シタル車道ヨリ同支關前ヲテ、左側ノ二三階建ノ外壁ニ向ケテ手榴彈ヲ投擲シタルトコロ、街路樹ニ引カカリ不致ノ懸落下シタリ、因テ自分ハ更ニ之ヲ拾ヒ、同地階ヨリ同支關前向テ窓ヲ目標トシテ之ヲ投擲シタルニ、電柱ニ當リテ爆發シタルヨリ、自分ト吉原トハ自動車ニ引返シタリ、第一回ノ投擲カ不致ニ終リ、自分カ手榴彈ヲ拾フ頃、吉原中尉ノ粗モ、同所ニ來セ、坂元カ下車シタルヲ認メタルカ、自分等ノ粗ハ直チニ自動車ニ東京憲兵隊本部ニ向ヒ同日午後六時頃、吉原及自分ノ三名ニテ中村及田町ニ進行中ノ自動車ヨリ中島、吉原及自分ノ三名ニテ中村中尉ヨリ渡サレタル日本國民ニ機スト短スルビテ數百枚ヲ擲布シタル旨ノ記載アリ。

(三十四) 證人村田嘉幸ニ對スル豫審判事ノ調問書中同證人ノ供述トシテ、自分ハ警視廳巡查ニシテ昭和七年五月十五日海軍士官、陸軍士官學校生徒等カ首領官邸ヲ襲撃シタル時、首領大義教ヲ狙撃シタル當時、同官邸ノ警備係ヲナシ居タルカ、同日午後五時五分頃、通門ノ石田巡查ノ所へ、巡視ニ行キ、二三間展リヨリ、トキ野巡查カ走り來リ、陸軍士官學校カ自動車ニテ表支關ヨリ入りタル旨ヲ告ケタルヨリ、官邸本館表支關ニ駆付ケ見タルニ、海軍士官二名、陸軍下士ノ服裝ノ者三名カ居リ、海軍大尉ノ服裝シタル者カ自分ニ向ヒ總理ニ面會シ度キ故、案内セト申シタルカ。

其時總理カ危イ日本間ノ方ヘ行ケト謂フ聲カ聞エタルニ、ヨリ日本間ノ支關ニ駆付ケ支關ノ右側ヘ二歩歩入レタル際、陸軍下士ノ服裝ノ男カ居リ、之ト衝突セムトシ、一歩左ニ身ヲ交シタルトコロ、其左側ニ海軍將校ノ服裝ヲナセル男立チ居リテ、銃ヲ差向ケタルヲ以テ、二歩身ヲ引キタルニ、其時既ニ避人ハ自分ヲ射撃シ、彈丸ハ右大腿部ニ命中シタリ、仍テ次ノ彈丸ヲ避テ、右腕ノ骨ヲ穿テ、正面外側、丸ヲ外ニ身ヲ避ケ、暫クシテ、支關ニ到リ、更ニ裏門ニ行キ見タルニ、既ニ暴漢ハ逃去リタル旨ヲ聞キ、タリ自分ハ、其日赤坂見附ノ前田病院ニ赴キ入院シ、手當ヲ受ケタルカ、傷ハ右大腿部ノ貫通銃創及左前脚ノ貫通銃創ニシテ、大腿部ヲ射撃セラレタル際、傷リタルモノト思フ、其後二十三日日ニ退院シ、爾後警視廳院ニ通ヒ手當ヲ受ケタリ、尚田中五郎巡查カ狙撃セラレタルトハ、前田病院ニテ聞キタル旨ノ記載アリ。

(三十五) 證人橋井龜一ニ對スル同上調問書中同證人ノ供述トシテ、自分ハ警視廳巡查ニシテ昭和七年五月十五日海軍士官、陸軍士官學校生徒等カ首領官邸ニ、丁目五番地内大臣官邸ヲ襲撃シタル當時、同官邸ノ警備係ニ當リ、門外ノ向テ右側ノ柱ノ前ニ間隙距離ナル箇所ニテ立番ヲ爲シ居タルトコロ、同日午後五時二十五分頃、ト思フ頃、三田功運町方面ヨリ、一乘ノ自動車來リ、自分ノ前ニ三田功運町方面ヨリ、一乘ノ自動車來リ、位置ニ付注意セムト思ヒ、二三歩進ミタル際、一名ノ海軍士官カ下車シ、正門ニ近付タト見ルヤ、突如手榴彈ヲ取出シ、正門横ノ柱ニ、即ニ投込ミタルヨリ、自分ハ二三歩門内ニ進ミタルニ、大音響ヲ發シタリ、其

其様子カ慌シキヨリ、取敢ヘズ支關脇ノ第一應接室ニ通シ、氏名ヲ訊ネタルトコロ、「我々ハ海軍大學ノ校長ノ命テ來タノ案内セヨ」と云フテ、自分ノ胸ヲ執リ、海軍少尉ノ服裝ノ者ト共ニ、銃ヲ突付ケ押出ス如ク、ニシテ自分ヲホールニ出シタリ、仍テ已ムナク、開議室ニ昇ル中央階段ノ前ヨリ、ホールヲ西ニ進ミタルカ、其際襲セラレタル銃ノ手カ少シ緩ミタルヲ看取シ、其開議室へ飛出シ、「軍人ノ暴漢カ來タ早ク總理ヲ隠セ」と怒鳴リ、乍ラ裏庭ヲ日本間ノ方ニ走りタリ、次テ日本間支關脇ノ警備係所ニ到リ、田中、出口兩巡查ニ暴漢カ來タ總理ヲ隠セト怒鳴リ、表門ニ到リ、他ノ警備員ノ應接ヲ求めテ、日本間ニ來リタルニ、日本間ノ第二客室ニ於テ、既ニ總理ハ横ニ倒レ居リ、來合セ居タル大野博士ノ手當ヲ受ケ居タリ、其間ニ外ヲ見タルニ、日本間ノ内支關ハ開カレ、其外ニ平山巡查カ「ヤラレタ」と謂ヒ、股ヲ縛リ、居リ、次テ秘書官官舎ニ行キ見タルニ、田中巡查モ射撃セラレ、下腹部ヲ押ヘ居リタル旨ノ記載アリ。

(三十六) 證人平山八十松ニ對スル同上調問書中同證人ノ供述トシテ、自分ハ警視廳巡查ニシテ昭和七年五月十五日海軍士官、陸軍士官學校生徒等カ首領官邸ヲ襲撃シタル時、首領大義教ヲ狙撃シタル當時、同官邸ノ警備係ヲナシ居タルカ、其日午後五時頃、官邸内車庫ニテ「オートバイ」ノ具合ヲ伺ヘ居リタルトキ、表支關ノ方ニ於テ「襲撃」ト謂フ聲カシタルヨリ、何事ナラムト、駆付ケ、表支關ノ小脇ニ抱ヘ、表支關ノ扉ヲ排シ、廣間ニ入りタルトコロ、正面ノ階段ヨリ、一名ノ海軍將校カ降り來リ、銃ヲ向ケタルヲ以テ、將校カ自分ヲ暴漢ト間違ヘタル者ト思ヒ、階段ノ右側ニ身ヲ寄セ居タリ、

時他ノ陸軍下士ノ服裝ヲナセル男カ一名下車シ居リ、海軍將校ト共ニ自分ノ方ニ、銃ヲ向ケ居タルヲ以テ、即ニ侵入セラレテハ、一歩ナリト思惟シ、門内ニ驅出シタルトコロ、其間背後ヨリ左肩ヲ狙撃セラレ、貫通銃創ヲ受ケタリ、自分カ即ニテ、警備係ヲ吹キ、正門ニ引返シタル時、既ニ自動車ハ伊豆子方面ニ走り去リ、居タルヲ以テ、取敢ヘズ伊豆子町ノ宮坂警察署ニ、應急手當ヲ受ケ、翌十六日警視廳院ニ入院シ、五月末退院、其後十日程通院治療ノ結果、全治シタリ、尙前示十五日ニハ、炸裂ノ手榴彈ノ外更ニ一發ノ手榴彈カ投込マレ不致ニ終リタルトコロヲ聞キタル旨ノ記載アリ。

(三十七) 證人長坂弘一ニ對スル同上調問書中同證人ノ供述トシテ、自分ハ警視廳巡查ニシテ昭和七年五月十五日、日限ニハ、宿直ニ當リ居タルカ、同日午後五時三十分頃、警視廳院外ニテ、大音響カ致シタルヨリ、窓ヨリ外ヲ見タルニ、歩道ノ樹木ノ葉カ落テ、二人ノ陸軍ノ服裝ヲナシ居ル人カ居ルヲ認メタルヲ、右ノ如キ音響カシタル爲メ居合セタル人々、凡ソ二十名許リカ表支關ニ驅降り、自分モ之ニ加ハリ、其邊ヲ見廻シタル際、三四發ノ銃聲カ耳ニ入りタリト、思フヤ、咽喉ヲ縛メラレタルカ、如キ、恰好トナリ、首カ動カナクナリタルカ、如ク感シタルカ、其際下腹部ヲ左ヨリ右ニ、貫通銃創ヲ受ケタリ、其時銃聲ノスル方向ヲ眺メタルニ、自動車一乘、停車シ居リ、海軍士官一名カ扉ヲ半分開キ、片足ヲ踏込、ニカケ、自分等ノ方ニ、銃ヲ向ケ居タルヨリ、自分等ハ階段ヲ逃ケ、外リタルニ、背後ヨリ銃聲カ聞エタルト共ニ、右膝ヲ射撃セラレ、其處ニ、貫通銃創ヲ受ケ、膝カ伸ビサルヤウニナリタルカ、無理ニ、踏張り、階段ヲ外リ、自

分ノ居室ニ入り當日警察病院ニ入院ヲ受ケ六月十二日全治
 退院シタル旨ノ記載
 (三十三) 證人高橋純ニ對スル同上期間調書中同證人ノ供述トシ
 テ自分ハ購買新聞記者ニシテ昭和七年五月十五日當時ニハ社會
 部記者トシテ警察廳ニ詰リ居タリ同日ハ午後ヨリ警察廳ニ赴キ
 タルトコロ午後五時三十分頃同廳表門前ニシテ同方
 向ヨリ大音響カ聞エタルヨリ直チニ表門前ニ出テ見タルニ此ノ
 北方面行市電ノ安全地帯邊ニ海軍士官ノ乗車セル一車ノ自動車
 停車シ青山方面行市電ノ安全地帯ノ方向ニ陸軍軍人二名ヲ認メ
 タリ尚ヨク見廻シタルニ表門前附近ノ公衆電話ノ上方ニ當リ煙
 カ濃ヒ居タルヨリ二三歩進ミ行キタルトコロ其頃ハ既ニ警察
 廳内ヨリ十二三名ノ人カ表門前ニ出テ居リ同人等ヨリ危險ヲ
 注意セラレ振返リ見タルニ兼テ海軍士官カ車内ヨリ片足ヲ踏案
 二掛ケ拳銃ヲ差向ケ居タルヲ以テ急キ廳内ニ駆込マムトシ表
 關ノ石柱ノ邊ニ來リタルトキ銃聲ヲ聞キ其間自分ノ下腿部ヲ
 後ヨリ咬打セラレタルカ如ク感シ一旦其場ニ跌キタルカ直チニ
 起上リ階段ヲ外リ脚部ヲ調ヘタルニ貫通銃創ヲ受ケ居タリ同日
 南佐久間町野島外科病院ニ入院シ二週間ニシテ退院其後モ通院
 治療ヲ受ケタル旨ノ記載
 (三十四) 證人西田茂ニ對スル同上期間調書中同證人ノ供述トシ
 テ昭和七年五月十五日午後六時頃自分ハ代々木山谷百四十四番
 地ノ當時ノ自宅ニ居リタルニ豫テ面識アル川崎長光カ面會ヲ求
 メタルヨリ二階六疊ノ應接間ニ通シ角卓子ヲ換ミ椅子ニ腰ヲ

下シ血盟團事件等ニ付二三十分間對談シタルカ其間同人ハ右
 手ヲ三度袖口ニ入レ落著ナカリシ故自分ハ同人カ田舎ヨリ出
 テ來タル爲度度カカサツキ居ルモノト思ヒ居タルトコロ午後七
 時前後突然同人ハ懐中ヨリ拳銃ヲ出シ立上リテ之ヲ突付ケ一發
 發射シタリ自分ハ譯カ分ラズ憤慨ト又自己ノ身ヲ防衛スル爲ト
 フ交錯シタル心持ニテ直チニ角卓子ノ脚ヲ擲ミテ之ヲ持上ケ同
 人ニ押付ケタルニ同人ハ階段ノ方ノ廳下ニ出テ諍ヲ交シタルヨ
 リ卓子ハ引繰リ返リタリ其際同人ハ更ニ被ケ様ニ二三發自分
 フ射撃シ其内一發ハ肩ニ命中シタルヲ以テ自分ハ死ノ覺悟ヲ爲
 シ尙同人ニ擲ミ掛リタルニ更ニ二三發射タルカ同人ハ彈
 丸カ盡キタルモノト見エ逃出シタリ其時腰リタル傷ハ右手掌、
 右前腕右側腕部各貫通銃創右土腕下腹各部貫通銃創ニシテ一
 時ハ危險ナリシ旨ノ記載
 (四十二) 強制處分ニ於ケル豫審判事ノ内閣總理大臣官邸檢證調書
 中同官邸ハ東京市麹町區永田町ニ在リ同官邸本館玄関ヲ入りタ
 ル處ニ大ホール存在シ其西方正面ニ二階ニ昇リ階段其左右ニ廊
 下アリ其左廊下ヲ進ミ左手扉ヲ辨スレハ喫煙室ニ至ルハ同室東
 隅ヲ南行シ階段ヲ下リタル處ニ日本間ニ通スル廳下アリ其入
 口ヨリ南方ニ七段五段三段ノ階段存シ之ヲ降リテ南進シ正面ノ
 出入口ヨリ入レハ即チ日本館ニシテ其西方正面ニ内玄関アリ此
 玄関内ヨリ南進スル廳下ノ東側ニ洋風應接間アリ之ヨリ奥ノ廊
 下ノ西側出入口ヲ入り南進シ押入ニ突當リ其西ニ接續シテ奥ノ
 間ニ通スル入口存在セリ此處ニ到ル間ノ廳下ノ東側ニ十疊十五

疊ノ客間存ス立會ノ總理大臣秘書官近藤儀一ハ大森首相ノ遺體
 現場ト目セラルルハ右十五疊ノ間ナル旨説明シタルヲ過キ更
 ニ南行スル廳下ノ東側ニ十五疊及十疊ノ居間存在ス右十五疊ノ
 間ニ二箇ノ窓ヲ置キ北枕ニ死體ヲ安置シテ近藤儀一ハ右ハ
 大森毅ノ死體ニシテ昭和七年五月十五日暴漢闖入シテ狙撃セラ
 レ送ニ死シタルモノト説明シタル旨ノ記載
 (四十一) 同上政友會本部ノ檢證調書中同本部ハ東京市麹町區内
 山下町二丁目一番地ニ存在スル煉瓦コンクリート四階建南面ノ
 建造物ナル旨ノ記載
 (四十二) 同上日本銀行ノ檢證調書中同銀行ハ東京市日本橋區本
 町一丁目一番地ニ存在スル煉瓦コンクリート三階建ノ建造
 物ナル旨ノ記載
 (四十三) 同上東京電燈株式會社檢證調書中同會社ハ東京市
 ハ東京市豊多摩郡澁田町大字角宮五百八十六番地ニ存在スル旨
 ノ記載
 (四十四) 同東京電燈株式會社檢證調書中同會社ハ東京市豊多摩郡
 澁田町大字角宮五百八十六番地ナル旨ノ記載
 (四十五) 證人市川徹作作成ニ係ル昭和七年五月二十七日附
 「鑑定書」ト題スル書面中被害者大森毅ハ昭和七年五月十六日午
 前二時三十五分死亡シタルカ同人ニハ銃聲ニ依リ示シ如キ創
 傷アリテ其死因ハ右銃創ニ起因スル頭蓋腔内血管ノ損傷ニヨル
 出血ニヨリ腦壓迫症ヲ起シ呼吸及心臓麻痺ヲ起シタルニ在リト

鑑定シタル旨ノ記載
 (四十六) 醫師工藤惟之作成ニ係ル昭和七年五月十七日附田中五
 郎ニ對スル「診斷書」ト題スル書面中受傷後約四十分ニシテ初診
 シタルカ同人ニハ右胸部ヨリ左背脊第十二肋骨附近ニ貫通銃
 創ヲ認メタル旨ノ記載
 (四十七) 同醫師作成ニ係ル昭和七年五月二十六日附田中五郎ニ
 對スル「死體診斷書」ト題スル書面中警察廳巡査田中五郎ハ昭和
 七年五月十五日發病シ同月二十六日午前四時五十五分東京市赤
 坂區傳馬町二丁目二番地前田外科病院ニ於テ死亡シタルカ其
 死因ハ外傷ニ起因スル急性腹膜炎ナルコトヲ證明スル旨ノ記
 載
 (四十八) 同醫師作成ニ係ル昭和七年五月十七日附平山八十松ニ
 對スル「診斷書」ト題スル書面中同人ハ受傷後直チニ來助入院シ
 タルカ同人ニハ右大腿部貫通銃創及左前臂貫通銃創アリ全治迄
 ニ約一月半ヲ要スルモノト診斷シタル旨ノ記載
 (四十九) 醫師宮坂式郎作成ニ係ル昭和七年五月十七日附井龜
 日數約三週間ノ治療ヲ要スルモノト診斷シタル旨ノ記載
 (五十) 醫師秋谷良男作成ニ係ル昭和七年五月二十三日附長坂弘
 二ニ對スル「診斷書」ト題スル書面中同人ハ下顎部及右膝關節ニ
 射創アリ同月十五日ヨリ治療シ四週間安寧加療ヲ要スルモノト
 診斷シタル旨ノ記載
 (五十一) 醫師島原照雄作成ニ係ル昭和七年五月十五日附高橋

ニ對スル「診斷書」下題スル書面中人ハ右下腹貫通銃創ニ因リ入院中ナルカ今後約三週間安靜然ルヘキモノト診斷シタル行ノ記載

(五十二) 隣小池徳造作成ニ係ル昭和七年九月二十七日附西田税ニ對スル「徵收書」下題スル書面中人ハ昭和七年五月十五日射撃セラレタル由ニテ右手拳、右腕及右側胸部ニ各貫通銃創ヲ受ケ、下腹部ニ各貫通銃創アリ十六日開腹手術等ヲ行ヒ輸血ヲ施スコト二回ニ及ヒタリ數日ニシテ容體漸々良好尙病後症候ニ赴キ六月二十八日退院其後本院(順天堂醫院)ニ通院入月二十三日來院シタルトキハハ創口全治セル行ノ記載

(五十三) 原審第十九回公判調書中
被告人川崎長光ノ供述トシテ昭和七年押第六六三號ノ入ノ拳銃ハ自分カ西田税ヲ射撃スル際使用セシモノナル旨被告人大貫明幹ノ供述トシテ同年押第六六〇號ノ一ハ自分カ鬼怒川水力電氣株式會社東京變電所襲撃ニ行キタル際持参シタル手榴彈ナル旨

被告人堀五百枝ノ供述トシテ同年押第六六三號ノ一七ハ自分カ東京電燈株式會社田端變電所襲撃ノ際携ヘ行キタル手榴彈ニ相違ナキ旨
被告人小室力也ノ供述トシテ前同號ノ一八ハ自分カ東京電燈株式會社田端變電所襲撃スル時タカト携ヘ行キタル手榴彈ナル旨
被告人奥田秀夫ノ供述トシテ前同號ノ二八ハ自分カ判示三三號銀行ヲ襲撃シタル際携ヘ行キタル手榴彈ナル旨

マツテ實ヲ次第タト云ヒ夫レヨリ赤沼ハ一向ツテ何トモ申サカナイト云ヒテ謝リタルカ自分カ赤沼ニ對シ「皆殺ノ前テ今一度事情ヲ述ヘヨ」ト申セシトコト赤沼ハ一向ツテ床次ノ手形ノ割引ノ周旋カ出來サリシト、及吉賀ヨリ南里カ立候補ヲ斷念シタル由ヲ聞キタルコト等ノ語ヲ爲シ南里ノ選擧費用ハ不調達ニ終リシ事情ヲ委シク申述ヘタル中、南里本間及私等カ口々ニ赤沼ニ向ヒ「貴様ハ吉賀ヨリ語カアツタト云フカ吉賀ノ話ハ我々ノ方ニ何等關係ノナイコト我々ニ一言ノ挨拶モセズニ我々ノ顔向ノ出來ヌヨウニシタルハ不都合タ極シカラヌ奴、嘘ツキタ」等ト大聲テ叱リ付ケ吉岡モ赤沼ニ向ヒ「御前ノ遺リ口ハ不都合タ、怪シカラヌ」ト云ツテ語リ尙其席ニ在リシ者等カ口々ニ四方八方ヨリ赤沼ニ向ヒ「不持ナ奴、不都合ナ奴、嘘ツキ、精進者」等ト云ツテワラント罵罵言セカケタリ其場面ト云フモノハ大變ナ騒キニテ誰カ何ト云フ言葉ヲ發シタルヤ一々記憶セサルモ自分等一同ノ權權カ激シカリシ爲メ赤沼モ全ク閉口シテ止舞ヒタリ、在様ナ騒キノ間ニ赤沼ハ幾度モ謝リタルカ自分等ノ方ニ於テハ各自云ヒ度イと思フコトヲ云ヒ居リタルカ其内本間カ赤沼ニ向ヒ「貴様ハ謝罪スル席上テ座布團ヲ敷クトハ無禮タ怪シカラヌ」ト怒鳴リ付ケ赤沼ノ敷キ居タル座布團ノ方ヘ手ヲ差出シタルトコト赤沼ハ直チニ座布團ヲ外シ其座布團ヲ傍ラニ押シヤリタリ夫レヨリ一同カ引續キ赤沼ヲ怒鳴リ付ケシトコト赤沼ハ二元來物質ノ爲メニ起ツタコトタカラ物質ヲ勘辨シテ頂キ度イ」ト申シタル處自分等一同

被告人池原武志ノ供述トシテ同年押第六九六號ノ二三ハ自分カ判示内大臣官邸ニ投擲シタル手榴彈ナル旨
各記載

(五十四) 被告人矢吹正吾ニ對スル第七回豫審調書中昭和七年押第六六〇號ノ九ハ自分カ判示龜戶變電所ニ投擲シタル手榴彈ニ相違ナキ旨ノ供述記載
(五十五) 押收ニ係ル拳銃一挺(昭和七年押第六六三號ノ八)手榴彈六箇(同年押第六六〇號ノ一及九、同年押第六六三號ノ一七、一八及二八、同年押第六九六號ノ二三)ノ各存在
ヲ綜合考慮シテ之ヲ認定シ各犯意繼續ノ點ハ判示第一ノ三ノ事實關係ノ各被告人及吉賀海志等カ夫々短期間内ニ判示各同種行為ヲ反覆行ハタル事案ニ微シテ之ヲ認ム

判示第二ノ事實
(一) 被告人頭山秀三、同本間憲二、同山本貞美、同中澤交、同吉岡信敬ノ各當公廷ニ於ケル判示冒頭以下同被告人等カ何レモ赤沼吉五郎ノ背信的行爲ニ憤慨シ居タリトノ點迄ノ事實ニ付各自其關係部分ニ付判示同旨ノ供述
(二) 被告人山本貞美ニ對スル第三回豫審調書中同人ノ供述トシテ自分カ判示三月二十七日判示天行會二階頭山秀三ノ居室ニ於テ頭山秀三、本間憲二、中澤交、南里三省及吉岡信敬ト共ニ赤沼ニ謝罪ヲ爲サシメタル際ノ模様ヲ述ヘシニ、其際先ツ自分カ口ヲ切リ「實ハ赤沼カ私ノ許ニ來タケレトモ私一存テハ計リ兼ねル」ト云フ様ノ御集リノ席上テ赤沼ニ詫言ヲ爲メ集

ノ申サカカ「貴様何事テモ物質ヲ解決シヤウトスル不都合ナ奴、此問題ハ物質ノ問題テハナイ貴様ノ遺リ方カ悪イ爲メニ我々ノ面目ヲ潰シタトカ怪シカラヌ」ト云ツテ叱リ付ケタルヨリ赤沼ハ進退ニ窮シ自分等一同ニ向ヒ「ソレレハ怒ウシカラ解決出來ルカ御指圖ヲ願フ」ト申シタル處其時其處ニ道具カアラソレヲ貸シテ遺ルカヲ自決シロ」ト云フ聲ヲ耳ニシフ本間ノ顔ヲ見ルト本間ハ頭山秀三ノ机ノ傍ニ立舞ケアリシ居合拔用ノ黒鞆箱ノ大刀ヲ眼ニテ指示シ有ラニヤリト微笑シタリ赤沼ハ其言葉ヲ聞イテ全ク背クナリ震ヘ上ツテ止舞ヒ「自分ハ本日自決スルタメニ伺ツタモノテハナイ御詫ニ參ツタモノテ未タ年老イタ母モアリソレヲ見送ル迄ハ左様ナコトハ出來ヌカラ如何様ニシテモ皆殺ノ顔ヲ立テルカラ何本物辨テ願ヒ度イ」ト云ツテ不謝リニ謝リタリ夫レ迄ニ頭山秀三モ「不都合タ、無禮ナ奴」ト云ツテ赤沼ヲ叱責シ居タリト旨ノ記載
(三) 被告人中澤交ニ對スル第五回豫審調書中同人ノ供述トシテ判示三月二十七日赤沼ヲ謝罪セシメタル天行會二階十疊ノ秀三ノ居間ニハ四ノ隅ニ三尺幅ノ出入口カアリ東ノ隅ノ邊ニ頭山秀三ノ机カ一脚存シ其傍ラニ白箱ノ名刀二本ト軍刀一本掛ケアリ尙壁ノ北側邊ニ高サ三尺位ノ刀籠箱一棹置キアリソノ上ニ友成ト云フ白箱ノ刀カ一本藏セアリタリ而シテ右十疊間中央ヨリ稍東北寄ノ位置ニ額戸ノ大キナ九火鉢一箇存シ其火鉢ヲ圍ミテ前述ノ机ノ前邊ニ頭山秀三カ座シ赤沼ハ前記出入口近クニ座シ居リ他ノ位置ニ山本、本間、南里、吉岡及私カ座リ居タリ最

初南里ノ詰問ニ對シ赤沼カ兎ヤ角ト辯解シ居タルカ赤沼ハ開直リシ態度ヲ以テ「古賀サシカ南里ニハ金ヲ貸サナクトモ良イト云ツタカラ金ヲ借ラヘナカッタ」ト云フ意味ノコトヲ申シタリ

上ニ在リタル白箱ノ日本刀ヲ木間ノ横ノ疊ノ上ニ投ケ出シ「ガチヤン」ト云フ音カ聞ヘタリ、其時ハ既ニ正午頃ナリシヨリ自分ハ右刀ノ音ヲ聞キ乍ラ赤沼ニ向ヒ此野郎實ニ誰ナ野郎ト云ビ

其際ニ赤沼ヲ招キ入レタリ而シテ先ツ山木カ口ヲ切リ次テ赤沼カ一同ニ對シ今度ハ御迷惑ヲ辨ケテ申譯ナシト謝リ向儀イテ實ハ床次竹二郎ノ手形ノ刺殺カ思フヤウニ運ハサリシ爲メ金策

ツタ揚句一同ニ向ヒ「自分カ悪カワタ、然シ物質ヲ起ツタコトテスカラ物質ヲ解決シテ頂キ度イト思ヒマス」ト云ヒタルヨリ自分等一同、其言ヲ聞イテ悔辱ヲ受ケタル如ク感シ又憤慨シ中

(六) 被告八人アリナカラ自分等ニ對スル確約ヲ履行セサルノミナラス知ラズ顔ヲ爲シ居ルト云フハ甚シク厚顔無恥ノ徒ナルヘク吾々ニ對シテスラ新機ナ態度ニ出ツル位ナレハ世間ニ對シテハ如何ナルコトヲスルヤモ知レズ此機會ニ大ニ其不品行ヲ責メテ彼ノ反省ヲ促スコトハ世間ノ爲メニモナリ自分等ノ權ヲ侵シモサルト云フ考ヲ自分ハ持チ居タルカ他ノ五人モ自分等ノ同様ノ考ヲ以テ赤沼ニ同接シタル旨ノ供述

(七) 被告八人吉岡信敬ノ當公廷ニ於ケル自分ハ豫テ赤沼吉五郎ノ不品行ニ對シ憤慨シ居リタルトコロ昭和七年三月二十七日朝天行會ヨリノ電話ニヨリ同會ニ參リタルニ本間、中澤、山本等カ來テ居リ赤沼ノ背信ノ不徳義ヲ責メヤウト思フ故立會ヲテ與レト申サレタルカ前述ノ如ク自分モ憤慨シ居リタル際ナリシヲ以テ山本等ノ申出ヲ承諾シ同人等ト共ニ赤沼ニ對面シタル次第ナル旨ノ供述

(八) 被告八人木間憲一ニ對スル第三回豫審詢問會中同人ノ供述トシテ南里ハ唯一ノ頼リト爲シ居タル赤沼吉五郎カ策謀シ與レサルノミナラス其亦ニ付赤沼カ何等ノ操抄スラ爲ササリシヲ供託期間モ空シク徒過シ立候補ヲ斷念スルノ已ムナキニ立至リ南里ヲ始メ同人ヲ接洽シタル自分等一同ハ非常ニ激昂シ赤沼ノ背信不品行ヲ痛ク惜ミ且憤慨シ居リ然シ中里ハ七月三十一日對シ直接何等ノ手段ニモ出テ申出テ打過シ居ル中里ハ同年三月十六日後幾何モ輕キサル頃何等カノ機會ニ天行會ニ出席山本秀三ノ居室ニ於テ同人山本、中澤及自分等カ顔ヲ合セタル折赤沼ノ不

合ナル仕打ノ話カ出テ將來ノタメニモナルコト故皆テ赤沼ヲトツチメテヤラウト謂フ打合ヲ致シタルコトアル旨ノ記載

(九) 証人赤沼吉五郎ニ對スル本件恐喝被告事件ニ於ケル豫審判決本ノ第一回豫審詢問會中証人ノ供述トシテ昭和七年二月七日頃山本秀三、本間憲一、南里三省ノ三名カ頭山本秀三ノ紹介ヲ持テ東大久保町ノ自宅ニ訪ネ來リタルヲ以テ奧入疊ノ間ニ於テ會見シタルトコロ確カ本間ナリト思フカ南里カ案議院議員總選舉ニ佐賀縣ヨリ立候補スルニ付其選舉費用ニ一萬圓位ノ金策アリ度キ旨ヲ述ヘタリ本間ヤ南里ハ信用ヲ置カサルモ頭山ヨリノ金融ノ申入ハ初メテナルヲ以テ覺折ル氣持ニナリニ一萬圓位ナラハ覺折ツテ心當リヲ開合セテ見マセウト申シ別レタルカ當時大村義雄ヲ介シ床次竹二郎ノ金二萬圓ノ手形割引ノ話アリ其割引カ出來レハ二、三萬圓ノ額ヲ得ラルルヨリ其内ヨリ一萬圓ヲ融通スヘク割引出來サレハ自分ノ關係シ居ル合名會社有修社ノ自分ノ持分ヲ擔保トスルモ二、三萬圓ハ出來ル故其内ヨリ融通セムモノト考ヘ居タリ其翌日天行會ニ參リ頭山秀三、山本、南里、本間、中澤等ト面會シ床次竹二郎ヨリ手形割引ノ周旋ヲ頼マレ居リ九分九厘迄周旋シ得ルト思フ故其額ノ内ヨリ一萬圓ヲ融通スル考ナリ旨ヲ申シタリ其後本間等ヨリ屢留守宅ニ南里ノ選舉費用ハ如何ナリタルヤト電話アリシモ其都度直接話ス機會ナク同月十日頃右電話ニ對シテ手形割引其後ノ報告ノ爲メ東京ノ精養軒ニテ吉岡、本間、中澤、山本ニ晝食ヲ馳走シ電話アリタルトキ不在ナリシコト床次ノ手形割引カ出來サルコト等ヲ告

ニシテ居タルニ君ハ有耶無耶ニシ其爲同志カ非常ニ迷惑ヲ蒙ラタト詰リタリ仍テ事情ヲ話シテ難解ヲ米メ金錢ニ依リ解決方ノ取計ヲヒラ依願シタルニ山本ハ一存ニテ計ヲ兼ネル旨申シテ之ヲ斷リタリ其際中澤モ來合セテ怒鳴リ付ケ結局二十七日天行會ニ歸罪ノ爲來レト申渡シタル故之ハ容易ナラズト心算カニ案シ乍ラ歸リ同月二十七日ハ先方ヨリ如何ナル難題ヲ出サルルヤモ知レズト心配シ淺草觀音ノ御堂ヲ抽キ見タルニ因ナリシ故ニ愈々心緒シタルモ天行會ニ行カサレハ面會ニナルト思ヒ午前八時頃自動車ニ乘リ尚家人ニ行先ハ遊谷ナルカ今夕六時迄ニ歸宅セサレハ自分ノ身ニ問題カ起キタルモノニ付斷固辭王古岡カ太郎ニ相談スヘキ旨ヲ謂ヒ殘シ同日午前八時半頃天行會ニ到前シ道場ニ於テ一心ニ觀音經ヲ誦ヘ乍ラ待テ居タリ午前十一時頃ニ至リ天行會ニ階上疊ノ間ニ招キ入レラレ頭山秀三、本間、南里、山本、中澤、吉岡ノ六名ニ面會シタルカ其席上山本ハ他ノ人達ニ向ヒ集合ノ事情ヲ述ヘ自分ハ一同ニ謝罪シ且事情ヲ詳細申述ヘタルニ中澤ハ一貫様ハ古實ニ話ヲシタト謂フカソレハ我々ニハ何ノ關係モナイコト我々ニ一官ノ操抄モセヌノハ不都合テハナイカ我々ヲ顔向ノ出來ナイヤウニシタ雖吐キタト大膽ニ怒鳴リ其内其誰ノ人々カ一齊ニ不都合ナリヌ、不都合ナリヌ、吐キ人非人外道横着者等凡ニ惡罵ヲ浴セ何處辯解ヲ繰返スモ聞入レズ南里ナリト思フカ「大體貴様ハスルイ此方カラ聞ク迄何ノ操抄モセヌ怪シカラヌ奴等ト謂ヒ又南里カ本間ノ何レカハ此不品行爲ヲ一般ニ發表シテ世様ヲ社會ノ罪ツテヤル

ケ手形割引ノ取引カ出來サヘスレハ金ヲ持參スル旨申シタルトコロ山本、吉岡ハ「成ルヘク早くシテ與レ君ノ方ヲ當ニシテ周心カカラ」ト述ヘタルヲ以テ困リタルコトニナリタリト思ヒカモ止方ナク「出來ル支急イテヤル」ト謂ヒ別レタルカ其後モ選舉費用ニ付電話アリタリ同月十一日頃床次ニ面會シ二十萬圓ノ手形割引ノ件ニ付種々懇談シタルモ要領得ズ古實廉造ニ依頼シテ床次ヲ動かサムト欲シ翌十二日古實ニ面會シタルニ同人ハ南里ヲシテ既ニ立候補ヲ斷念セシメタル旨申シ選舉費用ノ心配ハ無用ナリト謂ヒ尙古實ハ床次方ニ赴キ交渉シ與レタリ翌十三日古實ニ電話ニテ開合セタルニ床次ノ方ハ駄目ナル旨ノ回答アリ其方ノ運動ハ之ヲ打切りタリ自分モ當時南里ノ選舉費用ニ就テハ非常ニ心配致シ居タルモ古實ノ言ヲ信シ南里ハ立候補ヲ斷念シタルモノト思ヒ且立候補ノ供託期限ヲ經過シタルヨリ同人ノ選舉費用調達ノ奔走モ中止シタリ次テ同年三月十五、十六日頃芝區車町六十五番地山本方ヲ訪ネタル際同人ハ南里ノ選舉費用ヲ調達セス又操抄モセサルハ不都合ナル旨詰リタルヨリ自分モ操抄セザリシハ落度ナリシ故山本ニ謝罪シタルモ其後同月十九日頃頭山秀三外一名カ自分方ニ參リ應接ニ出テタル者ニ對シ大體テ爾禮幕ニテ「自分達ハ頭山ノ家ヨリ來タ赤沼トウシタト申シ頭山滿モ立願シテ居ルカラ明日ニテモ來ルヤウ傳ヘ」ト謂ヒ僅キテ歸リタル旨ヲ聞キタルヲ以テ心配ニナリ翌二十日頃山本方ニ參リ其辭ヲ取ネタルトコロ同人ハ大體テ爾禮幕ニテ「君實ニ怪シカラヌ自分達ハ南里ノ選舉費用ノ調達ヲ當

ニシテ居タルニ君ハ有耶無耶ニシ其爲同志カ非常ニ迷惑ヲ蒙ラタト詰リタリ仍テ事情ヲ話シテ難解ヲ米メ金錢ニ依リ解決方ノ取計ヲヒラ依願シタルニ山本ハ一存ニテ計ヲ兼ネル旨申シテ之ヲ斷リタリ其際中澤モ來合セテ怒鳴リ付ケ結局二十七日天行會ニ歸罪ノ爲來レト申渡シタル故之ハ容易ナラズト心算カニ案シ乍ラ歸リ同月二十七日ハ先方ヨリ如何ナル難題ヲ出サルルヤモ知レズト心配シ淺草觀音ノ御堂ヲ抽キ見タルニ因ナリシ故ニ愈々心緒シタルモ天行會ニ行カサレハ面會ニナルト思ヒ午前八時頃自動車ニ乘リ尚家人ニ行先ハ遊谷ナルカ今夕六時迄ニ歸宅セサレハ自分ノ身ニ問題カ起キタルモノニ付斷固辭王古岡カ太郎ニ相談スヘキ旨ヲ謂ヒ殘シ同日午前八時半頃天行會ニ到前シ道場ニ於テ一心ニ觀音經ヲ誦ヘ乍ラ待テ居タリ午前十一時頃ニ至リ天行會ニ階上疊ノ間ニ招キ入レラレ頭山秀三、本間、南里、山本、中澤、吉岡ノ六名ニ面會シタルカ其席上山本ハ他ノ人達ニ向ヒ集合ノ事情ヲ述ヘ自分ハ一同ニ謝罪シ且事情ヲ詳細申述ヘタルニ中澤ハ一貫様ハ古實ニ話ヲシタト謂フカソレハ我々ニハ何ノ關係モナイコト我々ニ一官ノ操抄モセヌノハ不都合テハナイカ我々ヲ顔向ノ出來ナイヤウニシタ雖吐キタト大膽ニ怒鳴リ其内其誰ノ人々カ一齊ニ不都合ナリヌ、不都合ナリヌ、吐キ人非人外道横着者等凡ニ惡罵ヲ浴セ何處辯解ヲ繰返スモ聞入レズ南里ナリト思フカ「大體貴様ハスルイ此方カラ聞ク迄何ノ操抄モセヌ怪シカラヌ奴等ト謂ヒ又南里カ本間ノ何レカハ此不品行爲ヲ一般ニ發表シテ世様ヲ社會ノ罪ツテヤル

ト憲法ヲ左様ニ次第ニテ自分ハ己ムナク山本ニ頼ミタルニ
同人ハ取上ケス吉岡ニ頼ミタルニ同人モ叱責シ殆ト途方ニ釋レ
タリ更ニ本間ハ吉岡ノ席ニテ座布團ヲ數ノハ不都合トシテ謂
ヒ自分ノ布團ニ手ヲカケタル故自分ハ座布團ヲ外シタルカ一
ハ依然憲法ヲ頼ケルタメ自分ハ進退谷マリ物質ノ爲リタルコ
ト故物質ニテ解決アリ度キ旨申シタルトコロ中澤ハ更ニ物質ニ
テ解決ハ出来ヌト怒鳴リ付ケタリ夫レ故如何ニスヘキカノ指
ヲ乞ヒタルニ中澤ハ「ソレハ腹ヲ切レ其道其ヲ貸シテヤルカ
ラ腹ヲ切レ」ト申シテラ机ノ傍ニ在リタル黒帽ノ大刀ヲ指示シ
本間モ「自決シロ」ト怒鳴リタルヲ以テ極度ニ怖シクナリ生キタ
ル心地ナク一同ニ向ヒ「自分ハ決シテ腹ヲ切ル爲來タルモノテ
ハナイ未タ年老イタ母モ生キテ居ル故ソレヲ見送ル迄ハ腹ハ切
レナイ自分ハ重々願イノカカトソナニテモ皆殺シテ立ツヤ
ウニスル故勸解シテ實ヒ度イ」ト申シタルニ山本カ如何ニスル
者ナルキヲ聞キタルヨリ同人ト二人ニテ話サセ實ヒ度キ旨ヲ乞
ヒ山本カ他ノ五名ニ「任セテ呉レカ」ト謂ヒ他ノ五名山本ニ
「任ノ上階下ニ降リタリ其後ニテ山本ニ「如何程上ケレハ勸
解シテ貰ヘルカ」ト申シタルニ同人ハ「當面出スカ」ト謂ヒ自
分ハ五千圓ニテ勸解セラレ度キ旨ヲ申出テ山本ハ相談シテ見ル
ト申シテ階下ニ降り十分間位シテ山本、太田、南里、中澤吉岡カ
相前後シテ上リタルヨリ一同ニ五千圓ニテ勸解セラレ度キ
旨ヲ申述タルニ一同之ヲ承諾シタリ右二十七日ニハ一時間餘
ヲ雜話セラレ漸ク事済ミテ午後一時頃天行會ヲ出テタル旨ノ

記者
ヲ綜合シテ之ヲ認ム
被告大川周明等ノ辯護人ハ本件被告大川周明カ勸助シタリト
目セラル本犯タル事案ノ海軍側被告古賀清志以下數名ニ對シ
テハ既ニ海軍々法會議ニ於テ叛亂罪トシテ處斷セラレ該判決確定
シタルノミナラス彼ノ昭和七年五月十五日ニ右古賀清志等ニヨリ
テ執行セラレタル犯行ハ實ニ叛亂罪トシテノ要件ヲ具備シテ一
般刑法ニ照ストキハ同第七十七條所定ノ内亂罪ニ該當ス即チ首相
ハ殺害セラレ内府官部ハ襲撃セラレ帝部ノ治安ヲ掌ル警備總二爆
彈ノ投下ヲ見ル事ハ成ラザリシト雖モ古賀清志以下青年將校ノ志
ハ帝都ヲ暗黒化シ戒嚴ヲ宣布セシメ其ノ間非常時政權ヲ樹立シ
ハ帝都ヲ改革ヲ斷行セントスルニアリ其殺人ハ單ニ人命ヲ奪フタメ
ノ殺人ニアラス其ノ爆發物使用ハ單ニ爆發セシメシカメノ使用
ニアラス其ノ志願ハ實ニ國政改革ノ非常行動ナリ之レ軍刑法ニ所
謂叛亂罪トシテ普通刑法ノ内亂罪タルコト確モ疑ヲ容ルルノ餘地ナ
キ所ナリ然ラハ之ヲ勸助シタル被告大川周明等ニ對シ本件事
案亦尚ヨリ大審院ノ特別權限ニ屬シ控訴院ニ於テ審判ヲ受クヘキ
限ニアラス茲ニ管轄權ノ申立ヲ爲ス大審院ノ旨申立テタリ
依テ按スルニ刑法第七十七條ノ内亂罪タルタメニハ單ニ多業ノ結
合ニ依リ暴動行爲ヲ行ヒタルノミヲ以テ足ラズ政府ヲ顛覆シ又
ハ邦土ヲ侵襲シ其他國家ノ利益ヲ侵害シタル目的ヲ以テ行ハル
スルトキハ内亂罪ヲ構成スルコトナシ而シテ却テ憲法ヲ紊亂スルコト
ハ我國家ノ政治的基本組織ヲ不法ニ變革セントスルノ謂ニシテ法

文ニ例示シテ政府ノ閣議ト謂フ政府トハ箇々ノ内閣ヲ指稱スルニ
アラスシテ國權ノ繼續的組織タル内閣制度ヲ指スルモノト解セサ
ルヘカラス蓋シ皇朝ノ廢止又ハ邦土ノ體裁ハ所謂憲法ヲ以テ
ト明白ニシテ而シテ内亂罪ノ刑カ重刑ナル點ヨリ見タルトキハ朝
憲憲法トハ少クトモ邦土ノ體裁ニ準スヘキモノニシテ國家ノ安固
ヲ直接ニ害スル危險アル變革ヲナサルヘカラス從テ所謂政府ノ顛
覆モ内閣制度自體ノ不法變革ヲ企圖スル如キハ朝憲憲法ナルモ單
ニ内閣ノ更迭ヲ目的トスル如キハ之ニ入ラサルモノト解スルヲ相
當トス今前掲諸般ノ證據ヲ綜合シテ古賀清志等本件犯行ノ意圖ヲ
探求スルニ我國現下ノ情勢カ政治經濟共ニ行詰リ政黨、財閥、特
權階級ハ互ニ相結シテ國政ヲ紊リ殊ニ最近ニ於ケル支配階級ノ
墮落ハ傍觀ヲ許ササルモノアルカ故ニ非常手段ニ訴ヘテ支配階級
ニ一撃ヲ加ヘ其ノ覺醒ヲ促スト謂フニ在リ固ヨリ天皇ノ大權ヲ制
限シ議會制度ヲ否認シ其他國家ノ基本組織自體ヲ破壞シテ之ニ代
ル新制度ヲ樹立セントシタルモノニアラス尤モ首相ヲ殺害セハ其
首班タル内閣瓦解ノ結果ヲ招來スヘキコトハ通常ノ事態ナルカ故
ニ此事實ト前記證據ニ當審ニ於ケル 說人古賀清志ニ對スル訓
問證書ノ記載トヲ綜合スレハ首相ノ殺害ヲ企圖セル本件犯行ノ目
的ハ政黨首領大殺戮ヲ首班トスル内閣ヲ更迭シテ所謂政府ヲ樹
立シ之ニ依テ議政ノ刷新ヲ期スルニ在リタルモノナルコトヲ認メ
得ヘキモノ内閣制度ノ變革其ノ他帝國ノ政治的基本制度ヲ改廢セン
トスル目的ヲ以テ本件犯行ヲ爲シタルモノトハ認メ難シ然ラハ本
件正犯タル古賀清志等ノ行爲ハ朝憲憲法ノ目的ヲ缺如スル點ニ於

テ既ニ内亂罪ヲ構成セサルモノナリ加之外患罪ノ規定カ國家ノ外
的安固ヲ保護スルカ如ク内亂罪ノ規定ハ直接ニ國家ノ内的安固ヲ
保護スル爲ニ設ケラレタルモノナレハ内亂罪ノ構成要件タル多業
ノ暴動ハ直接ニ國家ノ基本制度ヲ破壞シ以テ帝國ノ内的安固ヲ侵
害スヘキ危險アル程度ノ多人數ニシテ且其程度ノ暴行タルコトヲ
要シ單ニ一地方ノ騷擾ヲ害スル程度ヲ以テハ足ラサルモノト解ス
ルヲ相當トスヘシ然リ而シテ建國憲法ニ二千六百年皇國ノ基礎固
ナルコト宇内其ノ比ヲ見サルカ故ニ多少ノ暴動ヲ以テシテハ天朝
ハ風吹ケトモ動セス天邊ノ月ノ如ク其ノ他ノ國家ノ大綱モ之ヲ搖
撼スルコト容易ノ業ニ非ズ本件正犯ノ暴行ハ未タ以テ帝國ノ安固
ヲ直接ニ害スヘキ程度ノ多業且其程度ノ暴行トハ認メ難シ故ニ本
件正犯ノ行爲ハ何レノ點ヨリスルモノ内亂罪ヲ構成セサルカ故ニ辯
護人ノ管轄權ノ申立ハ之ヲ採用スルコトヲ得ス
尚辯護人ハ判示古賀清志等ニ對シ判示執行當時ノ我國ノ社會狀
ハ判示執行ニ出テサルコトヲ期待シ得ヘカラザリシモノアリ然ク
トモ古賀清志等ニ於テハ當時ノ社會狀勢ヲ斯ク認識シタルモノナル
ヲ以テ同人等ニ於テ罪ヲ犯スノ意ヲナク無罪タルヘキモノナルカ故
ニ其ノ犯行ヲ勸助シタル本件被告大川周明、頭山秀三本間憲一
郎ハ當然無罪タルヘキモノナル旨主張スレトモ犯行以外ニ他ノ適
法行爲ヲ期待シ得サルキヤハ一般人ヲ標準トシテ決定スヘキモ
ノニシテ當時ノ社會狀勢ハ普通一般人ニ付テモ古賀清志等ノ如ク
判示執行ニ出テサルコトヲ期待シ得スハ云フカ如キ急迫ナル事態
ニアリタリト認ムヘキ證據ナキヲ以テ假ニ古賀清志等ニ於テ斯ノ如ク

狀勢ニアリタリト信シ已ニ巴マレサルモノトシテ本件行動ニ出
テタリトスルモ斯ノ如キハ未タ以テ犯罪ノ成立ヲ阻却スヘキ理由
トナラサルヲ以テ該主張モ亦採用スルニ足ラス
又辯護人被告入頭山秀三ハ古賀清志 橋本三郎等カ爆発物取締
罰則違反 殺人及殺人未遂ノ犯行ヲ爲スニ當リ之ニ參照及質罪者
干テ供與シ同人等ト共同正犯ノ關係アルモノトシテ起訴セラレ豫
審ニ付セラレタルモノナルトコロ豫審判事ハ審理ノ結果右被告入
秀三ノ所爲ヲ以テ古賀清志等ノ前示犯行ヲ補助シタルモノト認メ
其ノ從犯トシテ之ヲ公判ニ付スル旨ノ決定ヲ爲シタルモノト認メ
即チ本件被告入秀三ニ對スル爆発物取締罰則違反 殺人殺人未遂
ノ補助ノ事實ハ何ラ起訴ナキモノナルヲ以テ當院ニ於テ審判ノ目的
ト爲リ得ヘキモノニアラス殊ニ爆発物取締罰則ノ規定ニ依リハ同
罰則違反ノ補助行爲ハ獨立罪ト認メテ刑罰法第六十二條從犯ニ關
スル規定ノ適用ナキモノト解スヘク斯ク解スルトキハ被告入秀三
ニ對スル起訴事實ハ未タ豫審ニ懸屬シ公判ニ付セラレタル事ナキ
モノト謂フヘキカ故ニ當院ニ於テハ速ニ公訴不受理ノ旨達ヲ爲ス
ヘキモノナリトシテ豫審ニ對シテ被告入秀三ニ對スル豫審請求書記載
ノ公訴事實ト同豫審終結決定書記載ノ事實トト對比スルニハ共
同正犯トシテ他ハ從犯トスルニ止マリ其ノ基本タル事實關係ハ全ク
二者同一ナリ又爆発物取締罰則カ從犯ニ付特別ノ規定ヲ設ケタレ
ハトテ之カ爲豫審判事ハ毫モ公訴提起ナキ事實ヲ公判ニ付シタル
モノト謂ヒ得サルコト言フ俟タス然ラハ當院ハ同被告入ニ對スル

本件豫審終結決定書記載ノ事實ニ付元ヨリ適法ニ審判スヘキ標
ヲ有スルヲ以テ右辯護人ノ主張亦到底採用スルニ足ラス
檢事ハ判事第一ノ犯行ハ多量カ數組ニ分レ而モ隱蔽ノ間ニ行ハレ
タルモノナルカ故ニ地方ノ警備ヲ害スルコトナク從テ隱蔽罪ヲ構
成セサル旨主張スルヲ以テ按スルニ隱蔽罪ノ成立ニハ多量ノ業合
ヲ要件トスルモ必シモ多量ノ場所ノ密接ヲ要件トセス多少ノ隔
アルモ公安ヲ害スヘキ危險アルトキハ隱蔽罪ノ成立ヲ妨ケサルモ
ノト解スルヲ相當トス本件犯行ハ多量カ數組ニ分レ多少場所
ノ隔離シテ行ハレタルコトハ前記ノ如クナルモ今日ノ如ク交通通信
機關ノ完備セル密都ニ於テハ本件ノ如キ重大ナル事件ハ右ノ如ク
數組ニ行ハレタリトスルモ密都ノ公安ヲ害スルノ危險アルモノト
認ムヘク又隱蔽罪ノ成立ニハ暴動ノ公然性ヲ要件トセス而シテ隱
蔽ノ間ニ行ハレタルノ故ヲ以テ公安ヲ害スルノ危險ナキモノト認
ムルコトヲ得サルカ故ニ右主張ハ之ヲ採用スルヲ得ス
法律ニ照スニ被告入大川周明 同頭山秀三 同本間憲一 郎ノ判事所
爲中古賀清志及中村義雄ノ隱蔽行爲ヲ補助シタルハ海軍刑法第
六十八條第二號ノ罪ノ補助罪タルヘキトコロ同條ハ刑法第六十條
ニ對シテ被告人等ニ對シテハ刑法第六十五條第二項ニ依リ同法
第六十六條第二號第六十二條第一項ヲ適用スヘク各被告人等
助ノ點ハ刑法第九十九條第六十二條第二項ニ各被告人等未遂罪
助ノ點ハ同法第二十三條第九十九條第六十二條第一項、爆發
物取締罰則違反罪助ノ點ハ爆發物取締罰則第一條刑法第五十五

第六十二條第一項ニ夫々該當スルコト右殺人既遂及殺人未遂
罪ノ各被告人等既遂罪助ノ點タルモノナルヲ以テ同法第五十五
條ニ則リ殺人既遂罪助ノ點トナスヘク以上連續一罪タル爆發
物取締罰則違反罪ヲ補助シタル所爲及同被告人等未遂罪ヲ補助
シタル所爲ト前示隱蔽罪ヲ補助シタル所爲トハ一箇ノ行爲ニシテ
數箇ノ罪名ニ屬ルル場合ナルヲ以テ刑法第五十四條第一項前段第
十條ニ依リ最モ重キ右爆發物取締罰則違反罪ヲ補助シタル罪ノ刑
ニ從ヒ所定刑中有期禁錮ノ刑ヲ選擇シ從犯ナルヲ以テ刑法第六十
三條第六十八條第三號ニ依リ法律上ノ減輕ヲ爲シ
被告人頭山秀三 同本間憲一 郎ノ共同シテ脅迫ヲ爲シタル點ハ暴
力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第二百二十二條ニ該
當スルヲ以テ懲役刑ヲ選擇スヘク之ト被告入頭山秀三 同本間憲一
郎ノ前記犯罪トハ刑法第四十五條前段ノ併合罪ナルヲ以テ同法
第四十七條第十條ニ則リ重キ前記選擇ニ係ル爆發物取締罰則違反
罪ノ補助罪ノ刑ヲ加重シ
被告人山本真美 同中澤幸、同吉岡信敬ノ各共同シテ脅迫ヲ爲シタル
點ハ暴力行爲等處罰ニ關スル法律第一條第一項刑法第二百二十二條
ニ該當スルヲ以テ所定刑中懲役刑ヲ選擇シ何レモ其刑罰範圍内ニ
於テ量刑スヘク而シテ判事第一ノ犯罪ハ積果ハ宛ニ重大ナルモ幸ニ
内亂ニ至ラスシテ止ミタルコト故其動機カ耿々タル國ノ至情ニ出
テタルコトヲ斟酌シ被告人大川周明ヲ禁錮七年、同頭山秀三ヲ禁錮
四年、同本間憲一 郎ヲ禁錮五年、同山本真美 同中澤幸ヲ各懲役一年、
同吉岡信敬ヲ懲役四月ニ夫々處シ刑法第二十二條ニ則リ被告人大川

周明ニ對シ原審ノ未決拘留日數四百日、被告人頭山秀三 同本間憲一
郎ニ對シ原審ノ未決拘留日數各三百日、被告人山本真美 同中澤幸ニ
對シ原審ノ未決拘留日數各五百日ヲ夫々右本刑ニ算入シ
尚被告人山本真美 同中澤幸、同吉岡信敬ニ對シテハ懲役刑ノ執行ヲ
猶豫スルヲ相當ト認メ刑法第二十五條ニ則リ執レモ三年間右刑ノ執
行ヲ猶豫シ
押收ニ係ル禁錮一挺昭和七年押第六六三號ノ凶及手榴彈六箇(同
年押第六六〇號ノ一九九號第六六三號ノ一七二八、及二八、押第六九
六號ノ二三)ハ何レモ判事第一ニ供シ又ハ供セントシタル物ニシテ
被告人等以外ノ者ニ屬セサルヲ以テ刑法第十九條第一項第二號第二
項ニ依リ之ヲ沒收スヘク訴訟費用ニ付テハ刑事訴訟法第二百三十七條
第一項第二三十八條ヲ適用シテ夫々主文ノ如ク其負擔ヲ命スヘキ
モノトス本件被告人頭山秀三 外四名ニ對スル恐嚇被告事件ノ公訴事
實ハ右被告人等ハ判事ノ如ク赤沼吉五郎ノ措置ヲ憤慨シ其結果赤沼
ノ不信ヲ難詰脅迫シ之ヲ懲罰シ以テ懲罰ヲ購サント企テ同年三月二
十七日右赤沼ヲ判事行會ニ招致シ右行會ニ陪被告人頭山秀三ノ
居室十疊ノ間ニ於テ右赤沼ニ對シ其不信ヲ難詰シ同人カ右金策ヲ爲
シ得サリシ事情等ヲ辯解スルヤ被告人等ハ一齊ニ激怒シ大聲ニテ右
赤沼ヲ罵倒シ同人カ被告人等ノ激シキ構態ニ恐怖ノ餘進退谷マリ被
告人等ニ向ヒ如何ニ處置スヘキカ指圖セラレ度旨願スルヤ被告人
中澤ハ右赤沼ニ對シ我々ノ言ヲ從フカト念ヲ押シ被告人本間ハ「自
決セヨ」ト銳ク迫リ續イテ被告人中澤ハ「腹ヲ切レト」大喝一聲シ其
際被告人本間ハ日本刀ヲ抽出シ其ノ爲右赤沼カ極度ニ畏怖懸慄シ哀

國家主義系不穩事件論告並判決錄

願望ヲ乞フヤ茲ニ被告人等ハ其場ニ於テ右赤沼ノ畏怖ニ乘シ同入ヨリ金員ヲ囑取セントシテ共謀シ被告人山本貞美ヲシテ右赤沼ニ對シ金一萬圓ヲ提供スヘキ旨申向ケシメ因テ同人ヲシテ天行會ニ對スル寄附者義ノ下ニ金五千圓ヲ出金スヘキコトヲ承諾セシメ即時同人振出ノ金額五千圓ノ約束手形ヲ一通ヲ交付セシメ之ニ依リ同年三月末日頃ヨリ同年六月初旬迄ノ間四回ニ互リ東京市芝區事町六十五番地被告人山本外一寓所ニ於テ内入トシテ現金及小切手取交セ計金二千六百圓ヲ交付セシメテ恐嚇シタリト謂フニ在リ

恐嚇罪ヲ構成スルコトナキモノト謂ハサルヘカラスニ被告人等ハ其場ニ於テ右赤沼ノ畏怖ニ乘シ同入ヨリ金員ヲ囑取セントシテ共謀シ被告人山本貞美ヲシテ右赤沼ニ對シ金一萬圓ヲ提供スヘキ旨申向ケシメ因テ同人ヲシテ天行會ニ對スル寄附者義ノ下ニ金五千圓ヲ出金スヘキコトヲ承諾セシメ即時同人振出ノ金額五千圓ノ約束手形ヲ一通ヲ交付セシメ之ニ依リ同年三月末日頃ヨリ同年六月初旬迄ノ間四回ニ互リ東京市芝區事町六十五番地被告人山本外一寓所ニ於テ内入トシテ現金及小切手取交セ計金二千六百圓ヲ交付セシメテ恐嚇シタリト謂フニ在リ

一六 齋藤首相暗殺豫備事件

豫審終結決定書
本籍 富山縣村水郡新湊町六渡寺八百三十七番地
住居 東京市京橋區築地二丁目五番地
本籍 京都市伏見區深草柳屋町七百五十二番地
住居 東京市京橋區築地二丁目五番地
本籍 東京市京橋區築地二丁目五番地
住居 東京市京橋區築地二丁目五番地
本籍 東京市京橋區築地二丁目五番地
住居 東京市京橋區築地二丁目五番地

大審 東京市京橋區築地二丁目六十番地

住所 不定
無職
本籍 東京市王子區王子町十九番地
住居 同市中野區本町通一丁目一番地
本籍 東京市王子區王子町十九番地
住居 同市中野區本町通一丁目一番地
本籍 東京市王子區王子町十九番地
住居 同市中野區本町通一丁目一番地
本籍 東京市王子區王子町十九番地
住居 同市中野區本町通一丁目一番地

國家主義系不穩事件論告並判決錄

以テ内外共非常時ニ在ル現在ノ日本ヲ匡救スル大任ヲ完ウシ得ルモノニ非サルニ依リ右内閣總理大臣齋藤實ヲ暗殺シ依テ現内閣ヲ打倒セサルヘカラスト思惟シ居タルモノナルカ昭和七年六月十九日頃前記東洋ビル地下室ツバ食堂内ニ於テ被告人島根ヲシテ齋藤内閣總理大臣ヲ暗殺セシムコトヲ謀議シ即日被告人大林ハ東京府豐多摩郡千駄ヶ谷町大字千駄ヶ谷字北ノ脇三百五十四番地（現在東京市京橋區千駄ヶ谷一丁目三百五十四番地）ノ當時ノ被告人大林方ニ於テ被告人牧野立會ノ下ニ被告人島根ニ對シ齋藤内閣總理大臣ヲ暗殺スヘキコトヲ依頼シ因テ被告人島根ヲシテ同總理大臣ヲ暗殺セムコトノ決意ヲ爲サシメ更ニ同月二十日頃前記ツバ食堂内ニ於テ被告人島根カ齋藤内閣總理大臣ヲ暗殺スル爲ノ兇器ノ購入其ノ他ノ準備ヲシテ金百圓ヲ被告人島根ニ交付セムコトヲ協議シ被告人今牧方ニ於テ金百圓ヲ支出シ被告人大林ハ之ヲ受取り即日前記被告人大林方ニ於テ被告人島根ニ對シ前掲暗殺ノ準備費トシテ右金百圓ヲ交付シ以テ齋藤内閣總理大臣ヲ暗殺スル目的ヲ以テ其ノ準備ヲ爲シ第一被告人島根ハ前記ノ如ク同年六月十九日頃被告人今牧同大林兩名ヨリ齋藤内閣總理大臣ヲ暗殺スヘキコトノ依頼ヲ受ケテ其ノ決意ヲ爲シ同月二十一日頃前掲暗殺ノ準備費金百圓ヲ交付ヲ受ケルヤ同月二十六日豫テ夫婦約東ヲ爲シ居ル間野村東京市伏見區西御町五百五十五番地貸座敷築本高樓本店事高倉小八方相親齋藤實事田川ヨシノ許ニ暗殺執行前ノ別レノ爲赴キ

國家主義派不逞事件論告並判決錄

ニ算入ス
但シ被告人嘉雄及同末市ニ對シ本判決確定ノヨリ各二年間夫々右刑ノ執行ヲ猶豫ス

理由

被告人嘉雄ハ隣里博士隣同末市ハ元株式店員同成ニハ隣里博士光流ノ宗家ニシテ同善之助ハ定職ニ就カス各所ヲ轉々トシタル上被告人成ニ及同末市方ニ寄食シ居リタルモノナルカ被告人嘉雄同末市同成ニ三名ハ孰レモ法律博士大川周朗カ會頭トシテ統轄スル國家主義團體神武會ノ會員ニシテ被告人成之助ハ同會ノ總幹事トシ居ルモノナルトコロ
第一 被告人嘉雄及同末市ハ豫テ齋藤實カ内閣總理大臣タル現内閣ヲ以テ内外共ニ非常時ニアル現在ノ我國ヲ匡救スルノ大任ヲ完ウシ得サルモノトシ之カ倒壞ヲ期シ居リタルカ昭和七年五月十九日頃東京市麹町區山下町一丁目一番地東洋ビル地下室ツクバ食堂内ニ於テ現内閣打倒ノ方法トシテ内閣總理大臣齋藤實ヲ暗殺セシコトヲ謀議シタル上即日被告人末市ハ瀋陽府總督府千駄ヶ谷町大字千駄ヶ谷字北ノ脇三百五十四番地(現在東京市澁谷區千駄ヶ谷ケ谷二丁目三百五十四番地)ノ被告人末市當時ノ自宅ニ於テ被告人成之助ト同謀前示齋藤實ヲ暗殺セシコトヲ協謀シテ茲ニ被告人嘉雄同末市ノ兩名ハ同善之助ト共ニ順次右暗殺方ヲ共謀シ成之助ニ於テ教育ノ實行ヲ擔當スルコトヲ決定シ被告人嘉雄ハ同月二十一日頃同被告人肩書住所ニ於テ右暗殺ヲタメノ兇器購入其他ノ準備費用トシテ金百圓ヲ支出シ被告人末市ハ同所ニ於テ之ヲ受取

リ即日前示被告人末市ノ自宅ニ於テ善之助ニ交付シ以テ前示暗殺ノ準備ヲナシ
第二 被告人成之助ハ同月二十一日頃前示ノ如ク準備金百圓ノ交付ヲ受クルヤ同月二十五日東京驛ヲ發シテ京都市ニ赴キ豫テ朝榮ヲ寓ネ居タル同市伏見區西柳町五百五十五番地貸座敷東高樓本店高倉小八方相模屋東重事田川ヨシノ許ニ暗ニ右暗殺決行前ノ跡ヲ見シキシカ同市内ニ齊檢索ノ爲メ伏見警察署ニ檢査セラレたり被告人嘉雄及同末市ノ兩名ハ右檢索ノ事實ヲ聞知シ斯ル不始末ヲ諷ル被告人成之助ニ前示暗殺實行ヲ擔當セシム可カラストシテ本件暗殺計畫ヲ中止スルコトヲ爲シ被告人成之助カ京都市ヨリ歸京シタル後同年七月三日頃前示被告人末市當時ノ自宅ニ於テ被告人成之助ニ對シ齋藤實内閣總理大臣暗殺ノ計畫ハ之ヲ中止スル旨ヲ告グルルニ至リたり茲ニ於テ被告人成之助及同成ニノ兩名ハ被告人嘉雄及同末市カ前示ノ如キ暗殺ヲ計畫シタル關係ヲ利用シ同人等ヲ恐喝シテ金員ヲ取得セシコトヲ共謀シ同月上旬頃前示末市方其他ニ於テ末市ニ對シ金千圓ヲ提供ヲ求メ若シ之ニ應セザレハ被告人嘉雄及同末市ノ前示暗殺計畫ヲ公表スルカ如キ態度ヲ示シ更ニ末市ヲ介シテ嘉雄ニモ之ヲ通セシメテ嘉雄及末市ヲ畏怖セシメ同月七日頃ヨリ同年八月止頃迄ノ期間同府同郡中野町本町通一丁目一番地(現在東京市中野區本町通一丁目一番地)ノ被告人成之助ニ於テ數回ニ互リ合計金三百八十五圓ヲ交付セシメテ之ヲ囑取シタルモノニシテ右恐喝ノ所爲ハ犯意繼續ニ係ルモノトス(中略)

一九、若槻男爵暗殺豫備事件豫審
終結決定書

本誌 大阪府龍崎郡美岡村大字平尾四六一
住所 同所 無職 本 庄 權 三 郎
明治四十三年十二月生
右ニ對スル恐喝及殺人豫備事件ニ付豫審ヲ遂ケ決定スルコト左ノ如シ

本件ヲ大阪地方裁判所ノ公判ニ付スル
被告人ハ左ニ掲クル事實ニ付公判ニ付スルニ足ルヘキ犯罪ノ嫌疑アルモノトス

第一 若槻男爵カ倫敦海軍會議ヲ終へ歸朝後民政黨總裁ト爲リ引續キ政界ニ止マルハ政敵履行爲ナリト思惟シ同人ヲ暗殺セント決意シ昭和七年六月二十六、七日頃之ヲ使用スル目的ヲ以テ神戸市元町三丁目双葉商上田虎三郎方ニ於テ代金六圓五十錢ニテ短刀一

國家主義派不逞事件論告並判決錄

法律ニ照スニ被告人嘉雄及同末市ノ前示殺人豫備ノ所爲ハ刑法第二百一一條本文第九十九條第六十條ニ被告人成之助及同成ニノ前示恐喝ノ所爲ハ同法第二百四十九條第一項第五十條ニ夫々該當スルヲ以テ各其所定期限範圍内ニ於テ被告人嘉雄及同成ニノ各懲役一年六月ニ被告人末市及同善之助ヲ懲役一年ニ處ス可ク被告人成之助及同成ニノ對スル未決勾留日數中各百二十日ハ同法第二十一條ニ則リ夫々右本刑ニ算入ス可キモノトシ尚被告人嘉雄及同末市ニ付キテハ犯情刑ノ執行ヲ猶豫スルヲ相當ト認メ同法第二十五條ニヨリ本判決確定ノヨリ各二年間右刑ノ執行ヲ猶豫スヘキモノトス

仍テ主文ノ如ク判決シタリ
昭和八年五月二十七日 東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
右藤井也

昭和八年六月二十三日 東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
右藤井也

東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
東京地方裁判所第九刑部 藤井 五二 郎
右藤井也

國家主義派不逞事件論告判決録

三過クルモノアリト爲シ同人等トハ別箇ニ一人ニ殺主義ニ出テ...

昭和九年一月二十三日

東京地方裁判所 野田又右衛門

天行會獨立青年社事件 判決書

本籍、福岡縣田川郡金川村大字藤千五百五十二番地...

昭和二十四年

本籍、埼玉縣北足立郡草加町大字草加百六十六番地

被告、紅田友生、同浦上四郎ヲ各懲役三年ニ被罰人兒玉馨士夫同...

國家主義派不逞事件論告判決録

二五七

加盟シ大正十四年五月之ヨリ脱會シ其ノ後ハ所謂漢人トシテ右翼運動ニ從事シ居リタルモノナルコトヨリ...

之ヲ要スルニ被告四名ハ我國現下ノ國情ヲ目シテ經濟界ノ不況...

タル結果近ク前記方針ノ下ニ直接行動ニ訴フヘキコトニ一致シ被告...

際シ天皇陛下ニ供奉仰付ケラレ西下スヘキ内大臣牧野伸顯宮...

國家主義系不穩事件報告並判決錄

未決拘留日數中各六百日ヲ、被告人兒玉壽士夫ニ對シテハ同五百日ヲ夫々右本刑ニ算入シ訴訟費用ハ刑事訴訟法第二百三十七條第一項...

昭和九年十二月十七日

東京地方裁判所第四刑部

裁判長 早野 三郎

判事 小林 健治

判事 三宅 芳郎

昭和十年二月十四日

東京地方裁判所第二刑部

裁判所書記 丹内 喜代

三三、藤原銀次郎殺人豫備事件

判決書

被告人藤原銀次郎、久慈郡金砂村大字上利員七番地ニ住居シ...

三三、救國琦玉青年挺身隊事件 豫審終結決定書

本籍 埼玉縣大里郡本島村大字本田二千三百三十三番地... 住居 同縣熊谷市大字熊谷(熊町)千三百三十二番地...

國家主義系不穩事件報告並判決錄

本籍 埼玉縣大里郡御正村大字御正二千四百六十一番地...

被告入ヲ懲役六月ニ處ス... 但裁判確定ノ日ヨリ三年間右刑ヲ執行ヲ豫換ス...

三三、救國琦玉青年挺身隊事件 豫審終結決定書

本籍 埼玉縣熊谷市大字箱田(御明町)五百七十三番地... 住居 右同所...

國家主義系不逞事件報告並判決續

住居 同縣熊谷市大字石原千九百六番地
共保生命保險株式會社社外委員
水野 誠
明治四十年一月五日生
右ノ者等ニ對スル各殺人豫備被告事件ニ付豫審ヲ遂ケ終結決定ヲ爲スコト左ノ如シ

主文

本件ヲ浦和地方法院所ノ公判ニ付ス

理由

被告人吉田豊隆ハ小中學校ヲ經テ私立拓殖大學法律科第一部本科B類支那語科ニ進シ昭和八年三月有本科ヲ卒業シタルモノニシテ拓殖大學在學中ハ國家主義思想ヲ抱懷シ愛國運動ニ與テ深ク同志學生ト或ハ青嵐寮ヲ設置シ或ハ救國學生同盟ヲ組織シ或ハ皇國青年芳流會ヲ組織シテ國家主義思想ノ研究ヲ爲ス傍ラ種々愛國運動ニ從事シ居タルモノノ被告入洋見知治ハ小學校 農學校等ヲ卒業シタル上小學校代用教員ヲ奉職シ其ノ後家業ノ農業ニ從事シ居タルモノニシテ其間昭和四年度農業ノ幹部候補生トシテ東京農林省步兵第三聯隊ニ入營シ昭和五年十一月除隊トナリテ昭和八年三月頃豫備役陸軍歩兵少尉トナリ又同年四月以降農村青年團ノ支部長ヲ勤メ居タルモノノ被告入市川國助ハ小學校 成進社農業講習所等ヲ卒業シ東京府及埼玉縣下ニ於テ農業指導員又農務検査吏員トシテ其ノ職務ニ從事シ居タルモノニシテ其ノ間昭和六年度農業兵トシテ東京赤坂歩兵第一聯隊ニ入營シ昭和七年七月歸休除隊トナリ豫備役陸軍歩兵上等兵ト

轉テ打倒スルヨリ外途ヲキリテ須ク非合法手段ニヨリ現在ノ政黨政治ヲ撲滅スルニ如カスト企圖スルニ至リ爾來私立日本大學法文學部政治科學生水田源一等ト聯絡シテ直接手段ニヨリ政黨財力尠ニ特權支配階級打倒運動ヲ實行運動ヲ爲スヘキ同志ノ獲得ヲ努力シ其ノ擴大組織ヲ計シ拓殖大學卒業後昭和八年四月下旬頃埼玉縣熊谷市大字熊谷榮町千三百三十二番地一ノ實業ニ勤メ居タル同志方ニ於ケル同志ノ獲得ニ從事シ同年十一月初旬頃迄ニ順次被告人淺見知治同川國助同上野常次同杉田幸作同水野誠茂同井口幾造外數名ニ右直接行動ニヨリ國家改造ノ思想ヲ鼓吹シ其ノ行動加緊ヲ勸誘シ右被告人等ハ孰レモ右思想ニ共鳴シ同志トシテ行動ヲ共ニスヘキヲ誓約シ其旨之ヲ決行時機ノ到來ヲ囑ヒ居タル折同十月下旬頃新聞記事ニヨリ同年十二月十四日埼玉縣川越市ニ於テ立憲政友會開大會開會セラレ同會總幹事喜三郎カ之ニ臨場スヘキコトヲ知ルヤ同日十日夜右被告人吉田 淺見 市川 上野 水野 五名ハ同志ノ本部タル熊谷市大字熊谷榮町三十三番地一ノ細井富隆方三階ニ相會シ被告人等熊谷榮町一ノ味岡同志ノニテ決死的ニ暴起シ右奸機會ニ於テ先ツ右鈴木喜三郎ヲ暗殺シテ以テ國家改造運動ノ端緒誘引ト爲サシコトヲ謀議シ次テ翌十二日調在ノ精算右開東大會ハ正シク十一月十四日川越市大字松郷通福通町活動當該館精算座ニ於テ開會セラレ右鈴木喜三郎ノ外鳩山一 前田米藏 島田俊雄ノ領袖モ臨場スヘキヲ確メ得タルヨリ同日十一日夜再ヒ前掲被告人五名ハ右細井方ニ階本部ニ會合シ豫メ右細井入口附近ニ所在スル空二階家ヲ借受ケ右開東大會當日被告人等同志一行ハ製菓池田ヲ經テ該家屋內ニ潛

國家主義系不逞事件報告並判決續

ナリタルモノ、被告人上野常次郎ハ小學校畢業後二年ヲ病氣ノ爲メ退學シ其ノ後十三四歳ノ頃其職ノ徒弟奉公ニ出テ十七歳頃ヨリ父兄ノ許ニ庭師ノ職ニ從事シ居タルモノニシテ柔道ヲ熱心ニ修練シ青年組四級生トナリタルモノ、被告人井口幾造ハ割屋ノ高等小學校ヲ卒業シ農業並ニ下駄表製造業ニ從事シ居タルモノニシテ其ノ間鐵道省大宮鐵夫川越少年刑務所看守等ヲ勤メタルコトアリ又原村消防組小頭、村會議員ニ推サレ埼玉縣社會事業協會ノ委員ノ協和委員トナリテ小作争議等農民運動ニ奔走シ居タルモノ、被告人杉田幸作ハ小學校 鐵道省大宮工場附屬技工員講習所等ヲ卒業シ昭和二年以降右大宮工場旋盤技正トシテ勤メ居タルモノニシテ其ノ傍ラ更ニ私立農商學校本科ヲ卒業シ昭和七年九月私立中央大學專門部法律科正科ニ入學シ日下在學中ノモノ、被告人水野誠ハ小學校ヲ卒業シ上家業ノ農業ノ手傳ヲ爲シ居テ大日本通信學校畢業後、私立早稻田大學法律科講義録等ヲ編修シ又大正十三年四月頃以降埼玉縣農和事業協會正會員トシテ社會運動ニ從事シ次テ昭和七年一月以降政治結社ノ荒南青年聯盟ノ幹事長トナリ選挙浄化運動ニ奔走シ居タルモノニシテ其ノ後同年十一月共保生命保險株式會社埼玉縣支部所屬ハ保險外委員トシテ勤メ居タルモノナルカ、被告人市川國助ハ小學校畢業後、右愛國運動ニ關與中昭和八年一月頃實業的ニ意圖シタル日本國家改造運動ニ志シ現下我カ日本國內ノ逼迫シテ社會情勢ハ資本主義經濟機構ヨリ生シタル必然ノ現象ニシテ國家ヲ改造シ一君萬民政治ノ實現ヲ期スルニハ此資本主義經濟機構ト實業ノ關係アル政治

伏シ居リテ鈴木喜三郎等一行カ會場ニ到着シ自動車ヨリ降車スル利那屋外ニ米留シ協力機銃ヲ發射シテ鈴木等一行ヲ襲撃殺害スルコト共ノ殺害方法トシテ運轉機銃係リハ抜刀刺殺係リ、合圍係リヲ設ケ夫々機銃太刀、七等槍ヲ用意シテ各分隊シテ其部署ニ當ルコト及其他ノ手筈ヲ協議決定シ更ニ翌十二月二日午前及午後三互リ被告人杉田幸作、同井口幾造、兩名モ右細井方ニ階ニ於テ被告人吉田等ヨリ右十四日暗殺決行ノ計劃ヲ告ケラレ其ノ行動参加ヲ求メラルルヤ直ニ之カ參加ヲ承諾シ姓名ヲ救國埼玉青年挺身隊ト名付ケタル上同日右被告人等七名ハ意思相通シ夫々分隊シテ右武藏購入共ノ他資金トシテ他ヨリ金三百圓ヲ調達入手シグリーナー式二連機銃一挺(檢第一三號)、白銀日本刀三振り(檢第二號、二二二二)、黑帽箱七百一口(檢第一四號、二二)白銀七百二十口(檢第四號、同第一四號、二二)登山用ナイフ一挺(檢第一四號、二二)等ヲ蒐集準備シ以テ殺人ノ豫備ヲ爲シタルモノナルカ其ノ間ニ於テ

- (一) 被告人市川國助ハ機銃所屬ノ前掲機銃箱七百一口ヲ用意シ機銃ハ又右十二月十一日午前川越市ニ赴キ右政友會開東大會ノ開會會場大會ノ階及隣室者ノ氏名等ヲ確メ尚右臨場ノ道順、會場附近ノ形勢ヲ實地ニ調査シ且右機銃伏撃家ヲ物色シ
- (二) 被告人水野誠ハ右十一月十一日午後埼玉縣比企郡松山町方面ニ赴キ前掲開東大會ノ進行次第ニ鈴木喜三郎等ノ臨場ノ有無ヲ調査シ
- (三) 被告人吉田豊隆、同淺見知治、同川國助ノ三名ハ協力シテ武器購入共ノ他ノ資金ト爲ス目的ヲ以テ右十二月十一日午後前掲細井

方二階ニ於テ被告人吉田ノ母吉田操ニ對シテ金二百圓ヲ
 強奪方ヲ申入レテ承諾セシメ同女ノ手ヲ介シテ翌十二日正午過頃
 熊谷市大字石原千八百五十番地産婆小川ハツ方ニ於テ同女ヨリ金
 二百圓(十圓札二十枚)ヲ借受ケ入手シ被告人市川ニ於テ該金圓ヲ
 預リ會計事務ヲ擔當シ

(四) 被告人市川國助、同上野常次郎ノ附名ハ協力シテ右十一月十二
 日夜先夕熊谷市大字熊谷辨天町四十三番地電氣器具商高橋由藏方
 所ニ到リ同人ニ對シテプロミネング磁鉢、普通銀鉢各一挺ヲ買入斃旋
 方ヲ依頼シ次テ同市同大字末廣町三千三百三十六番地岡林久樹方
 ニ立テ廻リ同人ノ妻みよノ手ヨリ糞ニ被告人市野ノ實兄喜一郎ニ
 於テ預ケ置キタル前掲二連環銃一挺ヲ取戻シ更ニ同市同大字彌生
 町八十一番地運動用具商中山彰平方ニ到リ同人ヨリ前掲登山用ナ
 イフ一挺ヲ代金一圓ニテ買受ケ夫々入手シ

(五) 被告人市野常次郎ハ右十一月十二日被告人市川國助ヨリ交付ヲ
 受ケタル金圓ヲ以テ同日夜熊谷市大字熊谷辨天町三十六番地金物
 商栗田米治方ニ到リ同人ヨリ前掲白銅七百二口ヲ計代金二圓ニテ
 買受ケ入手シ

(六) 被告人井口俊彦ハ右十一月十二日被告人市川國助ヨリ交付ヲ受
 ケタル金圓ヲ以テ同日午後六時頃埼玉縣北埼玉郡下忍村大字鎌塚
 佐賀千四百五番地飲食店高田屋カフエト事木村てつ方ニ到リ同女
 ノ主人大塚佐代ヨリ前掲白銅日本刀三振ヲ計代金二十圓ニテ
 買受ケ入手シ

(七) 被告人杉田幸作、同水野俊彦ノ兩名ハ右十一月十二日夜川越市

ニ赴キ右鶴川座附近ノ實地ニ付再調査ヲ爲シタル上同夜同市大字
 松梅通御連運前街三百八十三番地菓子商内田三七吉方ニ到リ同人ニ
 對シテ同市大字殿田七百七十一番地藥種商島田惣次郎方ニ到リ
 其店員ニ對シテ執レモ右鶴川座附近所在ノ同人等所有貸貸家ノ借入
 レ方ノ交渉ヲ爲シタルモノナリ

以上被告人吉田、市川、市野、井口、水野、杉田、幸作、同井口
 幾造、同杉田幸作、同水野俊彦ノ各所爲ハ孰レモ刑法第二百一條第百
 九十九條第六十條ニ該當スル犯罪トシテ公判ニ付スベキ嫌疑十分
 ナルヲ以テ刑部事務廳法第三百十二條二期リ主文ノ如ク決定ヲ爲ス

昭和九年三月三十一日

浦和地方法院判例所 浦和地方法院判例所 浦和地方法院判例所
 右藤本也 前同日於同庭 前同日於同庭 前同日於同庭

二四、救國埼玉青年挺身隊事件

論告 (案并本三郎執筆)

昭和八年十一月十四日立憲政友會關東大會ガ川越市ニ於テ開催セラ

ル、コト、ナルヤ其數日前ヨリ被告等カ謀議ノ上該大會ニ臨場ノ同
 會總裁鈴木三郎並ニ鳩山一、前田米藏、島田俊雄等各領袖ノ暗殺
 フ企圖シ當日大會々場タル同市同大字山崎入口ニ於テ鐵銃ヲ發射シ太刀
 七首等ヲ揮ツテ鈴木等一行ヲ襲撃シ、手管ヲ取極メ被告人等夫々手別
 ケシ或ハ襲撃場所ノ實地踏査ヲ爲シ或ハ鐵銃太刀七首等ヲ蒐集スル
 等者々準備整ヒ居リマシタ憲警察當局ノ探知スルトコトナリ決行
 ニ先立ち同月十三日當時被告人等ノ本部タル熊谷市霞町細井常義方
 二階其ノ他場所ヨリ檢査セラレタト云フノカ本件ノ概略ノ筋テアリ
 マス

一、本件亦犯ハ單ニ法律の見地ヨリ觀レハ殺人豫備罪ト言フ比較的
 輕キ事件ニ過キナイノテアリマスカ市井ニ在リ觸レタル個人事情
 ニ因ル個々ノ殺人豫備事件ト異リ行爲ノ集團性犯行ノ原因動機及
 ニ其目的及社會人心ニ及ボス影響等ヲ考察スレハ極メテ重大ナル
 本案ナリト謂ヒ得ルノテアリマス

昭和七年九月勃發シタル滿洲事變ヲ契機トシテ我國ニ於テハ國家
 主義ヲ標榜スル所謂右翼主義運動カ澎湃トシテ騰頭シ來リマシタ
 其中幾多ナル分子カ法禁ヲ無視シ非常手段ニ依リ其企圖ヲ遂行セ
 ントスル者漸チカラスシテ義ニ血刃兩事件、五二五事件相繼イテ
 起リ一時社會人心ヲシテ著シク不安恐怖ノ状態ニ陥ラシメタル感
 アリマシタカ爾來我國民ノ沈著ナル自覺ト態度トカ自ラ治安ヲ維
 持ヲ回復セシメタルモノナリテアリマス處更ニ被告人等ニ依リ本件事
 案ヲ敢行セシムルニ至リタルコトハ洵ニ遺憾テアリ又ハ不祥事ナ
 リト謂フ可キテアリマス

一、諸テ被告人等カ本件事犯ヲ敢行スルニ至リタル原因動機トシテ
 當公判廷ニ於テ陳述シタル處ハ被告人ニヨリテ其表示ヲ多少異ニ
 シ或者ハ論理ヲ徹底シ得サルアリマスカ之ヲ要約スルニ現下我
 國內ノ逼迫セル社會情勢即農村ノ疲弊困窮中小商工業者ノ没落失
 業者ノ續出乃至思想變化ノ顯致ハ資本主義經濟機構ヨリ生シタル
 必然ノ現象ニシテ此經濟的緊要ヨリ脱出シ一君萬民政治ノ實現ヲ
 擧ケ眞ニ國民大衆ノ福祉ヲ確保スルニハ須ク國家ヲ改造シ昭和維
 新ノ實現ヲ期スルニアルカ資本家タル財閥ハ政黨政黨ニ特權階級ト
 相維持シ五三私利私慾ニノミ没頭シ國政ヲ紊リ亦母ニ國策ヲ誤リ
 一般大衆ハ益々窮乏ノ淵ニ沈吟シツ、アルニ不均散テ顯ミサル狀
 態ナルニ依リ資本主義經濟機構打倒ハ即政治機構ヲ打倒スルニア
 リ從而現在ノ政黨政治ヲ撲滅スルニ如クモノナシ而カモ内ニ過激
 思想ノ傳播公私經濟ノ窮迫外ニハ外交上ノ困難ノ招來等諸々ノ國
 家のノ難事累積ハ寸刻モ猶豫スベカラサル情勢ニアリシカシテ之
 カ匡救ノ途ヲ講スルニハ因循姑息ナル合法的手段ヲ以テシテハ到
 底其念ニ應スル能ハサルカ故ニ非合法手段タル直接行動ニ依リ
 途アルニシト思惟シ只管決行時機ノ到來ヲ觀ヒ居タル折柄鈴木政
 友會總裁等一行カ川越市ニ來ルヲ知リ之レ天ノ聲ナリトシ先ツ同
 人等ヲ襲撃暗殺シ世上ニ一大衝動ヲ起サシメ同時ニ政黨財閥特權
 階級ハ勿論一般國民ノ覺醒ヲ促シ以テ國家改造斷行ノ端緒誘因ト
 爲サントシタリト謂フニ在ルノテアリマス

一、更ニ檢イテ本件事犯ニ關シ被告人各自ノ思想ヲ推察行加格ノ
 輕重ニ付一應檢討スル必要ヲ認メルノテアリマス

國家主義派不逞事件論告並判決錄

モノニシテ經濟界ノ不況思想ノ動搖ノ如キ獨リ我國ノミノ問題ナラズ世界の風潮ノ餘波トモ謂フ可ク我國ノ爲政者時間特權階級ノミノ罪ト歸スルハ餘リニ事案ヲ曲解シタル見方ト言フヘキテアリマス勿論政界財界及社會上層ノ一部ニハ腐敗墮落然タルモノアリ事案重移セルコトハ遺憾ナラズ之ヲ肯定セサルヲ得ナイ實情アリマス然シ乍ラ此一面ノミヲ見テ我國ノ現狀ハ寸刻モ猶豫スヘカラサル危險存亡ノ秋アリト解スルハ觀察極端ニ過キ決シテ正鵠ヲ得タル見方テハアリマス我國ハ國際聯盟退以以來舉國振興發展意圖ノ發揚ニ努メタル爲メ今や國際上ノ地位益々重ク密策ノ發展貿易ノ伸張ハ世界ヲ脅威セシメテアルコトハ絕對的顯著ナル事實テアリマス總テ復雜極マリナキ世ノ事案ニ對シテハ須ラク冷靜ナル感情ト沈著ナル思索トヲ以テ之ニ臨ム必要アルノテアリマス

立憲治下ニ於テ絕對ニ許スヘカラサル不當不法ノモノニシテ却ツテ右御心ニ背キ奉ル結果ナリ被告人等ト雖今ニシテ自ラ省レバ恐懼懼愧ノ念ニ入切ナルモノアル可シト思料スルノテアリマス 被告人等ハ難局打開ノ爲メ已ムヲ得スシテ非常手段タル直接行動ヲ撰ビタリト主張シ又最近ノ所謂右翼主義者ノ中ニハ被告人等ト同様目的ノ爲メニ手段ヲ撰ハス暴力行爲ヲ是認センドスル者カナイテハアリマス然シテ今や國家法ハ嚴トシテ存在シ之ニ反スル直接行動ハ斷乎トシテ排撃シナケレハナリマスメモ法亂レテ國治マルコトナシ國家ノ安寧ハ國法ヲ嚴守ニ依リ保持セラルノテアリマス若シ夫レ國憲ヲ輕シテ國法ヲ侮蔑スル傾向國民ヲ風靡セハ容易ナラサル事案ヲ惹起シ却ツテ國家ハ自ラ滅亡ノ機ニ瀕スヘキコト洵ニ火ヲ賭ルヨリ明カテアリマス本件亦犯ハ被告人等カ當公廷ニ於テ供述スル如ク多數集團シテ銃器日本刀等ノ武器ヲ執リ鈴木友會總裁等一行ノ暗殺ヲ企圖シタルノミナラス或ハ長崎ノ銀行ノ襲撃ト言ヒ或ハ入間郡山根村在郷軍人分會ノ射撃場ヲ襲撃シテ軍銃彈藥ヲ掠奪ト言ヒ其計畫目録ノ自體只官治安ノ擾亂ニ在リテ國法ヲ無視シタル點極メテ重大ナルニ依リ法律ニ照シテ嚴シク之ヲ糾弾スル必要アリト思料シマス 被告人等ノ本件所爲ハ殺人豫備罪ニ該當スル犯罪ニシテ其法律ヲ適用應斷スヘク其犯罪關係ニ在ルニ依リ共同シテ刑事責任ヲ負フ可キモノテアリマスカ被告人各個人ノ犯情ニ付テハ自ラ區別アルモノト思料シマスカ故ニ此點ニ關シ更ニ言フ度イト思ヒマス

參加シタルアリマスカ本件事犯ハ全ク罪原等ト雖レテ被告人等ノ單獨起ニ出テタモノテアリマス而シテ被告人等一味ハ難谷ニ於テ吉田豐隆ヲ中心トシテ集マリ同ナカリセハ他人ノ被告人等ハ本件亦犯法行ニ出テサリシモノナルヲ以テ吉田ハ首謀者ナリト謂ヒ得可ク其責任ハ被告人中最モ重キモノト信スルノテアリマス吉田カ愛國ノ至情ヨリ本件ヲ敢行スルニ至リシコトハ之ヲ認メ其心事ヲ諒トスルモ多數被告人等ヲ動議參加セシメ其前途ヲ誤リ且近親知已ヲシテ心術毒苦セシメタルノミナラス假令幸ニ本件事犯ハ當局ノ周到ナル查察ト機敏ナル活動下ニ依リ大憲法行ニ先立テ未然ニ之ヲ檢舉シ得タルト同時ニ被告人等ノ犯罪ヲシテ比較的輕キモノニ終ラシメ前途有爲ノ被告人等ニ更生ノ機ヲ與ヘ得タル條件ナル結果トナリタリト雖一朝其檢舉ニシテ時機運レ統弊一發露キ洩リ白双ノ閃シタリト雖カ社會ノ混亂人心ノ不安恐怖甚大ナルモノアリシコトハ蓋シ推測ニ難カラサル處テアリマス從而其責任亦重且大ニシテ宜シク懲罰ヲ以テ臨ム可キモノト信スルノテアリマス 淺見知治 市川國助ノ兩名ハ吉田ノ兩親トシテ本件事犯ニ參畫シ終始吉田ト行動ヲ共ニシ同人ヲ輔佐シ兩名アルカ故ニ吉田モ既起ノ決意ヲ固クシ安んシテ本件ヲ敢行シタルモノト認メ得ル程ニシテ其ノ刑事責任亦吉田ノ夫レト左迄大ナル軒輊ナキモノト思料シマス

國家主義派不逞事件論告並判決錄

井口幾造ハ被告人中最年長者ニシテ既ニ不惑ヲ過キ妻子ヲ其身水野幾茂モ亦比較的年長テアリマスカ吉田ノ計畫ヲ聞キ遠慮ニ本直チニ本件事犯ニ參畫シタルモノニシテ稍雷同的ノ觀アルノミナラス既ニ吉田等カ單獨起テ決意シタ後ニ於テ一味ニ加ハリシモノナルカ故ニ日未タ淺ク關係シタル程度薄キ點ヲ參酌シ最モ輕ク處斷シテ可然モノト認メマス之ヲ要スルニ本件ハ被告人等ノ動機ニ於テハ諒スルトコロアルモノ單ニ其ノ一點ノミヲ標準トセシ犯罪ニ因リ法律ノ秩序ニ及シタル影響ノ程度將來ニ於ケル豫防警戒上ノ關係其他諸般ノ情狀ヲ較量ノ上科刑スヘキテアリト認メ各被告人ニ對シテノ如ク求刑スル次第テアリマス

Table with names and sentences: 吉田 豐隆 二年 市川 國助 一年八箇月 淺見 知治 一年三箇月 上野 常次郎 一年 杉田 幸作 一年 井口 幾造 一年 水野 幾茂 一年 二十七名

被告人井口幾造ハ高等小學校卒業後主トシテ農業ニ従事シ其ノ間用
書村消防小頭村會議員等ニ推サレ又埼玉縣社會事務協會ノ委員ト受
テ協和委員ト爲リテ社會運動農民運動等ニ奔走シ居テモナルカ
被告人吉田隆隆ハ前記愛國運動ニ從事申下我カ國ノ情勢ハ内ニ在
リテハ農科日ニ被擧シ失業者甚ニ溢リ恩給益々増化シ外ニ在リテハ千
九百三十五年ノ國際危機眼前ニ迫リ而モ所謂支配階級タル特權
階級並ニ政黨財閥ハ依然腐敗墮落シ互ニ相拮抗シテ私利私慾ノミヲ
擧フシ忠誠愛國ノ念薄シ是レ畢竟資本主義經濟機構ヨリ生ラ必然
ノ現象ナルヲ以テ國家ヲ革新シ我カ國本然ノ姿タル一君民政治ノ
實現ヲ期スルニ國民大衆ノ福社ヲ確保スヘキ昭和維新ノ實現ヲ期ス
ルニハ此ノ資本主義經濟機構ヲ密接ノ關係アル政治機構ヲ打倒スル
外無シト觀念シ居タル折衝昭和八年一月初旬頃東京赤坂歩兵第二聯
隊内ニ於テ夙ニ國家改造ニ付急進的意見ヲ相擧シ居タル陸軍歩兵中
隊隊長安秀ト相會スルニ及ヒ之方打倒ノ途ハ直接行動ニ依ルニ途ア
リト相會スルニ至リ爾來同中尉ト相連繫シ軍部學生労働者農民
等ニ密接シ直接行動ニ依リ一舉ニ特權階級並ニ政黨財閥ヲ打倒ス
ルニシテキコトヲ企圖シ私立日本大學法文學部學生水上源一等ト相
連繫シ該黨行運動ヲ爲スニキ同志ヲ獲得シ努力シ其ノ擴大強化ヲ計
畫シ昭和八年四月下旬頃熊谷市大字熊谷千三百三十一番地ノ一ノ實家
ニ隣リ専心同地方ノ同志ヲ獲得シ其ノ先頭ヲ竹岡ノ友太郎被
告人淺見知治ニ對シ同年九月中旬頃豫テ中絶時代ヨリ知合ヒ居リ
上野野常次郎ニ對シ同年九月二十日頃熊谷市公會堂ニ於テ熊谷市
變二週年記念講演會ノ座談會ニ出席シタル被告人杉田幸作ニ對シ同

年十月下旬頃友人島田重藏ノ紹介ニ依リ被告人水野毅茂ニ對シ同年
十一月下旬頃被告人水野毅茂ノ紹介ニ依リ被告人井口幾造ニ對シ
熊谷市現下通追テ我カ國内外ノ諸情勢ハ直接行動ニ依リ國家
改造ヲ圖ルノ外無キ旨鼓吹シ其ノ行動ニ加盟スヘキコトヲ勸諭シ右
被告人等亦其ノ思想ニ共鳴シ執レモ同志トシテ行動ヲ共ニスヘキ事
ヲ誓約スルニ至リ又豫テ東京赤坂歩兵第二聯隊在營中其ノ指導教官
等ヨリ國家改造ノ思想ヲ鼓吹セザレバ國家改造ニ付急進的意見ヲ相擧
スルニ至リタル被告人市川國助カ同年九月下旬頃熊谷市熊谷千三百三
十番地ニ於テ其ノ行動ヲ共ニスルニ至ルヤ茲ニ一團トナリ他班ト相
呼應シテ奮然躍起スヘキ旨其ノ時機ノ到來ヲ待テ即チ決シテ前記栗
原安秀ノ方針ハ徒ラ運動シテ特權ヲ命スルノミニ在リテ非ズ日ノ職
ヲシテ食費ヲ騰起セザルニミナラス而モ東京方面ニ於ケル同志ヲ統
制漸ク素レシメタル形勢ニ在リテ到底特ニ足ラサルニヨリ被告人
人吉田隆隆同淺見知治同市川國助同上野野常次郎同杉田幸作等ハ被告
人等熊谷班ノミニテ單獨ニ躍起セント決意ヲ深クスルニ至リタル
トヨリ偶々同年十月下旬頃新聞記事ニヨリ同年十一月十四日川越市
ニ於テ立憲政友會開東大會開催サレ同會總裁鈴木喜三郎之ニ臨場ス
ルコトヲ知悉スルヤ好機ヲ得テ同月十一月十日夜被告人市川國助
陸田同淺見知治同市川國助同上野野常次郎同水野毅茂等五名ハ同志ノ
本部タル熊谷市大字熊谷千三百三十一番地ノ一ノ實井常義方二階ニ會合
シ被告人鈴木喜三郎ヲ暗殺シ以テ國家改造ノ誘引端緒ト爲サムコ
トヲ謀議シ十二月十二日調査ノ結果右開東大會ハ正シク同月十四日川

越市大字松林活動寫真館川座ニ於テ開催サレ右鈴木喜三郎ノ外島
山一郎前田米藏島田俊雄等ノ同會領袖ニ臨場スヘキ旨謀テ得タルニ
ヨリ右被告人五名ハ右十一日夜再ヒ同開東大會ニ出席シ二階ニ會合
シ豫テ右熊谷班入口附近ノ空ニ階家ヲ借受テ右大當目被告人等一
同服裝準備ヲ整ヘ空家内ニ潜伏シテ鈴木喜三郎鳩山一郎前田米藏島
田俊雄等一行カ右會場ニ到着シ自動車ヨリ降車スル刻預備外ニ飛出
シ協力呼應シテ右一行ヲ殺害スヘキ之カ殺害方法トシテ鐵鎚射殺係
抜刀係兼倒傷係ヲ設ケ各鐵鎚七百日本刀等ヲ用意シ各分際シテ
其ノ部署ニ當ルコト其ノ他當場ノ手筈ヲ協議決定シ更ニ翌十二日午
前及午後ニ互リ被告人杉田幸作同井口幾造モ被告人吉田隆隆等ヨリ
右十四日ノ暗殺執行計畫ヲ告ケラレ其ノ行動ヲ共ニシムコトヲ盟ヒ
茲ニ一同死ヲ決シ豫テ救國軍青年挺身隊ト名付ケ被告人等七名
共謀ノ上ニ於テ密約スル

號ノ二ノ右一行殺害ノ目的ヲ以テ之ヲ取山シテ用意シ又右十一
月十二日川越市ニ赴キ右政友會開東大會ハ同月十四日午前十一時
ヨリ前記川座ニ於テ開催サル埼玉縣支部總會ニ引續キ開カレ
同日午後一時ヨリ同座及同市内無錫館ノ二個所ニ於テ演說會アリ
テ右大會ニハ正シク鈴木喜三郎鳩山一郎前田米藏島田俊雄等臨
場スヘキ旨謀ルノ尙川座附近ノ情勢ヲ實地ニ付調査シ且同座入口
正面ヨリ二十間餘ヲ隔テタル所ニ潜伏空家を在ルヲ物色シ翌日
三 被告人水野毅茂ハ右十一月十一日午後鈴木喜三郎比企郡松山町ニ赴
キ前同開東大會ノ進行次第鈴木喜三郎等臨場ノ有無ヲ調査
シ 被告人市川國助同上野野常次郎ノ兩名ハ相協力シテ右十一月十二
日夜前記一行殺害ノ目的ヲ以テ先ツ熊谷市大字熊谷千四百三十三
番地電氣器具商高橋山藏方ニ到リ同人ニ對シプロレニシテ鐵鎚者
鐵鎚者一挺ヲ買入斃傷方ヲ依頼シテ同市大字熊谷末廣町三千三
百三十六番地岡林久樹方ニ到リ豫テ被告人市川國助ヨリ預リ
部ニ預ケ置サタル五連鐵鎚一挺(檢第一三號)ヲ取戻シ更ニ同市彌
生町八十二番地運動具店中山彰平方ニ到リ同人ヨリ登山用ナイフ
一挺(檢第一四號ノ三)ヲ代金一圓ニテ買受ケ夫ハ前記細井常義方
二階ニ携行シテ入手シ 被告人市川國助同上野野常次郎ハ右十一月十二日
被告人市川國助ハ右十一月十二日夜被告人市川國助ヨリ預リ
タル金十四圓ヲ以テ前同開東大會ノ進行殺害ノ目的ヲ以テ熊谷市大字熊
谷千四百三十三番地金物商栗田米藏方ニ到リ同人ヨリ白帽七百
二圓(檢第四號及第一四號ノ二)ヲ代金合計二圓ニテ買入レ之ヲ右

ニ關係スルニ至リシカ自分ハ右運動スルル前既ニ國家改造ハ
一刻モ猶豫スヘキニ非ストノ意見ヲ有シ同中尉ヲ知ルニ及ソ
テ自分ハ憲兵陸軍側ト一様ニ一日モ早ク起タント叫ビ居タル
カ同中尉ハ同年四月頃起リト云ヒシモ連絡ヲ取レナカザル
テ延期ニナリ其ノ後同年九月二十二日ニ職起スル積リナリシ
モ上部操作カ出来ヌトテ再ヒ延期トナリタリ自分等ハ事ノ成
否ヲ問ハスニ一刻モ猶豫スヘカラスト考ヘ同中尉ヲ自分等民間
側ト青年將校トノ連絡係ナリト思惟シ同年十月頃迄待テ居リ
シモ結局職起セサルニヨリ自分ハ陸軍側ナリト當ニスス民間
側ト考ヘ自分一人ニテモ起タムト考ヘ居リシカ同年十月下旬
頃ニ至リ同志小林正夫、白石司ハ金錢的ニモ困リ居タル故自
分等ノ態度ヲ決定スルト同時ニ金錢的關係ヲモ判然シ置カム
ト考ヘ水士源一方ニ於テ民間側會合ヲ離シ其ノ際自分ハ急進
論ヲ唱ヘ陸軍側ト手ヲ切り單獨職起セムト極力主張シタルモ
コロ市川國助モ之ニ賛成シ其ノ際ニ吉田豊隆モ居合セタルモ
同人ハ頭痛ノ爲横ニナリ居リテ何等發言セザリシモ其ノ前夜
自分方ニ宿泊シタル際自分急進論ニ賛成シ居リシモノニシ
テ案ヨリ異存ナカリキ而シテ右會合ノ結果翌日自分及水士源
一ハ同中尉ヲ訪問シ會合ノ模様ヲ述ベ自分ヨリ即時職起ヲ促
シ水士源一ヨリ金錢的援助ヲ交渉シタリシカ其ノ頃自分等同志
志間ニハ統制ノ案ヲ来レルト雖ラレタリシカ其ノ頃自分等同志
生死ヲ共ニ約シタル純情ナル人達ナリシカ職起延期ヲ重ヌ
ルニ從ヒ金錢ニ困マリ他ノ團體ニ出入スル者モ生シ自分等同志

志ノ機密ノ洩ルル虞アリシヨリ同中尉ハ斯ル人達ト手ヲ切り
今暫ク待テト申ス有様ニ同志間ニモ當初ノ意氣ト熱トカ失セ
シ如ク思ハレ且同中尉モ職起スル様子無カリシ故當時自分ハ
郷里與市ニ歸ラムカトモ考ヘ水士源一ニ相談セル結果敢取ヘ
ス熊谷市ニ赴キ吉田豊隆ト相談スルコト、ナリ同年十月十三
日頃始メテ熊谷市ニ參リ同市大黒屋ニ吉田豊隆ヲ訪ネ同志上
野當次郎、杉田幸作ヲ紹介サレ尙吉田豊隆ヨリ自分ニ宮岡裕
次ノ話出テ熊谷市ニ於テハ宮岡裕次ニ對シ既ニ愛想ヲ盡力
シ居ルト具體的事實ヲ舉ケテ説明セラレシ故其ノ後吉田豊
隆、市川國助及自分ノ三人ハ右宮岡裕次ノ眼ヲ盜ミ單獨職起
ニ付相談シ日個人物ヲ齊藤首相ト定メ三人ニテ本島村ニ淺見
知治ヲ訪ネ吉田豊隆ノ祖母方ニ於テ四人ニテ協議ヲ重ネ右口
の遂行ニハ資金必要故資金ノ出来次第起テト定メ夫レレ
爲自分モ郷里ニ歸ラス事トナリ熊谷市ニ滞在シ同年十月二十
四日頃同志ニ送ラレ吉田豊隆ト共ニ上京シ水士源一宅ニ赴キ
水士源一ヲ東京九段ノ辨慶パーニ連レ出シ計謀ヲ秘シ單ニ金
三、四十圓ノ調達方ヲ依頼シタルニ水士源一ハ翌日自分ノ下
宿料ノ滞納金二十餘圓ヲ支拂ヒ呉レタルカ當時同志ノ會合ノ
企アリシ爲熊谷市ヨリ市川國助ヲ呼ビ同月二十五日ノ會合ニ
臨ミタルニ同夜東京安委中尉ハ何時ニ無ク意氣込ミ居リ渡
切者ハ全部打斷ル此ノ會合ハ最後ニ爲ルヤカモ知リシ中申シ
タル故吉田豊隆ハ時期切迫セルモノト思ヒ同夜市川國助ト熊
谷ニ歸リタルカ右二十四日上京ノ途次吉田豊隆ヨリ川越市ニ

政友會ノ関東大會アリ鈴木鐵藏職場スル故之ヲ狙フテハハ
ウカト申サレシモ自分ハ當時齊藤首相ヲ日標トシ居タル故眞
向ヨリ反對シタルニ吉田豊隆ハ沈黙シテ終ヒタル故別三日頃
人物變更ノ協議ヲ爲スニ至ラス其ノ後吉田豊隆等ノ上京ヲ待
チ居リシカ同人等ハ漸ク同年十一月九日水士源一方會合ノ際上京
シ自分方ヲ訪問シ呉レタルモ其ノ際他ノ同志居リタル爲深ク
話ス能ハス其儘水士源一方會合ニ臨ミ前記中尉ヨリ個々接見
行ハレ右會合終了後吉田豊隆、市川國助、水野毅茂ノ三人ハ自
分方下宿ニ泊リ自分カ他ノ要件ノ爲一旦下宿ヲ出テ翌年前二
時頃水士源一宅ヲ訪問シ後右下宿ニ歸リタルトコロ吉田豊隆
等ハ既ニ職起シ居リ夜具無カリシ故自分ハ寺ニ宿泊シ翌朝下
宿ニ歸リタルトコロ吉田豊隆等ハ既ニ職起シ居リタルニ二三
日中ニ上京ストノ僱手紙アリシ故吉田豊隆等ノ上京ヲ待チ居
リシニ同月十三日ニ至リ吉田豊隆等ノ檢察ヲ知り始メテ熊谷
班ニ於テ單獨職起ノ計畫ヲ爲シ居タルコトヲ氣付キタル旨ヲ
供述シ...

ヲ主領スル事トナリ昭和八年十月中旬頃ヨリ其ノ計畫ニ進メ
同年十月末頃支部幹部會ヲ決議ヲ以テ同年十一月十二日川越
市川越市ニ於テ関東大會ヲ催シ尙同日右市川市座敷舞館ニ於
テ演說會ヲ催スコトヲ決定シ既ニ通知ヲ發シタルモ朝香宮妃
殿下遠去遊ハサレシヨリ更ニ期日ヲ同月十四日ニ變更シ其
其後ノ變更通知モ該期日ノ五日前頃發シタルカ各新聞記事等ニ於
テハ既ニ関東大會ノ事ヲ豫想シ同年十月半頃ニモ掲載サレ共
ニ其ノ後ノ決定期日變更期日モ各掲載サレタルモノノ如ク自分等
埼玉縣支部ニ於テハ同年十一月下旬ニ右大會ニ關スルビラ三
千枚ヲ印刷シ縣内各地特ニ大間那方面ニ多數頒布貼布シ一般
ニ知ラシムル手配ヲ爲シタルモ最初ノビラハ同年十一月十二
日ノ期日ヲ發表シタル故更ニ其ノ後右十二日ノビラヲ十四日
ニ書き改メ變更サセタルカ當時發表シタル豫定計畫ニテハ會
場館川座ニ於テ右十四日午前十時ヨリ埼玉縣支部總會ヲ開キ
次テ同日午前十一時ヨリ関東大會ニ移リ演說會ハ同日午後一
時ヨリ鶴川座ト舞館ト二箇所ニ於テ開催スルコトニ定メ本
部ヨリ臨時スヘキ人物トシテハ、總裁鈴木三三郎、顧問鳩山一
郎、同前田米藏、同大口喜六、總務島田俊雄、同岡田忠彦等主
ナルモノヲシシカ實際同日執行シタル經過ハ右支部總會同日
午前十時半頃開催サレ関東大會ハ同日午前十一時半頃開レテ
開催サレタルモ演說會ハ豫定通り開催サレ豫定ノ臨時人物中
鳩山一郎ノミ都合ニ依リ出席セズ其ノ他ハ全部出席シタルカ
右大會ニ當リ本部一行ノ者ハ同日東上線池袋發午前九時十

國家主義系不穩事件被告判決錄

五分ノ電車ニテ川越西町驛ニ同日午前十時頃到着シ同驛ニテ一旦料亭山家ノ休憩所ニ入り同日午前十一時半頃自動車ニ乘リ右關東大會ニ臨場シタル旨ノ供述記載...

二七八

戸建二階家屋一棟中ノ北側一戸ニ該當シ右空家前ヨリ右側川原前街路迄ハ約十四間五尺又右側川原街路ハ約二十間三尺ノ距離存ス...

二六、小山法相等暗殺未遂並豫備事件控訴審判決書

本籍 東京市本郷區根津宮本町二十七番地 國家主義系不穩事件被告判決錄

二七九

各被告一年六月被告人上野常次郎 同杉田善作 同水野隆茂 同井口幾造ヲ各々懲役二年ニ夫々處斷ス...

國家主義系不逞事件論告裁判決録

被告人等ハ、執レモ、若田愛之助ノ主宰スル愛國社ノ同人ニシテ昭和五年十一月十四日東京驛頭ニ於テ時ノ首領濱口雄幸ヲ狙撃シタル愛國社同人佐藤屋留彦トハ相繼シテ同罪ナルトコトヲ佐藤屋留彦ニ對シテ未遂被告事件カ昭和八年十一月六日大審院ニ於テ上告ヲ棄却セラレ死刑ノ判決確定スルニ至リタルヨリ右判決ノ宣告ヲ傍聽シタル被告人等ハ之ヲ以テ甚ダ憤酷ナリトナシ同日大審院ヨリノ轉送東京市麹町區有樂町一丁目六番地大正ビルディングニ階愛國青年聯盟事務所ニ立寄り更ニ同日正午過頃同建物一階森永製菓店ニ於テ飲食中右判決ヲ棄ニ東京地方裁判所ニ於テ置換サレタル共黨三田村四郎等ニ對スル各判決ト比較シテ悲憤憤懣シ種々談論シタルカ其際右談論ノ末被告人三名同席ノ右場所ニ於テ

第一、被告人松井治雄ハ斯ノ如キ判決アリタルハ一ニ司法大臣小山松吉ノ不當ナル干渉ニ基クモノナリト妄斷シ同人ヲ倒シテ其責任ヲ糾弾セサルヘカラスト主張シ被告人野口進ハ佐藤屋留彦右犯罪ヲ敢行スルニ至リタルモ是亦五二五事件ノ遺習セラルルニ至リタルニモ非ズ國體ノ尊嚴ヲ損傷スル事ナリト憤慨シタルヲ以テ右前立糾弾ニ際シ軟弱外交ヲ以テ臨ミタル當時ノ帝國ノ全權タリシ現立憲民政黨總裁若槻禮次郎カ即チ佐藤屋留彦ノ死刑ノ判決ヲ官渡サシムルニ至リタル窮極ノ責任者ナルニ對シテ同人カ今尙民政黨總裁トシテ現政界ニ重キヲ爲シシヨモスレハ右前立糾弾ニ付其責任ヲ回避セントスルカ如キ言辭ヲ弄シヨレルハ不都合千萬ナルニヨリ之レヲモ倒ササルヘカラストナシ五二五共決意ヲ披瀝シ因テ茲ニ右

二八〇

被告人野口進、同松井治雄ノ兩名ハ相協力シテ若槻禮次郎及小山松吉ノ兩名ヲ暗殺シ以テ佐藤屋留彦ヲ慰ムルト共ニ爲政當局ヲ脅セシコトヲ決意シ右被告人兩名ニテ之カ共謀ヲ遂ケ右暗殺ニ付テハ短刀ヲ使用スルコト及夫々右若槻及小山兩名ノ動靜ヲ探査シタル上適當ナル機會ニ之ヲ決行スルコトヲ定メタルカ其後同月七八日頃右被告人兩名ニ實行分擔ヲ定メ被告人野口ハ若槻禮次郎、被告人松井ハ小山松吉ノ各暗殺ヲ擔任スルコトトナリタルヲ以テ其準備トシテ同月九日頃ヨリ同月十二日頃迄ノ間ニ夫々同市本郷區上宮土前町百二十九番地若槻禮次郎邸並同市赤坂區青山高樹町二十番地小山松吉邸附近ヲ踏査シ且被告人松井ニ於テ同月九日頃右暗殺ノ用ニ供スヘキ短刀二挺(昭和八年押第一、八三四號、三及五)ヲ購入シタル上其機會ヲ伺ヒ居リタル折同月十九日頃被告人野口ハ若槻禮次郎カ民政黨北陸支部大會ヨリ同月二十一日午前七時上野著ノ列車ニテ歸京スルコトヲ探知シ好機逸スヘカラストナシ同月二十日比谷公園所在東京市公會堂ニ於テ之ヲ被告人松井ニ告ケ同被告人ト協議ノ上茲ニ前計畫ヲ變更シ此際小山松吉ノ暗殺ヲ斷念シ兩名相協力シテ若槻禮次郎ヲ上野驛頭ニ襲撃スルコトニ決定シ仍チ被告人兩名ハ翌二十一日午前六時三十五分頃各自前記短刀一挺ヲ携ヘテ同市下谷區上野山下町一番地若槻上野驛ニ赴キ若槻禮次郎ヲ挾撃刺殺スヘキ手筈ヲ謀シ合セ前記列車ノ到着ヲ待チ居リ内同日午前七時過頃同驛第一ホームニ番線前方ノ特別改札口ヨリ若槻禮次郎カ約二三三名ヲ護衛警官其他ノ人々ニ重ニ取巻カレテ出テ來タルヲ認メタルヨリ忽チ兩名ハ左

右三分レ(一)被告人野口ハ左腰ニ差込ミタル短刀(昭和八年押第一、八三四號、三)ニ右手ヲ遣リ其四本ノ指ニテ柄ヲ握ミ指ヲ稍ニ當テ何時ニテモ之ヲ投擲シ得ヘキ姿勢ヲとり前進スル若槻禮次郎ノ右側ニ約二間ヲ隔テ大股ニ之ニ迫進シ同人カ右改札口ヨリ約七間南方ナル同驛構内マンホール附近ニ並進シ且際突如外輪ノ鐵欄ノ間隙ヲ縫ヒテ之ヲ突破シテ内輪ノ鐵欄ニ於ケル私服ノ警官等數名ヲ押分ケ若槻禮次郎ノ右後方カニ二三尺ノ身差ニ迫リ右鐵欄セル短刀ヲ稍ニ拂ヒ之ヲ以テ右若槻ノ身ニ斬付ケントシタル瞬間今一步ト云フ刹那ニ於テ鐵欄ノ警官ニ阻止セラレテ其構ニ頓倒シ取柄(ラレタル爲メ右鐵欄ノ短刀ヲ稍ニ投擲シテ右手ニ握リ右若槻ヲ目的ヲ達セス(二)一被告人松井ハ洋服ノズボンノ右ポケットニ差込ミタル短刀(同押第一、五)ノ柄ヲ右手ニ握リ右被告人野口ト同様同時ニテモ之ヲ投擲シ得ヘキ姿勢ヲとり鐵欄ノ後方ヲ廻リテ若槻禮次郎ノ左後方ニ田テタルモ其時已ニ被告人野口ハ前記ノ如ク右鐵欄ヲ突破シテ右若槻ニ近ツキタル上鐵欄ノ警官ニ取柄(ラレ居リ右野口ト協力シテ襲撃スルノ機會ヲ失シタルヨリ急キ若槻禮次郎ニ迫進シ其ノ前方ニ出テ右短刀ヲ以テ同人ニ斬付テ可キ機ヲ獲ヒタルモ警官數重ニシテ遂ニ其ノ機會ヲ得ザリシ爲メ之亦投擲ノ目的ヲ達セス以テ被告人野口進、同松井治雄ハ共同シテ小山松吉ニ對シテ投擲ノ準備ヲナシ且若槻禮次郎ニ對シテ投擲ノ爲メ手ヲ進ケサリシモノニシテ、

國家主義系不逞事件論告裁判決録

二八一

及同松井治雄ト同様此カ窮極ノ責任者トシテ小山松吉及若槻禮次郎ナリト思惟シタルカ前記ノ如ク森永製菓店ニ於テ右野口及松井兩名ヨリ交々若槻禮次郎及小山松吉ノ責任ヲ糾弾シテ之カ暗殺ヲ決行スヘキ決意ヲ披瀝シテ右兩名ニ於テ之カ謀議ヲナセル際シ之ニ臨席シテ之ヲ聽取シ且右兩名ヨリ右計畫ニ對シテ意見ヲ求メラレタルカ自己一身上ノ事情ヨリ右暗殺ノ計畫ニ參加スルコト能ハサリシ爲メ右野口及松井等ト協力シテ其計畫ヲ實行セントスルノ決意ヲ爲スニ至ラザリシモ兼ヨリ被告人野口、松井等ト同様若槻及小山ニ對シテ前記ノ如キ責任者トシテ之ヲ糾弾懲懲ス可キコトヲ欲シラタルヲ以テ右野口等ノ前記計畫ヲ聽取シテ之ニ共鳴シ因テ同人等ノ右若槻及小山ニ對シテ投擲計畫ニ付キ右野口及松井兩名ノ決意ヲ強固ナラシメ或ハ其計畫實行ニ付キ適當ナル準備ヲナシ以テ之ヲ實行ヲ容易ナラシメントシテ惟ヒ前記森永製菓店ニ於ケル機會ニ當リ被告人野口及同松井ニ對シテ暗殺計畫ニ同意ナル旨ヲ表明シ且右暗殺用兇器ノ選定ニ付キ被告人野口及松井カ之ヲ協議シタル際短刀ヲ使用スヘキヲ以テ適當ナラントノ意見ヲ開陳シテ之ヲ決定セシメ尙其際二人テ難シイケレトモ確リハ警政當局ナルニ付キ同人カ外出シタル時ニ決行スヘキ意向ナルトコトヲ漏シタルニ對シ之レニ憤意ヲ表シタル上證據力支ケテハイコトナシ充分時機ヲ見テ遺レト注意シ又同月十七日被告人松井カ切腹勸告狀ノ出來タルコトヲ報告シタルニ對シ「自重シテ確リ遺レ」ト注意ヲ與ヘ更ニ同月二十日右公會堂ニ於テ被告人野口ヨリ

ク爲ニ一般國民ヲシテ不安焦燥ノ念ニ驅ラシムル所以ノモノハ政
黨防衛ニ元老重臣ト稱セラルル一部特權階級何レモ國家觀念ニ
乏シク五ニ結託シテ私利私慾ニ趨リ國政ヲ弄ビ且テ其黨民ノ我黨道
精神ニ背馳スルノ甚キニ基クモノニシテ爲ニ彼等支離階級ハ對
外的ニハ相厚の海軍軍備縮小ニ關スル諸條約ヲ締結シテ國防ノ危
險ヲ招來シ此ノ權ニ事應ヲ放棄セシメ我黨ノ前途ニ憂慮スヘキ
モノアリト觀念シ非常手段ニ依リ國家革新ノ必要ヲ情急シ居リタ
ルトコロ井上日召一派ノ血闘團體事件ニ構テ三郎一派ノ五二五
事件ノ起ルニ及シテ之ニ大ニ刺戟サレ事應ノ逼迫セルヲ感シ茲
ニ同被告等三名ハ相謀リテ昭和八年六月頃ヨリ直方市ヲ中心トシ
テ皇國義勇隊ナル團體ヲ結成シ國家主義運動ニ從事スル中同年十
月初旬ニ至リ新聞記事ニ依リ當時中央ニ於テ齊藤内閣ノ外交及國
防ニ關スル國策樹立ノ爲ノ五相會議開催セラレ同會議ニ於テハ荒
木陸相カ廣義國防ノ見地ヨリ増稅ヲ斷行シ夫レニ依テ抽出シタ
ル財源ヲ以テ國防ノ擴充ヲ圖ル同時ニ農村ノ救済策ヲ講スヘキ
ナリト主張スルニ對シ高橋藏相ハ増稅ノ時期ニアラストシテ極力
之ニ反對シ内閣ヲ瓦解ニ迄導カントスルノ情勢ニアルトヲ知ル
ヤ時機至レリト爲シ其頃ヨリ同月中旬迄ノ間直方市外町二丁目宮
崎タカ方其他ニ於テ數次會合ノ上高橋藏相ノ右實木家財閥ノ代辯
者タル如キ態度ニ對シ全國農民兵士ノ反感ハ必ス甚高潮シ居ル
ニ相違無キヲ以テ此ノ機ニ乘シ同被告等三名ニ於テ元老大財閥ノ
巨頭ヲ殺シテ社會ヲ治安ヲ擾亂セハ必然威嚇令發布セラレ後繼
同志ニ依リ國家革新ノ斷行ヲ見ルニ至ルヘシトノ見透ノ下ニ其ノ

檢有タラムコトヲ決意シ其ノ後
(一) 暗殺ノ日標人物ヲ元老西園寺公望内大臣牧野伸顯 藤相高橋
六是清及三財閥ノ巨頭三井高公トスルコトヲ決意シ其ノ後
(二) 兇器ハ拳銃ヲ以テスルコト其ノ拳銃並ニ彈丸ハ阿部直輝ニ於
テ渡瀨ノ上入手スルコトヲ決意シ其ノ後
(三) 時機ハ十二月中旬頃新聞御覽ニ於テ御覽サル御覽ヲ歸
シテ遂ニ決意シテ決行スルコトヲ決意シ其ノ後
等ヲ協議決定シ阿部ハ間モ無ク拳銃入手ノ爲メ渡瀨ノ島阿部吉
川ハ同月二十三日頃相携ヘテ上京ノ途ニ就キ其ノ途中山口縣宇
部市見初小學校附近ノ脇阪ノ知入藤島秋義方ニ立寄り拳銃入手
不能ノ場合ヲ懸念シ兩名共謀ノ上同家押入内ヨリ同人所持ノ七
厘彈首一(第五號)ヲ取出シ之ヲ携ヘテ十一月一日頃東京上シ一
阿部ハ奉天ニ渡リ同地ノ鶴岡某其他ニ交渉シテ拳銃入手方ニ付
奔走シタルモ失敗ニ歸シ同月三日上京ノ同日豫テ打合せアリタ
ル在東京中延町三百四十三番古野アキ子方ニ於テ脇阪吉川ト
漢吉ヒ茲ニ三名相謀リ隱匿ノ物色ニ努メタル上翌四日特ニ麻布
區今井町ノ三井高公邸附近ナル赤坂區福吉町一番地木村ハナ方
二階ノ一間ノ日本大學生ナリト詐稱シテ借受ケ之ニ引移リシカ
偶ニ觀望御覽ノ御覽止ノト爲リシニ依リ其頃同隱匿家ニ於テ三名
再協議ノ結果
(一) 兇器ハ七厘ヲ以テスルコト而シテ一口ハ前記ノ如ク既ニ渡瀨
秋義方ヨリ取出シ來リテ準備シタルニ依リ二口ヲ購入スルコ
ト

(二) 時機ハ十一月十三日頃臨時隨所ニ於テ決行スルコトヲ決意シ
(三) 日標人物ハ第一順位日標ヲ財閥ノ代辯者タル高橋藏相第二順
位日標ヲ財閥最大ノ巨頭タル三井高公第三順位日標ヲ牧野内府
及西園寺公トスルコトヲ決意シ其ノ後
(四) 七厘ハ秘密ノ潮流ヲ防止スル爲メ決行ノ直前ニ購入スルコト
等ヲ決定シ爾來十一月十日頃迄ノ間三名ニテ東京市内ノ新
聞紙ヲ集メ日標人物ノ動靜ヲ探リ更ニ右三井邸赤坂區表町ノ高
橋藏相邸麻布大木ノ牧野内府邸ヲ中心トシテ地理ヲ踏査シ以
テ決行ノ場所潜伏場所ヲ研究シ且後繼同志ノ應召ヲ促ス目的ヲ
以テ明和維新血戰隊名義ノ機要約ヲ通シ軍官藤田 右實人物等
ニ郵送シ斯クテ見行豫定期ノ直前タル十一月十一日頃相携ヘテ
神田區神保町附近ノ金物屋ニ到リ見行用トシテ大海軍ナイフ
一挺(第五號)ヲ購入シ以テ將ニ實行ニ著手セシメシタルモ同
被告等三名ハ日標人物ノ身邊ニ警戒ノ嚴重ナルニ鑑ミ七厘ヲ
以テハ到底目的ヲ達シ得サルヘシト思惟シタル結果最モ効果的
ナル暗殺方法ハ機要約ヲ以テスルニ如カスト爲シ同月十三日頃
前記福吉町隱匿家ニ於テ
(一) ダイナマイトヲ日標人物ノ居所ノ床下ニ設置スルハ若クハ其
ノ乘用自動車ニ投擲シテ建物又ハ乘用車ヲ爆破シ以テ日標人物
ヲ殺スコト
(二) 入手スヘキダイナマイトハ約十木トシ脇阪及吉川ニ於テ隱匿
ノ上當時福吉町手郡西川村木戸泉坑ノ事務員タリシ同志福本
繁子ヲ介シ同泉坑ヨリ入手スルコト

(三) 阿部ハ隱匿ノ上東京金三百圓ヲ調達スルコトヲ決意シ其ノ後
(四) 而シテ十一月末頃迄ニ三名共謀ヒ上京シテ愈々決行スルコト
等ヲ協議決定シタル後同月十五日頃相携ヘテ隱匿シ脇阪及吉川
ノ兩名ハ右隱匿ニ基キダイナマイト入手ノ爲メ其ノ隱匿ノ翌日
福本繁子ヲ前記木戸泉坑ノ自宅ニ往訪シタルモ不在ナリシ爲メ
同月十八日頃脇阪ニ於テ木戸泉坑ニ福本ヲ訪レ同泉坑附近ニ於
テ同女ニ對シ國家改造運動ノ爲メダイナマイト入用ナルニ依
リ福本ヲ誘ハシメテ同女ノ手ヲ引テ之ヲ自分ニ交付セラレ度キ旨中
向ケテ被告等三名ハ決定ノ資格及許可無キニ拘ラス脇阪ニ
於テ同月二十九日頃泉坑エントレス通りニ於テ同女ヨリダイナ
マイト六箇留管二箇及其サ約二尺ノ導火線二本ノ譲渡ヲ受ケ以
テ殺人ノ準備ヲ爲シ且之ヲ脇阪ニ於テ福吉町手郡富田町ナル
自宅ニ隱匿所持シ居リタルモ其ノ後間モナク三名間ニ感情ノ疏
隔ヲ來シ同年十二月二十三日頃五ニ決分ツツ止ム無キニ立至
リタル爲メ右被告等三名ノ暗殺計畫モ中途ニテ挫折シ遂ニ實
行ニ至ラス尙被告脇阪ハ其ノ後同志ヲ糾合シ前記ダイナマイト
留管及導火線ヲ使用シテ再舉ヲ圖ルヘク同年十二月中旬頃右
ダイナマイト留管及導火線ヲ自宅ヨリ其ノ寄寓先ナル八幡市大字
前田字濱ノ町上野留藏方ニ運ヒ同家木箱内ニ風呂敷ニ包ミテ隱
匿シ越ヘテ昭和九年二月中旬ニ至リ上野留藏ニ之カ保管方ヲ
依頼シ同人ヲシテ之ヲ其頃ヨリ昭和九年末頃迄ノ間同人方物置
内ニ隱匿保管セシメテ以テ右ダイナマイト留管及導火線ヲ所持
シ居リシ

第二、被告福本繁子ハ福岡縣警手郡若宮村ノ實業高等女學校ヲ第三學年ニテ中途退校シ昭和八年十月ヨリ昭和九年二月迄同縣同郡西川村木戸炭坑ノ事務員ヲ勤メタル者ニシテ豫テ贓物取締ニ親交ヲ有シ同人カ當ニ國家改造運動ニ從事シ血盟ノ同志ヲ以テ元老大官財閥巨頭ノ暗殺其他ノ非常手段ニ依リ國家革新進行ノ口火ヲ斷スルコトヲ計畫シ急進活動中ナルノ情ヲ知悉シ己モ亦之ニ共鳴シ居リタルコト昭和八年十一月十八日頃前記載ノ如ク贓物取締ノ國家改造運動ニ必要ナルノ故ヲ以テダイナマイトヲ入手シ且度キ官依頼セラル、ヤ其ノ使用目的ヲ以テ非常手段ニ依ル社會ノ治安ヲ攪亂セントスルニアルノ情ヲ通知シナカラ入手譲與セシコトヲ約東シ其頃木戸炭坑ノ止操夫ニシテ且豫テ贓物取締等ノ運動ニ共鳴セル手島三郎ヲ同坑事務所附近ニ呼寄セ同人ニ對シ贓物取締ニ於テ其ノ使命ヲ遂行スルノ時機切迫セシニ依リダイナマイト十本ヲ入手シ且レ度キ官依頼シ其ノ結果同月二十九日同炭坑附近エンドレス通りニ於テ決定ノ資格無クシテダイナマイト六箇雷管二箇長サ約二尺ノ導火線二本ヲ譲受ケ且即日之ヲ同炭坑寄附宅附近ニ於テ點火ニ讓與シ...

リダイナマイト十本入手方ヲ要請セラルルヤ其ノ使用目的カ贓物取締ニ於テ之ヲ使用シテ社會ノ公安ヲ攪亂シ以テ國家革新ノ口火ヲ點セシトスルニアルノ情ヲ知リナカラ之ヲ承諾シ其ノ頃ヨリ同月二十三日頃迄ノ間同炭坑ニ於ケル自己ノ職場ヨリダイナマイト六箇雷管二箇及長サ約二尺ノ導火線二本ヲ數回ニ涉リテ持出シ其ノ都度之ヲ同炭坑ノ納屋ナル自宅ニ運ヒ決定ノ資格及許可無クシテ自宅ニ隠匿所持シ同月二十九日ニ至リ同炭坑附近エンドレス通りニ於テ之ヲ一括シテ書ニ福本ニ讓與シ...

第四、被告上野節藏ハ豫テ贓物取締ニ共ニ或ハ大日本陸軍ニ參加シ或ハ愛國隊血隊ノ結成ヲ企畫シ當ニ北九州方面ニ於テ極右翼ノ運動ニ從事シ來リタル者ニシテ昭和九年二月中旬頃入橋市大字前田字濱ノ町ノ自宅ニ於テ贓物取締ヨリダイナマイト六箇雷管二箇導火線二本ヲ示サレ其ノ保管方ノ依頼ヲ受ケルヤ其ノ使用目的カ非常手段ニ依リ社會ノ治安ヲ妨クルニアルノ情ヲ知リナカラ之ヲ承諾シ其ノ頃ヨリ同年六月頃迄ノ間該ダイナマイト雷管及導火線ヲ右自宅物置内ニ隠匿保管シ以テ爆發物ヲ寄藏シ...

第五、被告脇田利徳ハ決定ノ資格無ク且ツ警察官署ノ許可ヲ得スシテ昭和九年六月十三日頃直方市川口町森勝實方ニ於テ皇國義勇隊結成當時ノ同志正畑茂喜ヨリ代金三圓五十錢ニテ連環式五連發拳銃一挺ヲ買受ケ...

第六、被告正畑茂喜ハ高等小學校卒業後門司鐵道局員ト爲リ室木線室木驛ニ勤務スル中大正十三年七月足部負傷ノ爲メ之ヲ罷メ爾來人夫雜等ヲ爲シ以テ今日ニ及ヘルモノニシテ以ニ贓物取締ト交

リ昭和八年六月頃ヨリ同人ノ事イシ皇國義勇隊ニ加盟シ同隊ノ右翼運動ニ從事シ居タルモノナルトコロ決定ノ資格無ク且ツ警察官署ノ許可ヲ有セザリシニ拘ラス昭和九年四月上旬頃直方市古町三丁目森喜一方ニ於テ同人ヨリ連環式五連發拳銃一挺ヲ譲受ケ大テ同年六月十三日頃同市川口町森勝實方ニ於テ右拳銃ヲ前項記載ノ如ク代金三圓五十錢ニテ贓物取締ニ讓與シタルモノナリ

第七、被告人等ノ所爲中贓物取締ノ所爲ハ刑法第二百一條爆發物取締罰則第三條銃砲火藥類取締法第六條第十九條銃砲火藥類取締法施行規則第三條銃砲火藥類取締法第六條第十九條銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第四十五條ニ、福本繁子ノ所爲ハ爆發物取締罰則第五條銃砲火藥類取締法第六條第十九條銃砲火藥類取締法施行規則第五條銃砲火藥類取締法第六條第十九條銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第四十五條ニ、上野節藏ノ所爲ハ爆發物取締罰則第五條ニ、正畑茂喜ノ所爲ハ銃砲火藥類取締法施行規則第三十九條第一項第四十六條ニ各該當スル犯罪トシテ公判ニ付スルノ證據十分ナルニ依リ刑事訴訟法第三百十二條ニ則リ主文ノ如ク決定ス

福岡地方裁判所

右應本也

即日於前開處

國家主義系不逞事件論告判決録

裁判所書記 牟田 國友

Vertical columns of Japanese text, likely a historical document or manuscript page. The text is arranged in approximately 15-20 columns, reading from right to left. The page shows signs of age and wear, with some discoloration and a small tear at the bottom edge.

